例　言

1　本書は、南あわじ市阿万上町に所在する井手田（いてだ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は、（主）洲本灘賀集線（阿万バイパス）道路改良事業に伴うもので、兵庫県淡路県民局県土整備部洲本土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会が実施した。

3　調査の推移

（発掘作業）

確認調査　　平成18年9月11日～18日

実施機関：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

本発掘調査　平成18年9月11日～12月26日

実施機関：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

工事請負：株式会社　坂本建設

（出土品整理作業）

平成27年4月1日～平成30年3月31日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

4　本書は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　多賀茂治・菱田淳子、兵庫県立考古博物館　上田健太郎・山本　誠が執筆し、柏原美音・寺西梨紗の補助を受けて菱田が編集を行った。

本文の執筆分担は以下のとおりである。第1章を多賀、第2章を菱田、第3章は上田（D地区の遺構）・菱田、第4章の遺物については、弥生土器を多賀、それ以外の土器を菱田、石器のうち狩猟具を山本、それ以外の石器を上田、第6章を多賀が執筆した。

なお、遺構図の補正、遺物図面の精査、図面・写真のレイアウト等の実施にあたっては、調査担当者である西口圭介・山上雅弘・上田健太郎の指示を適宜受けて作業を行った。

5　本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

6　空中写真測量は、株式会社日測関西支社、遺物写真撮影は、株式会社クレアチオに委託した。また、放射性炭素年代測定は、株式会社加速器分析研究所、土器の胎土分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

7　調査成果の測量は、世界測地系に基づく平面直角座標系を使用し、電子基準点（鳴門、西淡、南淡）、一等水準点293を既知点とした。

8　本書に用いた方位は座標北を示す。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。

9　発掘調査及び報告書の作成にあたっては、以下の方々にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝いたします。

青木哲哉（立命館大学）・村上恭通（愛媛大学）・若林邦彦（同志社大学歴史資料館）・寺前直人（駒澤大学）・菅榮太郎（武庫川女子大学）・南あわじ市教育委員会（山崎裕司・定松佳重・坂口弘貢・的崎薫）（敬称略・順不同）

凡　例

本書で掲載した実測図のうち、金属製品はM、石製品はS、玉についてはＪを番号の先頭につけている。また、土器のうち須恵器は断面を黒塗りし、弥生土器・土師器は断面を白抜きとしている。

本書で用いた遺構の略号は以下のとおりである。

SB　掘立柱建物跡、SD　溝、SH　竪穴住居跡、SK　土坑、SX　不明遺構・木棺墓、P　柱穴

柱穴については、竪穴住居跡の主柱穴であることが明らかものについてはSPをつけているものもある。

遺構番号は現場でつけた番号を生かしながら、原則としてＣ地区は0000番台、Ｄ地区は1000番台、Ｅ・Ｆ地区は2000番台を付けている。

本　文　目　次

第１章　遺跡をとりまく環境…… 1
第１節　井手田遺跡の位置
第２節　周辺の環境
第２章　経緯と経過…… 6
第１節　調査にいたる経緯
第２節　確認調査
第３節　本発掘調査の経過
第４節　南あわじ市教育委員会の調査
第５節　出土品整理作業
第３章　発掘調査の成果－遺構－…… 13
第１節　概要
第２節　Ａ地区の調査
第３節　Ｂ地区の調査
第４節　Ｃ地区の調査
第５節　Ｄ地区の調査
第６節　Ｅ地区の調査
第７節　Ｆ地区の調査
第４章　発掘調査の成果－遺物－…… 57
第１節　概要
第２節　弥生時代の土器
第３節　古墳時代の土器
第４節　古代・中世の土器
第５節　石器・石製品・玉
第６節　金属器
第５章　自然科学的調査の成果…… 103
第１節　井手田遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）
第２節　井手田遺跡出土土器の胎土分析
第６章　まとめ…… 129
第１節　井手田遺跡の変遷
第２節　遺構について
第３節　遺物について
第４節　総括

挿 図 目 次

第1図　遺跡の位置…… 1
第2図　周辺遺跡分布図（弥生時代）…… 3
第3図　周辺遺跡分布図（古墳時代）…… 4
第4図　周辺遺跡分布図（古代）…… 5
第5図　調査地点位置図…… 7
第6図　現地説明会風景…… 9
第7図　阿万小学校見学風景…… 9
第8図　南あわじ市の調査…… 11
第9図　石鍋・玉…… 82
第10図　石器組成グラフ …… 83
第11図　金属器 …… 84
第12図　暦年較正年代グラフ ……106
第13図　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（1）……114
第14図　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（2）……115
第15図　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（3）……116
第16図　胎土中の砂の粒径組成 ……116
第17図　砕屑物・基質・孔隙の割合 ……117
第18図　井手田遺跡胎土薄片（1）……120
第19図　井手田遺跡胎土薄片（2）……121
第20図　井手田遺跡胎土薄片（3）……122
第21図　井手田遺跡胎土薄片（4）……123
第22図　井手田遺跡胎土薄片（5）……124
第23図　井手田遺跡胎土薄片（6）……125
第24図　井手田遺跡胎土薄片（7）……126
第25図　井手田遺跡胎土薄片（8）……127
第26図　胎土分析試料 ……128
第27図　井手田遺跡の遺構の変遷1（弥生時代）……131
第28図　井手田遺跡の遺構の変遷2（古墳時代）……132
第29図　井手田遺跡の遺構の変遷3（奈良時代）……133
第30図　井手田遺跡の遺構の変遷4（平安時代後期～鎌倉時代）……134
第31図　竪穴住居・掘立柱建物の面積分布 ……135

表 目 次

第1表　石器の器種別出土点数 …… 83
第2表　遺物計測表 …… 85
第3表　放射性炭素年代測定結果 ……104
第4表　放射性炭素年代測定結果 ……105
第5表　胎土分析試料一覧 ……107
第6表　薄片観察結果（1）……109
第7表　薄片観察結果（2）……110
第8表　薄片観察結果（3）……111
第9表　薄片観察結果（4）……112
第10表　薄片観察結果（5）……113
第11表　胎土分類結果 ……117
第12表　遺構出土土器の器種構成 ……137
第13表　遺構名対照表 ……140

巻 頭 図 版 目 次

巻頭図版１　井手田遺跡　遠景
巻頭図版２　Ｃ地区　竪穴住居跡・方形周溝墓
巻頭図版３　Ｃ地区　SH0012上層土器出土状況
　　Ｄ地区　SH1001ほか弥生前期住居跡群
巻頭図版４　Ｅ-２地区　水田跡
　　Ｆ地区　水田跡
巻頭図版５　Ｄ地区　SH1014弥生土器とその出土状況
巻頭図版６　弥生時代の石器１
巻頭図版７　弥生時代の石器２
巻頭図版８　樽形はそうとその出土状況　把手付中空円面硯

図 版 目 次

図版１　調査区配置図
図版２　Ａ地区　トレンチ位置図・断面図
図版３　Ｃ・Ｄ地区間　Ｆ地区　トレンチ平面図・断面図
図版４　Ｂ地区　全体図　溝SD0027・掘立柱建物跡SB0050
図版５　Ｃ地区　全体図１
図版６　Ｃ地区　西壁土層断面図
図版７　Ｃ地区　北壁土層断面図　北壁・西壁土層名
図版８　Ｃ地区　全体図２　掘立柱建物跡
図版９　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0001・SB0005
図版10　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0004・SB0026
図版11　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0006・SB0035
図版12　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0009・SB0039
図版13　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0010・SB0024
図版14　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0016・SB0032
図版15　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0020・SB0022
図版16　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0021・SB0027・SB0047
図版17　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0023・SB0025
図版18　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0028・SB0046
図版19　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0029・SB0030
図版20　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0031・SB0033
図版21　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0034・SB0042
図版22　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0036
図版23　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0037
図版24　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0038・SB0043
図版25　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0040・SB0044
図版26　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0041・SB0048
図版27　Ｃ地区　掘立柱建物跡　SB0045・SB0049
図版28　Ｃ地区　全体図３　竪穴住居跡・方形周溝墓
図版29　Ｃ地区　竪穴住居跡　SH0002
図版30　Ｃ地区　竪穴住居跡　SH0001
図版31　Ｃ地区　竪穴住居跡　SH0003
図版32　Ｃ地区　竪穴住居跡　SH0004
図版33　Ｃ地区　竪穴住居跡　SH0005

図版34　C地区　竪穴住居跡　SH0006
図版35　C地区　竪穴住居跡　SH0007
図版36　C地区　竪穴住居跡　SH0008
図版37　C地区　竪穴住居跡　SH0009
図版38　C地区　竪穴住居跡　SH0010
図版39　C地区　竪穴住居跡　SH0011・SH0013
図版40　C地区　竪穴住居跡　SH0012　上層
図版41　C地区　竪穴住居跡　SH0012　下層
図版42　C地区　竪穴住居跡　SH0015
図版43　C地区　土坑　SK0002～SK0005
図版44　C地区　土坑　SX0001
図版45　C地区　木棺墓　SX0002～SX0006
図版46　C地区　方形周溝墓1・4　SD0003～SD0005
図版47　C地区　方形周溝墓1　SD0005
図版48　C地区　方形周溝墓2　SD0007・SD0008
図版49　C地区　方形周溝墓3　SD0014・SD0015
図版50　C地区　方形周溝墓3　SD0015
図版51　C地区　方形周溝墓4・7　SD0004・SD0006・SD0012・SD0013・SK0001
図版52　C地区　溝　SD0001・SD0002・SD0009・SD0010
図版53　C地区　溝　SD0018・SD0019
図版54　C地区　溝　SD0020～SD0026
図版55　D地区　全体図1
図版56　D地区　東壁土層断面図
図版57　D地区　全体図2
図版58　D地区　掘立柱建物跡　SB1001・SB1002・SB1004
図版59　D地区　掘立柱建物跡　SB1003・SB1005
図版60　D地区　竪穴住居跡　SH1001
図版61　D地区　竪穴住居跡　SH1001　中央土坑・主柱穴断面図
図版62　D地区　竪穴住居跡　SH1002・SH1003・SH1004
図版63　D地区　竪穴住居跡　SH1002・SH1003・SH1004変遷図
図版64　D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群1
図版65　D地区　竪穴住居跡　SH1005～SH1007・SH1017
図版66　D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群2
図版67　D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群土層断面図
図版68　D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群3
図版69　D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群変遷図（西側）
図版70　D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群変遷図（東側）
図版71　D地区　竪穴住居跡　SH1007・SH1013・SH1014・SH1015
図版72　D地区　竪穴住居跡　SH1021・SH1022
図版73　D地区　土坑　SK1001・SK1002・SK1003
図版74　D地区　土坑　SK1005・SK1009・SK1010・SK1013・SK1015
図版75　D地区　土坑　SK1022～SK1026・SK1030
図版76　D地区　土坑　SK1032・SK1033・SK1040～SK1044
図版77　D地区　土坑　SK1017・SX1001
図版78　D地区　SX1002・SX1003
図版79　D地区　SX1004
図版80　D地区　SX1004～SX1010
図版81　D地区　SX1004～SX1010断面図
図版82　D地区　SX1011
図版83　D地区　SX1012

図版84　D地区　溝　SD1001～SD1004
図版85　E地区　全体図
図版86　E地区　全体図・遺構配置図
図版87　E地区　西壁・南壁土層断面図
図版88　E地区　掘立柱建物跡　SB2011・SB2013
図版89　E地区　掘立柱建物跡　SB2012・SB2014
図版90　E地区　土坑　SK2011～SK2014・SK2021・SK2022
図版91　E地区　土坑　SK2016～SK2019
図版92　E地区　土坑　SK2023・SK2025～SK2027・SK2029・SK2031・SK2036
図版93　E地区　土坑　SK2030
図版94　E地区　土坑　SK2032
図版95　E地区　土坑　SK2033・SK2035
図版96　E地区　土坑　SK2034
図版97　E地区　木棺墓　SX2001・SX2002
図版98　E地区　溝　SD2013・SD2015～SD2017
図版99　E地区　溝　SD2018～SD2021・SD2023・SD2024
図版100　E地区　溝　SD2025・SD2026・SD2030
図版101　F地区　全体図
図版102　F地区　土層断面図
図版103　F地区　東西土層断面図ほか　SD2008～SD2012
図版104　F地区　掘立柱建物跡　SB2001・SB2002
図版105　F地区　掘立柱建物跡　SB2003
図版106　F地区　掘立柱建物跡　SB2004
図版107　F地区　竪穴住居跡　SH2001～SH2008
図版108　F地区　竪穴住居跡　SH2001～SH2008変遷図1
図版109　F地区　竪穴住居跡　SH2001～SH2008変遷図2
図版110　F地区　竪穴住居跡中央土坑・SK2002
図版111　B地区　製塩土器　1～8
図版112　B地区　須恵器・土師器　9～24
図版113　C地区　弥生土器1　25～36
図版114　C地区　弥生土器2　37～45
図版115　C地区　弥生土器3　46～55
図版116　C地区　土師器1　56～72
図版117　C地区　須恵器・土師器2　73～88
図版118　C地区　土師器3　89～100
図版119　C地区　土師器4　101～121
図版120　C地区　土師器5　122～131
図版121　C地区　土師器6　132～140
図版122　C地区　土師器7　141～149
図版123　C地区　土師器8　149～162
図版124　C地区　土師器9　163～177
図版125　C地区　須恵器・土師器10　178～203
図版126　C地区　須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・瓦　204～230
図版127　C地区　土師器・須恵器　231～239
図版128　C地区　土師器・須恵器　240～267
図版129　D地区　弥生土器1　268～294
図版130　D地区　弥生土器2　295～321
図版131　D地区　弥生土器3　322～341
図版132　D地区　弥生土器4　342～363
図版133　D地区　弥生土器5　364～393

図版134　D地区　弥生土器6　394～418
図版135　D地区　弥生土器7　419～441
図版136　D地区　弥生土器8　442～465
図版137　D地区　弥生土器9　466～488
図版138　D地区　弥生土器10　489～526
図版139　D地区　弥生土器11　527～556
図版140　D地区　弥生土器12　557～584
図版141　D地区　弥生土器13　585～606
図版142　D地区　弥生土器14　607～624
図版143　D地区　弥生土器15　625～642
図版144　D地区　弥生土器16　643～660
図版145　D地区　弥生土器17　661～686
図版146　D地区　弥生土器・土師器・須恵器・瓦　687～704
図版147　E・F地区　弥生土器　705～722
図版148　E・F地区　弥生土器・土師器・須恵器　723～737
図版149　E・F地区　弥生土器　738～758
図版150　石器1　狩猟具・武器　S1～S25
図版151　石器2　狩猟具・武器・工具　S26～S53
図版152　石器3　工具　S54～S71
図版153　石器4　工具　S72～S82
図版154　石器5　工具　S83～S91
図版155　石器6　工具　S92～S99
図版156　石器7　工具・祭祀具　S119～S130
図版157　石器8　農具　S131～S144
図版158　石器9　調理具・加工具　S145～S150
図版159　石器10　調理具・加工具　S151～S154
図版160　石器11　調理具・加工具　S155～S160
図版161　石器12　調理具・加工具　S161～S165
図版162　石器13　調理具・加工具　S166～S168
図版163　石器14　調理具・加工具　S169～S172
図版164　石器15　調理具・加工具　S173～S175
図版165　石器16　調理具・加工具　S176～S178
図版166　石器17　調理具・加工具　S179～S181
図版167　石器18　調理具・加工具　S182～S184

写 真 図 版 目 次

写真図版1　空中写真
写真図版2　空中写真　遠景
写真図版3　空中写真　調査区全景
写真図版4　B地区　全景
写真図版5　B地区　東壁土層断面　SB0050・P09・SD0027
写真図版6　C地区　全景
写真図版7　C地区　全景
写真図版8　C地区　西・北壁土層断面
写真図版9　C地区　掘立柱建物跡　SB0001
写真図版10　C地区　掘立柱建物跡　SB0005
写真図版11　C地区　掘立柱建物跡　SB0009
写真図版12　C地区　掘立柱建物跡　SB0010
写真図版13　C地区　掘立柱建物跡　SB0030
写真図版14　C地区　竪穴住居跡　SH0002
写真図版15　C地区　竪穴住居跡　SH0002
写真図版16　C地区　竪穴住居跡　SH0001
写真図版17　C地区　竪穴住居跡　SH0003
写真図版18　C地区　竪穴住居跡　SH0003
写真図版19　C地区　竪穴住居跡　SH0004
写真図版20　C地区　竪穴住居跡　SH0005
写真図版21　C地区　竪穴住居跡　SH0006
写真図版22　C地区　竪穴住居跡　SH0006
写真図版23　C地区　竪穴住居跡　SH0007
写真図版24　C地区　竪穴住居跡　SH0008
写真図版25　C地区　竪穴住居跡　SH0008
写真図版26　C地区　竪穴住居跡　SH0009
写真図版27　C地区　竪穴住居跡　SH0010
写真図版28　C地区　竪穴住居跡　SH0011
写真図版29　C地区　竪穴住居跡　SH0012上層
写真図版30　C地区　竪穴住居跡　SH0012下層
写真図版31　C地区　竪穴住居跡　SH0013
写真図版32　C地区　竪穴住居跡　SH0015
写真図版33　C地区　土坑　SK0002～SK0005
写真図版34　C地区　集石遺構　SX0001
写真図版35　C地区　木棺墓　SX0002
写真図版36　C地区　木棺墓　SX0003
写真図版37　C地区　木棺墓　SX0004～SX0006
写真図版38　C地区　方形周溝墓群
写真図版39　C地区　方形周溝墓1　SD0005
写真図版40　C地区　方形周溝墓1　SD0005
写真図版41　C地区　方形周溝墓2　SD0007・SD0008
写真図版42　C地区　方形周溝墓3　SD0015
写真図版43　C地区　方形周溝墓3　SD0015
写真図版44　C地区　方形周溝墓北半部　方形周溝墓7
写真図版45　C地区　方形周溝墓7　SK0001・SD0012
写真図版46　C地区　溝　SD0002・SD0009・SD0010
写真図版47　C地区　溝　SD0018

写真図版48　C地区　溝　SD0019～SD0022・SD0024～SD0026
写真図版49　D地区　全景
写真図版50　D地区　東壁土層断面
写真図版51　D地区　掘立柱建物跡　SB1004
写真図版52　D地区　掘立柱建物跡　SB1001・SB1002・SB1005
写真図版53　D地区　竪穴住居跡　SH1001～SH1004
写真図版54　D地区　竪穴住居跡　SH1001
写真図版55　D地区　竪穴住居跡　SH1001
写真図版56　D地区　竪穴住居跡　SH1001
写真図版57　D地区　竪穴住居跡　SH1002～SH1004
写真図版58　D地区　竪穴住居跡　SH1002～SH1004
写真図版59　D地区　南部竪穴住居跡群全景
写真図版60　D地区　南部竪穴住居跡群東群　SH1007
写真図版61　D地区　南部竪穴住居跡群西群　SH1009・SH1010
写真図版62　D地区　竪穴住居跡　SH1013～SH1015
写真図版63　D地区　竪穴住居跡　SH1021・SH1022
写真図版64　D地区　土坑　SK1001～SK1003・SK1010
写真図版65　D地区　土坑　SK1005・SK1009・SK1017・SK1022～SK1024・SK1026・SK1030
写真図版66　D地区　SX1004
写真図版67　D地区　SX1004
写真図版68　D地区　SX1011
写真図版69　D地区　SX1012・溝SD1001・SD1002
写真図版70　E地区　全景
写真図版71　E地区　E-1地区　全景・壁土層断面
写真図版72　E地区　E-2地区　全景・壁土層断面
写真図版73　E地区　掘立柱建物跡　SB2012・SB2013・SB2014
写真図版74　E地区　掘立柱建物跡　SB2011～SB2014・柱穴
写真図版75　E地区　竪穴住居跡・土坑　SH1011・SK2011～SK2014・SK2019
写真図版76　E地区　土坑　SK2016・SK2018・SK2021～SK2023・SK2026・SK2028
写真図版77　E地区　土坑　SK2025・SK2027・SK2029・SK2031・SK2033・SK2036
写真図版78　E地区　土坑　SK2030
写真図版79　E地区　土坑　SK2032・SK2034
写真図版80　E地区　木棺墓　SX2001・SX2002
写真図版81　E地区　溝　SD2013・SD2016・SD2019～SD2024
写真図版82　E地区　溝　SD2013・SD2015・SD2017・SD2018
写真図版83　E地区　溝　SD2019・SD2021・SD2023～SD2025
写真図版84　E地区　溝　SD2026
写真図版85　F地区　全景
写真図版86　F地区　全景
写真図版87　F地区　南壁土層断面
写真図版88　F地区　北壁土層断面・サブトレンチ
写真図版89　F地区　竪穴住居跡　SH2001～SH2008
写真図版90　F地区　竪穴住居跡・溝　SH2001・SD2008～SD2012
写真図版91　土器1　C地区
写真図版92　土器2　C地区
写真図版93　土器3　C地区
写真図版94　土器4　C地区
写真図版95　土器5　C地区
写真図版96　土器6　C地区
写真図版97　土器7　C地区

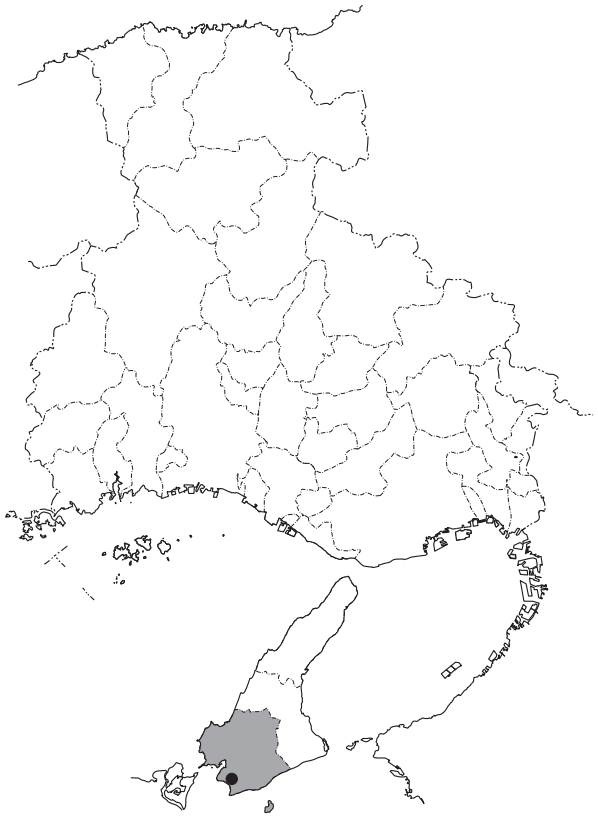
写真図版98　土器8　C地区
写真図版99　土器9　C地区
写真図版100　土器10　C地区
写真図版101　土器11　C地区
写真図版102　土器12　C地区
写真図版103　土器13　C地区
写真図版104　土器14　C地区
写真図版105　土器15　C地区
写真図版106　土器16　C地区
写真図版107　土器17　C地区
写真図版108　土器18　C地区
写真図版109　土器19　C地区
写真図版110　土器20　C地区
写真図版111　土器21　C地区
写真図版112　土器22　C地区
写真図版113　土器23　C地区
写真図版114　土器24　C地区
写真図版115　土器25　C地区
写真図版116　土器26　C地区
写真図版117　土器27　C地区
写真図版118　土器28　C地区
写真図版119　土器29　C地区
写真図版120　土器30　D地区
写真図版121　土器31　D地区
写真図版122　土器32　D地区
写真図版123　土器33　D地区
写真図版124　土器34　D地区
写真図版125　土器35　D地区
写真図版126　土器36　D地区
写真図版127　土器37　D地区
写真図版128　土器38　D地区
写真図版129　土器39　D地区
写真図版130　土器40　D地区
写真図版131　土器41　D地区
写真図版132　土器42　D地区
写真図版133　土器43　D地区
写真図版134　土器44　D地区
写真図版135　土器45　E・F地区
写真図版136　土器46　E・F地区
写真図版137　土器47　E・F地区　金属器
写真図版138　石器1　狩猟具・武器　S1～S25
写真図版139　石器2　狩猟具・武器・工具　S26～S53
写真図版140　石器3　工具　S54～S71
写真図版141　石器4　工具　S72～S82
写真図版142　石器5　工具　S83～S91
写真図版143　石器6　工具　S92～S99
写真図版144　石器7　工具　S100～S118・S48・S54
写真図版145　石器8　工具　S119～S126
写真図版146　石器9　祭祀具　S127～S130・S185～S191
写真図版147　石器10　農具　S131～S137・S139・S141

写真図版148　石器11　調理具・加工具　S138・S140・S142～S148・S150・S192
写真図版149　石器12　調理具・加工具　S149・S151～S154
写真図版150　石器13　調理具・加工具　S155～S159
写真図版151　石器14　調理具・加工具　S160～S165
写真図版152　石器15　調理具・加工具　S166・S167・S173
写真図版153　石器16　調理具・加工具　S168～S171
写真図版154　石器17　調理具・加工具　S172・S174・S175
写真図版155　石器18　調理具・加工具　S176～S180
写真図版156　石器19　調理具・加工具　S181・S193
写真図版157　石器20　調理具・加工具・玉　S182～S185・S194・S195・Ｊ1～Ｊ4

第１章　遺跡をとりまく環境

第１節　　井手田遺跡の位置

井手田遺跡は淡路島南部の南あわじ市上阿万町に所在する。阿万地区は南は紀伊水道に面し、東西及び北方を山で囲まれた地区であり、東西３km、南北２kmほどの範囲に集落や水田が広がっている。井手田遺跡はこの地区の北端に位置し、三原平野から紀伊水道に注ぐ塩屋川左岸の微高地上に形成された弥生時代から中世に至る集落遺跡である。



第１図　遺跡の位置

第２節　周辺の環境

井手田遺跡周辺の地理的・歴史的環境については、同じ（主）洲本灘賀集線（阿万バイパス）道路改良事業に伴い調査した九蔵遺跡の発掘調査報告書（兵庫県教育委員会2015）の「第２章　位置と環境」において詳述されているのでこれを参照していただくことにして、ここでは阿万地区を中心とした弥生時代～中世の遺跡に絞って概略を記しておく。

弥生時代の遺跡は井手田遺跡の他に九蔵遺跡（阿万東町）、北田遺跡（同）、初田遺跡（阿万塩屋町）、河内遺跡（阿万上町）、佐古谷遺跡（同）などがある。九蔵遺跡では井手田遺跡と同じ弥生時代前期末～中期初頭の土器がまとまって溝から出土しており、直径約5.2ｍの前期末の松菊里型住居も調査されている。銅鐸や銅剣が多量に埋納されていることで注目を集めている松帆銅鐸出土地・古津路（西原）遺跡は、同じ南あわじ市でも播磨灘に面した旧西淡町域にあり、旧南淡町域にある井手田遺跡からは三原平野を挟んで北方約12km隔たっている。

古墳時代の遺跡は横穴式石室墳の丸田古墳（阿万丸田）、集落としてはみのこし遺跡（阿万東町）、九蔵遺跡、初田遺跡があるが、その数は少ない。

古代の阿万地区は淡路国三原郡阿万郷にあたり、平城京跡から「淡路国三原郡阿麻郷戸主丹比部足」「□同姓蓑麻呂調塩三斗天平寶字五年」と記された荷札木簡が出土している。この時代の遺跡としては九蔵遺跡がこの地区を代表する。飛鳥時代から掘立柱建物で構成される集落が形成され、平安時代まで継続する。多くの製塩炉と製塩土器、和同開珎銀銭等が出土しており、製塩をはじめとする海産物の生産・流通に関わった「三原海人」の集落であったと考えられている。この他に北田遺跡、みのこし遺跡、初田遺跡でも古代の遺物が出土している。

中世の阿万地区は阿万荘という荘園となっており、貞応２年（1223年）の淡路国大田文に得長寿院・八幡宮領として「阿万庄」がある。遺跡は郷殿城跡（阿万上町）、北田遺跡、河内遺跡（阿万上町）、正福寺跡（同）、北佐野遺跡（阿万上町）、下中原遺跡（阿万上町ほか）、九蔵遺跡等がある。

【参考文献】

兵庫県教育委員会　2015 『九蔵遺跡－（主）洲本灘賀集線（阿万バイパス）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』兵庫県文化財調査報告　第473冊

兵庫県教育委員会　2011 『兵庫県遺跡地図』

「角川日本地名大辞典」編纂委員会　　1988『角川日本地名大辞典（28）兵庫県』

1．**井手田遺跡**　2．北田遺跡　3．九蔵遺跡　4．初田遺跡　5．河内遺跡
6．佐古谷遺跡　7．白石遺跡　8．二本木遺跡　9．細田遺跡　10．祢つノ木遺跡
11．高萩遺跡　12．西ノ開地遺跡　13．岩谷遺跡　14．刈藻遺跡　15．刈藻田遺跡
16．伊毘遺跡　17．相良遺跡　18．いかん谷遺跡　19．あきう谷遺跡　20．えのき谷遺跡
21．沖ノ島遺跡　22．北納屋町原田遺跡　23．東本町東谷遺跡　24．玉造遺跡　25．神子曽遺跡
26．嫁ヶ渕遺跡　27．石ヶ坪遺跡　28．西山遺跡　29．山口又手遺跡　30．しらぎ谷遺跡
31．川池下遺跡　32．素川遺跡　33．伊加利沖田遺跡　34．畦原原寺(路)遺跡　35．枝ヶ谷遺跡
36．畦原遺跡　37．大唐原首遺跡　38．大唐原遺跡　39．草下濱遺跡　40．丸山遺跡
41．東谷遺跡　42．間川瀬遺跡　43．斉谷上遺跡　44．斉谷遺跡　45．馬場遺跡
46．谷町筋遺跡　47．鈩田遺跡　48．高所遺跡　49．飯山寺遺跡　50．辻ノ内遺跡
51．西路庚申遺跡　52．西法寺遺跡　53．後山遺跡　54．大谷遺跡　55．岡所西遺跡
56．井手の内遺跡　57．薬師遺跡　58．平石遺跡　59．湊明神前遺跡　60．叶堂遺跡
61．西原遺跡　62．西原北遺跡　63．松原千畳敷遺跡　64．雨流遺跡　65．志知川沖田南遺跡
66．里見山下遺跡　67．幡多遺跡　68．おのころ島遺跡　69．岩渕遺跡　70．伊勢の森遺跡
71．円座遺跡　72．木戸原遺跡　73．馬屋尻遺跡　74．立石遺跡　75．経所遺跡
76．志知松本遺跡　77．久保ノカチ遺跡　78．鐘原遺跡　79．喜来遺跡　80．海棠子遺跡
81．戎添遺跡　82．次郎池遺跡　83．国分遺跡　84．大土居中遺跡　85．由ヶ谷遺跡
86．戎神社遺跡　87．次郎谷遺跡　88．中の御堂遺跡　89．萩原遺跡　90．笹尾遺跡
91．倉谷遺跡

第2図　周辺遺跡分布図（弥生時代）

1．**井手田遺跡**　2．丸田古墳　3．みのこし遺跡　4．九蔵遺跡　5．初田遺跡
6．才門遺跡　7．平松遺跡　8．岸ノ上遺跡　9．西山南古墳　10．西山中遺跡
11．西山北古墳　12．石ヶ坪遺跡　13．野田山古墳　14．小山古墳　15．汁谷遺跡
16．汁谷窯跡　17．木戸原遺跡　18．佐礼尾古墳群　19．谷町筋遺跡　20．鈩田遺跡
21．ハバ古墳　22．辻ノ内遺跡　23．庚申塚古墳　24．片山遺跡　25．山の口古墳
26．雨流遺跡　27．おのころ島遺跡　28．徳野塚村古墳　29．上八木古墳群　30．由ヶ谷古墳
31．宮田古墳　32．長田山1号墳　33．長田山2号墳　34．掃守岡山寺古墳群　35．倭文委文古墳
36．櫟田山古墳

第3図　周辺遺跡分布図（古墳時代）

1. **井手田遺跡**　2. 九蔵遺跡　3. みのこし遺跡　4. 初田遺跡　5. 有塚遺跡
6. 神子曽遺跡　7. 石田遺跡　8. 才門遺跡　9. 玉造遺跡　10. 鳥取遺跡
11. 黒谷遺跡　12. 三反田遺跡　13. まの谷遺跡　14. 阿那賀沖田遺跡　15. 水口遺跡
16. 又手池遺跡　17. 宮の下遺跡　18. 宮田遺跡　19. 蛭田遺跡　20. 西御堂遺跡
21. 西の川遺跡　22. 畦原遺跡　23. 柿の木谷奥の池遺跡　24. 湊明神前遺跡　25. 平石遺跡
26. 西路庚申遺跡　27. 学田(楽田)遺跡　28. 新川西遺跡　29. 鯉田遺跡　30. 鈩田遺跡
31. 谷町筋遺跡　32. 馬場遺跡　33. 前田遺跡　34. 間無地蔵前遺跡　35. 間無地蔵遺跡
36. 立花谷遺跡　37. 岸ノ上遺跡　38. 大野遺跡　39. 石ヶ坪遺跡　40. 嫁ヶ渕遺跡
41. 平松遺跡　42. 野田遺跡　43. 楠谷遺跡　44. 戸川池窯跡　45. 村木遺跡
46. 寺田遺跡　47. 志知川新池遺跡　48. 志知川沖田南遺跡　49. 雨流遺跡　50. 松田下遺跡
51. 大榎列下遺跡　52. 大榎列遺跡　53. 東内遺跡　54. おのころ島遺跡　55. 幡多遺跡
56. 入田稲荷前遺跡　57. 戒壇寺跡　58. 生ヶ坂遺跡　59. 淡路国分寺跡　60. 国分遺跡
61. 淡路国分尼寺跡　62. 木戸原遺跡　63. 山惣廃寺跡　64. 堂ノ上遺跡　65. 国衙廃寺跡

第4図　周辺遺跡分布図（古代）

第２章　経緯と経過

第１節　調査にいたる経緯

１　調査にいたる経緯

兵庫県淡路県民局県土整備部洲本土木事務所が南あわじ市阿万下町～阿万上町で計画する主要地方道洲本灘賀集線（阿万バイパス）道路改良調査事業の対象地について、平成９年度に分布調査を実施したところ、遺物の散布が認められた。また、地形から推測しても埋蔵文化財包蔵地となる可能性が考えられ、№４地点と仮称した。

事業の進捗に伴い、兵庫県淡路県民局県土整備部洲本土木事務所からの調査依頼（平成18年４月26日付　淡路（洲土）第1075号）があり、№４地点についての確認調査を直接執行で実施した。

上記確認調査の結果を受けて、兵庫県淡路県民局県土整備部洲本土木事務所より依頼があったため（平成18年７月18日付　淡路（洲土）第1329号）、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が井手田遺跡についての本調査を実施した。

第２節　確認調査（第５図）

１　調査の方法

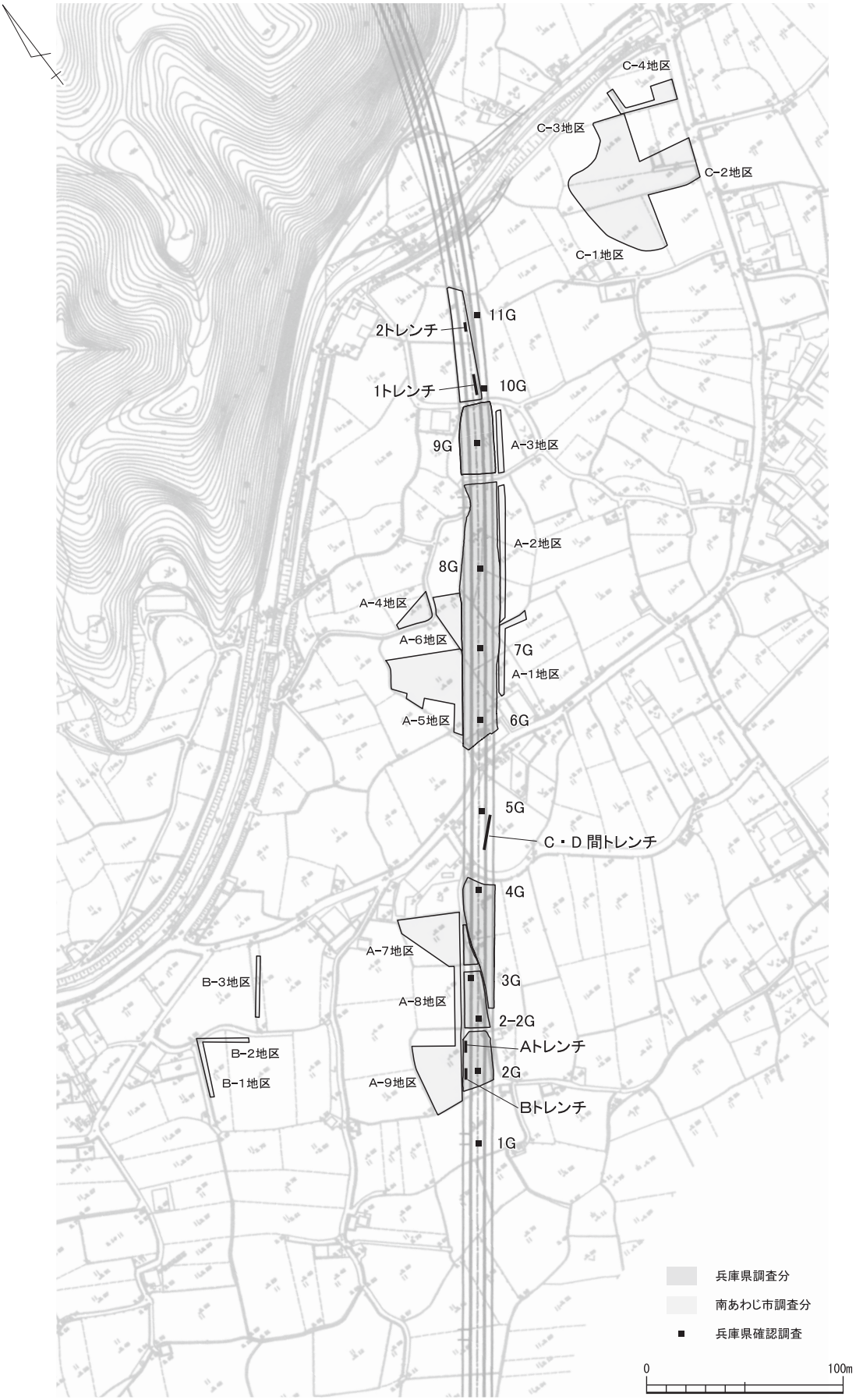
事業対象地は阿万上町集落西側の水田である。事業範囲内に約40ｍ間隔で２×２ｍのグリッドを設定したが、用地の都合や地形を考慮して適宜その設定位置は変更し、最終的に１～11G及び2-2Gの12箇所について調査した。グリッドの掘削は表土以下遺構面直上まで機械を用いて掘削後、床面を精査し遺構の検出につとめた。検出した遺構については、掘削は行わなかった。同時に土層堆積状況を見るため壁面の精査も行った。すべての作業終了後、グリッドの平面・断面を写真図面に記録した。調査終了後にグリッドは埋め戻しを行った。

２　調査の結果

調査の結果、２－2Gから4Gと6Gから9Gの範囲で遺構または包含層、遺構面の広がりを確認した。２－2Gより南側では遺構が確認できないため、遺跡の南限となる。4Gの北側は旧河道となり、6Gから９Gとは連続しない。6G南側の段差が北半部の南限と考えられた。9Gより北側の10・11Gは削平のため遺構面の広がりはみとめられなかった。また、その西側の水田は調査不可能であったが、レベル的には9Gとほぼ同一であり、遺構面が続いている可能性がある。

また、出土した遺物は瓦器片や奈良時代の須恵器、製塩土器、弥生土器、縄文土器らしい破片、石鏃などの石器がある。そこで、遺跡は縄文時代から古代まで存続すると推定された。

調査番号　　2006050
調査期間　　平成18年６月12・13日
調査面積　　48㎡
調査担当者　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所調査第１班　渡辺　昇・長濱誠司


C−4地区
C−3地区
C−2地区
C−1地区
11G
2トレンチ
1トレンチ
10G
9G
A−3地区
A−2地区
8G
A−4地区
A−6地区
7G
A−1地区
A−5地区
6G
5G
C・D 間トレンチ
4G
A−7地区
3G
B−3地区
A−8地区
2−2G
Aトレンチ
B−2地区
2G
B−1地区
A−9地区
Bトレンチ
1G
兵庫県調査分
南あわじ市調査分
兵庫県確認調査
0
100m

第5図　調査地点位置図

第３節　本発掘調査の経過

１　調査の方法

作業は表土を重機で排土し、包含層以下を人力で掘削し、遺構面を検出した。遺構面検出後は遺構の精査を行い、適宜写真及び図面を作成して記録保存に努めた。

遺構図面は1/10及び1/20縮尺を基本として作成したが、現場状況に応じて適宜作成した。

また、写真撮影については個別遺構及び地区の全景写真などは写真用足場を設置して撮影を行った。さらに、調査区全体については、航空測量を11月10日（Ｃ、Ｅ-１地区)、12月７日（Ｄ・Ｅ-２・Ｆ地区）の２回実施し、1/50縮尺で調査区を測量した。

２　本発掘調査と確認調査

調査対象地区は総延長400ｍと長大であり、Ａ～Ｆの６区に分けて調査を行った。

その中でも、Ａ地区とＦ地区、およびＣ・Ｄ地区間については確認調査を行った。

Ａ地区確認調査（図版２）

地元事情から確認調査が未実施となったため、本発掘調査に先立ち、トレンチ調査によって現場の様相を確認した。その結果、広く河川の氾濫原が検出されたが、人為的な痕跡を確認できなかった。このため、Ａ地区は本調査地区から除外した。

Ｆ地区確認調査（図版３）

Ｅ地区南端の調査から遺跡の範囲が広がることが予想されたため、確認調査を行った。この結果、遺構・遺物の存在が確認されたため、あらたに調査区を設定しＦ地区とし、本発掘調査を実施した。

Ｃ・Ｄ地区間確認調査（図版３）

本発掘調査区のＣ・Ｄ地区間は確認調査によって遺構が存在しない部分と認識され、残土置き場として使用していた。しかし、本発掘調査中に地区の南端部分に雨水の排泄を目的として仮設の排水溝を掘削したところ、遺物包含層の存在が明らかとなった。そこで、２次確認調査を実施した。

調査区の現況は先述したように掘削残土が盛られており、現況の標高は約6.3ｍであった。盛り土以前の状況はつまびらかでないが、以前は耕作地として使用されており約60㎝下面より現代の床面が出現している。設定したトレンチは幅0.8ｍ、全長18ｍ、現況からの深さ約1.4ｍである。

調査の結果、現地表下約１ｍにおいて柱穴３個を検出した。柱穴は褐灰色土中より掘り込まれ、規模は径約80㎝・深さ約70㎝を計り、いずれも不整な方形を指向する。時期は柱穴の埋土・形状・若干の遺物から推して、Ｄ区北端において検出している奈良時代の掘立柱建物跡と同時期と考えられる。また、遺構面を形成している褐灰色土からは弥生土器片が出土しており、遺物包含層が存在することが判明した。結果、奈良時代と考えられる遺構面及び下層から弥生時代の遺物包含層が確認された。

本地区の北側に位置するＣ地区では弥生時代から中世にかけての稠密な遺構と包含層が存在する。本地区はＣ地区から続く微高地の縁辺に位置しており、Ｃ地区の遺構群が今回確認された地点まで広がっている可能性が高いと判断された。

また、学識経験者青木哲哉氏の指導のもと下層確認トレンチを設定し調査を行っている。

本発掘調査

今回の本発掘調査はＢ～Ｆの５地区を調査し、その順番はＣ→Ｅ→Ｄ→Ｆ→Ｂの順に開始したが、進捗状況に合わせて適宜作業を行った。その成果については、第３章において報告する。

なお、調査期間中の平成18年12月９日に現地説明会をおこない50名の見学があった。また、12月14日には地元の南あわじ市立阿万小学校４年生14名、12月23日には武庫川女子大学25名の遺跡見学に対応し、発掘調査成果の公開に努めた。

調査番号　2006088
調査期間　平成18年９月11日～12月26日
調査面積　4,031㎡
調査担当者　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所調査第１班　西口圭介・山上雅弘・上田健太郎
調査補助員　中久保辰夫（現　大阪大学）・横田真吾（現　宮内庁書陵部）・高上拓（現　高松市教育委員会）・金澤雄太（現　御所市教育委員会）・野村大作
事務員・室内作業員　阿部由香子・榎本可奈美・橋本百恵・末広きよみ

第６図　現地説明会風景

第７図　阿万小学校見学風景

第４節　南あわじ市教育委員会の調査

南あわじ市教育委員会は経営体育成基盤整備事業（阿万本庄地区）に伴い、阿万バイパスに隣接する地区の井手田遺跡の発掘調査を実施している。事業者は兵庫県洲本土地改良事務所である。

平成16年度に当該地域の分布調査により、井手田遺跡の所在が発見され、平成18年度の兵庫県教育委員会による阿万バイパスに伴う確認調査・本発掘調査によって、弥生時代から中世にわたる複合遺跡であることが判明した後、南あわじ市教育委員会が平成20年度に当該事業に伴う確認調査を行い、平成21～24年度に本発掘調査を行い、県教委の調査区につながる遺跡の様相が明らかになってきている。その概要を以下に述べる。

１　平成21年度の調査

調査地　　南あわじ市阿万上町字井手田外

調査期間　　平成21年7月30日～11月26日

調査面積　　2,223㎡（A-1～3地区、C-1～4地区）

調査担当者　南あわじ市教育委員会　南あわじ市埋蔵文化財調査事務所　山崎裕司・坂口弘貢・的崎薫

調査成果　　古代（７世紀中葉頃）の溝、奈良時代ないし鎌倉時代の掘立柱建物跡群、弥生時代後期～終末期の土器。

２　平成22年度の調査

調査地　　南あわじ市阿万上町字井手田外

調査期間　　平成22年5月12日～12月2日

調査面積　　2,460.2㎡（A-4～9地区、B-1～3地区）

調査担当者　南あわじ市教育委員会　南あわじ市埋蔵文化財調査事務所　山崎裕司

調査成果　　弥生時代前期～室町時代の遺構。県教委調査Ｃ地区に隣接し、弥生時代中期の周溝墓・竪穴住居・飛鳥～奈良・平安・鎌倉時代の掘立柱建物跡、弥生時代前期の土坑。古墳時代の土器・玉を出土する流路。

３　平成23年度の調査

調査地　　南あわじ市阿万上町字中田内

調査期間　　平成23年6月22日～10月14日

調査面積　　863.4㎡（E-1地区、E-2地区）

調査担当者　南あわじ市教育委員会　南あわじ市埋蔵文化財調査事務所　山崎裕司

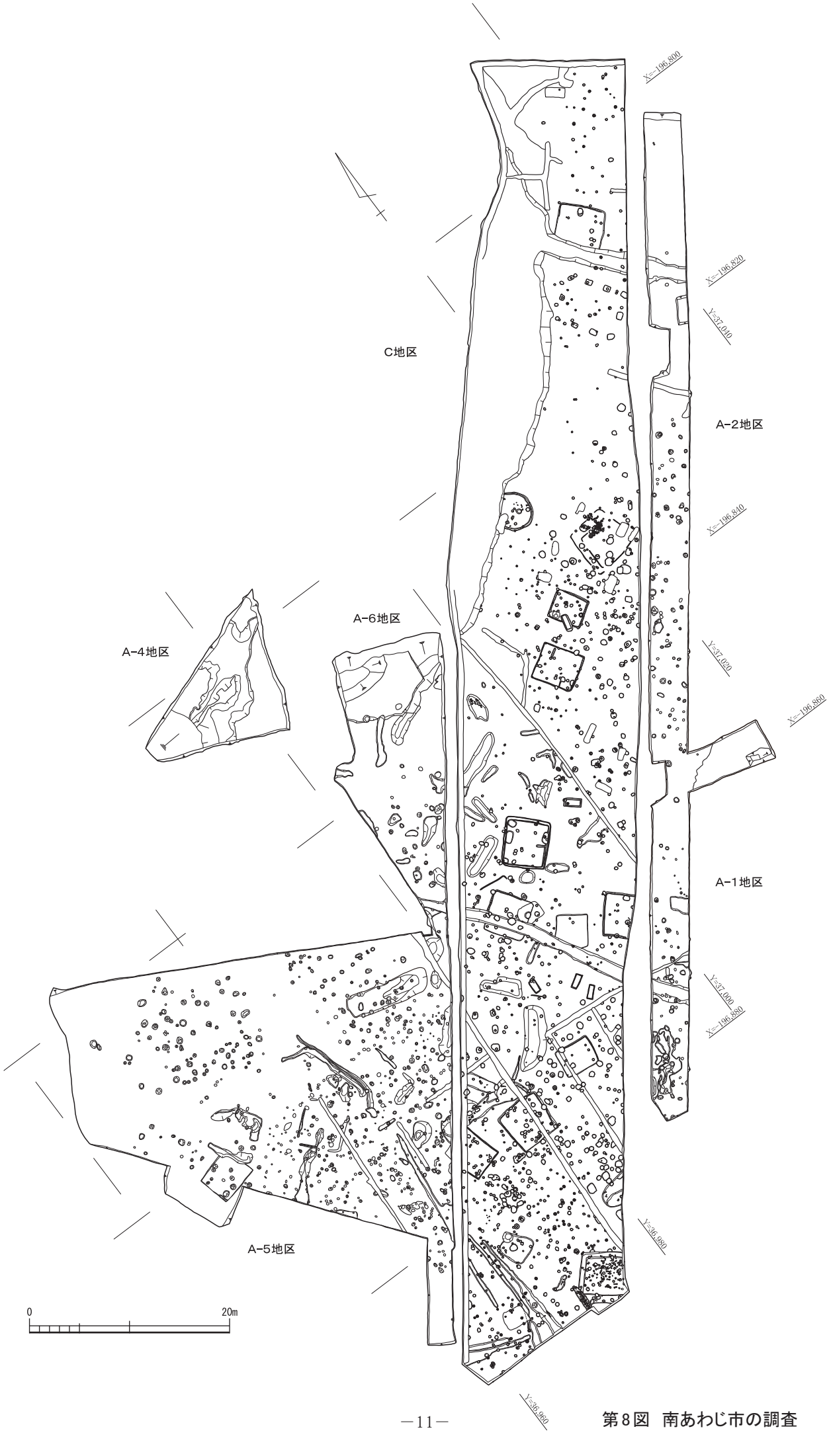
調査成果　　室町時代の掘立柱建物跡群。

４　平成24年度の調査

調査地　　南あわじ市阿万上町字中田内

調査期間　　平成24年6月11日～7月11日

調査面積　　360㎡（Ｄ地区）



第8図　南あわじ市の調査

調査担当者　南あわじ市教育委員会　南あわじ市埋蔵文化財調査事務所　山崎裕司
調査成果　　古代・中世の遺構面。古代の瓦片。

第５節　出土品整理作業

発掘調査終了後、出土遺物を兵庫県立考古博物館に持ち帰り、出土品整理をおこなった。作業は兵庫県淡路県民局県土整備部洲本土木事務所からの依頼（平成25年3月25日付け淡路（洲土）第2212号、平成26年3月6日付け淡路（洲土）第1979号、平成27年3月5日付け淡路（洲土）第1855号、平成28年1月20日付け淡路（洲土）第1622号、平成29年3月13日付け淡路（洲土）第1798号）により兵庫県教育委員会が受託し、これを（公財）兵庫県まちづくり技術センターに委託して、平成25～29年度の５か年にわたって実施した。

実施期間　平成25年4月1日～平成30年3月31日
実施場所　兵庫県立考古博物館
事業主体　兵庫県教育委員会
実施内容　［平成25年度］　水洗い、ネーミング
［平成26年度］　接合・補強、金属器の保存処理
［平成27年度］　実測・拓本、復元、遺物トレース
［平成28年度］　写真撮影、写真整理、図面補正、遺構トレース、分析鑑定
［平成29年度］　レイアウト、報告書印刷

整理担当者
（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
調査課　西口圭介
整理保存課　高瀬一嘉・多賀茂治・菱田淳子・長濱誠司・岡本一秀・池田征弘・深江英憲
兵庫県立考古博物館　総務部　埋蔵文化財課　上田健太郎
事業部　学芸課　山上雅弘
学習支援課　山本　誠

作業担当者
（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
整理保存課　整理技術嘱託員・日々雇用職員
今村直子・小野潤子・藤尾裕子・前田恵梨子・荻野麻衣・島村順子・嶺岡美見・上田沙耶香・上西淳子・佐々木愛・梶原奈津子・平宮可奈子・藤池かづさ・坂東知奈・沼田眞奈美・遠藤貴子・石田典子・栗山美奈・柏原美音・友久伸子・古谷章子・池田悦子・高瀬敬子・宮田麻子・森本貴子・八木和子・桂　昭子・門田諭佳・河合たみ・佐伯純子・佐々木誓子・寺西梨紗・前田陽子・山口陽太・髙橋　満・山下和美・尾鷲都美子・池信和彦（順不同）

第３章　発掘調査の成果－遺構－

第１節　概要

井手田遺跡の調査地は現在の阿万地区市街地の西約300mの塩屋川の沖積低地に位置する。北からＡ～Ｆの６地区に分かれており、地形は北東から南西に緩やかに下る。標高は４～8mで、Ｃ・Ｄ地区間には2mほどの高低差がみられる。

第２節　Ａ地区の調査（図版２・写真図版３）

Ａ地区は地元教育委員会の確認調査が未実施であったため、２本のトレンチを設定して確認調査を行った。調査は重機で排土を行い、断面および床面を人力で精査した。掘削深震度は１・２トレンチとも1mである。調査の結果、全域に渉って塩屋川の旧河道の堆積が認められ、下層には礫層の堆積が確認できた。旧河道の氾濫原にあたり、遺構・遺物は検出されなかったため、この地区は本調査から除外した。

第３節　Ｂ地区の調査

Ｂ地区は塩屋川の旧河道上に立地するが、この河道は調査地点から南側へは分岐して流下する。東側の河道はＣ・Ｄ地区の東100～150mほどのところを流れ、西側の河道は調査区に隣接して流下し、Ｃ地区では一部調査区の西端をかすめている。堆積層から出土した遺物から、この河道は奈良時代前後には埋没し、以後周囲は平地化したようである。平地化した面からは中世前後の掘立柱建物跡SB0050、溝SD0027、土坑などが検出された。包含層・確認調査で古墳時代～古代の土器が出土している。

１　主な遺構

ＳＢ００５０（図版４・写真図版５）

検出状況　南東角は調査区外である。北西角の柱も未検出である。

形態・規模　南北4.1m×東西6.2mで検出されている柱からは３間×３間となるが、いくつかの柱が未検出と思われる。推定される全体の床面積は25.42㎡、主軸はN81°Eを測る。柱間距離は0.55～3.75mとばらつきがあり、コーナー近くでは比較的柱間が狭い傾向がある。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ００２７（図版４・写真図版５）

検出状況　調査区南部で検出した。

形態・規模　平面形はやや口の開いた「コ」の字状を呈する溝である。全長1.8＋3.2＋1.0m、幅0.7mを測る。検出面からの深さは10㎝。断面は皿状を呈し、底面はほぼ水平である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

落ち込み

出土遺物　製塩土器（1～8）、土師器高杯（9・14・15）・甕（11・12）・把手（10）、須恵器壺底部（13）、施釉陶器（16）がある。時期は施釉陶器を除き、古墳時代～古代である。

第４節　Ｃ地区の調査

Ｃ地区はＢ地区で分岐した旧河道の間に形成された中州状地形に立地する。中州は東西150m前後で、南北方向はＢ地区からＤ・Ｆ地区まで伸びている。調査区内の標高は6.1～6.8mと北から南に向かってわずかに傾斜するが、概ね平坦な地形となる。調査区北半の西を旧河道から古代の土器が出土した。

全域に掘立柱建物跡（奈良時代～中世）49棟が散在し、竪穴住居跡（弥生時代・古墳時代）は13棟検出しており、1棟を除き方形である。5基の方形周溝墓を調査している。いずれも四隅で切れるタイプで、墳丘および主体部は失われている。また隣り合う周溝墓と溝を共有するものもない。外に木棺墓、土坑、溝などを検出した。

1　掘立柱建物跡

ＳＢ０００１（図版9・写真図版9）

検出状況　調査区北よりに位置し、南東角はわずかに側溝で切られている。

形態・規模　南北3間×東西2間（5.7×4.3m）である。柱穴の多くは60×80㎝程度の隅丸の長方形で、その長軸は概ね柱列の方向と一致している。床面積は24.51㎡、主軸はN35°Wを測る。柱間距離は南北では全て1.9m、東西2.1～2.2mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ０００５（図版9・写真図版10）

検出状況　調査区中央近くに位置し、南西角の柱穴は攪乱により失われている。

形態・規模　南北3間×東西2間（7.5×4.3m）である。柱穴はいずれも直径80㎝の大きめの円形である。床面積は32.25㎡、主軸はN34°Wを測る。柱間距離は概ね2.0～2.4m、南北の中央のみ2.8mと長い。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　柱穴P1005から古墳時代中期と思われる土師器の鉢（85）が出土している。

ＳＢ０００４（図版10・写真図版6）

検出状況　調査区中央近くに位置する。SB0026の東に位置する。

形態・規模　南北2間×東西2間（4×3.9m）の総柱建物である。柱穴は径20～30㎝の円形である。床面積は15.6㎡、主軸はN9°Eを測る。柱間距離は1.9～2.0mと揃っている。南西の1間は配石がみられる。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００２６（図版10・写真図版6）

検出状況　調査区中央近くの旧河道沿いに位置する。SB0005と一部重なっている。

形態・規模　南北2間×東西2間（3.8×4.7m）の総柱建物である。柱穴は径15～20㎝の小型の円形である。床面積は17.86㎡、主軸はN14°Eを測る。柱間距離は1.8～2.5mで、東西方向の方が長い。柱穴の深さは検出面から最大25㎝である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ０００６（図版11・写真図版38・44）

検出状況　調査区中央あたりに位置している。

形態・規模　南北3間×東西2間（6.8×4.4m）である。柱穴は一辺70㎝の隅丸方形、一辺60㎝の不定形、直径30㎝の円形など各種混在している。床面積は29.92㎡、主軸はN16°Eを測る。柱間距離は2.0～2.4mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　柱穴P048から飛鳥時代末頃の須恵器杯蓋（204）が出土している。

ＳＢ００３５（図版11・写真図版38・44）

検出状況　SB0006とほぼ重なっている。

形態・規模　南北3間×東西2間（6.5×4.4m）である。柱穴は小型の円形である。床面積は28.6㎡、主軸はN16°Eを測る。柱間距離は1.7～2.6mである。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ０００９（図版12・写真図版11）

検出状況　調査区南半に位置している。

形態・規模　南北4間×東西2間である。柱穴は円形である。東・西辺の中央の柱穴は直径40～30㎝と小さめの円形であるが、他は60㎝程度の円形もしくは一部が直線的で角のある形である。床面積は24.57㎡、主軸はN100°Wを測る。柱間距離は南北方向で1.7～2.2m、東西方向は1.3～1.8mである。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００３９（図版12・写真図版38）

検出状況　調査区南東壁沿いで西角のみを検出した。南あわじ市の調査によって東角を確認している。

形態・規模　南北4間×東西2間（7.7×4.1m）である。柱穴は正方形に近い隅丸方形および直径50㎝の円形である。床面積は30.75㎡、主軸はN20°Wを測る。柱間距離は1.8～1.9mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００１０（図版13・写真図版12）

検出状況　調査区南半西壁沿いに位置し、西辺は南あわじ市の調査で確認されている。

形態・規模　南北2間×東西3間以上（3.6×5.9m）である。柱穴は隅丸方形及び円形である。一辺は60㎝程度である。床面積は21.24㎡、主軸はN60°Wを測る。柱間距離1.6～2.0mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　柱穴P439から奈良時代の須恵器壺底部（206）が出土している。

ＳＢ００２４（図版13・写真図版6）

検出状況　調査区北半東壁沿いに位置し、調査区外に広がっており、南東角は未検出である。

形態・規模　南北2間×東西2間（3.3×4.9m）以上である。柱穴は直径60㎝程度の円形である。床

面積は16.17㎡、主軸はN105°Wを測る。柱間距離は南北方向1.4ないし1.9m、東西方向2.3ないし2.6mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝弱である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００１６（図版14・写真図版38）

検出状況　調査区中ほどの西壁沿いに位置する。北西角の柱穴は側溝で失われている。南東の角を欠く。SB0036～SB0038と重なっており、SD0002とも重なっている。

形態・規模　南北2間×東西4間（4.8×9.1m）の総柱建物である。柱穴は直径20～40㎝の円形である。主軸はN6°Eを測る。柱間距離は2.2～2.4mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００３２（図版14・写真図版6・38）

検出状況　調査区中程に位置し、南東の角を欠く。SB0031と重なっている。

形態・規模　南北2間以上×東西5間（4.4×10.8m）の総柱建物である。柱穴は直径20～70㎝の円形で、小型のものが多い。主軸はN11°Eを測る。柱間距離は2.2～2.3mと概ね揃っているが、東端の1間のみ1.8mと狭い。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　柱穴P128から奈良時代の須恵器壺？（210）が出土した。

ＳＢ００２０（図版15・写真図版7）

検出状況　調査区北端に位置する。北辺、東辺は調査区外にある。

形態・規模　南北2間×東西3間以上（2.3×3.5m）である。柱穴は径20×30㎝の円形である。主軸はN4°Wを測る。柱間距離は東西1.7～1.8m、南北は0.9～1.4m。柱穴の深さは検出面から最大25㎝。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００２２（図版15・写真図版6）

検出状況　調査区北端東壁近くに位置する。北辺、東辺角は調査区外に位置する。SH0001と重なる。

形態・規模　南北2間×東西2間以上（3.5×4.1m）のおそらく総柱建物である。柱穴は径20～30㎝の円形である。主軸はN6°E。柱間距離は1.5～2.5mとばらつく。柱穴の深さは検出面から最大25㎝。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００２１（図版16・写真図版7）

検出状況　調査区北端近くに位置する。SB0020に隣接する。建物の南東角は調査区外に所在する。

形態・規模　南北3間×東西2間（6.6×4.3m）で、北辺から1間のみ総柱である。柱穴の多くは径20～30㎝の円形であるが、P747は長径50㎝と大型の楕円形である。推定される全体の床面積は28.38㎡、主軸はN77°Wを測る。柱間距離は1.8～2.5mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００２７（図版16・写真図版6）

検出状況　調査区中央東壁近くに位置する。SB0028と重なっている。南あわじ市の調査で続きを確認。

形態・規模　南北2間×東西2間（4.1×3.7m）の東に1間分の追加がある。柱穴は径40～50㎝の円形である。主軸はN2°Wを測る。推定される全体の床面積は22.96㎡、柱間距離は1.8～2.2mである。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４７（図版16・写真図版7）

検出状況　調査区南端近くに位置する。SB0048・0043と一部重なっている。

形態・規模　南北4間×東西1間（8×3.3m）である。柱穴は径45㎝程度のやや大きめの円形である。床面積は26.4㎡、主軸はN55°Wを測る。柱間距離は南北方向で0.8～3.1mとばらつきがある。東西は3～3.3mである。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　柱穴P870からおそらく古代の平瓦を利用した面戸瓦（230）が出土している。

ＳＢ００２３（図版17・写真図版9）

検出状況　調査区北端近くの東に位置する。南東角は調査区外である。SB0001と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西3間（4×7.2m）の側柱の内側に南北2間×東西2間（2.1×4.4m）の側柱建物を配した二重構造の建物である。柱穴は外側では径30～40㎝の円形ないし隅丸方形、内側では径15㎝程度の円形である。いくつかの柱穴は内に石が置かれている。床面積は28.8㎡、主軸はN15°Wを測る。柱穴の深さは外側で検出面から最大30㎝程度であるが、内側の建物には50㎝と深いものもある。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００２５（図版17・写真図版6）

検出状況　調査区東壁よりに位置する。SB0004と重なっている。建物の東辺は調査区外に所在する。

形態・規模　南北2間×東西4間（4.0×8.0m）以上のおそらく総柱となる建物である。柱穴は直径20㎝程度の小型の円形である。推定される床面積は32㎡、主軸はN11°Wを測る。柱間距離は1.9～2.2mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００２８（図版18・写真図版6）

検出状況　調査区中央東壁近くに位置する。南東角は調査区外に位置する。SB0027と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西2間（5×4m）である。柱穴は径20～30㎝の円形である。推定される全体の床面積は20㎡、主軸はN13.5°Eを測る。柱間距離は東西2m、南北は2.5mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４６（図版18・写真図版7）

検出状況　調査区南端近くに位置する。SB0045と重なっている。

形態・規模　南北3間×東西2間（5.3×3.6m）の側柱建物であるが、南側の1間には中央に柱がある。柱穴は径20～30㎝の円形である。床面積は19.08㎡、主軸はN2°Eを測る。柱間距離は1.7～1.9mと比較的揃っている。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００２９（図版19・写真図版13）

検出状況　調査区中央近くに位置する。SB0030と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西4間（4.5×8.9m）に1間×1間（2.3×1m）の張り出し部を足した形状である。柱穴は直径30㎝程度の円形である。張り出し部分を除く床面積は40.05㎡、主軸はN10°Wを測る。柱間距離は2.0～2.6mで、ばらつきがある。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００３０（図版19・写真図版13）

検出状況　調査区中央近くに位置する。SB0029と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西5間（4.2×8.8m）の総柱建物である。柱穴は直径20㎝小型の円形が多いが、中には長径50㎝の楕円形もある。床面積は36.96㎡、主軸はN11°Wを測る。柱間距離は概ね1.9～2.3mであるが、西端は1.2m、東端から2間目は1.5mと狭い。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度。

出土遺物　柱穴P111から中世の土師器小皿（212）が出土している。

ＳＢ００３１（図版20・写真図版6・13）

検出状況　調査区中央近くに位置する。SB0032～0034と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西7間（4.6×8.1m）である。西側に1間分（1.7m）の拡張がある。柱穴は径20～30㎝の円形である。拡張部分を除く床面積は37.26㎡、主軸はN13°Eを測る。柱間距離は柱数の多い北辺では0.6～2.0mとばらつき幅が大きく、南北方向は2.1～2.5mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　柱穴P1084から詳細な時期不明の須恵器杯底部（208）が出土している。

ＳＢ００３３（図版20・写真図版6・13）

検出状況　調査区中央東壁付近に位置し、東半は南あわじ市の調査区に続く。SB0031・32・34と重なる。

形態・規模　南北2間×東西3ないし4間（4.3×7.9m）の側柱建物である。柱穴は直径30㎝程度の円形である。中に石が置かれているものもある。推定される全体の床面積は33.97㎡、主軸はN15°Eを測る。柱間距離は1.3～2.6mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００３４（図版21・写真図版6）

検出状況　調査区東壁沿いに位置し、北西角のみ検出し、南あわじ市の調査でその続きを確認した。

形態・規模　南北3間×東西3間（6.6×7.9m）の総柱建物である。柱穴は直径30㎝程度の円形である。床面積は32.34㎡、主軸はN12.5°Wを測る。柱間距離は2.1～2.7mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４２（図版21・写真図版7）

検出状況　調査区南西壁沿いに位置し、南東角のみ検出し、南あわじ市の調査でその続きを確認した。

形態・規模　南北2間×東西3間（5.9×7.6m）の総柱建物である。柱穴は直径40㎝の小型の円形である。主軸はN2°Eを測る。柱間距離は東西1.3～1.9m、南北は3mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　柱穴P376から中世の瓦器椀（224）が出土した。

ＳＢ００３６（図版22・写真図版38）

検出状況　調査区中央西壁沿いで検出し、調査区外に広がっている。SB0037・SB0038と重なっている。

形態・規模　南北5間×東西5間（11.3×10.4m）の総柱建物である。柱穴は直径60㎝のやや大型の円形である。中には直径20㎝程度の小型の柱穴もある。主軸はN4°Eを測る。柱間距離は1.7～2.3mである。柱穴の深さは検出面から最大45㎝程度である。

出土遺物　柱穴P668から土師器小皿（217・218）土師器杯（220）、柱穴P466から黒色土器椀（222）が出土している。

時　　期　古代末から中世か。

ＳＢ００３７（図版23・写真図版38）

検出状況　調査区中央西壁沿いで検出し、調査区外に広がり、南あわじ市の調査で一部確認した。

形態・規模　南北5間×東西5間（11.1×11.2m）の総柱建物である。北にあと1間以上伸びる可能性がある。柱穴は70㎝の大型の円形が多いが、中には直径20㎝程度の小型の柱穴もある。主軸はN2°Eを測る。柱間距離は1.9～2.6mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００３８（図版24・写真図版38）

検出状況　調査区中ほどの西壁沿いに位置する。北西角は調査区外になり、付近の柱穴は検出されていない。SB0016・36・37と重なっており、SD0002とも重なっている。

形態・規模　南北3間×東西2間（6.7×3.9m）の総柱建物である。柱穴は径20～50㎝の円形で、小型のものが多い。床面積は226.13㎡、主軸はN4°Eを測る。柱間距離は1.7～2.6mで、南北方向の柱間の方が広めである。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４３（図版24・写真図版7）

検出状況　調査区南端近くに位置する。SB0041と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西3間（6.2×3.6m）の総柱建物である。柱穴は直径60㎝程度の円形・隅丸方形が多いが、径30㎝の小型の柱ものもある。床面積は22.32㎡、主軸はN70°Eを測る。柱間距離は東西は1.7～1.9m、南北は1.9～2.2mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　柱穴P371から中世の土師器小皿（216）が出土している。

ＳＢ００４０（図版25・写真図版38）

検出状況　調査区南半に位置し、SH0010・方形周溝墓３・SB0009と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西3間以上（3.2×4.5m）である。柱穴は直径40～60㎝の円形である。床面積は14.4㎡、主軸はN114°Wを測る。柱間距離は1.3～1.6m。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４４（図版25・写真図版7）

検出状況　調査区南東壁近くに位置している。

形態・規模　南北2間×東西2間（3×3.7m）である。南辺の柱穴は正方形に近い隅丸方形（80×95㎝）である。北辺の柱穴は直径30㎝と小型で円形に近い。東・西両辺の中央の柱穴は南よりに位置している。床面積は11.1㎡、主軸はN94°E。柱間距離は1.1～1.9m。柱穴の深さは検出面から最大40㎝弱である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４１（図版26・写真図版7）

検出状況　調査区南端近くに位置する。北西角は側溝で失われている。SB0043と重なっている。

形態・規模　南北3間×東西3間（5.9×6.5m）である。柱穴は径20～30㎝の小型の円形が多いが、中には柱穴P336のように長径60㎝の不定形のものもある。推定される全体の床面積は38.35㎡、主軸はN21°Wを測る。柱間距離は1.9～2.3mと比較的揃っている。柱穴の深さは検出面から30㎝程度である。

出土遺物　柱穴P336からは中世の土師器小皿（211）が出土している。

ＳＢ００４８（図版26・写真図版7）

検出状況　調査区南端近くに位置する。SB0047と一部重なっている。東角の柱穴は検出できなかった。

形態・規模　南北2間×東西3間（4.6×5.8m）の側柱建物である。柱穴は径20～30㎝の円形である。推定される全体の床面積は26.68㎡、主軸はN40.5°Eを測る。柱間距離は概ね2～2.3mであるが、西端の1間は1.5mと狭い。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４５（図版27・写真図版7）

検出状況　調査区南端近くに位置する。SB0046と重なっている。

形態・規模　南北3間×東西2間（6.3×3.7m）の総柱建物である。柱穴は径30～40㎝の円形であ

る。床面積は23.31㎡、主軸はN2.5°Eを測る。柱間距離は概ね1.8～1.9mと揃っているが、南北方向の中央の柱間のみ2.7mと広い。柱穴の深さは検出面から最大60㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ００４９（図版27・写真図版7）

検出状況　調査区南東端の壁沿いに位置する。住居跡SH0012と重なっている。

形態・規模　南北2間×東西3間（3.7×4.4m）の総柱建物である。柱穴の多くは径20㎝の小型の円形であるが径50㎝の柱穴もある。床面積は16.28㎡、主軸はN67°Wを測る。柱間距離は南北は1.8～1.9m、東西は1.3～1.6mと狭い。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

2　竪穴住居跡

ＳＨ０００２（図版29・写真図版14・15）

検出状況　調査区の中程に位置し、旧河道に北西部を切られている。

形態・規模　住居跡の平面形は円形で、周壁溝の3/4を検出している、直径およそ3.8mである。検出面からの深さは20㎝である。主軸はN48.5°Eを測る。主柱穴は不明である。中央土坑は三角形に近い楕円形で長径0.54m、短軸0.48mで弥生土器が出土している。また、北部には焼土と炭が1.5m×0.8mの範囲で広がっており、その中には土器も含まれている。

出土遺物　中央土坑内より（62）のミニチュア土器が出土している。他に、弥生土器壺（25）、鉢（26・27）、脚台付の鉢（28）、（59～61）の底部がある。

時　　期　出土遺物から判断してこの地区唯一の弥生時代の住居跡である。

ＳＨ０００１（図版30・写真図版16）

検出状況　調査区の北端近くに位置する。奈良時代の溝SD0001により切られ、半分が失われている。

形態・規模　住居跡の平面形は方形で、北壁から西壁にかけて周壁溝を検出している、東辺の長さは4.9m、東西の残存長は3.7m。検出面からの深さは18㎝である。主軸はN36°Wを測る。主柱穴のうち2本を検出している。西辺の中央付近に土坑があり、中にほぼ完形の甕が口縁部を上にして置かれていた。

出土遺物　土坑内より土師器甕（56）が出土し、他に手づくね土器（57・58）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ０００３（図版31・写真図版17・18）

検出状況　調査区の中程よりやや南に位置し、完存する。

形態・規模　住居跡の平面形は長方形で、ほぼ全体に二重に周壁溝を検出しており、建て替えが行われたものと思われる。北東辺の長さは4.6m、北西辺の長さは5.05m、検出面からの深さは3㎝である。床面積は23.23㎡、主軸はN53°Eを測る。主柱穴は4本で、直径は25～30㎝、床面からの深さは55㎝である。北西辺沿いの中央よりやや北の位置に1.25×0.65mの隅丸長方形土坑があり、南東辺のほぼ向いの位置にやや小ぶりの土坑がある。その中にほぼ完形の壺が口縁部を上にして置かれていた。ま

た、その土坑の南には内側の周壁溝から中央に向かって分岐した溝がみられた。他に西角・南角も掘りくぼめられている。床面中央付近に小規模な焼土痕が確認された。

出土遺物　土坑内より土師器壺（63）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ０００４（図版32・写真図版19）

検出状況　調査区の中程よりやや南に位置する。SD0002が全体を貫通して流れている。

形態・規模　住居跡の平面は方形で、南壁の一部を欠く以外は周壁溝を検出している。北辺の長さは4.25m、西辺の長さは4.3m、検出面からの深さは9㎝である。床面積は18.275㎡、主軸はN56°Eを測る。主柱穴は4本である。南東角では周壁溝から分岐した区画溝で1.15×1.9mの長方形に囲まれている。

出土遺物　西壁沿いで、土師器高杯杯部（64）が口縁部を下に伏せた状態で出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ０００５（図版33・写真図版20）

検出状況　調査区の中程よりやや南に位置する。SD0002に切られ、西角付近が失われている。

形態・規模　住居跡の平面は方形で、北壁の一部のみ周壁溝を検出している。南北の長さは3.4m、東西の長さは3.25m、検出面からの深さは8㎝である。主軸はN48.5°Wを測る。主柱穴は不明である。中央部に焼土が見られ、石や土器が散在している。

出土遺物　土師器壺（65）、小型丸底壺（66）、手づくね土器（67）、高杯（68）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ０００６（図版34・写真図版21・22）

検出状況　調査区の中程よりやや南、東壁沿いに位置し、調査区外にも広がっている。

形態・規模　住居跡の平面は方形で、検出箇所は全て周壁溝を検出している。南北の長さは4.45m、東西の残存長は2.9m、検出面からの深さは12㎝である。主軸はN57.5°Eを測る。主柱穴は2本検出しており、いずれも長径28ないし35㎝の楕円形を呈している。4本か。

出土遺物　土師器壺（69）、鉢（70）、平底の壺（71）、手づくね土器（72）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ０００７（図版35・写真図版23）

検出状況　調査区の中程に位置している。中世墓SX0002や掘立柱建物に切られている。

形態・規模　住居跡の平面は長方形で、北角を除き、周壁溝を検出している。南北の長さは3.1m、東西の長さは3.55m、検出面からの深さは7㎝である。床面積は11.005㎡、主軸はN33°Wを測る。主柱穴のうち3本は明らかである。南壁西よりに大きめの土坑がある。長径70㎝、深さ35㎝。断面はV字状を呈する。また東壁中央にP203がある。直径40㎝。床の北西よりに焼土が見られた。

出土遺物　P203から土師器（81）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ０００８（図版36・写真図版24・25）

検出状況　調査区の中程、SH0007の南に位置している。

形態・規模　住居跡の平面は長方形で、周壁溝はほぼ全周している。南北の長さは4.35m、東西の長さは3.8m、検出面からの深さは7㎝である。床面積は16.53㎡、主軸はN25.5°Ｗを測る。西辺の南角から1.2mのところから60㎝、東辺の北角から1.3mの当たりに1.1mほどの間仕切り？溝が掘られている。主柱穴は4本である。北辺の周壁溝は両端と中央に直径10～15㎝の円形の柱穴がある。西側と南東隅の2箇所に焼土痕がみられた。

出土遺物　北壁付近より、須恵器樽形はそう（73）がほぼ完形で床面に転がって出土している。他に土師器壺胴部（74）、高杯脚部（75）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ０００９（図版37・写真図版26）

検出状況　調査区の南に位置している。南北方向に走る溝に切られている。

形態・規模　住居跡の平面は長方形で、周壁溝は全周する。南北の長さは3.0m、東西の長さは3.7m、検出面からの深さは8㎝。床面積は11.1㎡、主軸はN81°W。直径は23㎝程度の2本の主柱穴を検出。

出土遺物　土師器高杯（76）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ００１０（図版38・写真図版27）

検出状況　調査区の南に位置している。SH0009の南に位置し、南北方向に走る暗渠で切られている。

形態・規模　住居跡の平面はややいびつな方形で、周壁溝はおおむね全周している。南北の長さは4.6m、東西の長さは4.55m、検出面からの深さは15㎝である。床面積は20.93㎡、主軸はN88.5°Ｅを測る。主柱穴は4本である。中央には焼土痕が確認された。

出土遺物　土師器甕（77）、椀？（78）、高杯（79・80）が出土している。北周壁溝から小型丸底壺が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＨ００１１（図版39・写真図版28）

検出状況　調査区の南、SH0010の南、西壁沿いに位置している。調査区外にも広がっている。

形態・規模　住居跡の平面はおそらく長方形で、周壁溝はおおむね全周している。南北の残存長は4.1m、東西の長さは3.55m、検出面からの深さは6㎝である。主軸はN27°Ｗを測る。主柱穴は4本である。床面に焼土が点在する。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＨ００１２（図版40・41・写真図版29・30）

検出状況　調査区の南端、東壁沿いに位置している。調査区外にも広がっており、全容は不明である。西角はSD0017に切られている。

形態・規模　住居跡の平面はおそらく方形で、周壁溝は検出されなかった。南北の長さは5.2m、東西

残存長は4.9m、検出面からの深さは30㎝である。主軸はN38.5°Eを測る。主柱穴は4本である。内部にベッド状遺構を持つ。

出土遺物　埋土中から大量の土器が出土し、コンテナ40箱以上に及ぶ。そのうち土師器（89～177）を図化している。小型丸底壺を中心に、甕・高杯など完形のものも多く、意図的に投棄したものと思われる。小片のため図化しなかったが、古い要素を持つ須恵器の甕等の破片も出土している。他に管玉1・臼玉3、台石（S174・S187）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断し古墳時代中期である。

ＳＨ００１３（図版39・写真図版31）

検出状況　調査区の南、SH0012の北西に位置している。

形態・規模　住居跡の平面は不整な方形を呈している。東角は75°と鋭角である。周壁溝は無い。南北の残存長は3.1m、東西の長さは2.7m、検出面からの深さは25㎝である。断面は皿状を呈する。主軸はN28.5°Wを測る。主柱穴は不明である。SK0004・0005が内在する。住居跡か否かは不明である。

出土遺物　土師器壺（82・83）、高杯杯部（84）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断し古墳時代中期である。

ＳＨ００１５（図版42・写真図版32）

検出状況　調査区の中程に位置している。SX0001、SB0005などと重なって検出された。

形態・規模　住居跡の平面は台形を呈している。東角は75°と鋭角である。周壁溝は断続的に巡る。西辺では一部二重になっている。南北の長さは5.1m、南辺は推定5.15m、北辺は4.2m。検出面からの周壁溝の深さは3㎝で、住居跡の壁の立ち上がりは残っていない。断面は皿状を呈する。主軸はN3.5°Wを測る。主柱穴は不明である。床面に炭が散在している。建て替えが行われ、南東側の床面に焼土痕が確認された。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

3　土坑

ＳＫ０００２（図版43・写真図版33）

検出状況　調査区中程南寄りに位置する。

形態・規模　東西1.65m、南北1.4m、深さ25㎝。断面は皿状で埋土は3層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ０００３（図版43・写真図版33）

検出状況　調査区南端付近の東壁に位置し、調査区外に広がっている。

形態・規模　長軸3.8m以上、短軸2.35m、深さ25㎝。全体の形状は楕円形。断面は皿状である。

出土遺物　土師器鍋（231）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＫ０００４（図版43・写真図版33）

検出状況　調査区南端付近に位置する。

形態・規模　長径1.1m、短径1.0m、深さ1.45m。全体の形状はいびつな円形。断面はU字状である。井戸はSH0013の北隅に切り合って検出された。井戸の底には小型丸底壺３個を据えていた。

出土遺物　土師器小型丸底壺（198～200）、高杯（201～203）、凹み石（S170）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期である。

ＳＫ０００５（図版43・写真図版33）

検出状況　調査区南端に位置する。

形態・規模　長径0.8m、短径0.7m、深さ８㎝。全体の形状はほぼ円形。断面は皿状である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

4　不明遺構・木棺墓

ＳＸ０００１（図版44・写真図版34）

検出状況　調査区中央付近に位置する。SB0004と重なっている。

形態・規模　長軸3.8m、短軸3.25mの浅く掘りくぼめられた中に集石がみられる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＸ０００２（図版45・写真図版35）

検出状況　調査区の中程に位置する。

形態・規模　長軸1.8m、短軸0.74mの掘方内に1.48×0.5mの棺を納めている。残存する深さは８㎝と浅い。主軸はN15°Eを測る。

出土遺物　棺痕跡の北西隅に土師器皿（232）が置かれていた。

時　　期　出土遺物から判断して中世である。

ＳＸ０００３（図版45・写真図版36）

検出状況　調査区の中程南寄りに位置する。

形態・規模　長軸1.74m、短軸0.88mの掘方内に1.48×0.5mの棺を納める。残存する深さは11㎝。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＸ０００４（図版45・写真図版37）

検出状況　調査区の中程南寄りに位置する。

形態・規模　長軸1.48m、短軸0.58mの掘方内に1.34×0.47mの棺を納めている。残存する深さは８㎝と浅い。主軸はN47°Eを測る。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＸ０００５（図版45・写真図版37）

検出状況　調査区の中程南寄りに位置する。

形態・規模　長軸1.52m、短軸0.66mの掘方内に1.35×0.56mの棺を納めている。残存する深さは９

㎝と浅い。主軸はN57.5°Eを測る。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＸ０００６（図版45・写真図版37）

検出状況　調査区の中程南寄りに位置する。

形態・規模　長軸1.4m、短軸0.72mの掘方内に1.25×0.59mの棺を納めている。残存する深さは9㎝と浅い。主軸はN2.5°Eを測る。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

5　方形周溝墓

方形周溝墓1（図版46・47・写真図版39・40）

検出状況　調査区中央付近西壁沿いで検出した。南あわじ市の調査で続きを検出している。

形態・規模　周溝本調査区では、南溝SD0003、東溝SD0005を検出している。SD0003は検出長6m、幅2.5mを測る。検出面からの深さは26㎝。断面は浅いU字状である。溝の端に近い南肩から、弥生土器甕の口縁部～肩部の破片が出土している。SD0005は長さ3.5m、幅1.4mで、検出面からの深さは34㎝。断面はやや深い逆台形である。長頸壺、甕など多くの弥生土器が比較的原型を保った状態で溝中央部および肩部から出土している。

出土遺物　SD0003から弥生土器甕（41）、SD0005から弥生土器（37～40・42・43）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して弥生時代中期後半である。

方形周溝墓2（図版48・写真図版41）

検出状況　調査区中央付近西壁沿い、方形周溝墓1の南西、方形周溝墓4の西で検出した。南あわじ市の調査で続きを検出している。

形態・規模　周溝は四隅で切れるタイプで、本調査区では南溝SD0008、東溝SD0007を検出している。SD0007は検出長2.5m、幅0.75mを測る。検出面からの深さは15㎝。断面は浅いU字状である。弥生土器の直口壺（44）が出土している。SD0008は全長4.6m、幅1.4mを測る。検出面からの深さは32㎝。断面はやや深いU字状。溝の中央部から弥生土器鉢（45）が出土している。

出土遺物　弥生土器（44・45）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して弥生時代中期後半である。

方形周溝墓3（図版49・50・写真図版42・43）

検出状況　調査区中央付近西壁沿い、方形周溝墓2よりやや南で検出した。

形態・規模　周溝は四隅で切れるタイプで、本調査区では、南あわじ市の調査で検出された北西溝以外の3方向の溝を検出している。

北東の溝SD0014は全長4.3m、幅2.7mを測る。検出面からの深さは45㎝。断面は逆台形で、底面は平底である。南東の溝SD0015は全長6.7m、幅2.2mを測る。検出面からの深さは52㎝。断面は緩いV字状である。溝の北半の底部で何点かまとまって土器片が出土している。

出土遺物　弥生土器壺（46～48）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して弥生時代中期後半である。

方形周溝墓4（図版51・写真図版44）

検出状況　調査区中央付近、周溝墓1の南、周溝墓2の東で検出した。

形態・規模　周溝は四隅で切れるタイプで北溝SD0004、西溝SD0006、東溝SD0013を検出したが、南の溝は見つからなかった。

SD0004は全長2.1m、幅0.75mを測る。検出面からの深さは30㎝。断面は浅い皿状である。SD0006は全長3.2m、幅0.85mを測る。検出面からの深さは50㎝。断面は浅いU字状である。SD0013は全長1.85m、幅0.48mを測る。検出面からの深さは15㎝。

出土遺物　弥生土器高杯（49）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して弥生時代中期後半である。

方形周溝墓7（図版51・写真図版44・45）

検出状況　調査区中央付近で検出した。周溝墓4の南東に位置している。

形態・規模　周溝は北溝SD0012、南溝SK0001のみ検出しており、西および東は不明である。

SD0012は全長2.5m、幅1.25mを測る。検出面からの深さは55㎝。断面はやや深いU字状である。調査時土坑SK0001と認識していた南溝の東端を確認することができなかった。検出長3.6m、幅1.7mを測る。検出面からの深さは13㎝。断面はごく浅い皿状で平底である。

出土遺物　弥生土器壺（50）、SD0012から土師器の小型の壺もしくは甕（195）が出土している。

時　　期　壺（50）から判断して弥生時代中期後半である。

6　溝

ＳＤ０００１（図版52・写真図版7）

検出状況　調査区北部で検出した。旧河道から分岐して北西から南東方向に向かって調査区外に流れる。

形態・規模　全長9m、幅1.7mを測る。検出面からの深さは55㎝。断面は逆台形状を呈し、5層に分けられる。底面はほぼ水平である。

出土遺物　製塩土器（233）、須恵器壺底部（234）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して奈良時代である。

ＳＤ０００２（図版52・写真図版46）

検出状況　調査区中程を横断する形で検出した。北西から南東方向に流れている。

形態・規模　全長17m、幅1.25～1.35mを測る。検出面からの深さは25～30㎝。断面は逆台形状を呈し、2ないし3層に分けられる。底面はほぼ水平である。

出土遺物　須恵器杯類（178～184）、壺（185・186）、土師器椀（187）、甕（188～191）、高杯（192～194）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して古墳時代中期から奈良時代と時期幅がある。

ＳＤ０００９（図版52・写真図版38）

検出状況　調査区中ほど、北西から南東方向に向かって流れる溝である。

形態・規模　全長2m、幅0.5mを測る。検出面からの深さは20㎝。断面は浅い皿状で２層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ００１０（図版52・写真図版38）

検出状況　調査区中程、SD0009の南に位置する。

形態・規模　北西から南東方向に0.7m、そこから分岐して北東から南西方向に0.7m流れるＹ字状の溝である。検出面からの深さは25㎝。断面は浅いＵ字状を呈し３層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ００１８（図版53・写真図版47）

検出状況　調査区中程、SH0003の南東に位置する。

形態・規模　全長2.5m、幅1m。検出面から深さ14～17㎝。断面は浅いＵ字状を呈し２層に分かれる。

出土遺物　底面から弥生土器の長頸壺が口を横に置かれた状態で出土しているが、細片のため接合できず、図化しなかった。出土遺物から判断して弥生時代中期後半である。

ＳＤ００１９（図版53・写真図版48）

検出状況　調査区中程、SD0002の中程西で検出した。

形態・規模　全長2.35m、幅0.65mを測る。検出面からの深さは14㎝。断面は浅いＵ字状を呈し３層に分かれる。底面に土器と10㎝程度の石が置かれていた。

出土遺物　弥生土器の壺（52）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して弥生時代である。

ＳＤ００２０（図版54・写真図版48）

検出状況　調査区南部西壁沿いで検出した。

形態・規模　全長5.4m、幅1.35～2.45mを測る。検出面からの深さは10～27㎝。断面は浅い皿状。

出土遺物　弥生土器壺（53・54）、土師器高杯（196・197）が出土しており、弥生時代後期初頭ないし古墳時代中期のものが混在している。

ＳＤ００２１（図版54・写真図版48）

検出状況　調査区南部西壁沿いで検出した。SD0020を切っている。

形態・規模　全長1.2m、幅0.6mを測る。検出面からの深さは15㎝。断面は浅いＵ字状。

出土遺物　弥生土器台付鉢（55）が出土している。

時　　期　出土遺物から判断して弥生時代中期後半である。

ＳＤ００２２（図版54・写真図版48）

検出状況　調査区南端付近で検出した。北から南に向けて流れ、調査区外にも続いている。

形態・規模　全長11.8m、幅0.45～1.1mを測る。検出面からの深さは10～20㎝。断面は浅い皿状。
出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ００２３（図版54・写真図版7）
検出状況　調査区南端付近で検出した。調査区外北から南に向けて流れ、調査区外まで続いている。SD0022とほぼ平行である。
形態・規模　全長10.3m、幅0.45mを測る。検出面からの深さは5㎝。断面は浅い皿状。
出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ００２４（図版54・写真図版48）
検出状況　調査区南端付近で検出した。調査区外北から南に向けて流れ、調査区中程で途切れている。
形態・規模　全長5.8m、幅0.45mを測る。検出面からの深さは5㎝。断面は浅い皿状。
出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ００２５（図版54・写真図版48）
検出状況　調査区南端付近で検出した。調査区外北西方向から南東方向に流れ、SD0026とほぼ平行。
形態・規模　全長4.6m、幅0.6mを測る。検出面からの深さは13㎝。断面は浅い逆台形である。
出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ００２６（図版54・写真図版48）
検出状況　調査区南端付近で検出した。調査区外北西方向から南東方向にSD0025と平行して流れている。
形態・規模　全長4.6m、幅0.4～1.2mを測る。検出面からの深さは13㎝。断面は浅い逆台形である。
出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

第5節　D地区の調査

奈良時代から中世にかけての掘立柱建物跡（SB）5棟、弥生時代の竪穴住居跡（SH）21棟（軒）、土坑（SK）54基、性格は不明ながら大規模な土坑（SX）12基、溝（SD）3条、柱穴のほか、調査区南端においてE・F地区に続く水田を検出した。水田に関してはE・F地区で触れる。

1　掘立柱建物跡

SB1001（図版58・写真図版52）

検出状況　調査区南端東壁に位置し、北西角のみ検出している。

形態・規模　検出できたのは南北2間×東西2間（3.24×1.68m）である。柱穴は径25～35㎝程度の円形である。主軸はN17°Eを測る。柱間距離は1.6～1.7m。柱穴の深さは検出面から最大60㎝程度。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

SB1002（図版58・写真図版52）

検出状況　調査区南端東壁に位置し、南西角のみ検出している。

形態・規模　検出できたのは南北2間×東西1間（2.64×1.68m）である。柱穴は径25～30㎝程度の円形である。主軸はN64°Eを測る。柱間距離は1.3～1.7m。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

SB1004（図版58・写真図版51）

検出状況　調査区北端東壁付近に位置し、北東角のみ調査区外であった。

形態・規模　南北3間×東西2間（5.9×3.44m）である。柱穴は径65～80㎝程度の円形および楕円形である。主軸はN5°Eを測る。床面積は20.3㎡、柱間距離は南北1.9～2.05m、東西1.7mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。P1040など3箇所で柱材が残っていた。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

SB1003（図版59・写真図版49）

検出状況　調査区中程に位置している。

形態・規模　南北1間×東西4間（2.36×5.84m）である。柱穴は径15～30㎝の円形である。床面積は13.78㎡、主軸はN65°Eを測る。東西の柱間距離は1.15～1.96mとばらつく。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

SB1005（図版59・写真図版52）

検出状況　調査区北寄り東壁付近に位置し、南東角は調査区外である。

形態・規模　南北3間×東西3間（6.08×5.32m）の総柱建物である。柱穴は径20～30㎝の円形である。推定される全体の床面積は32.35㎡、主軸はN26°Eを測る。東西の柱間距離は1.5～2.8mとばらつきがある。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

2　竪穴住居跡

ＳＨ１００１（図版60・61・写真図版53～56）

検出状況　調査区中央部やや北東寄りに位置する。SH1022の上部とSX1011を切る。主柱穴及び中央土坑の切り合いの状況から少なくとも新旧2時期の変遷が考えられる。

ＳＨ１００１（新）

形態・規模　ほぼ正円形の平面形態をもつ。直径6.37m～6.42mを測り、床面は東側が高く西側に向かって傾斜し6㎝の差がある。床面の最も高い東側で周囲の検出面の最も高い箇所からの深さ18㎝を測る。埋土は概ね褐灰色を呈するシルト～細砂で床面付近は地山ブロックを含む。

主 柱 穴　6本を数える。柱の掘方は直径32～59㎝、検出面からの深さは主柱穴3が37㎝と比較的浅めであるほかは51～64㎝と深く掘られている。柱痕は主柱穴2が直径28㎝を測るほかは直径20～23㎝とほぼ揃っている。

中央土坑　平面形は楕円形を呈し、長径86㎝、幅70㎝、床面からの深さ71㎝を測る。埋土は下層に炭を含む黒褐色のシルト層が厚さ19㎝ほど認められるほかは概ね褐色のシルトから極細砂で構成される。土坑掘方の周囲のうち南東側に周堤状の盛り上がりが半周し、幅19～25㎝、厚さ2㎝を測る。

周 壁 溝　ほぼ全周するが南東部の一箇所で途切れる。幅14～25㎝、床面からの深さ2～6㎝を測る。

ＳＨ１００１（古）

形態・規模　周壁溝の検出が一部にとどまるため、規模は不明である。4本主柱穴であることとその中間付近に存在する旧中央土坑や周壁溝の位置関係から考慮すれば、直径5.9mほどの規模に復元可能である。屋内施設はSH1001新床面レベルにおいて検出しており、周壁溝の深さが浅いことから本来より高位に床面が存在していたのがSH1001新床面の掘削により損なわれている可能性が考えられる。

主 柱 穴　4本を数え、中央土坑の両脇の2本がこれに加わる可能性がある。柱の掘方は直径26～41㎝で柱痕が残った例では直径15㎝、検出面（SH1001（新）床面）からの深さは主柱穴3の最も古いものが71㎝とずば抜けて古く、他は30～31㎝である。

中央土坑　平面形は楕円形を呈し、長径1.02m、幅66㎝、検出面（SH1001（新）床面）からの深さ56㎝を測る。埋土は最下層に炭を多く含む黒褐色のシルト層が厚さ8㎝ほど認められるほかは概ね黄灰色のシルトから極細砂で構成される。

周 壁 溝　北西側の長さ2.73mにわたって検出され、北側はSH1001新周壁溝に切られている。幅6～13㎝、検出面（SH1001（新）床面）からの深さ1～4㎝を測る。

出土遺物　新規住居埋土及び新旧中央土坑埋土より弥生土器（268～282）、石鏃（S46）、石包丁（S126）、凹み石（S155）、が出土し、主柱穴1から台石（S175）が出土している。床面付近の埋土を水洗選別したところサヌカイト製石器3、剥片、チップが多量に見つかった。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期末から中期初頭にかけてと考えられる。

ＳＨ１００２～ＳＨ１００４（図版62・63・写真図版57・58）

検出状況　調査区中央部やや東部に位置する。SH1002～SH1004の3棟が重複しており、切り合い関係より古い方からSH1002→SH1003→SH1004の順の変遷が考えられる。SD1002を切る。SH1002

のみ西側の約3分の1の範囲が調査区外に及んでいるとみられる。3棟においてそれぞれ検出した床面はほぼ同一レベルであり、屋内施設がいずれの住居跡に伴うものであるかは切り合い関係や位置関係の状況から変遷案を提示しそれにもとづいて以下に各住居跡ごとの状況について報告する。

ＳＨ１００２

形態・規模　SH1003及びSH1004に切られるが平行して対峙する2辺の壁を検出し、2辺の間隔は3.59m程度を測る。南西のコーナーを直上から切り込む複数の柱穴の付近に求められ、また北西のコーナーを柱穴付近に求めた場合、調査区西壁側溝から幅2.47mの範囲を検出したことになる。検出範囲が一部にとどまるため、全体の規模は不明である。

柱　　穴　2本を数え、柱の掘方はP1で直径42㎝、P2で直径24㎝を測り、P2の床面からの深さは30㎝である。

屋内土坑　土坑Ａが中央やや北寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、西端をわずかに土坑Ｂに切られるが長径57㎝、幅40㎝、床面からの深さ38㎝を測る。埋土は最下層に炭を多く含む黒褐色のシルト層が厚さ9㎝ほど認められるほかは概ね黄灰色の粘質シルトで構成される。

ＳＨ１００３

形態・規模　大部分をSH1004に切られるが3つのコーナーが確認でき、隅円長方形状の平面形に復元される。検出範囲での最大長3.57m、最大幅2.99mを測り、復元されるプランの規模にほぼ近いものと推測される。なお、南西のコーナーをSH1004西壁付近において検出した柱穴付近に求められよう。

柱　　穴　4本を数え、南側の壁側に両コーナーを含む3本、北壁より少し離れて南壁の中間のものと対をなすように1本認められる。柱の掘方はP3で直径37㎝、P4～P6で直径22～29㎝を測り、柱痕の認められたP4～P6では直径11～13㎝を測る。

屋内土坑　土坑Ｂが南寄りに位置し、土坑Ａを切り土坑Ｃに切られる。長径70㎝、幅67㎝、床面からの深さ27㎝を測る。埋土は最下層に炭を多く含む黒色のシルトから細粒砂にかけてが厚さ7㎝ほど認められるほかは概ね黄灰色の粘質シルトで構成される。

出土遺物　打製石核（S97）が出土している。

ＳＨ１００４

形態・規模　SH1002・1003、SD1002を切り、長さ3.93m、幅3.56mの長方形に近いプランを呈するが南壁が長さ2.43mと短く台形状となる。周囲の検出面の最も高い箇所からの深さ28㎝を測る。

柱　　穴　4本を数える。柱の掘方ではP7、P10がそれぞれ直径32㎝、33㎝と大きめものと、P8、P9がそれぞれ直径24㎝、18㎝と小さめのものが土坑Ｃを挟むように対角線上に配される。P10の床面からの深さは24㎝である。柱痕が残った例ではP7、P10がそれぞれ直径14㎝、13㎝である。

屋内土坑　土坑Ｃが中央やや南東寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径91㎝、幅61㎝、床面からの深さ36㎝を測る。埋土は最下層に炭を多く含む黒褐色のシルト層が厚さ12㎝ほど認められるほかは概ね褐灰色の粘質シルト層で構成される。土坑Ｃの両脇には柱穴が内接して設けられている。直径はP11で30㎝、P12で26㎝、床面からの深さはP11で42㎝、P12で52㎝を測る。このほか土坑Ｃ及び床面付近の埋土を水洗選別したところ、多くの楔形石器や剥片、チップを検出している。

出土遺物　打製石鏃（S19・S36・S47・S48）、石錐（S54・S61）、楔形石器（S71）、凹み石（S159）が出土している。

南部竪穴住居跡群南東群：ＳＨ１００５～ＳＨ１００７・ＳＨ１０１７（図版64～71・写真図版59・60）

検出状況　調査区南部に位置する。少なくとも９条以上の円弧を描く溝が認められ、建替えも含めた切り合い関係をもつ住居跡が重複する。ここではSH1005～SH1007及びSH1017の４棟分を報告する。なお、切り合い関係から、SH1005→SH1007及びSH1017→SH1006（古）→SH1006（新）の変遷が考えられる。SH1007とSH1017の新旧の関係は不明だが、SH1006と同様の拡張とみた場合、SH1007→SH1017の順に変遷した可能性が指摘される。

出土遺物　打製石器（S2・S29・S33・S53）が出土している。

ＳＨ１００５

形態・規模　円形の平面形態をもち、全体の約４分の１を検出した。検出最大長は、東壁において検出した南西側の立ち上がりと調査区側溝際で検出した周壁溝北端との間で5.97mを測る。以下に示す主柱穴及び周壁溝の配置関係から直径約6.1mの規模に復元される。周囲の検出面の最も高い箇所からの床面の深さ５㎝を測る。

主 柱 穴　可能性のあるもの１本を識別する。柱の掘方は35㎝、床面からの深さは53㎝を測る。

周 壁 溝　北西側の３分の１程度を検出した。幅14～29㎝、遺構検出面からの深さ５㎝を測る。幅の広くなっている箇所では２本の溝が並列する状況が認められる。

ＳＨ１００６

検出状況　周壁溝において２時期の変遷が認められ、ほぼ並列するために新旧の識別は困難を伴うが、外側のものが内側のものを切る状況を認識している。新旧いずれの床面もほぼ検出面のレベルである。

ＳＨ１００６（新）

形態・規模　円形の平面形態をもち、全体の約４分の１を検出した。検出最大長は、東壁において検出した周壁溝南西端と調査区側溝際で検出した周壁溝北端との間で7.94mを測る。以下に示す主柱穴及び周壁溝の配置関係から直径約8.0mの規模に復元される。

主 柱 穴　４本を検出し、全体では10本程度に復元される。柱の掘方は35㎝、床面からの深さは18～48㎝を測る。

周 壁 溝　北西側の３分の１程度を検出した。幅９～26㎝、遺構検出面からの深さ６㎝を測る。

ＳＨ１００６（古）

形態・規模　円形の平面形態をもち、全体の約４分の１を検出した。検出最大長は、東壁において検出した周壁溝南西端と調査区側溝際で検出した周壁溝北端との間で7.23mを測る。以下に示す主柱穴及び周壁溝の配置関係から直径約7.6mの規模に復元される。

主 柱 穴　可能性のあるもの３本を識別する。柱の掘方は24～38㎝、床面からの深さは22～68㎝。

周 壁 溝　北西側の３分の１程度を検出した。幅19～24㎝、遺構検出面からの深さ７㎝を測る。

ＳＨ１００７

形態・規模　ほぼ正円形の平面形態をもち、全体の３分の２強を検出した。以下に示す主柱穴及び周壁溝の配置関係から直径約5.9mの規模に復元される。周壁溝の残存状況により床面レベルは遺構検出面より上部に存在したものと考えられる。

出土遺物　打製石鏃（S8・S9・S17・S18・S25・S43）、スクレイパー（S62）、楔形石器（S70・S78）が出土している。

主 柱 穴　4本を検出し、全体では6本主柱穴に復元される。柱の掘方は直径23～33㎝、柱痕を検出したものでは直径14～18㎝、床面からの深さは35～85㎝を測る。中央土坑の東西に近接する2本の柱穴が伴う可能性があり、東のものは直径37㎝で深さ72㎝、西のものは直径54㎝で深さ73㎝を測る。

中央土坑　平面形は楕円形を呈し、長径1.33m、幅1.07m、床面からの深さ81㎝を測る。埋土は3層に分かれ、いずれも概ね黒褐色を呈するシルトから細粒砂層で構成され最下の8層は炭を顕著を含む。東側に接する柱穴が一連のものであるとすれば切り合い関係では本土坑が柱穴を切る層序が認められる。

周 壁 溝　西側の一部で検出した。幅11～13㎝、遺構検出面からの深さ2㎝を測る。

ＳＨ１０１７

検出状況　柱穴6本のみを検出したが、SH1007中央土坑が重複する可能性や本来本住居跡に属する可能性の余地も想定される。周壁溝や壁の立ち上がりが検出されず、床面が検出面より上に存在した蓋然性が考えられる。

形態・規模　周壁溝や壁の立ち上がりなどプランを示すものが検出されていないため平面形態は不明であるが、主柱穴の配置状況から全体の約3分の2を検出しているものと考えられる。主柱穴どうしを結ぶ検出最大幅は5.38mを測る。

主 柱 穴　6本を検出し、全体では10本程度に復元される。柱の掘方は直径28～48㎝、柱痕を検出したものでは直径12～26㎝、床面からの深さは43～64㎝を測る。

南部竪穴住居跡群北西群：ＳＨ１００８～１０１２・１０１６・１０１８・１０１９（図版64・66～70・写真図版59・61）

検出状況　SH1009・1010のプランの範囲に収まる複数の住居跡群であり、調査区やや南西寄りに位置する。当該範囲内に少なくとも10の竪穴住居跡を認識することができ、切り合い関係より古い方からSH1021→SH1018→SH1012→SH1008→SH1015→SH1010→SH1011→SH1009→SH1019→SH1016の順であると考えられる。SH1015及びSH1021については別項にて後述する。なお、遺構検出の過程において当初SH1010内を切る各住居跡を識別しておらず、各住居跡の床面や屋内施設の検出状況及び西壁土層断面を検討した結果、最終的に切り合い関係を抽出するに至った次第である。このためSH1010内の各住居跡埋土からの出土遺物は一括して取り上げを行っており、中央土坑や周壁溝など屋内施設の個別に属する住居跡の帰属が判明したものについて当該住居跡の遺物として分けている。

出土遺物　打製石器（S1・S3）、石鏃（S7・S20・S32・S40・S41）、石錐（S51・S52・S58～S60）、楔形石器（S69・S77・S79）、石核の剥片（S95）、磨製石器（S192）が出土している。

ＳＨ１００８

形態・規模　ほぼ正円形の平面形態をもち、全体の半分弱を検出した。調査区西壁での検出最大径は5.93mを測る。検出した床面の周囲の検出面の最も高い箇所からの深さは9㎝を測る。

主 柱 穴　3本を検出し、全体では6本主柱穴に復元される。中央の柱穴はSK1053に切られる。柱の掘方は30～35㎝、床面からの深さは47㎝を測る。

周 壁 溝　北側から東側にかけて及び西側の一部で検出。幅13～22㎝、検出した床面からの深さ2～7㎝を測る。

ＳＨ１００９

形態・規模　楕円形の平面形態をもつと考えられ、全体の４割程度を検出した。調査区西壁での検出最大径は7.25mを測る。検出した床面の周囲の検出面の最も高い箇所からの深さは２㎝を測るが、概ね遺構検出面が床面レベルとなっている。

主 柱 穴　３本を検出し、全体では７本程度に復元される。柱の掘方は32～35㎝、床面からの深さは24～68㎝を測る。

周 壁 溝　北側から東側及び西側の一部で検出。幅12～22㎝、検出した床面からの深さ６～14㎝を測る。

ＳＨ１０１０

形態・規模　多角形気味のややいびつな円形の平面形態をもち、全体の約５分の３を検出した。調査区西壁での検出最大径は7.68mを測る。検出した床面の周囲の検出面の最も高い箇所からの深さは６㎝。

主 柱 穴　４本を検出し、全体では８本主柱穴に復元される。柱の掘方は27～31㎝、床面からの深さは23～72㎝を測る。

中央土坑　平面形は楕円形を呈し、長径84㎝、検出幅59㎝、床面からの深さ48㎝を測る。埋土は４層に分かれ、いずれも概ね黒褐色を呈するシルトから極細粒砂層で構成され最下の20層は炭を顕著に含む。

周 壁 溝　検出範囲でほぼ全周するが、南東側で約16㎝途切れる。幅11～19㎝、検出した床面からの深さ11㎝を測る。

ＳＨ１０１１

形態・規模　主にSH1019などに切られ北東側を検出したがＥ地区北半（Ｅ-１地区）南東で検出したものと続く円形の平面形態をもつと考えられ、直径6.8m程度に復元される。検出した床面の周囲の検出面の最も高い箇所からの深さは13㎝を測る。

周 壁 溝　北側から東側にかけて及び西側の一部で検出。幅13～19㎝、検出した床面からの深さ２～５㎝を測る。

ＳＨ１０１２

形態・規模　全体の１割程度を検出したが、円形の平面形態をもつと考えられる。調査区西壁での検出最大径は4.54mを測り、直径6.8m程度に復元される。検出した床面の周囲の検出面の最も高い箇所からの深さは13㎝を測る。

周 壁 溝　北側から東側にかけて及び西側の一部で検出。幅13～17㎝、検出した床面からの深さ５～６㎝を測る。

ＳＨ１０１６

形態・規模　全体の６分の１程度を検出したが、円形の平面形態をもつと考えられる。調査区西壁での検出最大径は3.77mを測り、直径4.5m程度に復元される。検出した床面はごくわずかで遺構検出面と同レベルである。

周 壁 溝　北東部分の延長83㎝を検出した。幅12㎝、検出した床面からの深さ４～10㎝を測る。

ＳＨ１０１８

形態・規模　周壁溝の検出がごく一部であるが主柱穴の配置状況も含めて勘案すると、平面形態は円形であることや全体の半分を検出していることが考えられる。この場合、主柱穴及び周壁溝の配置関係か

ら直径約7.8mの規模に復元される。周壁溝が浅くわずかに一部残存する状況から、床面が検出面より上に存在した蓋然性が考えられる。

主 柱 穴　4本を検出し、全体では8本程度に復元される。柱の掘方は直径28～48㎝、柱痕を検出したものでは直径12～26㎝、床面からの深さは43～64㎝を測る。

周 壁 溝　北東側で検出した。幅13～18㎝、検出した床面からの深さ2㎝を測る。

ＳＨ１０１９

形態・規模　南北に長い楕円形の平面形態をもち、全体の約5分の3を検出した。調査区西壁での検出長は6.69mを測るが、長軸方向6.3m、短軸方向6.0mに復元される。検出した床面の周囲の検出面の最も高い箇所からの深さは8㎝を測る。

主 柱 穴　4本を検出し、全体では8本主柱穴に復元される。柱の掘方は21～39㎝、床面からの深さは39～66㎝を測る。

中央土坑　平面形は楕円形を呈し、長径83㎝、検出幅77㎝、床面からの深さ22㎝を測る。埋土は黒褐色を呈するシルトから極細粒砂層の1層である。

周 壁 溝　検出範囲で全周する。幅9～17㎝、検出した床面からの深さ4㎝を測る。

出土遺物　打製石鏃（S37・S38）が出土している。

ＳＨ１０１３（図版64・71・写真図版62）

検出状況　調査区南西寄りに位置する。壁や周壁溝などプランを示すものは認められないが、土坑とその両脇に2柱穴が並ぶ状況からいわゆる松菊里型の中央土坑と柱穴のセットとして把握する。

柱　　穴　土坑の東に1本（P1）、西に切り合う2本（P2・P3）を検出した。柱の掘方はいずれも直径23～24㎝、柱痕も直径12～14㎝と規模が揃っており、検出面からの深さはP1が19㎝、P2が41㎝、P3が23㎝である。

屋内土坑　平面形は楕円形を呈し南西側にやや突出気味となる。長径93㎝、幅74㎝、床面からの深さ39㎝を測る。埋土は黄灰色のシルトから細粒砂で構成され、厚さ13㎝ほどの下層は若干黒みを帯びる。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＨ１０１４（図版64・71・写真図版62）

検出状況　調査区南西寄りに位置する。壁や周壁溝などプランを示すものは認められないが、土坑とその両脇に2柱穴が並ぶ状況からいわゆる松菊里型の中央土坑と柱穴のセットとして把握する。これらはSH1015の範囲内に位置しており、SH1015の主柱穴に切られている。

柱　　穴　土坑の南側に連接する状況で柱穴を検出した。柱の掘方はいずれも直径40㎝、柱痕は直径21㎝で、検出面からの深さは42㎝を測る。柱穴掘方の土層は最下層を除いて土坑と連続した層序となる。柱痕の埋土上部に波状口縁の甕が底部より口縁を5㎝ほど傾けた状態で出土した。土坑北側の柱穴は土坑を切っておりSH1015に伴うと考えられるが、本来この箇所に南側と対になる柱穴が存在し踏襲された可能性が想定される。

屋内土坑　平面形は楕円形を呈し、両端の柱穴と接する間の長さ69㎝、幅51㎝、床面からの深さ22㎝を測る。

出土遺物　柱穴から弥生土器壺（317）が、屋内土坑南側に接する柱穴P1067から弥生土器甕（318）、台石（S181）が出土。なお、P1066より瓦質の皿（694・695）、丸瓦（696）が出土しているが、混入と思われる。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉と考えられる。

ＳＨ１０１５（図版64・66・68・69・71・写真図版62）

検出状況　ほぼ正円形の平面形態をもつ。東西断面の第49層が住居跡埋土となる可能性が考えられるが、住居跡東端付近において明確な壁の立ち上がりを認識するには至っていない。

形態・規模　ほぼ正円形の平面形態をもち、直径5.30mを測る。検出した床面の周囲の検出面の最も高い箇所からの深さは8㎝を測る。埋土は概ね灰黄褐色を呈するシルト～細砂のみで構成される。

主 柱 穴　4本を数え、中央土坑の両脇の2本がこれに加わる可能性がある。柱の掘方は4本主柱穴のうち東側2本が直径37㎝、西側の2本が24㎝、27㎝で検出面からの深さは37～56㎝を測る。中央土坑の東西には、西側に接する掘方の直径25㎝、柱痕の直径18㎝、深さ29㎝を測るもの、東側にわずかに間隔をおいて直径17㎝、深さ19㎝を測るものが認められる。

中央土坑　平面形は楕円形を呈し、長径87㎝、幅85㎝、床面からの深さ31㎝を測る。埋土は下層に炭を含む黒褐色のシルト層が厚さ7㎝ほど認められるほかは概ね黄灰色のシルトから極細砂で構成される。土坑掘方の周囲のうち南東側に周堤状の盛り上がりが半周し、幅19～25㎝、厚さ2㎝を測る。

周 壁 溝　北側から東側にかけて及び西側の一部で検出した。幅10～14㎝、検出した床面からの深さ1～3㎝を測る。

出土遺物　台石（S179・S180）が出土している。

ＳＨ１０２１（図版72・写真図版63）

検出状況　調査区中央部やや南西寄りに位置する。SH1010床面精査中に検出され、東側のコーナーを挟む北東壁と南東壁を直線的に検出した。掘方や埋土の上部を主にSH1019に切られている。

形態・規模　検出した2辺の壁のうちより長い範囲を検出した南東側の壁を基準にした場合、検出長2.96m、検出幅2.80mを測る。東側コーナー部分は77°と鋭角気味である。検出面からの床面の深さは34㎝を測る。屋内施設は柱穴のみで、周壁溝や土坑は検出されなかった。

柱　　穴　床面において9本を検出したが、本来上層より掘り込まれたものを含む可能性がある。南東壁際のP1と東コーナー際のP2が大きく、それぞれ直径は33㎝、36㎝、床面からの深さは23㎝、25㎝を測る。北東壁際のP3は掘方の直径22㎝、床面からの深さ25㎝を測り、直径9㎝の柱痕が認められる。その他は直径23～27㎝、床面からの深さ22～27㎝、柱痕の認められたものの直径は9～11㎝を測る。

出土遺物　埋土中より弥生土器（322～328）が出土した。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉と考えられる。

ＳＨ１０２２（図版72・写真図版63）

検出状況　調査区中央部やや南西寄りに位置する。SH1001（新）床面精査中に検出され、掘方や埋土の上部をSH1001に切られている。

形態・規模　ほぼ正円形の平面形態をもち、直径3.07mを測る。ただし北側付近で東西の壁が直線的に円弧から張り出し気味となり、SH1001周壁溝から最大で39㎝ほど外方に及ぶ検出範囲のプランへと比較的スムーズに移行するようにも見てとれることから本来SH1022のプランである可能性も考えられる。この場合SH1001中央土坑（古）により切られている部分も復元して3.25mほどの長軸規模が復元される。床面は東側が高く西側に向かって傾斜し6㎝の差がある。周囲の検出面のうち最も高い北東側からの深さ34㎝を測る。埋土はやや粘質を帯びる黄灰色を呈するシルト～極細砂である。

柱　　穴　床面において3本を検出した。最も大きいものは中央やや南寄りに柱の掘方は直径43㎝、床面からの深さは31㎝を測り柱痕は検出できなかった。この南側にやや小さい柱穴2本を検出し、東のものからそれぞれ直径23㎝、20㎝、深さは10㎝、25㎝を測る。

周 壁 溝　南側の一部がSH1001（古）の中央土坑に切られるため未検出ながら、東側から南側にかけて続くと思われ半周以上している。幅8～13㎝、床面からの深さ2～4㎝を測る。

出土遺物　埋土中より弥生土器（322～328）の小片が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代と考えられる。

3　土坑

ＳＫ１００１（図版73・写真図版64）

検出状況　調査区北部東よりに位置する。

形態・規模　平面形は長円形を呈する。長さ1.92m、幅1.07m、検出面からの深さ40㎝を測る。横断面形は逆台形状を呈する。埋土は4層に分かれ、概ね暗褐色から黄褐色のシルト質細粒砂層で構成される。底部に弥生土器や敲打具、自然礫の角礫が認められる。

出土遺物　弥生土器片（342～363）及び床面から、磨製石斧（S122）、石棒（S128）、凹み石（S169）が出土している。

時　　期　土器は弥生時代前期末から中期中葉のものであり、その中心は中期初頭である。

ＳＫ１００２（図版73・写真図版64）

検出状況　調査区中央付近北東よりに位置する。

形態・規模　平面形は円形を呈する。長さ0.93m、幅0.96m、検出面からの深さ20㎝を測る。横断面形は皿状を呈する。埋土は褐灰色のシルト～極細粒砂層で構成される。検出面から10～20㎝上部において弥生土器（364～366）が面的に出土している。

出土遺物　弥生土器（364～366）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉から中期初頭と考えられる。

ＳＫ１００３（図版73・写真図版64）

検出状況　調査区北東辺壁近くに位置する。

形態・規模　平面形は台形に近い不整形を呈する。長さ1.9m、幅1.05m、検出面からの深さ26㎝を測る。横断面形は皿状を呈する。埋土は黄灰色のシルト質の極細粒砂～細砂層で構成される。検出面から15㎝ほど下で弥生土器が出土している。

出土遺物　弥生土器壺（332・333）・甕（334～337）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉から中期初頭と考えられる。

ＳＫ１００９（図版74・写真図版65）

検出状況　調査区北東辺壁近くに位置する。

形態・規模　平面形はややいびつな楕円形を呈する。長さ2.15m、幅1.66m、検出面からの深さ20㎝を測る。横断面形は皿状を呈する。埋土は褐色および明黄褐色のシルト質の細砂層で構成される。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０１０（図版74・写真図版64）

検出状況　調査区北東辺壁近く、SK1009の北西隣に位置する。

形態・規模　平面形は楕円形を呈する。長さ2.03m、幅1.45m、検出面からの深さ18㎝を測る。横断面形は皿状を呈する。埋土は褐色の細砂層およびにぶい黄色の極細砂で構成される。

出土遺物　弥生土器底部（367・368）・甕（369）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代中期初頭と考えられる。

ＳＫ１００５（図版74・写真図版65）

検出状況　調査区北東辺壁近く、SK1009の北西隣に位置する。

形態・規模　平面形は隅丸方形を呈する。長さ0.94m、幅0.9m、検出面からの深さ24㎝を測る。横断面形は逆台形を呈し、平底である。埋土は褐色から褐灰色の細砂層で構成される。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０１３（図版74・写真図版59）

検出状況　調査区南に位置し、竪穴住居跡SH1006の周壁溝を切っている。

形態・規模　平面形は不整な楕円形を呈する。長さ0.83m、幅0.57m、検出面からの深さ33㎝を測る。横断面形は歪な逆台形を呈する。埋土は黒および黒褐色のシルト～細砂層で構成される。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０１５（図版74・写真図版59）

検出状況　調査区南に、SK1013・1021の西側に位置し、SK1021に切られている。

形態・規模　平面形は不整な楕円形を呈する。長さ0.94m、幅0.8m、検出面からの深さ21㎝を測る。横断面形は皿状を呈する。埋土は黄灰色のシルト～細砂層で構成される。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０１６（図版57・写真図版59）

検出状況　調査区南に、SK1013の北西側に位置している。SH1017の柱穴か？

形態・規模　平面形はほぼ円形を呈する。直径0.45m、検出面からの深さ24㎝を測る。横断面形はU字状を呈する。埋土の上層は黒褐色のシルト～細砂層で構成される。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０２２（図版75・写真図版65）

検出状況　調査区北の東壁近くに位置し、方形の竪穴住居跡SH1002に切られている。

形態・規模　平面形は楕円形を呈する。長軸2.2m、短軸の残存長1.1m、検出面からの深さ23㎝を測る。横断面形はおそらく逆台状で、埋土は２層に分かれる。

出土遺物　弥生土器底部（384）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代中期と考えられる。

ＳＫ１０２３（図版75・写真図版65）

検出状況　調査区中程の西壁近くに位置している。

形態・規模　平面形はほぼ円形を呈する。直径0.85～0.95m、検出面からの深さ20㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は２層に分かれる。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０２４（図版75・写真図版65）

検出状況　調査区中程の竪穴住居跡SH1001内に位置している。

形態・規模　平面形はほぼ円形を呈する。直径0.62m、検出面からの深さ23㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は２層に分かれる。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０２５（図版75・写真図版49）

検出状況　調査区中程の竪穴住居跡SH1001の南に位置している。

形態・規模　平面形はほぼ円形を呈する。直径0.62m、検出面からの深さ16㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は１層である。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０２６（図版75・写真図版65）

検出状況　調査区中程、SK1025の北西に位置している。

形態・規模　平面形は細長い楕円形を呈する。長軸の長さ0.76m、短軸は0.35m、検出面からの深さ18㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は２層である。

出土遺物　弥生土器底部（385）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代中期と思われる。

ＳＫ１０３０（図版75・写真図版65）

検出状況　調査区南、竪穴住居跡SH1006の周溝に切られている。

形態・規模　平面形は隅丸方形を呈する。一辺の長さ0.75m、検出面からの深さ48㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は５層である。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０３２（図版76・写真図版49）

検出状況　調査区北、SX1010の北側に位置する。

形態・規模　平面形は細長い楕円形を呈する。長軸の長さ1.18m、短軸は0.71m、検出面からの深さ5㎝を測る。横断面形はごく浅い皿状である。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０３３（図版76・写真図版49）

検出状況　調査区南、南部竪穴住居跡群の周溝を切っている。

形態・規模　平面形は楕円形を呈する。長軸の長さ1.03m、短軸の長さ0.63m、検出面からの深さ18㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は2層である。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＫ１０４０・１０４１（図版76・写真図版49）

検出状況　調査区北、SX1010の北に位置し、SK1041はSK1040に切られている。

形態・規模　SK1040は楕円形、SK1041はほぼ円形を呈する。SK1040の長軸の長さ1.34m、短軸の長さ1.04m、検出面からの深さ15㎝を測る。横断面形は浅い皿状で底面は平底である。SK1041は直径0.71m、検出面からの深さ10㎝を測る。横断面形は浅い皿状で底面は平底である。

出土遺物　弥生土器甕（390）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、SK1040は弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

ＳＫ１０４２～１０４４（図版76・写真図版49）

検出状況　調査区北端近く、SK1040・1041の北東に位置する。SK1042はSK1043に、SK1043はSK1044に切られている。

形態・規模　平面形はSK1042・1043は楕円形、SK1044はほぼ円形を呈する。SK1042の長軸の残存長1.45m、短軸の長さ1.45m、検出面からの深さ22㎝を測る。横断面形は浅い皿状である。SK1043の長軸の長さ1.12m、短軸の残存長0.85m、検出面からの深さ42㎝を測る。横断面形はU字状で、6層に分かれる。SK1044は直径0.75m、検出面からの深さ22㎝。横断面形は浅いU字状で3層に分かれる。

出土遺物　SK1042から弥生土器の甕口縁部の小片（391）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、SK1042は弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

ＳＫ１０５３（図版66・写真図版59）

検出状況　南部竪穴住居跡群内に位置する。SH1008の柱穴を切り、SH1009の柱穴に切られている。

形態・規模　平面形は隅丸長方形を呈する。長軸0.92ｍ、短軸0.8ｍ、検出面からの深さ36cmを測る。横断面形は浅いU字状を呈する。埋土は黄灰色のシルトから細砂である。

出土遺物　なし。

ＳＫ１０５４（図版66・写真図版59）

検出状況　南部竪穴住居跡群内に位置する。SH1008の周壁溝に切られている。

形態・規模　平面形は概ね楕円形を呈する。長軸1.75ｍ、短軸0.8ｍ、検出面からの深さ36cmを測る。横断面形は浅いU字状を呈する。埋土は褐灰色のシルトから細砂である。

出土遺物　弥生土器甕392が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ１０１７（図版77・写真図版65）

検出状況　調査区中央付近南よりに位置する。

形態・規模　平面形は隅丸長方形ないしは帯状を呈する。検出最大長3.18m、検出最大幅1.44m、検出面からの深さ40㎝を測る。横断面形は逆台形を呈する。埋土は5層に分かれ、概ね黄灰色のシルトから細粒砂で構成される。1・2層が黒褐色みをおび、弥生土器や炭粒をよく含む。平面図中に図化した2層下半で出土した弥生土器片はいずれも遺構底部や立ち上がりと同じ傾斜をなしている。

出土遺物　弥生土器壺（338）、甕（339～341）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ１０５６（図版77・写真図版49）

検出状況　SK1017に切られている。

形態・規模　平面形は半円形を呈する。検出最大長0.7ｍ、検出最大幅0.2ｍ、検出面からの深さ10.6㎝を測る。

出土遺物　弥生土器壺（393）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期末～中期と考えられる。

4　不明遺構

ＳＸ１００１（図版77・写真図版49）

検出状況　調査区北部に位置する。

形態・規模　平面形は楕円形を呈する。長軸の長さ81㎝、短軸の長さ49㎝、検出面からの深さ30㎝を測る。横断面形は深いU字状であったと思われる。埋土は1層で、土器片、サヌカイトを含む。

出土遺物　弥生土器片が出土しており、弥生時代の遺構と考えられる。

ＳＸ１００２～ＳＸ１０１０（図版78～81・写真図版49・66・67）

検出状況　調査区北部に位置する。当初遺構検出の際にSX1002～SX1010を一括して検出し、複数の土層観察用畔を残しながら切り合う各遺構の識別に努めた。その結果、SX1005～SX1010の平坦な底部を持つ浅い土坑の切り合う中央付近に、長い楕円形の擂り鉢状のSX1004が上部から切り込んでいる状況が明らかになった。さらにSD1001がSX1004を切る。SX1006がSX1005及びSX1007～SX1009を切っており、北半部では古い方からSX1005→SX1010→SX1006、南半部ではSX1007→SX1005・SX1008→SX1006、また東側ではSX1003→SX1002→SX1005の順に切り合い関係が認められる。

ＳＸ１００２（図版78・写真図版49）

形態・規模　西側をSX1005に切られるが、平面形は楕円形状であろう。長軸方向での検出最大長

4.36m、短軸方向での検出最大幅2.76m、検出面からの深さ31㎝を測る。横断面形は皿状に近い。埋土は3層に分かれ、1・2層は土壌化が進んで黒褐色みをおびる。弥生土器の小片を1層によく含み、2層にもわずかに含む。

出土遺物　弥生土器の小片、敲石（S149）、石棒（S189）が出土している。

時　　期　出土土器及び周辺の遺構との切り合い関係から弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

ＳＸ１００３（図版78・写真図版49）

形態・規模　南側半分以上をSX1002に切られる。検出最大長2.42m、短軸方向での検出最大幅2.35m、検出面からの深さ21㎝を測る。横断面形は浅い皿状に近い。

ＳＸ１００４（図版79・80・81・写真図版66・67）

形態・規模　平面形は東西方向に長い楕円形を呈し、長軸方向で5.78m、短軸方向で3.89m、検出面からの深さ94㎝を測る。横断面形は皿状に近い。底部中央付近及び東側の立ち上がりから斜面にかけて円礫や亜角礫が集積する状況が認められる。埋土は概ね黄灰色から黒灰色を呈するシルトから細砂で構成される。

出土遺物　大量の弥生土器（394～488）が出土している。

時　　期　弥生時代前期末から中期初頭にかけての土器が主体を占めるが、中期前葉の土器を含み下限を示すと考えられる。

ＳＸ１００５（図版80・81・写真図版49）

形態・規模　平面形は東西方向に長い楕円形を呈し、長軸方向で検出長6.85m、短軸方向での検出長4.43m、検出面からの深さ34㎝を測る。埋土は褐灰色を呈するシルトから極細砂で構成される。

出土遺物　弥生土器（489～546）、打製石器（S98）、打製刃器（S142）、磨製石包丁（S132・S134）、敲石（S146・S147）、凹み石（S160）、台石（S171）、石棒（S188）が出土している。

時　　期　弥生時代前期末から中期初頭にかけての土器が主体を占める。一部、中期前葉の土器も散見されるがSX1004との境界付近での混入の可能性が考えられる。

ＳＸ１００６（図版80・81・写真図版49）

形態・規模　平面形は隅丸長方形状を呈し、検出長5.10m、短軸方向での検出長4.48m、検出面からの深さ47㎝を測る。横断面形は浅い逆台形状に近い。底部に柱穴7本を確認したが、最も東側のものが底面からの深さ37㎝、最も西側のものが18㎝を測るほかは浅く上部から掘り込まれたものと考えられる。埋土は概ね黄灰色から暗灰黄色を呈する粘質シルトから細砂で構成される。

出土遺物　弥生土器（547～584）、打製石器（S94）、磨製石包丁（S131）が出土している。

時　　期　弥生時代前期末から中期初頭にかけての土器が主体を占める。一部、中期前葉の土器も散見されるがSX1004との境界付近での混入の可能性が考えられる。

ＳＸ１００７（図版80・81・写真図版49）

形態・規模　検出長4.13m、検出幅1.70m、検出面からの深さ22㎝を測る。本来は長さ6.8mほどの隅丸長方形であったように復元される。横断面形は浅い逆台形状に近い。

出土遺物　弥生土器壺底部（585）及び甕底部（586）、磨製石包丁（S136）が出土している。

時　　期　出土状況と周囲の遺構の時期から考えて、弥生時代前期末から中期初頭にかけてと考えられる。

ＳＸ１００８（図版80・81・写真図版49）

形態・規模　短い二辺とそれらに挟まれる丸みをおびたコーナー部分を検出した。検出長2.20m、検出

幅1.47m、検出面からの深さ35㎝を測る。

出土遺物　弥生土器の壺の破片（587）が出土している。

時　　期　弥生時代前期末から中期初頭にかけてと考えられる。

ＳＸ１００９（図版80・81・写真図版49）

形態・規模　短い一辺からコーナー部にかけて検出した。検出長2.44m、検出幅1.47m、検出面からの深さ36㎝を測る。埋土は概ね黄灰色から暗灰黄色を呈する粘質シルトから細砂で構成される。

出土遺物　弥生土器の壺頸部の破片（588）及び甕口縁（589）、鉢口縁（590）、凹み石（S165）が出土している。

時　　期　出土状況と周囲の遺構の時期から考えて、弥生時代前期末から中期初頭にかけてと考えられる。

ＳＸ１０１０（図版80・81・写真図版49）

形態・規模　二辺とそれらに挟まれる丸みをおびたコーナー部分を検出した。検出長4.72m、検出幅3.07m、検出面からの深さ58㎝を測る。

出土遺物　弥生土器（591～606）、石器（S158）が出土している。

時　　期　弥生時代前期末から中期初頭にかけてと考えられる。

ＳＸ１０１１（図版57・82・写真図版68）

検出状況　調査区中央付近やや北よりに位置する。SH1001に切られており、南東側はSH1001の床面において検出することができた。

形態・規模　平面形は隅丸長方形ないしは帯状を呈する。検出最大長8.45m、検出最大幅2.47m、検出面からの深さ45㎝を測る。横断面形は浅いボウル状を呈する。埋土は9層に分かれ、概ね黄灰色のシルトから細粒砂で構成される。各層に弥生土器が含まれるが、特に7～9層に大きめの個体がよく含まれている。この7～9層で出土した弥生土器片はいずれも遺構底部や立ち上がりと同じ傾斜をなしていた。

出土遺物　弥生土器（607～653）、打製石器（S4）、打製刃器（S144）、敲石（S154）、凹み石（S167・S168）、台石（S173・S176・S177）、砥石（S184）が出土している。

時　　期　出土土器及び周辺の遺構との切り合い関係から弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

ＳＸ１０１２（図版83・写真図版69）

検出状況　Ｄ地区中央付近やや北東よりに位置する。上部より多数の柱穴が切り込むが、本遺構に伴う柱穴は未検出である。

形態・規模　方形気味の不整円形を呈する。検出最大長3.33m、検出最大幅2.20mを測る。底面は検出面からの深さ25㎝を測るが、中央部付近はさらに6㎝ほど浅い長径1.71m、検出最大幅1.20mの凹み状となる。また、北側コーナー部付近で底面より16～18㎝ほど高いテラス状の段があり、コーナー付近には長さ82㎝、幅64㎝、テラス状の段からの深さ14㎝の土坑が掘り込まれている。

出土遺物　弥生土器（654～660）、石鏃（S28・S31）、打製石器（S88）、台石（S178・S193）が出土している。

時　　期　出土土器から弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

5　溝

ＳＤ１００１（図版84・写真図版69）

検出状況　調査区北部に位置する。南東から北西に直線的に延び、南東側は調査区外に及ぶ。SB1005の柱穴に切られる。

形態・規模　調査区内で検出した延長は14.25m、北壁土層断面で確認できる最大幅64㎝、検出面からの深さ14～26㎝を測る。横断面形は逆台形を呈している。溝底のレベルは、南東側が北西側より９㎝低い。

出土遺物　遺物は出土していない。

時　　期　SB1005に先行し弥生時代のすべての遺構を切ることから、弥生時代から中世までの間である。

ＳＤ１００２（図版84・写真図版69）

検出状況　調査区北部に位置する。SH1004に切られる。

形態・規模　調査区内で検出した延長は1.54m、最大幅0.49m、検出面からの深さ26㎝を測る。横断面形は皿状を呈する。

出土遺物　弥生土器甕底部（662）などの小片が出土している。

時　　期　切り合い関係及び出土土器から判断して、弥生時代前期後葉と考えられる。

ＳＤ１００３（図版66・84・写真図版59）

検出状況　調査区南部に位置する。SH1015に切られる。

形態・規模　調査区内で検出した延長は3.53m、最大幅1.04m、検出面からの深さ49㎝を測る。横断面形は底が丸みを帯びるＶ字状を呈す。埋土は概ね黒褐色を呈する粘質シルトから細砂で構成される。

出土遺物　弥生土器（663～670）が出土している。

時　　期　出土土器から弥生時代前期後葉から末にかけてと考えられる。

ＳＤ１００４（図版84・写真図版49）

検出状況　調査区南部に位置する。２箇所で鉤状にクランクし、両端は調査区外に及ぶ。

形態・規模　調査区内で検出した延長は5.6m、最大幅0.67m、検出面からの深さ13㎝を測る。横断面形は皿状を呈す。溝底のレベルは両端で大差ないが、北東方向に若干傾斜している。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＤ１００５（図版84・写真図版49）

検出状況　調査区南端に位置する。南西側は調査区外に及び、Ｅ地区SD2020と同一の溝の可能性がある。

形態・規模　調査区内で検出した延長は2.58m、最大幅0.98m、検出面からの深さ17㎝を測る。横断面形は逆台形状を呈す。溝底のレベルは北東方向に傾斜している。

出土遺物　遺物は出土していない。

第6節　E地区の調査

E地区は弥生時代の溝および柱穴、木棺墓、水田跡を確認した。

調査区中間にある現況の耕作地の区画を境に北側をE-1地区、南側をE-2地区とする。E-1地区では、溝および柱穴をわずかに検出したのみにとどまる。E-2地区では溝および柱穴、木棺墓、水田跡を検出した。溝は後述する水田区画と近い方向に掘削されているものが多いが、多くは水田区画を上部から切り込み、水田区画に伴わない。その中でSD2026は埋土中層に弥生時代前期後葉の土器を含み、最も古い時期のものである。木棺墓は2基SX2001・SX2002を検出した。

調査区からは弥生時代の前期から中期の土器と若干の中世の土器、石鏃や石包丁、石斧などの石器が出土している。

1　掘立柱建物跡

ＳＢ２０１１（図版88・写真図版74）

検出状況　E-1地区南角付近に位置し、東辺は調査区外で未検出である。

形態・規模　検出できたのは南北3間×東西1間（3.6×1.2m）である。柱穴は径15～30㎝程度の円形である。主軸はN0.2°Wを測る。柱間距離は1.1～1.3mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ２０１３（図版88・写真図版73・74）

検出状況　E-2地区中央東壁沿いに位置し、東南角は調査区外で未検出である。

形態・規模　南北3ないし4間×東西9間（4.95×6.0m）である。多くの柱穴は径20㎝程度の円形であるが、径10㎝の小さい円形、長径37㎝の楕円形のものもある。推定される全体の床面積は29.7㎡、主軸はN71°Wを測る。南北の柱間距離は1.5～1.85m、南辺の東西の柱間距離は0.4～1.2mである。南辺の西半は非常に多くの柱穴が狭い間隔で並んでいる。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ２０１２（図版89・写真図版73・74）

検出状況　E-2地区中央東壁付近に位置している。

形態・規模　南北2間×東西1間（3.9×1.9m）である。柱穴の多くは径15㎝程度の円形であるが、長径50㎝の楕円形のものもある。床面積は7.41㎡、主軸はN21°Eを測る。南北の柱間距離は1.9～2.0m、東西の柱間距離は1.9mとばらつきが少ない。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ２０１４（図版89・写真図版73・74）

検出状況　E-2地区南に位置している。

形態・規模　南北2間×東西2間（2.85×2.2m）である。柱穴は径20～30㎝程度の円形である。床

面積は6.27㎡、主軸はN39°Eを測る。南北の柱間距離は1.45～1.4m、東西の柱間距離は0.62～1.58mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　柱穴SK2037から打製石包丁（S141）が出土している。

2　土坑

ＳＫ２０１１（図版90・写真図版75）

検出状況　E-2地区北壁沿いに位置し、調査区外に続いている。

形態・規模　平面形は楕円形か。長軸の残存長1.04m、短軸1.26m、検出面からの深さ20㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は2層に分かれる。

出土遺物　弥生土器甕口縁（716）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期である。

ＳＫ２０１２・ＳＫ２０１３（図版90・写真図版75）

検出状況　E-2地区北部に位置し、SK2012がSK2013を切っている。

形態・規模　平面形はどちらも楕円形である。SK2012の長軸の長さ0.94m、短軸0.78m、検出面からの深さ31㎝を測る。横断面形はU字状で、埋土は3層に分かれる。SK2013の長軸の長さ0.62m、短軸残存長0.38m、検出面からの深さ20㎝を測る。横断面形はU字状で、埋土は3層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０１４（図版90・写真図版75）

検出状況　E-2地区中程、東壁近くに位置している。

形態・規模　平面形はほぼ円形である。直径0.58～0.6m、検出面からの深さ16㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は4層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０２１（図版90・写真図版76）

検出状況　E-1地区南、SB2011内に位置している。

形態・規模　平面形は三角形に近い歪な楕円形である。長軸1.42m、短軸1.38m、検出面からの深さ18㎝を測る。横断面形は浅い皿状で、埋土は1層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０２２（図版90・写真図版76）

検出状況　E-1地区南、SB2011に半分かかる形で位置している。

形態・規模　平面形はやや長い楕円形である。長軸1.58m、短軸0.9m、検出面からの深さ10㎝を測る。横断面形は浅い皿状で、埋土は2層である。石が散在している。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０１６・ＳＫ２０１７（図版91・写真図版76）

検出状況　E-2地区南、東壁沿いに位置し、後世の溝で切られているが、SK2016とSK2017は一連のものである可能性がある。

形態・規模　SK2016の平面形は細長い楕円形で、SK2017も同様か。SK2016の長軸の残存長0.71m、短軸0.59m、検出面からの深さ24㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は5層に分かれる。SK2017の長軸の残存長0.54m、短軸0.82m、検出面からの深さ24㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は1層である。

出土遺物　SK2016から弥生土器底部（717）、SK2017から弥生土器底部（718）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期である。

ＳＫ２０１８（図版91・写真図版76）

検出状況　E-2地区南、東壁近くSK2016・2017の南に位置している。撹乱で一部失われている。

形態・規模　平面形は楕円形である。長径は1.84m、短軸の残存長さは1.3m、検出面からの深さ14㎝を測る。横断面形は浅い皿状で平底である。埋土は1層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０１９（図版91・写真図版75）

検出状況　E-2地区南、西壁近くに位置し、溝SD2019に切られている。

形態・規模　平面形は楕円形である。長軸は1.82m、短軸は1.16m、検出面からの深さ26㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は2層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０２３（図版92・写真図版76）

検出状況　E-2地区南、南壁近くに位置している。

形態・規模　平面形は楕円形である。長軸は0.62m、短軸は0.5m、検出面からの深さ24㎝を測る。横断面形はＶ字状で、埋土は1層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０２５（図版92・写真図版77）

検出状況　E-2地区南端近く、SK2023の北に位置している。

形態・規模　平面形は楕円形である。長軸は0.68m、短軸は0.48m、検出面からの深さ10㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は1層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０２６（図版92・写真図版76）

検出状況　E-2地区南端近くに位置し、溝SD2017を切っている。SK2025の北にある。

形態・規模　平面形は円形である。直径0.64～0.65m、検出面からの深さ24㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は2層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０２７（図版92・写真図版77）

検出状況　E-2地区南、SB2014内に位置している。

形態・規模　平面形は歪な隅丸方形である。長軸は0.84m、短軸は0.66m、検出面からの深さ12㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は1層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０２９（図版92・写真図版77）

検出状況　E-2地区南に位置し、一部はSB2014内に位置している。

形態・規模　平面形は歪な楕円形である。長軸は0.96m、短軸は0.6m、検出面からの深さ17㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は2層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０３１（図版92・写真図版77）

検出状況　E-2地区南、SK2029の北に位置し、一部はSB2014内に位置している。

形態・規模　平面形は細長い楕円形である。長軸は0.98m、短軸は0.44m、検出面からの深さ3㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は1層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０３６（図版92・写真図版77）

検出状況　E-2地区中程、東壁近くに位置している。

形態・規模　平面形は歪な楕円形である。長軸は0.8m、短軸は0.66m、検出面からの深さ34㎝を測る。横断面形はほぼ長方形で、埋土は5層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０３０（図版93・写真図版78）

検出状況　E-2地区中程、調査区中央に位置し、SB2013、2014と重なっている。

形態・規模　平面形は細長い三角形に近い楕円形である。長軸は3.23m、短軸は0.85m、検出面からの深さ17～28㎝を測る。横断面形は皿状で、埋土は2層にないし3層に分かれる。

出土遺物　弥生土器甕口縁（721・722）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期である。

ＳＫ２０３２（図版94・写真図版79）

検出状況　E-2地区南端近く、SD2019沿いに位置している。

形態・規模　平面形は歪な六角形に近い形状である。長軸は1.59m、短軸は1.52m、検出面からの深さ19㎝を測る。横断面形は浅い皿状で、埋土は2層にないし4層に分かれる。

出土遺物　弥生土器甕底部（720）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期である。

ＳＫ２０３３（図版95・写真図版77）

検出状況　E-2地区中程、東壁近くに位置し、SB2013と範囲が重なる。中央を暗渠で切られている。

形態・規模　平面形は楕円形である。長軸は2.4m、短軸は2.0m、検出面からの深さ32㎝を測る。横断面形はU字状で、埋土は2層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０３５（図版95・写真図版70）

検出状況　E-2地区中程、西壁沿いに位置し、調査区外へ続いている。SD2014、2018に切られている。

形態・規模　平面形はおそらく楕円形である。長軸の残存長は1.7m、短軸は2.0m、検出面からの深さ6㎝を測る。横断面形は浅い皿状で、埋土は1層である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＫ２０３４（図版96・写真図版79）

検出状況　E-2地区中程、中央に位置する。

形態・規模　平面形は隅丸長方形である。長軸は2.3m、短軸は1.73m、検出面からの深さ35㎝を測る。横断面形は逆台形で、埋土は3層に分かれる。

出土遺物　弥生土器甕（719）、石鏃（S12・S23）、打製石器（S67）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉である。

3　木棺墓

ＳＸ２００１・２００２（図版97・写真図版80）

検出状況　E-2地区中程、中央やや西より並んで位置する。暗渠により両者の斬り合いは不明である。

形態・規模　SX2001は長軸残存長1.6m、短軸残存長0.62mの掘方内に1.27m×0.41mの棺を納めている。残存する深さは12㎝である。主軸はN64°Wを測る。頭位は北西である。

SX2002は長軸残存長1.8m、短軸残存長0.58mの掘方内に1.43m×0.36mの棺を納めている。残存する深さは12㎝である。主軸はN76°Wを測る。頭位は北西である。

出土遺物　SX2002から打製石器（S56・S91）が出土しているが混入か。図化可能な土器は出土していないため、時期は不明である。

4　溝

ＳＤ２０１３（図版98・写真図版81・82）

検出状況　E-2地区北部を北西から南西方向に流れ、両端は調査区外に続く。

形態・規模　調査区内で検出した延長は11.7m、最大幅42㎝、検出面からの深さ15㎝を測る。横断面形はU字状で、埋土に礫を多く含む。溝底のレベルは、北西方向に若干傾斜している。

出土遺物　弥生土器（728）、土師器甕もしくは壺（729）、高杯（730・731）、凹み石（S156・S163）が出土している。

ＳＤ２０１５（図版98・写真図版82）

検出状況　E-2地区中央西壁沿いに位置し、北西から南東方向に流れたのち、西に90度クランクする。

形態・規模　調査区内で検出した総延長は3.6m、最大幅70㎝、検出面からの深さ4㎝を測る。横断面形は浅い皿状である。溝底のレベルは、南端方向に若干傾斜している。

出土遺物　遺物は出土していない。

ＳＤ２０１６（図版98・写真図版81）

検出状況　E-2地区中央を調査区外の北東から南西方向に流れる。SD2013に切られている。

形態・規模　調査区内で検出した延長は11.5m、最大幅1.85m、検出面からの深さ4㎝を測る。横断面形は浅い皿状である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ２０１７（図版98・写真図版82）

検出状況　E-2地区の西角付近に位置し、北西から南東方向に流れたのち、東に90度クランクする。

形態・規模　調査区内で検出した総延長は4.5m、最大幅35㎝、検出面からの深さ7㎝を測る。横断面形は逆台形である。

出土遺物　磨製石包丁（S135）が出土している。

ＳＤ２０１８（図版99・写真図版82）

検出状況　E-2地区中央西壁沿いに位置し、北西から南東方向に流れたのち、西に90度クランクし、さらに屈曲して調査区外に流れる。

形態・規模　調査区内で検出した総延長は3.55m、最大幅60㎝、検出面からの深さ17㎝を測る。横断面形は逆台形ないしU字状である。溝底のレベルは、南方向に若干傾斜している。

出土遺物　弥生土器甕口縁部（733）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉である。

ＳＤ２０１９・ＳＤ２０２４（図版99・写真図版81・83）

検出状況　E-2地区の南に位置し、SD2019は北西から南東方向に流れたのち、西に90度クランクする。SD2024も北西から南東方向に流れたのち屈曲して合流する。

形態・規模　SD2019の調査区内で検出した総延長は11.4m、最大幅56㎝、検出面からの深さ18㎝を測る。横断面形はU字状ないしV字状である。SD2024は調査区内で検出した延長は3.3m、最大幅0.3m、検出面からの深さ8㎝を測る。横断面形は皿状である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ２０２０・ＳＤ２０２３（図版99・写真図版83）

検出状況　E-2地区の南角付近に位置し、SD2020は北東から南西東方向に流れ、SD2023につながるものか。SD2019・2024に切られている。

形態・規模　調査区内で検出したSD2020の延長は3.0m、最大幅60㎝、検出面からの深さ7㎝を測る。横断面形は逆台形である。溝底のレベルは、北東方向に若干傾斜している。SD2023の延長は

1.2m、最大幅14㎝、検出面からの深さ9㎝を測る。横断面形はU字状である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ２０２１（図版99・写真図版83）

検出状況　E-2地区南西壁沿いで検出した。

形態・規模　調査区内で検出した延長は0.8m、最大幅40㎝、検出面からの深さ20㎝を測る。横断面形は3つのU字状の溝が切り合う形状である。

出土遺物　打製石包丁（S137）が出土している。

ＳＤ２０２５（図版100・写真図版83）

検出状況　E-2地区南、東壁付近で検出した。おおよそ東西方向に流れている。

形態・規模　調査区内で検出した延長は2.7m、最大幅44㎝、検出面からの深さ19㎝を測る。横断面形はU字状で2層に分かれる。

出土遺物　打製石器（S5）が出土している。

ＳＤ２０２６（図版100・写真図版84）

検出状況　E-2地区中央、東壁付近で検出した。調査区外から北西方向に流れている。

形態・規模　調査区内で検出した延長は1.7m、最大幅66㎝、検出面からの深さ15㎝を測る。横断面形はV字状で底面近くから土器が出土している。

出土遺物　弥生土器壺（734）、甕（735・736）、底部（737）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉である。

ＳＤ２０３０（図版100・写真図版70）

検出状況　E-1地区の北部に位置し、北東から南西方向に流れる。

形態・規模　調査区内で検出した総延長は9.1m、最大幅90㎝、検出面からの深さ20㎝を測る。横断面形は浅い皿状である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

5　水田（図版86・写真図版70・72）

E-2区全体に広がる。水田区画は1筆あたり3～12㎡を測り、いわゆる小区画水田に相当する。水田は区画の方向から少なくとも2時期が想定され、柱穴や土坑、溝との切り合いから前期末から中期初頭にかけての時期が考えられる。

第7節　F地区の調査

F地区は確認調査を行った結果、柱穴・溝などが多数検出され、土器が出土したため、本発掘調査を実施した地区である。（図版101～103・写真図版85）

調査の結果、弥生時代の複雑に建て替えられた竪穴住居跡と土坑、溝、水田跡、掘立柱建物跡4棟を確認した。調査区からは弥生時代前期から中期の土器を中心に若干の中世の土器、石鏃や石斧を初めとする石器が出土している。

1　掘立柱建物跡

ＳＢ２００１（図版104・写真図版85）

検出状況　調査区中央東壁沿いに位置し、調査区外に伸びている。

形態・規模　南北2間×東西2間以上（2.92×2.04m以上）である。柱穴は径22～30㎝程度の円形である。主軸はN13°Eを測る。南北の柱間距離は1.45m、東西の柱間距離は2.04mである。柱穴の深さは検出面から最大40㎝程度である。

出土遺物　弥生土器甕（707・708）がある。

ＳＢ２００２（図版104・写真図版85）

検出状況　調査区中程、SB2001の南西に位置している。

形態・規模　南北2間×東西3間（1.85×3.4m）である。柱穴は径18～58㎝とばらつきがあるが、平均30㎝程度の円形である。床面積は5.37㎡、主軸はN23°Wを測る。南北の柱間距離は0.74～0.84m、東西の柱間距離は0.8～1.6mである。南辺および東辺は柱穴が少ない。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　弥生土器壺（710）がある。

ＳＢ２００３（図版105・写真図版85）

検出状況　調査区南角の端に位置し、調査区外に続いている。

形態・規模　南北2間以上×東西2間（1.54×2.46m）である。柱穴は径16～32㎝程度の円形である。主軸はN68°Eを測る。南北の柱間距離は1.54m、東西の柱間距離は1.2mである。柱穴の深さは検出面から最大30㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＢ２００４（図版106・写真図版85）

検出状況　調査区北角に位置している。

形態・規模　南北3間×東西1間（6.9×2.5m）である。柱穴は径30～60㎝の円形である。床面積は17.04㎡、主軸はN4°Eを測る。南北の柱間距離は1.8～2.6m、東西の柱間距離は2.47mである。柱穴の深さは検出面から最大50㎝程度である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

2　竪穴住居跡

ＳＨ２００１～２００８（図版107～110・写真図版89・90）

検出状況　調査区南半、西壁沿いに位置し、調査区外にも広がっている。主柱穴及び中央土坑の切り合いの状況から新旧８期の変遷が考えられる。

形態・規模　全体の3/2程度が残存しており、おそらくほぼ正円形の平面形と思われる。直径7.75m。内側にも周壁溝がめぐり、直径は6.6m。

主 柱 穴　各時期によって推定８本→５本までばらつきがある。柱の掘方は直径23～60㎝、検出面からの深さは15～50㎝。柱痕は直径20～25㎝程度。SH2008には、直径10ないし13㎝の細い柱痕が2つみとめられた。

中央土坑　平面形は楕円形を呈するものが多く、長径0.95～1.4m、幅0.7～0.8m。床面からの深さ27～42㎝を測る。埋土は下層に炭を含む黒褐色層が多い。厚さ19㎝ほど認められるほかは概ね褐色のシルトから極細砂で構成される。

周 壁 溝　北東および南西にそれぞれ全体の1/6程度が残存している。幅10～23㎝、床面からの深さ12～15㎝を測る。内側の周壁溝は幅８～30㎝、床面からの深さ10～15㎝を測る。

出土遺物　弥生土器壺（705）、高杯（706）などが出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉である。

各住居跡の概略は以下のとおりである。

ＳＨ２００８

主 柱 穴　６本以上。

中央土坑　不明

ＳＨ２００７

主 柱 穴　６本。

中央土坑　一部のみ残存

ＳＨ２００６

主 柱 穴　６本。

中央土坑　楕円形を呈する。長径1.0m、短径0.75m。

ＳＨ２００５

主 柱 穴　６本。

中央土坑　楕円形か。長径1.1m、短径0.75m。深さ42㎝。

ＳＨ２００４

主 柱 穴　７本。

中央土坑　楕円形を呈する。長径1.4m、短径0.8m以上。深さ35㎝以上。

ＳＨ２００３

主 柱 穴　５本。

中央土坑　楕円形か。長径0.95m、短径0.7m以上。深さ37㎝。

ＳＨ２００２

主 柱 穴　７本。

中央土坑　楕円形を呈する。長径1.35m、短径0.7m。深さ27㎝。

ＳＨ２００１

主 柱 穴　4本以上。

中央土坑　隅丸方形を呈する。長径0.85m、短径0.7m。

3　土坑

ＳＫ２００２（図版110・写真図版86）

検出状況　調査区南、SH2001の南に位置している。

形態・規模　平面形は概ね楕円形で東西1.55m、南北0.92m、深さ25㎝。主軸はN88°Wを測る。断面は逆台形で埋土は2層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

4　溝

ＳＤ２００１（図版101・写真図版86）

検出状況　調査区南西隅を北東から南西方向に流れている。

形態・規模　検出長10.4ｍ、幅0.4～0.65ｍを測る。検出面からの深さは15㎝前後。

出土遺物　弥生土器723～725が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉である。

ＳＤ２００２（図版101・写真図版86）

検出状況　調査区西半を北北東から南南西方向に流れる溝であり、北では水田の畦畔上に位置し、畦畔を分割している。

形態・規模　検出長3.6ｍおよび8.2ｍ、幅0.25～0.6ｍを測る。検出面からの深さは5～10㎝。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ２００４（図版101・写真図版86）

検出状況　調査区西半をほぼ北東から南西に流れる溝であり、水田の畦畔上に位置し、畦畔を分割している。

形態・規模　検出長4.5ｍ、幅0.4～1.0ｍを測る。検出面からの深さは15～20㎝。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

SD2007～2012は調査区北東角付近をおおよそ南北方向に切り合いながら流れる溝群である。

ＳＤ２００８（図版101・写真図版90）

検出状況　SD2010・2011を切っている。北東から南西方向に流れ、途切れている。

形態・規模　検出長5.5m、幅0.4～0.7mを測る。検出面からの深さは55㎝。断面は逆台形状を呈し、2層に分けられる。底面はほぼ水平である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ２００９（図版101・写真図版85・86）

検出状況　調査区東角付近に位置し、北東から南方向に弧を描きながら流れる。SD2008、2012に切られている。

形態・規模　検出長4.5m、幅0.3～0.4mを測る。検出面からの深さは15㎝。断面は浅い皿状を呈する。

出土遺物　弥生土器の鉢（726）が出土している。

時　　期　出土土器から判断して、弥生時代前期後葉である。

ＳＤ２０１０（図版101・写真図版90）

検出状況　調査区北東角付近に位置し、調査区外から北東から南西方向に流れ、SD2012に合流する。

形態・規模　検出長3.15m、幅0.45mを測る。検出面からの深さは30㎝。断面は方形を呈し、2層に分けられる。底面はほぼ水平である。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ２０１１（図版101・写真図版85・90）

検出状況　調査区北東角付近に位置し、SD2012から分岐して、北東から南西方向に流れ、SD2009と合流している。

形態・規模　検出全長3.05m、幅0.4～0.2mを測る。検出面からの深さは5～10㎝。断面は浅い皿状を呈する。埋土は一部礫を多く含む。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

ＳＤ２０１２（図版101・103・写真図版85・90）

検出状況　調査区北東角付近に位置し、調査区外からおよそ南北方向に流れる。SD2011が分岐する。SD2008に切られている。

形態・規模　検出長7.8m、幅0.5～0.95mを測る。検出面からの深さは15～20㎝。断面は浅いU字状を呈する。埋土は1層ないし部分によっては2層に分かれる。

出土遺物　図化できる顕著な遺物は出土していない。

5　水田（図版101・写真図版85・86）

水田跡は調査区全体に広がり、等高線に沿って扇形に畦畔がめぐり、さらに放射状に区画している。水田区画は1筆あたり3.5～8.4㎡を測る。

区画の方向から少なくとも2時期が想定され、柱穴や土坑・溝との切り合い関係から、弥生時代前期末にかけての時期が考えられる。水田跡は居住区の営まれた微高地の縁辺の谷部に設けられており、灌漑用水や排水をスムーズに行う利点から緩やかな斜面が選択されたと考えられる。E地区同様小区画水田であり、時期も同様である可能性が高い。

第４章　発掘調査の成果－遺物－

第１節　概要

井手田遺跡から出土した遺物は、発掘調査終了時に確認したところでは、土器240箱（28ℓコンテナ換算）、石器・石製品520点、金属器７点であった。

その内訳はＤ・Ｅ・Ｆ地区を中心に出土した弥生時代前期の土器、Ｃ地区の方形周溝墓およびＤ地区等から出土した弥生時代中期の土器、Ｃ地区の竪穴住居跡等から出土した古墳時代中期の土師器、Ｃ地区の溝等から出土した奈良時代の須恵器・土師器、Ｃ地区の掘立柱建物跡等から出土した中世の土器、弥生時代及びそれ以前の打製石器・磨製石器などからなる。以下に種別・時代・地区ごとに記述を行ってゆく。

第２節　弥生時代の土器

１　Ｃ地区出土の土器

ＳＨ０００２（図版113・写真図版94）

25は口縁部に擬凹線を施した広口壺、26・27は分割成形の鉢であり、底部充填の痕跡が見られる。28は脚台付の鉢である。いずれも弥生時代後期のものである。

Ｐ１（図版113・写真図版94）

29は肩が張る弥生時代中期後半の広口壺の体部である。

Ｐ４４（図版113）

30は外面をハケで仕上げた甕の体部である。弥生時代中期のものである。

ＳＢ００３５（Ｐ４９）（図版113・写真図版94）

31は口縁端部に凹線文、頸部に圧痕文突帯を巡らせた直口壺である。弥生時代中期後半のものである。

ＳＢ００３２（Ｐ１３３）（図版113）

32は外面をハケで仕上げた弥生時代中期の壺底部である。

ＳＢ００４０（Ｐ５３７）（図版113）

33は古墳時代前期の甕である。

Ｐ５９８（図版113）

34は外面をハケで仕上げた弥生時代中期の壺の底部である。

Ｐ８６０（図版113）

35は弥生時代前期の壺の底部である。外面はハケの後に横方向のヘラミガキを施す。

Ｐ１０９４（図版113・写真図版94）

36は弥生時代前期後葉の甕である。口縁部端面に刻み目を施し、口縁部の下にヘラ描沈線を２条施す。胴部外面は縦方向のハケで仕上げる。粘土紐の積み上げは外傾接合である。

方形周溝墓１（図版114・写真図版94・95・96）

37は体部上半に櫛描直線文と波状文を交互に施した広口壺である。38・39は口縁端部に凹線文を施す直口壺である。38は外面をハケで、39は外面の下半部をヘラケズリで仕上げる。40は口縁端部に凹線文、頸部に断面三角形突帯を巡らせた直口壺である。41・42は甕である。体部外面の下半をヘラケズリで仕上げる。43は体部下半をヘラケズリした甕である。これらの土器はいずれも弥生時代中期後半のものである。

方形周溝墓２（図版114・写真図版96）

44は口縁端部に凹線文を施した直口壺である。体部外面下半を縦方向のヘラケズリで仕上げる。45は鉢である。口縁部に凹線文を施し、外面をヘラミガキ、内面をヘラケズリで仕上げる。いずれも弥生時代中期後半のものである。

方形周溝墓３（図版115・写真図版96）

46は口縁端部に凹線文、体部に貝殻腹縁による列点文を施した直口壺である。47は口縁端部を内面に肥厚させ頸部との境に２条の貼り付け突帯を施した壺である。48は小型の長頸壺である。底部は低い脚台状に作られる。いずれも弥生時代中期後半のものである。

方形周溝墓４（図版115）

49は口縁部に凹線文を施した高杯の杯部である。外面はヘラミガキを施す。弥生時代中期後半のものである。

方形周溝墓７（図版115・写真図版97）

50は口縁端部を拡張し端面に凹線文を施し、内面に櫛描きの列点文を施す。頸部にも凹線文、体部上半に櫛描波状文と直線文を施した広口長頸壺である。体部外面下半はヘラミガキで仕上げる。弥生時代中期後半のものである。

ＳＫ０００１（図版115）

51は口縁部に凹線文を施す高杯の杯部である。弥生時代中期後半のものである。

ＳＤ００１９（図版115）

52はヘラ描沈線を施した壺である。

ＳＤ００２０（図版115・写真図版96・97）

53は口縁端部を拡張し凹線文を施した短頸の広口壺である。外面はハケで仕上げる。54は口縁端面に刻み目を施した短頸の広口壺である。いずれも弥生時代後期初頭のものである。

ＳＤ００２１（図版115）

55は台付鉢の脚部である。底部は円盤充填されており、脚部と鉢部の境に断面三角形突帯を貼り付ける。脚部の上端に円形の透孔をあける。弥生時代中期後半のものである。

２　Ｄ地区出土土器

ＳＨ１００１（図版129・写真図版120）

268・272は壺の口縁部である。269・274は肩部に櫛描直線文を施した壺である。269は広口壺、274は細頸壺である。270・273は肩部にヘラ描沈線を施した壺である。271は壺の底部である。275・276は逆Ｌ字形口縁の甕である。275は５条、276は１条の沈線を施す。277～280は外反口縁の甕であり、３条～５条の沈線を施す。281は素文の甕、282は甕の底部である。これらの土器はいずれも弥生時代中期初頭のものである。

ＳＨ１００２（図版129）

283・284は壺の口縁部である。284は外面にヘラ描の山形文、内面に刻み目突帯を２条貼り付けている。285は逆Ｌ字形口縁の甕である。沈線を４条施す。286・287は外反口縁の甕である。286は口縁端部に刻み目を施し、287は外面にヘラ描沈線を施す。これらの土器はいずれも弥生時代前期末のものである。

ＳＨ１００３（図版129）

288～292は逆Ｌ字形口縁の甕である。胴頸部境に３条～７条のヘラ描沈線を施す。290、292は口縁端部に刻み目を施す。293は鉢の口縁部である。外面に７条のヘラ描沈線を施す。294は壺の底部である。これらの土器はいずれも弥生時代前期末のものである。

ＳＨ１００４（図版130・写真図版120）

295は沈線の間に山形文をヘラ描きする破片である。296はヘラ描直線文を施す壺の頸部である。297は櫛描文の下に扇形文を施す破片である。298は頸胴部境と肩部にヘラ描沈線を施す壺である。299は刻み目突帯の下にヘラ描き直線文と山形文、直線文を施した壺である。301・302は逆Ｌ字形口縁の甕であり、口縁部下に沈線を施す。303～306は外反口縁の甕であり、２条～５条の沈線を施す。307は５条の沈線の下にヘラ描きの山形文を配する外反口縁の甕である。308は甕の底部である。309～311は口縁部下にヘラ描沈線を施した鉢である。309の口縁端部は肥厚し刻み目を施している。これらの土器はいずれも弥生時代中期初頭のものである。

ＳＨ１００５（図版130）

312は外面に沈線を施した壺の口縁部である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＨ１０１１（図版130）

313は断面三角形突帯を貼り付けた壺の口縁部である。314は鉢である。315・316は土器片を加工した紡錘車である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＨ１０１４（図版130・写真図版121・巻頭図版5）

317は壺の体部、318は口縁部に粘土を貼り付けて突起をつくり、口縁部下にヘラ描沈線、その下に突帯を巡らせる粗製の甕である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＨ１０１５（図版130・写真図版120）

319は外面にハケを施した甕の底部である。320は口縁部下に６条のヘラ描沈線を施した逆Ｌ字形口縁の甕である。321は甕の破片である。いずれも弥生時代前期末のものである。

ＳＨ１０２１（図版131・写真図版121・122）

322は頸胴部境に貼り付け突帯を巡らせた壺、323はヘラ描沈線を施した壺である。いずれも外面をヘラミガキで仕上げる。324は裾にヘラ描沈線を巡らせ頂部に円孔をあけた壺蓋である。325は頸部に刻み目突帯を２条巡らせる壺である。内面はヘラミガキで丁寧に仕上げている。326は壺の頸部、327は口縁端部に刻目、その下に沈線を施した甕、328は甕の底部である。いずれも弥生時代前期後葉のものである。

Ｐ１０２４（図版131）

329は逆Ｌ字口縁の甕であり、５条の沈線を施している。弥生時代中期初頭のものである。

Ｐ１０３３（図版131・写真図版120）

330は小片であり文様の全容は不明であるが、ヘラ描流水文を施した土器である。弥生時代中期初頭のものである。

Ｐ１０９１（図版131）

331は口縁端部に刻み目を施し、口縁部下に５条の沈線を施した甕である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１００３（図版131・写真図版122）

332は口縁端面に沈線を施し、その上から縦方向に刻み目を施した壺の口縁部である。口縁部の下には沈線を多条に施す。333は壺の頸部であり、口縁部と頸部の境に沈線を多条に施す。334は削り出し突帯の甕である。336、337は甕である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１０１７（図版131・写真図版122）

338は肩部にヘラ描沈線を施した壺である。339は逆Ｌ字形口縁の甕、340・341は外反口縁の甕である。いずれも口縁端面に刻み目を施し、口縁部下にヘラ描沈線を施す。いずれも弥生時代前期末のものである。

ＳＫ１００１（図版132・写真図版123・124）

342・345は頸胴部境に沈線を施した壺である。343は口縁部下に沈線を１条施した壺である。344は壺の底部である。346は櫛描直線文を施した壺である。347はなで肩の胴部に長い頸が付く直口壺、348は壺の底部である。349・350-1・351～353は甕である。353は外面をヘラケズリする紀伊型甕である。350-2は甕の底部、354は逆Ｌ字口縁の甕、356は間隔をあけた沈線を施す甕である。355は鉢、358は甕の底部である。

359は口縁部に刻み目を施し肩部に櫛の刺突による列点文を施す広口短頸壺である。360は３条の削り出し突帯を巡らせた甕、361は素文の甕である。362は壺の底部である。363は口縁端部に刻み目、直下に刻目突帯を巡らせた台付鉢である。

これらの土器は弥生時代前期末から中期中葉のものであり、その中心は中期初頭である。

ＳＫ１００２（図版133）

364・365は壺の底部、366は鉢である。弥生時代中期のものである。

ＳＫ１０１０（図版133）

367・368は甕の底部、369はヘラ描沈線を施した甕である。弥生時代中期初頭のものである。

ＳＫ１０１４（図版133）

374は頸部に沈線を巡らせた壺である。弥生時代中期初頭のものである。

ＳＫ１０１９（図版133）

375は壺の底部、376は波状口縁の甕である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１０１１（図版133）

370は頸部に直線文と山形文を施す壺、371は頸部に櫛描直線文を施す壺である。372は甕もしくは鉢の口縁部、373は甕の底部である。弥生時代中期初頭のものである。

ＳＫ１０２１（図版133）

382は広口壺の口縁部、383は甕である。弥生時代前期後葉のものである。

ＳＫ１０２０（図版133）

377～379は口縁部下に沈線を施した甕である。380は壺の底部、381は鉢である。弥生時代前期末のものである。

ＳＫ１０２２（図版133）

384は壺の底部である。弥生時代中期のものであろう。

ＳＫ１０２６（図版133）

385は壺の底部である。弥生時代中期のものであろう。

ＳＫ１０２７（図版133）

386・388は壺の底部、387は甕の口縁部である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１０３１（図版133）

389は壺の底部である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１０４０（図版133）

390は甕である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１０４２（図版133）

391は甕である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１０５４（図版133）

392は壺の底部である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ１０５６（図版133）

393は壺の口縁部である。弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＸ１００４（図版134～137・写真図版124～127）

394～401は広口壺である。395・396・398は頸部に突帯を巡らせる。397は削り出し突帯の上から縦方向の沈線を入れる。399は刺突文の下に櫛描直線文を２条施し、400は櫛描直線文の間に貼り付け突帯を巡らせる。401は頸部と胴部に櫛描直線文を巡らせる。

402・403は櫛描直線文を施した壺の胴部である。404・405は短頸壺であり、404は櫛描直線文を頸部に巡らせる。406・407は縦長の胴部に細く短い頸部が付いた直口壺である。文様は施さない。409は広口壺の口縁部である。410は口縁端部に刻み目を施す直口壺、411は櫛描波状文を施した壺の胴部、412～418は壺の底部である。

419～426は紀伊型甕である。422は体部上半に横方向のヘラケズリが認められる。427～429は甕の底部である。428は縦方向のヘラケズリを施す紀伊型甕である。430～436は逆Ｌ字形口縁の甕である。436のみ櫛描文が認められる。437～441は外反口縁の甕である。438・439はヘラ描沈線、他は櫛描直線文を施す。

442・443は外反口縁の甕もしくは鉢の口縁部である。442はヘラ描きの直線文、443は口縁端面に刻み目を施す。444～461・466・467は甕である。446・453・455・460は口縁端面に刻みを施す

ものであり、このうち446・453・455はヘラ描直線文を施し、460は櫛描直線文を施し、外面にス、内面に炭化物が付着する。その他は口縁に刻み目がなく、外面に櫛もしくはヘラで直線文や波状文を施す。462～465は底部を穿孔した甕である。462は口縁端面に刻み目、外面に櫛描直線文を施す。464は胎土に結晶片岩を多く含む。468～475は壺もしくは甕の底部である。

476～488は鉢である。口縁部をくの字形に屈曲させるもの（480・470・477）と口縁端部を肥厚させるもの（476・481・482）がある。485は把手が付くものであり、486は口縁部下に櫛描直線文を施すものである。488はミニチュアの鉢である。

これらの土器は一部弥生時代中期中葉に下がるものが含まれるが、大半が中期初頭のものである。

ＳＸ１００５（図版138・139・写真図版127・128）

489は蓋であり、外面にヘラミガキを施す。490～492は広口壺の口縁部・493は短頸壺である。494は突帯を貼り付けた壺の胴部、495は削り出し突帯に沈線を施した壺の頸部、496はヘラ描直線文を施した壺の頸部である。497・498は突帯を貼り付けた壺である。499は櫛描直線文を４段施した壺の頸部である。500は口縁端面に櫛描波状文を施した壺である。501は２条の突帯の間に縦方向に突帯を貼り付け、格子状にしたものである。502は頸部に刺突文、櫛描波状文を施した壺である。503～511は壺の底部である。510は胎土に結晶片岩を多く含む。512は櫛描波状文、直線文を施した細頸壺である。513は櫛描直線文・波状文、刺突文を施す無頸壺である。

514～519は逆Ｌ字形口縁の甕である。514～516・519はヘラ描沈線、518は櫛描直線文を施す。520～522・524～531は外反口縁の甕である。全てヘラ描沈線を施す。523はヘラ描沈線を頸部に施す壺である。532は口縁部を外反させた鉢であり、口縁端面に刻み目、口縁部下にヘラ描沈線を施す。533は大型の甕であり、櫛描直線文の下に櫛による刺突文を配する。534は甕の口縁部、535～540・542～544は壺もしくは甕の底部である。541は口縁部を外反させた鉢、545は把手付の鉢、546は丸みを帯びた体部に２条の貼り付け突帯を巡らせ、間にヘラ描直線文を配した鉢である。534は中期後半以降のもの、その他は中期初頭のものである。

ＳＸ１００６（図版139・140・写真図版129）

547～556は広口壺である。547は端面に刻み目を施した口縁部片、549～553は櫛描文を施した頸部である。554は頸部に８条以上の突帯を貼り付け、刻み目を施したものである。555・556はヘラ描沈線を施す。

557～560は壺の底部である。561～567は紀伊型甕である。561と566は外面に縦方向のヘラケズリが施される。568～570は逆Ｌ字形口縁の甕である。570を除き、口縁端面に刻み目、口縁部下にヘラ描沈線が施される。571・572は外反口縁の甕であり、口縁端部に刻み目、口縁部下にヘラ描沈線が施される。573は大型の鉢であり、口縁端面に刻み目が施される。574・575は甕の底部である。576～580は外反口縁の甕である。口縁部に刻み目の入るもの（576・577・580）と入らないものがある。

581は外面に貝殻条痕による直線文を施した鉢である。582は外反し端部を肥厚させた口縁部をもつ甕である。583は大型の甕もしくは鉢、584は沈線を施した鉢である。

582・583は弥生時代中期中葉のもの、他は弥生時代中期初頭のものである。

ＳＸ１００７（図版141）

585・586は壺もしくは甕の底部である。

ＳＸ１００８（図版141）

587は櫛描直線文の施された土器片である。

ＳＸ１００９（図版141）

588は頸部に刻み目を施した３条の突帯を巡らせた広口壺である。589はヘラ描沈線を施す甕の口縁部、590はヘラ描沈線を施す鉢の口縁部である。いずれも弥生時代中期初頭のものである。

ＳＸ１０１０（図版141・写真図版130）

591は広口壺の口縁部、592はヘラ描沈線を施す壺の頸部、593はヘラ描沈線を施す壺の肩部である。594～597は壺の底部である。598は小型の甕である。口縁部下にヘラ描沈線を施す。599は逆Ｌ字形口縁の甕である。600～604は外反口縁の甕であり、600・603はヘラ描沈線、602は櫛描直線文を施す。604は口縁部端面に刻み目を施す。605は甕の底部、606は筒型の脚部であり鉢の一部であろう。

これらはいずれも弥生時代中期初頭のものである。

ＳＸ１０１１（図版142～144・写真図版130～132）

607・608は甕蓋である。608は裾部に穿孔がある。609は壺の口縁である。610～616は広口壺である。611は胎土に結晶片岩を多く含み、頸部と胴部に三角形突帯を貼り付け、外面を横方向のヘラミガキで仕上げる。614も三角形突帯を頸部に貼り付ける。615は頸部に４条の突帯を巡らせ刻み目を施している。612・613・616は頸部にヘラ描沈線を施す。617・618はヘラ描直線文を施す壺の体部である。619は壺の底部、620は肩のはった広口壺、621は壺体部の下半部である。622は壺の底部であり、外面にヘラミガキが施される。618・621・622は胎土に結晶片岩を多く含む。623・624は壺の底部である。

625・626は逆Ｌ字形口縁の甕である。625は口縁端面に刻み目、口縁部下にヘラ描沈線を１条施す。626は口縁端面に沈線を１条入れ、その上に刻み目、口縁部下にヘラ描沈線を５条施す。627～639は外反口縁の甕である。装飾のあるものは638のみ櫛描直線文、他はヘラ描沈線である。639は沈線の下に円形浮文を貼付する。640～642は壺・甕の底部である。643は体部上半をヘラ描直線文で飾り、その上に浮文を貼付する甕である。644は刻み目突帯の上下にヘラ描沈線を多条に施す甕である。645～649は口縁端面に刻み目を施し、口縁部下にヘラ描沈線を巡らせる甕である。沈線の条数は２条（646）から９条（647）まで幅がある。650は小型の鉢、652は口縁部下にヘラ描沈線を巡らせる鉢である。651は把手付の鉢、653は大型の鉢である。これらの土器は弥生時代中期初頭のものである。

ＳＸ１０１２（図版144・写真図版133）

654は断面三角形突帯を貼付した壺の頸部である。655は口縁部に双孔をあけた無頸壺、656はヘラ描直線文を施した甕である。657～659はヘラ描沈線を巡らせた甕の口縁部である。660は口縁部を外

反させた鉢である。これらは弥生時代中期初頭のものである。

ＳＤ１００２（図版145・写真図版133）

661は「くの字」口縁の甕である。外面をハケで仕上げ、施文はない。662は底部である。弥生時代中期中葉のものである。

ＳＤ１００３（図版145・写真図版133）

663～665は広口壺の口縁部であり、664・665は貼り付け突帯で加飾する。666は刻み目突帯を口縁部に巡らせた鉢である。667はヘラ描沈線を施した甕の口縁部である。668・669は外反口縁の甕である。いずれも口縁部下にヘラ描沈線を巡らせる。670は甕の底部である。これらは中期初頭から中葉のものである。

Ｄ地区包含層（図版145・146・写真図版134）

671～693が弥生時代の土器である。

671は肩部に２条のヘラ描沈線を巡らせる壺である。672・673は肩部に刻み目を施した貼り付け突帯を巡らせた壺である。674は頸部に櫛描直線文を巡らせた壺である。675～677は壺の底部である。678は「くの字」形に屈曲する口縁部が付いた壺である。679・680は頸部に刻み目を施した貼り付け突帯を巡らせた広口壺である。681は口縁端面に円形浮文を貼り付け、口縁部にヘラ描沈線を巡らせた直口壺である。682は櫛描直線文を巡らせた壺の頸部である。683は外面をヘラケズリする紀伊型甕、684・685は逆Ｌ字形口縁の甕、686・688・690は口縁部に刻み目、口縁部下にヘラ描沈線を巡らせる外反口縁の甕である。687・689・691・692は口縁部下にヘラ描沈線を巡らせる外反口縁の甕である。693は短く外反する口縁が付く鉢である。これらは弥生時代中期初頭から中葉のものである。

３　Ｅ地区・Ｆ地区出土土器

ＳＨ２００１（図版147・写真図版135）

705は太めの頸部に櫛描直線文を巡らせた広口壺である。706は高杯の脚部である。弥生時代中期中葉のものである。

ＳＢ２００１（図版147・写真図版135）

707は逆Ｌ字形口縁の甕である。口縁部下にヘラ描沈線を多条に巡らせ、その下に刺突文を配する。708は甕の底部である。弥生時代中期初頭のものである。

ＳＢ２０１４（図版147）

709は頸部に２条のヘラ描沈線を巡らせた広口壺である。

ＳＢ２００２（図版147・写真図版135）

710はヘラ描の直線文と列点文を交互に配した壺の頸部である。

ＳＫ２００３（図版147・写真図版135）

711は口縁端面に刻み目を入れ、口縁下に１条のヘラ描沈線を巡らせる外反口縁の甕である。712は体部が丸みを帯びた外反口縁の甕であり、口縁下に５条のヘラ描沈線を巡らせる。いずれも弥生時代前期末～中期初頭のものである。

ＳＫ２００６（図版147・写真図版135）

713は広口壺の口縁部、714は鉢もしくは甕の底部である。

ＳＫ２０１０（図版147）

715は口頸部境にヘラ描沈線、肩部にヘラ描で直線文と山形文を施した広口壺である。

ＳＫ２０１１（図版147）

716は口縁端部に刻み目、口縁部下にヘラ描直線文を施した外反口縁の甕である。

ＳＫ２０１６（図版147）

717は壺の底部である。

ＳＫ２０１７（図版147）

718は壺の底部である。

ＳＫ２０３４（図版147・写真図版135）

719は外面をハケで仕上げた無文の甕である。

ＳＫ２０３２（図版147・写真図版135）

720は外面を縦方向にヘラミガキした壺もしくは甕の底部である。

ＳＫ２０３０（図版147）

721は口縁部下にヘラ描沈線を巡らせた逆Ｌ字形口縁の甕である。722は口縁端部に刻み目を施し、口縁部下にヘラ描直線文を施した甕である。

ＳＤ２００１（図版148）

723は内面を突帯と刺突文で飾った広口壺の口縁である。724は口縁部端に刺突文、その下に突帯を貼り付けた口縁部の破片である。725は口縁部下にヘラ描沈線を巡らせた外反口縁の甕である。

ＳＤ２００９（図版148・写真図版136）

726は外面をハケで仕上げた大型の鉢である。727は裾を外反させた底部である。

ＳＤ２０２６（図版148・写真図版136）

734は口頸境にヘラ描沈線を２条巡らせる広口壺である。735は短い外反口縁の甕、736は口縁部に刻み目、口縁部下に２条のヘラ描沈線を巡らせる甕である。737はハケの上からヘラミガキを施した底部である。これらの土器は弥生時代前期後葉のものである。

ＳＤ２０１８（図版148）

733は口縁端部に刻み目、口縁部下に３条のヘラ描沈線を施した甕である。

ＳＤ２０１３（図版148）

728は胴部に刻み目を施す突帯を巡らせ、縦方向にも突帯を貼り付けた壺の胴部である。

Ｅ地区包含層（図版149・写真図版136）

740は頸部に櫛描直線文を３段に、口縁部内面に櫛描扇形文を配する広口壺である。738は口縁部下にヘラ描沈線を施す甕である。739は外面をハケで仕上げた甕の底部である。

Ｆ地区包含層（図版149・写真図版137）

743は口縁部に円孔のある無頸壺、744は刻み目突帯を巡らせた紀伊型甕、745は頸部にヘラ描沈線を巡らせた壺、746は体部上半に櫛描直線文を巡らせる壺である。747は壺底部、748は口縁端面に波状文、頸部に圧痕文突帯を巡らせた広口短頸壺、749は口縁端面に斜格子文を施す広口壺である。750は紀伊型甕、751は無文の外反口縁甕、752は底部、753は突帯を貼り付けた甕、である。754・755は口縁部下にヘラ描沈線を巡らせる甕、756は小型の鉢である。757は凹線文を施した鉢、758は「くの字」口縁の鉢である。弥生時代中期初頭から中葉の土器である。

第３節　古墳時代の土器

１　Ｃ地区出土の土器

竪穴住居SH0001～SH0012や方形周溝墓から古墳時代の土師器・須恵器が出土している。その多くは土師器である。

ＳＨ０００１（図版116・写真図版98）

土師器甕56は口縁部が「く」の字状に外反する。ほぼ完形で残っている。口径は13.2㎝。器高は20.6㎝で胴部最大径は19.1㎝。胴部はやや長めで平底気味。下半部は薄く煤けている。

手づくね土器57・58がある。57はおおよそ半球形の形状で口径6.5㎝、4.0㎝。58は57より小振りで口径4.6㎝、器高3.7㎝、ほぼ完存している。古墳時代中期の土器である。

ＳＨ０００２（図版116・写真図版98）

底部59～61がある。おそらく壺の底部で弥生時代後期の土器であるが、62は最大径7.5㎝。ほぼ丸底のミニチュア土器で、おそらく古墳時代中期に下るもので混入と思われる。この竪穴住居跡からは弥生時代後期の土器25～27が出土しており、こちらが遺構の時期を示すものと思われる。

ＳＨ０００３（図版116）

土師器壺63は小型丸底壺が大型化した器形である。口径11.5㎝、器高16.3㎝、胴部最大径15.95㎝。灰白色で薄手。叩き後調整か。

ＳＨ０００４（図版116）

土師器高杯杯部64は有稜の大型タイプで、口径20.8㎝。脚との剥離跡が明瞭で、竹管の刺突後が残る。口縁部端面は直線的にカットしている。

ＳＨ０００５（図版116・写真図版98）

土師器壺65は大きく直線的に開く小型丸底壺を大型化した器形で口径13.7㎝である。66は小型丸底壺である。口径8.45㎝、器高7.35㎝、胴部最大径7.95㎝。67は手づくね土器である。口径5.9㎝、器高5.35㎝、腹部最大径7.15㎝。68の高杯は杯部に稜がないタイプである。口径18.9㎝、器高12.55㎝、脚部径12.25㎝。

ＳＨ０００６（図版116・写真図版99）

土師器壺69は二重口縁で、底部付近は火を受けており、もろい。70は鍋もしくは大型の鉢である。71は平底の壺である。口縁はひずみ、一部打ち欠かれている。粗製の土器である。72は手づくね土器である。胎土はオレンジと白である。

ＳＨ０００７（P0203）（図版117・写真図版99）

土師器高杯杯部81がある。

ＳＨ０００８（図版117・写真図版99・100・巻頭図版8）

須恵器樽形はそう73はほぼ完形である。口縁部は二重口縁である。胴部両端に円盤を充填して製作している。製作技法や内部の接合方法や調整がよく観察できる良資料である（写真図版100）。

74は土師器壺の胴部で細い口縁部がつくものと思われる。肩部の粘土紐の接合痕がよく観察できる（写真図版99）。75の高杯脚部は杯部との接合時に粘土を貼り足した痕跡が良く残る。

ＳＨ０００９（図版117）

76は椀状の杯部をもつ土師器高杯でオレンジ色の緻密な胎土である。

ＳＨ００１０（図版117・写真図版99）

77は土師器の甕である。短く直立気味の口縁に球形の胴部をもつ。粗製で薄くもろい。78は口縁部を欠くが、おそらく土師器椀である。底部に火を受けている。土師器高杯79は椀状の杯部でオレンジ色の胎土である。80はやや大型の高杯で、杯部の内側は薄く煤けている。

ＳＨ００１３（図版117・写真図版99）

82は中型の土師器壺である。かなり薄手の土器である。83は大型の壺で肩部内面の粘土紐の接合痕が観察できる、ややいかり肩のプロポーションである。84は高杯杯部である。

ＳＢ０００５（図版117）

85は土師器の鉢である。わずかに屈曲する口縁と底部は欠くがおそらく半球形の胴部を伴う。古代に下る可能性もある。

Ｐ５４４（図版117・写真図版99）

86はやや大きめの土師器小型丸底壺である。底部など火を受けている。87は甕の口縁である。「くの字」状に開く口縁でなで肩の器形である。

ＳＢ００１３（Ｐ８６７）（図版117）

88は土師器高杯脚部である。柱状部と裾部の境で明瞭に屈曲する。円形透かしを３方向に穿つ。

ＳＨ００１２（図版118～124・写真図版101～111）

コンテナ40箱にも及ぶ大量の土師器が出土しており、残りのよい個体のみ図化している。

89～93は二重口縁の壺である。屈曲部の作りはバラエティがあるが、典型的な二重口縁と比較的して崩れたタイプに属するものが多い。端面もどちらかといえば丸みを帯びたものが多い。

94～98は中型の直口壺である。肩部内面の粘土紐の接合痕をそのまま残すものと、ヘラ削りを行う物がある。

95は器壁が薄く硬い。97も器壁が薄い。96は籾痕が残る。

99・100は口縁部が比較的短く胴部の高さが胴径より短いタイプの壺である。

101～117は小型丸底壺である。101のように胴部の高さより口縁部の高さが大きく、胴径より口径の大きな比較的古いタイプの特徴をもつものから、115のように口径より胴径が大きく、高さも胴部の方が大きいものまでバリエーションに富む。調整は外面が刷毛、内面は指ナデが主体であるが、115のように外面にヘラ削りを施すもの、114のように叩きの痕跡がみとめられるものもある。115は器壁が厚いためかやや重く、外部に粘土の小塊が付着している。101のように体部におそらく意図的に穿孔されているものもある（写真図版101）。112は底部がやや角張ったつくりで底がやや重い。二次的に火を受けている。口縁端部は玉縁状に収められている。110も二次的に火を受けている。113は口縁端部を欠く。体部の器壁は厚く重い。平底気味の器形である。117は胎土が精良で薄手で白っぽい。薄く赤色顔料を塗布しているか？106も厚手で重い。

118は鉢で口縁部はヨコナデしていない。外面に赤色顔料みられる。

119は無頸壺のミニチュアか。器壁が厚く重い。120はごく薄手の手づくね土器であり、二次的に火を受けている。121の手づくね土器の色調は黒く、底部に石が動いた傷が残る。

122～149は甕である。胴部外面下半に火を受け、煤けているものが多い。122～127は口縁部が内湾する布留式の甕の系譜に属するものである。胴部は概ね球形よりやや縦長の形状で、外面は細かめの刷毛目、内面はヘラ削りである。128は概ね庄内式の甕に近い形態のものである。倒卵形の器壁は薄く、内面も丁寧にヘラ削りが施されている。

129～149は口縁部がくの字状に外反する甕である。口縁部内面に刷毛目が残るものが半数程度ある。胴部は球形に近いものから肩の張るもの、なで肩のものなどバリエーションに富むが、明瞭な長胴に復元できるものはない。外面の刷毛目も粗く主に縦方向に施される。胴部内面は肩部までヘラ削りが及ばず、130のように粘土紐の接合痕が残るもの、全体に板ナデ、もしくは刷毛目がみられるものもあり、調整にばらつきがみられる。129は底面に剥離痕がみられる（写真図版104）。140は肩部に「逆V」のヘラ記号がみられる。

150～177は高杯である。杯部が有稜のもの、なだらかに屈曲するものの３タイプに大別できる。脚部もラッパ状に広がる物と柱上部と裾部の境で明瞭に屈曲するものがある。円孔を穿つものは176のみで、177は竹管状の工具による刺突文を千鳥状に上下２段に配している。脚柱部内面はヘラ削りを行うものが多いが、150・168・174・160のように内面に粘土紐の巻き上げ痕をそのまま残すものがある。杯部と脚部が剥離した資料も多く、いくつかのタイプの製作・接合工程を推測できる例があり、写真図版に示した。

150～152は椀状に近い杯部の高杯である。151は摩滅が著しいが、口縁端部は小さく玉縁状に巻き込んでいる。152は口縁端部が短く外屈し、脚端部もやや強いヨコナデを施しており、この２点は端部まで細かく作り込んだタイプである。152は脚内にモミ痕らしきものが認められる。

153は脚部との接合部の中心に刺突痕が残る。

154の杯部内面の残りは良好である。

155以降は杯部に稜があるタイプである。155は全体に厚手で重い。156は杯と脚の接合部に曲面の剥離痕がみられる。157は杯部に脚柱部を貫通させて接合している。158の口縁部内面は煤けている。159は脚端部が歪む。色調は赤褐色で赤みが強い。脚の付け根でぽっきりと折れている。160は杯部内面に見込みまで刷毛目を施している。161は脚端部がカットされ、全体にシャープで硬い感じのつくりである。162は脚柱部の内面が黒い。

163～171は稜の部分で接合した高杯である。164は脚部内面の絞り目が残る。165は杯と脚の接合部外面に粘土塊を貼り足している。166は脚端が薄く尖る。167は口縁部内面見込みまで刷毛目を施している。白っぽい仕上がりである。

169・175は器壁が厚く重い。170は内面に磨きがみられる。171は杯底部の円盤に外反する口縁部を貼り足した剥離痕が明瞭であり、脚端部をカットしたのちヨコナデしている。

172・173は頑丈な脚部に比して小型で浅い杯部を持つタイプである。172は杯と脚の接合部外面に粘土を貼り足している。174は杯部内面中央が凹み、脚柱部との接合にヘソ状の刺突痕がみられる。173、176は杯底部の円盤に口縁部を貼り足した箇所で剥離している。

ＳＤ０００２（図版125・写真図版111・112）

178～186は須恵器、187～194は土師器である。

須恵器178・179は口径10.4ないし11㎝。須恵器杯身180～184の口径はおよそ10.2～10.6㎝。184はやや大型で11.3㎝。杯蓋・杯身とも口径は矮小化し、杯身の立ち上がりも退化している。178・183・181は硬く焼け締まっている。182は瓦質に近い軟質である。183は焼き歪む。

185は無頸壺であり、肩部に１条の浅い凹線がめぐる。186は高めの高台をもつ壺の底部である。

187は土師器の椀で「まり」とも称すべきやや深めの器形である。外面に赤色顔料がみられ、底部に孔を穿っている。

188は小型の甕の口縁である。口縁部と胴部の境界は屈曲せず曖昧である。胴部は焼けており、内面は全体に煤けている。189の甕もしくは壺は薄い橙色を呈している。190は球形の胴部に「くの字」状にひらく口縁をもつ甕である。胴部外面の刷毛目は細かく精緻である。191は肩部が張らない甕であり、内面は口縁部およびそこから１段下がったところまで横方向の刷毛目を施している。

192は有稜で大きく広がる高杯杯部である。193は三方向に円孔を持つ高杯脚部である。194の脚部は厚手のつくりである。外面は縦方向に面取り状にナデ、脚裾部に刷毛目を施している。

178～187は古墳時代後期のものである。191もおそらくその時期であろう。192は古墳時代中期に遡るものであり、他のものについては、細かい時期は不明である。

ＳＤ００１２（図版125・写真図版112）

195は土師器の小型の壺もしくは甕である。内面は粘土紐の継ぎ目・指押さえ痕が残る。

ＳＤ００２０（図版125・写真図版112）

196は土師器高杯杯縁部である。円盤状の平らな底部から直線的に開くがその屈曲部には稜がない。197は高杯脚部である。脚柱部と裾部の境の屈強ははっきりとせず、ラッパ状に開く。外面は縦方向の刷毛目を施す。脚柱部に内面は粘土の絞り目が残る。かなり大型で口縁部も大きく開く杯部が伴っていたと思われる。

ＳＫ０００４（図版125・写真図版112）

198～200はいわゆる土師器の小型丸底壺である。198の破面は摩滅し、胴部には孔が穿たれている。外面は刷毛目、内面は指ナデである。器壁は薄く均整のとれたつくりである。199は完形である

が、全体に雑なつくりである。内面には粘土紐の継ぎ目が残り、外面には粘土粒が付着したままである。二次的に火を受けた可能性がある。200はやや肩の張る胴部に短く直立する口縁部が付く。体部はやや厚手で重く、底部には筋状の圧痕が残る。

201・202は有稜タイプの土師器高杯杯部である。口径は19.8㎝と18.6㎝と大型である。201は稜の所で円盤部分から剥離している。202も同様に剥離痕が明瞭である。203は高杯脚部で、脚柱部と裾部の境で屈曲するタイプである。脚柱部内面には絞り目の痕が残り、指押さえの痕が広い範囲で残っている。孔は穿たれていない。脚端部の仕上げが特徴的である。

いずれも古墳時代中期のものである。

C地区包含層（図版128・写真図版117）

241～243が古墳時代の土器である。

241は土師器の高杯である。稜を持ち、大きく口縁が広がるタイプで、古墳時代中期のものである。

242・243は須恵器の杯身である。口径は10.1ないし10.85㎝。242は底部外面に「一」のヘラ記号がある。いずれも立ち上がりが内傾し、古墳時代後期末のものである。

2　D地区出土の土器

D地区包含層（図版146）

697・698・703・704を古墳時代の土器としてここで取り上げる。

697は須恵器杯蓋である。口径10.9㎝の矮小化し器高も低い終末期の形態をとる。702は須恵器高杯の脚である。長脚1段透かしであれば、古墳時代後期初頭に位置づけられる。703は須恵器の甕もしくは壺の口縁部である。704は須恵器の壺の肩部でやや軟質である。

3　E・F地区出土の土器

SD2013（図版148）

730・731は土師器の高杯杯部である。いずれも稜をもち大きく口縁が開くタイプである。729は土師器の甕もしくは壺の口縁部である。一端立ち上がり外反する。胎土は良好で731の高杯とよく似ている。古墳時代中期の土器である。

第４節　古代・中世の土器

１　Ｂ地区出土の土器

Ｂ地区の落ち込み及び包含層から、製塩土器・土師器・須恵器が出土している。概ね古代以降のものであるが、一部それ以前のものも含まれている。

落ち込み（図版111・112・写真図版91～93）

1～8は製塩土器である。厚手で深い鉢状のもので、5・8は全体の形状が砲弾状を呈する。底部は丸底からやや尖り気味の底もある。口縁端部は1では丸く収めており、2・3はわずかに肥厚し、4では四角く収め、5～7は内傾し、肥厚するといったバリエーションがある。口径は17㎝前後のものと、15㎝前後に分かれる。器高は16～17㎝と概ね似通っているが、8のみ18.6㎝以上である。外面は摩滅が著しいものが多い。3は底部付近に刷毛目がみられる。内面の調整は指押さえとナデ、縦方向の指ナデで、布圧痕のあるものはなかった。1にはモミ痕がみられた。いずれも奈良時代のものである。

9は土師器高杯脚部で、粘土紐の巻き上げ痕や脚上部のヘソ状の円盤充填が観察できる。外面はヘラでなでて仕上げている。大型の器種である。古墳時代中期以降のものである。

10は土師器の把手を伴う鍋などの胴部である。把手の先端部は失われている。11・12は土師器の甕である。11は口縁部が最大径となる長胴の甕で、胴部下半は薄く煤けている。外面は縦方向の刷毛目、内面は口縁部および頸部付近は横方向の粗い刷毛目で、粘土の継ぎ目を指で押さえた痕が残る内面下半は摩滅のため、調整不明である。12は体部で外面は縦方向の刷毛目、内面頸部付近は横方向の粗い刷毛目で、内面には粘土の継ぎ目を指で押さえた痕が残る。いずれも詳細な時期は不明であるが、奈良時代のものと思われる。

13は須恵器の壺（長頸壺？）の底部である。奈良時代のものか。

14・15は土師器の高杯である。14は口径25.5㎝の大きく口縁部が広がるタイプである。15は口縁部を付加するタイプの高杯杯部の底である。粘土の継ぎ目で剥離している。14は古墳時代前期もしくは弥生時代後期に遡る可能性がある。15は古墳時代中期のものである。

16は施釉陶器である。外面に平行する沈線を施す。灰黄色（2.5Y6/2）の生地にオリーブ黒色（5Y3/2）の釉薬を施す。時期は近世である。

Ｂ地区包含層・確認調査（図版112・写真図版93）

17・18は土師器の杯である。いずれもロクロで整形し、底面はヘラ切り。おそらく在地の土器であり、詳細な時期は不明であるが、奈良時代のものであろう。

19は9と同様の大型の高杯の脚柱部である。内面に粘土紐の巻き上げ痕と絞り目が明瞭に残る。二次焼成のため、赤変している。古墳時代中期以降のものである。

20は竈の破片である。焚き口周辺に庇のつく備え付け竈の破片である。奈良時代のものである。

21は土錘である。ほぼ完存し、径1㎝、長さ4.5㎝、重さ9.5ｇ。楕円形の粘土塊を転がして成形している。

22は平瓦の小片である。

23は須恵器の杯Ｂの底部である。奈良時代のものである。

24は土師器の甕の口縁。長胴の甕か。口径31.2㎝と大型である。確認調査9Gからの出土である。

2　C地区出土の土器

C地区の掘立柱建物跡・柱穴・溝及び包含層より、須恵器・土師器、黒色土器、瓦などの古代以降の土器が出土している。

掘立柱建物跡・柱穴（図版126・写真図版113～115）

204・205は須恵器の杯蓋である。204は蓋内面にわずかに突線状にカエリが残り、205より古く飛鳥時代末のものである。

206は須恵器壺底部である。底面と立ち上がり部の接合痕が明らかである。

207は古墳時代タイプの須恵器の杯身である。口径11.1㎝とかなり矮小化しており、口縁部の立ち上がりも内傾している。底面はヘラ切り後乱方向にナデ。７世紀のものか。

208は須恵器杯A、209は高台の伴う椀の底部である。底面は回転ヘラ切り。210は須恵器のおそらく壺で、口縁部内面に指による強いヨコナデが残る。いずれも奈良時代のものである。

211～218は土師器の小皿である。口径は７～９㎝。211～216の高さは1.5㎝前後と揃っている。217・218は若干深い器形である。212は灯明皿に利用されている。底面は静止糸切り。211の底面も静止糸切り。見込みに制作時に粘土を足した補修痕が見られ、口縁部に２箇所つまんだような箇所もある。213～216は回転糸切り。215・216は内面に仕上げナデ。217・218は回転ヘラ切り、板目状圧痕が残る。詳細な時期は不明であるが、12世紀後半から13世紀のものであろう。

219は皿に高台の付く器形、托である。端部は強くヨコナデ。

土師器220・221は杯Aである。220の底面は回転ヘラ切りのちナデで、板目状圧痕が残る。221は全体を轆轤ナデし、底面は糸切り。古代のものと思われるが在地性が強く、詳細な時期は不明である。

222・223は内黒の黒色土器の椀である。222は内面に密にヘラ磨きを施す。223は内面のみヘラ磨きが観察される。外面は指押さえ痕が残る。時期は10世紀後後半頃であろうか。

224～229は瓦器の椀である。224～226は内外ともヘラ磨きを施し、外面には指押さえの痕跡が残る。226は底部に断面三角形の高台を貼り付けている。口縁部は丁寧にヨコナデし、その部分に磨きはみられない。227～229は内面のみヘラ磨き・暗文が観察できる。外面下半は指押さえ痕が残る。時期は12世紀前半と思われる。

230は平瓦を利用した道具瓦（面戸瓦）である。凹面側の端部はナデ。凹面に布目圧痕が残る。

ＳＫ０００３（図版127・写真図版115）

231は土師器の鍋である。球形の胴部の外面は上部は縦方向。丸底部は横方向の粗いハケを施し、内面はナデで仕上げている。くの字状に開く口縁端部は上方につまみ上げられている。奈良時代のものか。

ＳＸ０００２（図版127・写真図版114）

232は土師器の小皿である。底面は回転糸切りのち板目状圧痕、底部に直径4㎜の穿孔がある。12世紀後半から13世紀のものか。

ＳＤ０００１（図版127・写真図版115）

233は製塩土器である。口縁部を欠くが、鉢状の器形の底部である。内外面とも調整は指押さえである。234は須恵器壺（瓶）の胴部である。内外とも年度紐の接合痕がナデ消されずに残る。また外面の接合部に帯状の布目圧痕が残る。いずれも奈良時代のものである。

旧河道（巻頭図版8・図版127・写真図版116）

235・236は製塩土器である。全体の形状は砲弾形である。235で口径14.6㎝。235の口縁端部は強いヨコナデ､内面は縦方向のナデ。236は外面に指押さえの痕が多く残る。内面は縦方向の強いナデ。

237は有溝土錘である。杏仁形の側面に溝をめぐらせ、紐を架けて錘とするタイプである。一部欠損するが、概ね残存。上面の長軸7.5㎝、短軸4.3㎝、厚さ3.0㎝、重さ85.4ｇ。奈良時代のものである。

238は須恵器杯蓋である。口径13.2㎝とやや小振りである。奈良時代のものである。

239は須恵器の把手付中空円面硯である。把手部分は失われている。類例は平城京左京三条二坊七坪、滋賀県野洲市吉地大寺遺跡、千葉県千葉市五十石遺跡などが知られている。奈良時代初めによく見られるものである。

Ｃ地区包含層（図版128・写真図版117～119）

Ｃ地区包含層から出土した土器のうち、古代に属するものは244～249の土師器、製塩土器、251～267の須恵器である。

244は高台を持つ土師器の皿である。口縁は立ち上がった後外反し、端部は小さく玉縁状に巻き込む律令期のスタンダードな器形である。

245は土師器の長胴タイプの甕である。内外面に粗い刷毛目を施す。

247は杯Ａである。247の底面、回転ヘラ切り後板目状圧痕。口縁部内面は玉縁状におさめる。底面にモミ痕が残る。白色の化粧土を塗布している。在地的な特徴を持つ土器である。

248～250は製塩土器である。250は一部須恵質に近く、口縁部は押しつぶしたように曲がっている。外面はナデで成形時の粘土紐の継ぎ目が残る。内面の口縁部付近は横方向の板ナデ、それ以下は縦方向の板ナデ。248は器形としては杯であるが、胎土から製塩土器と考えられる。外面の底部中心はくぼんでいる。

251～253は須恵器杯Ａである。251の底部外面の調整は粗い。252は非常に器壁が厚い。底面は回転ヘラ切り後ナデ。253は非常に薄手で内外面に火襷が残る。底面は回転ヘラ切りである。

254～256・260は須恵器杯Ｂである。254は焼きひずみが著しい。大きく外傾し、高台が踏ん張っている。古い特徴を残すものか。256は底面ヘラ削り後ナデ。260の底面に「×」字のヘラ記号がある。

257～259・261は杯Ｂの底部である。いずれも底面はヘラ削り。258は底径12㎝とやや大きめのものである。259は底面に三方向の板目状圧痕がみられる。以上の杯類は奈良時代でも前半のものであろう。

262は低脚高杯の底部である。古墳時代後期から飛鳥時代にかけてみられる器形である。

263は大型の須恵器の鉢である。舌状把手をもち、胴部下半に平行叩きが残る。内面は当て具痕をナデ消す。焼成は不良で全体にやや摩滅している。

264は小片で口径・傾きとも不詳であるが鉢である。端部はカットしてつまんでナデる。

265は細頸壺もしくは長頸壺の口縁部である。266は壺である。口縁部はほぼ直立し、二条の凹線がめぐる。外面肩部は灰かぶりのため不詳であるが、カキメを施したものか。頸部内面に同心円叩きが残る。

267は甕の口縁である。三段の波状文が施されている。

3　D地区出土の土器

P1066（図版146・写真図版134）

694・695は瓦質土器の皿の小片である。694は外面にヨコナデの範囲に段があり、段以下は指押さえ後ナデ、内面は横方向のヘラ磨きがみられる。695の底部は高台貼り付け後ナデである。時期は12世紀後半から13世紀である。

696は丸瓦で凹面に布目痕が残る。小片のため、詳細は不詳である。

D地区包含層（図版146・写真図版134）

須恵器杯類のうち、697・702は古墳時代後期のものであり、それ以外の698～701が奈良時代のものである。703・704の甕・壺は第3節で古墳時代の土器としているが、奈良時代に下る可能性もある。

698は杯蓋で、つまみは宝珠状の突起が残る。699～701は杯Bの底部である。699は底径14.3㎝とかなり大型である。700は椀の可能性もある。

4　E地区出土の土器

E地区包含層（図版148・149・写真図版136）

732は須恵器の古代の杯もしくは古墳時代タイプの杯蓋である。口径9.7㎝と非常に小型で矮小化している。底部は回転ヘラ削り。口縁部はひずみ、焼成は硬い。

741は土師器の甕である。肩部は張らず、長胴となるか。外面は細かい刷毛目を施す。口縁端部は外部につまみ出す。詳細な時期は不明である。

742は瓦質土器の羽釜である。内面は横方向の刷毛目が残り、煤状の炭化物が割れ口まで付着している。時期は15世紀前半である。

第５節　石器・石製品・玉

長さ１㎝以上の剥片を含めると、総計1782点を数える。このうち旧石器時代の石器が５点、古墳時代の石器６点、中世の石鍋１点を除くと縄文時代から弥生時代にかけての石器1765点が圧倒的に凌駕する（第10図）。

１　旧石器時代の石器（図版150・写真図版138）

石器の形態的特徴および風化度合から判断して、S1～S5は旧石器時代に属するものと判断した。S1はサヌカイト製で縦長剥片素材１側縁加工のナイフ形石器（KN）である。S2はサヌカイト製で横長剥片素材１側縁加工のナイフ形石器である。S3はサヌカイト製不定形剥片を素材として基部を尖らすように２側縁加工したナイフ形（台形状）石器である。S4はサヌカイト製縦長剥片を素材として、先端を丁寧に加工した錐（DR）である。S5はサヌカイト製の横長剥片を素材とし、素材剥片端部に両面から丁寧な加工を施し、スクレイパー（SC）に仕上げている。

２　狩猟具・武器

打製石鏃（図版150・151・写真図版138・139）

S6以降は、縄文時代から弥生時代に属する石器である。

S6～S47は石鏃（AH）である。基部に注目すると、S6～S17は平基、S18～S37は凹基、S38～S46は凸基に属するものである。S47は基部を欠損しているため不明である。

３　工具

打製の工具（図版151～155・写真図版139～144）

S48～S61は錐（DR）である。素材剥片の形態を大きく変えるほどに丁寧な加工をしたもの（S53、S60、S61）も認められる。

S62～S64はスクレイパー（SC）で、刃部が直線状のもの（S62）と円弧状のもの（S63、S64）である。

S65～S91は楔形石器（PS）である。全周（４つ以上の縁辺）に使用痕跡を残すものはほとんどなく、上下など、相対する２つの辺に微細剥離痕を残すものが多い。また、S92～S94は楔形石器のスポール（削片）である。これらにも相対する２つの辺に微細剥離痕跡を認める。

S95～S98は石核（CR）である。S95は打面再生剥片とした。連続的な剥片を剥離しづらくなった場合に、打面と作業面の角度を変えるために剥離されたと考えられる。S96～S98は肉厚な剥片素材で、不定形な剥片を剥離しているようである。

S99は加工痕のある剥片（RF）で、不定形な素材剥片の一部に加工痕および剥片端部に微細な使用痕を認める。

S100～S105は破損しているが錐（DR）として分類した。素材剥片の形状が判明しないほど丁寧に先端部を加工している。S106はスクレイパーを転用した楔形石器（PS）である。写真左面左側の形状から、錐（DR）の可能性もある。

S107～S118はそれぞれ剥離面の中央部付近からはじまるリング・フイッシャーが観察され、「熱破

砕」により剥離された分割原石（または剥片）である。代表的なものを写真でのみ示した。S107・S108は分割後に施された微細な剥離痕が集中しているため、スクレイパー状に使用した可能性がある。

磨製石斧（図版156・写真図版145）

S119は御荷鉾緑色岩製の太型蛤刃石斧。残存最下端付近で7㎝強の最大幅をもつと考えられる。残存最下端より3㎝から4㎝ほど上部に最大厚がくると考えられ厚さは4㎝程に復元される。この場合、横断面形はやや扁平な楕円形となろう。

S120～S122は柱状片刃石斧。S120は黒灰色の極細粒砂岩を用い、残存する後主面と右側面を丁寧に研磨して仕上げられる。後主面には右側面から見て〔字状の抉りをもち、抉り部上下端には幅3㎜程の溝状の刳り込みが設けられ、その間を研ぎ減らすことにより〔字の形状を形成している。S121・S122はいずれも後主面をとどめる破片で、S121は下半部の下端に向かって反り始める部分、S122は基端部に近い部分と考えられる。S122の左側面側にわずかに研磨痕が認められ、破断面の再加工の可能性もあるが本来の右側面が近いものと認識している。S121は淡青色の塩基性片岩製で、S122は黒灰色の極細粒砂岩製。

S123は灰青色のラミナの入る灰白色の塩基性片岩を用いた小型方柱状片刃石斧。層理に沿って若干丸みをおびた両側面が形成されるも平行する両主面が層理と直角に設けられず右上がりの傾斜をなすため、横断面形は平行四辺形気味となる。後主面が比較的平滑に研ぎ出されるのに対し、前主面は側面に向かって湾曲するため全体的にカーブを描き古相を示す柱状片刃石斧と共通する特徴をもつ。前主面の刃部研ぎ出しよりも、後主面の刃端に至る反りの研ぎ出しが著しい。比重は2.94dである。

S124は珪質粘板岩を用いた扁平片刃石斧。前主面にラミナが現れ、両主面が層理と水平方向に近い角度になるように素材の加工が行われている。前主面側からの刃部研ぎ出しは２面に分けて施される。前主面では基端部付近と刃部付近が緩やかに反り全体的にカーブを描くのに対し、後主面では基端部や刃端に至る研ぎ出しも控えめでほぼ直線的な面が形成される。主面及び側面が丸みを帯びず平滑に研ぎ出されるため、横断面形は平行四辺形気味の長方形となる。

4　農具

打製石斧（図版156・写真図版145）

S125は塩基製片岩を用い、周縁に剥離を施す。石庖丁の製作途中品の可能性も考えられるが、刃部の形状を目指すには剥離が浅く、周縁の形状を整える意図のものと捉えたい。

磨製石庖丁（図版157・写真図版147）

S131は大阪湾沿岸に認められる安山岩製の外湾刃半月形石庖丁。裏面側が剥落するものの断面を観察すると正面側の刃部をより重点的に研ぎ出した偏刃の両刃である。正面側の表面には摩耗による光沢が２孔より残存端部側に著しく認められ、その背部にかけてまで認められる。S132は泥岩を用い、湾曲する刃部をもつ。図裏面側は剥落しているが、刃部には穂摘みによると考えられる裏面側からの微細な剥離が観察される。S133は灰白色の軟質安山岩を用い、図下端に研磨により端面を形成し図左側に刃部が続いていく片側端部であると考えられる。

S134～S136は塩基性片岩を用い、いずれも弧を描く背部を持つが刃部の形状はS134は内湾気味、S135は外湾気味、S136は直線的である。それぞれ片刃付けされる。S134・S135は図裏面側に孔より背部側にかけ紐擦れ痕跡が観察される。S135は孔径が4㎜弱と小規模な２孔をもつ。図正面側の刃部

には穂摘みによると考えられる裏面側からの微細な剥離が認められる。図裏面側から背部にかけて摩耗による光沢が観察される。S136は図正面側に穿孔途中痕をとどめる。図裏面側の刃部に穂摘みによると考えられる正面側からの微細な剥離が観察される。

打製石庖丁（図版156・157・写真図版145・147・148）

S141・S143は端部に抉りをもたない短冊形、S142は抉りをもたない外湾刃半月形であるほかは、両端部の欠損するS126・S144を除き、いずれも端部に抉りをもつ。なお、S192は肩部に抉りを、S139は肩部に抉り状の段と端部に抉りを施す。S137～S139・S143・S144は紅廉片岩、他は塩基性片岩を用いる。

S126は刃部を欠損する。緩やかに弧を描く背部には研磨が施されるものの、両面には及んでいない。図右側の面は表面がよく摩耗している。S137は図左面側の表面がよく摩耗しており、S138も図左面側が刃部付近を中心に摩耗する。S141は背部、刃部に端面をもち、図下端に向かってすぼまりつつ収束する形状から本来柱状片刃石斧であった基端部付近が層理方向に折損し再加工されている可能性がある。背部側にドリル状の工具による敲打痕跡が認められる。S142は図左面側の刃部付近がわずかに摩耗し、S143は図右面側の表面が摩耗する。S144も図左面側の左側縁剥離付近がわずかに摩耗する。

5　調理具・加工具

敲打具（図版158・159・写真図版148・149）

S145～S147・S151～S153は円礫の両端が繰り返し敲打され、敲きの痕跡が集まった面が形成され米俵形の形状を呈する。重量は183.4～635.5gで安山岩質の円礫が多用されるが、最も大型のS152のみ砂岩を用いる。S145の極小型、S151の小型、S146・S147の中型、S152・S153の大型に分かれる。超小型では掌で把持すると敲打部分より若干指が外にはみ出し、小型では敲打面からぎりぎりはみ出るかはみ出ないか程度である。一方、大型では片手で持つのに比較的ずっしりと重い感じを受ける。S146の図右側の面では平滑な摩耗が認められ、磨り石としても機能したことが看取される。S152は図正面及び側面下半にも敲きの痕跡が認められる。S153は両端の敲打面が周縁部にかけて波及しかけており、使用の頻度が著しい。

S148・S149・S154は敲打面の形成には至らないが、両端を繰り返し敲いた結果あばた状の凹みが集中する。安山岩質のS148では図正面中央付近に平滑な摩耗が認められ、磨り石としても機能した可能性が指摘される。砂岩を用いたS149・S154では敲打痕跡が周縁部や両面にも及んでいる。

磨り石（図版158・160・写真図版148・150）

S157・S158はいずれも平滑なすり面をもつ磨り石で、砂岩を用いる。S157は卵形の、S158はコッペパン形の円礫の図正面側を平滑なすり面としている。S157で重量547.1g、S158で重量286.0gを測る。

S150は両面の中央部付近に敲打によりあばた状の痕跡が集中する箇所が認められるが皿状の凹みとなる程ではなく、むしろ擦り消されてきている。一方周縁部をドリル状の工具で両面側から敲打し、痕跡が帯状にめぐる。いずれも使用の結果により集積されたものというよりは、ある形を目指すために整形された加工痕跡である可能性が感じられる。重量163gを測る。

凹み石（図版160～163・写真図版150～153）

S155は両面の中央部付近が浅くわずかに凹む。重量は377.8gを測る。S156は両面ともに長軸方向

の中軸ラインに沿って残存箇所で４箇所程度ずつ敲打痕跡の集中する凹みが認められる。図上端部も敲打により潰れている。S159は敲打痕跡の集中する凹みが図正面側の中央付近に３箇所と、側面にも敲打痕跡の集中箇所が２箇所認められる。重量は2,180ｇを測る。

S160～S163・S165～S168は円礫の中央付近に表裏一対の敲打痕跡の集中する凹みをもち、いずれも砂岩を用いる。S159をのぞいて周縁に何らかの敲打痕跡が認められ、S161・S162・S165は使用によると思われるものが特に顕著である一方でS166・S167は形状を整えるために帯状に施されている。S162の図裏面側の敲打痕跡はさほど顕著ではなく、両面が磨り石として機能したことを窺わせるほどに平滑に摩耗している。S168は両面とも被熱している。S164は正面側のみ中央付近に敲打痕跡の集中する凹みをもち、裏面側はわずかに凹むが敲打痕跡は磨れてとどまらない。

S169は図裏面側の片側半分を欠損するが、やはり表裏一対の敲打痕跡の集中する凹みをとどめる。図上端部にも敲打痕跡の集中する円形の潰れの範囲が認められる。重量1,405ｇを測り、手持ちで使用するのにずっしりとした重みを感じる。S170も両面中央付近に表裏一対の敲打痕跡の集中する凹みが観察されるが他のものに比べて非常に浅い。

台石（図版163～167・写真図版152～157）

すべて砂岩製である。S171は台石としたものの中では451.7ｇと軽量であり、S172～S175で780～1,550ｇを測る。S171・S172は角礫の片面中央付近に敲打痕跡の集中する凹みをとどめる。S173は図正面側の中央付近が凹むが敲打痕跡によるものではない。裏面側中央付近に溝状に２条の凹みが認められ、両極打法によるものであろうか。S174は大きな凹みの中に小さな凹みの単位が分かれて見てとれるが、凹みの間にも度重なる敲打が及んだためか各々の境界は明瞭でない。S175は図裏面では中央やや右よりと左よりに敲打痕跡の集中する凹みが認められ、正面側にも敲打痕跡の集中する浅い凹みが３箇所ほど観察される。

S176は両面の中央付近に敲打によるあばた状の凹みが集中して認められる。正面側で中央部付近に１箇所、裏面側で６箇所ほど２～３㎝程度の敲打痕跡が集中して凹む範囲が存在する。裏面側には若干の研磨による擦過痕跡が認められるが使用面の整形によるものか砥石として使用されたことによるものなのかは判然としない。裏面側の周囲が被熱により黒く変色している。重量3,080ｇを測る。

S177は図正面は中央付近が敲打痕跡が集中して凹む。裏面側は敲打痕跡が集中して凹む範囲が面全体に存在する。重量は5,740ｇを測る。

S178は図正面側の大部分が繰り返し敲打されることにより敲打痕跡の集中する凹みが幾重にも重なることで全体が大きく凹む。裏面側は平坦な面に敲打痕跡が集中して凹むいくつかの範囲が存在する。周縁のうち図左右及び下側に砥面のような平坦面が形成され特に図右側には２面の砥面のような面が形成されている。重量7,520ｇを測る。

S179は亜角礫の図正面中央やや上部が緩やかに凹む。正面・裏面側ともに敲打によるあばた状の凹みが多数認められ、裏面側ではすべて擦られて摩滅しているが正面側では敲打痕跡が擦られずに残存する状況が認められる。重量は8,720ｇを測る。

S180は両面が平坦な面を形成し、敲打痕跡の集中する凹みが擦られて摩滅している。周縁にまるで砥面のように反った平滑な面を形成し両面との間に稜をなしている。重量は9,200ｇを測る。

S181は両面が緩やかな凹面となり、やはり敲打痕跡の集中する凹みが擦られて摩滅している。石皿のような用途で使用されたと考えられる。重量は20.6kgを測る。

S182は図正面は平滑な面が形成され敲打痕跡が集中するが凹みは形成されていない。図裏面では幅の狭い面の上部が全体的によく摩耗し中央にあばた状の敲打痕跡の集中する凹みが認められる。重量は5,460ｇを測る。

S193は写真正面側には敲打痕跡の集中する凹みが所々に認められ、繰り返し敲打して使用された状況が看取される。凹凸のある裏面側にも敲打痕跡の集中する凹みが認められる。

砥石（図版167・写真図版157）

S183は柱状の石材の側面に12面の砥面を形成し、上下両端は剥離面をとどめる。砥面の幅は２～８㎝と図裏側の極めて緩い鈍角で隣り合う２面の境界を除いてそれぞれの境界には明瞭な稜をもって隔てられる。図左側縁の一砥面を除いていずれの砥面もよく使用され顕著な反りを生み出している。右側縁の２砥面に鋭利な擦過痕が認められ、金属の研磨に用いられたと考えられる。

S184は図裏面側を欠損するが図正面及び右側面の２面の砥面を形成する。特に正面側は平滑できめが細かく仕上げ砥石としての利用が想定される。

S194は灰白色を呈する流紋岩製の手持ち砥石で、側面に４面の砥面を形成しいずれもよく使用され凹面を形成する。写真右側の砥面が最も凹面化が進んで湾曲しており、きめ細かい研ぎが行われたのか擦過痕がほぼ観察されないのに対し、その右隣の砥面では極細の鋭利な擦過痕が観察される。いずれも金属製品を研磨するために用いられた結果の痕跡であると考えられる。写真左側の砥面の下端では平行する押引き状の段が認められ、砥面整形時に金属製利器で削られた痕跡であろう。

S195は砂岩製の置き砥石で、写真両面を若干の凹凸もとどめながらも平滑に研磨される。欠損している周囲の破断面を観察すると両面から被熱している状況が看取され、厚さ約14㎝のうち写真正面側から約5.5㎝の範囲が赤黒く、写真裏面側から約4.2㎝の範囲が赤く変色している。

６　祭祀具

石棒（図版156・写真図版146）

S127は泥質片岩を用いており、石剣・石刀類に該当するものであろうか。図上端右側縁がカーブを描き、左側縁も内傾することで端部が反った形状に仕上げられる。図裏面側の先端部を剥離により厚さを減じている。両側縁を敲打によって形状を整え、横断面形は扁平な楕円形を呈する。

S128は塩基性片岩を用い、横断面形は隅丸三角形状を呈する。残存端部付近及び横断面右下のコーナー部を敲打によって丸みを帯びた形状に整えている。

S129は泥質片岩を用い、横断面形は楕円形を呈する。目立った加工痕跡は看取されない。

S130は塩基性片岩を用い、両側縁と両面の一部を敲打し端部を丸い形状に整えている。横断面形は楕円形を呈する。

S187・S188はともに塩基性片岩製で横断面形は半円形を呈し、目立った加工痕跡は看取されない。

S189は横断面形がレンズ状を呈し、石剣・石刀類に該当するものであろうか。両側縁にわずかに敲打痕跡が認められる。石英を多く含んだ塩基性片岩を用いる。

７　その他の石器

用途不明石製品（写真図版146）

S186は塩基性片岩の柱状の素材を敲打及び研磨によって周縁の形状を整え、横断面形が八角形以上

の多角形から楕円形状を呈している。中央付近に最大厚が、写真上端から５分の３程度の箇所に最大幅をもち、両端に向かうほど整形が入念である。上下の細くな箇所のいずれかに紐を緊縛した可能性も考えられるが、集中的に摩耗する箇所は認められず全体的に軽度の摩耗が生じている。

S185も塩基性片岩を用い、横断面形がいびつな隅丸三角形状を呈する。特に隅丸三角形の頂部と左側のコーナーを集中的に敲打し形状を整えている。横断面形楕円形を指向したものであれば石棒の、隅丸三角形としたものならば柱状片刃石斧の製作途中品の可能性が考えられるが、後者の形状の塩基性片岩での類例は稀である。

石鍋（第9図・写真図版157）

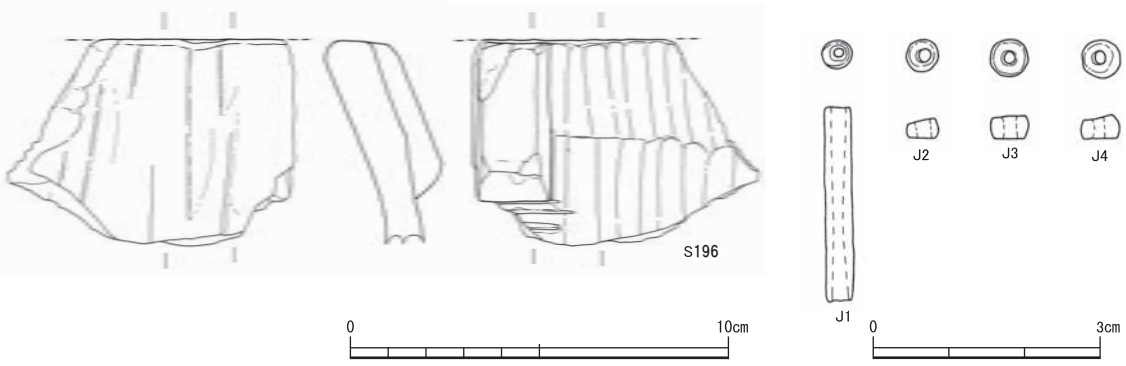
S196は滑石製石鍋の破片である。Ｃ地区P133より出土している。内傾する口縁部付近の破片で鍔は見当たらず、口縁直下に縦長の把手をもつ木戸分類のⅡ類に相当するいわゆる鍋型の石鍋で11世紀代のものと思われる。外面に２段の鑿跡が明瞭である。外面は黄灰色（2.5Y5/1）、内面は灰色（7.5Y5/1）で、外面は煤で汚れているものか。

８　玉（第9図・写真図版157）

J1の管玉は滑石製で住居跡南東部の清掃時に出土している。長さ26㎜、径4㎜と細手である。両側から回転穿孔した後、孔の周囲付近まで研磨し細く仕上げる。色調はオリーブ黒（10YR4/1）である。

J2～J4は滑石製の臼玉である。両面が平滑に研磨され、側面は中位ほどに最大径をもちその上下で研ぎ分けられる。J2はやや小型で径4.2㎜、厚さ2.8㎜、色調はオリーブ灰（5GY5/1）。側面はそろばん玉状で一部稜線が残っている。J3は径4.8㎜、厚さ3㎜、色調は暗オリーブ灰（2.5GY4/1）。J4は径5㎜で、厚さ3.1㎜。色調は暗オリーブ灰（2.5GY3/1）J3・J4の側面はそろばん玉に近い形状をしめすが、研磨痕による稜は明瞭でない。

玉は全てＣ地区のSH0012より出土している。



第9図　石鍋・玉

第1表　石器の器種別出土点数

旧石器時代の石器

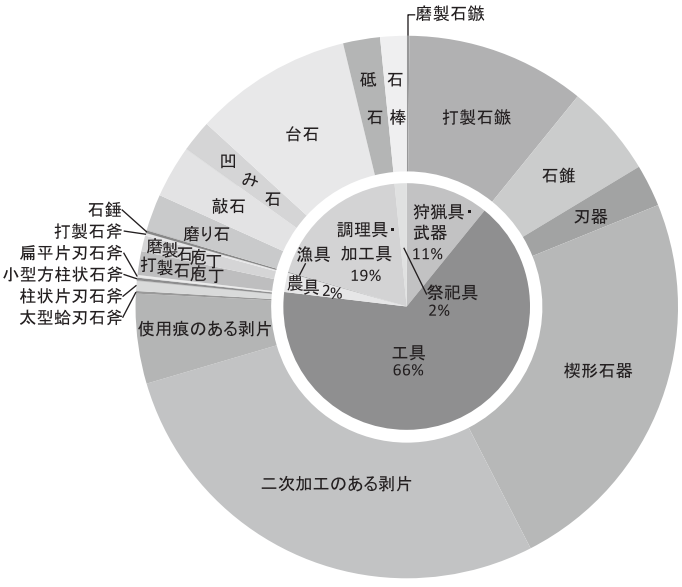
機能	点数（点）	組成率（%）	器種	点数（点）
狩猟具	4	80	ナイフ形石器	3
			角錐状石器	1
工　具	1	20	スクレイパー	1

縄文時代～弥生時代の石器

機能	点数（点）	組成率（%）	器種	点数（点）
狩猟具 武　器	69	10.8	磨製石鏃	1
			打製石鏃	68
工　具	420	66.0	石錐	35
			刃器	16
			楔形石器	150
			二次加工のある剥片	178
			使用痕のある剥片	34
			太型蛤刃石斧	1
			柱状片刃石斧	4
			小型方柱状石斧	1
			扁平片刃石斧	1
農　具	16	2.5	打製石庖丁	9
			磨製石庖丁	6
			打製石斧	1
漁　具	1	0.1	石錘	1
調理具 加工具	120	19.0	磨り石	14
			敲石	20
			凹み石	12
			台石	60
			砥石	14
祭祀具	10	1.6	石棒	10
その他 不　明	1134		石核	5
			分割原石	16
			剥片	1110
			不明	3

古墳時代以降の石器

機能	点数（点）	組成率（%）	器種	点数（点）
調理具 加工具	3	42.9	砥石	2
			石鍋	1
祭祀具	4	57.1	滑石製玉	4



第10図　石器組成グラフ

第６節　金属器（第11図・写真図版137）

１　Ｃ地区出土の遺物

不明遺構SX0001・柱穴および遺構面検出中に金属器Ｍ１～Ｍ４、M6が出土している。

ＳＸ０００１　M4の釘が出土している。両端を欠く。

Ｐ５　M1は刀子の破片か。断面は三角形で刃があるようにみられる。

Ｐ１１１　M6は丸い棒に巻き付くように折れ曲がりひずんでいるが、もとは平らな円盤状の紡錘車であったと思われる。直径5.05㎝、中央の円孔は0.55㎝である。

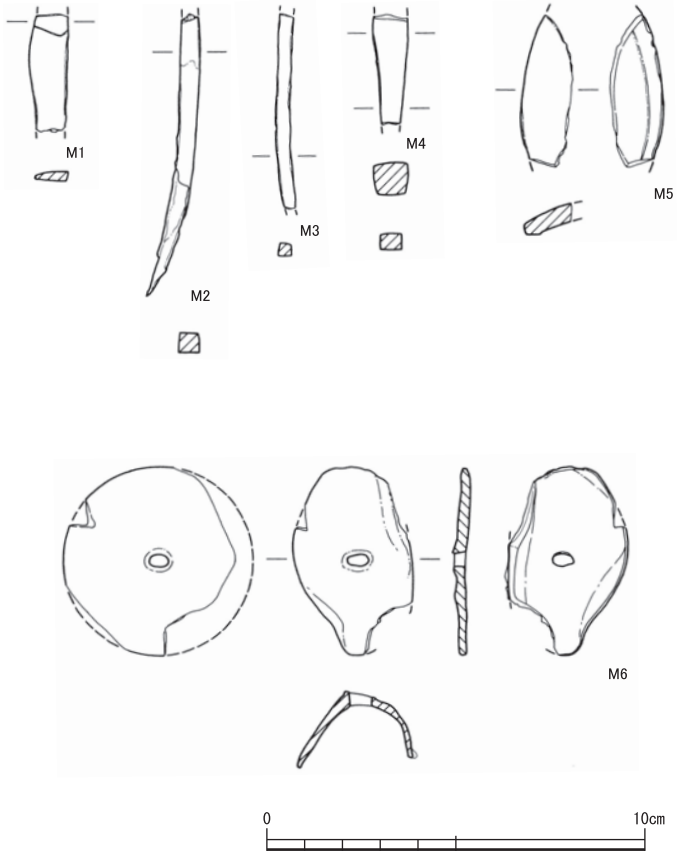
遺構面検出中にM2・M3の釘が出土している。

２　Ｅ地区出土の遺物

ＳＤ２０１３　M5は低い笠状円盤形の蓋状製品の一部である。推定径11.0㎝

３　Ｄ地区出土の遺物

Ｐ１０６６　鉄滓片が出土している。



第11図　金属器

第2表　遺物計測表　土器

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
1	111	91	土師器	製塩土器	(16.3)	(16.85)	-		1/2		体部1/2	B地区	北落込み①	上	落ち込み
2	111	92	土師器	製塩土器	(17.4)	17.0	-		2/3	4/5	体部4/5	B地区	落込み①	下	落ち込み
3	111	91	土師器	製塩土器	(17.25)	11.4	-		1/6	完存		B地区	落込み①	下	落ち込み
4	111	91	土師器	製塩土器	(18.0)	(7.8)	-		1/3			B地区	落込み①	下	落ち込み
5	111	92	土師器	製塩土器	(14.35)	16.6	-		3/4		体部1/2	B地区	落込み①	下	落ち込み
6	111	92	土師器	製塩土器	15.1	16.15	-		完存	1/2		B地区	落込み①	下	落ち込み
7	111	91	土師器	製塩土器	(15.3)	(17.75)	-		わずか	ほぼ完存		B地区	落込み①	下	落ち込み
8	111	91	土師器	製塩土器	-	(18.65)	-		1/4弱	1/4		B地区	北落込み①	上	落ち込み
9	112	93	土師器	高杯	-	(4.8)	-				脚柱部のみ	B地区	落込み②		落ち込み
10	112	93	土師器	(把手)	-	(8.5)	-				把手のみ	B地区	落込み①	下	落ち込み
11	112	92	土師器	甕	(28.35)	(21.0)			2/3			B地区	落込み①	下	落ち込み
12	112	93	土師器	甕	-	(10.5)	-				体部小片	B地区	落込み①	下	落ち込み
13	112	93	須恵器	長頸壺	-	(4.3)	(8.8)			1/3		B地区	落込み②		落ち込み
14	112	93	土師器	高杯	(25.5)	(4.2)	-		1/10			B地区	北落込み①	上	落ち込み
15	112	93	土師器	高杯	-	(2.3)	-				杯部わずか	B地区	落込み②		落ち込み
16	112	93	施釉陶器	(体部)	-	(5.2)	-				体部わずか	B地区	北落込み①	上	落ち込み
17	112	93	土師器	杯	(12.9)	3.8	(8.0)		わずか	1/4		B地区	面検出		包含層
18	112	93	土師器	杯	-	(2.9)	(7.0)			1/4		B地区	面検出		包含層
19	112	93	土師器	高杯	-	(7.2)	-				脚柱部のみ	B地区	面検出		包含層
20	112	93	土師器	竈	長(6.0)	幅(5.8)	厚1.15				小片	B地区	キカイ掘削		包含層
21	112	93	土製品	土錘	長4.5	幅1.0	厚1.0	9.5			ほぼ完存	B地区	面検出		包含層
22	112	93	瓦	平瓦	長(4.0)	幅(5.5)	厚2.4				小片	B地区	面検出		包含層
23	112	93	須恵器	(底部)	-	(1.0)	(8.0)			1/4		B地区	面検出		包含層
24	112	93	土師器	長胴甕	(31.2)	(2.9)	-		1/10			9G			包含層
25	113	94	弥生土器	壺	(16.1)	(6.2)	-		ほぼ完存 端部欠			C地区	SH02(F) 2分の1		SH0002
26	113	94	弥生土器	鉢	(18.5)	8.3	3.4		1/4強	ほぼ完存	体部ほぼ完存	C地区	SH02		SH0002
27	113	94	弥生土器	鉢	12.4	5.1	2.4				ほぼ完存	C地区	SH02(B)		SH0002
28	113		弥生土器	鉢	-	(8.1)	7.4		杯部1/2		脚部完存	C地区	SH02(C) 2分の2		SH0002
29	113	94	弥生土器	壺	-	(18.7)	6.5			ほぼ完存	体部1/2	C地区	P1の土器		P1
30	113		弥生土器	甕	-	(19.0)	(6.2)			1/3	体部1/4弱	C地区	P44		P44
31	113	94	弥生土器	壺	(13.75)	(31.75)	(6.4)		1/2	わずか	体部3/4	C地区	P49(SB06)		SB0035 (P49)
32	113		弥生土器	壺	-	(6.1)	(8.1)			底部のみ		C地区	P133		SB0032 (P133)
33	113		土師器	甕	(16.5)	(4.2)	-		1/6			C地区	P537		SB0040 (P537)
34	113		弥生土器	壺	-	(4.3)	(13.0)			わずか		C地区	P598		P598
35	113		弥生土器	壺	-	(6.5)	(10.4)			1/3		C地区	P860		P860
36	113	94	弥生土器	甕	(21.7)	24.75	(5.9)		3/4	1/3		C地区	P1094		P1094
37	114	94	弥生土器	壺	-	(29.2)	7.6			完存	体部7/8	C地区	SD05(A)5		周溝墓1
38	114	94	弥生土器	直口壺	(11.2)	28.0	(8.4)		1/3	1/6	体部1/3	C地区	SD05(B)0/0	底面上	周溝墓1
39	114	95	弥生土器	直口壺	12.0	33.5	5.8		完存	完存	体部1/2	C地区	SD05南半		周溝墓1
40	114	95	弥生土器	直口壺	16.0	40.2	6.5				ほぼ完存	C地区	SD05(2)A		周溝墓1
41	114	95	弥生土器	甕	(14.4)	(15.5)	-		1/4強			C地区	SD03 土器溜り		周溝墓1
42	114	95	弥生土器	甕	(19.0)	29.8	7.3		1/3弱	完存	体部1/2 弱	C地区	SD05(B)1/2		周溝墓1
43	114	96	弥生土器	甕	(12.05)	(17.1)	-		1/4		体部1/4	C地区	SD05(B)0/0	底面上	周溝墓1
44	114	96	弥生土器	直口壺	11.15	33.2	6.4		2/3	3/4	体部4/5	C地区	SD07	埋土中	周溝墓2
45	114	96	弥生土器	鉢	11.9	6.5	4.1				ほぼ完存	C地区	SD08 土器(写真)		周溝墓2
46	115	96	弥生土器	直口壺	12.3	(32.3)	(7.5)		5/6	1/4	肩部完存 胴部1/2	C地区	SD15		周溝墓3
47	115	96	弥生土器	壺	(14.6)	(7.3)	-		1/4			C地区	SD15		周溝墓3
48	115	96	弥生土器	長頸壺	6.1	15.7	5.5		1/2弱	完存	体部完存	C地区	SD15		周溝墓3
49	115		弥生土器	高杯	18.0	(5.75)	-		3/4			C地区	SD06		周溝墓4
50	115	97	弥生土器	広口壺	(16.4)	(35.5)	(9.15)		3/5	1/2		C地区	SD12		周溝墓7
51	115		弥生土器	高杯		(3.9)					小片	C地区	SK01		SK0001
52	115	97	弥生土器	壺	-	(23.1)	5.9			中心欠損	体部2/3	C地区	SD19		SD0019
53	115	96	弥生土器	広口壺	(13.1)	(7.2)	-		1/6			C地区	SD20		SD0020
54	115	97	弥生土器	広口壺	8.4	19.9	6.4		4/5	ほぼ完存	体部若干 欠損	C地区	SD20		SD0020
55	115		弥生土器	台付鉢	-	(9.2)	(12.35)			2/3		C地区	SD21		SD0021
56	116	98	土師器	甕	13.2	20.6	-				ほぼ完存	C地区	SH01-P1038		SH0001
57	116	98	土師器	ミニチュア土器	(6.5)	4.0	-				ほぼ完存	C地区	SH01(4)		SH0001
58	116	98	土師器	ミニチュア土器	4.6	3.7	-				ほぼ完存	C地区	SH01		SH0001
59	116		土師器	壺	-	(5.7)	2.4			3/4	体部1/5	C地区	SH02(A)		SH0002

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
60	116		土師器	壺	-	(4.1)	3.7		4/7			C地区	SH02		SH0002
61	116		土師器 弥生後期	鉢?	-	(6.0)	4.0			7/8	体部わずか	C地区	SH02(G)		SH0002
62	116	98	土師器	ミニチュア土器	-	4.9	1.1				体～底部ほぼ完存	C地区	SH02内 P321		SH0002
63	116		土師器	直口壺	(11.5)	(16.3)			1/6	脚部3/4		C地区	SH03東土坑		SH0003
64	116		土師器	高杯	(20.8)	(7.0)	-		わずか		杯部1/3	C地区	SH04南側		SH0004
65	116		土師器	壺	(13.7)	(9.25)	-		1/3			C地区	SH05南側土器		SH0005
66	116	98	土師器	小型丸底壺	(8.45)	7.35	-		1/3	完存		C地区	SH05内(1)		SH0005
67	116	98	土師器	ミニチュア土器	5.9	5.35	-				完形	C地区	SH05内 P1054		SH0005
68	116	98	土師器	高杯	(18.9)	(12.55)	(12.25)		3/4	脚端1/4	脚柱1/2	C地区	SH05内(2)		SH0005
69	116		土師器	壺	10.8	(15.2)	-		2/3		体部わずか	C地区	SH06内(7)		SH0006
70	116		土師器	甕	(21.9)	(9.7)	-		わずか			C地区	SH06内(4)		SH0006
71	116	99	土師器	壺	(9.5)	9.1	5.5		2/3		体～底部ほぼ完存	C地区	SH06内(3)		SH0006
72	116	99	土師器	ミニチュア土器	4.5	3.6	-				ほぼ完存	C地区	SH06内(5)		SH0006
73	117	100	須恵器	樽形はそう	(7.2)	17.1	-		1/5		頸・体部完存	C地区	SH08(4)		SH0008
74	117	99	土師器	長頸壺	-	(9.8)	(15.6)				体部1/2弱	C地区	SH08(3)		SH0008
75	117		土師器	高杯	-	(7.2)	(13.4)			1/3		C地区	SH08(2)		SH0008
76	117		土師器	高杯	(15.1)	13.0	9.8		1/4	3/4		C地区	SH09南東		SH0009
77	117	99	土師器	小甕	(8.6)	11.4			1/3	完存	体部5/6	C地区	SH10		SH0010
78	117		土師器	(底部)	-	(4.5)	-				底部のみ	C地区	SH10		SH0010
79	117		土師器	高杯	14.9	(5.0)	-				杯部のみ	C地区	SH10		SH0010
80	117		土師器	高杯	(19.9)	14.6	(12.7)		わずか	わずか	脚柱ほぼ完存	C地区	SH10南側土坑		SH0010
81	117	99	土師器	杯	(12.7)	(3.5)	-		1/6弱			C地区	P203	芯一段下げ	SH0007 (P203)
82	117	99	土師器	壺	10.9	(9.9)	-		1/2		肩部2/3	C地区	SH13 セクション		SH0013
83	117		土師器	壺	(11.1)	(13.8)	-		1/3		肩部1/2	C地区	SH13 セクション		SH0013
84	117		土師器	高杯	(19.05)	(5.5)	-		わずか		杯部3/4	C地区	SH13 セクション		SH0013
85	117		土師器	鉢?	(18.7)	(18.1)	-		1/3			C地区	P1005 (SB05)		SB0005 (P1005)
86	117	99	土師器	小型丸底壺	9.4	10.75	-				ほぼ完存	C地区	P544(SB11)		P544
87	117		土師器	甕	(11.65)	(6.6)	-		1/4強			C地区	P544(SB11)		P544
88	117		土師器	高杯	-	(6.1)	9.95			脚端3/4	脚柱完存	C地区	P867(SB13)		P867
89	118		土師器	壺	(17.3)	(29.1)	-		4/5		体部わずか	C地区	SH12(17)		SH0012
90	118		土師器	二段口縁壺	(16.25)	(8.15)	-		1/4強			C地区	SH12北東		SH0012
91	118		土師器	二段口縁壺	(17.9)	(7.85)	-		2/5			C地区	SH12南東		SH0012
92	118		土師器	二段口縁壺	(18.55)	(9.25)	-		破片合2/3			C地区	SH12南東		SH0012
93	118		土師器	壺	19.8	(7.4)	-		2/3			C地区	SH12(17)		SH0012
94	118		土師器	壺	(13.0)	(16.0)	-		わずか		体部1/2弱	C地区	SH12(17)		SH0012
95	118	101	土師器	壺	13.3	(17.7)	-		1/4		体部1/3	C地区	SH12(10)		SH0012
96	118		土師器	壺	11.0	(10.6)	-		5/6		体部1/3	C地区	SH12(23)		SH0012
97	118		土師器	壺	(9.85)	(7.5)	-		ほぼ完存		体部1/2	C地区	SH12南東		SH0012
98	118		土師器	壺	14.2	(11.9)	-		2/3		体部1/3	C地区	SH12		SH0012
99	118	101	土師器	直口壺	(10.2)	11.3	-		1/2		体部完存	C地区	SH12南東		SH0012
100	118	101	土師器	直口壺	(8.6)	11.6	-		1/2		体部完存	C地区	SH12(18)		SH0012
101	119	101	土師器	小型丸底壺	10.6	10.5	-		4/5		体部3/4	C地区	SH12(2)		SH0012
102	119	102	土師器	小型丸型壺	9.8	10.15	-		4/5	完存	体部上部4/5	C地区	SH12北東区		SH0012
103	119		土師器	小型丸底壺	(9.9)	11.0	-		1/4強	1/3	体部1/3	C地区	SH12(21)		SH0012
104	119	102	土師器	直口壺	11.4	12.0	-				完形	C地区	SH12(16)		SH0012
105	119		土師器	小型丸底壺	(10.2)	(8.85)	-		1/4		体部上部完存	C地区	SH12(21)		SH0012
106	119	102	土師器	小型丸底壺	(9.5)	9.5	-		1/3	5/6	体部5/6	C地区	SH12南東		SH0012
107	119		土師器	小型丸底壺	(9.5)	(7.3)	-		1/2		体部上部完存	C地区	SH12北西		SH0012
108	119	102	土師器	小型丸型壺	9.15	8.55	-		3/4		体～底部完存	C地区	SH12(20)		SH0012
109	119		土師器	小型丸底壺	(9.2)	9.7	-		わずか		体部5/6	C地区	SH12(13)		SH0012
110	119		土師器	小型丸底壺	(7.2)	(8.8)	-		1/3		体部1/3	C地区	SH12(16)		SH0012
111	119		土師器	小型丸底壺	(9.3)	8.5	-		3/4	4/5	体部4/5	C地区	SH12(16)		SH0012
112	119	102	土師器	小型丸底壺	9.2	8.5	-				ほぼ完存	C地区	SH12(12)		SH0012
113	119	102	土師器	小型丸底壺	9.9	7.5	-				ほぼ完存	C地区		廃土中	SH0012
114	119	103	土師器	小型丸底壺	7.4	8.5	-				ほぼ完存	C地区	SH12(9)		SH0012
115	119		土師器	小型丸底壺	(9.2)	8.5	-		1/4		体部2/3	C地区	SH12(11)		SH0012
116	119	103	土師器	小型丸底壺	6.8	8.2	-				ほぼ完存	C地区	SH12(10)		SH0012

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
117	119		土師器	小壺	(6.95)	(5.55)	-		1/7		体部上部ほぼ完存	C地区	SH12南西		SH0012
118	119	103	土師器	鉢	(15.9)	(10.25)	-		破片合1/3	破片合1/2弱		C地区	SH12南東		SH0012
119	119		土師器	小壺	(5.2)	(6.15)	-		わずか		体～底部ほぼ完存	C地区	SH12北東		SH0012
120	119	103	土師器	椀	8.6	(5.1)	-		3/4			C地区	SH12セクション北		SH0012
121	119	103	土師器	ミニチュア椀	4.15	2.45	-				完形	C地区	SH12北東		SH0012
122	120	104	土師器	甕	13.6	(18.0)	-		ほぼ完存		体部1/5	C地区	SH12		SH0012
123	120	104	土師器	甕	12.7	(11.2)	-		5/6	9/10		C地区	SH12南西		SH0012
124	120		土師器	甕	11.85	(7.7)	-		8/9		体部7/8	C地区	SH12北西		SH0012
125	120		土師器	甕	(14.0)	(21.75)	-		2/5		体部1/2	C地区	SH12南西		SH0012
126	120		土師器	甕	(13.3)	(13.9)	-		わずか		体部3/4	C地区	SH12北東		SH0012
127	120		土師器	甕	(12.9)	(8.2)	-		2/5		体部2/5	C地区	SH12北西		SH0012
128	120	105	土師器	甕	13.5	18.9	-		2/3	完存	体部9/10	C地区	SH12(21)		SH0012
129	120	104	土師器	甕	(14.6)	23.5	-		2/3	完存	体部5/6	C地区	SH12	床直上	SH0012
130	120	104	土師器	甕	13.55	(15.1)	-		完存		体部上半ほぼ完存	C地区	SH12南東		SH0012
131	120		土師器	甕	(13.9)	(16.1)	-		1/2弱		体部1/3	C地区	SH12(2)		SH0012
132	121	105	土師器	甕	13.95	18.6	-		ほぼ完存	3/4	体部3/4	C地区	SH12(2)		SH0012
133	121		土師器	甕	14.4	(16.9)	-		ほぼ完存		体部1/4	C地区	SH12(23)		SH0012
134	121		土師器	甕	12.2	(11.7)	-		3/4		体部上半完存	C地区	SH12		SH0012
135	121		土師器	甕	14.8	(17.3)	-		1/2		肩部ほぼ残存	C地区	SH12セクション北		SH0012
136	121		土師器	甕	13.4	(4.45)	-		完存			C地区	SH12		SH0012
137	121		土師器	甕	12.5	(17.4)	-		完存		体部1/3	C地区	SH12(15)		SH0012
138	121	104	土師器	甕	(14.2)	(22.4)	-		1/2弱	ほぼ完存	体部ほぼ完存	C地区	SH12北西		SH0012
139	121	105	土師器	甕	(14.3)	(23.5)	-		1/3		体部ほぼ完存	C地区	SH12(2)		SH0012
140	121	105	土師器	甕	(14.95)	(17.6)	-		1/3		体部1/4	C地区	SH12(5-2)		SH0012
141	122		土師器	甕	(15.75)	(14.9)	-		1/6		体部1/5	C地区	SH12北西		SH0012
142	122		土師器	甕？	(13.6)	(14.3)	-		1/2		肩部1/3	C地区	SH12(23)		SH0012
143	122		土師器	甕	13.4	15.8	-		完存		体部1/3	C地区	SH12(23)		SH0012
144	122		土師器	甕	(13.6)	(14.0)	-		3/4		体部上半2/3	C地区	SH12南西		SH0012
145	122	105	土師器	甕	12.3	21.0	-				ほぼ完存	C地区	SH12(1)		SH0012
146	122		土師器	甕	10.9	(9.2)	-		2/3		体部肩まで	C地区	SH12セクション南		SH0012
147	122		土師器	甕	13.0	(13.5)	-		ほぼ完存		肩部まで	C地区	SH12(5-2)		SH0012
148	122		土師器	甕	14.4	(16.6)	-		3/4		肩部まで	C地区	SH12北東		SH0012
149	122		土師器	甕	(11.2)	(13.0)	-		2/3		腹部まで	C地区	SH12南西		SH0012
150	123	106	土師器	高杯	17.85	(12.4)	13.9		完存	1/2強		C地区	SH12(16)		SH0012
151	123		土師器	高杯	17.25	(5.5)	-		4/5			C地区	SH12東壁内		SH0012
152	123	106	土師器	高杯	15.6	12.75	11.35				完形	C地区	SH12(15)		SH0012
153	123		土師器	高杯	16.8	(6.4)			3/4			C地区	SH12(16)		SH0012
154	123	106	土師器	高杯	14.5	11.8	10.7		ほぼ完存	2/3		C地区	SH12南東		SH0012
155	123	108	土師器	高杯	17.4	12.2	(11.5)		3/4	1/8		C地区	SH12(23)		SH0012
156	123	106	土師器	高杯	15.5	12.2	(11.2)		ほぼ完存	わずか		C地区	SH12東壁内		SH0012
157	123		土師器	高杯	(19.2)	14.85	15.1		1/3	1/2	脚柱部完存	C地区	SH12床面上	(北東区画)	SH0012
158	123	107	土師器	高杯	17.2	12.0	1.95		1/2	1/2		C地区	SH12セクション北		SH0012
159	123	107	土師器	高杯	18.5	14.4	14.9		1/8	完存	脚部完存	C地区	SH12南西		SH0012
160	123		土師器	高杯	19.3	(13.5)			2/3			C地区	SH12(16)		SH0012
161	123		土師器	高杯	(15.8)	11.9	(9.9)		1/3	1/4		C地区	SH12(2)		SH0012
162	123		土師器	高杯	(17.6)	(12.3)	(13.65)		1/4	脚端1/7	脚柱完存	C地区	SH12(18)		SH0012
163	124		土師器	高杯	(18.6)	13.1	(12.6)		1/2弱	1/6		C地区	SH12(16)		SH0012
164	124	108	土師器	高杯	(16.6)	12.4	(13.0)		1/3	裾部1/2	脚柱部1/2	C地区	SH12(16)		SH0012
165	124		土師器	高杯	(19.1)	(8.8)			1/2			C地区	SH12		SH0012
166	124	109	土師器	高杯	18.7	11.6	(12.65)		ほぼ完存	1/6		C地区	SH12床直上	(南東区画)	SH0012
167	124	108	土師器	高杯	18.45	13.2	(13.35)		1/2強	1/6		C地区	SH12		SH0012
168	124	110	土師器	高杯	21.5	14.5	(14.1)		1/2強	2/3		C地区	SH12南東		SH0012
169	124	110	土師器	高杯	24.0	16.7	17.6				ほぼ完存	C地区	SH12(6-1)		SH0012
170	124	110	土師器	高杯	25.8	(8.8)	-		1/2		杯部のみ	C地区	SH12(6-2)		SH0012
171	124	111	土師器	高杯	(26.6)	15.4	17.9		1/4	4/5		C地区	SH12(18)		SH0012
172	124		土師器	高杯	12.65	(5.5)	-		完存		杯部のみ	C地区	SH12(18)		SH0012
173	124		土師器	高杯	(14.7)	(5.2)	-		1/3			C地区	SH12南東		SH0012
174	124	109	土師器	高杯	13.9	(10.8)	-		完存	わずか		C地区	SH12(8)		SH0012
175	124		土師器	高杯	-	(13.3)	17.0			1/3		C地区	SH12(7)		SH0012

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
176	124		土師器	高杯	-	(7.0)	(13.6)		わずか	脚端1/3		C地区	SH12		SH0012
177	124	110	土師器	高杯	-	(9.4)	(12.4)			脚端1/2	脚部3/5	C地区	SH12(18)		SH0012
178	125		須恵器	杯蓋	(10.4)	3.2	-		1/8			C地区	SD02 東端～1区間		SD0002
179	125		須恵器	杯蓋	(11.0)	4.0	-		1/3			C地区	SD02 セクション2		SD0002
180	125		須恵器	杯身	(10.2)	2.9	-				1/3	C地区	SD02・ 1～2区間		SD0002
181	125		須恵器	杯身	(10.3)	3.8	-		1/3	1/3		C地区	SD02・ 1～2区間		SD0002
182	125	111	須恵器	杯身	10.6	3.5	-		7/8	完存		C地区	SD02		SD0002
183	125	111	須恵器	杯身	10.4	3.9	-		2/3	ほぼ完存		C地区	SD02・ 1～2区間		SD0002
184	125	111	須恵器	杯身	11.3	5.0	-		3/4	完存		C地区	SD02・ 1～2区間		SD0002
185	125	111	須恵器	短頸壺	(6.6)	(7.2)	-		1/8			C地区	SD02 セクション1		SD0002
186	125		須恵器	台付壺	-	(3.3)	8.3			完存		C地区	SD02 セクション1		SD0002
187	125	111	土師器	椀	(11.9)	(4.5)	-		3/4			C地区	SD02		SD0002
188	125		土師器	甕	(12.8)	(6.8)	-		破片合2/3			C地区	SD02・ 1～2区間		SD0002
189	125	112	土師器	甕	9.1	11.2	-		6/7		体部3/4	C地区	SD02 セクション3		SD0002
190	125		土師器	甕	(19.0)	(12.1)	-		破片合1/2			C地区	SD02 セクション1		SD0002
191	125	112	土師器	甕	(19.6)	(12.6)	-		2/3			C地区	SD02 セクション2		SD0002
192	125		土師器	高杯	19.0	(6.6)	-		3/4			C地区	SD02		SD0002
193	125		土師器	高杯	-	(5.8)	(11.3)			1/4	脚柱部完存	C地区	SD02		SD0002
194	125		土師器	高杯	-	(5.8)	10.4				裾部2/3	C地区	SD02		SD0002
195	125	112	土師器	壺？甕？	6.85	7.55	-				ほぼ完存	C地区	SD12 セクション		SD0012
196	125	112	土師器	高杯	(18.65)	(5.4)	-		1/4		杯部2/3	C地区	SD20		SD0020
197	125		土師器	高杯	-	(7.8)	12.85			ほぼ完存		C地区	SD20		SD0020
198	125	112	土師器	小型丸底壺	9.4	9.35	-		1/2	完存		C地区	SK04(C)		SK0004
199	125	112	土師器	小型丸底壺	8.75	7.85	-				完形	C地区	SK04(A)		SK0004
200	125	112	土師器	小型丸底壺	5.35	8.2	-		3/4	完存		C地区	SK04(B)		SK0004
201	125		土師器	高杯	(19.8)	(4.7)	-		4/7			C地区	SK04		SK0004
202	125	112	土師器	高杯	18.6	(5.6)	-		7/8			C地区	SK04		SK0004
203	125		土師器	高杯	-	(6.7)	(12.1)				脚部2/5	C地区	SK04		SK0004
204	126	113	須恵器	蓋	(15.9)	(1.55)	-		1/4弱			C地区	P048		SB0006 (P048)
205	126	113	須恵器	杯蓋	(21.7)	(2.5)	-		1/12			C地区	P309		P309
206	126	113	須恵器	壺	-	(4.15)	(9.25)			1/4		C地区	P439(SB10)		SB0010 (P439)
207	126	113	須恵器	杯身	(11.1)	3.3	-		1/6	わずか		C地区	P585		P585
208	126	113	須恵器	杯A	-	(2.6)	8.0			1/2		C地区	P1084		SB0031 (P1084)
209	126	113	須恵器	椀	-	(2.2)	(7.6)			1/4		C地区	P1035 (SB06)		P1035
210	126	113	須恵器	壺？	(10.1)	(4.75)	-		1/6			C地区	P128		SB0032 (P128)
211	126	113	土師器	小皿	7.2	1.4	5.6				完存	C地区	P336		SB0041 (P336)
212	126	113	土師器	灯明皿	8.25	1.5	5.5				完形	C地区	P111		SB0030 (P111)
213	126	113	土師器	小皿	7.6	1.5	5.5				完形	C地区	SP1071		P1071
214	126	114	土師器	小皿	(7.25)	1.55	(5.5)		1/5	1/5		C地区	SP1071		P1071
215	126	114	土師器	小皿	(8.6)	1.5	(5.6)		1/2弱	わずか		C地区	P778		P778
216	126	114	土師器	小皿	(9.4)	1.5	(6.7)				1/4弱	C地区	P371		SB0043 (P371)
217	126	114	土師器	皿	(8.8)	(1.8)	6.35		1/5	1/2		C地区	P668		SB0036 (P668)
218	126	113	土師器	小皿	9.0	2.4	6.85		3/5	3/5		C地区	P668		SB0036 (P668)
219	126	114	土師器	杯？托？	(8.0)	2.0	(5.0)		1/3	1/4		C地区	P838		P838
220	126	114	土師器	杯A	(11.65)	(3.25)	(8.3)		1/4	1/3		C地区	P668		SB0036 (P668)
221	126	114	土師器	杯	-	(1.9)	(8.4)			1/2		C地区	P405		P405
222	126	115	黒色土器	椀(内黒)	(13.8)	4.9	(7.0)				1/4	C地区	P466		SB0036 (P466)
223	126	115	黒色土器	椀(内黒)	(16.8)	(4.6)	-		1/8			C地区	P124		P124
224	126	115	瓦器	椀	(13.8)	(3.8)	-		1/12			C地区	P376		SB0042 (P376)

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
225	126	115	瓦器	椀	(14.7)	(4.7)	-		1/5			C地区	P1013		P1013
226	126	115	瓦器	椀	(14.4)	5.7	(4.6)		1/4	2/3		C地区	P944		P944
227	126	114	瓦器	椀	(14.5)	4.9	(5.5)		1/3	2/3		C地区	P937		P937
228	126	115	瓦器	椀	(14.4)	(5.2)	-		1/4			C地区	P1029		P1029
229	126	115	瓦器	椀	(12.4)	(4.1)	-		1/10			C地区	SP346		P346
230	126	115	瓦	面戸瓦	長(8.7)	幅(6.5)	厚1.6				破片	C地区	P870		SB0047(P870)
231	127	115	土師器	鍋	(25.5)	(13.9)	-		わずか		体部わずか	C地区	SK03西側		SK0003
232	127	114	土師器	小皿	8.5	1.6	5.4				ほぼ完存	C地区	SX02		SX0002
233	127	115	土師器	製塩土器	-	(7.55)	-			完存		C地区	SD01		SD0001
234	127	115	須恵器	壺	-	(8.5)	10.0			1/2		C地区	SD01		SD0001
235	127	116	土師器	製塩土器	(14.6)	16.25	-		1/3	完存		C I区	流路中央部	包含層人力掘削	旧河道
236	127	116	土師器	製塩土器	-	(11.8)	-			完存	体部1/3	C地区	落ち込み6北側	褐灰色土	旧河道
237	127	116	土製品	土錘	長7.5	幅4.3	厚3.0	85.4			ほぼ完存	C I区	流路中央部	包含層人力掘削	旧河道
238	127	116	須恵器	蓋	(13.2)	(1.85)	-		1/4			C I区	流路南側	包含層人力掘削	旧河道
239	127	116	須恵器	硯	8.7	3.3	-				硯部完存	C I区	流路南側	包含層人力掘削	旧河道
240	128		弥生土器	甕	-	(4.9)	(3.0)			1/2強		C地区	No.9～10間面検出		包含層
241	128	117	弥生土器	高杯	20.7	(7.0)	-				杯部のみほぼ完存	C地区	No.8～9間面検出		包含層
242	128	117	須恵器	杯身	10.1	3.2	6.65		1/2	1/2		C地区	No.4～No.3	包含層	包含層
243	128	117	須恵器	杯身	(10.85)	3.4	(6.5)		1/2強			C地区	No.3～2間重機掘削		包含層
244	128	118	土師器	皿	(20.6)	3.4	(13.3)		1/10	1/5		C地区	No.8～9面検出		包含層
245	128	118	土師器	鍋	(27.5)	(8.0)	-		1/8			C地区	No.6～7間面検出		包含層
246	128	118	土師器	製塩土器	(23.0)	(7.2)	-		1/14			C地区	5～6区間深堀り	褐灰色シルト	包含層
247	128	118	土師器	杯A	(13.6)	4.1	(10.25)		1/4	1/4		C地区	4トレ北側	灰褐色土	包含層
248	128	117	土師器	製塩土器	11.65	4.3	-		3/4	完存		C地区	5～6区間深堀り	褐灰色シルト	包含層
249	128	118	土師器	製塩土器	(16.65)	(9.3)	-		1/8			C地区	5～6間深堀り	褐灰色土層	包含層
250	128	118	土師器	製塩土器	(15.4)	(12.8)	-		1/2強			C地区	4～5トレ間深堀り	褐灰色土層	包含層
251	128	119	須恵器	杯	(9.6)	2.65	(7.8)		1/8	1/4強		C地区	No.6～7間面検出		包含層
252	128	119	須恵器	杯A	(11.15)	3.75	(8.1)		1/4	1/4		C地区	6より南深堀り	褐灰色シルト	包含層
253	128	117	須恵器	杯A	15.0	4.9	11.5		3/4	3/4		C地区	5～6区間深堀り	褐灰色シルト	包含層
254	128	117	須恵器	杯B	(13.1)	4.0	6.9		わずか	5/9		C地区	深堀りトレンチ4		包含層
255	128	119	須恵器	杯B	(13.1)	(4.5)	-		1/7	わずか		C地区	No.7～8間面検出		包含層
256	128	119	須恵器	杯B	(11.5)	(3.8)	(8.1)				1/2	C地区	No.8～9間東(住居址)		包含層
257	128	119	須恵器	(底部)	-	(1.7)	(7.6)			2/3		C地区	No.8～9間面検出		包含層
258	128	119	須恵器	椀	-	(3.65)	(12.0)			1/4弱		C地区	6より南深堀り	褐灰色シルト	包含層
259	128	119	須恵器	椀	-	(2.1)	(8.0)			1/4		C地区	6より南深堀り	褐灰色シルト	包含層
260	128	119	須恵器	杯B	(14.8)	4.55	(11.1)		1/4	1/2		C地区	4～5トレ間深堀り	褐灰色土層	包含層
261	128	119	須恵器	椀	-	(2.9)	(11.0)			1/4		C地区	6より南深堀り	褐灰色シルト	包含層
262	128	119	須恵器	高杯	-	(3.0)	(7.3)			1/2		C地区	No.3～2間重機掘削		包含層
263	128	119	須恵器	鉢	(35.0)	(15.0)	-		1/7			C地区	No.8～9間面検出		包含層
264	128	119	須恵器	鉢?	-	(8.25)	-		小片			C地区	6より南深堀り	褐灰色シルト	包含層
265	128	119	須恵器	細頸壺	9.2	(6.5)	-		3/4			C地区	5～6区間深堀り	褐灰色シルト	包含層
266	128	119	須恵器	壺	(17.8)	(8.4)	-		1/4			C地区	No.3～2間重機掘削		包含層
267	128	119	須恵器	甕	(31.5)	(5.35)	-		1/8			C地区	6より南深堀り	褐灰色シルト	包含層

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
268	129		弥生土器	壺	(25.2)	(2.55)	-		1/12			D地区	SH1001 北西区		SH1001
269	129		弥生土器	壺	-	(11.0)	-				体部1/9	D地区	SH1001 主柱穴⑥	芯・掘方両方	SH1001
270	129		弥生土器	壺	-	(4.25)	-				体部小片	D地区	SH1001		SH1001
271	129		弥生土器	壺	-	(5.7)	(14.3)			1/4		D地区	支柱穴① SH1001		SH1001
272	129		弥生土器	壺	(21.7)	(2.8)	-		1/12			D地区①	SH1001 西半部		SH1001
273	129		弥生土器	壺	-	(7.6)	-				体部1/9	D地区	SH1001 南西区		SH1001
274	129	120	弥生土器	壺	-	(16.9)	7.8			完存	体部2/3	D地区	SH1001南部	床面直上	SH1001
275	129		弥生土器	甕	(19.1)	(3.0)	-		1/12			D地区	SH1001 北西区		SH1001
276	129	120	弥生土器	甕	(24.3)	(3.25)	-		1/10			D地区	SH1001 南西区		SH1001
277	129		弥生土器	甕	-	(2.8)	-				小片	D地区	SH1001 北西区		SH1001
278	129		弥生土器	甕	-	(5.85)	-				頸部 1/12	D地区	SH1001		SH1001
279	129		弥生土器	甕	(21.4)	(4.7)	-		1/12			D地区	SH1001 北西区		SH1001
280	129		弥生土器	甕	-	(5.2)	-				小片	D地区	SH1001 南西区	床面直上	SH1001
281	129		弥生土器	甕	(23.45)	(9.4)	-		1/9			D地区	SH1001		SH1001
282	129		弥生土器	甕	-	(5.8)	7.6			完存	体部2/3	D地区	SH1001 掘削土		SH1001
283	129		弥生土器	壺	-	(4.9)	-		1/8			D地区	SH1011		SH1002
284	129		弥生土器	壺	-	(2.5)	-				小片	D地区	SH1011		SH1002
285	129		弥生土器	甕	-	(3.1)	-		小片			D地区	SH1011		SH1002
286	129		弥生土器	甕	-	(3.4)	-		小片			D地区	SH1011		SH1002
287	129		弥生土器	甕	-	(4.6)	-				小片	D地区	SH1011		SH1002
288	129		弥生土器	甕	(25.0)	(6.5)	-		わずか			D地区	SH1004-a	上半、 灰褐色土	SH1003
289	129		弥生土器	甕	-	(3.7)	-		小片			D地区	SH1010内		SH1003
290	129		弥生土器	甕	-	(4.5)	-		小片			D地区	土坑A (SH1004内)		SH1003
291	129		弥生土器	甕	-	(5.75)	-		小片			D地区	SH1004-a	埋土上半	SH1003
292	129		弥生土器	甕	(27.0)	(4.9)	-		1/8			D地区	SH1004-a	下半、 暗灰色土	SH1003
293	129		弥生土器	鉢	-	(7.7)	-		小片			D地区①	SH1004 土坑A	半裁	SH1003
294	129		弥生土器	壺	-	(5.1)	(11.0)			1/3		D地区	SH1004内	土坑A	SH1003
295	130		弥生土器	壺	-	(3.8)	-		小片			D地区	SH1004-b	埋土上半 (灰褐色)	SH1004
296	130		弥生土器	壺	-	(5.2)	-		小片			D地区	SH1004-c	上～中層	SH1004
297	130		弥生土器	壺	-	(5.0)	-				体部小片	D地区	SH1004 南西区		SH1004
298	130	120	弥生土器	壺	-	(7.5)	-				体部わずか	D地区	SH1004	床面土	SH1004
299	130	120	弥生土器	壺	-	(4.8)	-				頸部小片	D地区	SH1004 南東区		SH1004
300	130		弥生土器	壺	-	(9.0)	-			わずか		D地区	SH1004内 土坑D		SH1004
301	130		弥生土器	甕	-	(5.9)	-		小片			D地区	SH1004-b	埋土上半 (灰褐色)	SH1004
302	130		弥生土器	甕	-	(5.65)	-		小片			D地区	SH1004-b	埋土上半 (灰褐色)	SH1004
303	130		弥生土器	甕	-	(4.65)	-		小片			D地区	SH1004-b	床面直上	SH1004
304	130	120	弥生土器	甕	-	(5.3)	-		小片			D地区	SH1004		SH1004
305	130	120	弥生土器	甕	-	(6.7)	-		小片			D地区	SH1004	床面土	SH1004
306	130		弥生土器	甕	-	(5.3)	-		小片			D地区	SH1004 南西区		SH1004
307	130	120	弥生土器	甕 讃岐産？	(21.1)	(5.2)	-		1/8			D地区	SH1004 南東区		SH1004
308	130		弥生土器	甕	-	(4.2)	(7.1)			1/3		D地区	SH1004	アゼ(東)	SH1004
309	130		弥生土器	鉢	(31.6)	(6.8)	-		1/12			D地区	SH1004		SH1004
310	130		弥生土器	鉢	(31.4)	(8.35)	-		小片			D地区	SH1004	アゼ(南)	SH1004
311	130	120	弥生土器	鉢	(35.7)	(8.5)	-		1/10			D地区	SH1004	床面土	SH1004
312	130		弥生土器	壺	(29.4)	(2.7)	-		小片			D地区	P0070		SH1005
313	130		弥生土器	壺	(15.0)	(7.35)	-		1/4弱			D地区	SH1002-S		SH1011
314	130		弥生土器	鉢	(15.7)	(5.15)	-		1/7			D地区	SH1002-S		SH1011
315	130		土製品	紡錘車	長4.75	幅4.6	厚0.75	16.4			ほぼ完存	D地区	SH1002- SK1055		SH1011
316	130		土製品	紡錘車	長4.45	幅4.55	厚0.7	10.3			ほぼ完存	D地区	SH1002- SK1055		SH1011

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
317	130		弥生土器	壺	-	(13.2)	-				体部1/6	D地区	SH1014 南壁付近	上層	SH1014
318	130	121	弥生土器	甕	長 14.4 短 11.0	13.1	5.6		3/4	ほぼ完存		D地区	SP1067 (SH1014 主柱穴)	検出面	SH1014
319	130	120	弥生土器	甕	-	(8.2)	7.6			完存	体部1/3	D地区	P1103		SH1015
320	130		弥生土器	甕	(23.0)	(5.4)	-		1/15			D地区	P1103		SH1015
321	130		弥生土器	甕	-	(3.5)	-				体部小片	D地区	SH1003	床面検出時	SH1015
322	131	122	弥生土器	壺	-	(8.0)	-				体部小片	D地区	SH1023	中・下層	SH1021
323	131	122	弥生土器	壺	-	(12.9)	-				小片	D地区	SH1023	中・下層	SH1021
324	131	121	弥生土器	蓋	-	(2.7)	-				1/5	D地区	SH1023	中・下層	SH1021
325	131	122	弥生土器	壺	(14.7)	(6.4)	-		端部1/8			D地区	SH1023		SH1021
326	131	122	弥生土器	壺	-	(5.9)	-				小片	D地区	SH1023	中・下層	SH1021
327	131	122	弥生土器	甕	(29.8)	(8.2)	-		1/12			D地区	SH1023		SH1021
328	131	122	弥生土器	甕	-	(8.0)	(6.7)			1/2弱		D地区	SH1023		SH1021
329	131		弥生土器	甕	-	(5.1)	-		わずか			D地区	P0024	一段下げ	P1024
330	131	120	弥生土器	壺	-	(6.6)	-				頸部小片	D地区	SP1033		P1033
331	131		弥生土器	甕	(19.7)	(6.3)	-		1/14			D地区	P1091		P1091
332	131		弥生土器	壺	(18.8)	(5.8)	-		1/8			D地区	SK1003		SK1003
333	131	122	弥生土器	壺	-	(9.2)	-				頸部小片	D地区	SK1003		SK1003
334	131		弥生土器	甕	-	(3.0)	-		わずか			D地区	SX1003		SK1003
335	131		弥生土器	(底部)	-	(5.2)	6.0			1/4		D地区	SX1003		SK1003
336	131	122	弥生土器	甕	(27.0)	(7.4)	-		1/8			D地区	SK1003		SK1003
337	131		弥生土器	甕	(21.4)	(7.7)	-		1/10			D地区	SK1003		SK1003
338	131	122	弥生土器	壺	-	(24.0)	9.0			1/2	体部1/4	D地区	SK1017-E		SK1017
339	131		弥生土器	甕	-	(3.6)	-		小片			D地区	SK1017-E		SK1017
340	131		弥生土器	甕	-	(4.3)	-		小片			D地区	SK1017	2層下以下	SK1017
341	131	122	弥生土器	甕	(21.8)	(15.7)	-		端部わずか		頸～体部3/4	D地区	SK1017-W		SK1017
342	132		弥生土器	壺	-	(8.6)	-				体部破片	D地区	SK1001		SK1001
343	132	123	弥生土器	壺	(28.4)	(8.2)	-		わずか		体部わずか	D地区	SK1001		SK1001
344	132		弥生土器	壺	-	(5.2)	(12.2)			わずか		D地区	SK1001 (一部SH1015)		SK1001
345	132		弥生土器	壺	(17.1)	(6.8)	-		1/4			D地区	SK1001		SK1001
346	132		弥生土器	壺	(17.1)	(8.5)	-		わずか			D地区	SK1001		SK1001
347	132	123	弥生土器	壺	13.6	(40.3)	6.5		ほぼ完存	ほぼ完存	体部1/4	D地区①	SK1001	1・2層	SK1001
348	132		弥生土器	壺	-	(6.7)	(6.7)			1/4		D地区	SK1001		SK1001
349	132		弥生土器	甕	(15.5)	(3.3)	-		1/8			D地区①	SK1001	埋土一括	SK1001
350-1	132	123	弥生土器	甕	(16.7)	(8.5)	-		合1/2			D地区①	SK1001	1・2層	SK1001
350-2	132	123	弥生土器	甕	-	(4.9)	6.9			完存		D地区①	SK1001	1・2層	SK1001
351	132		弥生土器	甕	(15.4)	(7.6)	-		1/3			D地区①	SK1001	1・2層	SK1001
352	132	123	弥生土器	甕	(17.5)	(9.8)	-		1/10			D地区	SK1001	最下層?	SK1001
353	132	123	弥生土器	甕	(19.45)	(9.85)	-		1/4弱			D地区①	SK1001	1・2層	SK1001
354	132		弥生土器	甕	(29.5)	(5.5)	-		1/18			D地区	SK1001 (一部SH1015)		SK1001
355	132		弥生土器	鉢	(24.3)	(3.9)	-		わずか			D地区	SK1001 (一部SH1015)		SK1001
356	132		弥生土器	甕	(13.4)	(8.2)	-		1/4			D地区	SK1001		SK1001
357	132		弥生土器	(底部)	-	(4.3)	5.7			完存		D地区	SK1001 (一部SH1015)		SK1001
358	132		弥生土器	甕	-	(4.15)	6.0			完存		D地区	SK1001		SK1001
359	132	123	弥生土器	壺	(12.35)	(6.2)	-		2/5			D地区①	SK1001	1・2層	SK1001
360	132		弥生土器	甕	(30.2)	(6.4)	-		わずか			D地区	SK1001		SK1001
361	132	123	弥生土器	甕	(23.5)	(4.4)	-		1/14			D地区	SK1001		SK1001
362	132		弥生土器	壺	-	(7.2)	(7.2)			1/4		D地区	SK1001 (一部SH1015)		SK1001
363	132	124	弥生土器	台付鉢	(32.3)	29.0	17.1		1/2	ほぼ完存		D地区①	SK1001	1・2層	SK1001
364	133		弥生土器	壺	-	(7.4)	9.4			ほぼ完存		D地区	SX1001	上層	SK1002
365	133		弥生土器	壺	-	(12.0)	(10.5)			1/3		D地区	SX1001	上層	SK1002
366	133		弥生土器	鉢	(40.55)	(11.4)	-		小片		体部1/12	D地区	SX1001	上層	SK1002
367	133		弥生土器	甕	-	(5.3)	7.4			完存		D地区	SK1010		SK1010
368	133		弥生土器	甕	-	(5.2)	(7.0)			2/5		D地区	SK1010		SK1010
369	133		弥生土器	甕	-	(5.75)	-				体部わずか	D地区	SK1010		SK1010
370	133		弥生土器	壺	-	(5.75)	-				頸部付近1/4弱	D地区	SK1011東側		SK1011
371	133		弥生土器	壺	-	(9.2)	-				頸部上1/6	D地区	SK1011東側		SK1011
372	133		弥生土器	鉢or甕	(27.45)	(3.4)	-		わずか			D地区	SK1011東側		SK1011
373	133		弥生土器	甕	-	(6.5)	(7.6)			1/4		D地区	SK1011東側		SK1011
374	133		弥生土器	壺	(34.05)	(6.7)	-		1/18			D地区	SK1014		SK1014

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
375	133		弥生土器	壺	-	(4.7)	(6.2)			1/4		D地区	SK1019		SK1019
376	133		弥生土器	甕	-	(2.95)	-		わずか			D地区	SK1019		SK1019
377	133		弥生土器	甕	(27.2)	(8.0)	-		わずか		体部1/12	D地区	SK1020		SK1020
378	133		弥生土器	甕	(15.6)	(4.3)	-		1/9			D地区	SK1020		SK1020
379	133		弥生土器	甕	-	(3.5)	-		わずか			D地区	SK1020		SK1020
380	133		弥生土器	壺	-	(4.7)	(6.55)			1/2		D地区	SK1020		SK1020
381	133		弥生土器	鉢	(21.4)	(3.7)	-		1/13			D地区	SK1020		SK1020
382	133		弥生土器	壺	(23.5)	(3.2)	-		1/12			D地区	SK1021		SK1021
383	133		弥生土器	甕	(18.6)	(3.2)	-		1/10			D地区	SK1021		SK1021
384	133		弥生土器	壺	-	(6.1)	(6.0)			1/8		D地区	SK1022		SK1022
385	133		弥生土器	壺	-	(5.7)	9.9			完存		D地区	SK1026		SK1026
386	133		弥生土器	壺	-	(4.2)	(8.4)			2/3		D地区	SK1027		SK1027
387	133		弥生土器	甕	(15.6)	(2.8)	-		1/12弱			D地区	SK1027		SK1027
388	133		弥生土器	壺	-	(5.8)	(9.2)			1/4		D地区	SK1027		SK1027
389	133		弥生土器	壺	-	(6.8)	6.7			完存		D地区	SK1031		SK1031
390	133		弥生土器	甕	(16.9)	(7.6)	-		1/8			D地区	SK1040		SK1040
391	133		弥生土器	甕	-	(2.9)	-		わずか			D地区	SK1042		SK1042
392	133		弥生土器	壺	-	(7.1)	(11.3)			1/8		D地区	SK1054		SK1054
393	133		弥生土器	壺	(18.0)	(3.1)	-		1/6			D地区	SK1056		SK1056
394	134		弥生土器	壺	(21.0)	(3.8)	-		1/8			D地区	SX1003		SX1004
395	134		弥生土器	壺	-	(10.85)	-				頸部1/3	D地区	SX1002南部	下層	SX1004
396	134		弥生土器	壺	-	(8.0)	-		1/4			D地区	SX1001	下層	SX1004
397	134		弥生土器	壺	-	(6.65)	-				頸部わずか	D地区	SX1002	下位畦下半	SX1004
398	134		弥生土器	壺	-	(8.05)	-				頸部1/6	D地区	SX1001	最下層	SX1004
399	134	124	弥生土器	壺	(22.2)	(11.5)	-		1/2		頸部ほぼ完存	D地区	SX1001、1002境界付近	下層	SX1004
400	134		弥生土器	壺	-	(6.9)	-				頸部1/8	D地区	SX1002		SX1004
401	134		弥生土器	壺	-	(9.2)	-				体部小片	D地区	SX1002中央	上～中層	SX1004
402	134	124	弥生土器	壺	-	(5.5)	-				肩部小片	D地区	SX1001	下層	SX1004
403	134		弥生土器	壺	-	(7.6)	-				体部わずか	D地区	SX1002	下位畦上半	SX1004
404	134		弥生土器	壺	(9.9)	(6.15)	-		1/4			D地区	SX1002	埋土(濁った細砂混じり・極細砂)	SX1004
405	134		弥生土器	壺	(11.5)	(11.8)	-		1/3			D地区	SX1001	下層	SX1004
406	134	124	弥生土器	壺	-	(16.4)	6.3				体～底部完存	D地区	SX1001、1002境界付近	下層	SX1004
407	134	124	弥生土器	壺	10.2	(43.2)	9.2		ほぼ完存	完存		D地区	SX1001	下層	SX1004
408	134		弥生土器	壺	-	(8.6)	(8.6)			1/2		D地区	SX1002	下位畦下半	SX1004
409	134		弥生土器	壺	(27.7)	(6.5)	-		小片			D地区	SH1015内土坑SX1	及びその周辺	SX1004
410	134		弥生土器	壺	17.1	(9.6)	-		3/4			D地区	SX1002?		SX1004
411	134		弥生土器	壺	-	(5.5)	-				体部破片	D地区	SX1001	下層	SX1004
412	134		弥生土器	壺	-	(7.3)	8.9			完存		D地区	SX1001、1002境界付近	下層	SX1004
413	134		弥生土器	壺	-	(10.5)	10.95			2/3		D地区	SX1002	下層	SX1004
414	134		弥生土器	壺	-	(5.55)	(10.2)			1/4		D地区	SX1002	下位畦下半	SX1004
415	134		弥生土器	壺	-	(5.2)	9.6			完存		D地区	SX1002	下層	SX1004
416	134		弥生土器	壺	-	(6.7)	(12.0)			1/4		D地区	SX1002南部	下層	SX1004
417	134		弥生土器	壺	-	(9.55)	11.1			完存		D地区	SX1002	下層	SX1004
418	134		弥生土器	壺	-	-	(7.8)			1/3		D地区	SX1001、1002境界付近	下層	SX1004
419	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	(19.3)	(4.95)	-		1/10			D地区	SX1001	下層	SX1004
420	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	-	(4.8)	-		1/10			D地区	SX1002?		SX1004
421	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	(20.3)	(5.35)	-		1/8			D地区	SX1001	下層	SX1004
422	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	(21.3)	(8.2)	-		1/6			D地区	SX1002南西		SX1004
423	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	(21.8)	(8.8)	-		1/4			D地区	SX1002	下層	SX1004
424	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	21.7	(15.15)	-		3/4			D地区	SX1002	下層	SX1004
425	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	(21.3)	(8.75)	-		1/12			D地区	SX1001	下層	SX1004
426	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	(22.6)	(10.65)	-		1/5		体部1/12	D地区	SX1001	下層	SX1004
427	135		弥生土器	甕	-	(5.0)	6.8			ほぼ完存		D地区	SX1002?		SX1004
428	135	125	弥生土器	甕(紀伊型)	-	(6.0)	7.4			完存		D地区	SX1002南西		SX1004
429	135	125	弥生土器	甕	-	(5.85)	7.3			完存		D地区	SX1002南西方向畦	中層	SX1004
430	135		弥生土器	甕	(20.7)	(4.2)	-		わずか			D地区	SK1002	畦内(南端)	SX1004
431	135		弥生土器	甕	(13.6)	(3.5)	-		1/3			D地区	SX1002	下層	SX1004
432	135		弥生土器	甕	(22.0)	(3.0)	-		1/8			D地区	SX1003底面付近		SX1004
433	135		弥生土器	甕	-	(4.7)	-		小片			D地区	SX1002	下層	SX1004
434	135		弥生土器	甕	-	(3.1)	-		小片			D地区	SX1002	中層下半	SX1004
435	135	126	弥生土器	甕	(30.2)	(7.4)	-		1/12			D地区	SH1015内土坑SX1	及びその周辺	SX1004
436	135		弥生土器	甕	(20.6)	(6.7)	-		1/8			D地区	SX1002		SX1004

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
437	135		弥生土器	甕	(27.0)	(8.3)	-		1/5			D地区	SX1002 南西方向畦	上層	SX1004
438	135		弥生土器	甕	(25.5)	(7.5)	-		1/12			D地区	SX1002	4層以下	SX1004
439	135		弥生土器	甕	(21.3)	(5.9)	-		1/6			D地区	SX1002南西		SX1004
440	135		弥生土器	甕	(30.1)	(11.6)	-		1/8			D地区	SX1002 北西部	中～下層	SX1004
441	135		弥生土器	甕	(31.2)	(13.5)	-		1/10			D地区	SX1002		SX1004
442	136		弥生土器	甕or鉢	(42.8)	(7.0)	-		わずか			D地区	SX1001、 1002境界付近	下層	SX1004
443	136		弥生土器	甕or鉢	(33.2)	(1.6)	-		わずか			D地区	SK1001、 SK1003		SX1004
444	136		弥生土器	甕	(19.4)	(5.1)	-		1/8			D地区	SX1002	上層	SX1004
445	136		弥生土器	甕	(23.4)	(8.1)	-		1/10			D地区	SX1002南西		SX1004
446	136		弥生土器	甕	(26.0)	(8.3)	-		1/8			D地区	SX1002	下層	SX1004
447	136		弥生土器	甕	-	(4.1)	-		わずか			D地区	SX1002	埋土(濁った細砂混じり・極細砂)	SX1004
448	136		弥生土器	甕	-	(4.1)	-		わずか			D地区	SX1002南部	下層	SX1004
449	136		弥生土器	甕	-	(6.6)	-		わずか			D地区	SX1003	上～下層	SX1004
450	136		弥生土器	甕	-	(5.3)	-				体部上半小片	D地区	SX1002		SX1004
451	136		弥生土器	甕	-	(7.3)	-				体部上半小片	D地区	SX1002 (SH1020 北西区)	上層	SX1004
452	136		弥生土器	甕	-	(5.2)	-		わずか			D地区	SX1002	下層	SX1004
453	136	126	弥生土器	甕	-	(3.1)	-		小片			D地区	SX1001	下層	SX1004
454	136	126	弥生土器	甕	-	(6.1)	-				口～肩部小片	D地区	SX1001	下層	SX1004
455	136		弥生土器	甕	-	(5.9)	-		わずか			D地区	SX1002	埋土(濁った細砂混じり・極細砂)	SX1004
456	136		弥生土器	甕	-	(2.95)	-		小片			D地区	SX1001	最下層	SX1004
457	136		弥生土器	甕	(17.0)	(7.0)	-		1/5			D地区	SX1002	下層	SX1004
458	136		弥生土器	甕	(16.4)	(9.0)	-		わずか		体部1/6	D地区	SX1002 南西方向畦	中層	SX1004
459	136		弥生土器	甕	(18.5)	(11.6)	-		1/8			D地区	SX1003		SX1004
460	136	126	弥生土器	甕	(16.5)	(16.5)	-		わずか		体部1/2	D地区	SX1001、 1002境界付近	下層	SX1004
461	136	126	弥生土器	甕	(28.55)	(18.2)	-			1/2		D地区	SX1001、 1002境界付近	下層	SX1004
462	136	126	弥生土器	甕	25.6	33.2	9.8		ほぼ完存	完存		D地区	SX1001	下層	SX1004
463	136	127	弥生土器	甕	26.8	37.0	9.4		完存	完存		D地区	SX1001	下層	SX1004
464	136	126	弥生土器	甕	-	(6.05)	(7.35)			ほぼ完存		D地区	SX1001	下層	SX1004
465	136	126	弥生土器	甕	-	(7.5)	8.0			完存		D地区	SX1002 南西方向畦	中層	SX1004
466	137	126	弥生土器	甕	(19.3)	(11.1)	-		1/8			D地区	SX1001	下層	SX1004
467	137		弥生土器	甕	(16.6)	(10.4)	-		1/6			D地区	SX1002 南西方向畦	中層	SX1004
468	137		弥生土器	甕	-	(4.7)	7.0			完存		D地区	SX1003	上～下層	SX1004
469	137		弥生土器	甕	-	(5.3)	7.2			1/2		D地区	SX1002	下層	SX1004
470	137		弥生土器	甕	-	(5.15)	5.4			ほぼ完存		D地区	SK1002		SX1004
471	137		弥生土器	甕	-	(6.3)	(6.4)			1/3		D地区	SK1002		SX1004
472	137		弥生土器	甕	-	(6.6)	7.8			1/2		D地区	SX1002	下層	SX1004
473	137		弥生土器	甕	-	(6.0)	8.4			完存		D地区	SX1001	下層	SX1004
474	137		弥生土器	壺	-	(6.2)	9.6			完存		D地区	SK1002		SX1004
475	137		弥生土器	壺	-	(7.7)	(10.4)			1/4弱		D地区	SX1002南西		SX1004
476	137		弥生土器	鉢	(24.4)	(6.9)	-		1/10 端部わずか			D地区	SX1001	下層	SX1004
477	137		弥生土器	鉢	(27.6)	(4.9)	-		1/10			D地区	SX1001、 1002境界付近	下層	SX1004
478	137		弥生土器	鉢	(27.0)	(4.4)	-		1/16			D地区	SK1001、 SK1003		SX1004
479	137		弥生土器	鉢	(25.4)	(7.4)	-		1/16			D地区	SX1002南西		SX1004
480	137		弥生土器	鉢	(26.2)	(5.05)	-		1/12			D地区	SX1001	最下層	SX1004
481	137		弥生土器	鉢	(24.8)	(12.1)	-		1/10		体部1/10	D地区	SX1002?		SX1004
482	137		弥生土器	鉢	(38.8)	(12.6)	-		1/12			D地区	SH1015内 土坑SX1	及びその周辺	SX1004
483	137	125	弥生土器	鉢	(23.3)	(9.1)	-		1/9		体部わずか	D地区	SX1001	下層	SX1004
484	137		弥生土器	鉢	(21.65)	(6.6)	-		1/12			D地区	SX1002 南西方向畦	中層	SX1004
485	137		弥生土器	鉢	(36.6)	(12.8)	-		1/8			D地区	SX1001	下層	SX1004
486	137	127	弥生土器	鉢	(18.9)	(23.6)	-		1/6			D地区	SX1001	下層	SX1004
487	137		弥生土器	鉢	-	(5.7)	-		小片			D地区	SX1002		SX1004
488	137	127	弥生土器	鉢	(4.3)	4.0	4.5		1/3	完存		D地区	SK1002		SX1004
489	138		弥生土器	甕蓋	(24.0)	(7.3)	-				1/10	D地区	SX1013		SX1005

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
490	138		弥生土器	壺	(19.4)	(9.25)	-		1/6			D地区	SH1015 南東区	下層上半	SX1005
491	138		弥生土器	壺	(20.9)	(3.0)	-		1/12			D地区	SH1015		SX1005
492	138		弥生土器	壺	(23.5)	(5.5)	-		1/9			D地区	SH1015 南東区	下層上半	SX1005
493	138		弥生土器	壺	(11.9)	(7.35)	-		小片			D地区	SH1015 北東区	中層	SX1005
494	138		弥生土器	壺	-	(4.8)	-				体部小片	D地区	集砂1	間	SX1005
495	138	127	弥生土器	壺	-	(5.5)	-				体部小片	D地区	SH1015 南東端		SX1005
496	138	127	弥生土器	壺	-	(6.35)	-				体部小片	D地区	SH1015 南東端		SX1005
497	138	127	弥生土器	壺	-	(5.4)	-				頸部小片?	D地区	集石1	直上	SX1005
498	138		弥生土器	壺	-	(5.8)	-				体部小片	D地区	SH1015 南東端		SX1005
499	138	127	弥生土器	壺	-	(7.9)	-				頸部付近 1/4	D地区	SH1015 南西区	中層	SX1005
500	138	127	弥生土器	壺	(11.85)	(4.05)	-		1/7			D地区	集砂1	間	SX1005
501	138		弥生土器	壺	-	(3.8)	-				体部小片	D地区	SH1015 北東区	下層	SX1005
502	138		弥生土器	壺	(14.3)	(11.4)	-		1/8			D地区	SK1002南部 (SH1016 南北畦)		SX1005
503	138		弥生土器	壺	-	(5.0)	(8.75)			3/5		D地区	SH1015 南東区	下層上半	SX1005
504	138		弥生土器	壺	-	(4.25)	7.9			完存		D地区	SH1015 南東端		SX1005
505	138		弥生土器	壺	-	(5.3)	(7.45)			1/2弱		D地区	SH1015 北東区	中層	SX1005
506	138		弥生土器	壺	-	(6.8)	(8.75)			1/2		D地区	SH1015 南東端		SX1005
507	138		弥生土器	壺	-	(6.15)	(8.7)			1/4		D地区	SH1015 南東端		SX1005
508	138		弥生土器	壺	-	(6.4)	(8.6)			1/3		D地区	SH1015 南東端		SX1005
509	138		弥生土器	壺	-	(3.9)	7.9			完存		D地区	SX1012		SX1005
510	138	128	弥生土器	壺	-	(4.8)	(16.0)			1/2		D地区	SH1015南端	上層	SX1005
511	138		弥生土器	壺	-	(8.55)	(13.35)			1/3		D地区	SH1015 北東区	下層	SX1005
512	138		弥生土器	壺	(10.7)	(9.25)	-		1/4弱			D地区	SH1015 (北東区)	二段目	SX1005
513	138	127	弥生土器	無頸壺	(5.3)	(8.2)	-		1/7		体部1/6	D地区	集石1	直上	SX1005
514	138		弥生土器	甕	(27.4)	(6.4)	-		1/18			D地区	SH1015		SX1005
515	138		弥生土器	甕	-	(3.85)	-		小片			D地区	SH1015	～下層	SX1005
516	138		弥生土器	甕	-	(3.75)	-		小片			D地区	SH1015 (北西区)	下半	SX1005
517	138	128	弥生土器	甕	-	(3.3)	-		小片			D地区	SH1015 南東端		SX1005
518	138		弥生土器	甕	(15.7)	(6.2)	-		1/9			D地区	集石1	直上	SX1005
519	138		弥生土器	甕	(18.0)	(2.2)	-		1/9			D地区	SX1013		SX1005
520	138		弥生土器	甕	-	(1.8)	-		小片			D地区	SH1015 北東区	中層	SX1005
521	138		弥生土器	甕	-	(4.9)	-		小片			D地区	SH1015 北東区	中層	SX1005
522	138		弥生土器	甕	-	(5.1)	-		小片			D地区	SH1015 南東端		SX1005
523	138		弥生土器	壺	(13.7)	(4.75)	-		1/7			D地区	SH1015 北東区	下層	SX1005
524	138		弥生土器	甕	(18.65)	(8.8)	-		1/7			D地区	SH1015		SX1005
525	138	128	弥生土器	甕	(39.2)	(6.4)	-		1/16			D地区	SH1015 南東端		SX1005
526	138	128	弥生土器	甕	-	(6.1)	-		小片			D地区	SH1015 南東端		SX1005
527	139	128	弥生土器	甕	(21.6)	(6.3)	-		1/12			D地区	SH1015 南東端		SX1005
528	139	128	弥生土器	甕	(22.3)	(5.2)	-		1/8			D地区	SH1015 南東端		SX1005
529	139	128	弥生土器	甕	(23.4)	(7.6)	-		小片			D地区	SH1015 南東端		SX1005
530	139	128	弥生土器	甕	(26.2)	(6.9)	-		1/14			D地区	SH1015 南東端		SX1005
531	139		弥生土器	甕	(25.2)	(4.7)	-		1/12			D地区	SH1015 下面検出遺構	埋土一括	SX1005
532	139	128	弥生土器	鉢	(35.6)	(17.5)	-		わずか			D地区	SH1015 南東端		SX1005

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
533	139	128	弥生土器	甕	(30.5)	(12.5)	-		1/9			D地区	SH1015 南東区	下層	SX1005
534	139		弥生土器	甕	-	(2.65)	-		わずか			D地区	SH1015		SX1005
535	139		弥生土器	壺	-	(3.5)	10.0			1/3		D地区	SX1012		SX1005
536	139		弥生土器	甕	-	(5.6)	4.2			完存		D地区	SH1015 北東区	中層	SX1005
537	139		弥生土器	甕	-	(5.7)	6.2			ほぼ完存		D地区	SX1013		SX1005
538	139		弥生土器	甕	-	(5.0)	6.85			完存		D地区	SH1015 北東区	中層	SX1005
539	139		弥生土器	甕	-	(6.2)	7.2			ほぼ完存		D地区①	SH1015 (西半)		SX1005
540	139		弥生土器	甕	-	(2.9)	(8.2)			1/2		D地区	集石1	直上	SX1005
541	139		弥生土器	鉢	(16.95)	(7.6)	-		1/7			D地区	SH1015 (北西区)	下半	SX1005
542	139		弥生土器	甕	-	(7.9)	(8.9)			1/4		D地区	集石1	直上	SX1005
543	139		弥生土器	壺	-	(6.75)	6.8			完存	体部1/6	D地区	集砂1	間	SX1005
544	139		弥生土器	甕	-	(7.3)	(6.25)			1/4		D地区	SH1015 南東区	下層上半	SX1005
545	139		弥生土器	鉢(把手)	-	(4.6)	-				把手周辺小片	D地区	SX1013		SX1005
546	139		弥生土器	鉢	(27.8)	(14.7)	-		1/4			D地区	SH1015 南東端		SX1005
547	139	129	弥生土器	壺	(19.5)	(3.6)	-		1/8			D地区	SH1016西区	下層	SX1006
548	139		弥生土器	壺	(25.0)	(9.1)	-		1/6			D地区	SH1016西区	中層～下層	SX1006
549	139	129	弥生土器	壺	-	(13.8)	-				頸部小片	D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
550	139		弥生土器	壺	-	(6.5)	-				体部小片	D地区	SH1016西区	下層	SX1006
551	139		弥生土器	壺	-	(5.4)	-				頸部1/12	D地区	SH1016		SX1006
552	139	129	弥生土器	壺	-	(6.3)	-				体部小片	D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
553	139	129	弥生土器	壺	-	(7.0)	-				体部小片	D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
554	139	129	弥生土器	壺	-	(10.2)	-				小片	D地区	SH1016西区	下層	SX1006
555	139		弥生土器	壺	-	(10.3)	-				頸部小片	D地区	SK1002南部 (SH1016 南北畦)		SX1006
556	139		弥生土器	壺	-	(7.2)	-				体部小片	D地区	SH1016南区	床面	SX1006
557	140		弥生土器	壺	-	(4.1)	(7.9)			1/4		D地区	SH1016		SX1006
558	140		弥生土器	壺	-	(7.65)	(8.8)			1/4		D地区	SH1016		SX1006
559	140		弥生土器	壺	-	(7.25)	9.6			完存		D地区	SH1016	下層	SX1006
560	140		弥生土器	壺	-	(6.7)	(12.2)			1/3		D地区	SH1016西区	中層～下層	SX1006
561	140	129	弥生土器	甕(紀伊型)	-	(6.6)	-		わずか			D地区	SH1016西区	下層	SX1006
562	140	129	弥生土器	甕(紀伊型)	-	(8.2)	-		端部わずか			D地区	SH1016南区	上層	SX1006
563	140	129	弥生土器	甕(紀伊型)	(24.6)	(9.15)	-		1/5			D地区	SH1016西区	中層～下層	SX1006
564	140	129	弥生土器	甕(紀伊型)	(24.9)	(5.25)	-		わずか			D地区	SH1016西区	中層～下層	SX1006
565	140	129	弥生土器	甕(紀伊型)	(26.2)	(4.2)	-		1/18			D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
566	140	129	弥生土器	甕(紀伊型)	(18.1)	(12.15)	-		1/12			D地区	SH1016西区	中層～下層	SX1006
567	140		弥生土器	甕(紀伊型)	-	(7.7)	8.3			ほぼ完存		D地区	SH1016南区	上層	SX1006
568	140	129	弥生土器	甕	(16.3)	(2.35)	-		1/12			D地区	SH1016	下層	SX1006
569	140	129	弥生土器	甕	(25.0)	(1.8)	-		1/12			D地区	SH1016南区	上層	SX1006
570	140	129	弥生土器	甕	(26.5)	(3.15)	-		わずか			D地区	SH1016	下層	SX1006
571	140	129	弥生土器	甕	-	(3.8)	-		小片			D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
572	140	129	弥生土器	甕	(16.8)	(8.6)	-		1/9			D地区	SH1016西区	中層～下層	SX1006
573	140		弥生土器	鉢	(45.4)	(6.3)	-		1/20			D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
574	140		弥生土器	甕	-	(3.75)	7.8			5/8		D地区	SH1016西区	中層～下層	SX1006
575	140		弥生土器	甕	-	(5.2)	8.7			完存		D地区	SK1002南部 (SH1016 南北畦)		SX1006
576	140	129	弥生土器	甕	(23.9)	(6.3)	-		1/8			D地区	SH1016西区	下層	SX1006
577	140		弥生土器	甕	(22.5)	(5.4)	-		1/10			D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
578	140	129	弥生土器	甕	(19.5)	(3.5)	-		1/12			D地区	SH1016	下層	SX1006
579	140		弥生土器	甕	-	(5.4)	-				肩部1/8	D地区	SX1007 より上		SX1006
580	140		弥生土器	甕	-	(2.6)	-		わずか			D地区	SX1010		SX1006
581	140	129	弥生土器	鉢	(28.5)	(6.7)	-		1/16			D地区	SH1016 (西区)	上層	SX1006
582	140		弥生土器	甕	(30.0)	(3.4)	-		1/12			D地区	SH1016 (北区)	上層	SX1006
583	140		弥生土器	鉢or甕	(38.2)	(8.3)	-		1/12			D地区	SH1016	下層	SX1006

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
584	140		弥生土器	鉢	(27.0)	(6.7)	-		わずか			D地区	SK1002南部(SH1016南北畦)		SX1006
585	141		弥生土器	(底部)	-	(3.7)	(8.35)			1/4		D地区	SH1017A アゼ内		SX1007
586	141		弥生土器	(底部)	-	(5.35)	7.1			完存		D地区	SH1017		SX1007
587	141		弥生土器	壺	-	(4.0)	-				体部小片	D地区	SH1018	一段下げ	SX1008
588	141		弥生土器	壺	-	(8.1)	-				頸部1/4弱	D地区	SH1019西区	上～下層	SX1009
589	141		弥生土器	甕	-	(4.15)	-		小片			D地区	SH1019	上～下層	SX1009
590	141		弥生土器	鉢	-	(6.35)	-		わずか			D地区	SH1019西区	上～下層	SX1009
591	141		弥生土器	壺	(19.2)	(6.05)	-		1/9			D地区	SH1020-A		SX1010
592	141		弥生土器	壺	-	(3.5)	-				頸部付近	D地区	SH1020	P1070 断ち割り時	SX1010
593	141		弥生土器	壺	-	(7.6)	-				体部小片	D地区	SH1020	中層	SX1010
594	141		弥生土器	壺	-	(4.4)	(8.2)			1/2弱		D地区	SH1020	上層	SX1010
595	141		弥生土器	壺	-	(4.75)	(9.4)			1/2		D地区	SH1020	下層	SX1010
596	141		弥生土器	壺	-	(5.1)	(9.1)			1/7		D地区	SH1020	P1070 断ち割り時	SX1010
597	141		弥生土器	壺	-	(5.0)	(10.1)			1/4		D地区	SH1020	中層	SX1010
598	141	130	弥生土器	甕	(7.6)	(2.85)	-		1/9			D地区	SH1020	P1070 断ち割り時	SX1010
599	141		弥生土器	甕	(13.0)	(4.9)	-		1/8			D地区	SH1020	床面	SX1010
600	141		弥生土器	甕	-	(4.85)	-		小片			D地区	SH1020南区	中層	SX1010
601	141		弥生土器	甕	(22.5)	(8.1)	(21.4)		1/12			D地区	SH1020南区	一段下げ	SX1010
602	141	130	弥生土器	甕	(29.6)	(9.5)	-		小片			D地区	SH1021		SX1010
603	141		弥生土器	甕	-	(5.6)	-				口縁下半～肩部小片	D地区	SX1010		SX1010
604	141		弥生土器	甕	(23.0)	(9.7)	-		1/8			D地区	SX1010		SX1010
605	141		弥生土器	甕	-	(13.8)	8.2			3/4	体部1/4	D地区	SH1020	中層	SX1010
606	141	130	弥生土器	鉢	-	(12.35)	(7.0)		1/3		杯底部3/4	D地区	SH1020	上層	SX1010
607	142		弥生土器	蓋	(24.0)	(5.1)	-		1/5			D地区	SX1002東部北半	上層～下層	SX1011
608	142		弥生土器	蓋	(28.0)	(5.4)	-		1/10			D地区	SX1002	中～下層	SX1011
609	142		弥生土器	壺	-	(4.25)	-		わずか			D地区	SH1001西・SX1002	検出面から一段	SX1011
610	142		弥生土器	壺	-	(5.2)	-				頸部小片	D地区	SX1002		SX1011
611	142	130	弥生土器	壺	(19.7)	32.5	(7.0)		1/6	1/2		D地区	SX1002	4層以下	SX1011
612	142	130	弥生土器	壺	-	(23.8)	8.5				体～底部ほぼ完存	D地区	SX1002		SX1011
613	142	130	弥生土器	壺	(15.5)	(7.9)	-		1/4		頸部ほぼ完存	D地区	SX1002		SX1011
614	142		弥生土器	壺	(18.6)	(7.2)	-		1/6			D地区	SX1002東半	4層以下	SX1011
615	142		弥生土器	壺	-	(10.5)	-				頸部1/4弱	D地区	SX1002	中～下層	SX1011
616	142	130	弥生土器	壺	(23.6)	(9.3)	-		1/2		頸部3/4	D地区	SX1002	中～下層	SX1011
617	142		弥生土器	壺	-	(4.4)	-				体部小片	D地区	SX1002	中～下層	SX1011
618	142		弥生土器	壺	-	(4.35)	-				体部1/10	D地区	SH1001西・SX1002	検出面から一段	SX1011
619	142		弥生土器	壺	-	(4.1)	(8.0)			1/4		D地区	SX1002	中～下層	SX1011
620	142	130	弥生土器	壺	-	(35.3)	11.3			完存	頸～体部ほぼ完存	D地区	SX1002		SX1011
621	142		弥生土器	壺	-	(24.0)	10.7			完存	体部1/3	D地区	SX1002南部	下層	SX1011
622	142		弥生土器	壺	-	(5.8)	7.85			完存		D地区	SX1002周辺	上面検出	SX1011
623	142		弥生土器	壺	-	(7.7)	10.1			2/3		D地区	SX1002東半	4層以下	SX1011
624	142		弥生土器	壺	-	(7.3)	(9.9)			1/3		D地区	SX1002		SX1011
625	143		弥生土器	甕	(20.9)	(14.0)	-		1/4弱			D地区	SX1002東半	4層以下	SX1011
626	143		弥生土器	甕	(17.4)	(5.9)	-		1/8			D地区	SX1002	中～下層	SX1011
627	143	131	弥生土器	甕	(20.6)	(21.7)	(6.9)		1/3	1/4		D地区	SX1002東半	4層	SX1011
628	143	131	弥生土器	甕	(15.5)	24.4	(7.2)		わずか	4/5	体部2/3	D地区	SX1002中央	上～中層	SX1011
629	143		弥生土器	甕	(21.4)	(10.25)	-		1/3			D地区	SX1002	中～下層	SX1011
630	143		弥生土器	甕	(22.0)	(13.0)	-		1/6			D地区	SX1002	中～下層	SX1011
631	143	131	弥生土器	甕	24.1	(23.3)	-		付近全周		体部2/3	D地区	SX1002周辺	上面検出	SX1011
632	143		弥生土器	甕	(21.5)	(10.5)	-		1/8			D地区	SX1002	4層以下	SX1011
633	143		弥生土器	甕	(18.6)	(5.7)	-		1/8			D地区	SX1002東半	4層	SX1011
634	143		弥生土器	甕	-	(5.4)	-				頸～体部1/8	D地区	SX1002	4層以下	SX1011
635	143		弥生土器	甕	(22.65)	(10.7)	-		1/7			D地区	SX1002	上～下層(南北アゼ)	SX1011
636	143	131	弥生土器	甕	(23.35)	(20.8)	-		1/3		体部1/4	D地区	SX1002		SX1011
637	143		弥生土器	甕	(25.6)	(4.75)	-		1/8			D地区	SX1002	上～下層(南北アゼ)	SX1011
638	143	131	弥生土器	甕	(25.7)	(18.6)	-		ほぼ完存			D地区	SX1002周辺	上面検出	SX1011
639	143		弥生土器	甕	-	(14.4)	-				体部1/4	D地区	SX1002	中～下層	SX1011
640	143		弥生土器	甕	-	(7.7)	(7.6)			1/4		D地区	SX1002	中～下層	SX1011

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
641	143		弥生土器	壺	-	(7.0)	(8.7)			3/4		D地区	SX1002	中～下層	SX1011
642	143		弥生土器	壺	-	(5.4)	(10.2)			1/4		D地区	SX1002	中～下層	SX1011
643	144	132	弥生土器	甕	(18.5)	22.5	(6.4)		わずか	わずか	体部3/4	D地区	SX1002		SX1011
644	144	132	弥生土器	甕	22.6	24.8	(7.6)				ほぼ完存	D地区	SX1002東半	4層以下	SX1011
645	144	132	弥生土器	甕	(22.7)	(12.6)	-		1/3			D地区	SX1002		SX1011
646	144		弥生土器	甕	(23.8)	(3.4)	-		1/16			D地区	SX1002	中～下層	SX1011
647	144		弥生土器	甕	(33.5)	(10.3)	-		1/12			D地区	SX1002	中～下層	SX1011
648	144	132	弥生土器	甕	(23.2)	(21.2)	-		ほぼ完存			D地区	SX1002東半	4層以下	SX1011
649	144		弥生土器	甕	(21.2)	(5.7)	-		1/10			D地区	SX1002	4層以下	SX1011
650	144		弥生土器	鉢	-	(8.4)	-				頂部1/4	D地区	SX1002	4層以下	SX1011
651	144		弥生土器	鉢	(31.0)	(4.2)	-		1/12			D地区	SX1002	下層	SX1011
652	144		弥生土器	鉢	(27.9)	(13.9)	-		1/8			D地区	SX1002		SX1011
653	144		弥生土器	鉢	(46.4)	(6.4)	-		わずか			D地区	SX1002	下層	SX1011
654	144		弥生土器	壺	-	(3.4)	-				小片	D地区	SH1012-b	床面直上	SX1012
655	144	133	弥生土器	無頸壺	(14.8)	(4.0)	-		1/10			D地区①	SH1012	畦	SX1012
656	144		弥生土器	甕	-	(3.2)	-				小片	D地区	SH1012		SX1012
657	144		弥生土器	甕	-	(3.6)	-		小片			D地区	SH1012		SX1012
658	144		弥生土器	甕	(22.0)	(2.8)	-		1/4			D地区①	SH1012	畦	SX1012
659	144		弥生土器	甕	-	(2.9)	-		小片			D地区①	SH1012	畦	SX1012
660	144		弥生土器	鉢	(20.1)	(4.3)	-		小片			D地区①	SH1012	畦	SX1012
661	145	133	弥生土器	甕	(15.6)	(16.7)	-		1/4		体部ほぼ完存	D地区	SD1002		SD1002
662	145		弥生土器	(底部)	-	(4.6)	8.2			ほぼ完存		D地区	SD1002		SD1002
663	145		弥生土器	壺	(19.5)	(3.1)	-		1/8			D地区	SD1003南区	上～下層	SD1003
664	145	133	弥生土器	壺	-	(3.3)	-		小片			D地区	SD1003		SD1003
665	145	133	弥生土器	壺	-	(3.0)	-		小片			D地区	SD1003		SD1003
666	145	133	縄文土器	鉢	-	(4.1)	-		小片			D地区	SD1003南区	上～下層	SD1003
667	145		弥生土器	甕	-	(3.8)	-				頸部小片	D地区	SD1003北区	上～下層	SD1003
668	145		弥生土器	甕	(13.0)	(7.0)	-		1/6			D地区	SD1003	上～下層	SD1003
669	145		弥生土器	甕	(18.8)	(7.3)	-		1/2			D地区	SD1003	上～下層	SD1003
670	145	133	弥生土器	甕	-	(5.1)	7.2			1/2		D地区	SD1003	上～下層	SD1003
671	145		弥生土器	壺	-	(5.8)	-				体部1/18	D地区①②	遺構検出時	Ⅱa (Ⅰa下半含む)	包含層
672	145		弥生土器	壺	-	(6.3)	-				体部小片	D地区⑦⑧	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
673	145	134	弥生土器	壺	-	(8.0)	-				体部小片	D-2 東半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
674	145		弥生土器	壺	-	(7.0)	-				肩部小片	D地区⑤	第一面まで	Ⅰa灰褐色土	包含層
675	145		弥生土器	壺	-	(7.7)	-			ほぼ完存		D-①-②中央	第一面まで	褐色土Ⅰa	包含層
676	145		弥生土器	壺	-	(10.9)	(7.6)			1/2	体部1/3	D地区①		Ⅰa～Ⅱa	包含層
677	145		弥生土器	壺	-	(6.2)	(14.9)			1/6		D地区	SP1125		包含層
678	145		弥生土器	壺	(10.6)	(4.8)	-		1/10			D地区⑥北半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
679	145		弥生土器	壺	-	(4.4)	-				頸部付近1/8	D地区⑥	第三住居群検出時	Ⅰa～(Ⅱa)	包含層
680	145		弥生土器	壺	-	(7.4)	-				頸部小片	D地区⑥南半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
681	145		弥生土器	壺	(13.3)	(5.5)	-		1/8			D地区⑦⑧	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
682	145		弥生土器	壺	-	(5.65)	-				頸部付近1/12	D地区①②	遺構検出時	Ⅱa (Ⅰa下半含む)	包含層
683	145	134	弥生土器	甕(紀伊型)	(21.4)	(7.65)	-		1/5		体部1/5	D地区	P1070		包含層
684	145		弥生土器	甕	(37.6)	(5.5)	-		1/10			D地区⑦⑧	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
685	145		弥生土器	甕	(38.9)	(4.4)	-		わずか			D地区⑤	第一面まで	Ⅰa下半	包含層
686	145	134	弥生土器	甕	(21.7)	(12.6)	-		1/4弱			D地区⑥北半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
687	146		弥生土器	甕	-	(5.1)	-		小片			D地区⑦⑧	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
688	146		弥生土器	甕	(24.5)	(7.0)	-		わずか			D地区⑥南半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
689	146		弥生土器	甕	-	(4.7)	-				頸部1/12	D地区③～④東半	第二住居群検出時	Ⅰa下半～Ⅱa	包含層
690	146		弥生土器	甕	(23.3)	(2.6)	-		小片			D-2 東半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
691	146		弥生土器	甕	(25.4)	(5.2)	-		わずか			D地区⑥北半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
692	146		弥生土器	甕	(47.6)	(6.4)	-		わずか			D-④	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
693	146		弥生土器	鉢	(13.8)	(6.9)	-		1/8			D地区⑦⑧	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
694	146	134	瓦質土器	皿	(15.8)	(2.9)	-		1/10弱			D地区	P1066		P1066
695	146	134	瓦質土器	皿	-	(0.55)	4.0			2/3		D地区	P1066		P1066
696	146	134	瓦	丸瓦	長(3.4)	幅(2.3)	厚1.3				小片	D地区	P1066		P1066
697	146		須恵器	蓋	(10.9)	3.1	-		1/8		天井部ほぼ完存	D-③	第一面まで	褐色土	包含層
698	146	134	須恵器	蓋	-	(2.3)	-				つまみ周辺	D-③	第一面まで	褐色土	包含層
699	146	134	須恵器	杯	-	(2.0)	(14.3)			1/3		D-①-②東半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
700	146	134	須恵器	杯B	-	(1.9)	(10.3)			1/2		D-④	第一面まで	Ⅰa(褐)色土	包含層
701	146	134	須恵器	杯B	-	(2.4)	(6.7)			1/4		D-④	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層
702	146		須恵器	高杯	-	(5.4)	(13.1)				脚部1/4	D-③	第一面まで	褐色土	包含層
703	146		須恵器	甕	(11.7)	(3.65)	-		1/3			D地区	スエキ	Ⅱa層中	包含層
704	146		須恵器	壺	-	(8.4)	-				肩部1/8	D-③	第一面まで	褐色土	包含層
705	147		弥生土器	壺	(18.6)	(9.2)	-		1/3			F地区	SK06		SH2001

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	残存			出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					口径	器高	底径		口縁	底	他				
706	147	135	弥生土器	高杯	-	(12.1)	(12.7)				脚部のみほぼ完存	F地区	SK06		SH2001
707	147	135	弥生土器	甕	(18.8)	(11.5)	-		1/4			F地区	SK17		SB2001
708	147	135	弥生土器	甕	-	(4.1)	5.0			完存		F地区	SK17		SB2001
709	147		弥生土器	壺	(17.0)	(4.7)	-		1/6			E-2地区	P70		SB2003
710	147	135	弥生土器	壺	-	(10.7)	-				体部上半1/8	F地区	P19		P20
711	147	135	弥生土器	甕	(21.8)	(9.7)	-		1/4弱			F地区	SK03		SK2003
712	147		弥生土器	甕	(21.3)	(7.6)	-		わずか			F地区	SK03		SK2003
713	147		弥生土器	壺	(19.5)	(4.8)	-		1/4弱			F地区	SK19		SK2006
714	147	135	弥生土器	(底部)	-	(6.0)	4.8			完存		F地区	SK19		SK2006
715	147		弥生土器	壺	(14.7)	(10.7)	-		わずか		体部わずか	F地区	SK14		SK2010
716	147		弥生土器	甕	(17.1)	(2.75)	-		1/18			E-2地区	SK11		SK2011
717	147		弥生土器	壺	-	(8.65)	8.05			完存	体部1/3	E-2地区	SK16		SK2016
718	147		弥生土器	壺	-	(9.0)	8.0			完存	体部1/4	E-2地区	SK17		SK2017
719	147	135	弥生土器	甕	(24.05)	24.7	7.8		1/4	完存		E-2地区	SX12		SK2034
720	147	135	弥生土器	(底部)	-	(13.55)	8.7			完存	体部2/3	E-2地区	SX16		SK2032
721	147		弥生土器	甕	(29.3)	(6.3)	-		1/12			E-2地区	SX17	上層	SK2030
722	147		弥生土器	甕	(27.25)	(7.0)	-		わずか		頸部1/9	E-2地区	SX17	上層	SK2030
723	148		弥生土器	広口壺	-	(1.65)	-		口縁付近わずか			F地区	SD01①		SD2001
724	148		弥生土器	鉢?	-	(3.0)	-		わずか			F地区	SD01①		SD2001
725	148		弥生土器	甕	(15.75)	(3.1)	-		1/18			F地区	SD01②		SD2001
726	148	136	弥生土器	鉢	(41.0)	(19.4)	-		破片合1/2弱			F地区	SD08		SD2009
727	148	136	弥生土器	鉢	-	(7.6)	6.2			完存		F地区	SD09		SD2009
728	148		弥生土器	壺	-	(15.6)	(7.3)		わずか	2/3		E-2地区	SD13		SD2013
729	148		土師器	甕? 壺?	(11.6)	(4.8)	-		1/4			E-2地区	SD13		SD2013
730	148		土師器	高杯	(17.8)	(4.9)	-		1/4		杯部1/4	E-2地区	SD13		SD2013
731	148		土師器	高杯	(22.8)	(7.0)	-		1/3		杯部1/3	E-2地区	SD13		SD2013
732	148		須恵器	杯	(9.7)	3.1	5.05		1/2	完存		E-1地区②	SX01北側周辺	Ⅰ・Ⅱa	SD2013
733	148		弥生土器	甕	(36.0)	(4.8)	-		わずか			E-2地区	SD18		SD2018
734	148	136	弥生土器	壺	(16.9)	(10.2)	-		わずか		頸部全周	E-2地区	SD11	上層	SD2026
735	148		弥生土器	甕	(19.75)	(13.4)	-		1/9		体部1/6	E-2地区	SD11	褐色土(Ⅰa)	SD2026
736	148	136	弥生土器	甕	(24.1)	(14.4)	-		1/2弱			E-2地区	SD11	下半	SD2026
737	148		弥生土器	(底部)	-	(9.9)	7.5			完存	体部1/6	E-2地区	SD11	上層	SD2026
738	149		弥生土器	甕	-	(3.5)	-		小片			E-2地区	SX15-W	一段下げ	包含層
739	149	136	弥生土器	甕	-	(15.4)	7.0			完存		E-2地区中央		Ⅰaにぶい茶褐色シルト	包含層
740	149	136	弥生土器	壺	(15.0)	(7.0)	-		1/8			E-2地区		人力掘削	包含層
741	149	136	土師器	甕	(20.75)	(13.6)	-		1/6		体部1/9	E-1地区②	SX01北側周辺	Ⅰ・Ⅱa	包含層
742	149	136	瓦質土器	羽釜	(30.8)	(7.3)	-		1/8			E-2地区			包含層
743	149		弥生土器	無頸壺	(17.8)	(3.7)	-		1/18			F地区南東	SX		包含層
744	149	137	弥生土器	甕(紀伊型)	-	(11.1)	-				体部小片	F地区北東半		遺構検出	包含層
745	149		弥生土器	壺	-	(8.0)	-				体部小片	F地区①	遺構検出時	Ⅰa主	包含層
746	149		弥生土器	壺	-	(13.4)	-				体部上半1/7	F地区南半	遺構面まで		包含層
747	149		弥生土器	壺	-	(8.6)	(9.25)			2/3		F地区南半	遺構面まで		包含層
748	149		弥生土器	壺	(26.2)	(3.3)	-		1/12			F地区①②間	遺構検出		包含層
749	149		弥生土器	壺	(23.5)	(3.1)	-		1/12			F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層
750	149		弥生土器	甕(紀伊型)	(21.6)	(7.55)	-		1/12			F-③		Ⅰa主	包含層
751	149		弥生土器	甕	(28.8)	(5.9)	-		1/8			F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層
752	149		弥生土器	甕	-	(4.15)	(7.1)			1/4		F地区③	遺構検出	Ⅰa主	包含層
753	149		弥生土器	甕	-	(3.75)	-		わずか			F地区南東	SX		包含層
754	149		弥生土器	甕	-	(3.9)	-				体部小片	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層
755	149		弥生土器	甕	-	(4.4)	-				体部小片	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層
756	149	137	弥生土器	鉢	-	(8.55)	4.45			完存	体部1/2	F地区南東	SX		包含層
757	149		弥生土器	鉢	(21.7)	(5.1)	-		わずか		体部1/12	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層
758	149		弥生土器	鉢	(22.5)	(5.9)	-		1/9			F地区南半	遺構面まで		包含層

第2表　遺物計測表　石器

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構	石材
					長さ	幅	厚み						
S1	150	138	打製石器	ナイフ型石器(旧石器)	22.1	9.4	3.5	0.6	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S2	150	138	打製石器	ナイフ型石器	22.4	18.2	7.0	2.7	D地区②	SH1005	検出面	南部住居跡群南東群	サヌカイト
S3	150	138	打製石器	ナイフ型石器(基部)	17.6	10.9	2.6	0.6	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S4	150	138	打製石器	石錐	(51.8)	14.8	11.0	7.2	D地区	SX1002周辺面かき		SX1011周辺	サヌカイト
S5	150	138	打製石器	スクレイパー(旧石器転用)	60.2	46.7	8.5	24.4	E-2地区	SD25		SD2025	サヌカイト
S6	150	138	打製石器	石鏃	16.5	9.0	2.7	0.4	D地区	SH1003東部		南部住居跡群北東群	サヌカイト
S7	150	138	打製石器	石鏃	24.0	16.0	4.0	1.2	D地区	P1056		南部住居跡群北西群P1056	サヌカイト
S8	150	138	打製石器	石鏃	18.0	14.0	3.0	0.7	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S9	150	138	打製石器	石鏃	18.6	(13.3)	3.6	0.4	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S10	150	138	打製石器	石鏃	21.6	14.6	3.2	0.4	D地区①		面精査中	包含層	サヌカイト
S11	150	138	打製石器	石鏃(研磨痕あり)	23.5	15.9	3.6	1.2	E-1地区②		Ⅰa(淡い褐色土)	E-1地区	サヌカイト
S12	150	138	打製石器	石鏃	21.0	12.0	3.0	0.8	E-2地区	SX12		SK2034	サヌカイト
S13	150	138	打製石器	石鏃	21.0	(16.0)	4.0	1.1	E-2地区		人力掘削	包含層	サヌカイト
S14	150	138	打製石器	石鏃	21.0	19.0	5.5	1.6	D地区	SH1004		SH1004	サヌカイト
S15	150	138	打製石器	石鏃	21.9	19.1	3.5	1.7	F地区③	遺構検出時		包含層	サヌカイト
S16	150	138	打製石器	石鏃未製品	25.0	16.5	3.5	1.2	F地区①②間	遺構検出		包含層	サヌカイト
S17	150	138	打製石器	石鏃	31.0	18.1	4.5	1.6	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S18	150	138	打製石器	石鏃	17.3	(11.0)	4.2	0.4	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S19	150	138	打製石器	石鏃	15.2	13.7	3	0.4	D地区	SH1004-c	上～中層	SH1004土坑C	サヌカイト
S20	150	138	打製石器	石鏃	(13.9)	13.2	3.7	0.6	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S21	150	138	打製石器	石鏃	17.5	(12.0)	3.0	0.4	F地区①②間	遺構検出		包含層	サヌカイト
S22	150	138	打製石器	石鏃	(14.8)	15.2	2.9	0.6	D地区	SH1001	検出時	SH1001	サヌカイト
S23	150	138	打製石器	石鏃	18.3	15.1	2.8	0.5	E-2地区	SX12		SK2034	サヌカイト
S24	150	138	打製石器	石鏃	19.5	13.5	5.1	0.9	D地区	P1050		P1050	サヌカイト
S25	150	138	打製石器	石鏃	21.0	15.1	4.5	0.8	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S26	151	139	打製石器	石鏃	19.5	18.3	3.8	0.7	E-2地区	SD12	埋土一括	SD2016	サヌカイト
S27	151	139	打製石器	石鏃	21.3	17.0	3.5	0.8	F地区①	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S28	151	139	打製石器	石鏃	24.0	(12.5)	4.0	0.9	D地区	SH1012(屋内土坑?)	底付近	SX1012	サヌカイト
S29	151	139	打製石器	石鏃	22.0	16.0	5.0	1.3	D地区	P1037		南部住居跡群南東群P1037	サヌカイト
S30	151	139	打製石器	石鏃	(21.8)	19.5	4.5	0.9	D地区①	SH1001西半部		SH1001西半部	サヌカイト
S31	151	139	打製石器	石鏃	27.0	(16.0)	5.0	1.8	D地区	SH1012(屋内土坑?)	底付近	SX1012	サヌカイト
S32	151	139	打製石器	石鏃	18.8	21.0	5.2	1.5	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S33	151	139	打製石器	石鏃	(23.3)	14.4	3.5	0.7	D地区	SH1003	床面検出時	南部住居跡群北東群	サヌカイト
S34	151	139	打製石器	石鏃	(19.3)	(17.7)	4.5	0.7	D地区	SK1019		SK1019	サヌカイト
S35	151	139	打製石器	石鏃	(32.2)	20.8	4.6	2.0	3G		包含層	3グリッド包含層	サヌカイト
S36	151	139	打製石器	石鏃	17.9	21.2	4.6	1.4	D地区	SH1004屋内土坑	上～下層(アゼ部分)	SH1004屋内土坑	サヌカイト
S37	151	139	打製石器	石鏃	21.2	16.6	3.5	0.9	D地区	SK1051		SH1019	サヌカイト
S38	151	139	打製石器	石鏃	14.4	9.0	3.2	0.1	D地区	SK1051		SH1019	サヌカイト
S39	151	139	打製石器	石鏃	19.8	8.9	3.1	0.5	D地区	SK1001		SK1001	サヌカイト
S40	151	139	打製石器	石鏃	19.3	10.8	2.0	0.5	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S41	151	139	打製石器	石鏃	25.2	11.9	4.0	1.0	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S42	151	139	打製石器	石鏃	35.5	11.0	5.0	1.7	D地区	SH1001北西区	一段下げ(5cm程度)	SH1001北西	サヌカイト
S43	151	139	打製石器	石鏃	20.5	11.0	4.8	0.7	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S44	151	139	打製石器	石鏃	25.0	12.0	3.0	0.8	D地区	SK1037		SK1037	サヌカイト
S45	151	139	打製石器	石鏃	28.0	10.6	3.0	0.8	F地区③	遺構検出時		包含層	サヌカイト
S46	151	139	打製石器	石鏃	27.0	13.5	5.5	1.9	D地区	SH1001中央土坑(新)	下層	SH1001中央土坑	サヌカイト
S47	151	139	打製石器	石鏃	28.5	11.2	3.3	1.1	D地区	SH1004屋内土坑		SH1004屋内土坑	サヌカイト
S48	151	134・144	打製石器	石錐	16.0	13.8	3.0	0.5	D地区	SH1004屋内土坑		SH1004屋内土坑	サヌカイト

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構	石材
					長さ	幅	厚み						
S49	151	139	打製石器	石錐	26.0	16.0	7.8	2.5	E-2地区東半	遺構面まで	Ⅰa(灰)褐色土	包含層	サヌカイト
S50	151	139	打製石器	石錐未製品	(28.8)	20.0	6.7	2.7	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S51	151	139	打製石器	石錐	24.0	14.2	5.3	1.6	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S52	151	139	打製石器	石錐未製品	19.5	10.5	5.0	0.9	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S53	151	139	打製石器	石錐	(19.5)	12.0	4.5	0.7	D地区②	SH1005	検出面	南部住居跡群南東群	サヌカイト
S54	152	140・144	打製石器	石錐	14.3	10.2	2.7	0.5	D地区	SH1004屋内土坑	上～下層(アゼ部分)	SH1004屋内土坑	サヌカイト
S55	152	140	打製石器	石錐	22.5	12.0	4.7	1.7	D地区	P0017		P0017	サヌカイト
S56	152	140	打製石器	石錐	27.2	10.0	3.5	1.0	E-2地区	SX13-W	一段下げ	SX2002	サヌカイト
S57	152	140	打製石器	石錐	33.0	13.2	5.3	2.5	D地区③		検出面	包含層	サヌカイト
S58	152	140	打製石器	石錐	(20.0)	7.0	3.5	0.5	D地区	SH1002中央土坑		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S59	152	140	打製石器	石錐	30.0	(9.5)	4.0	0.9	D地区	SH1002埋土内		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S60	152	140	打製石器	石錐	(37.0)	9.0	6.0	1.5	D地区	SH1002埋土内		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S61	152	140	打製石器	石錐	(33.5)	12.5	5.0	1.8	D地区	SH1004南東区		SH1004南東	サヌカイト
S62	152	140	打製石器	スクレイパー	(26.5)	22.0	6.5	3.2	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S63	152	140	打製石器	スクレイパー	49.0	27.0	7.0	7.6	E-2地区	P113		P113	サヌカイト
S64	152	140	打製石器	スクレイパー	79.2	43.7	10.5	33.3	E地区④?Aトレンチ			E-2地区	サヌカイト
S65	152	140	打製石器	楔形石器	31.5	22.5	15.0	12.7	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S66	152	140	打製石器	楔形石器	34.0	34.1	12.3	18.6	F地区	SK13		SK2013	サヌカイト
S67	152	140	打製石器	楔形石器	19.9	23.7	6.5	2.3	E-2地区	SX12		SK2034	サヌカイト
S68	152	140	打製石器	楔形石器	16.5	16.6	5.3	1.2	F地区③	遺構検出時		包含層	サヌカイト
S69	152	140	打製石器	楔形石器	18.5	21.2	6.5	2.2	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S70	152	140	打製石器	楔形石器	20.0	22.5	5.0	2.1	D地区	SK1002		SH1007	サヌカイト
S71	152	140	打製石器	楔形石器	27.0	20.0	6.5	3.2	D地区	SH1004-a	埋土上半	SH1004	サヌカイト
S72	153	141	打製石器	楔形石器	27.0	35.5	6.5	5.2	F地区①②間	遺構検出		包含層	サヌカイト
S73	153	141	打製石器	楔形石器	37.2	31.3	6.6	7.2	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S74	153	141	打製石器	楔形石器	60.0	77.1	17.9	85.9	D地区⑥南半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層	サヌカイト
S75	153	141	打製石器	楔形石器	15.0	21.0	9.5	2.7	D地区	P1059		南部住居跡群北西群P1059	サヌカイト
S76	153	141	打製石器	楔形石器	18.8	24.5	5.6	2.5	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S77	153	141	打製石器	楔形石器	17.0	12.5	7.5	2.0	D地区	SH1002プラン壁付近		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S78	153	141	打製石器	楔形石器	23.8	22.8	6.0	3.8	D地区	SK1002西ピット		SH1007西ピット	サヌカイト
S79	153	141	打製石器	楔形石器	24.7	24.7	8.6	5.6	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S80	153	141	打製石器	楔形石器	24.8	24.2	7.3	4.2	E-2地区	SK20		SK2020	サヌカイト
S81	153	141	打製石器	楔形石器	25.0	31.6	11.0	7.0	E-2地区			包含層	サヌカイト
S82	153	141	打製石器	楔形石器	27.2	31.3	6.9	5.4	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S83	154	142	打製石器	楔形石器	38.5	31.5	20.0	25.1	E-2地区			包含層	サヌカイト
S84	154	142	打製石器	楔形石器	30.0	45.0	14.0	21.1	D地区⑤	第一面まで	Ⅰa灰褐色土	包含層	サヌカイト
S85	154	142	打製石器	楔形石器	52.0	69.0	20.0	64.4	CⅠ区	No.00～No.1	包含層	包含層	サヌカイト
S86	154	142	打製石器	楔形石器	23.4	21.2	6.1	2.7	F地区①②間	遺構検出		包含層	サヌカイト
S87	154	142	打製石器	楔形石器	30.9	26.8	7.7	5.3	E-2地区東半	遺構面まで	Ⅰa(灰)褐色土	包含層	サヌカイト
S88	154	142	打製石器	楔形石器	23.5	26.0	7.0	3.4	D地区	SH1012屋内土坑		SX1012	サヌカイト
S89	154	142	打製石器	楔形石器	29.0	19.9	16.0	7.3	D地区	SK1008		SK1008	サヌカイト
S90	154	142	打製石器	楔形石器	37.5	44.5	9.5	10.6	D地区	SK1008		SK1008	サヌカイト
S91	154	142	打製石器	楔形石器	27.5	28.5	13.5	9.8	E-2地区	SX13-E	一段下げ	SX2002	サヌカイト
S92	155	143	打製石器	楔形石器	24.1	23.3	5.1	2.1	D地区	SP1068		南部住居跡群北西群P1068	サヌカイト
S93	155	143	打製石器	楔形石器	32.0	40.5	9.5	5.4	E-2地区東半	遺構面まで	Ⅰa(灰)褐色土	包含層	サヌカイト
S94	155	143	打製石器	楔形石器	70.3	27.0	13.0	22.5	D地区	SH1016		SX1006	サヌカイト
S95	155	143	打製石器	(石核の)打面再生剥片	35.0	21.0	8.5	4.6	D地区	SH1002-S		南部住居跡群北西群	サヌカイト
S96	155	143	打製石器	石核	32.5	32.9	25.6	24.1	F地区①	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S97	155	143	打製石器	石核	46.5	27.5	13.0	17.1	D地区	SH1010内		SH1003	サヌカイト
S98	155	143	打製石器	石核	72.5	40.0	18.5	50.0	D地区	SH1015南東端		SX1005	サヌカイト
S99	155	143	打製石器	二次加工のある剥片	28.5	38.5	7.2	7.0	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S100	—	144	打製石器	石錐	17.1	12.7	3.5	0.6	D地区	SH1004	屋内土坑埋土中	SH1004屋内土坑	サヌカイト
S101	—	144	打製石器	石錐	15.2	10.5	0.25	0.4	D地区	SH1004	屋内土坑埋土中	SH1004屋内土坑	サヌカイト

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構	石材
					長さ	幅	厚み						
S102	—	144	打製石器	石錐	12.1	8.8	0.23	0.2	D地区	SH1004	屋内土坑埋土中	SH1004 屋内土坑	サヌカイト
S103	—	144	打製石器	石錐	1.07	0.78	0.35	0.2	D地区	SH1004	屋内土坑埋土中	SH1004 屋内土坑	サヌカイト
S104	—	144	打製石器	石錐	15.7	6.3	2.5	0.3	D地区	SH1004	屋内土坑埋土中	SH1004 屋内土坑	サヌカイト
S105	—	144	打製石器	石錐	16.6	6.6	1.6	0.2	D地区	SH1004	屋内土坑埋土中	SH1004 屋内土坑	サヌカイト
S106	—	144	打製石器	楔形石器	24.9	36.7	7.7	6.2	F-③		Ⅰa主	包含層	サヌカイト
S107	—	144	打製石器	分割原石	45.7	32.6	17.7	36.6	D地区	SX1006		SX1001	サヌカイト
S108	—	144	打製石器	分割原石	69.3	33.1	23.6	61.1	D地区	SH1001掘削土		SH1001	サヌカイト
S109	—	144	打製石器	分割原石				10.1	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S110	—	144	打製石器	分割原石				9.8	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S111	—	144	打製石器	分割原石				11.1	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S112	—	144	打製石器	分割原石				6.6	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S113	—	144	打製石器	分割原石				18.0	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S114	—	144	打製石器	分割原石				5.3	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S115	—	144	打製石器	分割原石				19.1	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S116	—	144	打製石器	分割原石				18.7	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S117	—	144	打製石器	分割原石				13.4	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S118	—	144	打製石器	分割原石				5.9	D地区	SK1022 西ピット②		SK1022 西ピット	サヌカイト
S119	156	145	磨製石器	太型蛤刃石斧	(86.0)	(69.0)	(19.0)	101.8	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	御荷鉾緑色岩
S120	156	145	磨製石器	柱状片刃石斧	(36.54)	(22.82)	(7.31)	6.2	E-1地区②	SX01落ち土	(Ⅰa)灰褐色土	落ち込み？	極細粒砂岩
S121	156	145	磨製石器	柱状片刃石斧	46.0	20.3	14.6	14.0	D地区①	SH1001南東区		SH1001	塩基性片岩
S122	156	145	磨製石器	柱状片刃石斧	(46.23)	(25.90)	(8.01)	11.6	D地区	SK1001		SK1001	極細粒砂岩
S123	156	145	磨製石器	柱状片刃石斧	(69.64)	26.27	22.98	43.2	D地区⑥北半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層？	塩基性片岩
S124	156	145	磨製石器	扁平片刃石斧	57.16	25.12	9.95	26.4	F地区南半	遺構面まで		包含層	珪質粘板岩
S125	156	145	打製石器	打製石斧	111.15	60.04	12.82	161.9	D地区①②	遺構検出時	Ⅱa (Ⅰa下半含む)	包含層	塩基性片岩
S126	156	145	打製石器	石包丁	(81.03)	(37.08)	(10.56)	15.3	D地区	SH1001南西区	埋土中	SH1001	塩基性片岩
S127	156	146	磨製石器	石棒	185.0	48.0	29.5	385.1	E-2地区中央		Ⅰaにぶい茶褐色シルト	包含層	泥質片岩
S128	156	146	磨製石器	石棒	180.0	67.0	57.0	984.5	D地区	SK1001 (一部SH1015)		SK1001 or SX1005	塩基性片岩
S129	156	146	磨製石器	石棒	156.0	60.0	51.5	649.6	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	泥質片岩
S130	156	146	磨製石器	石棒	10.3	4.2	3.0	196.0	D地区	P1057	一段下げ	P1057	塩基性片岩
S131	157	147	磨製石器	石包丁	(96.27)	47.38	5.84	26.7	D地区	SH1016		SX1006	安山岩
S132	157	147	磨製石器	石包丁	(42.43)	(51.80)	(3.82)	13.3	D地区	SH1015		SX1005	泥岩
S133	157	147	磨製石器	石包丁	29.1	27.3	6.9	5.3	D地区			D地区	軟質安山岩
S134	157	147	磨製石器	石包丁	(100.3)	46.54	6.15	43.6	D地区	SH1015(南東区)		SX1005	塩基性片岩
S135	157	147	磨製石器	石包丁	112.9	48.7	7.2	62.8	E-2地区	SD17		SD2017	塩基性片岩
S136	157	147	磨製石器	石包丁	(39.30)	46.25	7.05	18.8	D地区	SH1017Aアゼ内		SX1007	塩基性片岩
S137	157	147	打製石器	石包丁	126.2	48.41	9.55	69.4	E-2地区	SD21		SD2021	紅廉片岩
S138	157	148	打製石器	石包丁	(68.63)	50.14	7.37	42.6	E-2地区③	遺構南まで粗堀	Ⅰa褐色土	包含層	紅廉片岩
S139	157	147	打製石器	石包丁	(41.06)	(49.31)	(7.72)	18.8	F地区③	遺構検出時		包含層	紅廉片岩
S140	157	148	打製石器	刃器	107.72	(47.43)	(11.21)	67.0	D地区③区		検出面	包含層	
S141	157	147	打製石器	石包丁	(61.94)	(37.41)	(9.74)	38.3	E-2地区	SK30	底面付近	SB2014 (SK2037)	塩基性片岩
S142	157	148	打製石器	石包丁	(64.23)	46.74	5.26	18.6	D地区	SH1015南東端		SX1005	塩基性片岩
S143	157	148	打製石器	石包丁	(47.65)	34.17	1.65	25.3	D地区西半			包含層	紅廉片岩
S144	157	148	打製石器	石包丁	51.3	39.07	5.91	44.1	D地区	SX1001、1002	最下層	SX1011？	紅廉片岩
S145	158	148	磨製石器	敲石	57.0	50.5	46.0	183.4	E-2地区	P112		P112	安山岩
S146	158	148	磨製石器	敲石	69.3	60.8	41.5	207.1	D地区	SH1015南東端		SX1005	安山岩
S147	158	148	磨製石器	敲石	75.8	65.0	51.0	343.9	D地区	SH1015		SX1005	安山岩
S148	158	148	磨製石器	敲石	103.5	68.0	46.5	480.3	E-2地区③ 東端	遺構検出時		包含層	安山岩
S149	158	149	磨製石器	敲石	113.5	56.0	29.5	262.7	D地区	SX03集石		SX1002	砂岩
S150	158	148	磨製石器	磨り石	59.5	60.0	36.5	163.0	D地区③		Ⅱ-A層	包含層	砂岩
S151	159	149	磨製石器	敲石	57.0	60.5	51.0	257.0	D地区		廃土中	包含層	
S152	159	149	磨製石器	敲石	93.1	77.0	63.5	635.5	D地区	P1073	検出面	P1073	砂岩
S153	159	149	磨製石器	敲石	76.0	76.5	64.0	533.8	D地区① 最北部		廃土中	包含層	
S154	159	149	磨製石器	敲石	143.0	76.8	55.0	790.4	D地区	SX1001、1002	最下層	SX1011？	砂岩
S155	160	150	磨製石器	凹み石	117.0	69.1	37.8	377.8	D地区	SH1001		SH1001	

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構	石材
					長さ	幅	厚み						
S156	160	150	磨製石器	凹み石	86.0	114.5	50.5	734.5	E-2地区	SD13		SD2013	
S157	160	150	磨製石器	磨り石	92.3	77.3	57.0	547.1	E-1地区①		(濁)灰褐色土	包含層	砂岩
S158	160	150	磨製石器	磨り石	118.0	43.3	34.4	286.0	D地区	SH1020	床面	SX1010	砂岩
S159	160	150	磨製石器	凹み石	162.0	125.0	73.0	2180.0	D地区	SH1004		SH1004	
S160	160	151	磨製石器	凹み石	80.0	66.0	27.0	193.9	D地区①	SH1015(西半)		SX1005	砂岩
S161	161	151	磨製石器	凹み石	104.5	97.0	53.0	676.3	E-1地区①		(濁)灰褐色土	包含層	砂岩
S162	161	151	磨製石器	凹み石	107.5	103.5	49.0	717.2	D-①-②東半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層	砂岩
S163	161	151	磨製石器	凹み石	66.5	110.0	66.0	543.8	E-2地区	SD13		SD2013	砂岩
S164	161	151	磨製石器	凹み石	92.5	58.5	36.0	286.7				不明	
S165	161	151	磨製石器	凹み石	94.5	87.2	50.5	542.2	D地区	SH1019	上～下層	SX1009	砂岩
S166	162	152	磨製石器	凹み石	132.3	112.2	61.1	1330.0	E-2地区	P105		P105	砂岩
S167	162	152	磨製石器	凹み石	127.0	112.0	37.0	774.3	D地区	SX1001、1002	最下層	SX1011？	砂岩
S168	162	153	磨製石器	凹み石	166.0	132.5	53.0	1560.0	D地区	SX1001、1002	最下層	SX1011？	砂岩
S169	163	153	磨製石器	凹み石	183.0	87.0	65.0	1405	D地区	SK1001	最下層	SK1001	
S170	163	153	磨製石器	凹み石	119.0	54.0	39.0	326.6	C地区	SK04		SK0004	
S171	163	153	磨製石器	台石	140.6	81.8	26.8	451.7	D地区	SH1015	中層～下層	SX1005	砂岩
S172	163	154	磨製石器	台石	122.0	129.0	64.0	1550.0	E-2地区	SX12		SK2034	砂岩
S173	164	152	磨製石器	台石	128.0	116.5	42.0	786.6	D地区	SX1001、1002	最下層	SX1011？	砂岩
S174	164	154	磨製石器	台石	122.0	100.0	57.0	780.5	C地区	SH12		SH0012	砂岩
S175	164	154	磨製石器	台石	126.5	98.8	51.8	1084.3	D地区	SH1001 主柱穴①	3層	SH1001 主柱穴1	砂岩
S176	165	155	磨製石器	台石	270.0	157.0	46.0	3080	D地区	SX1002?		SX1011？	砂岩
S177	165	155	磨製石器	台石	221.5	259.1	70.2	5740	D地区	SX1001、1002	最下層	SX1011？	砂岩
S178	165	155	磨製石器	台石	233.5	251.0	102.0	750	D地区	SH1012	床面直上	SX1012	砂岩
S179	166	155	磨製石器	台石	300.7	198.0	109.0	8720	D地区	SH1003		SH1015	砂岩
S180	166	155	磨製石器	台石	324.0	255.0	75.0	9200	D地区	SH1003		SH1015	砂岩
S181	166	156	磨製石器	台石	446.0	355.0	96.5	20600	D地区	SH1004	床面付近	SH1014	砂岩
S182	167	157	磨製石器	台石	242.0	163.5	100.0	5460	F地区	P33南隣		P33南隣	砂岩
S183	167	157	磨製石器	砥石	273.0	193.0	114.0	9000	C地区	SH17南辺土坑	砥石?	C地区	
S184	167	157	磨製石器	砥石	130.3	147.5	35.8	1102.7	D地区	SX1002	上～下層 (南北アゼ)	SX1011	
S185	—	146	磨製石器	不明	71.3	49.6	35.7	230.1	D-①-②東半	第一面まで	Ⅰa褐色土	包含層	塩基性片岩
S186	—	146	磨製石器	不明	127.5	28.5	16.8	90.3	F地区②	遺構検出時	Ⅰa主	包含層	
S187	—	146	磨製石器	石棒	150.0	60.3	31.5	388.8	C地区	SH12南東		SH0012	塩基性片岩
S188	—	146	磨製石器	石棒	147.0	57.3	32.5	386.7	D地区	SH1015 南西付近	面精査	SX1005	塩基性片岩
S189	—	146	磨製石器	石棒	153.1	55.0	29.3	389.1	D地区	SX1003	下半	SX1002	
S190	—	146	磨製石器	石棒?	132.0	67.0	42.3	356.6	B地区	落込み②		落ち込み	紅廉片岩
S191	—	146	磨製石器	石棒?	120.2	56.5	41.3	377.2	B地区	仮P2		P2	紅廉片岩
S192	—	148	磨製石器	不明	41.7	37.5	6.5	15.2	D地区	SH1002-SK1055		南部竪穴住居跡群北西群	塩基性片岩
S193	—	156	磨製石器	台石	242.5	291.5	109.8	10500	D地区	SH1012 屋内土坑	検出面	SX1012	砂岩
S194	—	157	磨製石器	砥石	147.5	58.0	46.5	456.9	C地区	SD02		SD0002	流紋岩
S195	—	157	磨製石器	砥石	149.5	152.0	144.5	4980	F地区	P25		F地区	砂岩
S196	第9図	157	石製品	石鍋	(54.2)	(76.0)	22.0	101.2	C地区	P133		P133	滑岩

第2表　遺物計測表　玉類

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					長さ	幅	厚み					
J1	第9図	157	石製品	管玉	26.0	4.0	4.0	0.5	C地区	SH12南東		SH0012
J2	第9図	157	石製品	臼玉	4.2	4.2	2.8	0.06	C地区	SH12床直上 (南西)		SH0012
J3	第9図	157	石製品	臼玉	4.8	4.8	3.0	0.11	C地区	SH12床直上 (南西)		SH0012
J4	第9図	157	石製品	臼玉	5.0	5.0	3.1	0.11	C地区	SH12床直上 (北西)		SH0012

第2表　遺物計測表　金属器

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	出土地区	出土遺構	層位	報告出土遺構
					長さ	幅	厚み					
M1	第11図	137	鉄製品	刀子？	(3.1)	0.9	0.9	2.14	C地区	P5		P5
M2	第11図	137	鉄製品	釘	(7.8)	0.55	0.5	4.72	C地区	No.8～9面検出		包含層
M3	第11図	137	鉄製品	釘	5.2	0.4	0.4	1.61	C地区	No.8～9面検出		包含層
M4	第11図	137	鉄製品	釘？	(2.95)	0.9	0.9	3.98	C地区	SX01		SX0001
M5	第11図	137	鉄製品	蓋状製品	(4.05)	(1.3)	0.5	9.54	E-2地区	SD13		SD2013
M6	第11図	137	鉄製品	紡錘車	5.05	3.3	0.2	9.04	C地区	P111		P111

第５章　自然科学的調査の成果

第１節　井手田遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

井手田遺跡は、兵庫県南あわじ市阿万上町に所在する。測定対象試料は、Ｂ、Ｃ地区の断ち割り断面とＤ地区の東壁から採取された木片、植物遺体、炭化物の合計４点である（第３表）。

２　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と第３表に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（Ｃ）を生成させる。

（６）グラファイトを内径1㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

３　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

４　算出方法

（１）δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第３表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第３表に、補正していない値を参考値として第４表に示した。^{14}C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と

同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を第３表に、補正していない値を参考値として第４表に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下１桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第４表に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

５　測定結果

測定結果を第３、４表に示す。

試料の^{14}C年代は、８が1230±20yrBP、９が1210±20yrBP、10が1850±20yrBP、11が2550±20yrBPである。暦年較正年代（１σ）は、８が719～864cal ADの間に４つの範囲、９が773～869cal ADの間に２つの範囲、10が128～214cal ADの範囲、11が797～674cal BCの間に２つの範囲で示される。10は弥生時代後期頃、11は縄文時代晩期中葉から後葉頃に相当する（小林編2008、佐原2005）。

なお、試料10が含まれる１～３世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCalに対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある（尾嵜2009、坂本2010など）。その日本産樹木のデータを用いてこの試料の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はいずれも50％を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

第３表　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-160448	8	C 地区　断ち割りの断面	木片	AAA	**-27.19 ± 0.50**	**1,230 ± 20**	**85.82 ± 0.24**
IAAA-160449	9	C 地区　断ち割りの断面	木片	AAA	**-29.65 ± 0.47**	**1,210 ± 20**	**86.02 ± 0.26**
IAAA-160450	10	B 地区　断ち割りの断面	植物遺体	AAA	**-28.02 ± 0.61**	**1,850 ± 20**	**79.40 ± 0.24**
IAAA-160451	11	D 地区　調査区東壁	炭化物	AAA	**-24.91 ± 0.51**	**2,550 ± 20**	**72.78 ± 0.22**

[#8075]

第４表　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C未補正値、暦年較正用 ^{14}C年代、較正年代）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-160448	1,260 ± 20	85.43 ± 0.23	1,228 ± 22	719calAD - 742calAD (19.8%) 766calAD - 778calAD (10.8%) 791calAD - 828calAD (22.4%) 839calAD - 864calAD (15.2%)	693calAD - 747calAD (29.5%) 763calAD - 880calAD (65.9%)
IAAA-160449	1,290 ± 20	85.20 ± 0.25	1,209 ± 24	773calAD - 779calAD (4.9%) 789calAD - 869calAD (63.3%)	721calAD - 741calAD (6.3%) 766calAD - 888calAD (89.1%)
IAAA-160450	1,900 ± 20	78.91 ± 0.21	1,852 ± 24	128calAD - 214calAD (68.2%)	86calAD - 233calAD (95.4%)
IAAA-160451	2,550 ± 20	72.79 ± 0.21	2,552 ± 24	797calBC - 760calBC (65.9%) 678calBC - 674calBC (2.3%)	801calBC - 748calBC (69.8%) 685calBC - 667calBC (7.5%) 641calBC - 587calBC (14.4%) 581calBC - 556calBC (3.7%)

［参考値］

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51（1）, 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

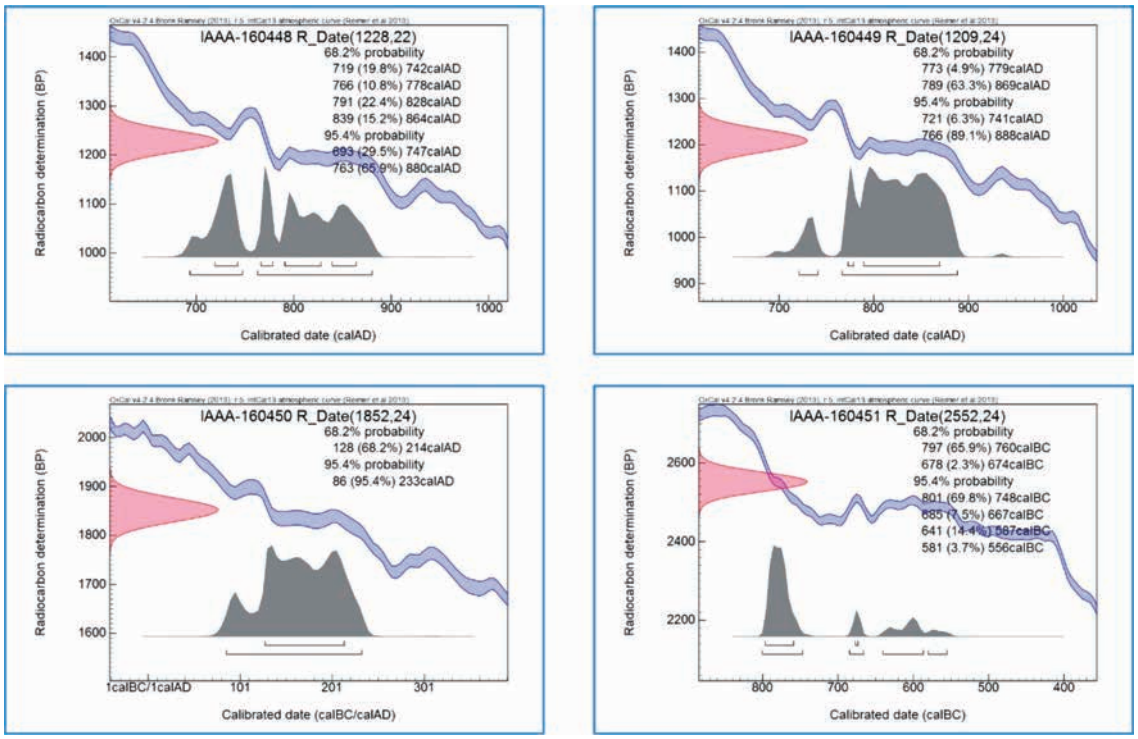
尾嵜大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代, 設楽博己, 藤尾慎一郎, 松木武彦編弥生時代の考古学1　弥生文化の輪郭, 同成社, 225-235

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55（4）, 1869-1887

佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, ウェルナー・シュタインハウス監修, 奈良文化財研究所編集, 日本の考古学　上　ドイツ展記念概説, 学生社, 14-19

坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木ー弥生から古墳へー, 第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集,（株）加速器分析研究所, 85-90

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion：Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19（3）, 355-363



第12図　暦年較正年代グラフ（参考）

第２節　井手田遺跡出土土器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、淡路島南部諭鶴羽山地西端部に接する沖積低地に位置する井手田遺跡から出土した弥生土器と土師器の各土器について、その材質（胎土）の特性を明らかにし、その生産や供給事情に関わる資料を作成する。

１．試料

試料は、井手田遺跡から出土した22点の土器片である。試料には、試料番号１～22までの番号が付されている。これらのうち、試料番号１～６は土師器、試料番号７～22は弥生土器である。土師器の器種の内訳は、壺が２点、小壺と小型丸底壺が１点ずつ、高坏が２点である。弥生土器の器種の内訳は、壺が５点、直口壺が２点、甕が８点、台付鉢が１点である。甕のうち２点は紀伊型とされている。

各試料の実測報告番号や器種、出土遺構などを一覧表にして第５表に示す。

第５表　胎土分析試料一覧

試料番号	報告番号	種別	器種	出土地区	出土遺構	層位	出土年月日	備考
1	93	土師器	壺	C地区	SH0012		2006.11.24	
2	89	土師器	壺	C地区	SH0012		2006.11.24	
3	117	土師器	小壺	C地区	SH0012		2006.11.15	
4	109	土師器	小型丸底壺	C地区	SH0012		2006.11.22	
5	161	土師器	高杯	C地区	SH0012		2006.11.22	
6	163	土師器	高杯	C地区	SH0012		2006.11.22	
7	39	弥生土器	直口壺	C地区	周溝墓1		2006.10.17	南半西部広口壺破片
8	44	弥生土器	直口壺	C地区	周溝墓2	埋土中	2006.10.20	弥生土器壺１個体
9	31	弥生土器	壺	C地区	SB0035(P49)		2006.12.19	
10	559	弥生土器	壺	D地区	SX1006	下層	2006.11.29	床から5㎝程度
11	405	弥生土器	壺	D地区	SX1004	下層	2006.12.21	
12	460	弥生土器	甕	D地区	SX1004	下層	2006.12.19	
13	645	弥生土器	甕	D地区	SX1011		2006.12.11	
14	643	弥生土器	甕	D地区	SX1011		2006.12.11	
15	620	弥生土器	壺	D地区	SX1011		2006.12.11	
16	353	弥生土器	甕	D地区①	SK1001	1.2層	2006.10.15	
17	363	弥生土器	台付鉢	D地区①	SK1001	1.2層	2006.10.15	
18	671	弥生土器	壺	D地区①②	包含層	Ⅱa （Ⅰa下半含む）	2006.10.24	
19	719	弥生土器	甕	E-2地区	SK2034		2006.11.13	
20	36	弥生土器	甕	C地区	P1094		2006.12.22	
21	423	弥生土器	甕(紀伊型)	D地区	SX1004	下層	2006.12.19	
22	424	弥生土器	甕(紀伊型)	D地区	SX1004	下層	2006.12.19	

２．分析方法

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、松田ほか（1999）の方法を用いてきた。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲

内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される。同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか（1999）の方法は有効である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03㎜の厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5㎜間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の３次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

３．結果

観察結果を第６～11表、第13～17図に示す。以下に土師器と弥生土器のそれぞれについて、鉱物片と岩石片の種類構成、砂粒全体の粒径組成、砕屑物・基質・孔隙の割合の順に述べる。

（1）土師器

1）鉱物片・岩石片の種類構成

これまでの兵庫県下の遺跡出土土器胎土分析において設定した鉱物片および岩石片の種類構成による胎土分類では、Ａ類からＰ類までの種類が設定されている。今回の結果も、その基準に従って分類する。

試料番号１と３の鉱物片および岩石片の組成をみると、ともに鉱物片では石英と斜長石が多く、岩石片では凝灰岩の多い特徴が認められる。このような特徴は、これまでの分類ではＦ類とした胎土の組成に相当する。一方、試料番号４と５については、石英と斜長石の多い鉱物組成と堆積岩類および凝灰岩を主体とする岩石組成が特徴とされる。この組成は、これまでの分類ではＫ類とした胎土の組成に相当する。なお、Ｆ類とＫ類に分類された上記の試料に含まれる凝灰岩は結晶質である。

試料番号６については、多量の石英と斜長石の鉱物片を特徴とし、岩石片は全体に微量しか含まれない。分類の主な基準となっている岩石片の種類構成が不明瞭であるため、分類も明確にはならないが、微量ながらも堆積岩類と凝灰岩および花崗岩類の３者が含まれている状況からは、Ａ類に分類される可能性がある。試料番号２も全体的に砂粒が少量であるために分類は明確ではないが、花崗岩類の岩石片がやや多い傾向にあることと鉱物片の組成においてカリ長石が斜長石と同量程度を示す傾向にあることから、花崗岩類の岩石片を多く含むことを特徴とするＣ類に分類される可能性がある。

2）砂粒全体の粒径組成

砂粒全体の粒径組成では、モードを示す粒径により分類される。後述する弥生土器の胎土分析の結果も含めて分類すると、モードを示す粒径は、粗い順に極粗粒砂、粗粒砂、中粒砂、細粒砂、極細粒砂の５つの粒径におよぶ。ここでは、順に１～５類とする。

６点の試料の中で最も粗粒傾向の胎土を示すのは、２類に分類される試料番号２であり、次いで試料番号１と６が３類に分類され、試料番号４と５が４類、試料番号３が最も細粒傾向の５類に分類される。

3）砕屑物・基質・孔隙の割合

６点の試料の砕屑物の割合は15～20%であり、特に分類される結果ではない。

第6表　薄片観察結果（1）

試料番号	報告番号	砂粒区分		砂粒の種類構成																																		合計
				鉱物片										岩石片																						その他				
				石英	カリ長石	斜長石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	閃緑岩	雲母片岩	石英片岩	ホルンフェルス	粘板岩	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	酸化鉄結核	砂泥じり粘土塊	植物珪酸体							
1	93	砂	細礫																																			0
			極粗粒砂																																			0
			粗粒砂	4	3	6										2	3		1	1						1	2										23
			中粒砂	14	2	17										6	4		1							1	1	1									47
			細粒砂	9	1	8		1								1			1																		21
			極細粒砂	2		6																						1									9
			粗粒シルト	1	1																																	2
			中粒シルト																																			0
		基質																																				453
		孔隙																																				12
		備考		基質は淡褐色粘土鉱物、炭質物などで埋められる。凝灰岩、流紋岩は結晶質。火山ガラスはバブルウォール型。植物珪酸体、緑簾石あり。																																			
2	89	砂	細礫																1																			1
			極粗粒砂	1	1														1	1																		4
			粗粒砂	8	5	1													1	5						1												21
			中粒砂	9	1																																	10
			細粒砂	5	3	3										1	1			1																		14
			極細粒砂	7	1	5																																13
			粗粒シルト	7	3	4																																14
			中粒シルト																																			0
		基質																																				450
		孔隙																																				2
		備考		基質は褐色粘土鉱物、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。角閃石、緑簾石、植物珪酸体あり。																																			
3	117	砂	細礫																																			0
			極粗粒砂																								1											1
			粗粒砂	2		1																				1											4
			中粒砂	3												4																					7
			細粒砂	2												2			1																		5
			極細粒砂	3	1	3	1																															8
			粗粒シルト	2																																	2	4
			中粒シルト																																			0
		基質																																				152
		孔隙																																				1
		備考		基質は、淡褐色粘土鉱物、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。凝灰岩は結晶質。バブルウォール型火山ガラス、緑簾石あり。																																			
4	109	砂	細礫																																			0
			極粗粒砂																								1											1
			粗粒砂	1									2			2								1					1								7
			中粒砂	6									3			2										2			1								14
			細粒砂	13									3	2		3	1		2										1								25
			極細粒砂	8		3							1						1																		13
			粗粒シルト	3		2																																5
			中粒シルト																																			0
		基質																																				379
		孔隙																																				2
		備考		基質は、淡褐色粘土鉱物、雲母鉱物、酸化鉄などで埋められる。凝灰岩･流紋岩は結晶質。緑簾石、電気石、植物珪酸体、バブルウォール型火山ガラスあり。																																			
5	161	砂	細礫																																	1		1
			極粗粒砂																																			0
			粗粒砂	4												5	1									1											11
			中粒砂	9	2	1							1	1	1	8	2										1									26
			細粒砂	11	1	8							3			9										1										33
			極細粒砂	7		8							1			2																					18
			粗粒シルト	6		2																																8
			中粒シルト																																			0
		基質																																				463
		孔隙																																				3
		備考		基質は、淡褐色粘土鉱物、雲母鉱物、酸化鉄などで埋められる。凝灰岩・流紋岩は結晶質。緑簾石、植物珪酸体、バブルウォール型火山ガラスあり。																																			

第7表　薄片観察結果（2）

試料番号	報告番号	砂粒区分		砂粒の種類構成																																		合計
				鉱物片										岩石片																					その他					
				石英	カリ長石	斜長石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	閃緑岩	雲母片岩	石英片岩	ホルンフェルス	粘板岩	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	酸化鉄結核	砂泥じり粘土塊	植物珪酸体							
6	163	砂	細礫																																			0
			極粗粒砂	1	1															1																			3
			粗粒砂	18	3	6							1							2																			30
			中粒砂	22	4	9									1				1	1								1											39
			細粒砂	19	2	16													1																				38
			極細粒砂	14		11		1								1												1											28
			粗粒シルト	4		3																																1	8
			中粒シルト																																				0
		基質																																				564
		孔隙																																				24
		備考		基質はややシルト質であり、淡褐色粘土、雲母鉱物、石英、長石類などで埋められる。火山ガラスはバブルウォール型。緑簾石あり。																																			
7	39	砂	細礫																																			0
			極粗粒砂																					1															1
			粗粒砂	2	2	1							1			1			3	1				1		1												13
			中粒砂	4		1									1				3									1										10
			細粒砂	8	2		2							1																								13
			極細粒砂	4	1	2																						1										8
			粗粒シルト	5	2	3	1																															1	12
			中粒シルト	1																																		1
		基質																																				312
		孔隙																																				6
		備考		基質は淡褐色粘土鉱物、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。火山ガラスはバブルウォール型。緑簾石あり。																																			
8	44	砂	細礫																																			0
			極粗粒砂												3	1																						4
			粗粒砂	3									5	4	7	3	2	1								1	2										28
			中粒砂	3		1										4			1	1							1	1										12
			細粒砂	9	1	3																																13
			極細粒砂	5		5																						1										11
			粗粒シルト	2		2																																	4
			中粒シルト																																				0
		基質																																				389
		孔隙																																				8
		備考		基質は褐色粘土鉱物、雲母鉱物、酸化鉄などで埋められる。凝灰岩・流紋岩は結晶質。火山ガラスはバブルウォール型。植物珪酸体、緑簾石あり。																																			
9	31	砂	細礫												1																							1
			極粗粒砂												1																					1		2
			粗粒砂	3	1								5	4	2	3	1																					19
			中粒砂	4		1								1	1	3											1											11
			細粒砂	8		1										1																						10
			極細粒砂	1		6			1				1																									9
			粗粒シルト	1																																		1
			中粒シルト																																			0
		基質																																				350
		孔隙																																				8
		備考		基質は、褐色粘土鉱物、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。凝灰岩は結晶質。植物珪酸体、ジルコンあり。																																			
10	559	砂	細礫	1															1					2		2												6
			極粗粒砂		2									1					1					1		1												6
			粗粒砂	3												1																						4
			中粒砂	10		3							1	1		2																						17
			細粒砂	15	4	16							3			4	1										1											44
			極細粒砂	24	1	15	1		1				1			1																						44
			粗粒シルト	6		4																																	10
			中粒シルト	2																																			2
		基質																																				544
		孔隙																																				25
		備考		基質はややシルト質であり、褐色粘土鉱物、雲母鉱物、炭質物、石英、長石類などで埋められる。植物珪酸体、バブルウォール型火山ガラスあり。																																			

第8表　薄片観察結果（3）

試料番号	報告番号	砂粒区分		砂粒の種類構成																																		合計
				鉱物片										岩石片																				その他					
				石英	カリ長石	斜長石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	閃緑岩	雲母片岩	石英片岩	ホルンフェルス	粘板岩	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	酸化鉄結核	砂泥じり粘土塊	植物珪酸体							
11	405	砂	細礫																1	1				1		1												4
			極粗粒砂												2				1					2		2												7
			粗粒砂												1														1									2
			中粒砂	2	1											1																						4
			細粒砂	3		2				1									3																			9
			極細粒砂	6		4				1																												11
			粗粒シルト	7		2																																9
			中粒シルト																																			0
		基質																																				340
		孔隙																																				9
		備考		基質は褐色粘土鉱物、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。緑簾石、植物珪酸体あり。																																			
12	460	砂	細礫										1		2																								3
			極粗粒砂		1									1	1					1								1										5
			粗粒砂	4	2	3									1				5	1																		16
			中粒砂	11	1	10													3	2																		27
			細粒砂	14		2										1																						17
			極細粒砂	8		8																																16
			粗粒シルト	3		2																																5
			中粒シルト																																			0
		基質																																				372
		孔隙																																				12
		備考		基質は褐色粘土鉱物、雲母鉱物、酸化鉄などで埋められる。緑簾石、植物珪酸体あり。																																			
13	645	砂	細礫												1								2		2													5
			極粗粒砂	1									1		1								1		1													5
			粗粒砂	1															1																		2
			中粒砂	1											2	1			3						1												8
			細粒砂	2		1			1	1						2			3																		10
			極細粒砂	6		3													1																		10
			粗粒シルト	1		2																																3
			中粒シルト																																			0
		基質																																				314
		孔隙																																				18
		備考		基質は雲母粘土鉱物、酸化鉄などで埋められる。																																		
14	643	砂	細礫																					1	2				1									4
			極粗粒砂												1				1						1													3
			粗粒砂	1															1						3	1				1							7
			中粒砂	2											2	1			2																		7
			細粒砂	2									1			1										1												5
			極細粒砂	6																																		6
			粗粒シルト	3		1																															1	5
			中粒シルト	1																																		1
		基質																																				302
		孔隙																																				13
		備考		基質は褐色粘土鉱物、雲母鉱物、酸化鉄などで埋められる。粘板岩は、ホルンフェルス様の珪質粘板岩。緑簾石あり。																																			
15	620	砂	細礫	1											1					1						1												4
			極粗粒砂	3															5	1				4	1	3	1	1									19
			粗粒砂	3												1	1		2					2		1					1						11
			中粒砂	2		1										3											1										7
			細粒砂	13		3	1									3			3																		23
			極細粒砂	10		6	1			1						1			1																		20
			粗粒シルト	12		3			1																													16
			中粒シルト	2																																		2
		基質																																				585
		孔隙																																				22
		備考		基質はカオリン鉱物様の淡褐色粘土、雲母鉱物、酸化鉄などで埋められる。凝灰岩は低結晶質である。脈石英、粘板岩は同様な岩相。バブルウォール型火山ガラスあり。																																			

第9表　薄片観察結果（4）

試料番号	報告番号	砂粒区分		砂粒の種類構成																																合計
				鉱物片										岩石片																				その他				
				石英	カリ長石	斜長石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	閃緑岩	雲母片岩	石英片岩	ホルンフェルス	粘板岩	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	酸化鉄結核	砂混じり粘土塊	植物珪酸体					
16	353	砂	細礫																																	0
			極粗粒砂												1								1	4	4											10
			粗粒砂	1														2	1				2	11	16										33
			中粒砂	2		1												1					1	2	7										14
			細粒砂	1			1									1		1																	4
			極細粒砂	1																																1
			粗粒シルト																																	0
			中粒シルト																																	0
		基質																																		261
		孔隙																																		5
		備考		基質は雲母粘土鉱物、酸化鉄などで埋められる。脈石英、粘板岩は類似した岩相を示す。植物珪酸体、バブルウォール型火山ガラスあり。																																	
17	363	砂	細礫																																	0
			極粗粒砂	1									3		1																					5
			粗粒砂	2									3	2	6	1																				15
			中粒砂	2		2							7	2	3	10			1																	27
			細粒砂	4		1																						3								8
			極細粒砂	5		3																						1								9
			粗粒シルト			4																														1	5
			中粒シルト																																	0
		基質																																		419
		孔隙																																		7
		備考		基質は褐色粘土、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。火山ガラスはバブルウォール型。																																	
18	671	砂	細礫																1																	1
			極粗粒砂																2	5																7
			粗粒砂				6													14																20
			中粒砂			3	8					3								7																21
			細粒砂	1		9	21																				1									32
			極細粒砂	4		8	19					1																								32
			粗粒シルト			1	6																													7
			中粒シルト																																	0
		基質																																		333
		孔隙																																		3
		備考		基質は褐色粘土鉱物、酸化鉄などで埋められる。閃緑岩は角閃石クロット様。																																	
19	719	砂	細礫																1					1	2											4
			極粗粒砂										2	1					2					2	2											9
			粗粒砂	2									4						2																	8
			中粒砂	3															3							1	1									8
			細粒砂	7	1	2							1			3																					14
			極細粒砂	3		2																															5
			粗粒シルト																																	1	1
			中粒シルト																																		0
		基質																																		331
		孔隙																																		9
		備考		基質は褐色粘土鉱物、炭質物などで埋められる。バブルウォール型火山ガラスあり。																																	
20	36	砂	細礫		1														2																	3
			極粗粒砂	2	2	1													20							1										26
			粗粒砂	10	4	2										1	1		14																	32
			中粒砂	3	1	4					1							3	4																	16
			細粒砂	4		5	1																													10
			極細粒砂	8	1	4	1		2		1																									17
			粗粒シルト	3	2	3																															8
			中粒シルト	1																																	1
		基質																																		658
		孔隙																																		28
		備考		基質は、雲母鉱物、褐色粘土鉱物、酸化鉄などで埋められる。植物珪酸体、バブルウォール型火山ガラスあり。																																	

第10表　薄片観察結果（5）

試料番号	報告番号	砂粒区分		砂粒の種類構成																																合計
				鉱物片										岩石片																			その他				
				石英	カリ長石	斜長石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	閃緑岩	雲母片岩	石英片岩	ホルンフェルス	粘板岩	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	酸化鉄結核	砂泥じり粘土塊	植物珪酸体					
21	423	砂	細礫																			1			1											2
			極粗粒砂	1							1		1									3	1	3	9	7	1									27
			粗粒砂								2											5	2	1	3	4	4									21
			中粒砂																1						1	1	2									5
			細粒砂	5					1	1									1																	8
			極細粒砂	7		1			1																											9
			粗粒シルト	1		1																														2
			中粒シルト																																	0
		基質																																		405
		孔隙																																		20
		備考		基質は雲母鉱物、炭質物などで埋められる。脈石英と粘板岩は類似した岩相を示す。石英片岩には電気石が含まれる。																																	
22	424	砂	細礫											1											1											2
			極粗粒砂										5	2	3				1	1				2	1											15
			粗粒砂	2		1					1													1	1	2										8
			中粒砂	2		2					1				2				5							6										18
			細粒砂	9										1					3																	13
			極細粒砂	2	1	2																														5
			粗粒シルト			1																														1
			中粒シルト																																	0
		基質																																		292
		孔隙																																		11
		備考		基質は雲母粘土鉱物、炭質物などで埋められる。緑簾石あり。																																	

(2) 弥生土器

1) 鉱物片・岩石片の種類構成

本分析の弥生土器試料は、分類基準となる岩石片の計数粒数が全体的に少ないため、明瞭な分類を得ることが難しかった。そのような中で、試料番号7と12については、堆積岩類と凝灰岩および花崗岩類の3者が含まれることからA類に分類され、試料番号8～11、13、14、17、19の計8点の試料については、堆積岩類と凝灰岩を主体とする組成が看取されることから、K類に分類される。

一方、試料番号15、16、21、22の4点については、変成岩であるホルンフェルスと粘板岩の含有を特徴とすることから、これに相当する分類であるE類とすることができる。さらに、多量の角閃石を特徴とする試料番号18は、それに相当する分類であるB類に分類され、多量の花崗岩類の岩石片を含む試料番号20は、C類に分類される。

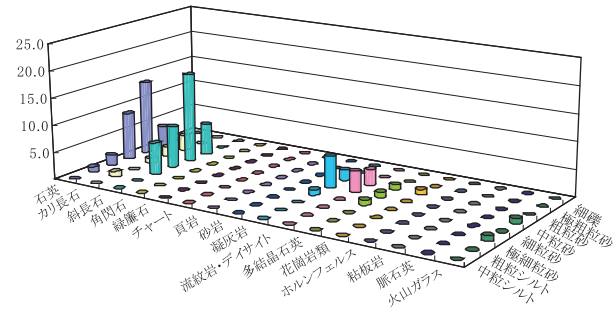
2) 砂粒全体の粒径組成

土師器と同様の分類基準に従えば、最も多い分類は粗粒砂をモードとする2類であり、試料番号7～9、14、16、20の6点がこれに分類される。次いで細粒砂をモードとする4類が多く、試料番号10、13、15、18、19の5点がこれに分類される。他に試料番号12、17、22の3点は中粒砂をモードとする3類に分類され、試料番号11は極細粒砂をモードとする5類、試料番号21は極粗粒砂をモードとする1類に分類される。

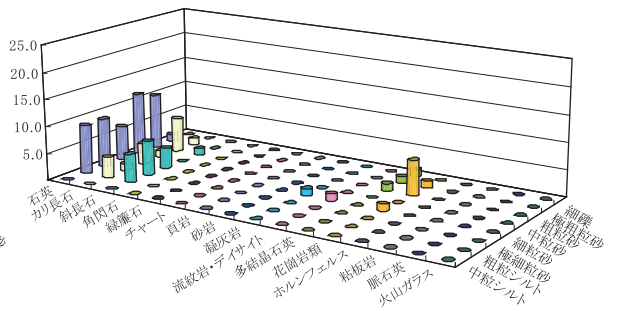
3) 砕屑物・基質・孔隙の割合

ほとんどの試料の砕屑物の割合は15%前後であり、特に分類される結果ではない。ただし、試料番号18のみは他の試料よりも砕屑物の割合が高く、約25%を示す。

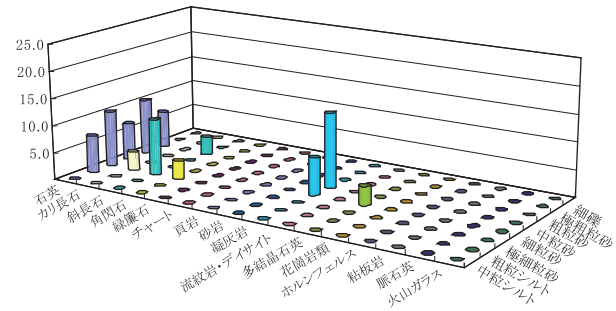
試料番号1(報告番号93)



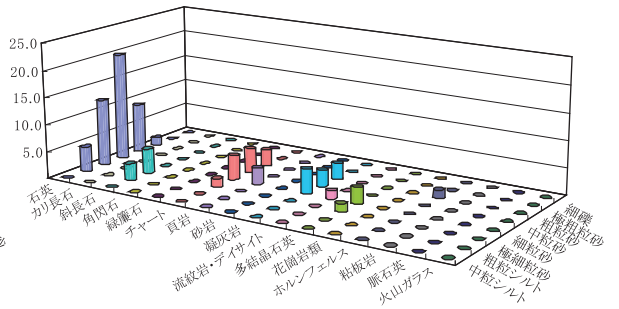
試料番号2(報告番号89)



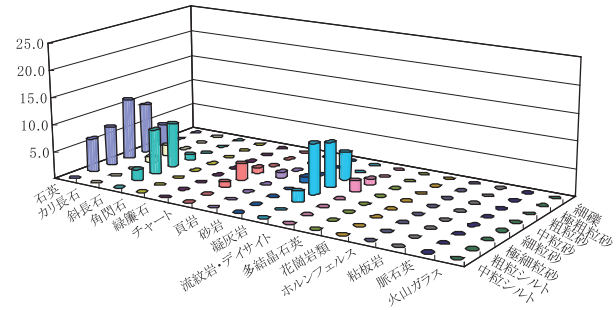
試料番号3(報告番号117)



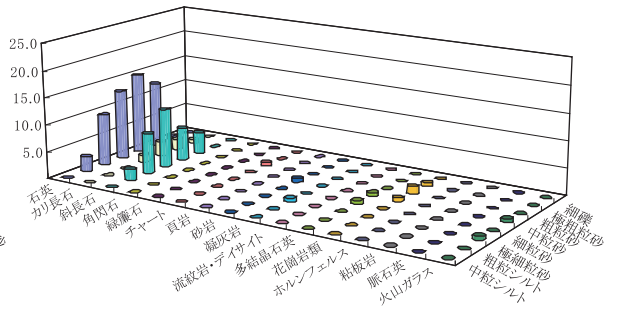
試料番号4(報告番号109)



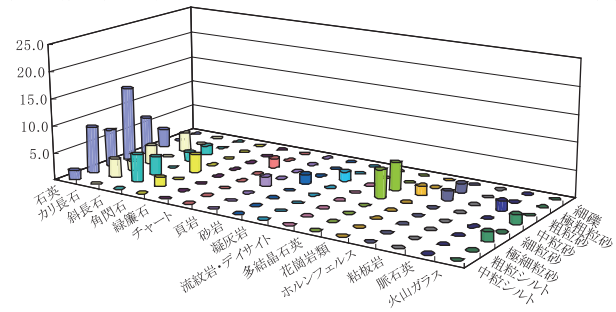
試料番号5(報告番号161)



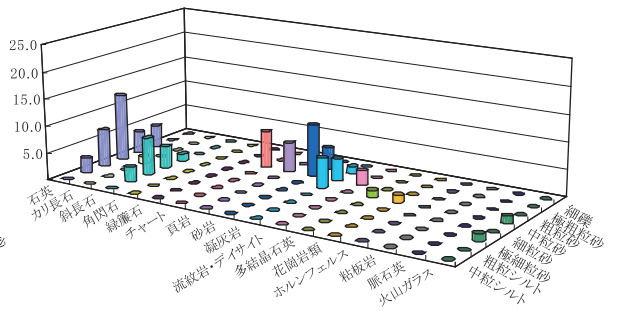
試料番号6(報告番号163)



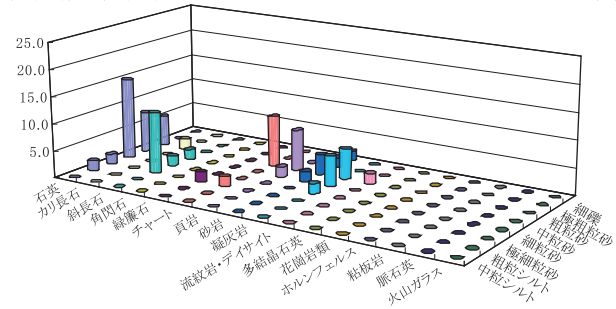
試料番号7(報告番号39)



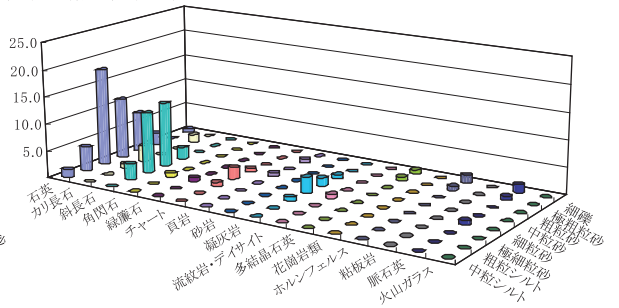
試料番号8(報告番号44)



試料番号9(報告番号31)

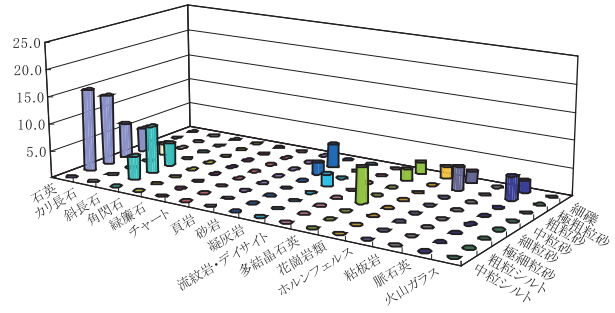


試料番号10(報告番号559)

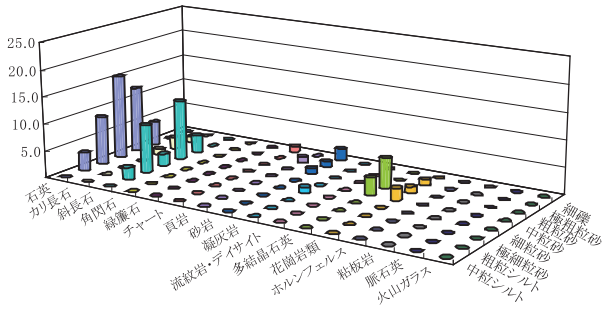


第13図　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（1）

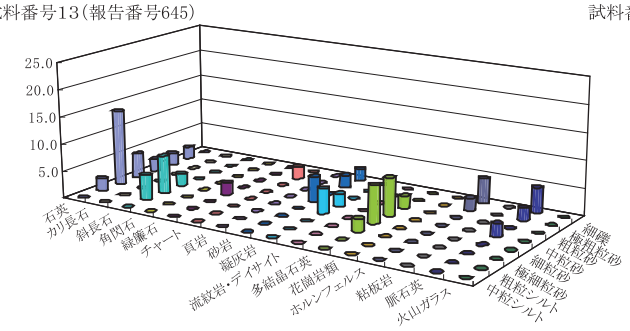
試料番号11(報告番号405)



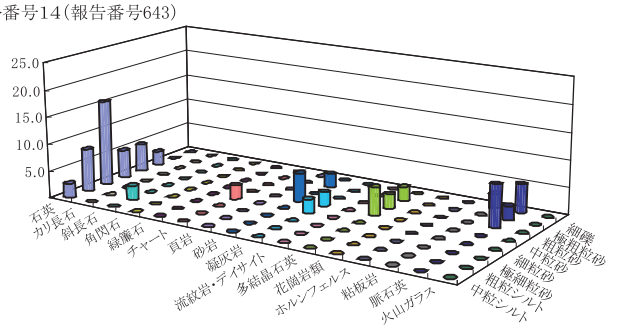
試料番号12(報告番号460)



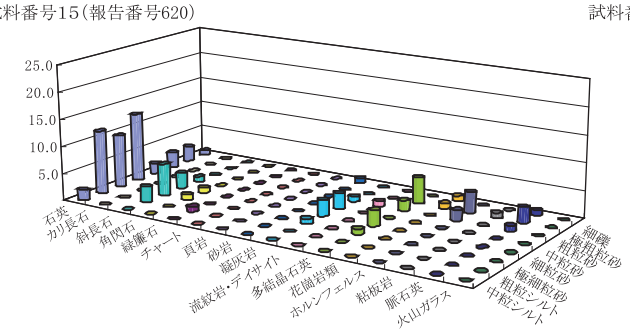
試料番号13(報告番号645)



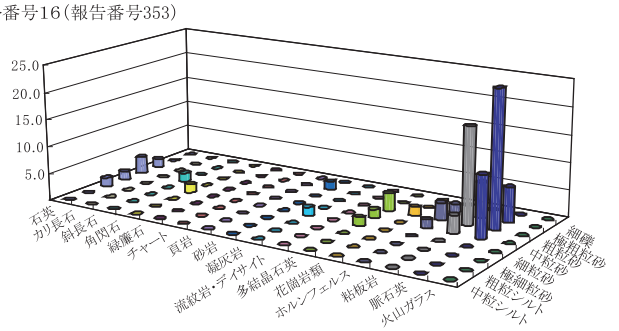
試料番号14(報告番号643)



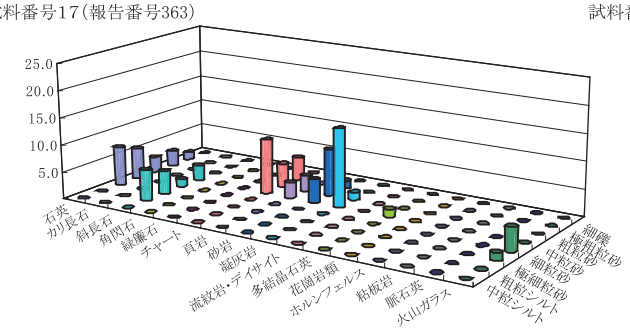
試料番号15(報告番号620)



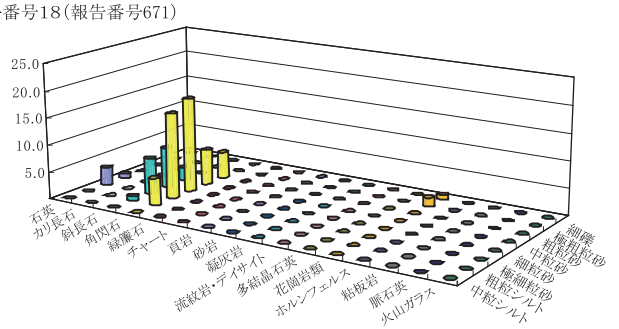
試料番号16(報告番号353)



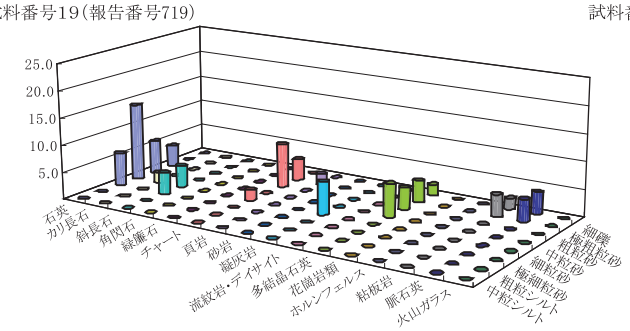
試料番号17(報告番号363)



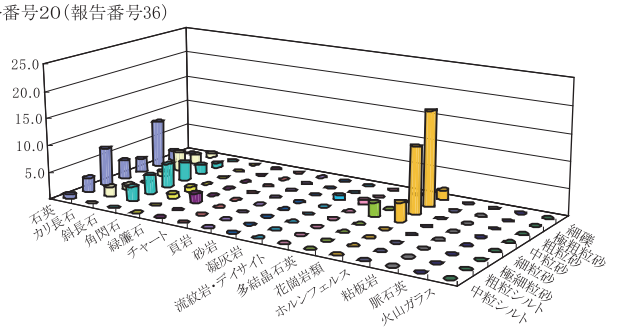
試料番号18(報告番号671)



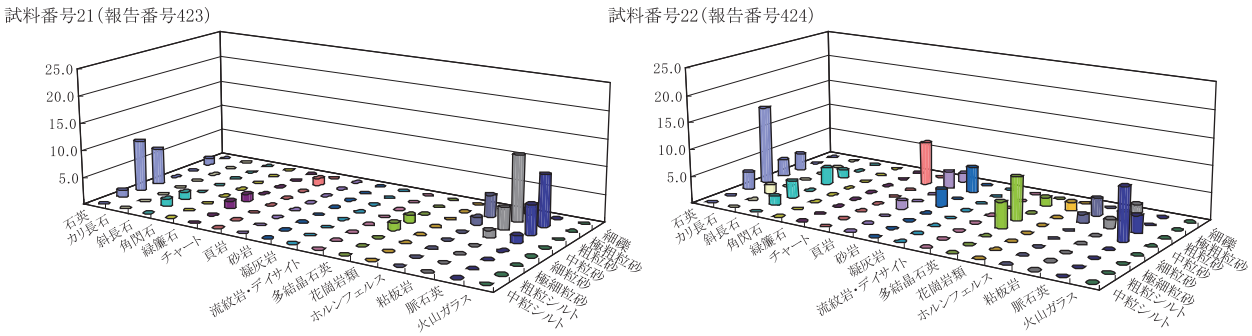
試料番号19(報告番号719)



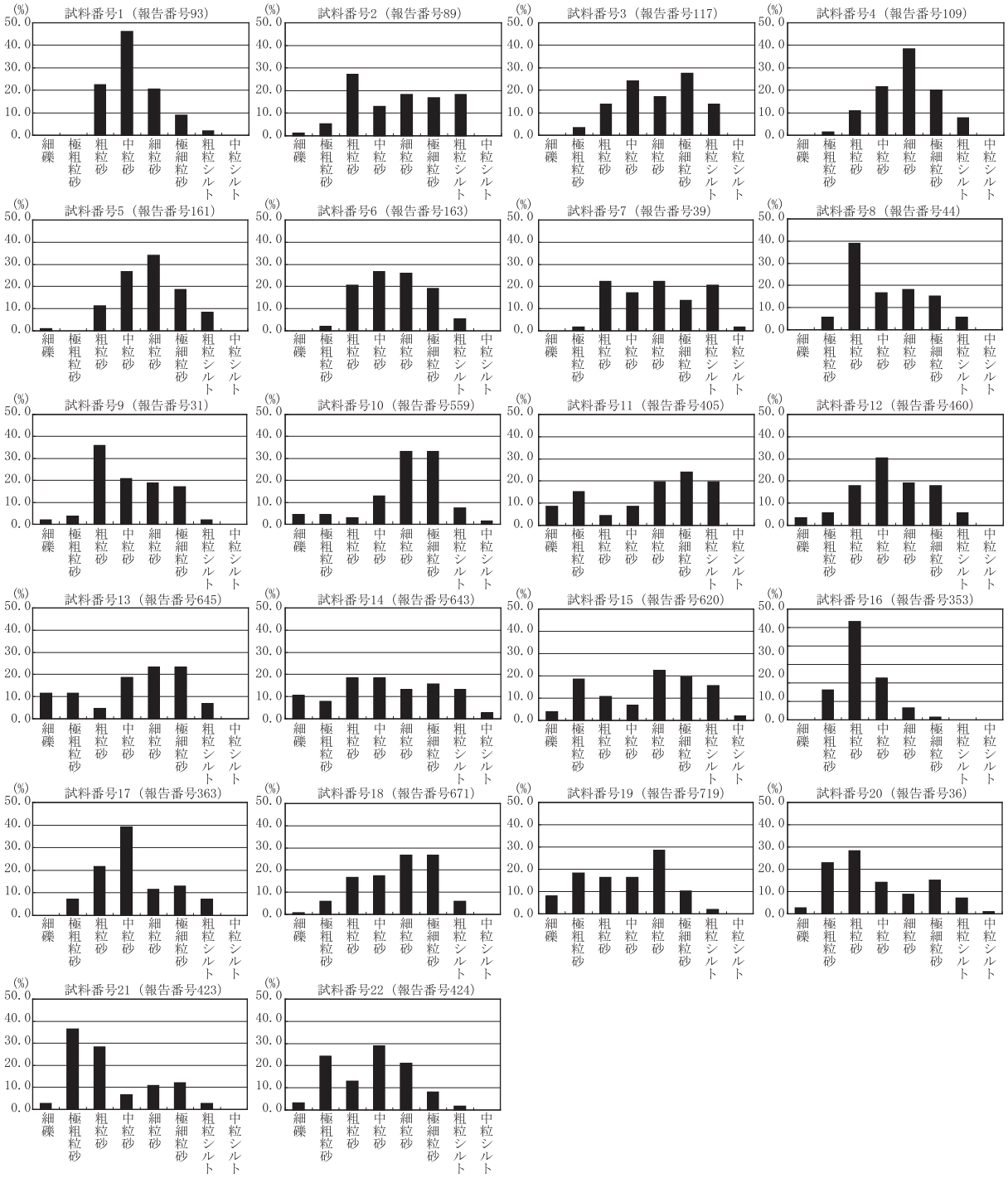
試料番号20(報告番号36)



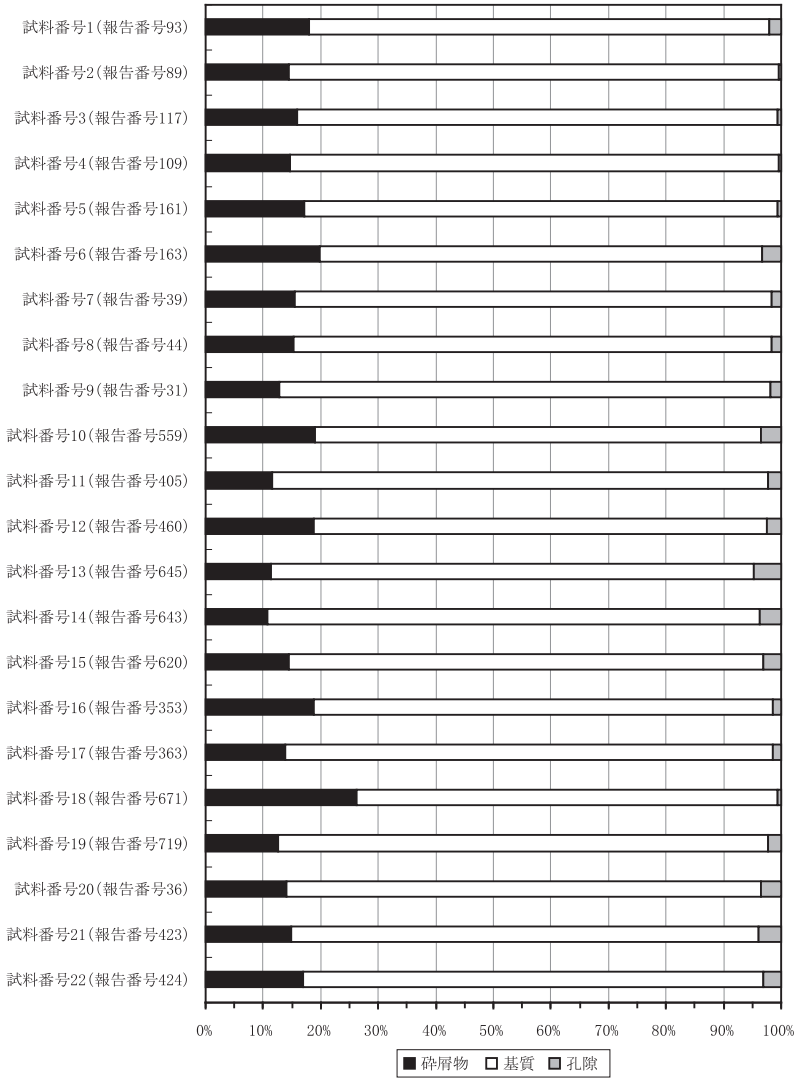
第14図　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（2）



第15図　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（3）



第16図　胎土中の砂の粒径組成



第17図　砕屑物・基質・孔隙の割合

第11表　胎土分類結果

試料番号	報告番号	種別	器種	胎土分類	
				鉱物・岩石	粒径組成
1	93	土師器	壺	F	3
2	89	土師器	壺	C	2
3	117	土師器	小壺	F	5
4	109	土師器	小型丸底壺	K	4
5	161	土師器	高杯	K	4
6	163	土師器	高杯	A	3
7	39	弥生土器	直口壺	A	2
8	44	弥生土器	直口壺	K	2
9	31	弥生土器	壺	K	2
10	559	弥生土器	壺	K	4
11	405	弥生土器	壺	K	5
12	460	弥生土器	甕	A	3
13	645	弥生土器	甕	K	4
14	643	弥生土器	甕	K	2
15	620	弥生土器	壺	E	4
16	353	弥生土器	甕	E	2
17	363	弥生土器	台付鉢	K	3
18	671	弥生土器	壺	B	4
19	719	弥生土器	甕	K	4
20	36	弥生土器	甕	C	2
21	423	弥生土器	甕(紀伊型)	E	1
22	424	弥生土器	甕(紀伊型)	E	3

4．考察

(1) 胎土の地域性

淡路島の地質については、水野ほか（1990)、高橋ほか（1992)、牧本ほか（1995)、日本地質学会編（2009）などに詳細な記載がある。以下はこれらを参照、引用するものである。井手田遺跡の背後に分布する山地は、白亜紀後期の主に砂岩泥岩互層からなる和泉層群の中でも主部相とされる北阿万累層により構成されている。したがって、井手田遺跡の位置する周辺の堆積物を構成する砕屑物の岩石組成は、おそらく砂岩や泥岩などの堆積岩類が卓越していると考えられる。さらにその砂岩や泥岩を構成している砕屑物は、和泉層群形成時の基盤であった泉南流紋岩類の火山岩や凝灰岩および領家帯の花崗岩類などに由来する鉱物片や岩石片であると考えることができる。このことから、今回の分析で認められた胎土分類のうち、堆積岩類や結晶質の凝灰岩および花崗岩類の混在するＡ類、Ｆ類およびＫ類の各分類の岩石組成は、和泉層群を地質学的背景とすることを示唆している可能性がある。すなわち、これらの分類に相当する土器は、井手田遺跡の位置する低地および周辺の堆積物を材料としている可能性が高いと考えられる。岩石片の組成の違いは、採取場所の違いや採取層位の違いなどの局所的な堆積物の差異に起因すると考えられる。これまでの分析事例では、井手田遺跡と同様に諭鶴羽山地西部周辺域に位置する九蔵遺跡出土の古代の土師器や神子曽遺跡出土の弥生土器などにＡ類やＫ類の胎土が認められている。

Ｅ類の胎土は、ホルンフェルスと粘板岩といういずれも変成岩に分類される岩石片を多く含むことを特徴とするが、上述した淡路島内の地質記載からは、これらの岩石からなる地質の分布は認められない。ホルンフェルスと粘板岩の由来する地質を淡路島周辺で考えるならば、紀伊半島中部から四国中部を横断する変成岩帯である三波川帯の可能性がある。今回の分析試料の中には、紀伊型甕とされた試料が2点ともにＥ類に分類されたことも考慮すると、Ｅ類とされた胎土は、三波川帯の分布する紀ノ川沿いの地域の堆積物に由来する可能性がある。特に試料番号21では三波川帯の主要な変成岩である雲母片岩や石英片岩も共伴しており、Ｅ類が三波川帯に由来する可能性のあることを支持している。

Ｃ類の胎土を特徴づける花崗岩類の分布は、淡路島内では中部や北部に広く分布し、南部には分布しない。したがって、Ｃ類に分類された胎土の土器は、井手田遺跡周辺で作製されたものではないと考えられ、近くても淡路島中部や北部からの搬入品であると考えられる。さらに、花崗岩類からなる地質は、領家帯や山陽帯および山陰帯などとして近畿～中国地方に広く分布していることから、Ｃ類の胎土の土器は淡路島外からの搬入の可能性も考えなければならない。今後、考古学からの所見から推定される地域性との検討が必要であろう。

試料番号18のみが分類されたＢ類の胎土は、多量の角閃石の鉱物片と多量の閃緑岩の岩石片の産状から、角閃石閃緑岩からなる地質の分布する地域の周辺に由来すると考えることができる。淡路島内には角閃石閃緑岩からなる地質の分布は認められないことから、Ｂ類の胎土の土器は淡路島外からの搬入品である可能性が高い。現時点では、角閃石閃緑岩の分布する地域は特定できないが、Ｃ類で述べたことと同様に考古学の所見からの地域性も考慮した検討が必要であると考えられる。

(2) 土器の種別・器種と胎土との関係

土師器の胎土と弥生土器の胎土との間では、ともにＫ類の多い傾向が共通点としてあげられる一方で、弥生土器にはＦ類が認められないこと、土師器にはＢ類やＥ類が認められないことが相違点としてあげられる。また、胎土の砂粒全体の粒径組成においては、弥生土器では粗粒傾向の強い2類が最も多

いのに対し、土師器では2類は少ないことが比較的明瞭な相違点として指摘できる。

これらのことは、同一の場所においても弥生土器と土師器とでは、材料の採取地や素地の調整などの製作に関わる事情に変化があったことを示していると考えることができる。

引用文献

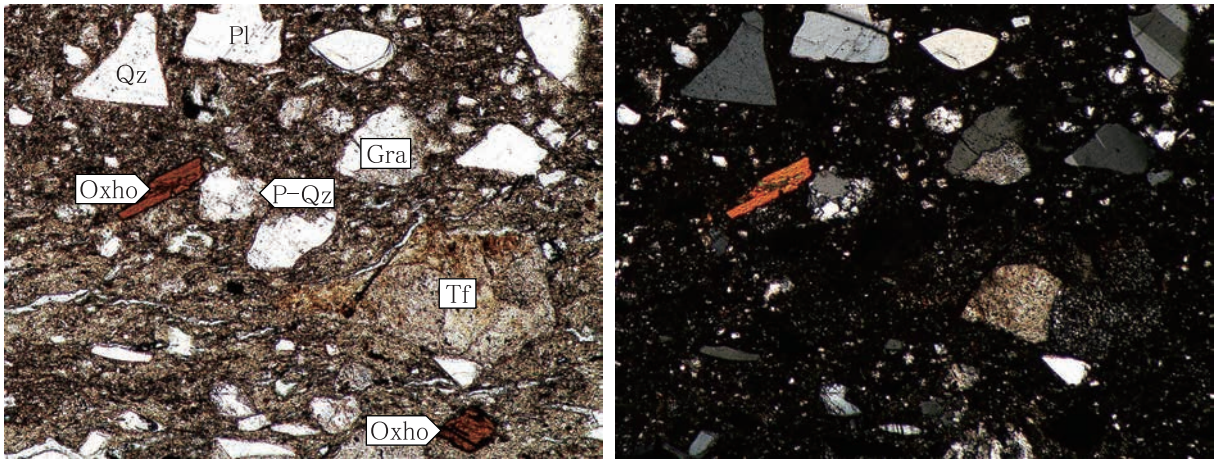
牧本　博・利光誠一・高橋　浩・水野清秀・駒澤正夫・志和龍一, 1995, 20万分の1地質図幅　徳島, 地質調査所.

松田順一郎・三輪若葉・別所秀高, 1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－.日本文化財科学会第16回大会発表要旨集, 120-121.

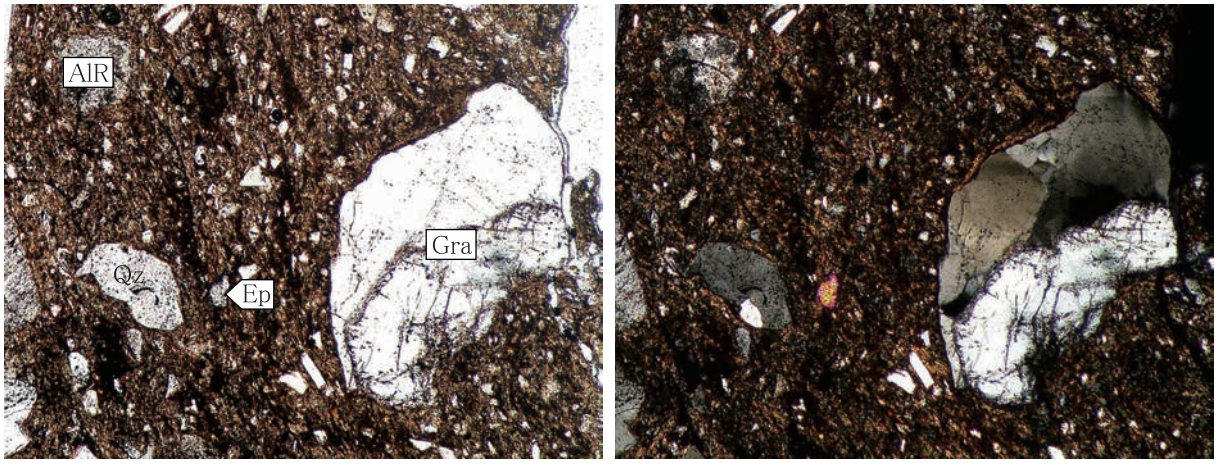
水野清秀・服部　仁・寒川　旭・高橋　浩, 1990, 明石地域の地質.地域地質研究報告（5万分の1図幅), 地質調査所, 90p.

日本地質学会編, 2009, 日本地方地質誌5　近畿地方. 朝倉書店, 453p.

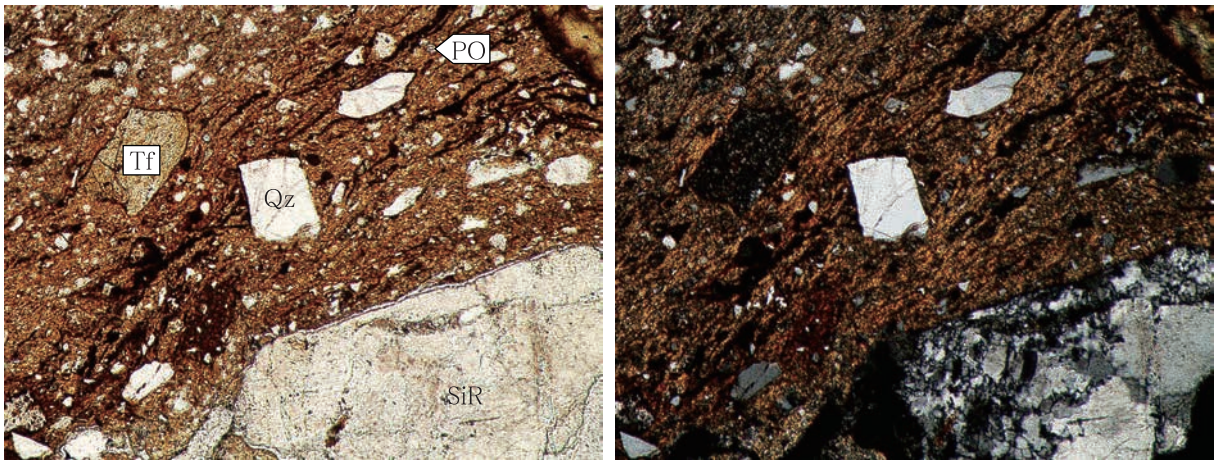
高橋　浩・寒川　旭・水野清秀・服部　仁, 1992, 洲本地域の地質. 地域地質研究報告（5万分の1図幅), 地質調査所, 107p.



1.試料番号1(報告番号93　土師器　壺)



2.試料番号2(報告番号89　土師器　壺)



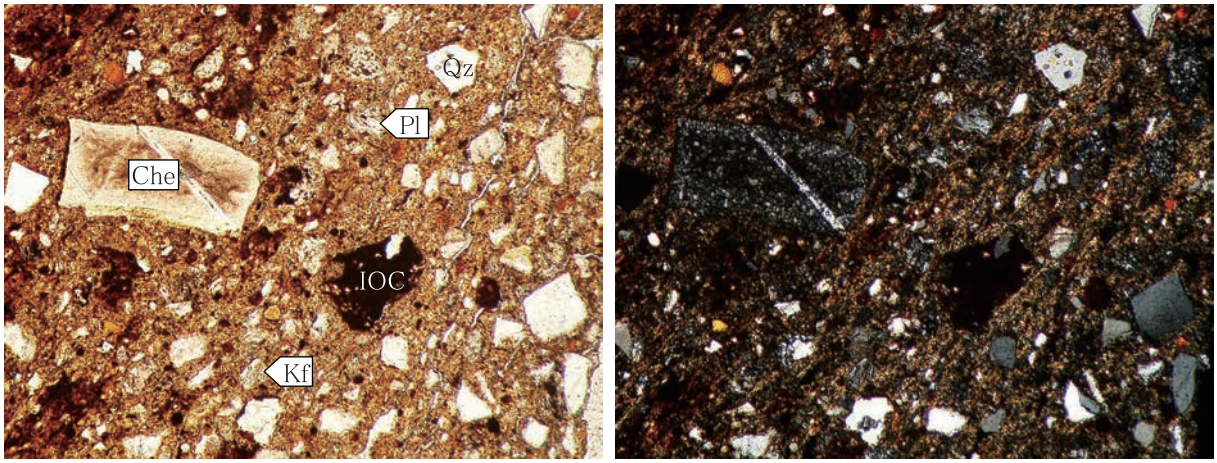
3.試料番号3(報告番号117　土師器　小壺)

Qz:石英. Pl:斜長石. Oxho:酸化角閃石. Ep:緑レン石. Tf:凝灰岩. P-Qz:多結晶石英. Gra:花崗岩. AlR:変質岩. SiR:珪化岩. PO:植物珪酸体.

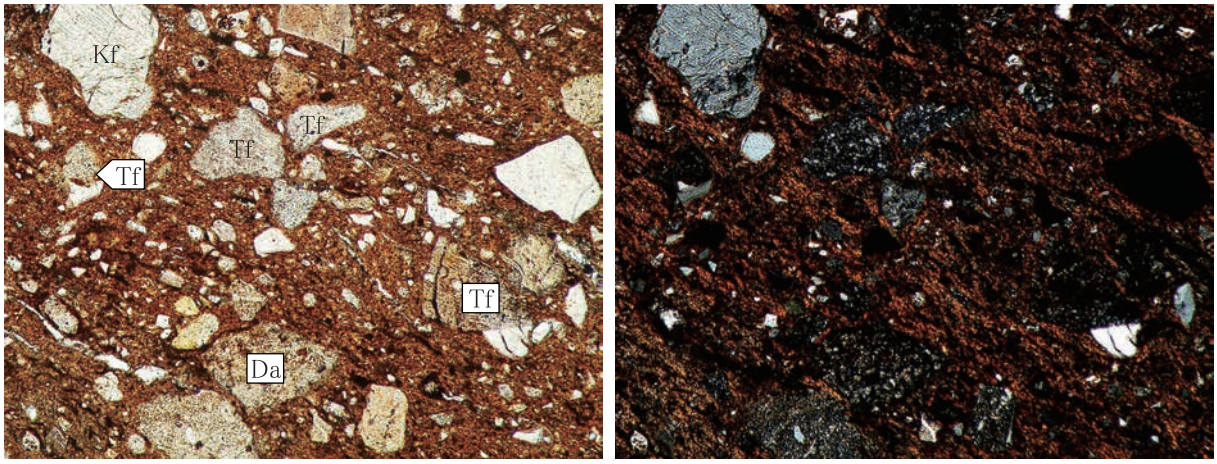
0.5mm

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

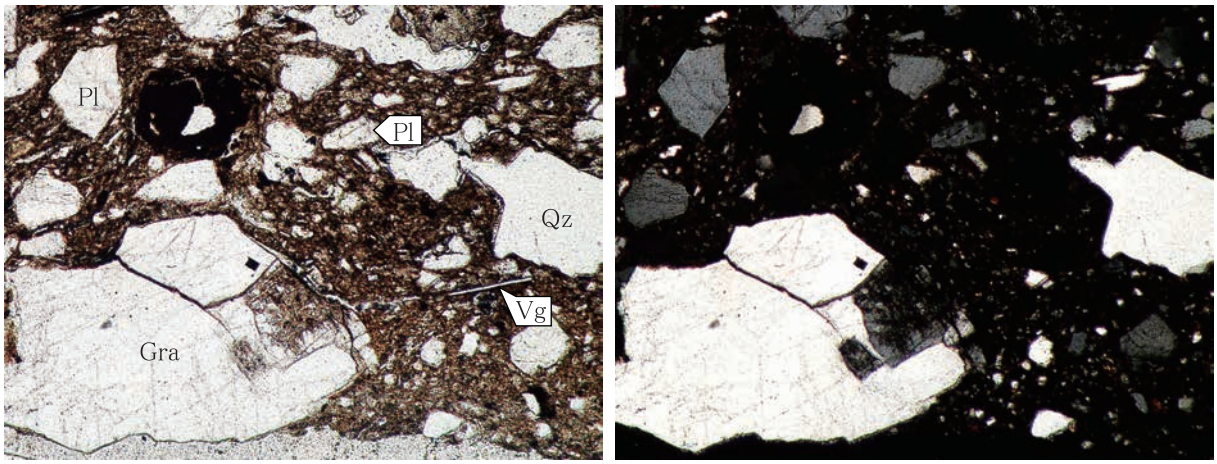
第18図　井手田遺跡胎土薄片（1）



4.試料番号4(報告番号109　土師器　小型丸底壺)



5.試料番号5(報告番号161　土師器　高杯)

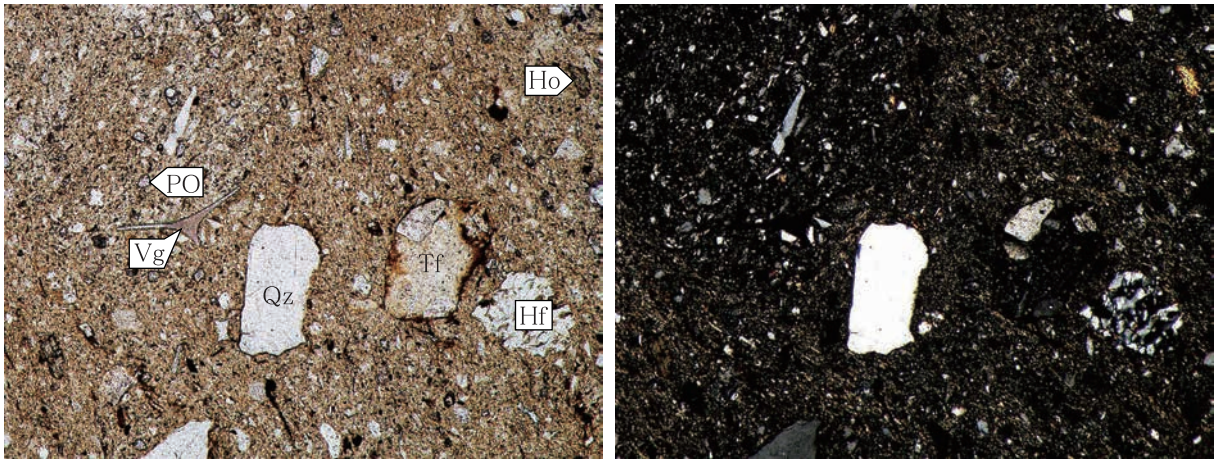


6.試料番号6(報告番号163　土師器　高杯)

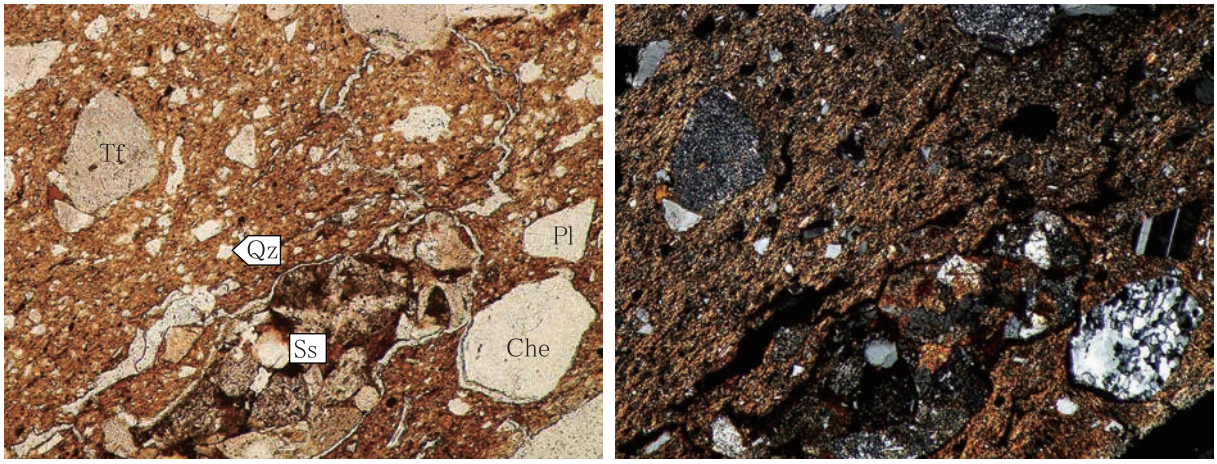
Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Che:チャート. Tf:凝灰岩. Da:デイサイト.
Gra:花崗岩. Vg:火山ガラス. IOC:酸化鉄結核.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

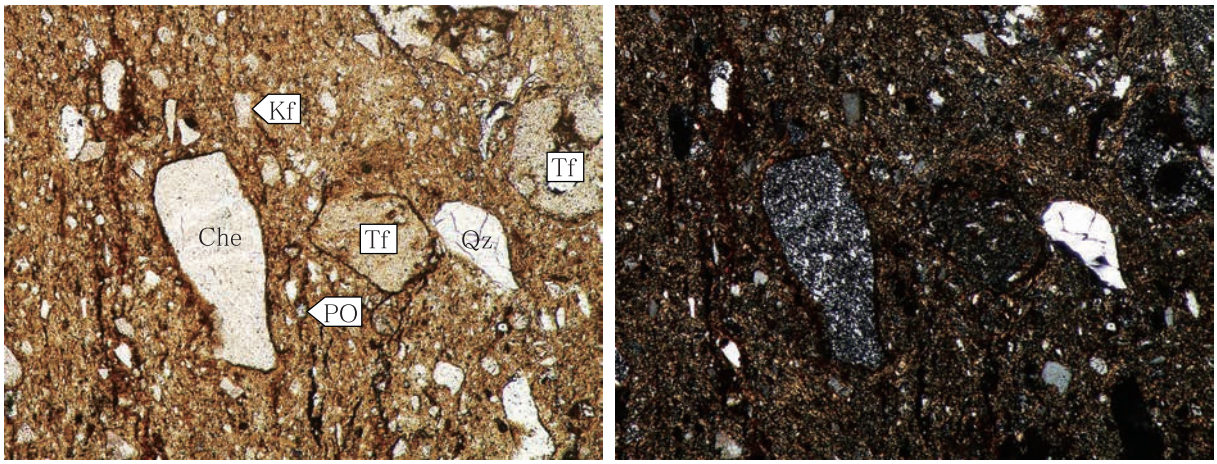
第19図　井手田遺跡胎土薄片（2）



7.試料番号7(報告番号39　弥生土器　直口壺)



8.試料番号8(報告番号44)　弥生土器　直上壺)

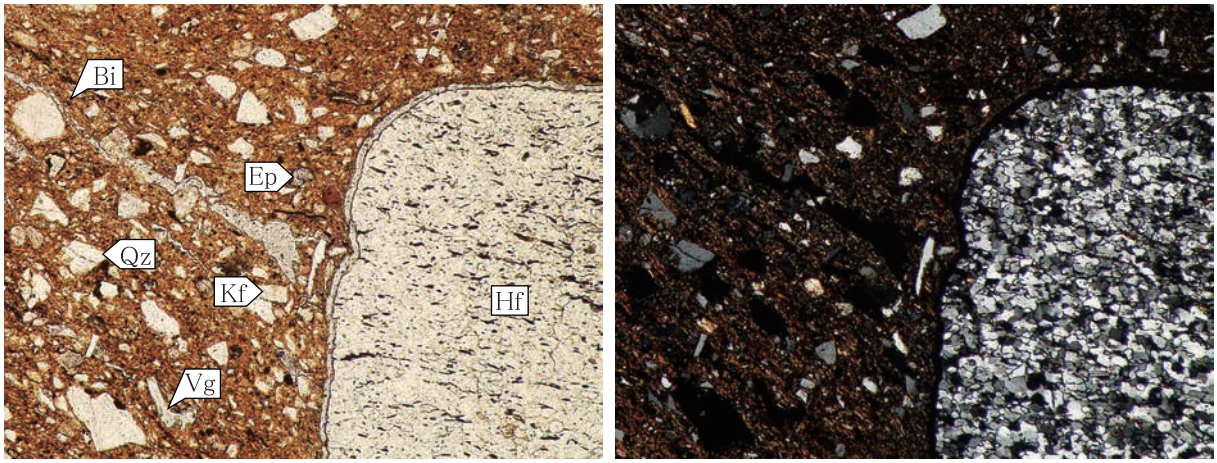


9.試料番号9(報告番号31　弥生土器　壺)

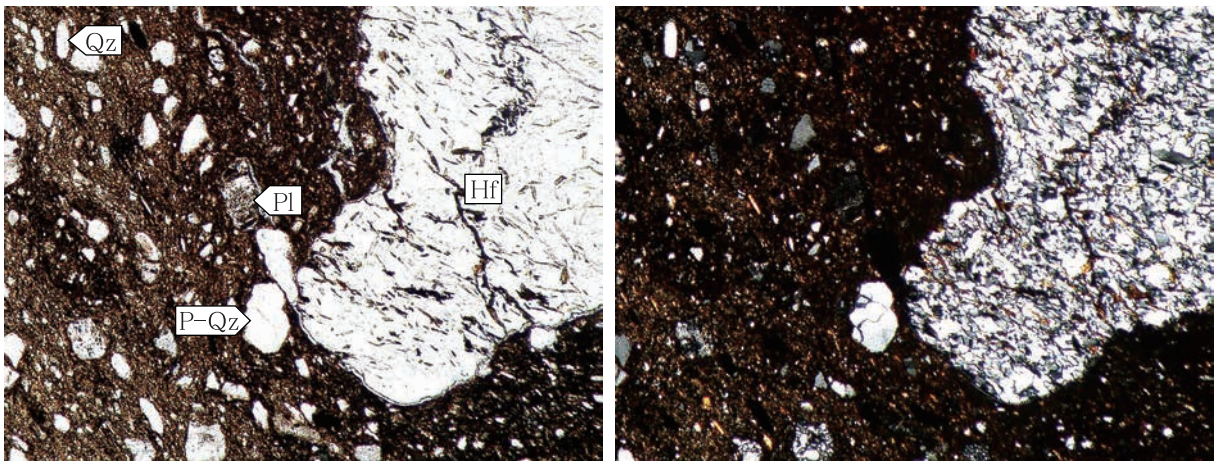
Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Che:チャート. Ss:砂岩. Tf:凝灰岩.
Hf:ホルンフェルス. Vg:火山ガラス. PO:植物珪酸体.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

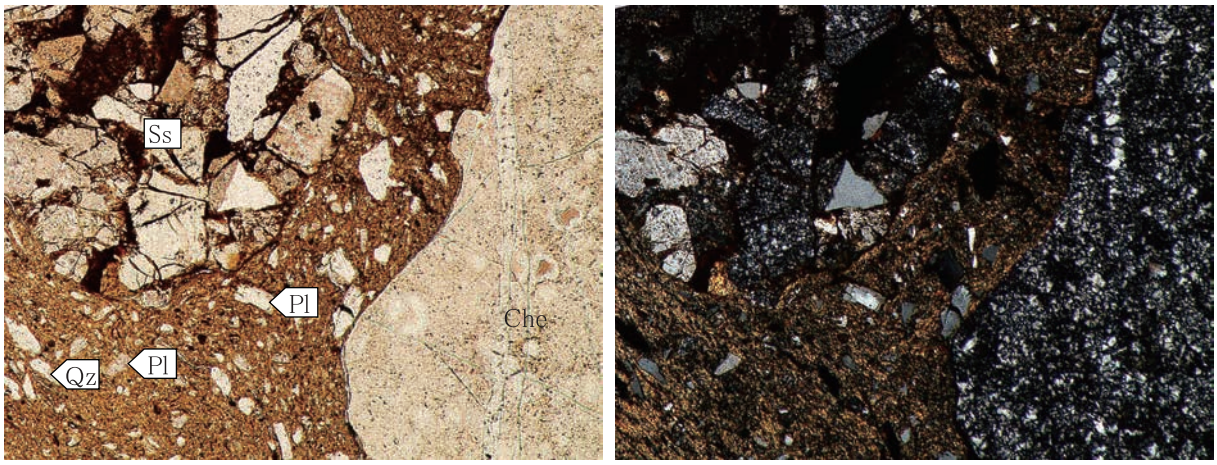
第20図　井手田遺跡胎土薄片（3）



10.試料番号10(報告番号559　弥生土器　壺)



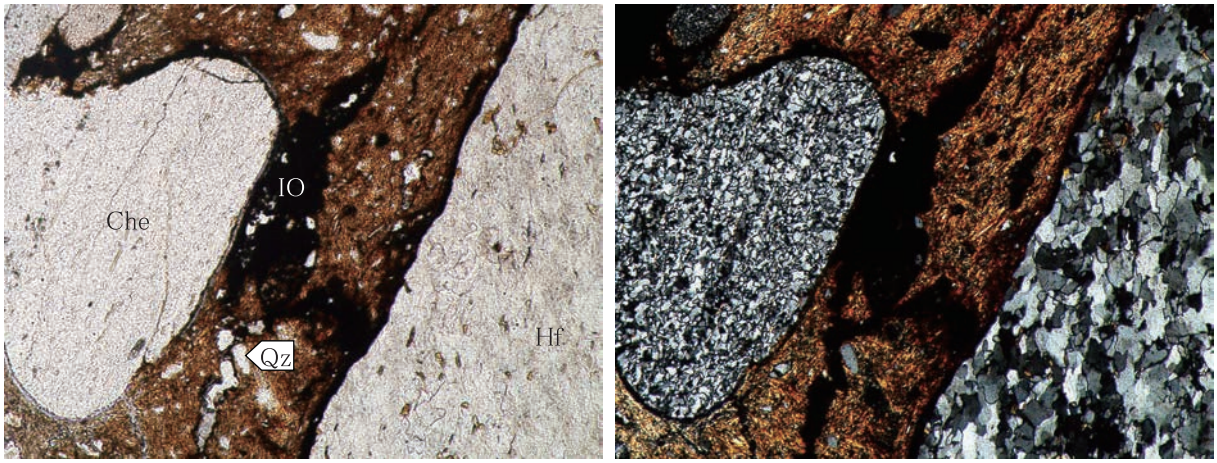
11.試料番号11(報告番号405　弥生土器　壺)



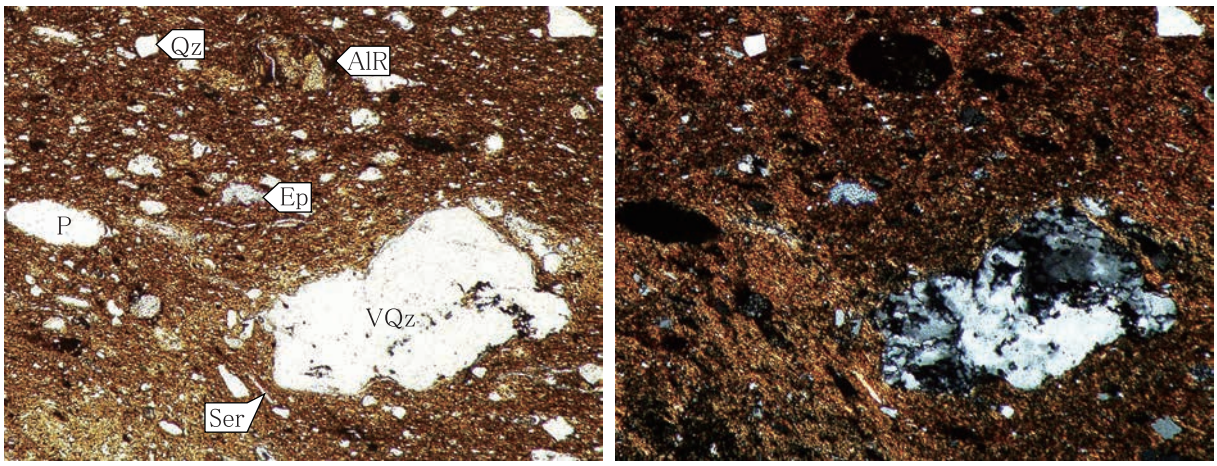
12.試料番号12(報告番号460　弥生土器　甕)

Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Ep:緑レン石. Bi:黒雲母. Che:チャート. Ss:砂岩. 0.5mm
P-Qz:多結晶石英. Hf:ホルンフェルス. Vg:火山ガラス.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

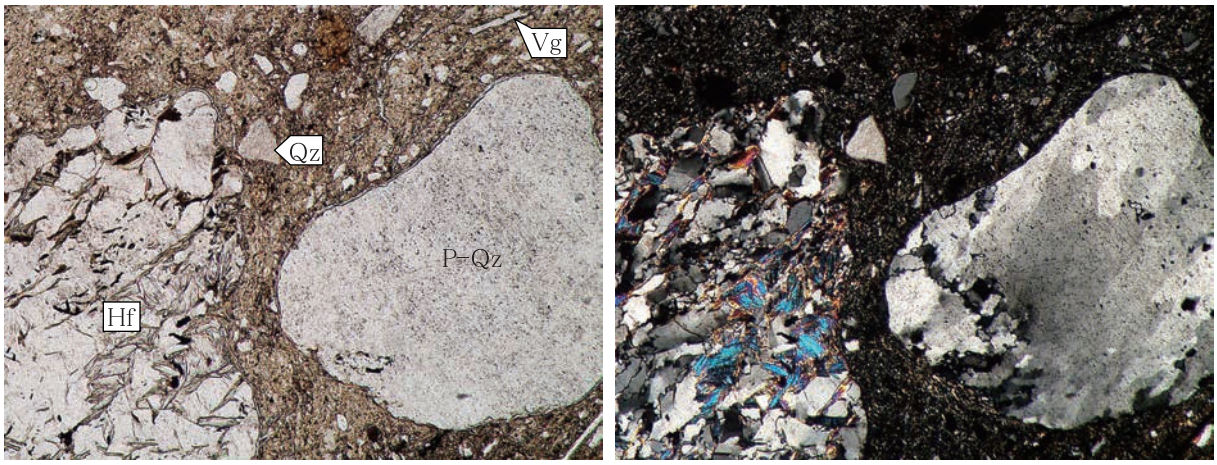
第21図　井手田遺跡胎土薄片（4）



13.試料番号13(報告番号645　弥生土器　甕)



14.試料番号14(報告番号643　弥生土器　甕)

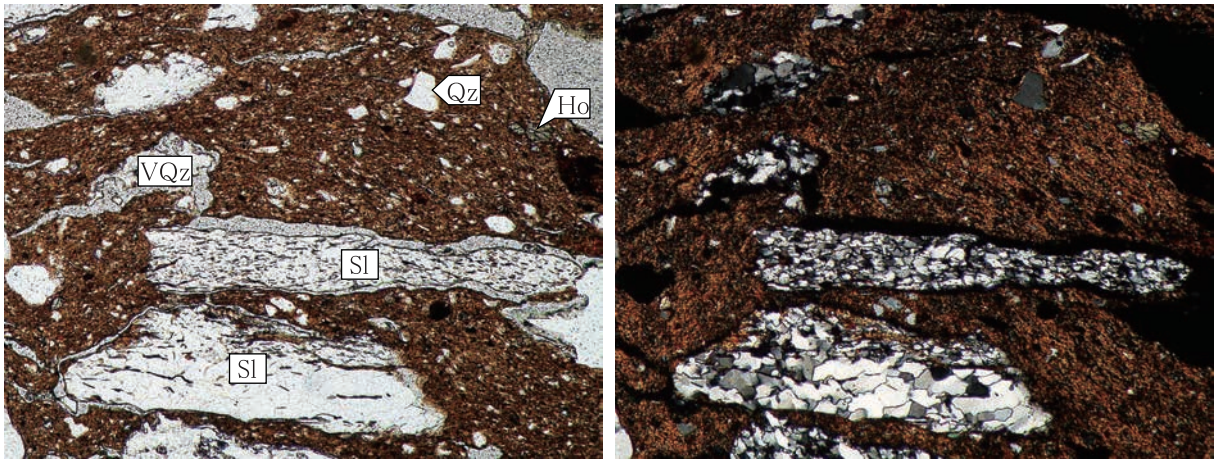


15.試料番号15(報告番号620　弥生土器　壺)

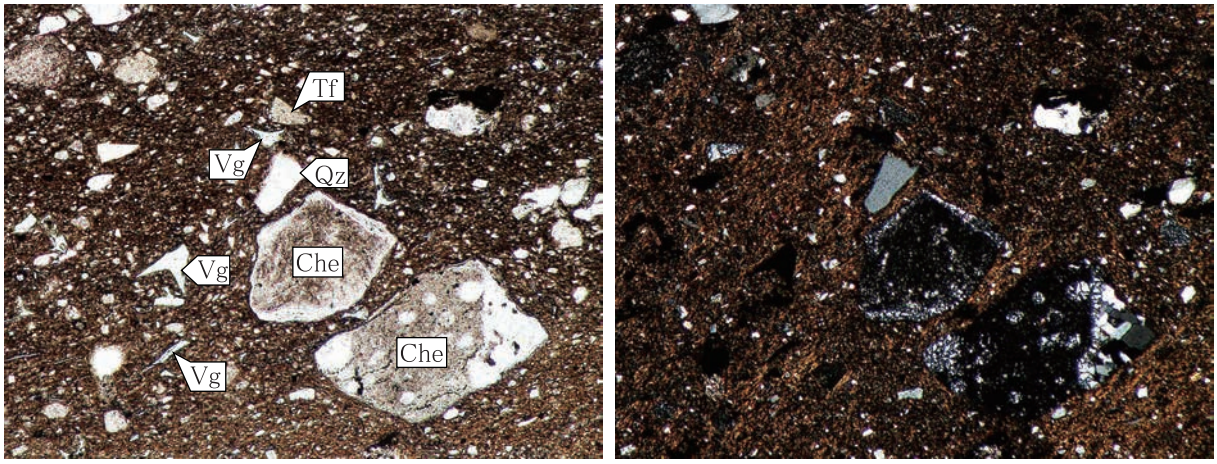
Qz:石英. Ep:緑レン石. Che:チャート. P-Qz:多結晶石英. Hf:ホルンフェルス.
VQz:脈石英. AlR:変質岩. Vg:火山ガラス. Ser:セリサイト. IO:酸化鉄. P:孔隙.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

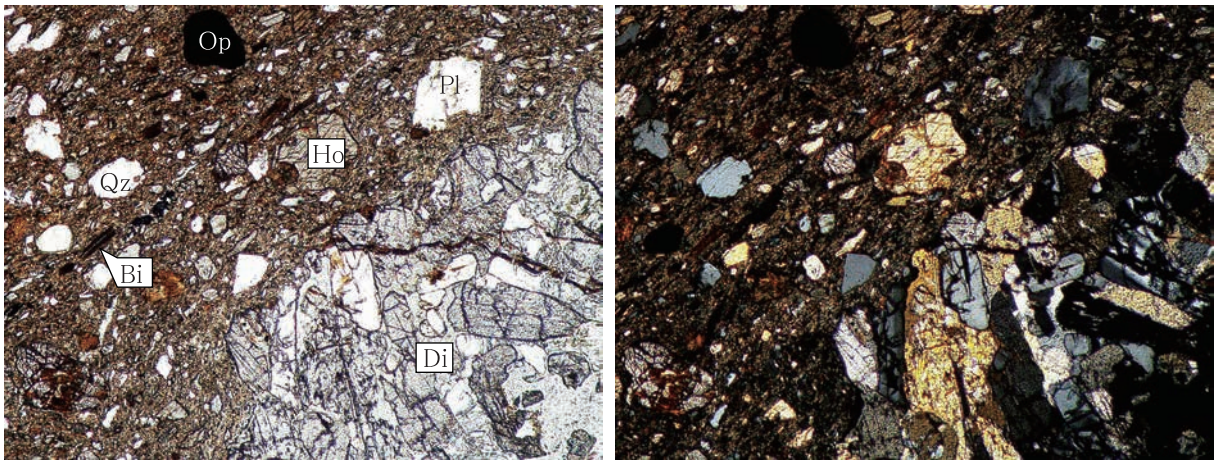
第22図　井手田遺跡胎土薄片（5）



16.試料番号16(報告番号353　弥生土器　甕)



17.試料番号17(報告番号363　弥生土器　台付鉢)

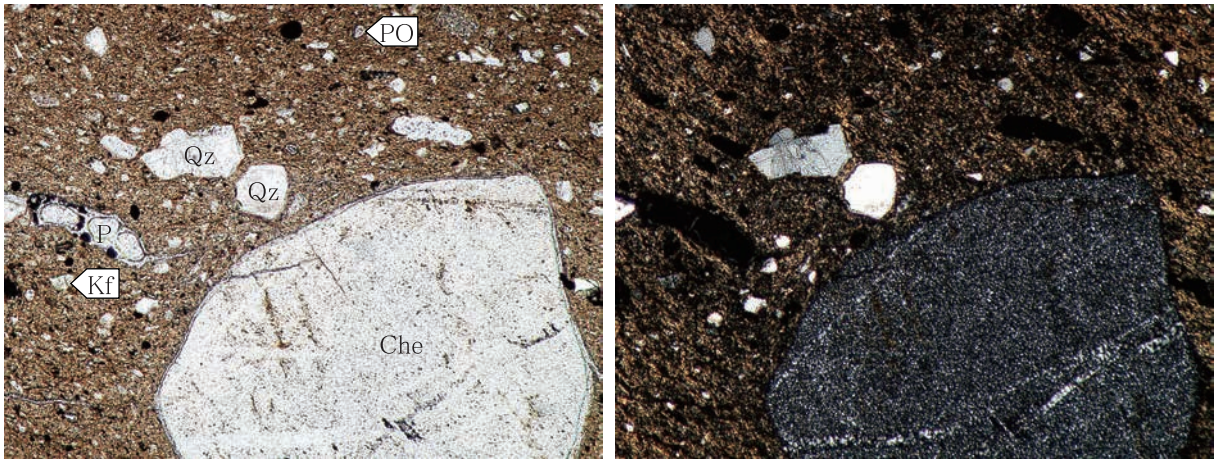


18.試料番号18(報告番号671　弥生土器　壺)

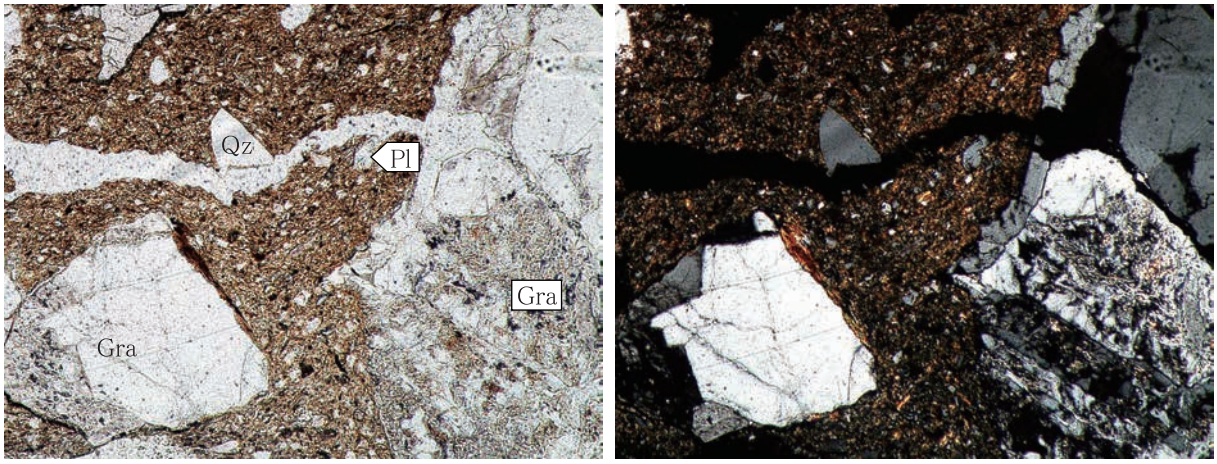
Qz:石英. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Bi:黒雲母. Op:不透明鉱物. Che:チャート.
Tf:凝灰岩. Di:閃緑岩. Sl:粘板岩. VQz:脈石英. Vg:火山ガラス.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

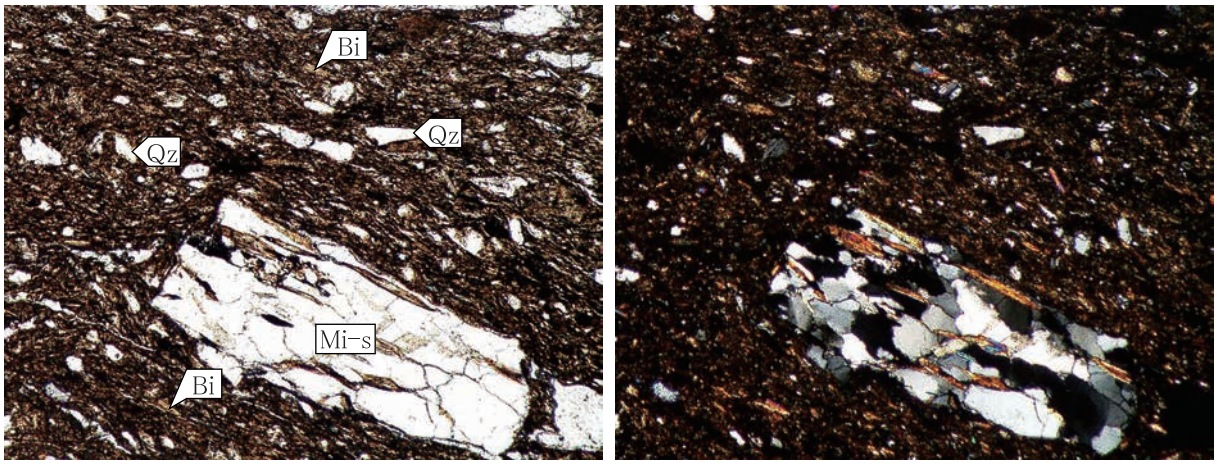
第23図　井手田遺跡胎土薄片（6）



19.試料番号19(報告番号719　弥生土器　甕)



20.試料番号20(報告番号36　弥生土器　甕)

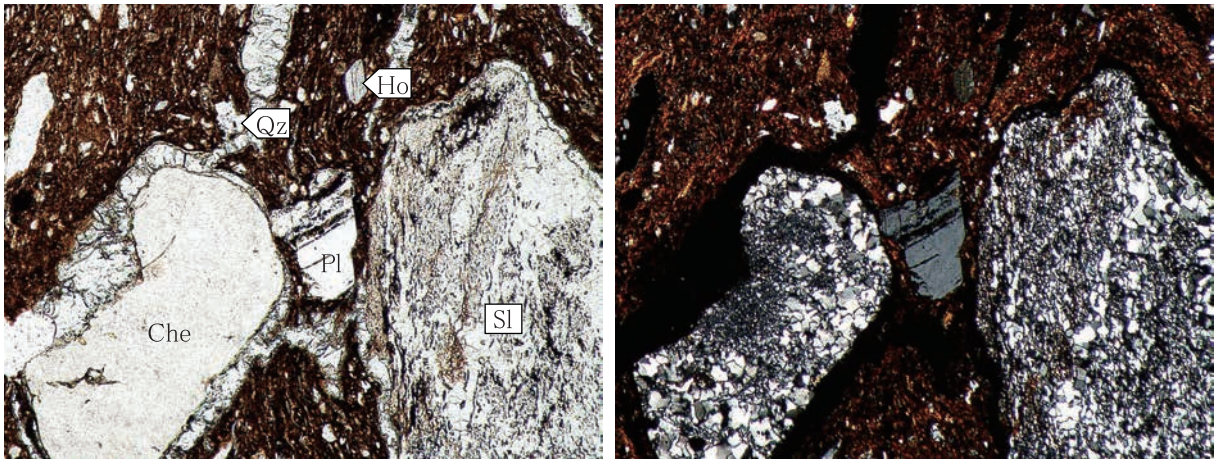


21.試料番号21(報告番号423　弥生土器　甕　紀伊型)

Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Bi:黒雲母. Che:チャート. Gra:花崗岩.
Mi-s:雲母片岩. PO:植物珪酸体. P:孔隙.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

第24図　井手田遺跡胎土薄片（7）

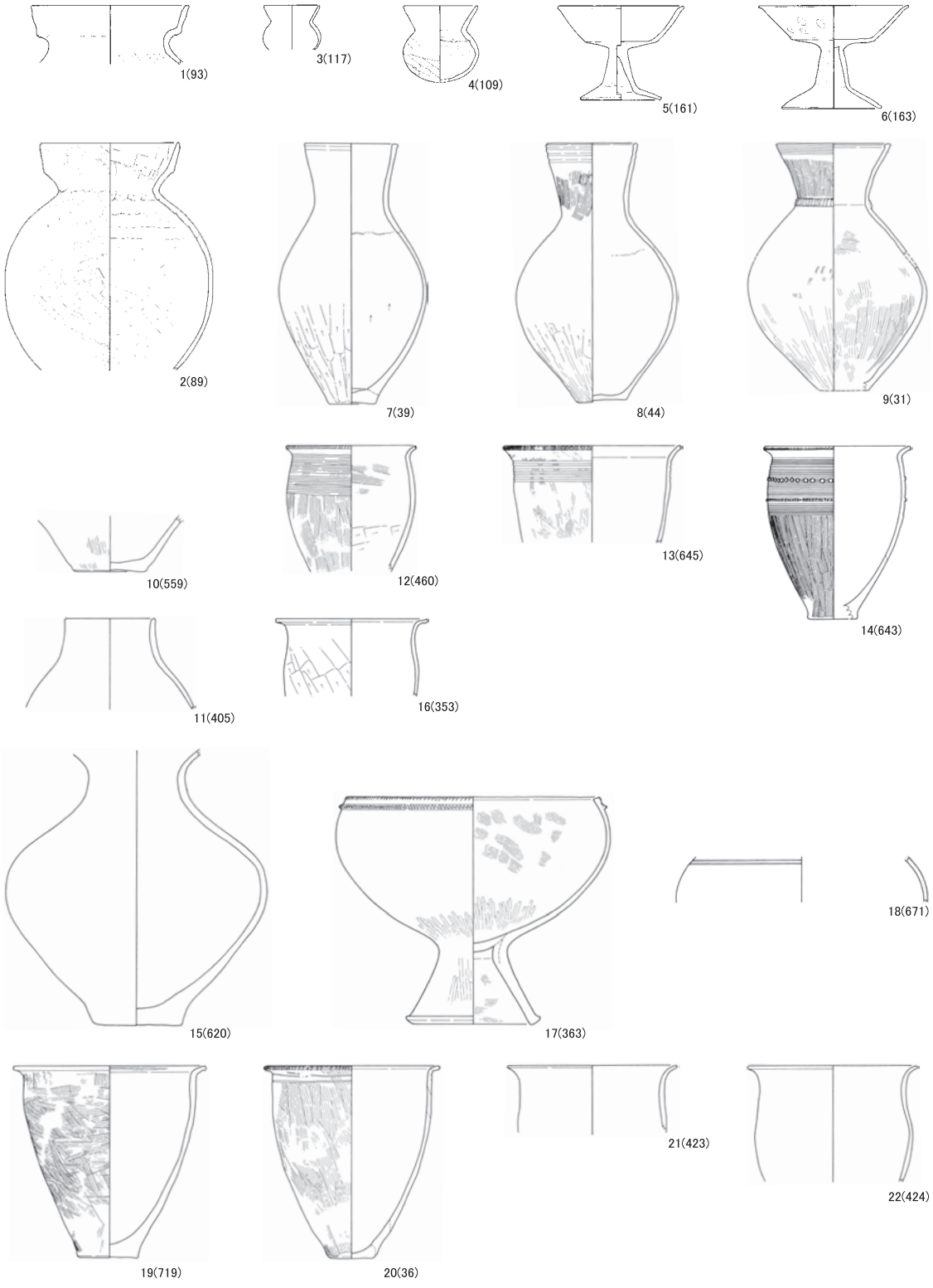


22.試料番号22(報告番号424　弥生土器　甕　紀伊型)

Qz:石英. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Che:チャート. Sl:粘板岩.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

第25図　井手田遺跡胎土薄片（8）



※（　　）は報告番号

0　20cm

第26図　胎土分析試料

第６章　まとめ

第１節　井手田遺跡の変遷

井手田遺跡の今回の調査では弥生時代前期から平安時代後期～鎌倉時代に至る各時期の集落跡を調査した。集落は旧河道に挟まれた中州状の微高地上に形成されており、旧河道の埋没に伴う地形の平坦化にあわせて土地利用が変化している。以下、時期毎に遺跡の概要を説明する。

弥生時代前期後葉～中期初頭（第27図）

この時期の遺構はＤ・Ｅ・Ｆ地区に広がる。Ｄ地区の調査区東壁で採取した炭化物の放射性炭素年代測定結果によると、その暦年較正年代は797～674calBCの間に２つの範囲で示され、縄文時代晩期中葉から後葉に相当する（第５章第１節）。この結果から縄文時代晩期には微高地が形成され、弥生時代前期になってこの地における人間の活動が始まったことがうかがい知れる。

調査した遺構は弥生時代前期末から中期初頭の竪穴住居31棟・溝・土坑・水溜状遺構・水田がある。Ｄ地区とＦ地区南端の微高地上に竪穴住居が立地しており、その間のＥ地区及びＦ地区は水田として利用されている。集落の東西の広がりは不明であるが、南北120ｍほどの範囲に広がる。竪穴住居は建替が著しく、狭い微高地の上に比較的長期にわたって居住していたことがうかがえるが、中期中葉以降は居住域を移動している。

弥生時代中期後半～後期（第27図）

弥生時代中期後半の遺構はＣ地区で方形周溝墓を調査している。微高地と旧河道の間の相対的に低い場所を選んで墓域として利用している。西側に隣接する南あわじ市の調査区まで周溝墓群が続いており、墓域の中心部は西側にあると推定される。周辺で同時期の土器が多く出土しているので、近接して居住域の存在が推定される。

弥生時代後期の遺構はＣ地区で竪穴住居を１棟調査している。他に顕著な遺構がなく全容はうかがい知れないが、微高地上が居住域として利用されていたことがうかがえる。

古墳時代（第28図）

Ｂ地区の断ち割り断面から採取した植物遺体の放射性炭素年代測定結果によると、その暦年較正年代は128～214calADの範囲であり、弥生時代後期頃に相当する（第５章第１節）。このデータから弥生時代から古墳時代にかけて旧河道の埋没が進み、地形の平坦化が進行していることがうかがえる。

この時期の遺構はＣ地区で13棟の竪穴住居、井戸等を調査している。南北120mほどの範囲に広がる。西側に隣接する南あわじ市の調査区でもこの時期の竪穴住居が調査されているので、東西50m以上の広がりが推定できる。古墳時代前期から中期まで継続しているが、古墳時代後期以降の居住域は調査区内では確認されていない。

奈良時代（第29図）

Ｃ地区の断ち割り断面から採取した木片の放射性炭素年代測定結果によると、その暦年較正年代は

719～864calAD、773～869calADの範囲にあり、奈良時代～平安時代に相当する（第５章第１節）。奈良時代から平安時代にかけて旧河道の埋没が進み、地形の平坦化が進行していることがうかがえる。

この時期の遺構はＣ地区で13棟の掘立柱建物と溝、Ｄ地区で４棟の掘立柱建物を調査している。多くの建物は３間×２間程度の側柱建物であり、建物の配置に規則性は見られない。旧河道等から製塩土器が若干出土しているが、製塩炉等の生産施設はなく他に特徴的な遺構がないので、農耕を主な生業とする集落であったと考えられる。

平安時代後期～鎌倉時代（第30図）

旧河道の埋没による地形の平坦化がほぼ完了し、微高地上が再び居住域として利用される。この時期の遺構はＢ地区で１棟の掘立柱建物と溝・落ち込み、Ｃ地区で24棟の掘立柱建物や木棺墓、Ｄ地区で１棟の掘立柱建物、Ｅ地区で４棟の掘立柱建物と２基の木棺墓、Ｆ地区で４棟の掘立柱建物を調査している。Ｃ地区の建物は３グループにわけられるが、北端及び中央の建物群はさらに東側に延びる可能性が高い。主屋と思われる比較的大きな建物や屋敷墓と思われる木棺墓があるので、在地領主クラスの有力者の屋敷地であった可能性が考えられる。

中世～現代

明確な遺構が調査区内で確認できるのは平安時代後期までであり、中世以降は現代に至るまで基本的に水田として利用されており、それに伴う水路等の痕跡が残っている。

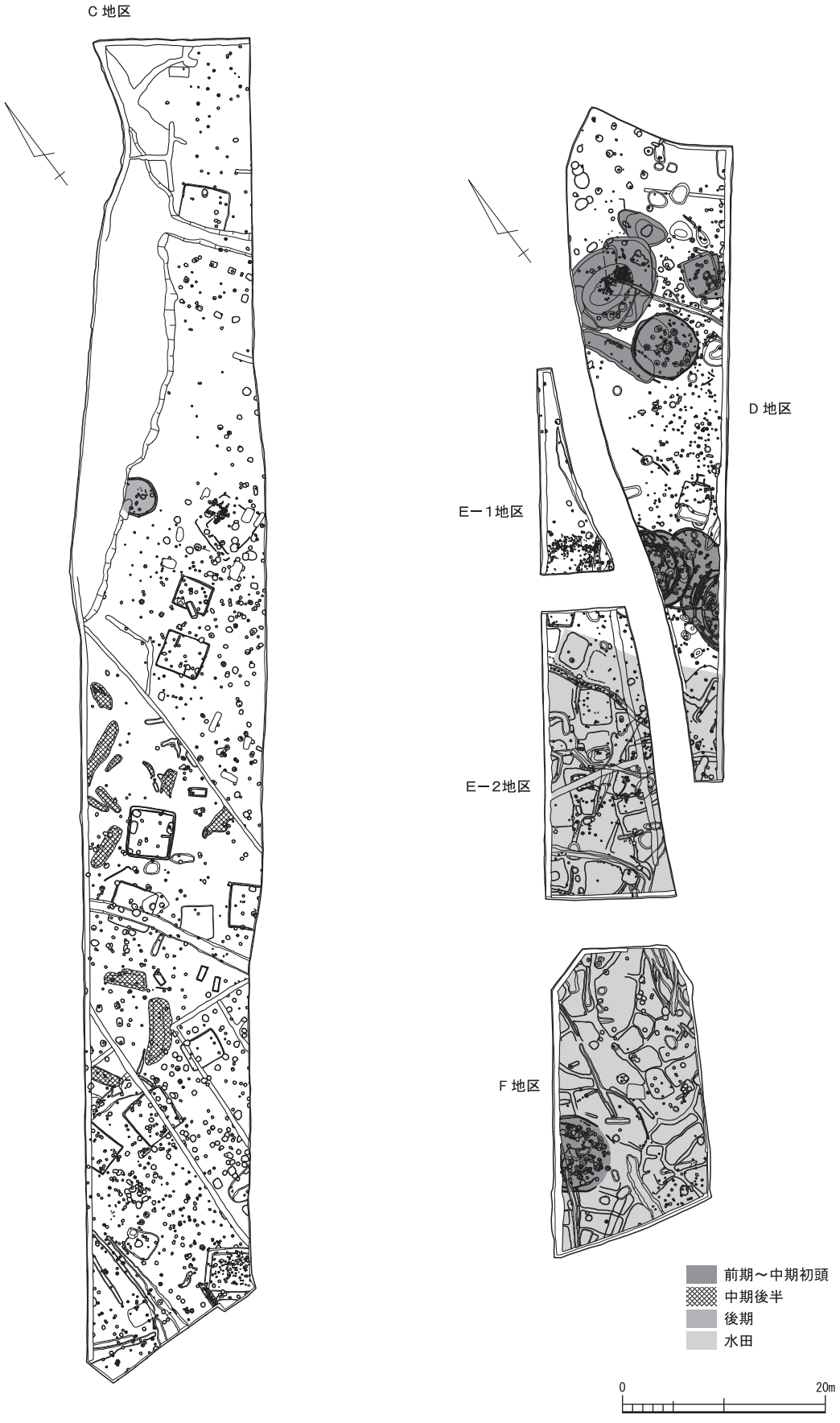
第２節　遺構について

１　竪穴住居

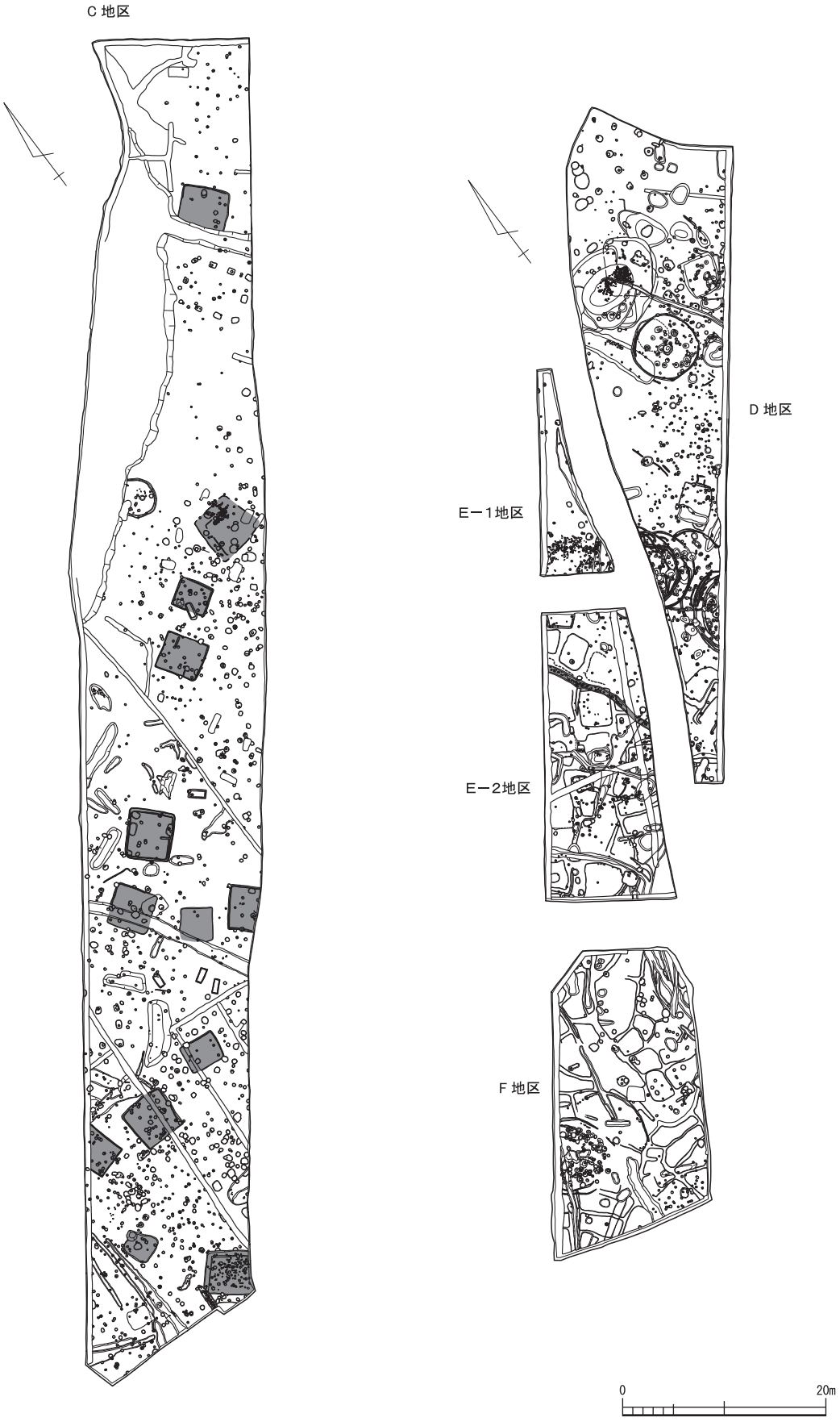
今回の調査で弥生時代の竪穴住居を31棟（建替も１棟とする）、古墳時代の竪穴住居を13棟調査した。それぞれについて所見をまとめておく。

弥生時代の竪穴住居は後期の１棟（Ｄ地区SH1002）を除き、前期末～中期初頭のものである。平面形は円形と方形のものがあるが、方形のもの（Ｄ地区SH1002～1004）は小型で主柱穴は明確ではなく、通常の竪穴住居とは上屋構造が異なる可能性がある。他はいずれも円形の竪穴住居であり、主柱数は４本～10本であり、規模に比例して本数が増加する。いずれも遺構の重なりが著しく、同一場所で繰り返し建替が行われている。床面積は7㎡～50㎡（平均30㎡）であり、面積が推定できるもの（18棟）では20～30㎡のものが最も多く、40～50㎡のものがそれに次ぐ（第31図）。

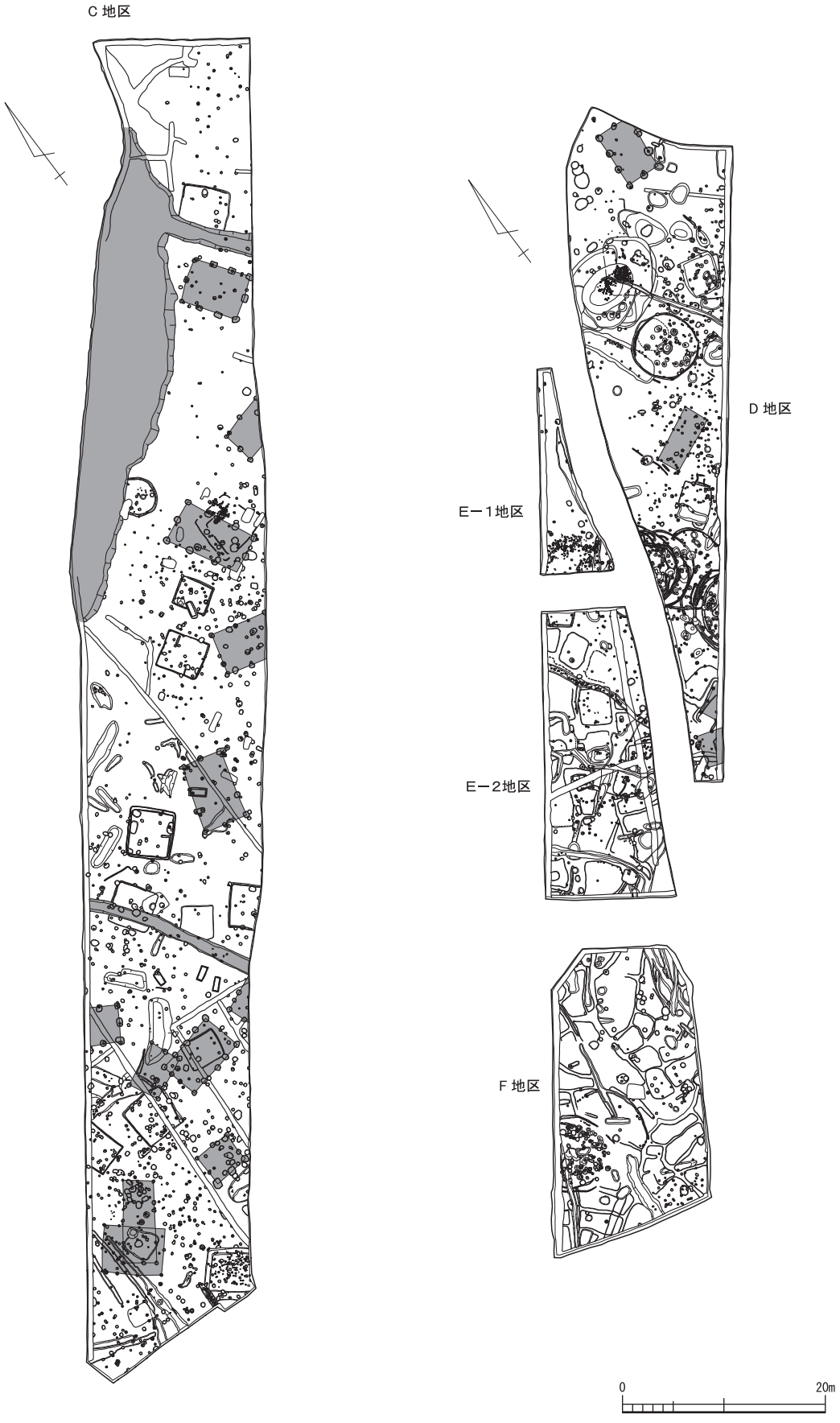
特筆されるのは中央土坑の両脇に柱穴が位置する「松菊里型住居」の存在である。Ｄ地区SH1001（古）、SH1013、SH1014、SH1015の４棟がこのタイプである。このタイプの住居は前期から中期にかけて見られ、朝鮮半島から北部九州を経由して各地に伝わったものとされている。県内では神戸市大開遺跡や南あわじ市九蔵遺跡で例があるが、類例の少ないものである。今回九蔵遺跡に続き同じ地域の井手田遺跡でも確認されたが、北淡路や播磨では確認されていないこと、紀伊水道の対岸になる和歌山県内では御坊市堅田遺跡・海南市溝ノ口遺跡などで弥生時代前期の松菊里型住居が確認されていること、出土土器に紀伊型甕など結晶片岩を含む紀北産土器がみられることを考え合わせると、この地域における松菊里型住居の存在は紀北を含む紀伊水道沿岸地域との関係の中で理解すべきものであると考え



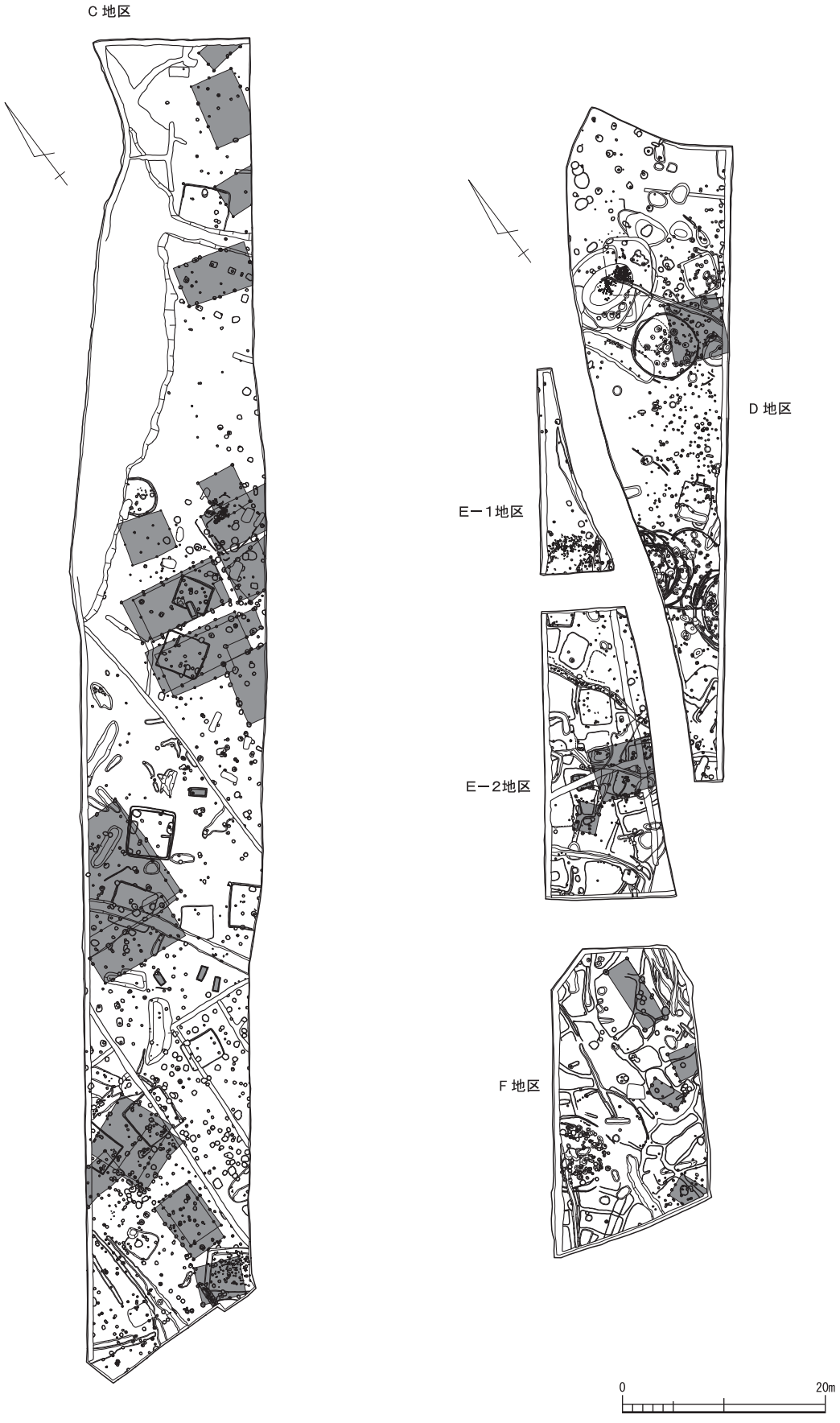
第27図　井手田遺跡の遺構の変遷1（弥生時代）



第28図　井手田遺跡の遺構の変遷2（古墳時代）



第29図　井手田遺跡の遺構の変遷3（奈良時代）



第30図　井手田遺跡の遺構の変遷4（平安時代後期～鎌倉時代）

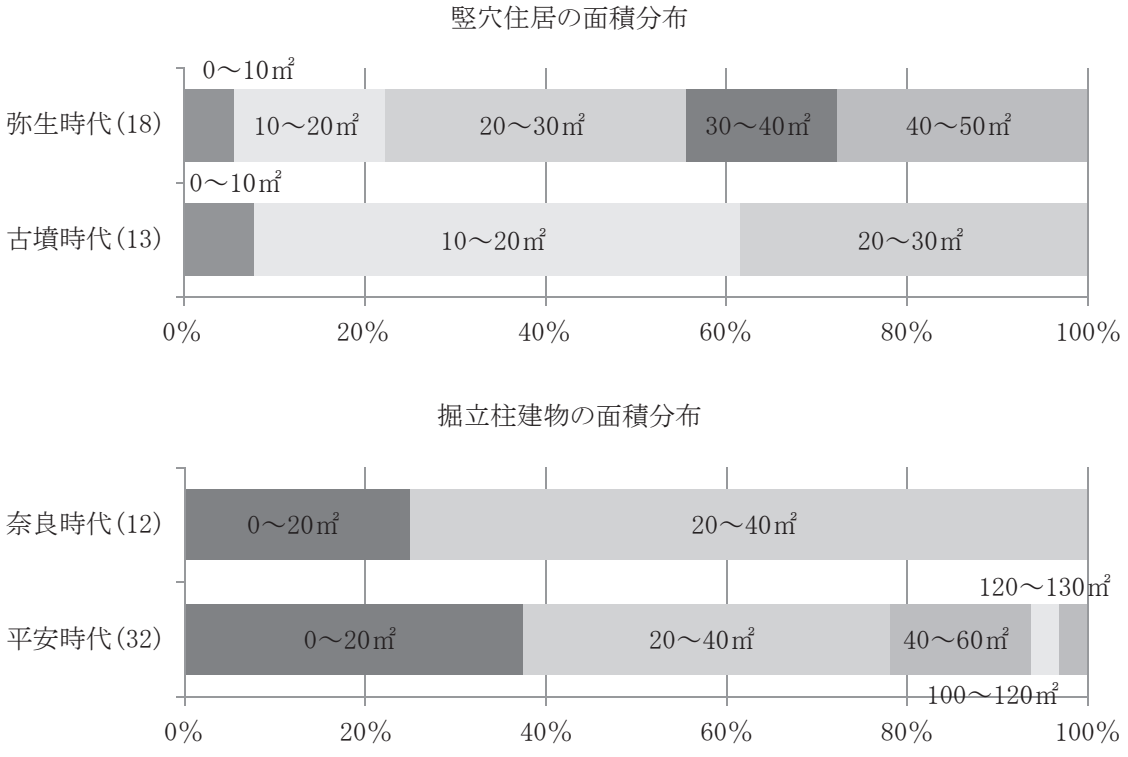
られよう。

古墳時代の竪穴住居は全て５世紀代のカマドが出現する以前のものである。平面形は全て方形であり、床面積は8㎡～26㎡（平均17㎡）である。10～20㎡のものが最も多く、20～30㎡のものがこれに次ぐ（第31図）。屋内土坑は辺の中央に位置するものが多いが、コーナーに位置するものも少数ある。地床炉など明確な炉を持つものはほとんどなく、床面に焼土が見られるものが若干存在する。間仕切り溝を持つものは少なく、全体に屋内の区画施設は乏しい。

２　方形周溝墓

Ｃ地区で５基の方形周溝墓を調査しており（以下 周溝墓○と略す）、いずれも弥生時代中期後半のものである。周溝の深さは周溝墓１が26～34㎝、周溝墓２が15～32㎝、周溝墓３が45～52㎝、周溝墓４が30㎝、周溝墓７が13～55㎝と周溝墓３を除いては浅く、また埋葬施設や盛土も残存していないので、かなり削平を受けていることがうかがえる。四隅が切れているのは、南あわじ市幡多遺跡や阿波地域の方形周溝墓と共通する特徴であるが、削平のため掘削の浅いコーナー部分が失われ深い部分のみが残った結果であるのか、造営時に陸橋状に隅が切れていたかどうかは判断が難しい。

各周溝墓は周溝を共有することなく独立している。隣接する南あわじ市調査区で調査された方形周溝墓と合わせて見てみると、周溝墓１・周溝墓３・周溝墓６（南あわじ市調査）は周溝幅の広い比較的大きな周溝墓であり、北側の旧河道に近い場所にある周溝墓２や周溝墓５（南あわじ市調査）は周溝幅の狭い規模の小さな周溝墓である。両者の先後関係については、出土土器から見ると貼付突帯のある周溝墓１・３の出土土器が、凹線文のみの周溝墓２・７出土土器よりも古い様相を示しており、群形成の順序としては前者がまず造られ、その間を埋めるように後者が造られた可能性が高いと考えられる。



第31図　竪穴住居・掘立柱建物の面積分布

3　掘立柱建物

C地区、D地区、E地区、F地区で奈良時代から平安時代後期の掘立柱建物を51棟調査している。奈良時代の建物はC地区とD地区にあり、全て側柱建物である。床面積は11㎡～32㎡（平均23㎡）であり、均一性が高い（第31図）。建物は群在しないで間隔をあけて分布しており、方位も不揃いである。D地区SB1004のように正方位を意識しているものは例外であり、古墳時代の竪穴住居の分布状況とよく似た計画性がうかがえない建物配置である。以上の状況から住居として用いられた建物が大半を占めると考える。

平安時代後期の建物はC地区、E地区、F地区にある。総柱のものが大半であり、床面積は4㎡～124㎡（平均30㎡）である。20㎡～40㎡のものが最も多く、20㎡以下のもの、40㎡～60㎡のものという順になる。100㎡を超える大型のものも2棟あり、規模のばらつきは大きい（第31図）。建物はC地区の北部、中央部、南部、E地区、F地区と大きく5カ所に分かれて分布しており、それぞれが個別の屋敷地に対応していると考えられる。その中でもC地区の中央部から南部にかけて最も分布密度が高く、規模の大きな建物が集中している。最も規模の大きなSB0036、SB0037の2棟はほぼ同位置での建替であり、井手田遺跡の中における中心的な建物である。建物の内部ないしは近接地に木棺墓が営まれるものが多数あり、これらは屋敷墓である可能性が高い。

第3節　遺物について

1　弥生時代前期～中期初頭の土器について

検討の方法

井手田遺跡では住居跡、土坑などの遺構から弥生時代前期後葉～中期初頭の土器が多く出土している。遺構の切り合いなどからこれらの土器にはある程度の時期幅があることが想定される。ただし各遺構から出土している土器のうち図化可能なものは多くなく、全形のわかる資料も限られている。このため良好な一括出土の資料を基にした検討には限界があるため、代表的な器種の構成に基づき大まかな段階区分をおこない、各段階の位置づけをおこなうことにする。

器種分類

検討対象とするのは広口壺、甕、鉢とする。広口壺は施文方法に基づき、ヘラ描沈線のもの、櫛描文のもの、貼付突帯のものの3種に分類する。甕はまず外反口縁甕、逆L字口縁甕、紀伊型甕の3種に分類し、外反口縁甕・逆L字口縁甕については施文方法に基づき、ヘラ描沈線少条（3条以下）、ヘラ描沈線多条（4条以上）、櫛描文の3種に細分する。鉢についても施文方法に基づきヘラ描沈線少条（3条以下）、ヘラ描沈線多条（4条以上）、櫛描文の3種に分類する。

段階区分

第12表は各遺構から出土した土器を分類し整理したものである。各器種の存否や組み合わせをもとに第1段階から第5段階までの5段階に区分した。段階区分の目安は、①逆L字形口縁甕の有無、②櫛描文の有無である。第1段階は櫛描文、逆L字口縁甕が存在しない段階であり、ヘラ描沈線は3条以下の少条に限られる。第2段階は櫛描文はまだ存在しないが、逆L字形口縁甕が出現している段階である。この段階になってヘラ描沈線が4条以上の多条のものが現れる。第3段階は櫛描文が存在するものであり、この段階から紀伊型甕が現れる。この段階は櫛描文を施す器種によりさらに3段階に区分でき

る可能性がある。３－１段階は壺に櫛描文が施される段階、３－２段階は外反口縁甕に櫛描文が施される段階、３－３段階が逆Ｌ字口縁甕に櫛描文が施される段階である。ただし３－２・３段階についてはこの段階に属する遺構数が少ないため、段階として設定できるものかどうかは不確かである。

各段階の位置づけ

第１段階から第３段階への変化の中で最も大きな変化は櫛描文が出現する第２段階から第３段階である。櫛描文の出現をもって弥生時代中期の始まりとするならば、第３段階が弥生時代中期初頭にあたる。第１段階は前期後葉、第２段階は前期末となろう。

淡路島内で比較できる土器編年がないため、隣接地の東播磨、阿波、紀伊の３地域と比較してみる。まず東播磨（篠宮2007）では櫛描文とＬ字口縁甕の出現がともにⅡ期からとなっており、井手田１段階がⅠ期（前期）、２段階以降がⅡ期（中期前葉）に相当する。ただし井手田遺跡では逆Ｌ字口縁甕と櫛描文の出現に段階差があると考えるので、東播磨の編年と完全に一致するわけではない。阿波（菅原・瀧山2000）では逆Ｌ字口縁甕の出現がⅠ－４様式、櫛描文の「確立」がⅡ様式とされており、井手田２段階がⅠ－４様式、３段階がⅡ様式に相当する。阿波では紀伊型がⅠ－４様式から出現していること、逆Ｌ字口縁甕出現以前からヘラ描沈線が多条化しているなど細かな違いは存在する。紀伊（土井1989）では櫛描文の「採用」以降をⅡ様式としており、井手田３段階がⅡ様式、井手田１・２段階がⅠ－３様式に相当する。紀伊ではⅠ－２様式に出現した紀伊型甕がⅡ－１様式で最も多量となるが、井手田遺跡でこの時期に相当する第３段階から紀伊型甕が出現するのと対応している。

第12表　遺構出土土器の器種構成

	遺構名	壺			甕							鉢			段階
		広口壺			外反口縁			逆L字口縁			紀伊型				
		ヘラ描沈線	櫛描文	三角形突帯	ヘラ描沈線少条	ヘラ描沈線多条	櫛描文	ヘラ描沈線少条	ヘラ描沈線多条	櫛描文		ヘラ描沈線少条	ヘラ描沈線多条	櫛描文	
D区	SH1021	○		○	○										1段階
D区	SH1005	○													
D区	SK1014	○													
E区	SD2026	○			○										
D区	SK1021				○										
C区	P1094				○										
D区	SH1002					○			○						2段階
D区	SK1017	○			○				○						
D区	SH1003								○				○		
D区	SH1015								○						
D区	SK1020					○			○						
D区	SK1001	○	○			○			○		○				3-1段階
D区	SK1003	○	○		○						○				
D区	SK1011	○	○												
D区	SH1004	○	○	○	○	○			○			○	○		
D区	D区包含層	○	○	○	○	○			無文			○			
D区	SH1001	○	○		○	○	○	○	○				○		3-2段階
D区	SX1004	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
D区	SX1011	○		○	○	○	○	○	○		○		○		
D区	SX1010	○			○		○		○	○					3-3段階
D区	SX1005	○	○	○	○	○			○	○			○	○	
D区	SX1006	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	

【参考文献】

篠宮正2007「東播磨地域における弥生土器編年」『弥生土器集成と編年－播磨編－』大手前大学史学研究所

菅原康夫・瀧山雄一2000「阿波地域」『弥生土器の様式と編年　四国編』木耳社

土井孝之1989「紀伊地域」『弥生土器の様式と編年　近畿編Ⅰ』木耳社

2　土器の胎土分析結果について

弥生時代～古墳時代の土器22点について胎土分析を実施した（第５章第２節参照）。特徴的な土器を抽出して分析しているため、統計的なデータを提示できないが、井手田遺跡における土器の素材土の特色をうかがうことはできる。

古墳時代の土器（土師器）６点の内訳は、Ｆタイプ２点、Ｃタイプ１点、Ｋタイプ２点、Ａタイプ１点であり、Ａ・Ｆ・Ｋは井手田遺跡周辺の土を素材とした可能性が考えられるので、大半の土器は遺跡周辺で製作された可能性が高いと推定できる。Ｃタイプの１点は壺であり、淡路中北部ないしは島外からの搬入品の可能性が考えられる。

弥生時代の土器16点の内訳は、Ａタイプ２点、Ｂタイプ１点、Ｃタイプ１点、Ｅタイプ４点、Ｋタイプ８点である。Ａ・Ｋタイプは井手田遺跡周辺で製作された可能性が高いと推定できる。特筆されるのは変成岩を含むＥタイプであり、三波川帯の分布する紀ノ川流域の堆積物を素材とした可能性が指摘されている。分析した紀伊型甕が２点ともにＥタイプであることから、紀北地域からの搬入土器が一定量存在することが明らかになった。

3　奈良時代～平安時代の土器

奈良時代の土器では製塩土器の存在が注意されるが、海岸部にある九蔵遺跡のような生産遺跡での出土数量と比較するとわずかな量である。製塩炉は検出されていないので、海岸部の遺跡からの搬入品である可能性が高い。またＣ地区の旧河道から把手付中空円面硯が出土しており、識字層の存在を伺わせるが、墨書土器は出土していない。また瓦がわずかに出土していることも特筆される。出土量や出土遺構から判断すると屋根を葺いたものではなく、別の用途に転用されたものである。南あわじ市調査区（5次）ではこの時期の瓦片が大量に出土しており、近辺に寺院等が存在する可能性も考えられる。

平安時代の土器は黒色土器・瓦器の椀、土師器の小皿・鍋が中心である。須恵器や輸入陶磁器はほとんど出土していない。土器の時期は平安時代後期（11～12世紀）が中心である。

この他に時期の特定は難しいが漁網錘である土錘が少量出土している。内陸部であるので、河川で漁網を使用した漁を行っていた可能性があるだろう。

4　石器

縄文時代～弥生時代の石器の組成は83頁第10図のグラフのとおりである。割合は石核、分割原石、剥片等を除くと、工具（66.0％）、調理具・加工具（19.0％）、狩猟具・武器（10.8％）、農具（2.5％）、祭祀具（1.6％）、漁具（0.1％）の順になる。工具では石斧類は少なく、石錐や楔形石器などの打製の工具が中心である。農具の内、石庖丁は打製9点に対して磨製が6点と打製の方が優位である。調理具・加工具では、磨り石や凹み石等の縄文時代以来の堅果類の調理具の多さが特筆される。弥生時代中期以前、水稲耕作技術がまだ不安定な段階においては、ドングリ等の堅果類の利用が一定程度残ることが明らかになっており（神戸市玉津田中遺跡等）、井手田遺跡においても弥生時代中期初頭の段階ではまだ植物採集が重要な生業であった可能性が高い。また祭祀具の石棒が10点存在することも重要である。縄文時代的な祭祀具が弥生時代前期～中期初頭までは根強く残存していたことをうかがわせる。

また漁具である石錘が１点しか出土しておらず、井手田遺跡において漁労の占める位置は低かったことをうかがわせる。

第４節　総括

井手田遺跡は淡路島の南端に位置する弥生時代から平安・鎌倉時代に至る集落遺跡であり、長期間にわたり断続的に人間の活動が行われたことが今回の調査で明らかになった。兵庫県教育委員会による今回の調査後に隣接地等で実施された南あわじ市教育委員会の調査成果も参考にしながら、成果と今後の課題についてまとめておく。

井手田遺跡は埋没が進みつつある沖積低地を開発し、水田を営むための拠点として形成された農耕集落として弥生時代前期に始まる。弥生時代前期～中期の土器の中に紀北地域の土器や四国の土器が含まれること、紀北地域に類例が多い松菊里型住居が見られることから、その形成にあたっては紀北をはじめとした紀伊水道沿岸地域の人々が深く関与している可能性が高い。瀬戸内海・播磨灘・大阪湾を通じた稲作伝播とは異なる経路での弥生文化の到来経路が想定され、淡路島南部地域における弥生時代開始の契機を知る上で重要な知見を得られたと言えよう。

今回の調査区内では弥生時代中期～後期の集落の情報は断片的にしか得られなかったが、規模の変動はあるものの弥生時代を通じて集落は継続している可能性が高い。弥生時代中期は南淡路では松帆銅鐸や古津路銅剣に代表される青銅器の埋納が盛んに行われた時期であり、弥生時代後期は北淡路で鉄器生産が始まる時期である。今後周辺の調査が進んで集落の全容が解明され、淡路地域における様々な事象との関連性が明らかになることを期待したい。

古墳時代になると低地の埋没がさらに進み、集落の規模は拡大する。古墳時代前期の遺構は今回の調査区では確認できなかったが、南あわじ市調査Ｂ地区（3次）では旧河道から前期の土器とともに管玉・ガラス玉・臼玉等が出土しており、集落が継続していたことがうかがわれる。古墳時代中期の南あわじ市木戸原遺跡で滑石製模造品や鉄鏃などヤマト政権との関わりの深さを伺わせる遺物が出土しており、井手田遺跡における集落の成長も畿内との関わりを深める淡路島古墳時代社会の動向と連動している可能性が考えられよう。周辺の集落や古墳の動向についての情報が乏しいため深い考察をできる段階ではないが、今回の調査成果は今後古墳時代の淡路地域の歴史を考える上で重要な資料となるであろう。

古墳時代後期から飛鳥時代にかけては遺構・遺物とも希薄であるため、集落の様相は詳らかではないが、奈良時代に入ると再び集落の規模が拡大する。阿万地区では九蔵遺跡で製塩が活発に行われ、平城京出土木簡がこの地域から都への物資の供給が盛んに行われたことをうかがわせる。遺構・遺物の様相から井手田遺跡は基本的には農耕集落であったと思われるが、南あわじ市調査区A-7区（3次）では倉の可能性がある総柱の掘立柱建物が調査されており、御食国・淡路の生産活動を支える集落のひとつであったことは確かであろう。また南あわじ市調査区（5次）では奈良時代～平安時代の瓦が大量に出土しており、周辺に寺院等の施設の存在が考えられている。海浜生産集落である九蔵遺跡と本遺跡との関係や、集落と寺院等の施設の関係については今後検討を深める必要がある。

そして平安時代後期～鎌倉時代には荘園開発の拠点として開発領主の屋敷が営まれる。この時期の阿万地区は阿万荘という荘園となっており、貞応2年（1223年）の淡路国大田文に得長寿院・八幡宮領として「阿万庄」がある。具体的な開発過程を知り得ないが、平安時代後期に屋敷地の形成が開始されており、この時期に塩屋川下流域の開発が始まったことを物語る。荘園開発の開始時期や拠点の様相を知る上で重要な知見を得ることができた。

これに続く時期の遺構は今回の調査区内では確認されていないが、南あわじ市調査Ｅ地区（4次調

査）では室町時代（14世紀後半～15世紀前半）の掘立柱建物が8棟調査されており、集落の中心が現在の阿万地区の中心地に移り現代まで継続していく状況が推定されている。

以上のように今回の井手田遺跡の調査では、弥生時代から鎌倉時代に至る地域の歴史を知るための様々な発見があった。地理的には兵庫県の縁辺部にある遺跡であるが、南は紀伊水道を介して四国・紀伊半島とつながり、北は南海道を通じて近畿地方とつながるという重要な場所に立地している。今回の調査成果は淡路地域にととまらず周辺地域の歴史理解のための貴重な資料となり得るものであり、今後様々な形で活用していただければ幸いである。

【参考文献】

南あわじ市教育委員会　2013『平成23年度調査南あわじ市発掘調査速報展』

南あわじ市教育委員会　2012『南あわじ市発掘調査速報展－平成21・22年度調査－』

南あわじ市教育委員会　2014『平成24年度調査南あわじ市発掘調査速報展』

南あわじ市教育委員会　2011『埋蔵文化財調査事務所　20年のあしあと展』

南あわじ市教育委員会　2008『南あわじ市発掘調査速報展－平成17・18年度調査－』

南あわじ市教育委員会　2009『南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅱ　2005年度埋蔵文化財調査』南あわじ市文化財調査報告書第2集

南あわじ市教育委員会　2010『南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅲ　2006年度埋蔵文化財調査』南あわじ市文化財調査報告書第3集

南あわじ市教育委員会　2014『南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅶ　2010年度埋蔵文化財調査』南あわじ市文化財調査報告書第10集

第13表　遺構名対照表

B地区	
新番号	旧番号
SB0050	－
SD0027	SD1
落ち込み	－

C地区	
新番号	旧番号
SB0001	SB01
SB0004	－
SB0005	－
SB0006	－
SB0009	－
SB0010	－
SB0016	－
SB0020	－
SB0021	－
SB0022	－
SB0023	－
SB0024	－
SB0025	－
SB0026	－
SB0027	－
SB0028	－
SB0029	－
SB0030	－
SB0031	－
SB0032	－
SB0033	－
SB0034	－
SB0035	－
SB0036	－
SB0037	－

C地区	
新番号	旧番号
SB0038	－
SB0039	－
SB0040	－
SB0041	－
SB0042	－
SB0043	－
SB0044	－
SB0045	－
SB0046	－
SB0047	－
SB0048	－
SB0049	－
SH0001	SH1
SH0002	SH2
SH0003	SH3
SH0004	SH4
SH0005	SH5
SH0006	SH06
SH0007	SH7
SH0008	SH8
SH0009	SH9
SH0010	SH10
SH0011	SH11
SH0012	SH12
SH0013	SH13
SH0015	SH13
SK0002	SK2
SK0003	SK3
SK0004	SK04(P882)
SK0005	－
SX0001	集石1

C地区	
新番号	旧番号
SX0002	SX2
SX0003	SX3
SX0004	SX4
SX0005	SX5
SX0006	SX6
方形周溝墓1 SD0003	SD3
方形周溝墓1 SD0005	SD5
方形周溝墓2 SD0007	SD7
方形周溝墓2 SD0008	SD8
方形周溝墓3 SD0014	SD14
方形周溝墓3 SD0015	SD15
方形周溝墓4 SD0004	SD4
方形周溝墓4 SD0006	SD6
方形周溝墓4 SD0013	SD13
方形周溝墓7 SD0012	SD12
方形周溝墓7 SK0001	SK1
SD0001	SD1
SD0002	SD1
SD0009	SD9
SD0010	SD10
SD0017	SD17
SD0018	SD18
SD0019	SD19
SD0020	SD20
SD0021	SD-21
SD0022	SD22
SD0023	SD23
SD0024	SD24
SD0025	SD25
SD0026	SD26

D地区	
新番号	旧番号
SB1001	SB1
SB1002	SB2
SB1003	SB3
SB1004	SB1004
SB1005	SB4
SH1001	SH1001
SH1002	SH1011
SH1003	SH1010
SH1004	SH1004
SH1005	SH1005
SH1006-1	SH1006/P1108
SH1006-2	SH1006/P1110/P1038
SH1007	SH1007/P1039/SK1002
SH1008	P1089/P1058
SH1009	P1051/P1086
SH1010	P1092/SK1050
SH1011	E-1地区SD2031
SH1012	−
SH1013	SK1003(南)
SH1014	P1066/1067
SH1015	P1065/SK1034/P1097
SH1016	−
SH1017	P1093/SK1016
SH1018	P1063/P1101/P1059
SH1019	P2003/P1052/SK1051
SH1021	−
SH1022	SH1022
SK1001	SK1001
SK1002	SX1001
SK1003	SK1003(北端)
SK1004	SK1004
SK1005	SK1005
SK1009	SK1009
SK1010	SK1010
SK1011	SK1011
SK1013	SK1013
SK1014	SK1014
SK1015	SK1015
SK1016	SK1016
SK1017	SK1017
SK1019	SK1019
SK1020	SK1020
SK1021	SK1021
SK1022	SK1022
SK1023	SK1023
SK1024	SK1024
SK1025	SK1025
SK1026	SK1026
SK1027	SK1027
SK1030	SK30
SK1032	SK1032
SK1033	SK1033
SK1040	SK1040
SK1041	SK1041
SK1042	SK1042
SK1043	SK1043
SK1044	SK1044
SK1053	SK1053
SK1054	SK1054/1055
SK1056	SK1056
SX1001	SX1006
SX1002	SX1003
SX1003	−
SX1004	−
SX1005	SH1015
SX1006	SH1016

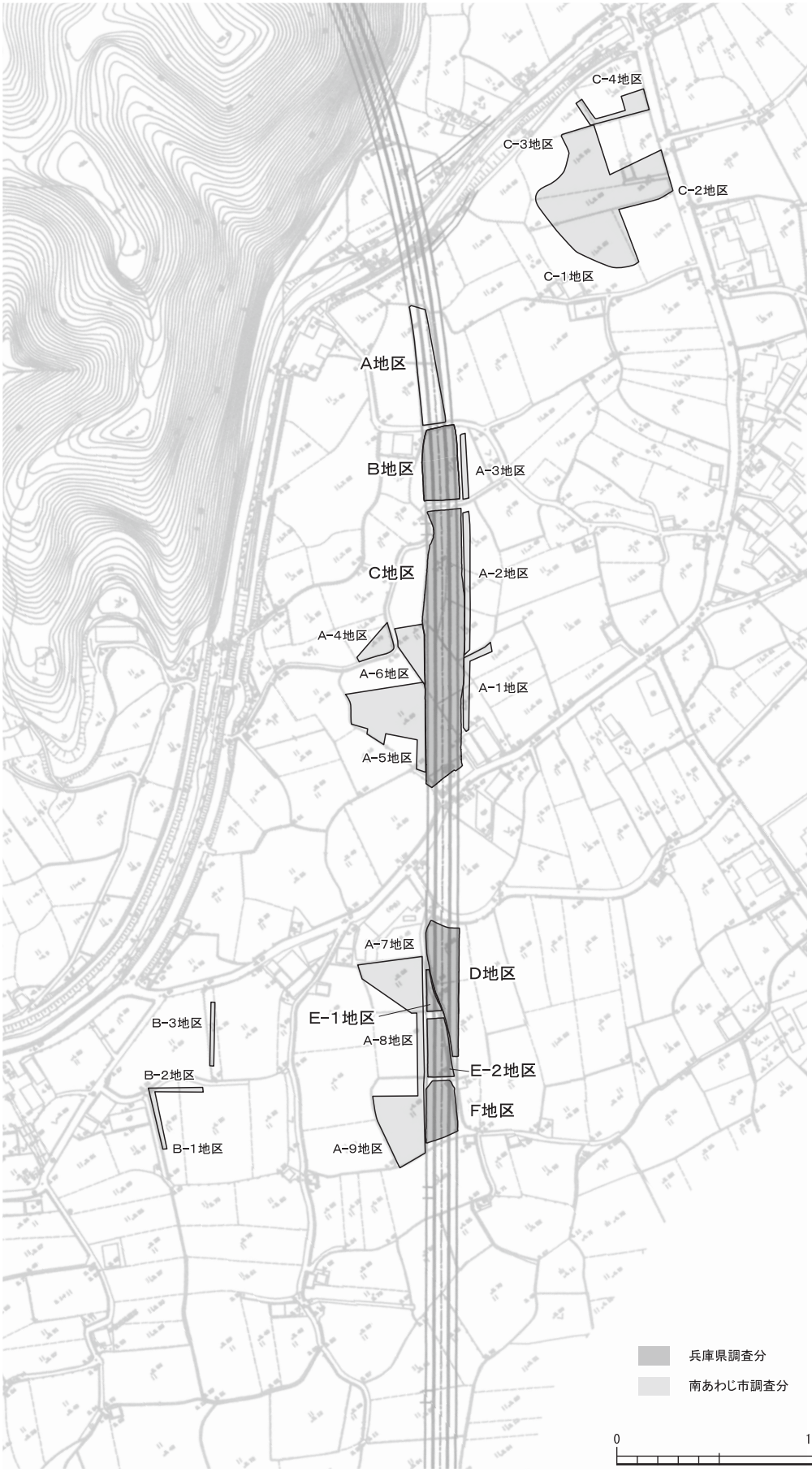
D地区	
新番号	旧番号
SX1007	SH1017
SX1008	−
SX1009	SH1019
SX1010	SH1020
SX1011	SX1002/SD23
SX1012	SH1012
SD1001	SD1001
SD1002	SD1002
SD1003	SD1003
SD1004	SD1005
SD1005	SK1032

E-1地区	
新番号	旧番号
SB2011	SB01
SK2021	SK01
SK2022	SK02
SD2028	SD02
SD2030	SD01
SD2031(C地区SH1011)	SD03

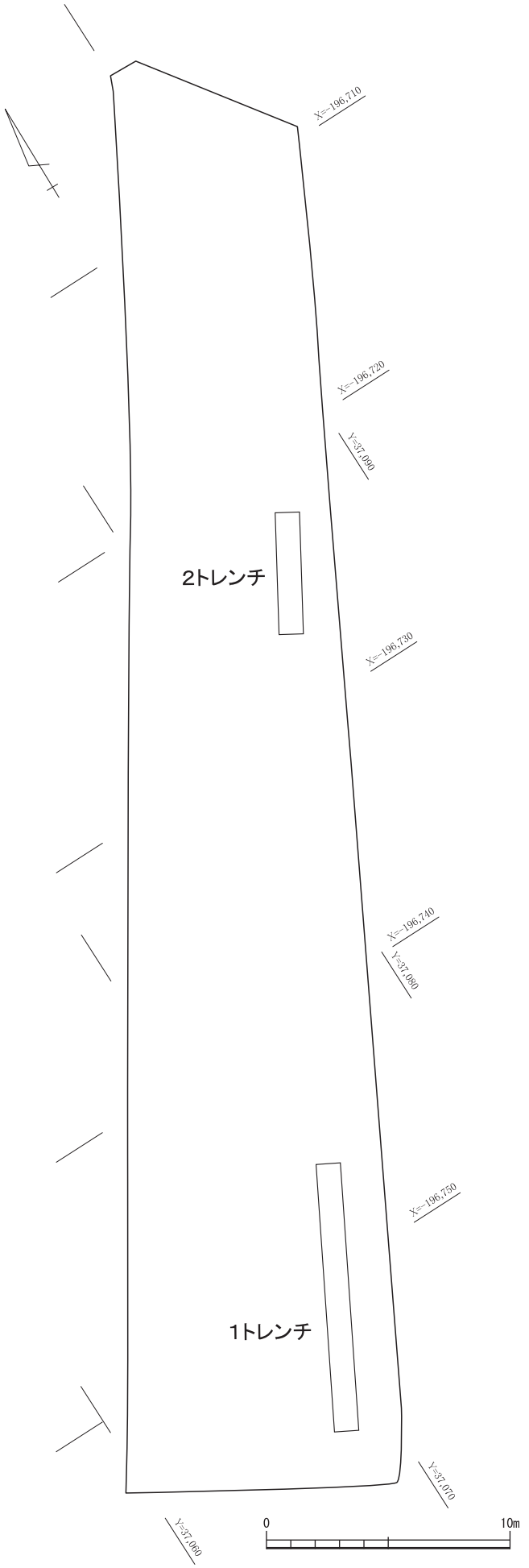
E-2地区	
新番号	旧番号
SB2012	SB02
SB2013	SB03
SB2014	SB04
SK2011	SK11
SK2012	SK12
SK2013	SK13
SK2014	SK14
SK2016	SK16
SK2017	SK17
SK2018	SK18
SK2019	SK19
SK2020	SK20
SK2023	SK23
SK2025	SK25
SK2026	SK22
SK2027	SK27
SK2029	SK29
SK2030	SX17
SK2031	SK31
SK2032	SX16
SK2033	SX14
SK2034	SX12
SK2035	SX11
SK2036	SE11
SK2037(SB2014)	−
SK26	SK26
SX2001	SX15
SX2002	SX13
SD2013	SD13
SD2014	SD14
SD2015	SD15
SD2016	SD12
SD2017	SD17
SD2018	SD18
SD2019	SD19
SD2020	SD20
SD2021	SD21
SD2022	SD22
SD2023	SD23
SD2024	SD24
SD2025	SD25
SD2026	SD11
SD2027	−

F地区	
新番号	旧番号
SB2001	SB01
SB2002	SB02
SB2003	SB03
SB2004	−
SH2001	SK6/P10
SH2002	SK7/P9
SH2003	−
SH2004	SK8/P8
SH2005	−
SH2006	P33
SH2007	−
SH2008	−
SK2001	SK1
SK2002	SK2
SK2003	SK3
SK2004	SK4
SK2005	SK5
SK2006	SK19
SK2007	SK15
SK2008	SK16
SK2009	SK13
SK2010	SK14
SD2001	SD1
SD2002	SD2
SD2003	中世
SD2004	SD10
SD2005	SD5
SD2007	SD7
SD2008	SD8
SD2009	SD9
SD2010	SD13
SD2011	SD11
SD2012	SD12

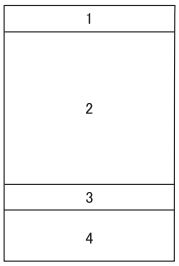
図　　版


C−4地区
C−3地区
C−2地区
C−1地区
A地区
B地区
A−3地区
C地区
A−2地区
A−4地区
A−6地区
A−1地区
A−5地区
A−7地区
D地区
E−1地区
A−8地区
E−2地区
F地区
B−3地区
B−2地区
B−1地区
A−9地区
兵庫県調査分
南あわじ市調査分
0
100m

調査区配置図

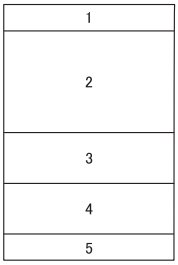


2トレンチ模式図

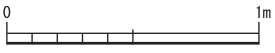


1. 黄色　シルト
2. 暗褐色　砂質シルト
3. 灰褐色　シルト
4. 黄色　礫層

1トレンチ模式図



1. 黄色　シルト
2. 黄色　砂層
3. 黄灰色　シルト
4. 灰黄色　粗砂
5. 黄色　礫層



A地区　トレンチ位置図・断面図

C・D間トレンチ

6.30m

1. (旧耕土) 7.5YR4/1～5/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂
2. (旧床土) 5Y7/2　灰白色　粘質シルト
3. 10YR4/1～3/2　褐灰色～黒褐色　粘質シルト～極細砂
4. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂
5. 10YR5/1　褐灰色　シルト混じり細砂～粗砂
6. N6/　灰色　粗砂混じりシルト～細砂

4m　0

F地区トレンチ

1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト～極細砂
2. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　粘質シルト～極細砂
3. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～極細砂
4. 10YR3/2　黒褐色　粘質シルト～極細砂
5. 10YR3/1　黒褐色　シルト～細砂
6. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂

Aトレンチ

4.70m

表土 / 1 / 5

2　4　6

Bトレンチ

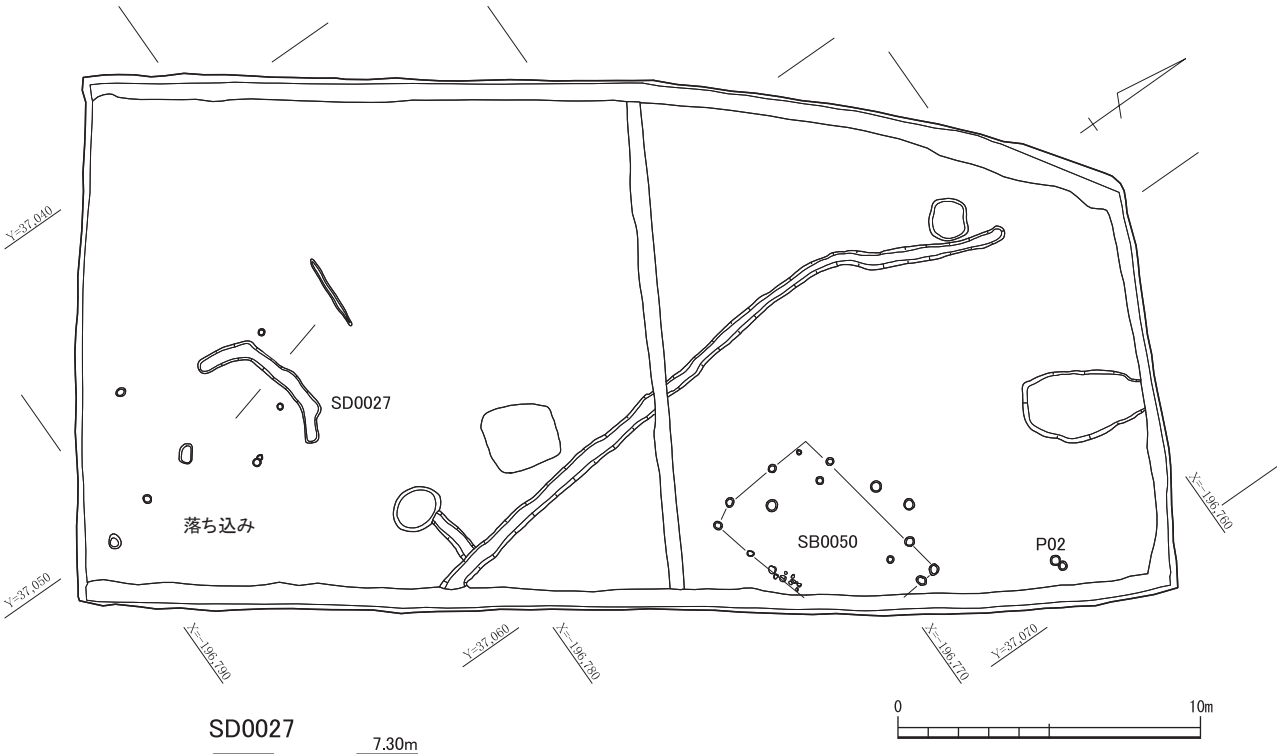
4.70m

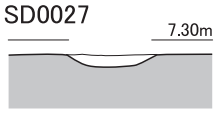
表土 / 2 / 3 / 5

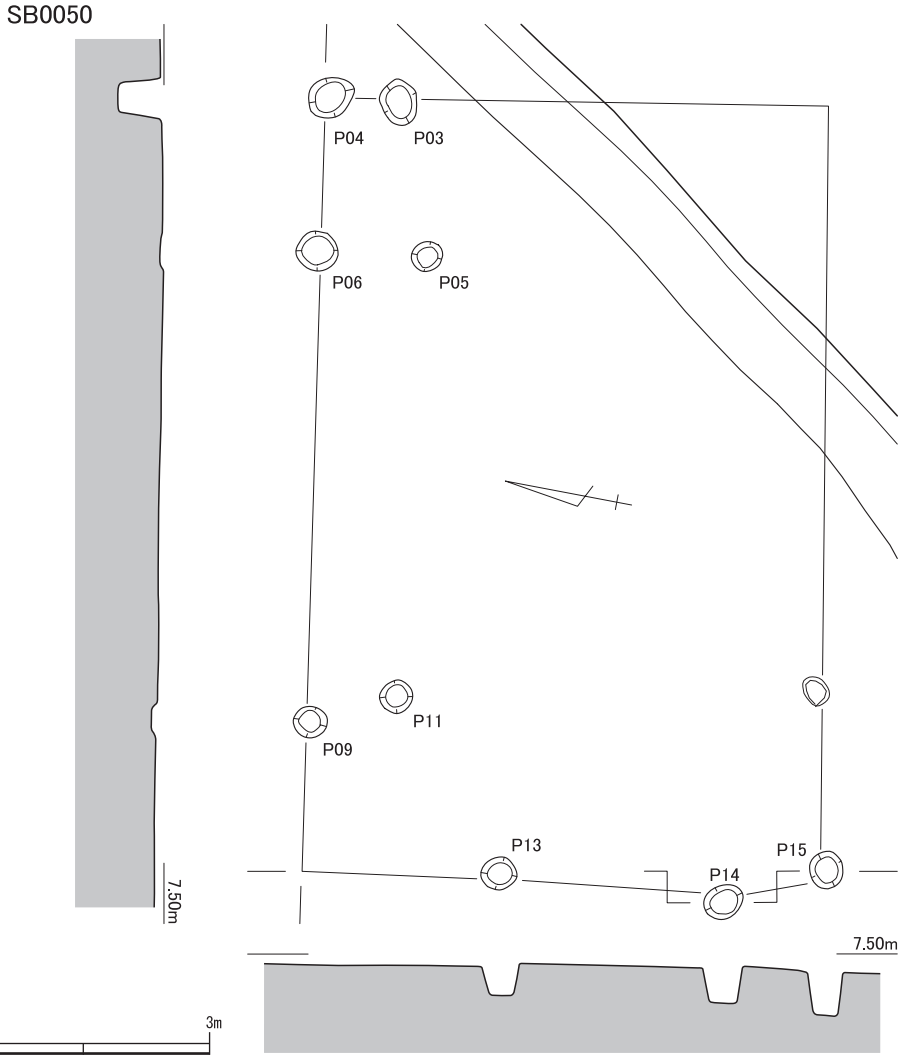
4　6

2m　0

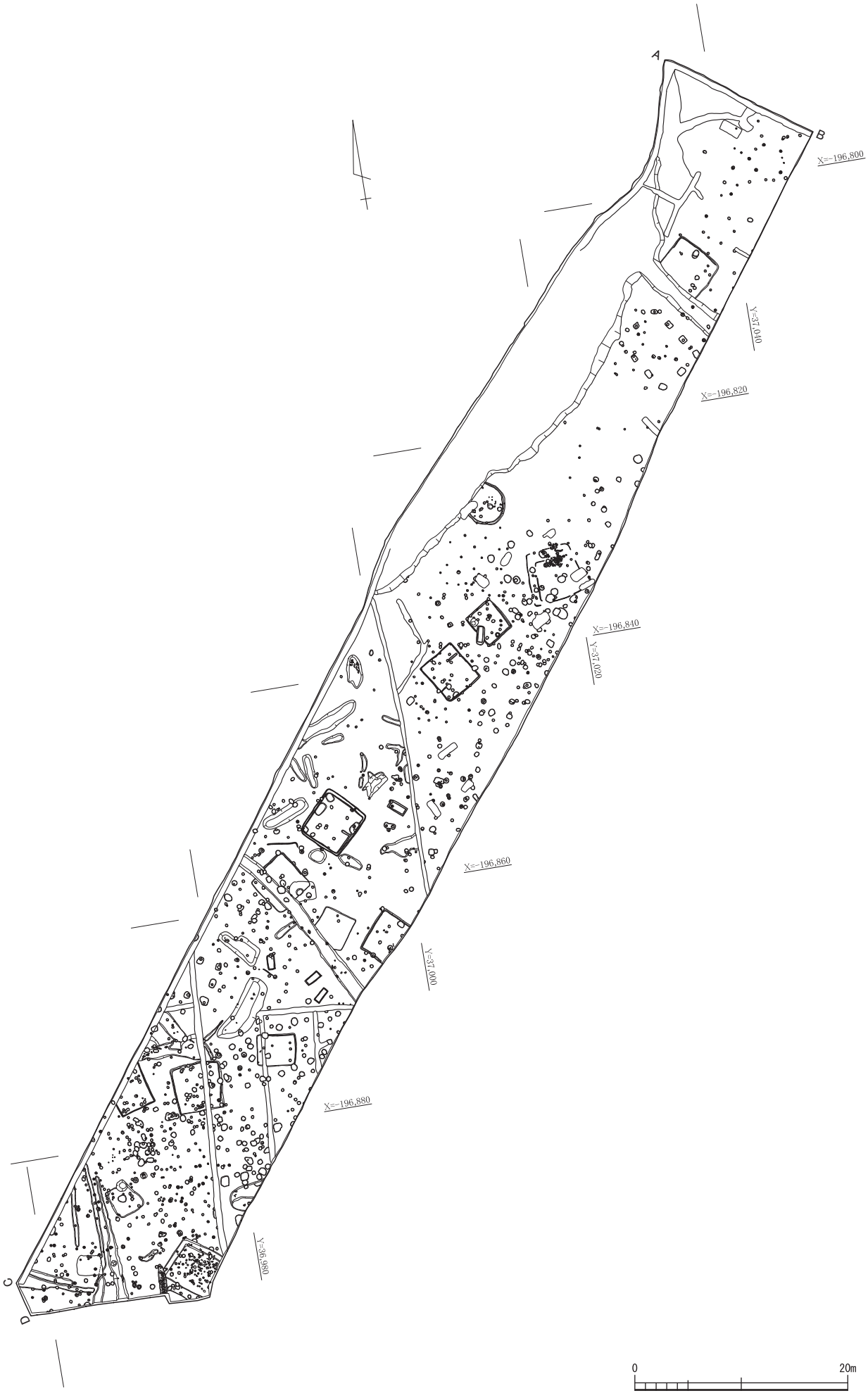
C・D地区間　F地区　トレンチ平面図・断面図







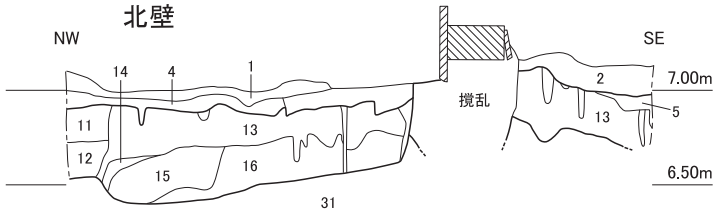
B地区　全体図　溝 SD0027・掘立柱建物跡 SB0050

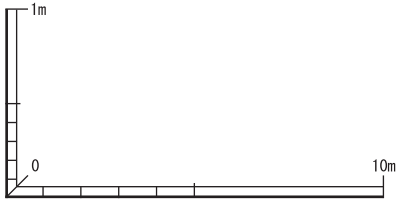

A
B
C
D
X=-196,800
X=-196,820
X=-196,840
X=-196,860
X=-196,880
Y=-37,040
Y=-37,020
Y=-37,000
Y=-36,980
0
20m

C地区　全体図1

C地区　西壁土層断面図

C地区 北壁土層断面図 北壁・西壁土層名



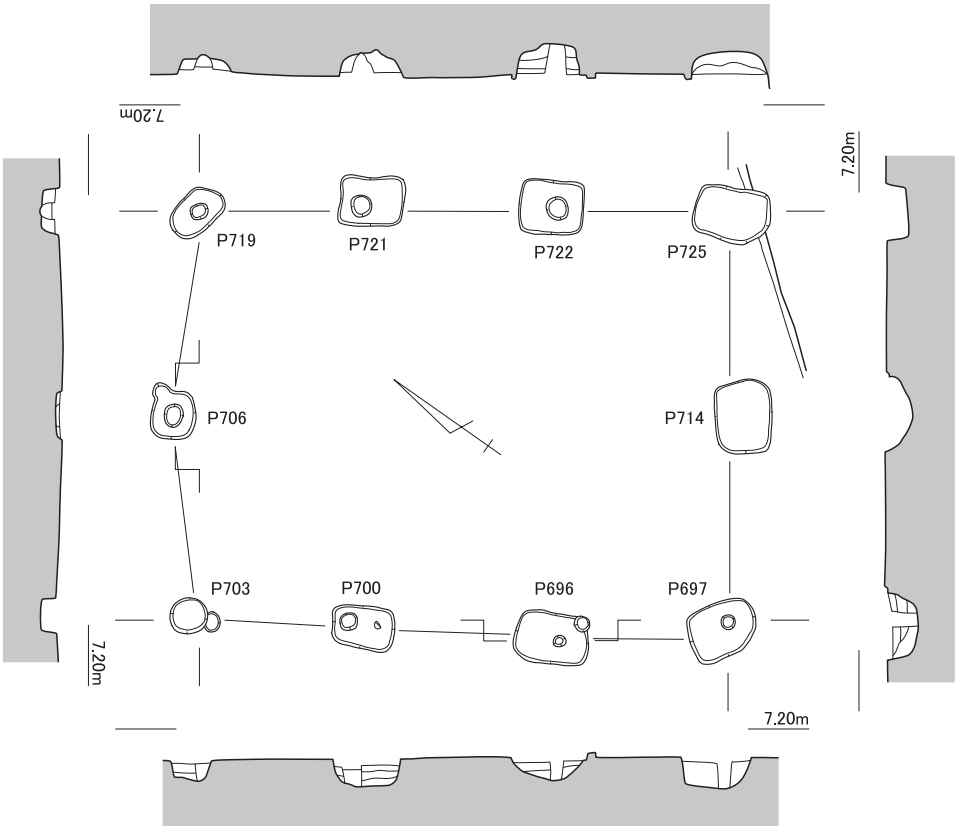


北壁・西壁

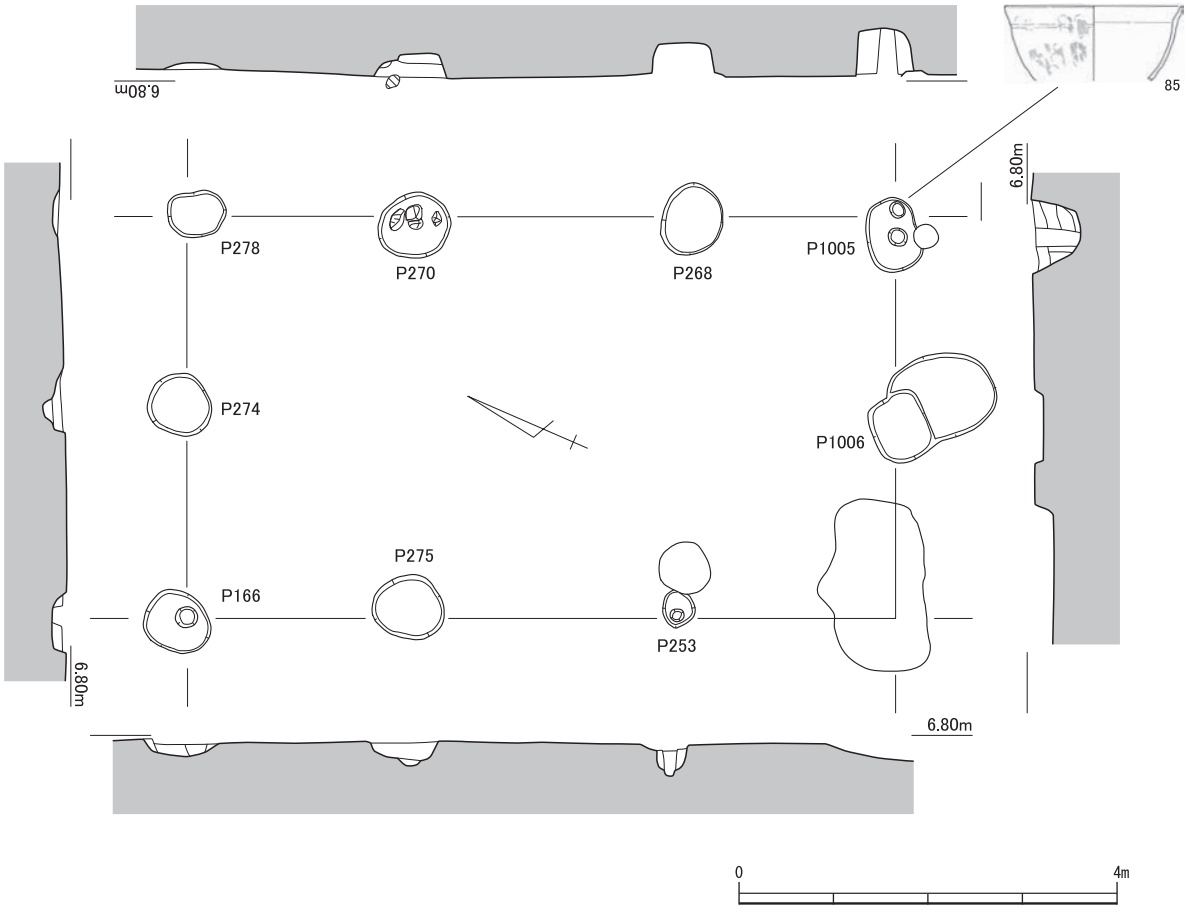
1.	表土			
2.	2.5Y5/2	暗灰黄色	極細砂	マンガン・鉄分を多く 含む 旧耕土
3.	2.5Y4/1	黄灰色	極細砂	旧床土
4.	2.5Y5/3	黄褐色	極細砂～細砂	マンガン・鉄分を多く 含む 旧耕土
5.	2.5Y5/4	黄褐色	極細砂～細砂	マンガン・鉄分を4層よりも 多く 含む 旧床土
6.		灰白色		
7.		淡褐灰色		マンガン・酸化鉄を含む
8.		黄灰色		鉄分を含む
9.		灰色		マンガンを含む
10.	2.5Y4/2	暗灰黄色	極細砂～細砂	マンガンを多く 含む
11.	7.5GY5/1	緑灰色	粘質シルト～極細砂	
12.	5BG4/1	暗青灰色	シルト～極細砂	
13.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質シルト～細砂	マンガンを含む
14.		淡灰褐色		
15.		黄灰褐色		
16.	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質シルト～極細砂	
17.	5Y6/4	オリーブ黄色	シルト～極細砂	
18.	5Y6/2	灰オリーブ色	粘質シルト～極細砂	
19.	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質シルト～極細砂	
20.	N4/0	灰色	粘質シルト	
21.	5PB4/1	暗青灰色	粘質シルト	
22.	SD0026			
23.	SD0025			
24.	SD0024			
25.	SD0023			
26.	P904			
27.	SH0011			
28.	SD0021			
29.		茶褐色		
30.	2.5Y4/1	黄灰色	極細砂～細砂	土壌化層
31.	2.5GY5/1	オリーブ灰色	中礫混じり粘質シルト～極細砂	礫層
32.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質シルト～細砂	マンガンを含む
33.				礫層
34.	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質シルト～極細砂	礫層

C地区　全体図2　掘立柱建物跡

SB0001

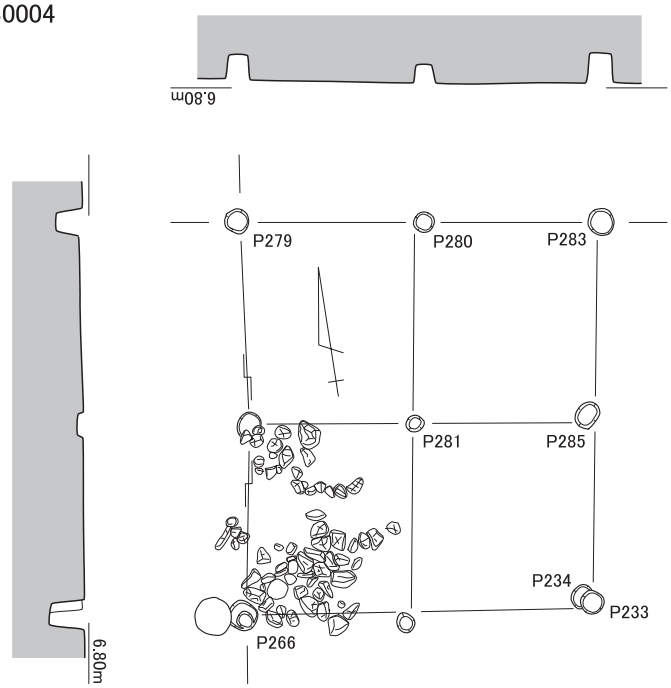


SB0005

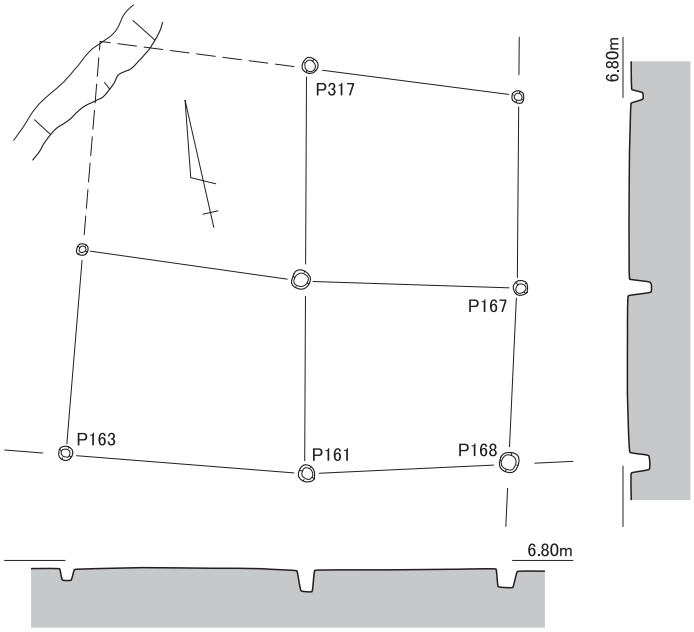


C地区　掘立柱建物跡　SB0001・SB0005

SB0004

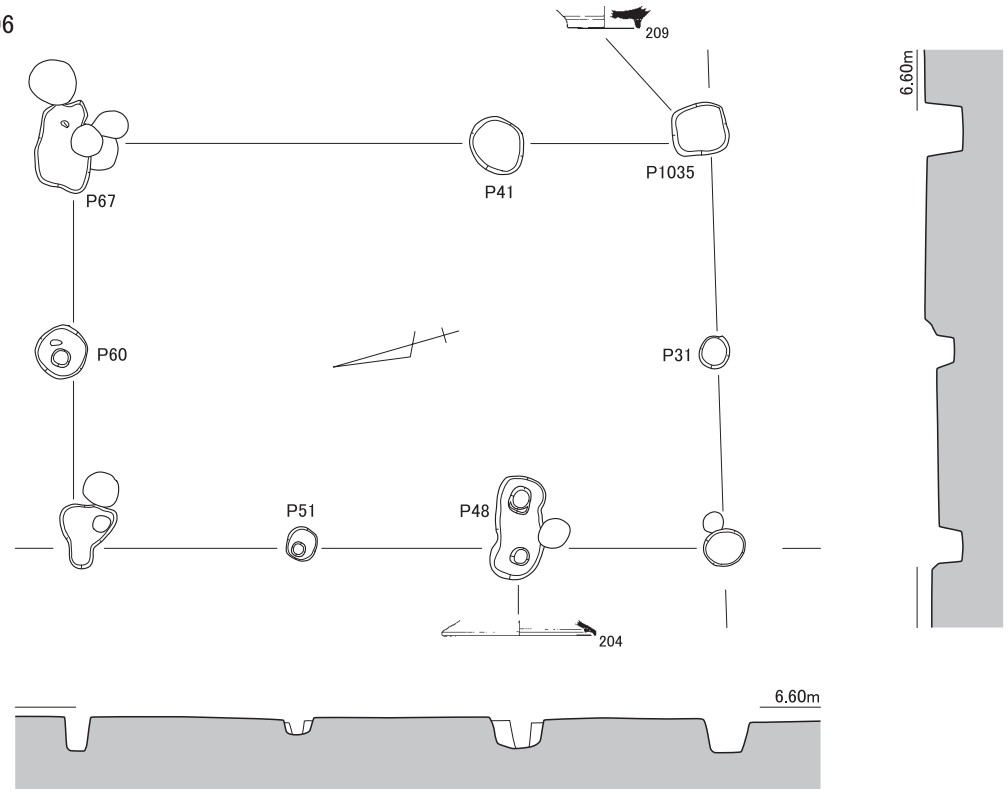


SB0026

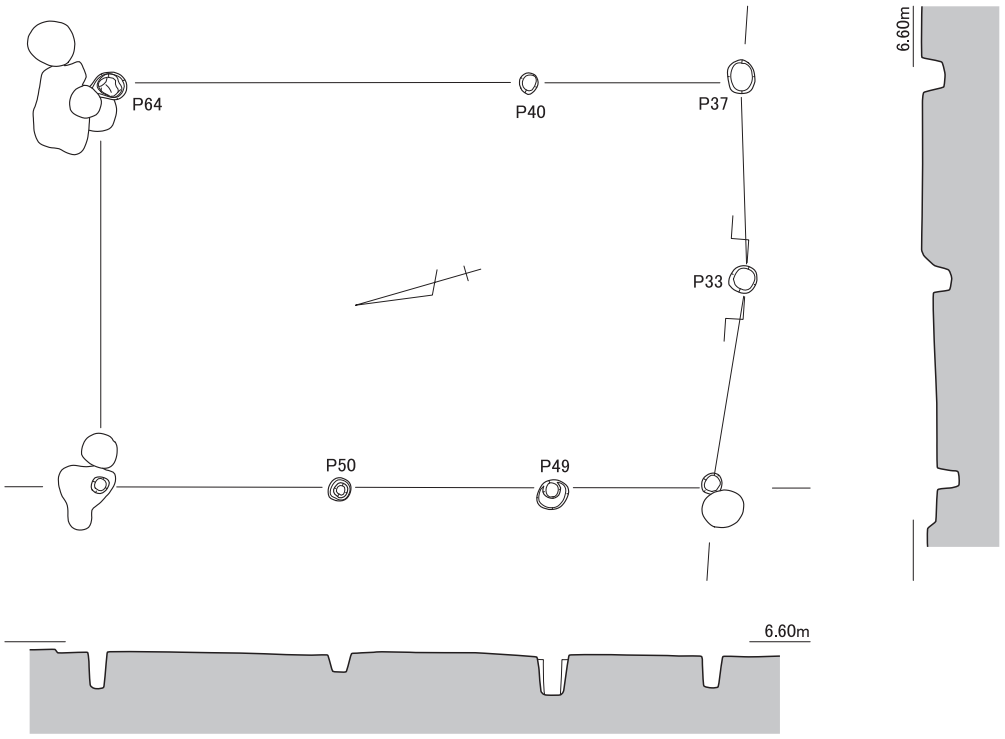


C地区　掘立柱建物跡　SB0004・SB0026

SB0006



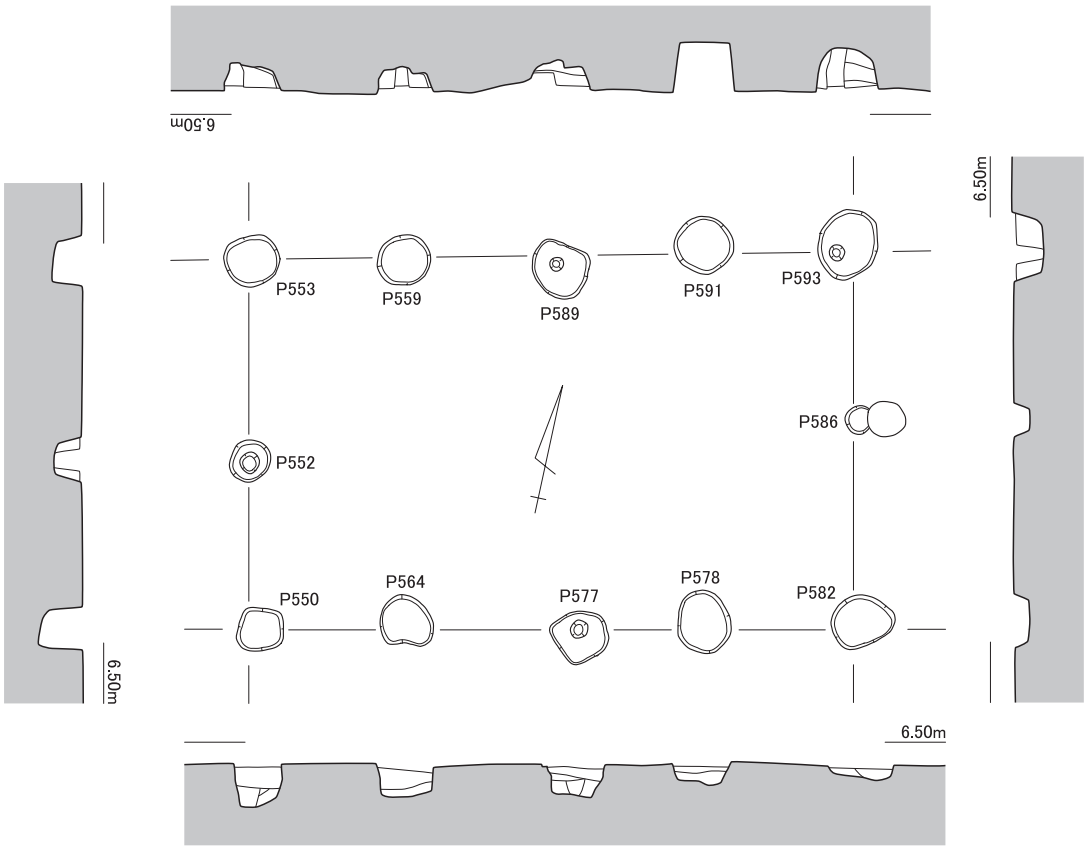
SB0035



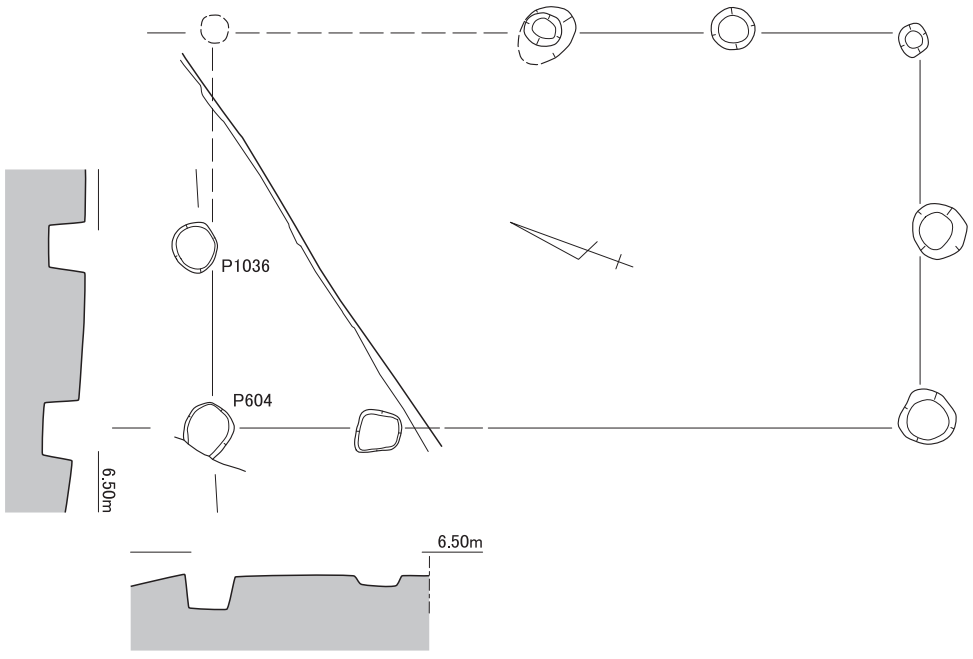
0 4m

C地区　掘立柱建物跡　SB0006・SB0035

SB0009

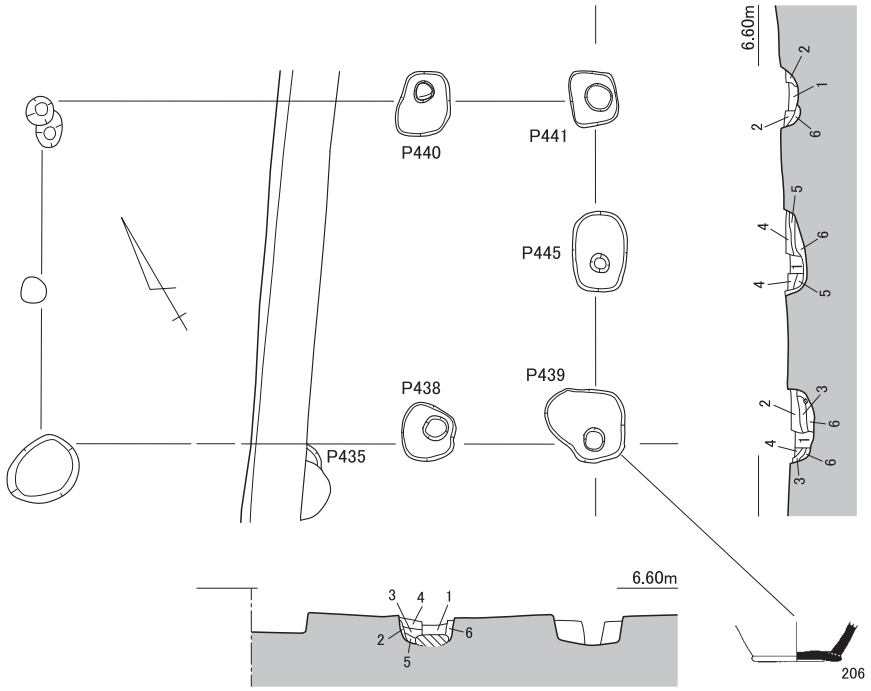


SB0039



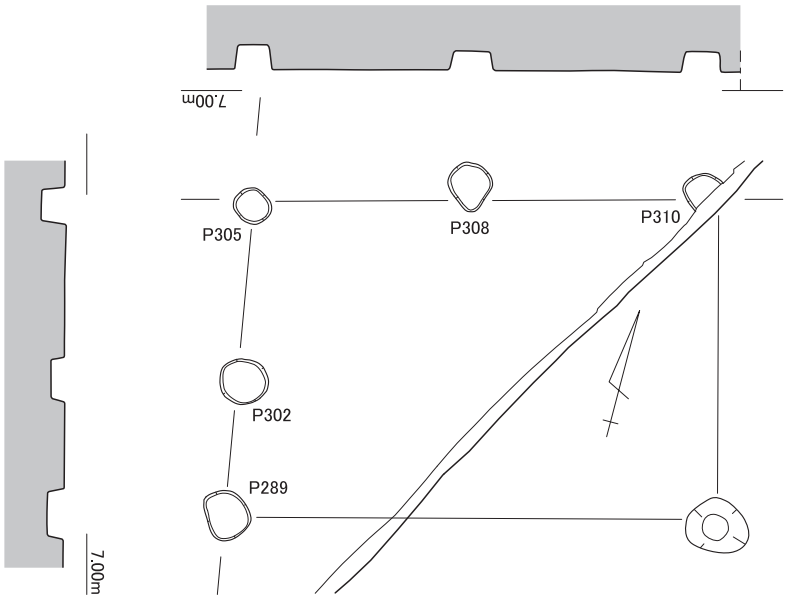
C地区　掘立柱建物跡　SB0009・SB0039

SB0010



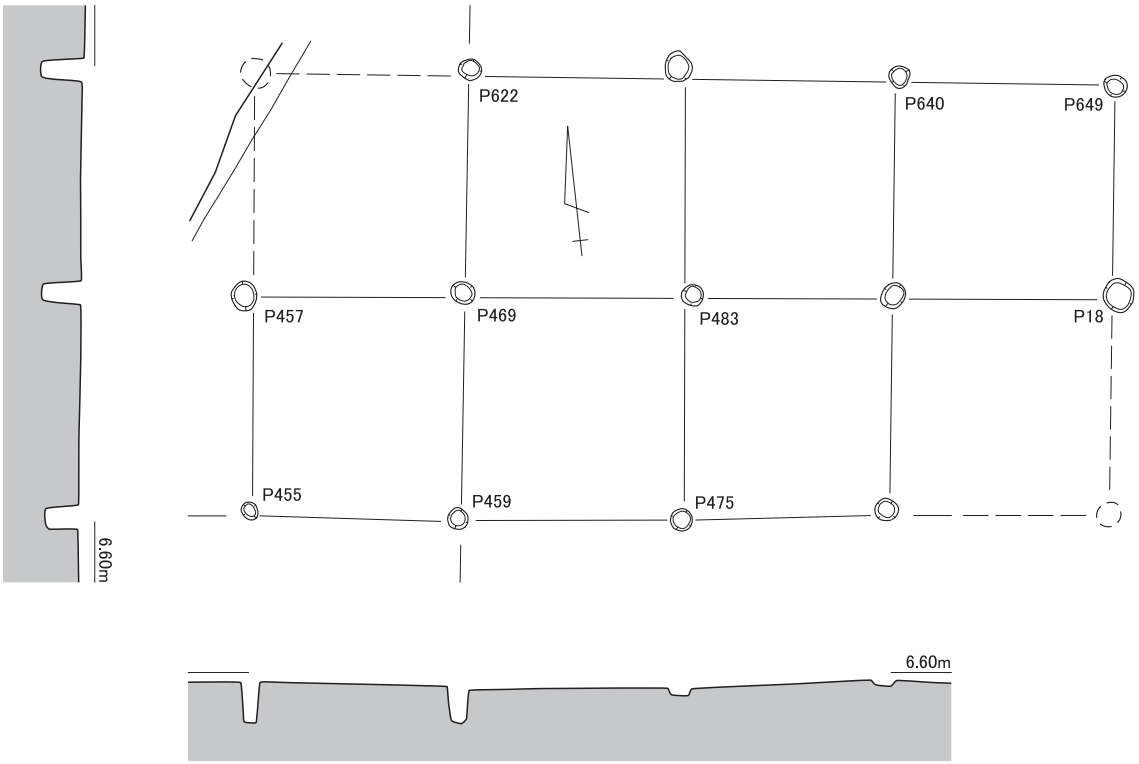
1. 10YR3/1　黒褐色　シルト～細砂　シルト質埴土
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　シルト質埴土　ベース土混じる
3. 2層よりベース土多く混じる
4. 10YR3/1　黒褐色　シルト～細砂　シルト質埴壌土
5. 10YR3/1　黒褐色　シルト～細砂　シルト質埴土
6. 3層に近似　マンガン粒含む

SB0024

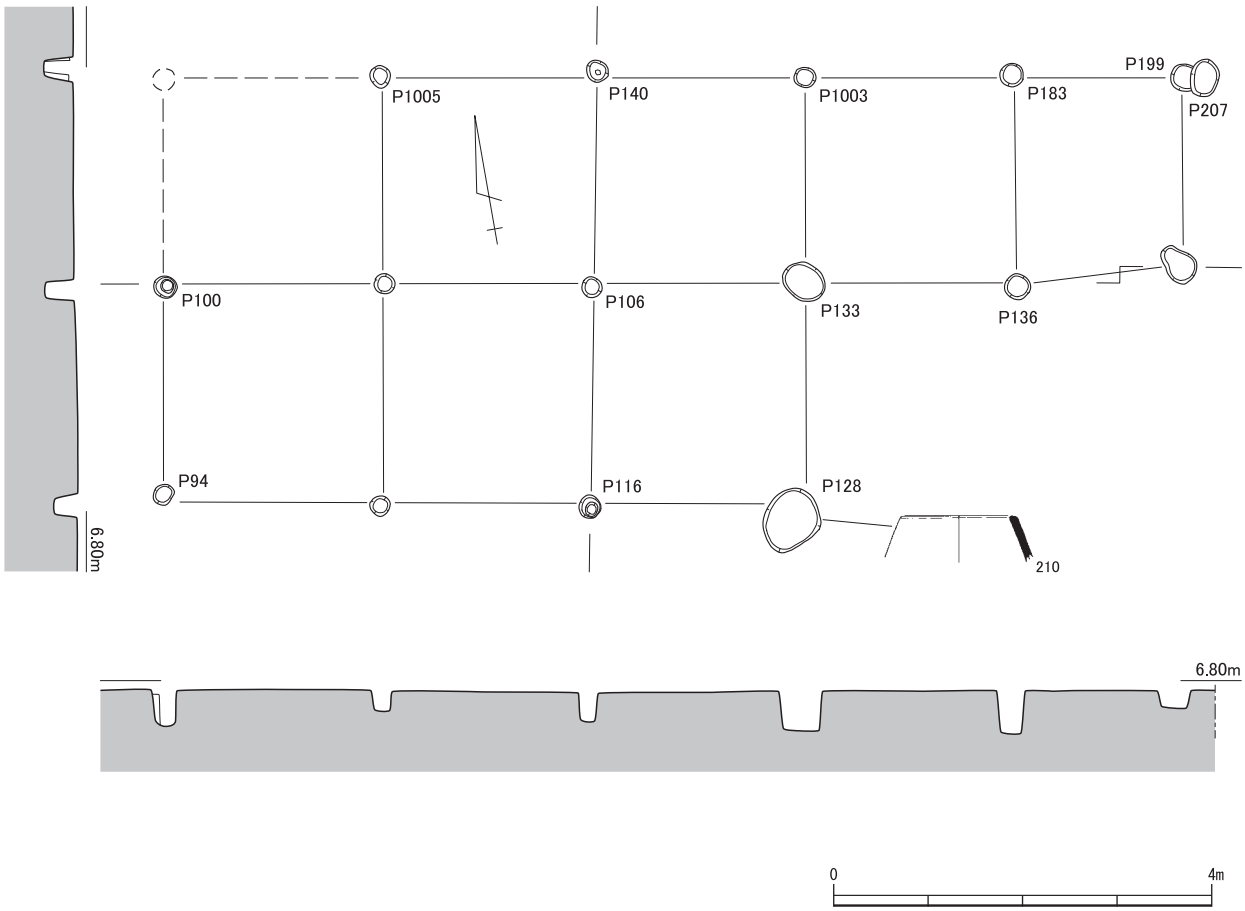


C地区　掘立柱建物跡　SB0010・SB0024

SB0016

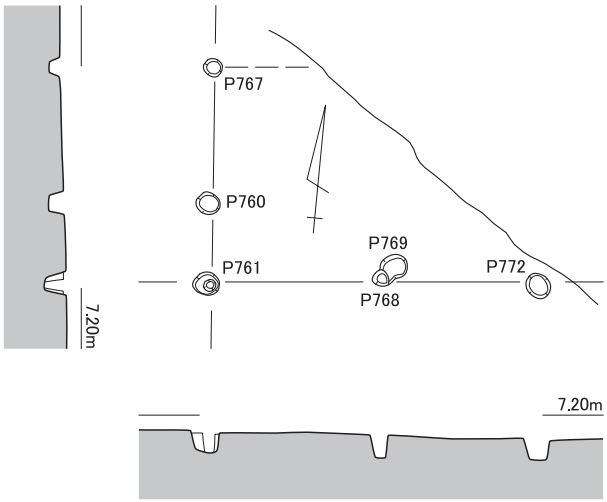


SB0032

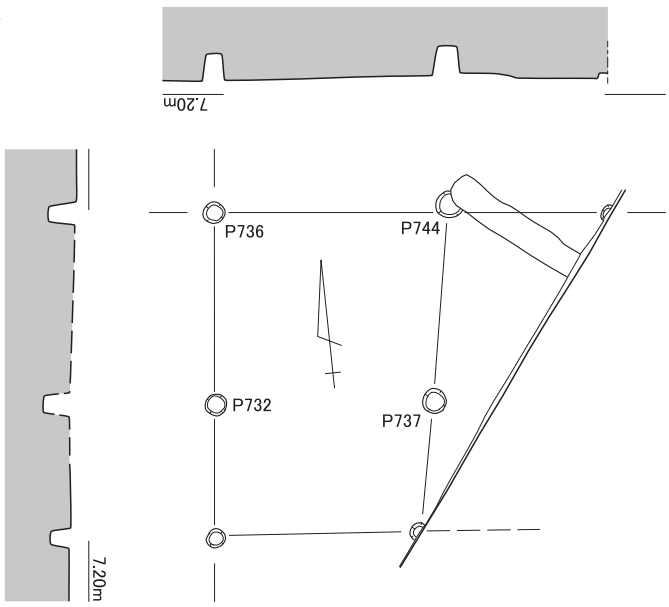


C地区　掘立柱建物跡　SB0016・SB0032

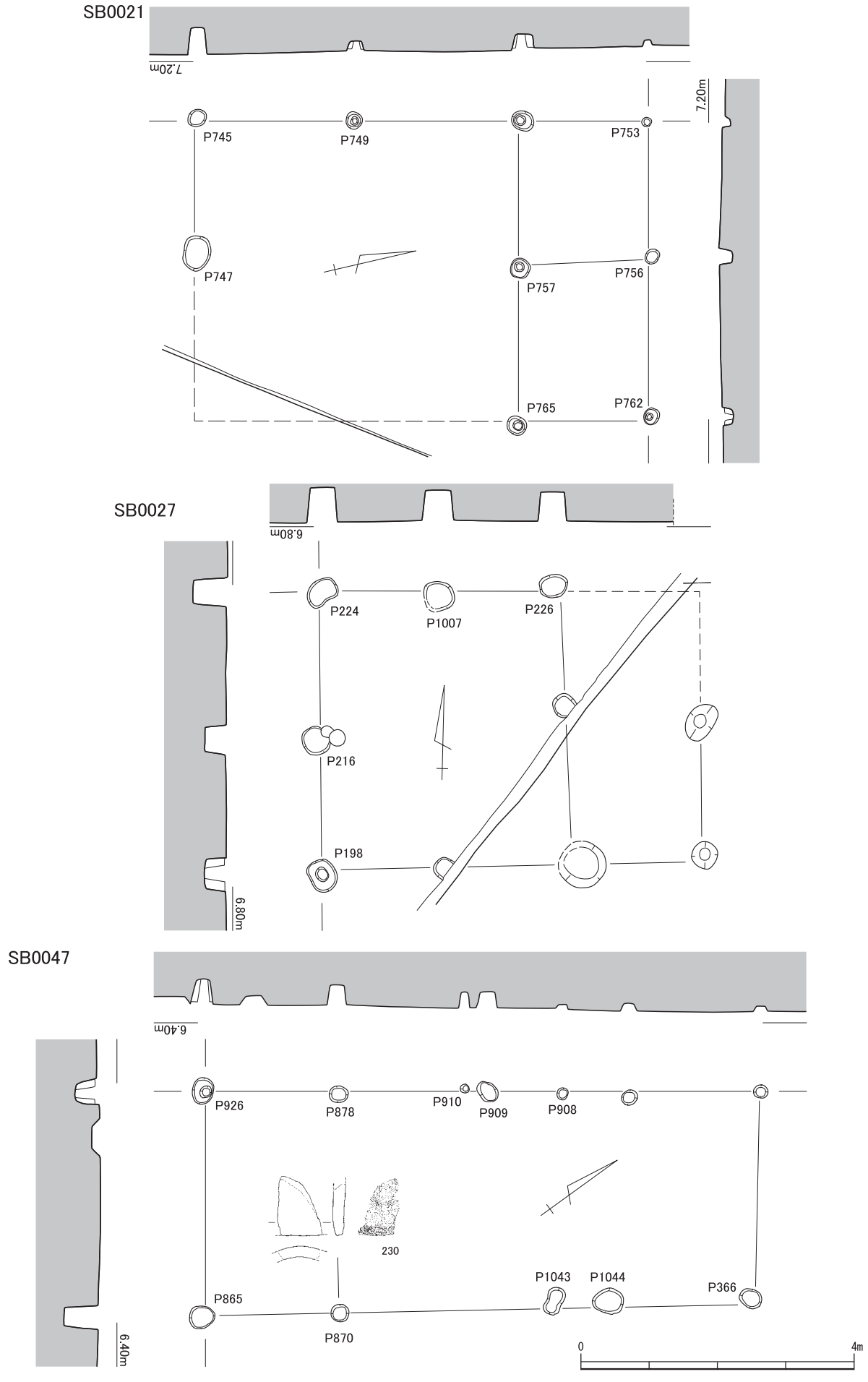
SB0020



SB0022

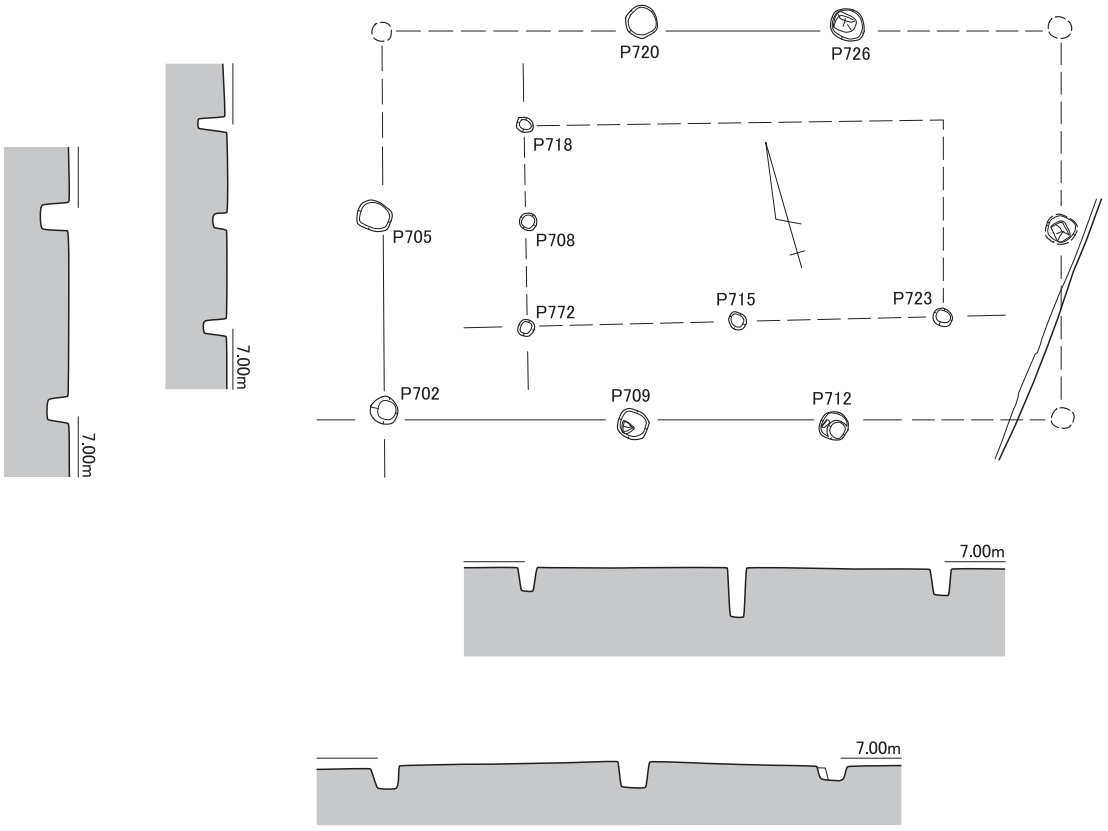


C地区　掘立柱建物跡　SB0020・SB0022

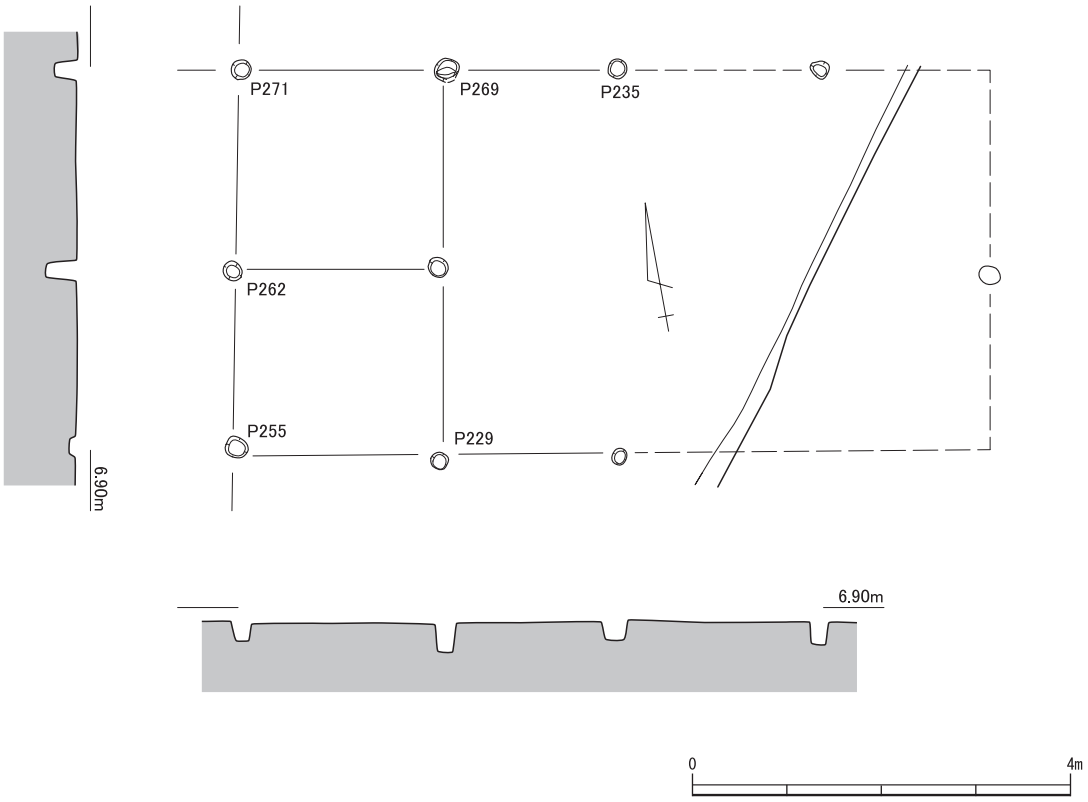


C地区　掘立柱建物跡　SB0021・SB0027・SB0047

SB0023

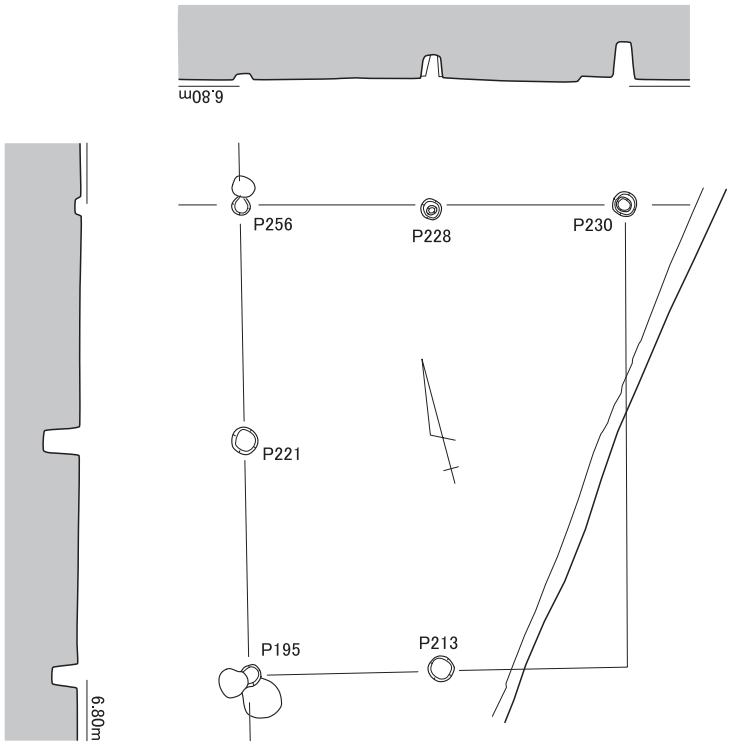


SB0025

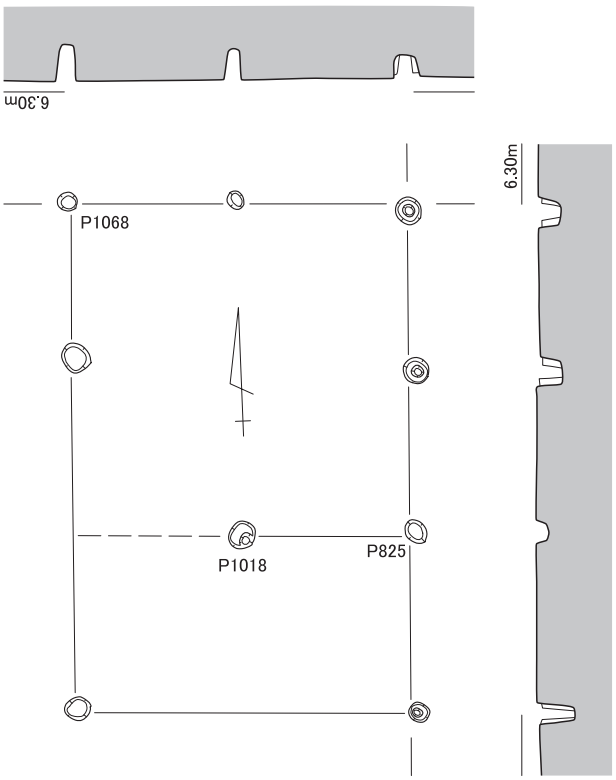


C地区　掘立柱建物跡　SB0023・SB0025

SB0028

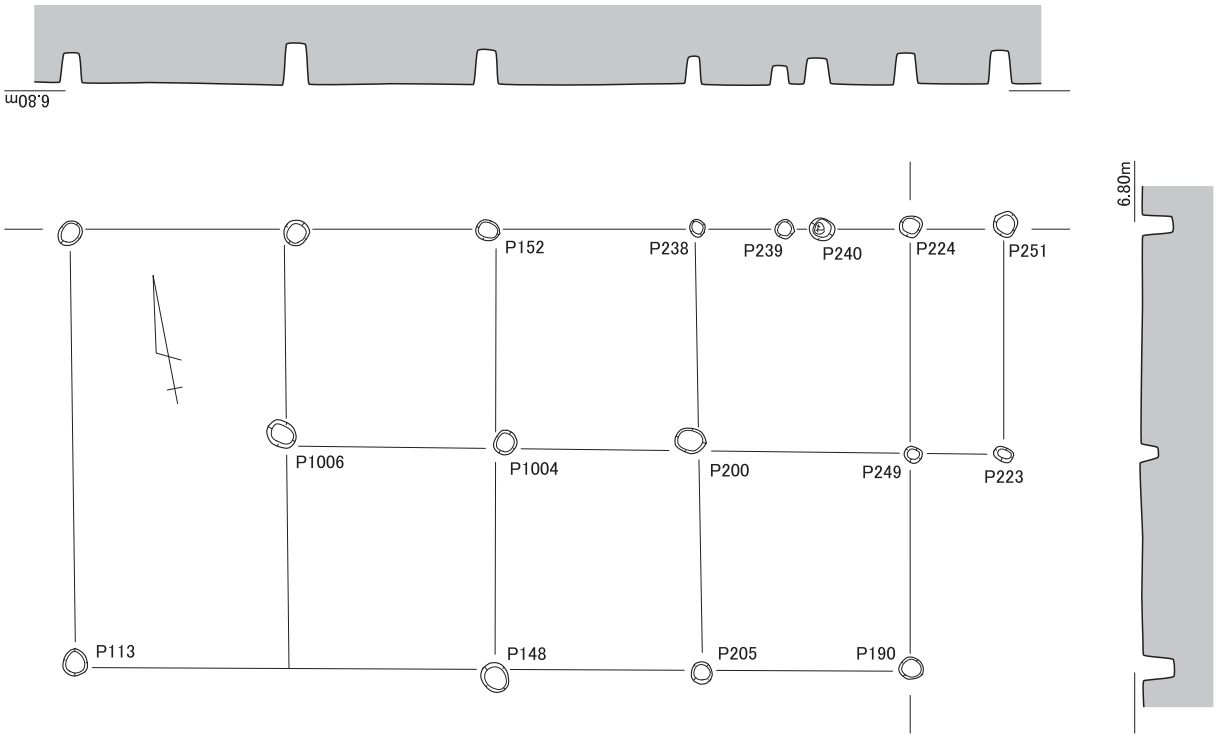


SB0046

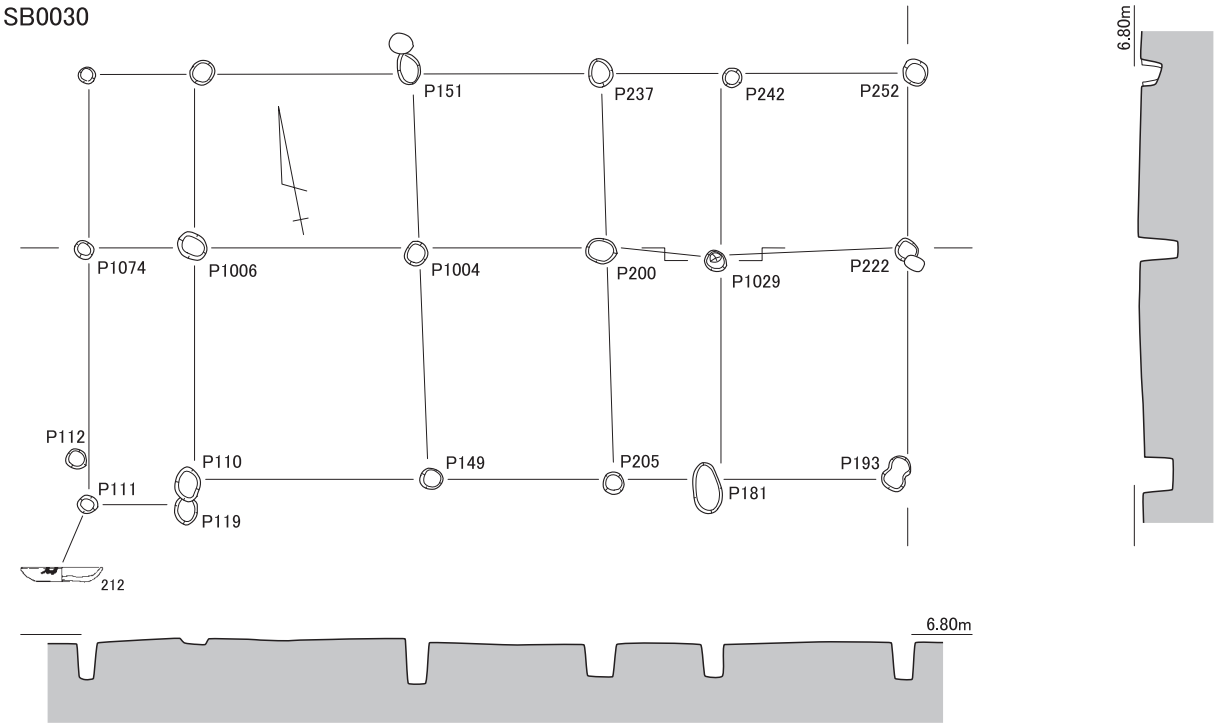


C地区　掘立柱建物跡　SB0028・SB0046

SB0029

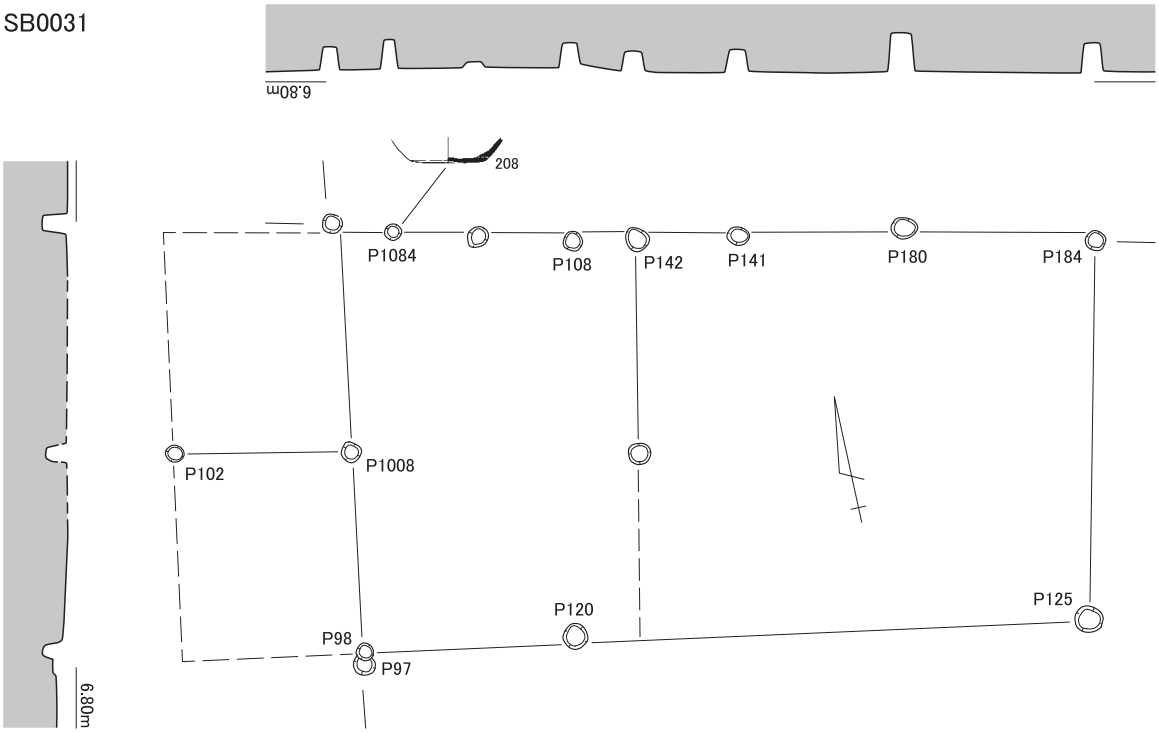


SB0030

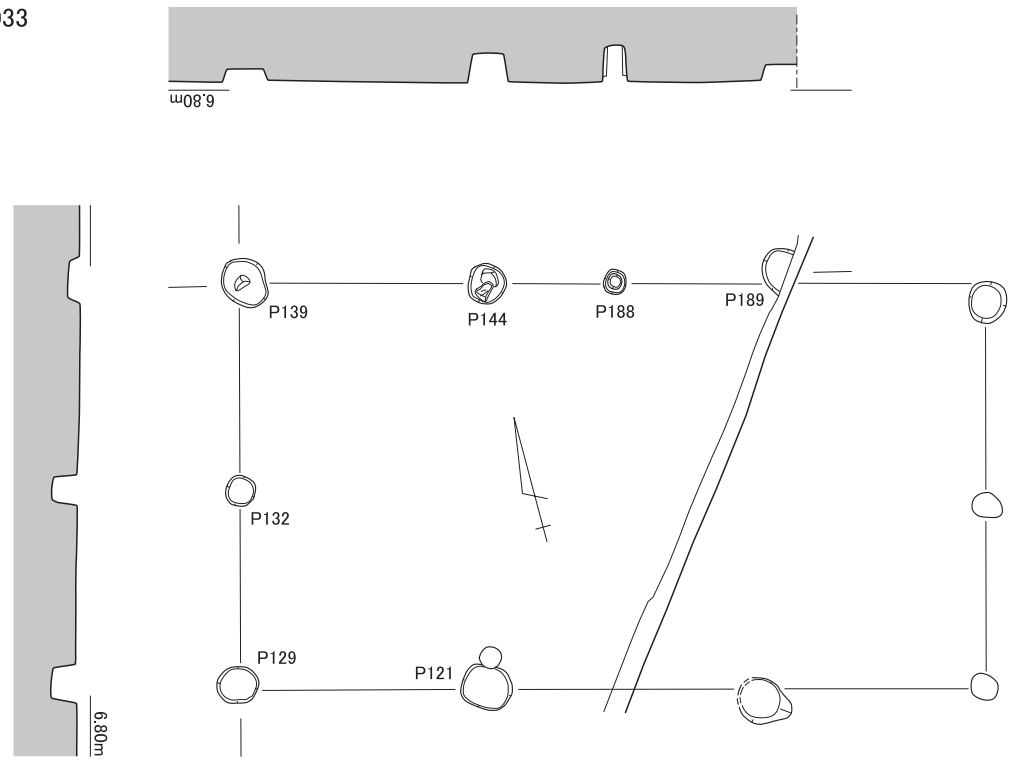


C地区　掘立柱建物跡　SB0029・SB0030

SB0031

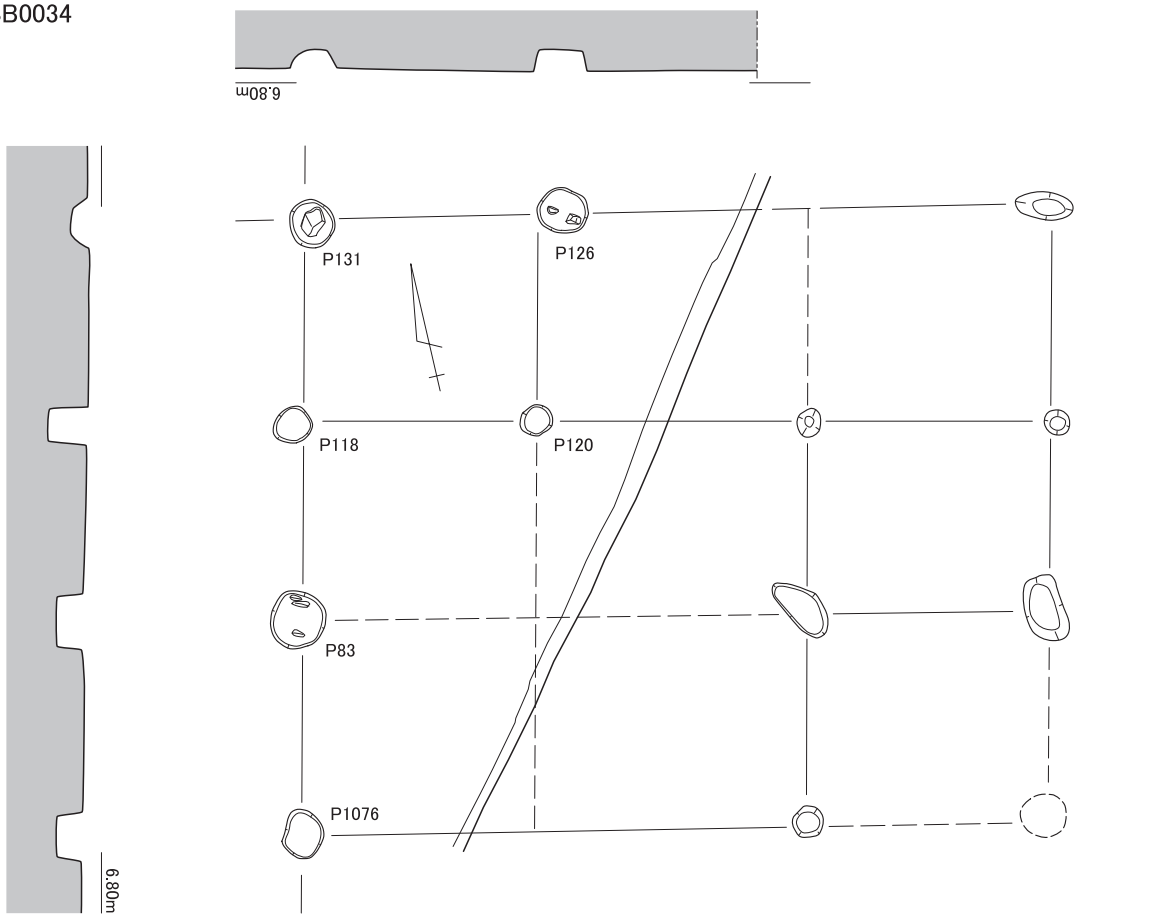


SB0033

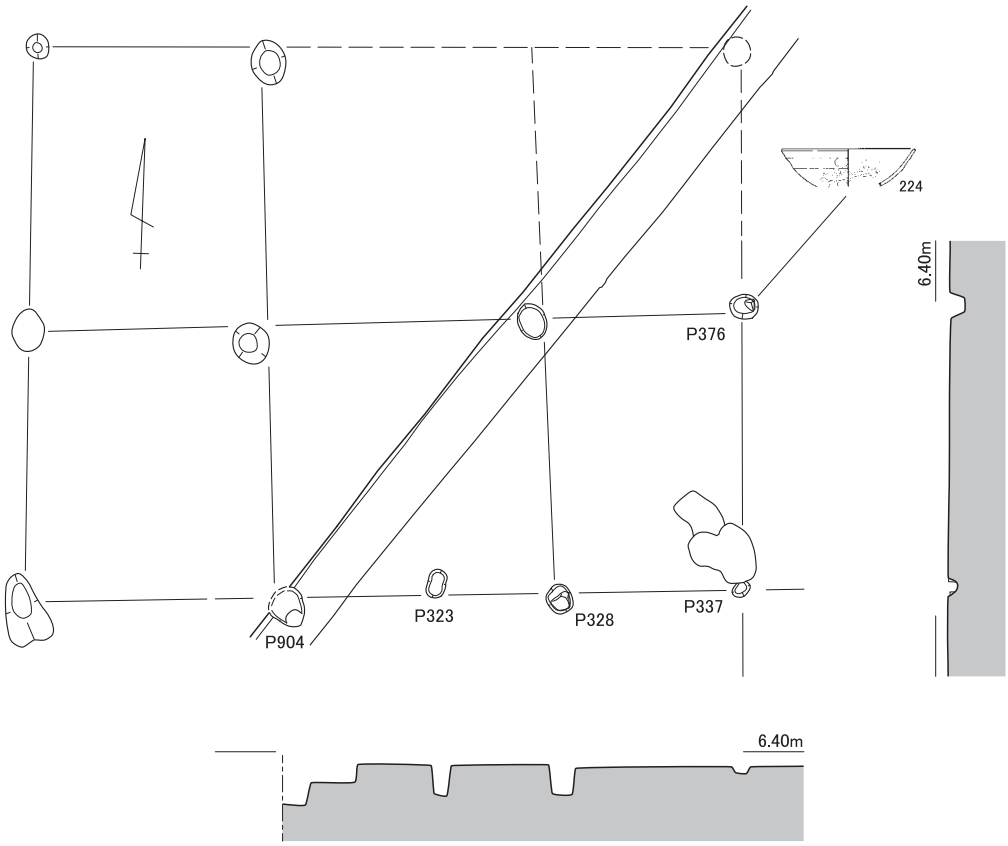


C地区　掘立柱建物跡　SB0031・SB0033

SB0034

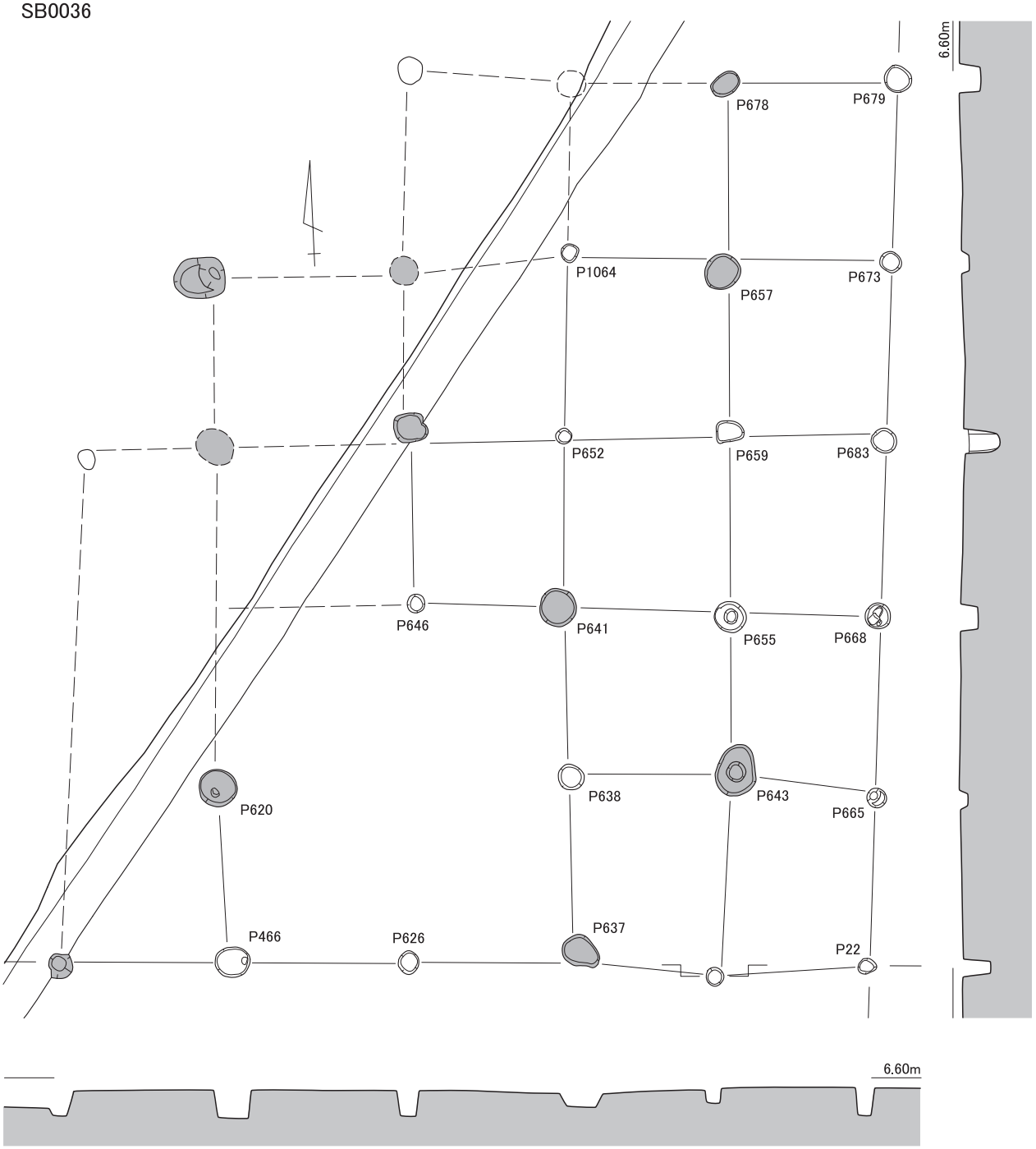


SB0042



C地区　掘立柱建物跡　SB0034・SB0042

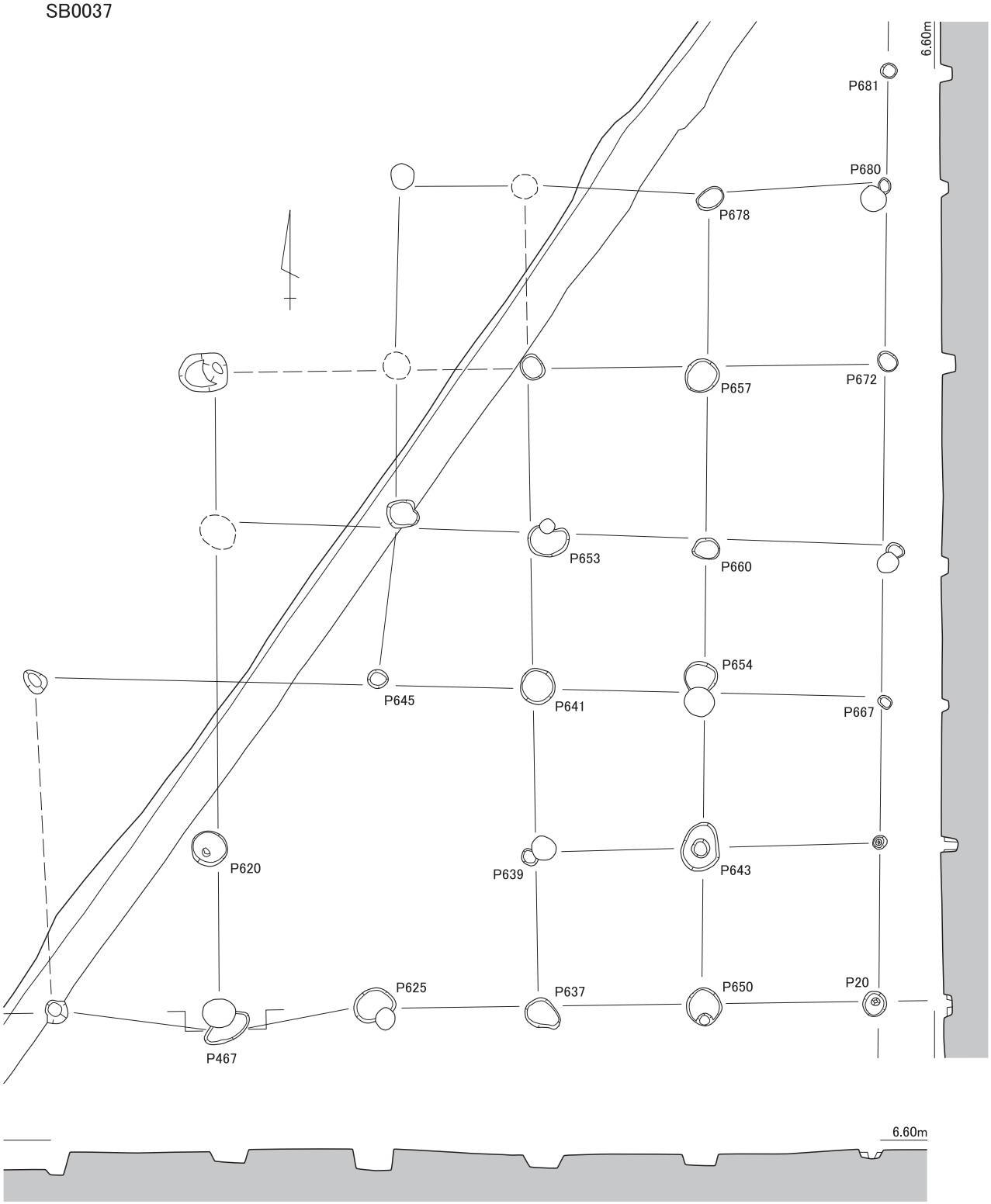
SB0036



0 4m

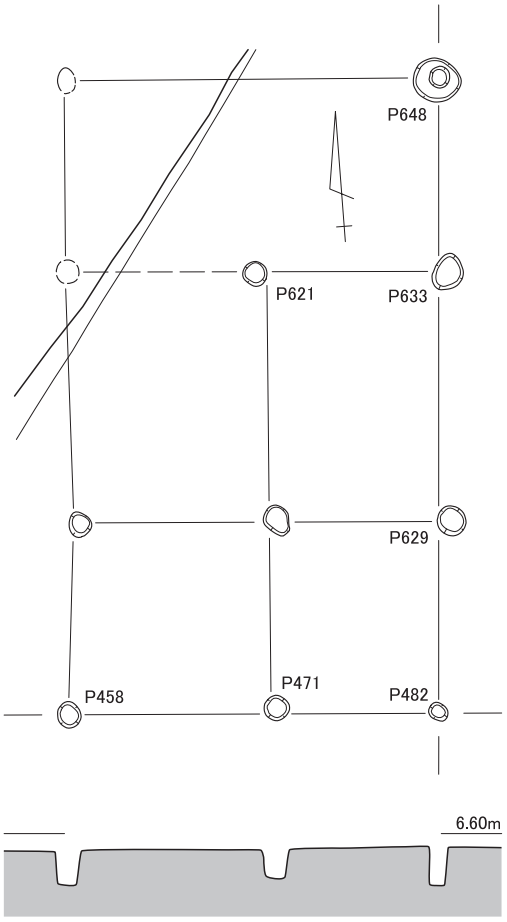
C地区　掘立柱建物跡　SB0036

SB0037

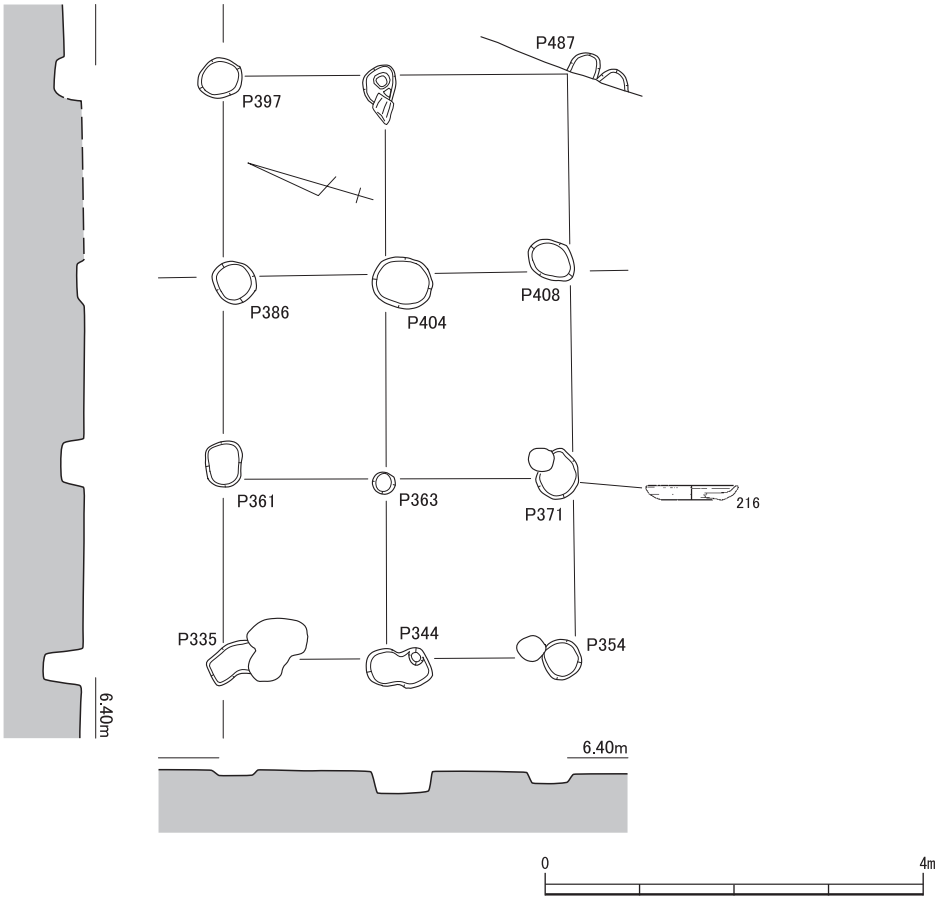


C地区　掘立柱建物跡　SB0037

SB0038

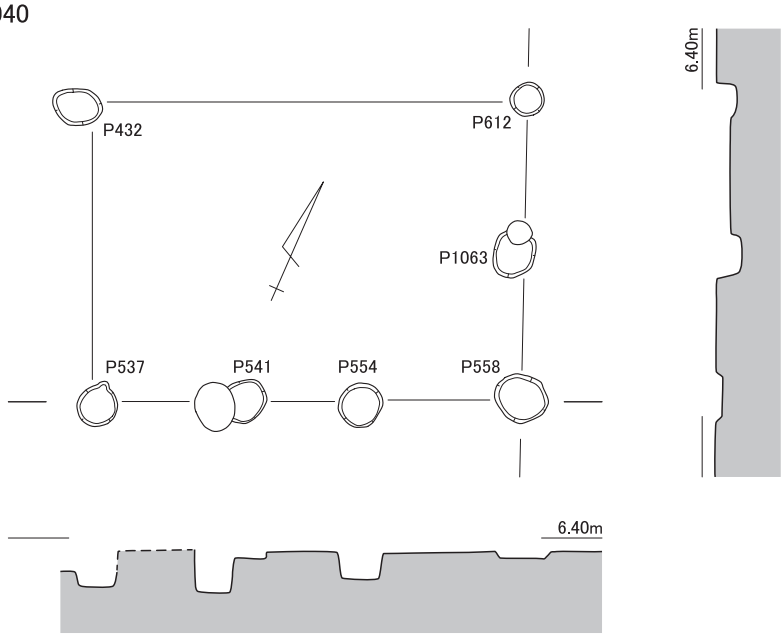


SB0043

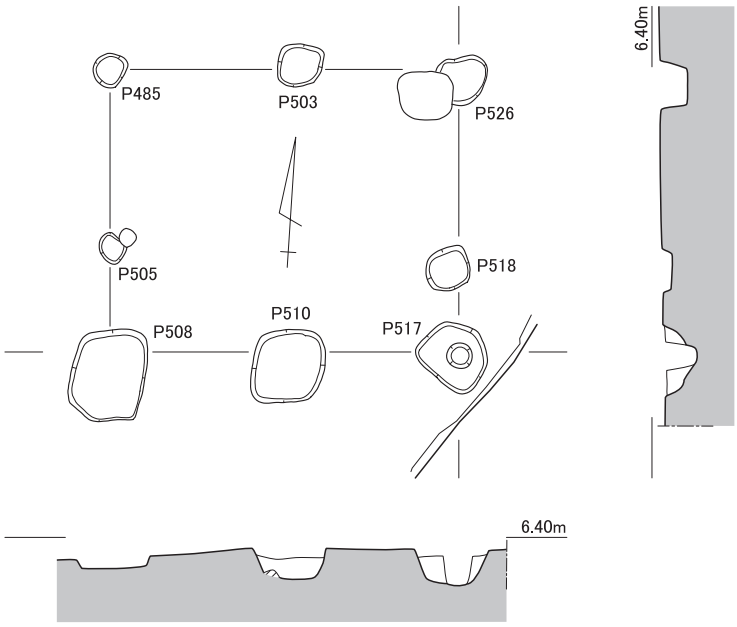


C地区　掘立柱建物跡　SB0038・SB0043

SB0040



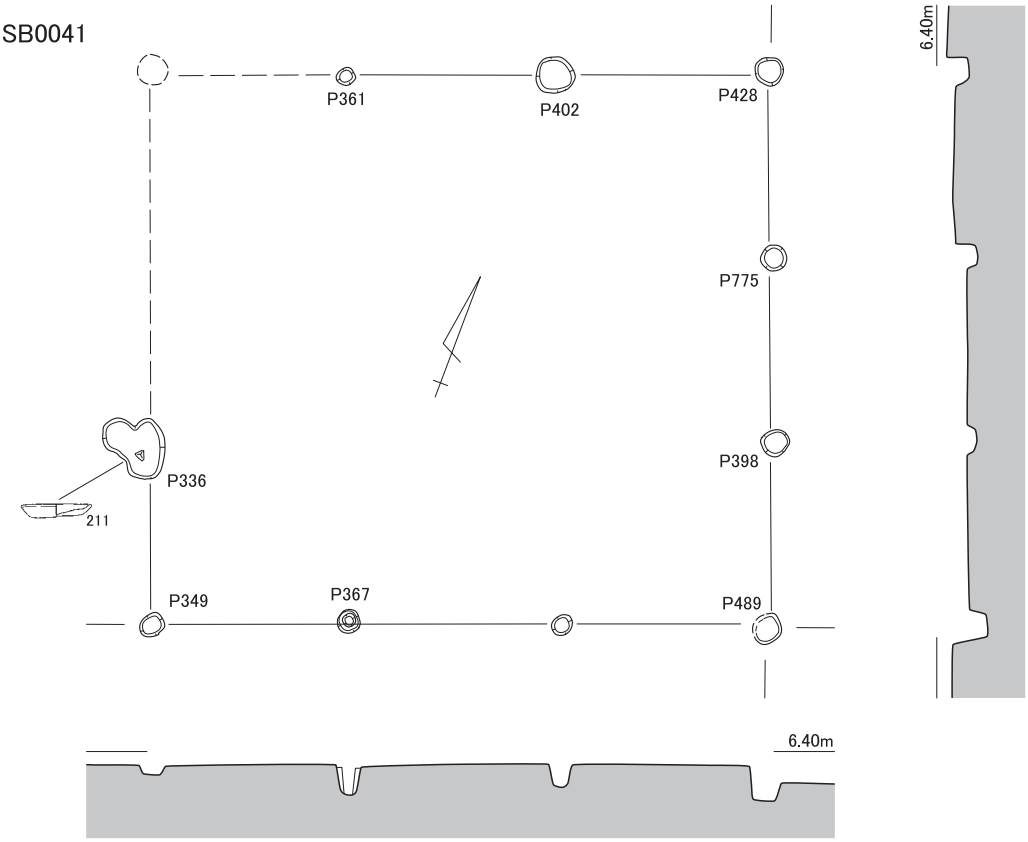
SB0044



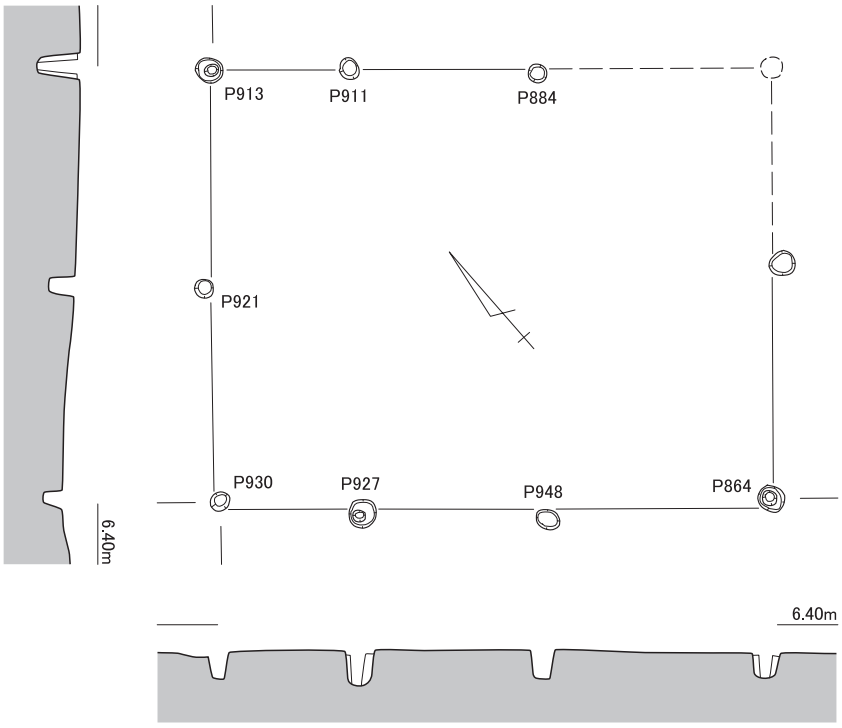
0 4m

C地区　掘立柱建物跡　SB0040・SB0044

SB0041

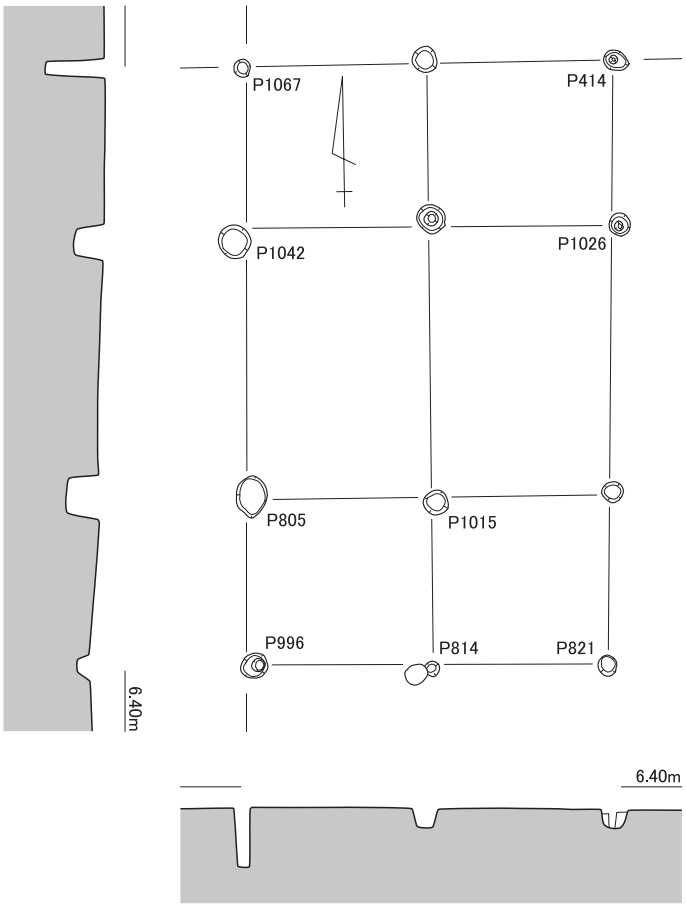


SB0048

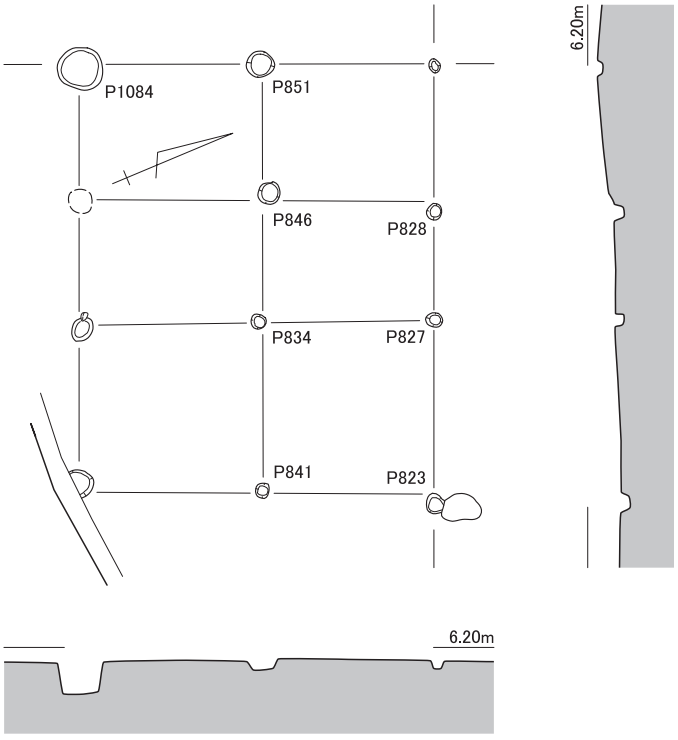


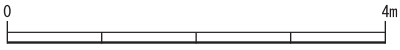
C地区　掘立柱建物跡　SB0041・SB0048

SB0045



SB0049

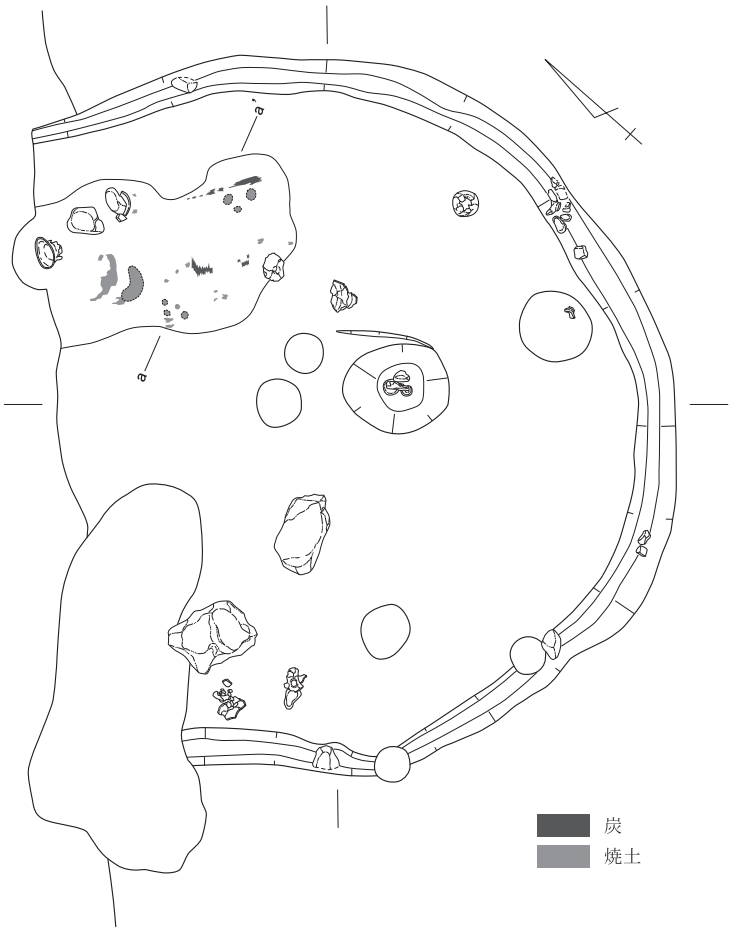


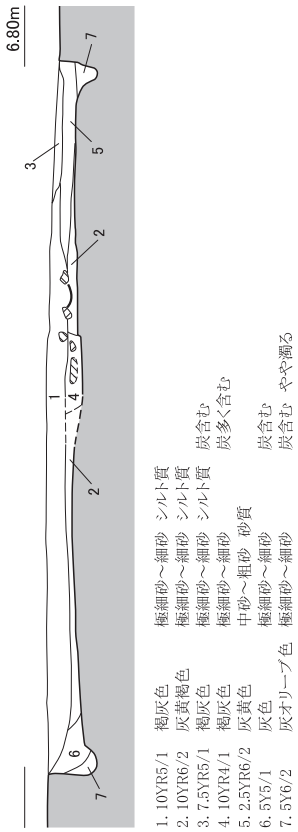


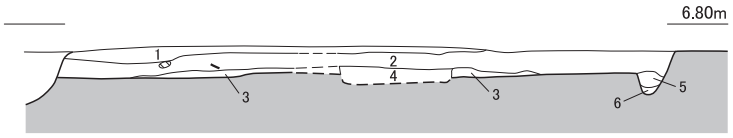
C地区　掘立柱建物跡　SB0045・SB0049

C地区　全体図3　竪穴住居跡・方形周溝墓

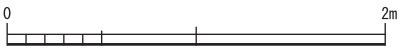
SH0002



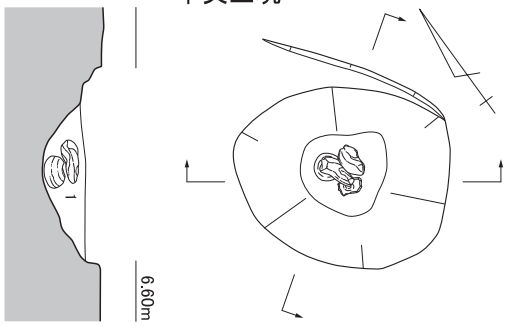


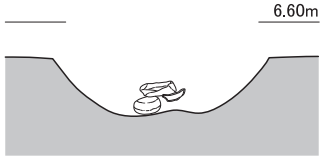


1. 10YR5/1 褐灰色 極細砂～細砂 シルト質
2. 10YR6/2 灰黄色 極細砂～細砂 シルト質 濁った土層
3. 10YR4/2 灰黄色 極細砂～細砂 炭・焼土など含む
4. 10YR4/1 褐灰色 極細砂～細砂 炭を多く含む
5. 2.5Y6/1 黄灰色 細砂 少量の炭と褐灰色土含む
6. 2.5Y6/4 にぶい黄色 細砂 褐灰色土含む



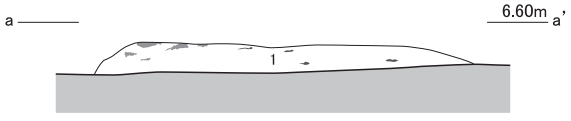
中央土坑





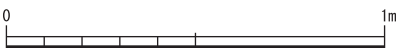
1. 7.5YR4/2 灰褐色 極細砂 シルト質 炭・焼土を含む

焼土



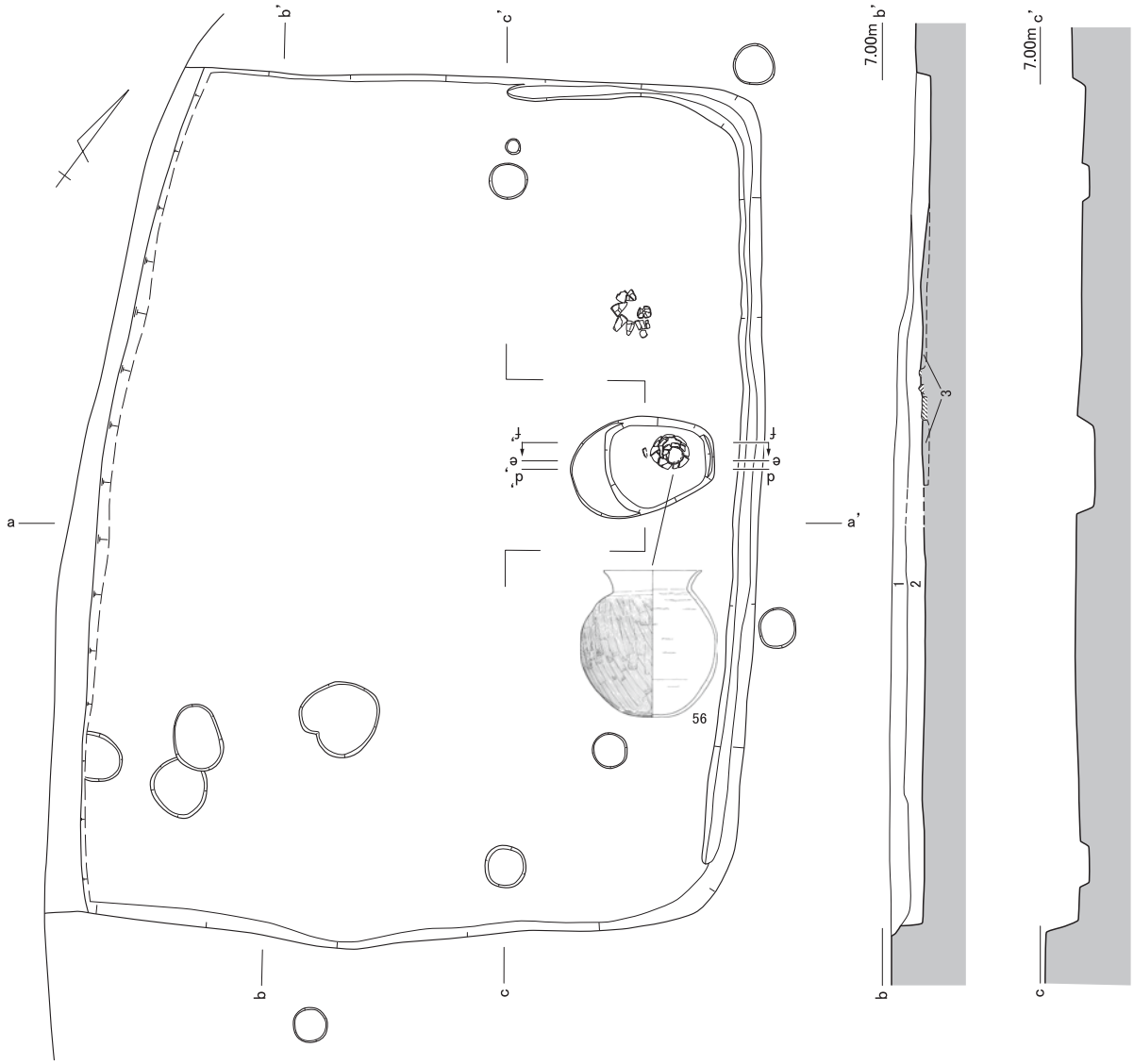
1. 10Y5/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂 シルト質

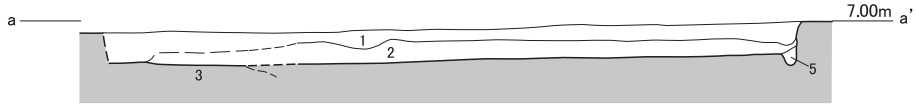
炭
焼土



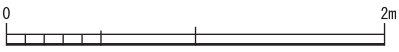
C地区 竪穴住居跡 SH0002

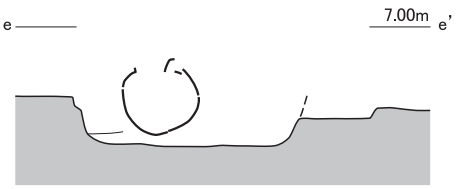
SH0001

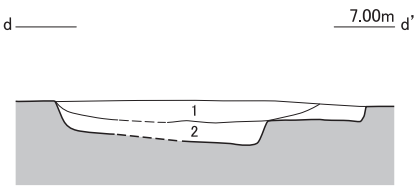




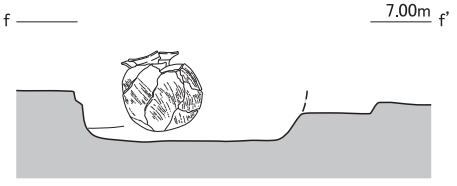
1. 7.5YR5/1　褐灰色　　極細砂～細砂　シルト質　マンガン斑・炭含む
2. 7.5YR4/2　灰褐色　　細砂～粗砂　　やや砂質土とシルト質土が混じる　炭・土器含む
3. 7.5YR6/1　灰褐色　　礫層　　円礫混じる
4. 7.5YR6/4　にぶい橙色　細砂　ややシルト質　　ベース土
5. 2層よりやや暗色　炭含む

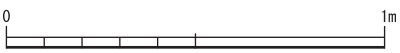




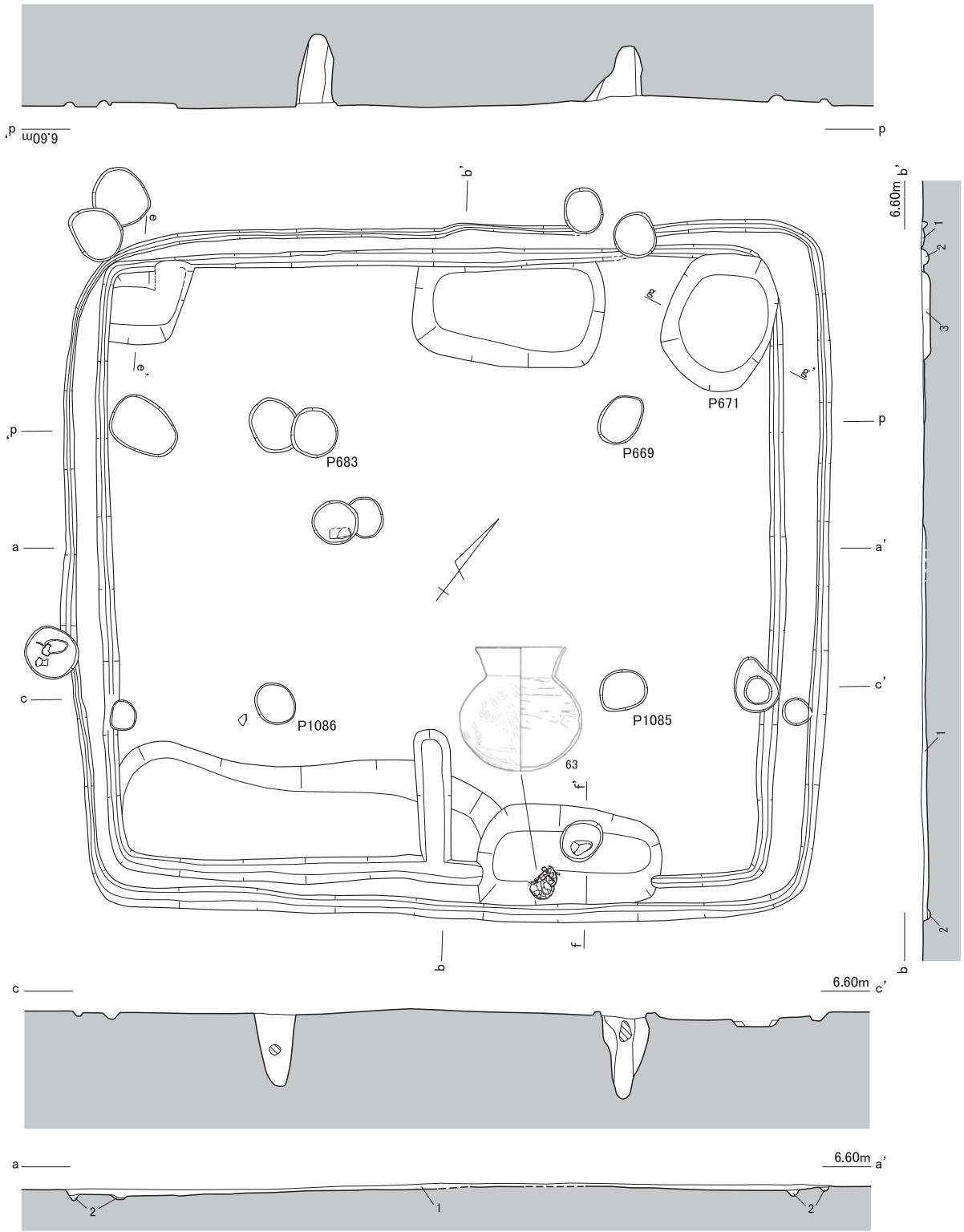


1. 7.5YR5/2　灰褐色　極細砂　シルト質　礫混じる
2. 7.5YR4/2　灰褐色　極細砂　シルト質



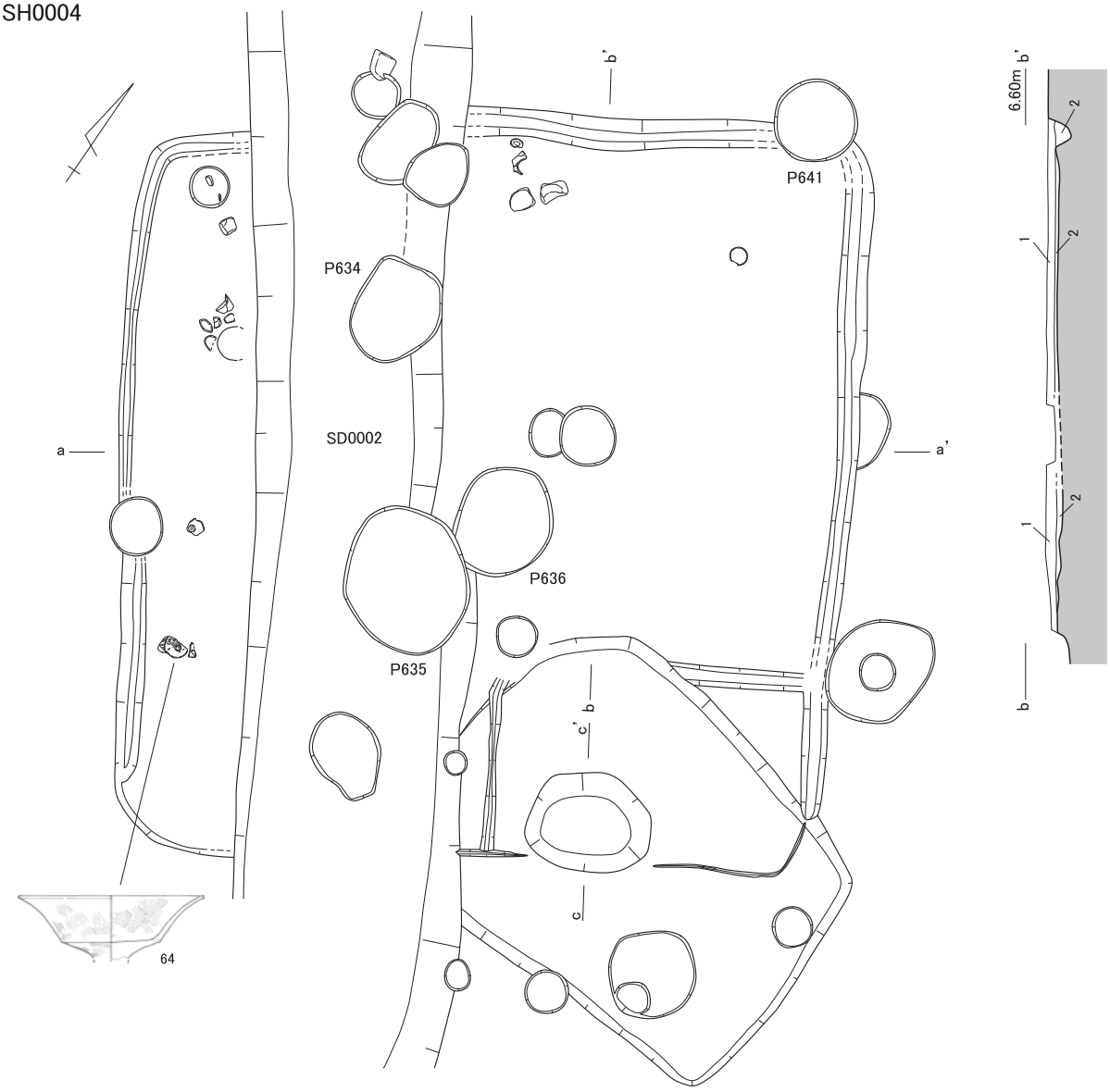


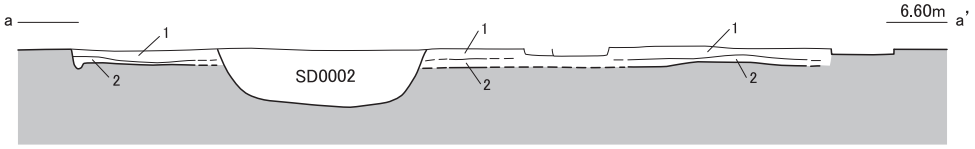
C地区　竪穴住居跡　SH0001



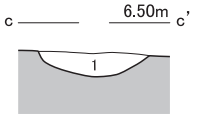
C地区　竪穴住居跡　SH0003

SH0004

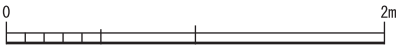




1. 2.5Y4/1　黄灰色　　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～細砂

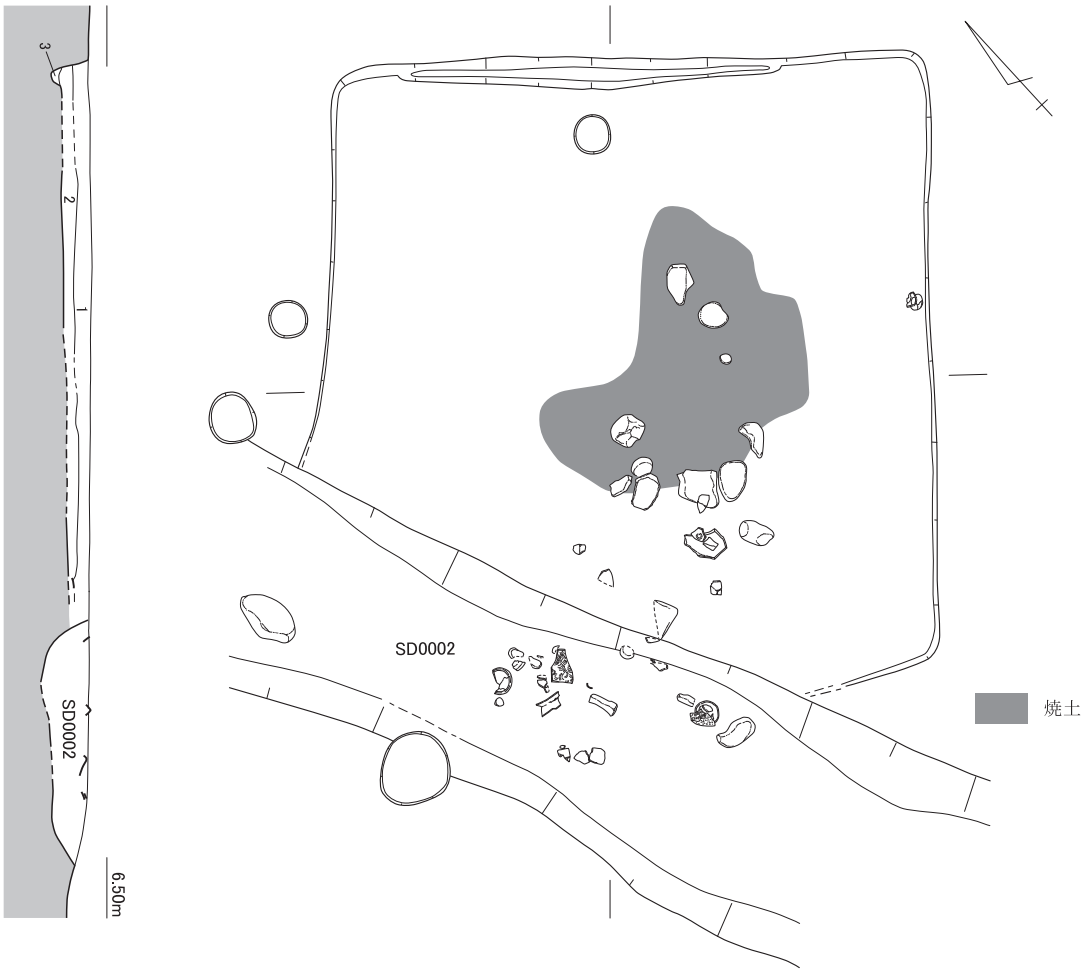


1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト～極細砂



C地区　竪穴住居跡　SH0004

SH0005

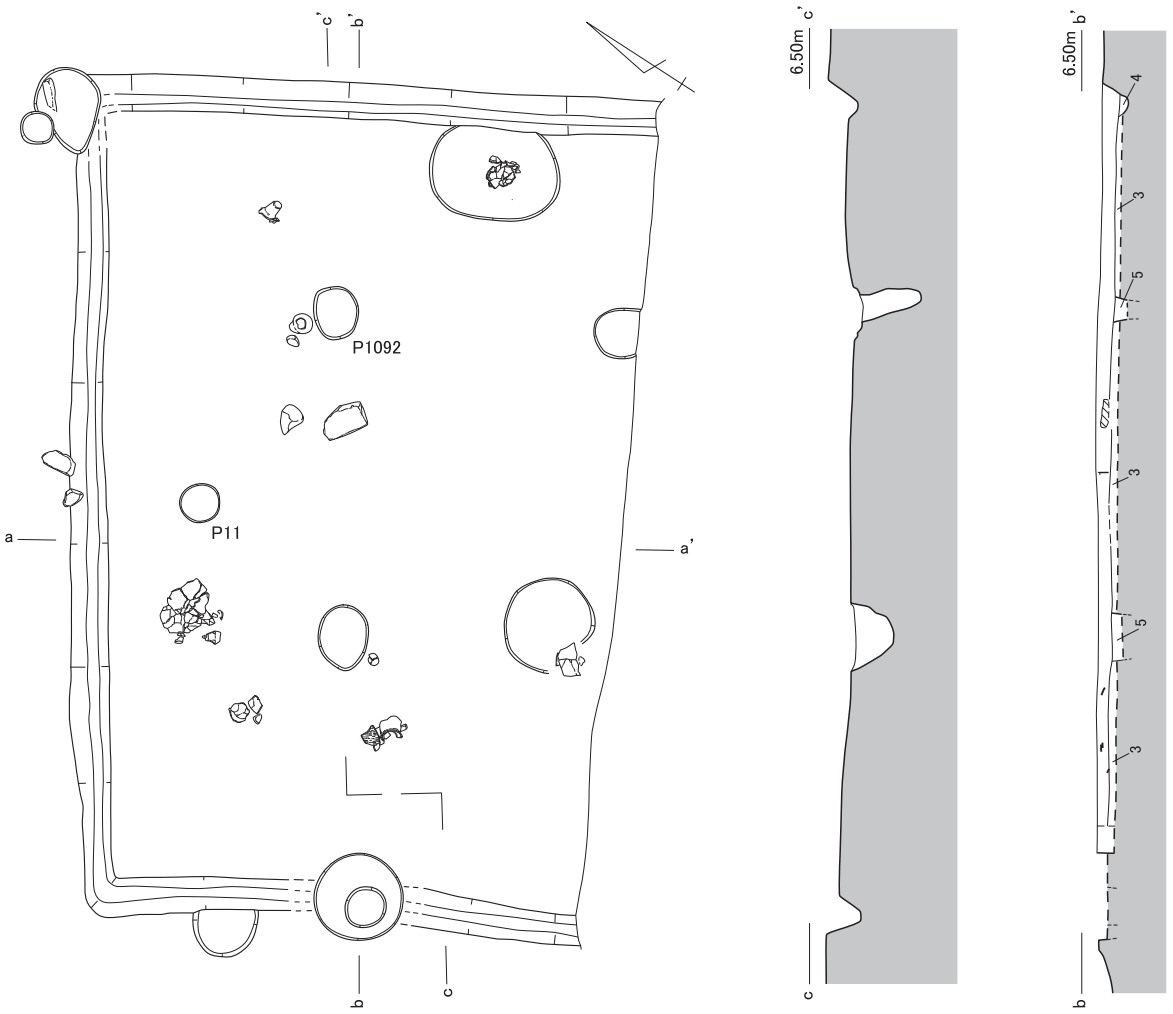


1. 2.5Y4/2　暗灰色　　極細砂～細砂　鉄粒を多く含む
2. 2.5Y4/1　黒褐色　　粘質シルト～細砂
3. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト混じり極細砂～細砂

0　2m

C地区　竪穴住居跡　SH0005

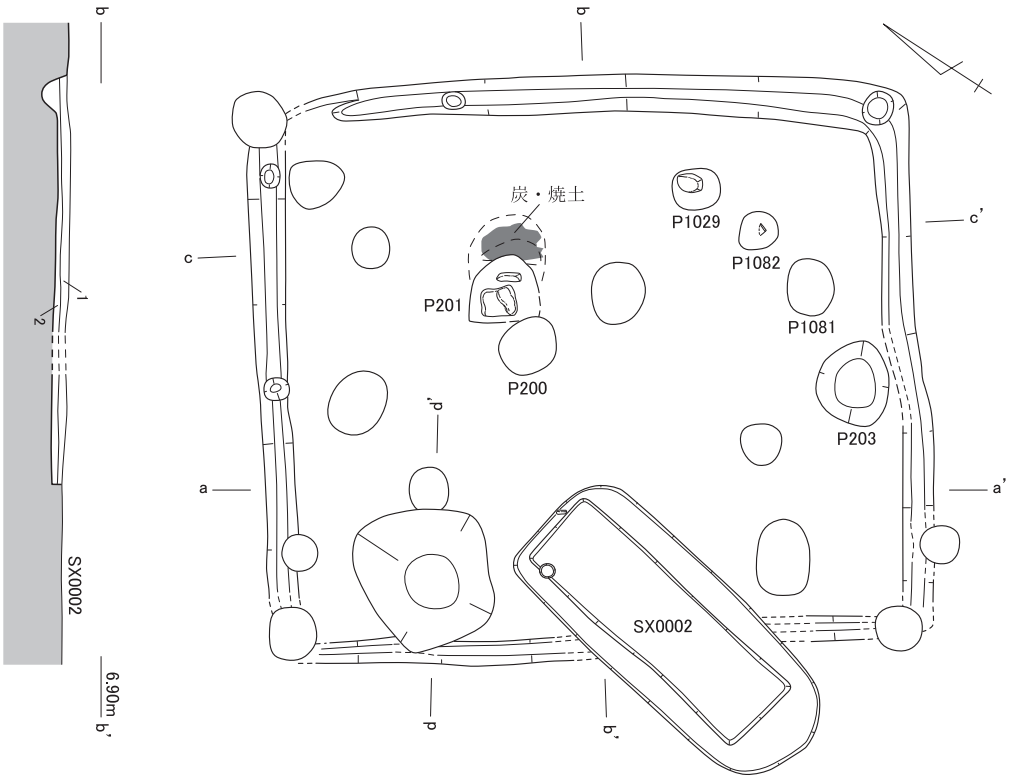
SH0006

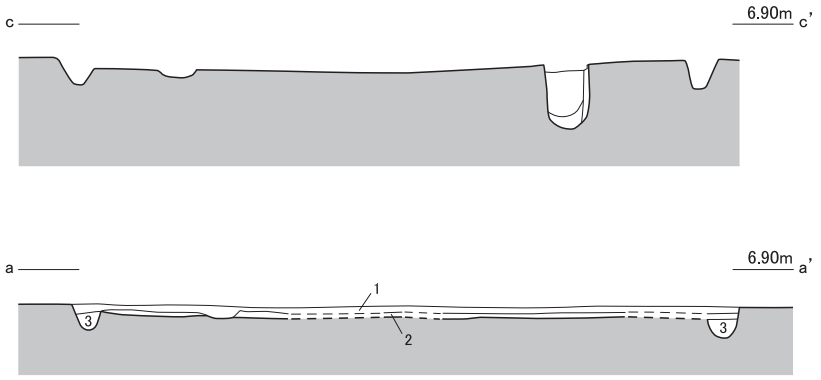


1. 2.5Y4/1　黄灰色　　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～細砂
3. 2.5Y3/1　黒褐色　　極細砂～細砂
4. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト混じり極細砂～細砂
5. 2.5Y3/2　黒褐色　　シルト混じり極細砂～細砂

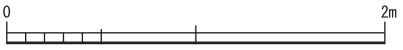
C地区　竪穴住居跡　SH0006

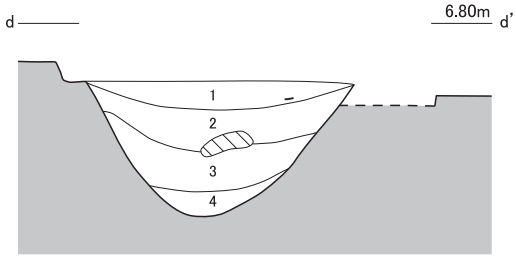
SH0007



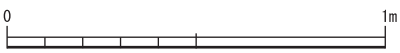


1. 2.5YR4/1　赤灰色　極細砂～細砂　シルト質
2. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　シルト質
3. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂　シルト質　周溝の土



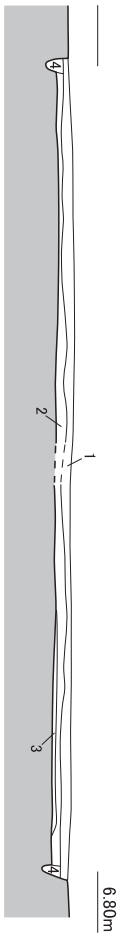


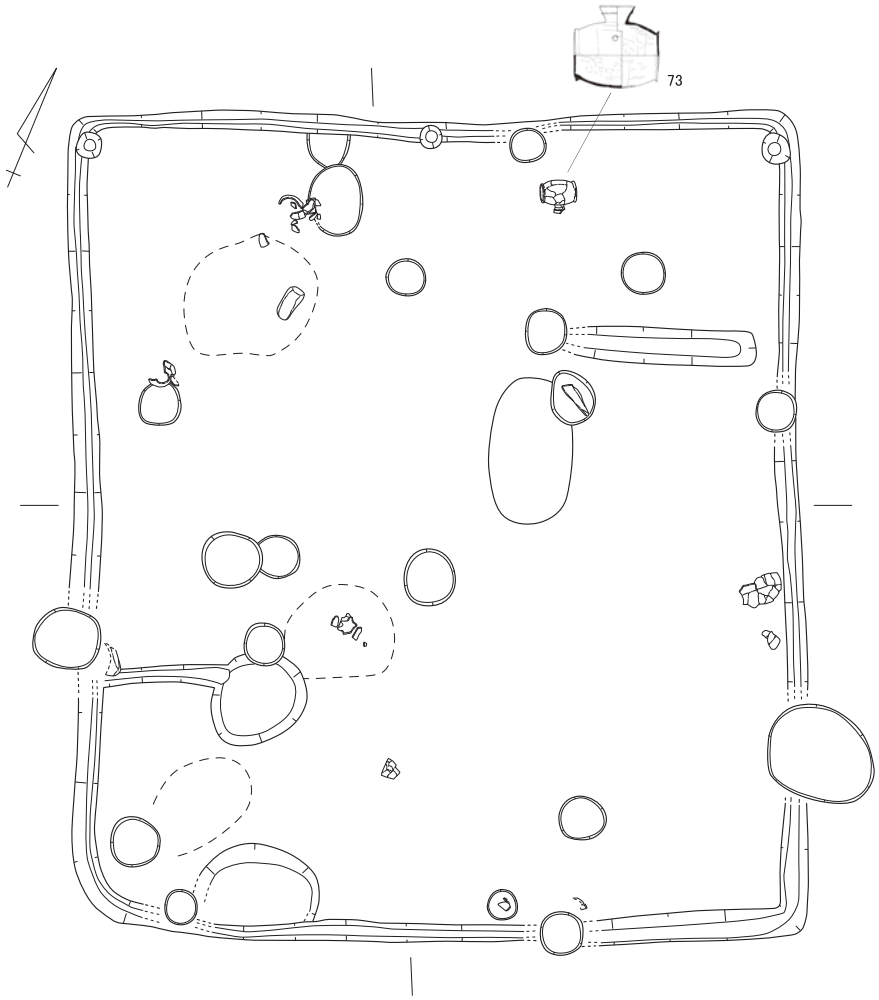
1. 10YR5/1　褐灰色　極細砂～細砂
2. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～極細砂
4. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　粘質シルト～極細砂

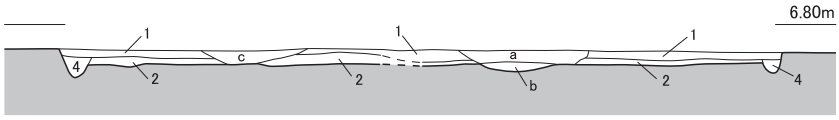


C地区　竪穴住居跡　SH0007

SH0008



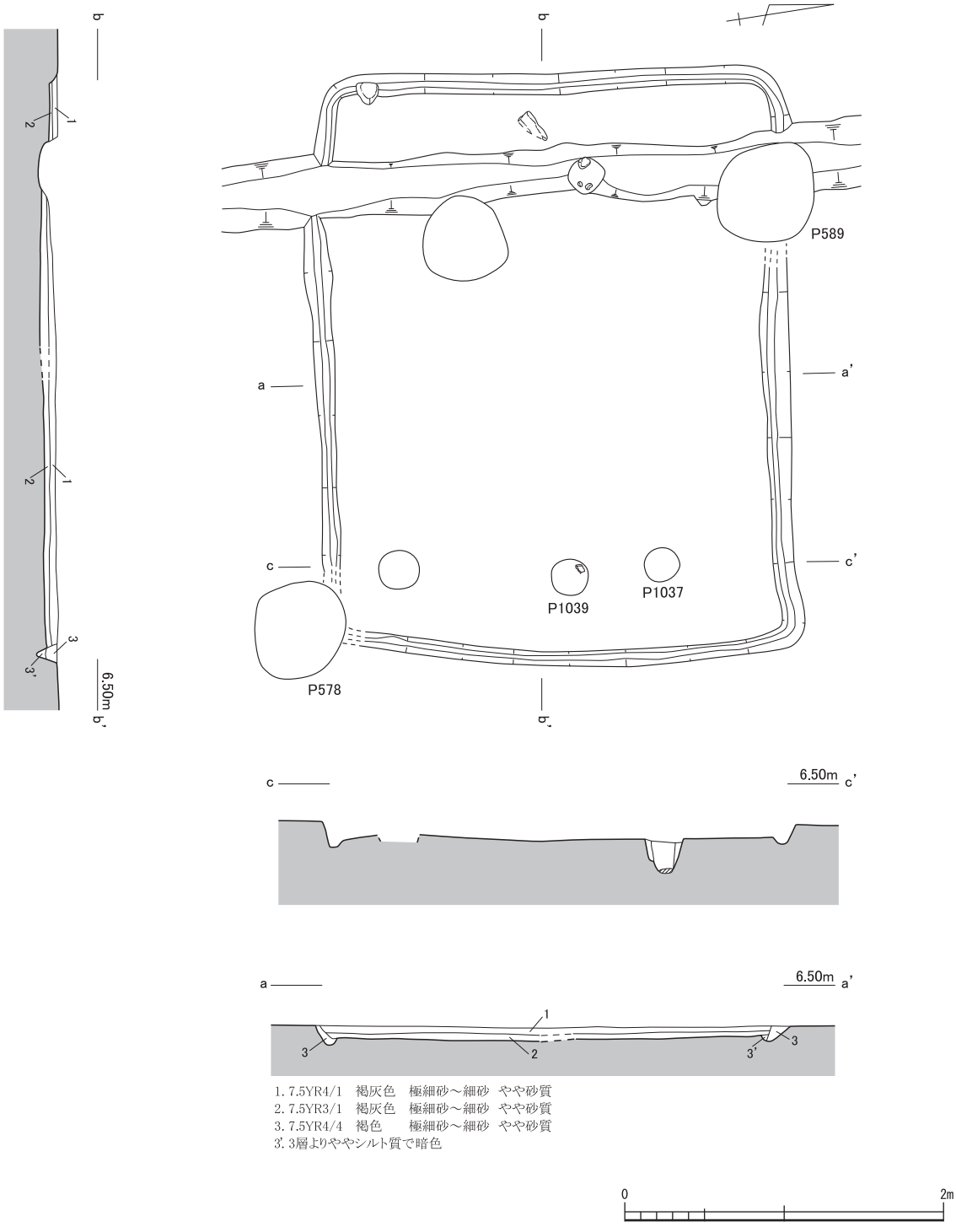




1. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
3. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂
4. 2.5Y4/1　暗灰黄色　極細砂～細砂
a. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂
b. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
c. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　下部に炭を多く含む

C地区　竪穴住居跡　SH0008

SH0009



1. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　やや砂質
2. 7.5YR3/1　褐灰色　極細砂～細砂　やや砂質
3. 7.5YR4/4　褐色　　極細砂～細砂　やや砂質
3'. 3層よりややシルト質で暗色

0　2m

C地区　竪穴住居跡　SH0009

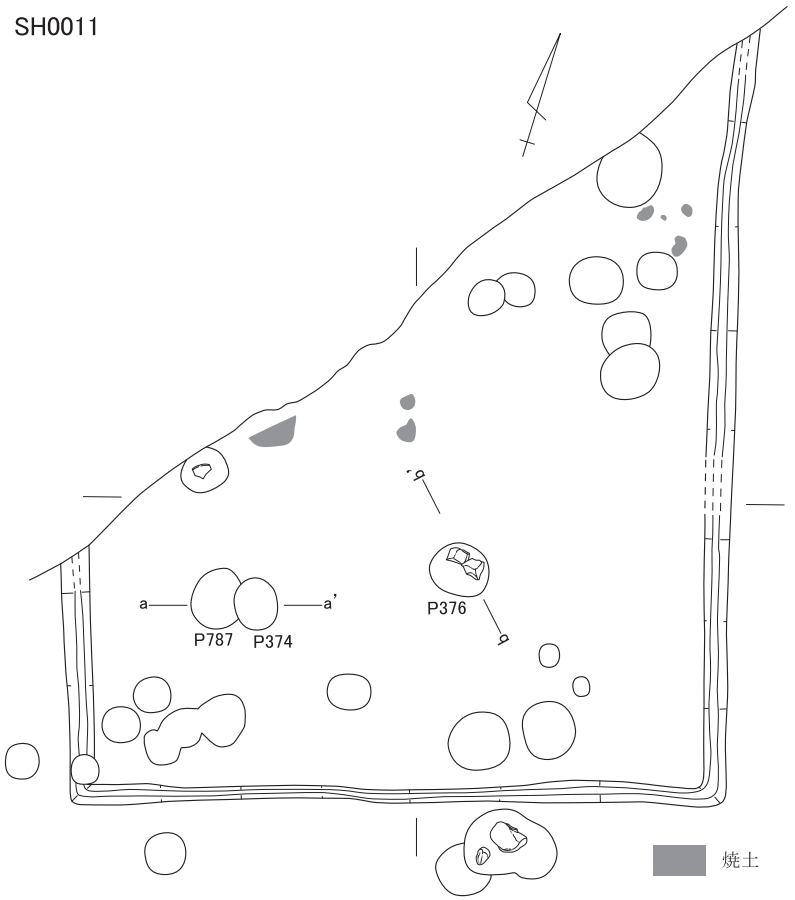
SH0010

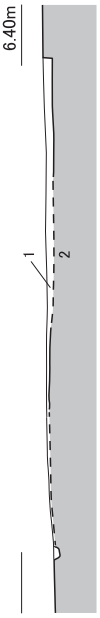
1. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂　シルト質　円礫・土器含む
2. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂　シルト質
3. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂　シルト質

0　2m

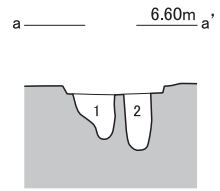
C地区　竪穴住居跡　SH0010

SH0011



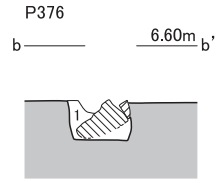


P787・P374

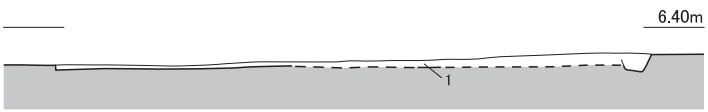


1. 10YR4/1　褐灰色
　シルト～極細砂　軽埴土
2. 10YR3/1　黒褐色
　シルト～細砂　シルト質埴土

P376

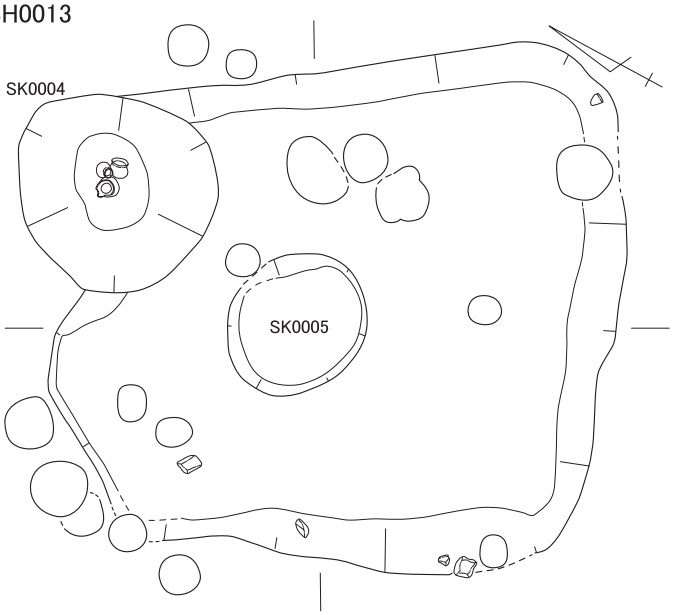


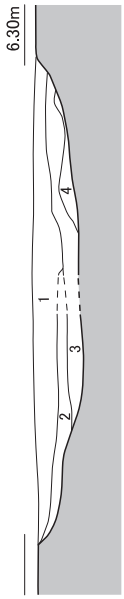
1. 10YR4/1　褐灰色
　シルト～細砂　シルト質埴土
　ベース土混じる

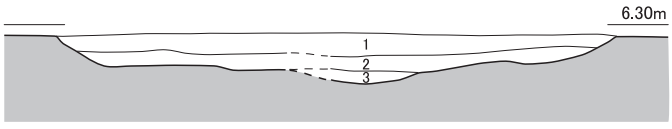


1. 7.5YR4/1　褐灰色　　極細砂～細砂　シルト質
2. 2.5Y6/6　　明黄褐色　極細砂～細砂　地山

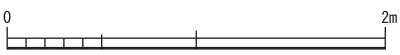
SH0013





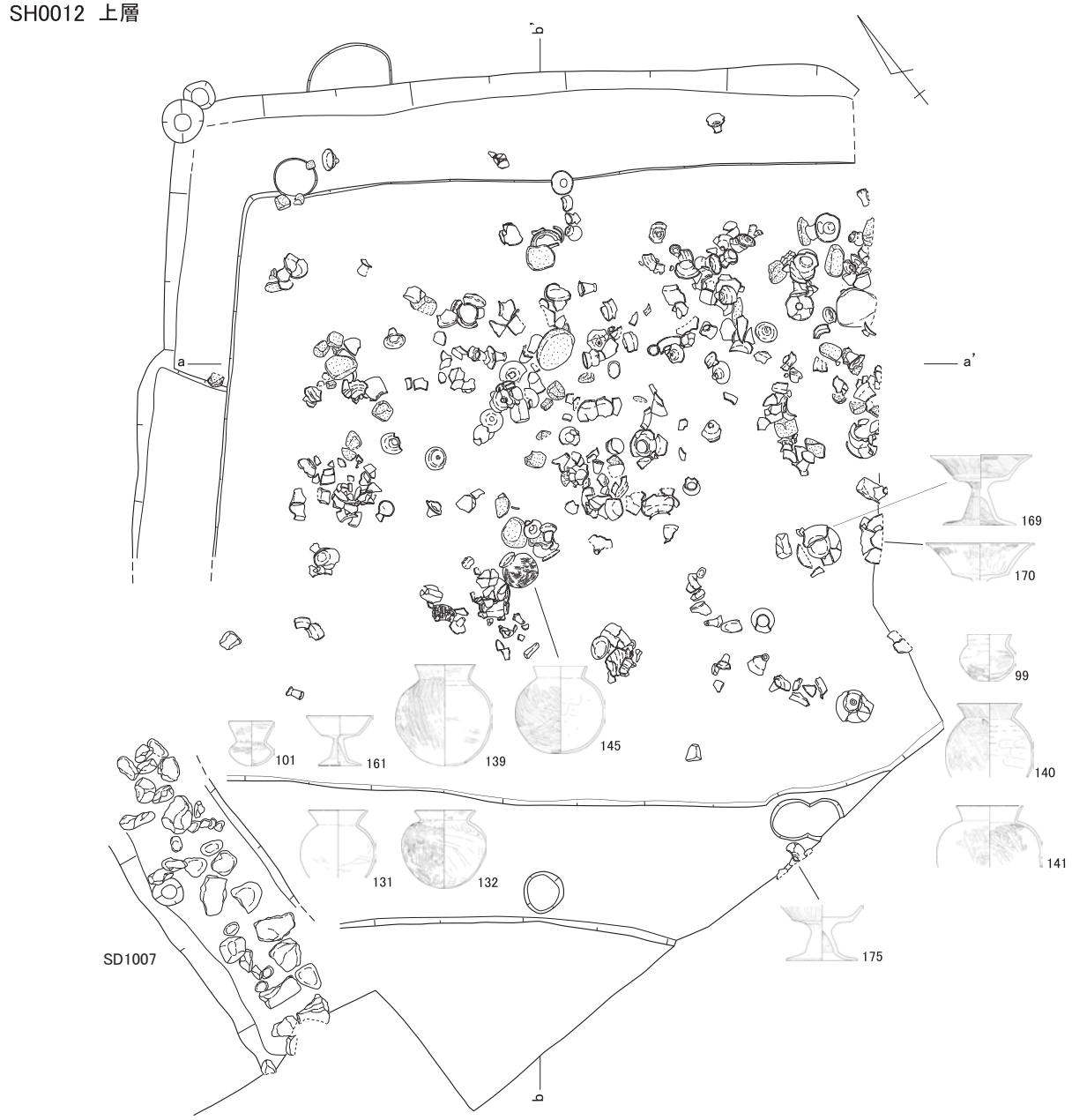


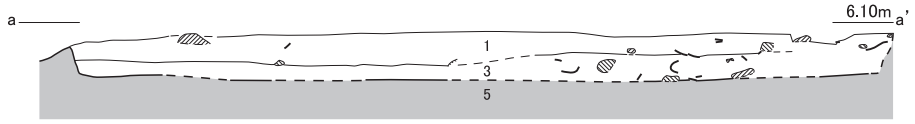
1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　シルト質
2. 10YR3/1　褐灰色　極細砂～細砂
3. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂　シルト質
4. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂　シルト質　地山シルトのブロック混じる

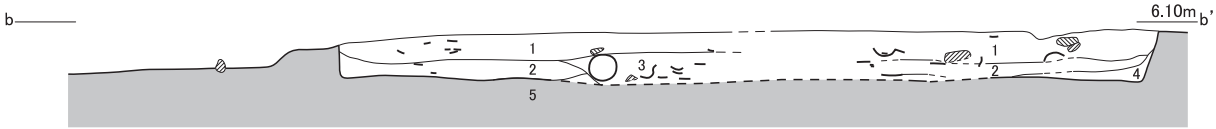


C地区　竪穴住居跡　SH0011・SH0013

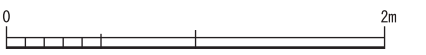
SH0012 上層





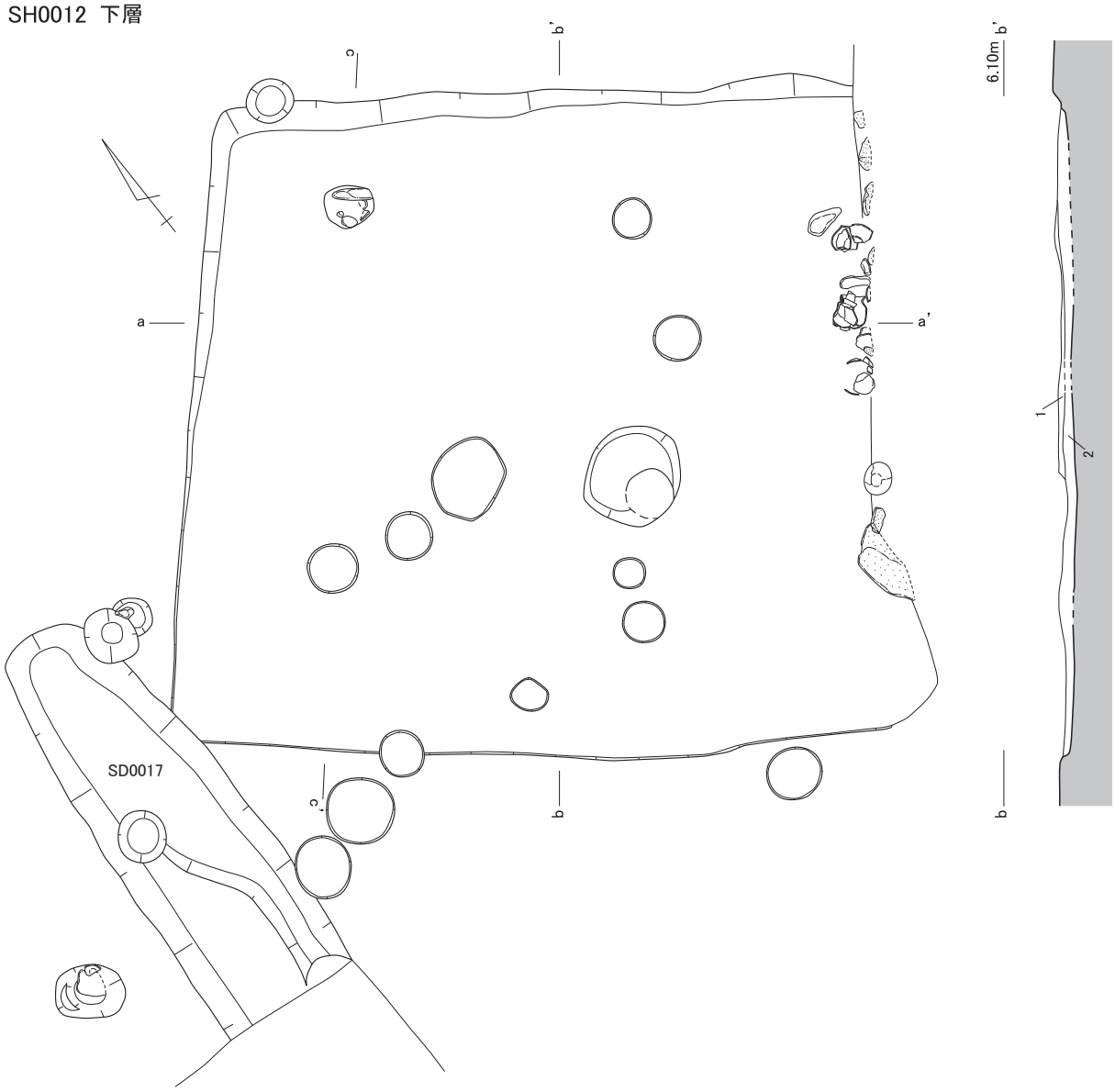


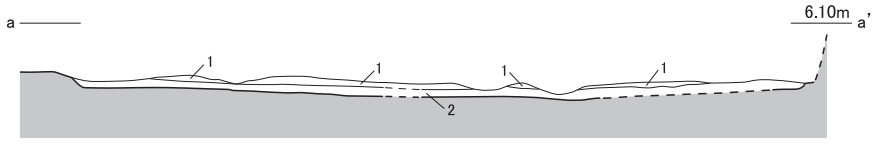
1. 10R3/1　暗赤灰色　極細砂～細砂　シルト質　赤みを帯びた土
2. 5YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂　暗色でややシルト質
3. 7.5YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂　粘り気のあるシルト質
4. 2.5Y6/1　黄灰色　細砂　やや砂質
5. 7.5Y6/1　灰色　細砂　やや砂質　床面ベース



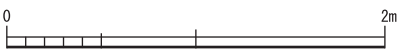
C地区　竪穴住居跡　SH0012　上層

SH0012 下層



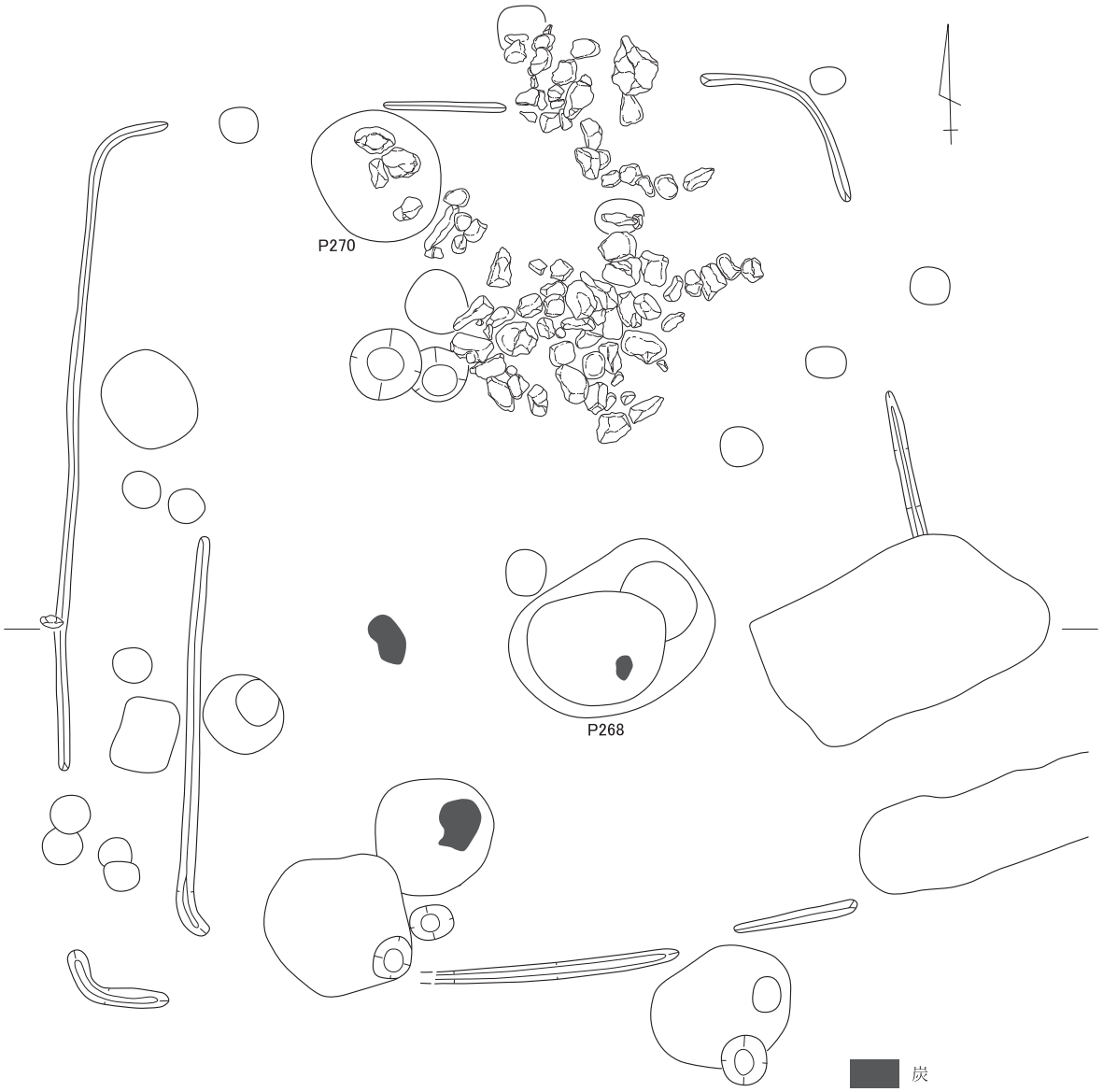


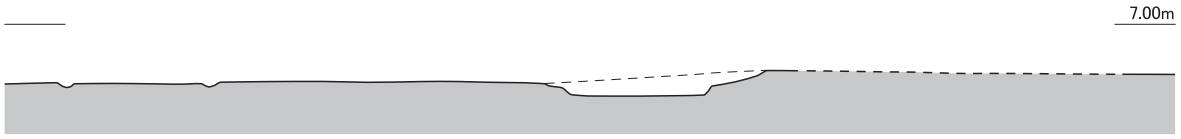
1. 2.5Y3/1　黒褐色　細砂～シルト　炭・焼土混じる
2. 7.5Y5/1　灰色　　粗砂～細砂　　ややシルトが混じる(ベース層)

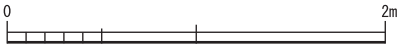


C地区　竪穴住居跡　SH0012　下層

SH0015

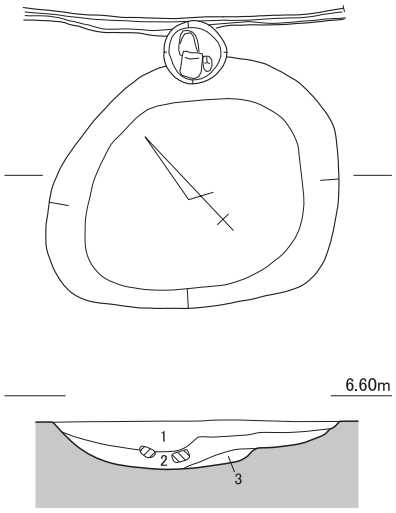






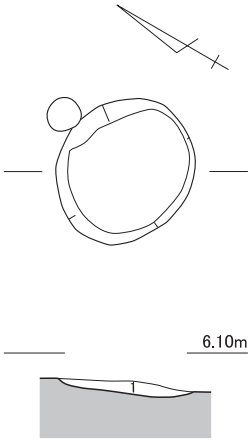
C地区　竪穴住居跡　SH0015

SK0002



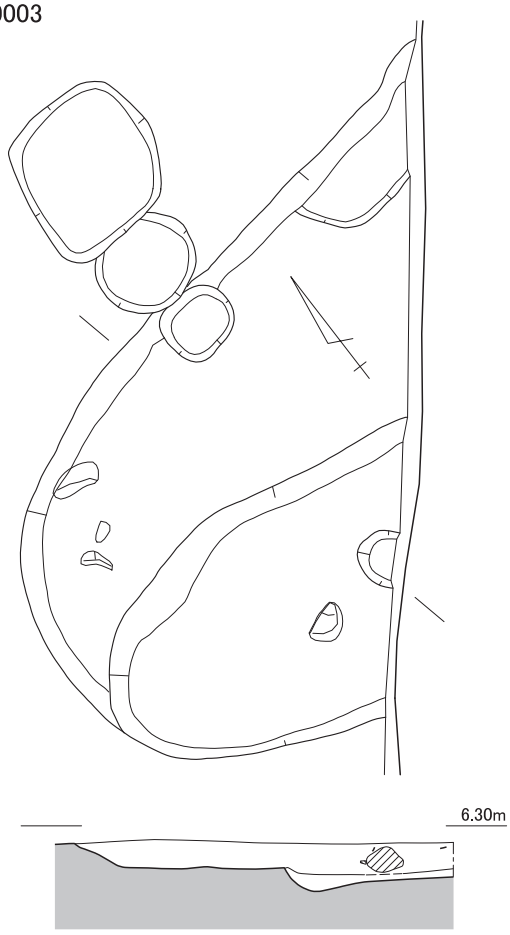
1. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
2. 1層よりやや暗色
3. 7.5Y5/1　　灰色　　シルト

SK0005

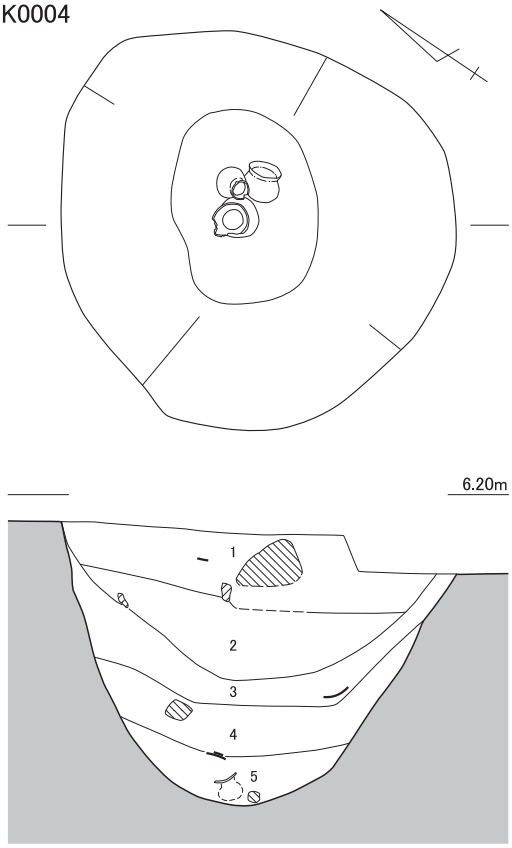


1. 5YR3/1　黒褐色　シルト シルト質埴壌土
硫化粒・遺物粒含む

SK0003



SK0004



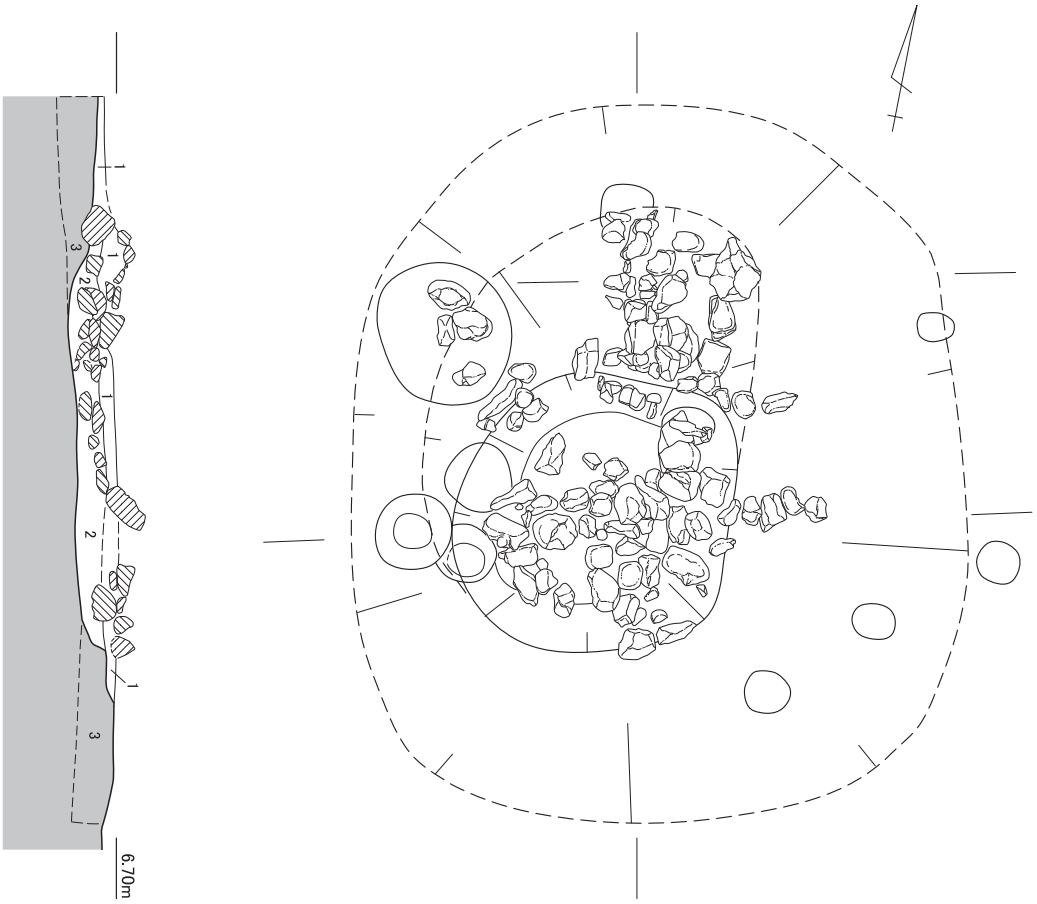
1. 7.5YR3/1　黒褐色　　極細砂～細砂　炭・土器含む
2. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂～細砂　地山シルトのブロック混じる
3. 10YR4/4　褐色　　極細砂～細砂　土器片含む
4. 2.5Y3/1　黒褐色　　極細砂～細砂　円礫・土器含む
5. N3/　　暗灰色　　極細砂～細砂　小型丸底壺出土　暗黄色シルト混じる

0　2m

0　1m

C地区　土坑　SK0002 ～ SK0005

SX0001

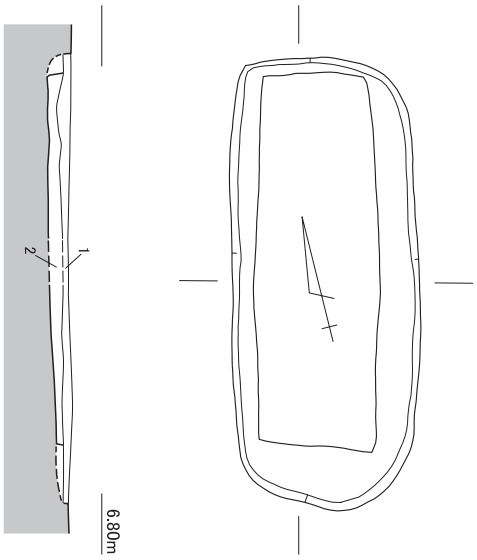


1. 2.5Y6/1　黄灰色　　極細砂～細砂　ややシルト質
2. 2.5Y6/2　灰黄色　　極細砂～細砂　ややシルト質
3. 2.5Y6/4　にぶい黄色　極細砂～細砂　ややシルト質

0　2m

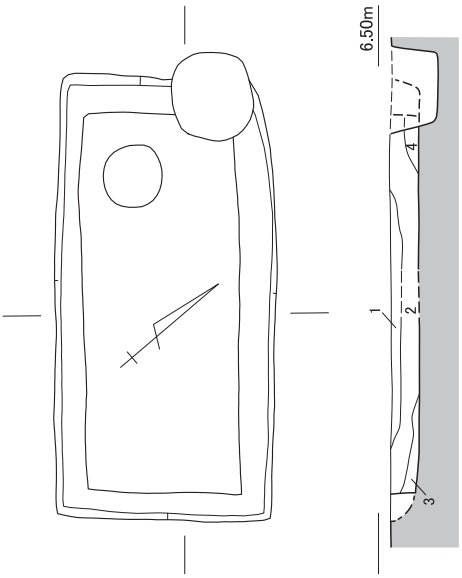
C地区　土坑　SX0001

SX0002



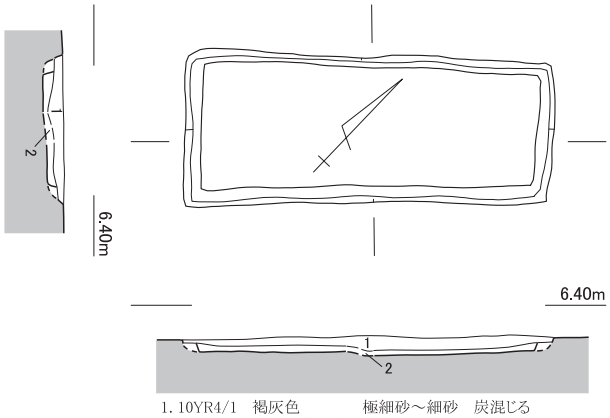
1. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂
3. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～極細砂　ベース

SX0003



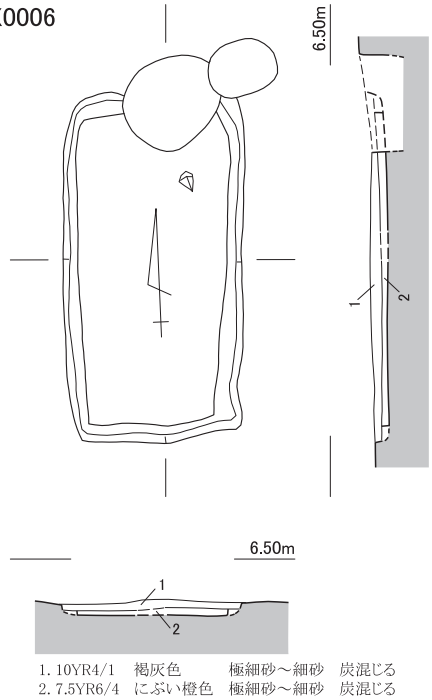
1. 2.5Y6/1　黄灰色　　シルト～細砂
2. 2.5Y6/2　灰黄色　　粘質シルト～細砂
3. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂
4. 2.5Y5/3　黄褐色　　粘質シルト～細砂
5. 2.5Y4/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂
6. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂

SX0004



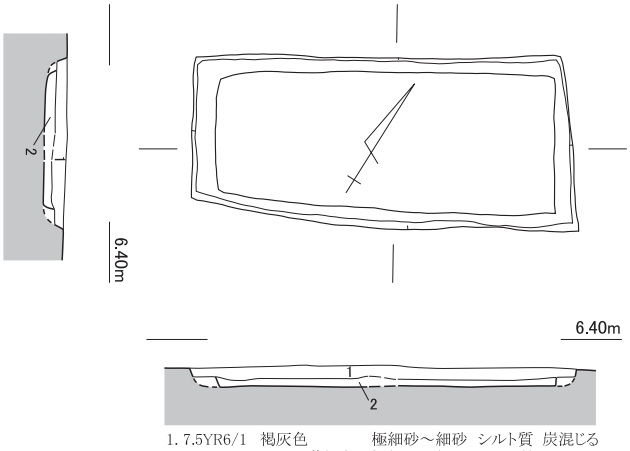
1. 10YR4/1　褐灰色　　極細砂～細砂　炭混じる
2. 10YR5/4　にぶい黄褐色　極細砂～細砂

SX0006



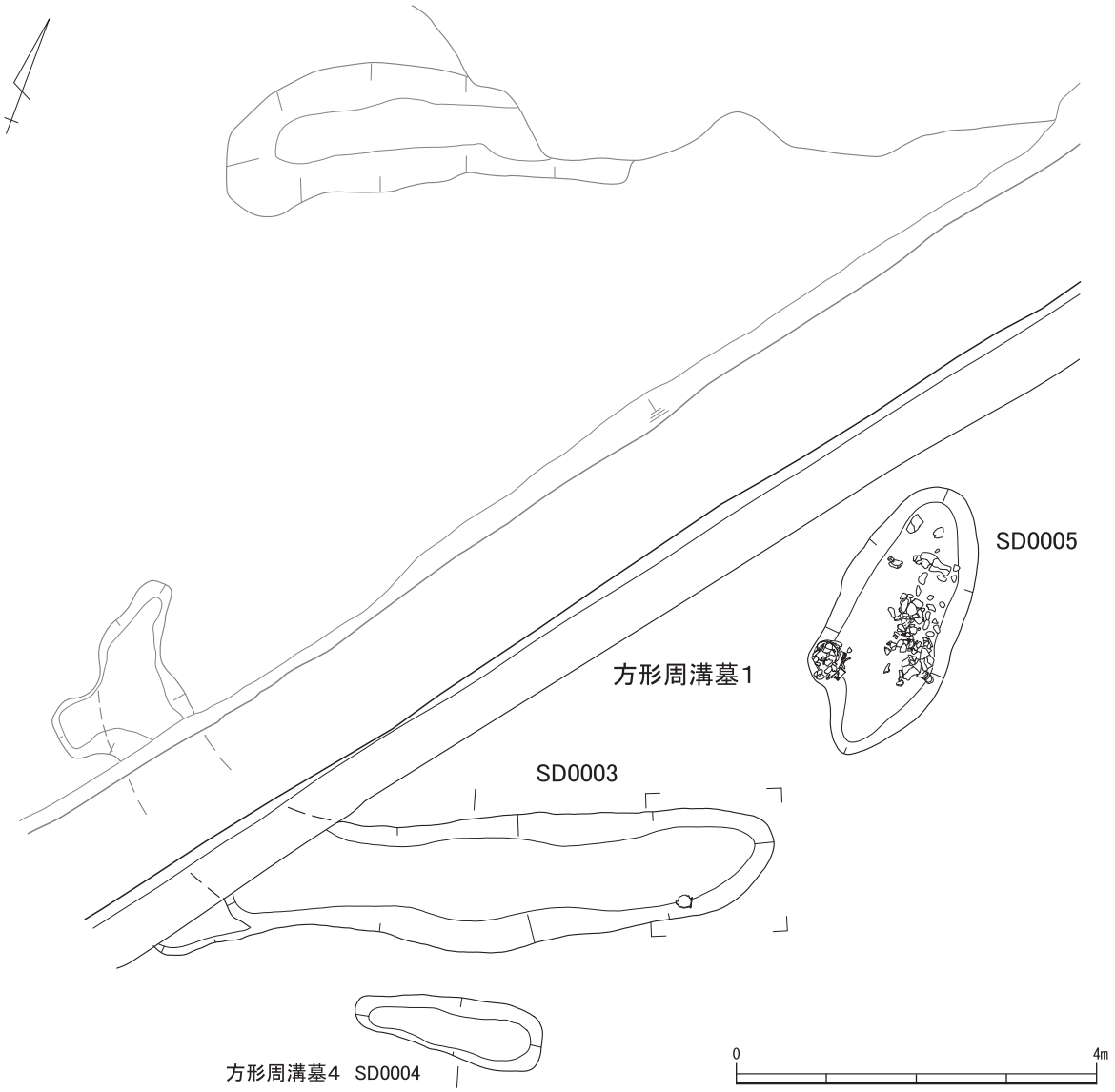
1. 10YR4/1　褐灰色　　極細砂～細砂　炭混じる
2. 7.5YR6/4　にぶい橙色　極細砂～細砂　炭混じる

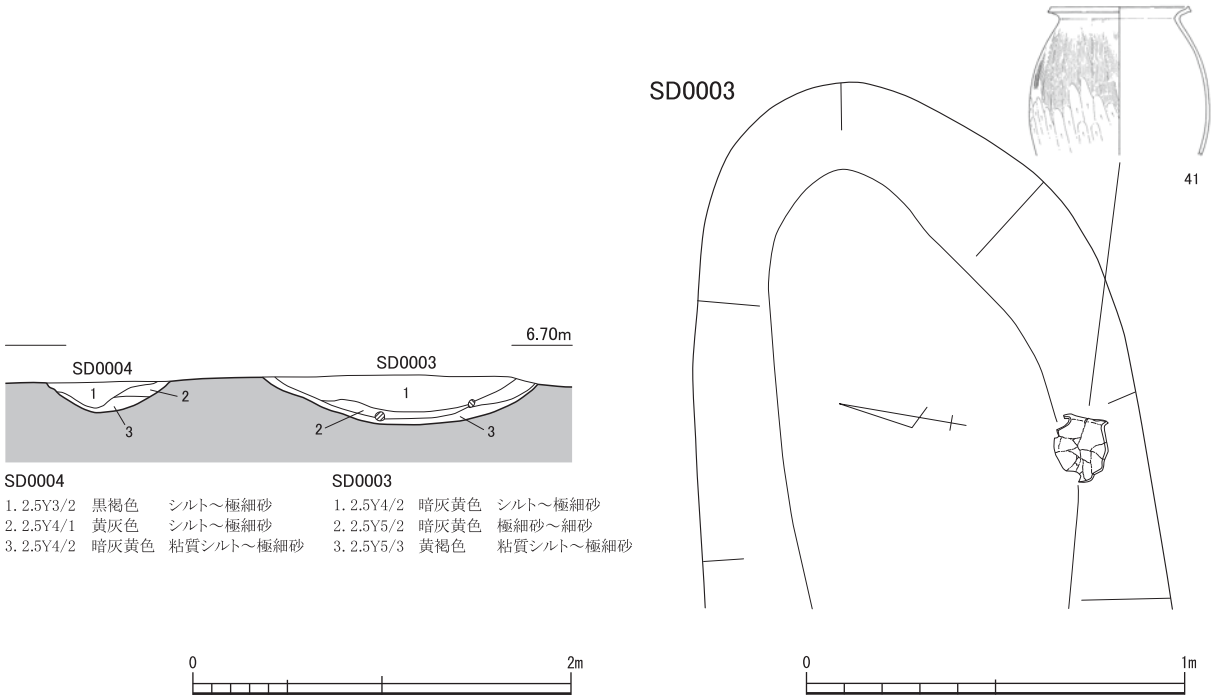
SX0005



1. 7.5YR6/1　褐灰色　　極細砂～細砂　シルト質　炭混じる
2. 10YR6/4　にぶい黄橙色　極細砂～細砂　シルト質

C地区　木棺墓　SX0002 ～ SX0006





SD0004

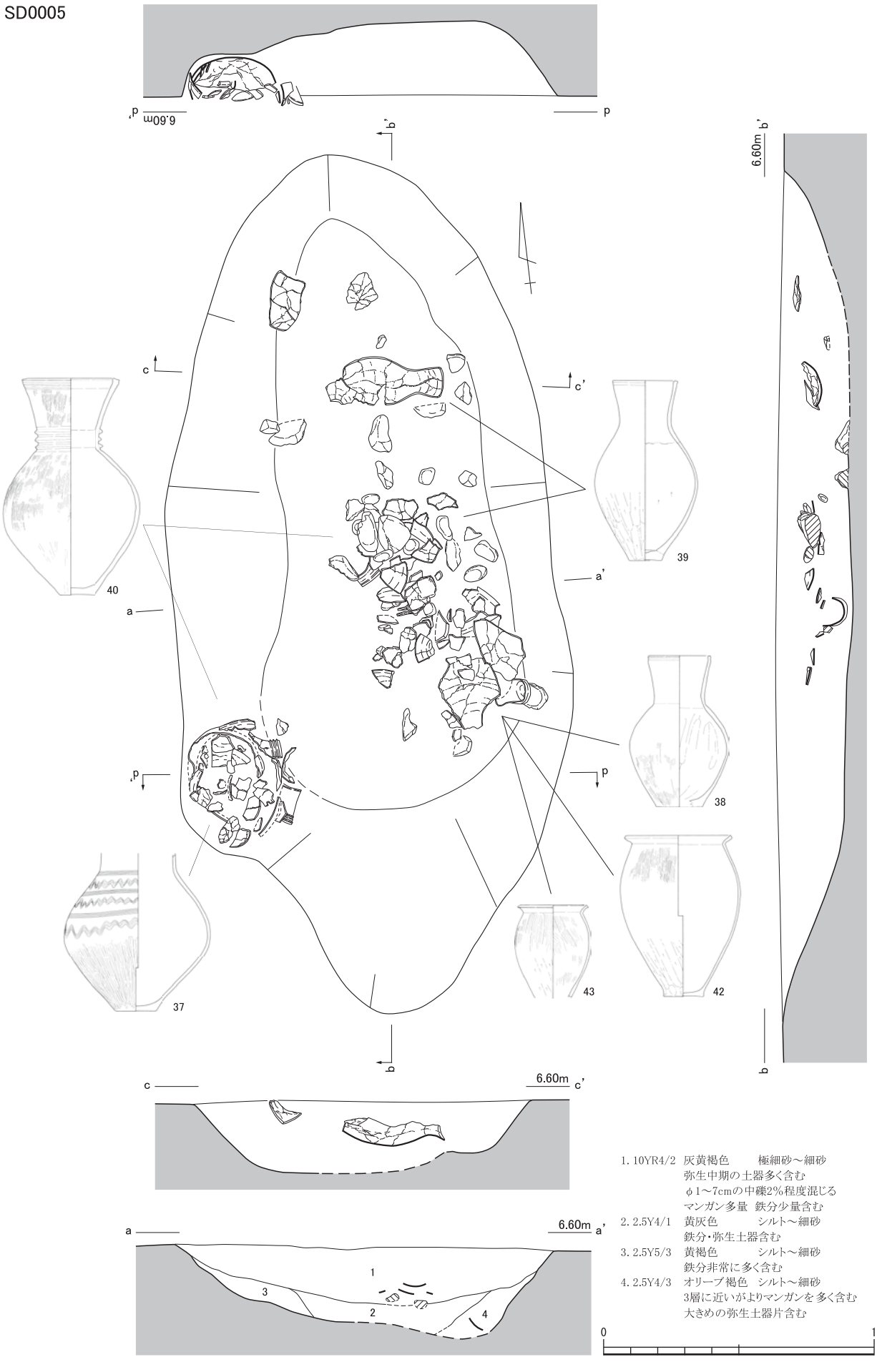
1. 2.5Y3/2　黒褐色　　シルト～極細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　　シルト～極細砂
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色　粘質シルト～極細砂

SD0003

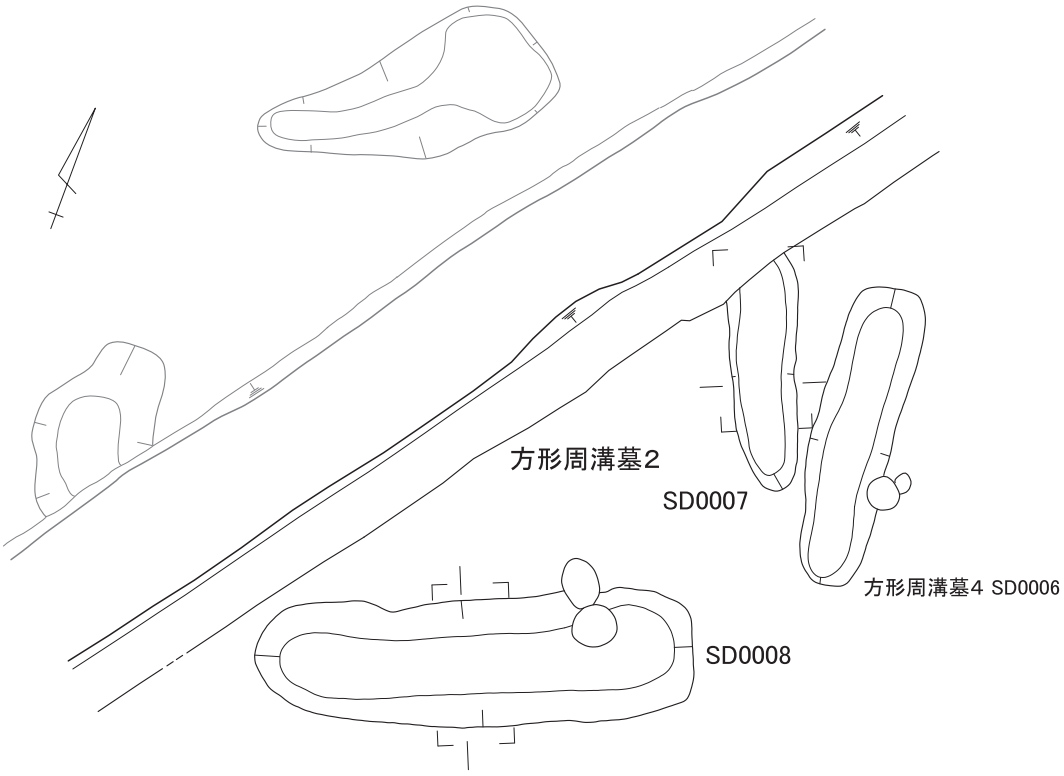
1. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～極細砂
2. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
3. 2.5Y5/3　黄褐色　　粘質シルト～極細砂

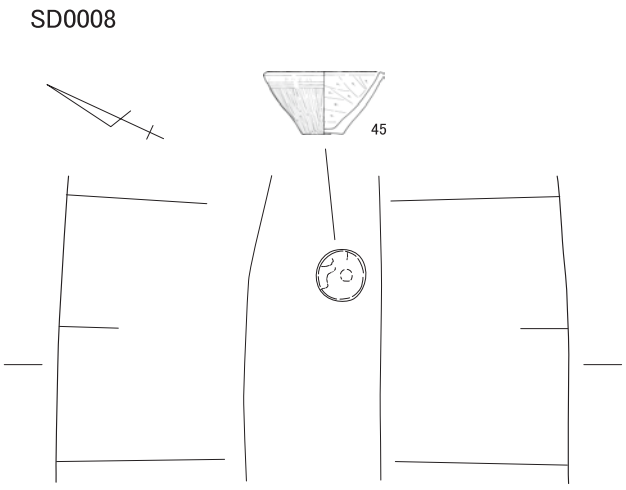
C地区　方形周溝墓1　SD0003・SD0005　方形周溝墓4　SD0004

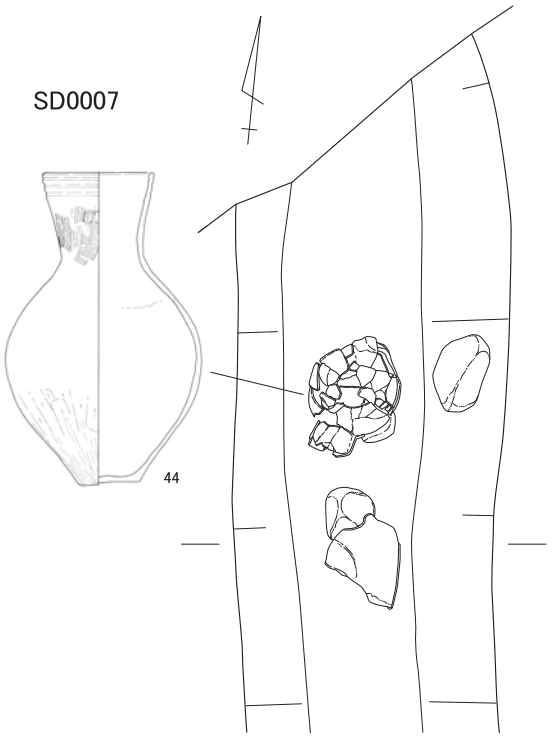
SD0005

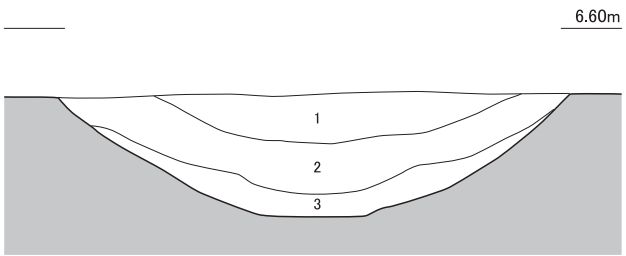


C地区　方形周溝墓1　SD0005

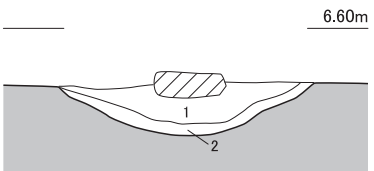






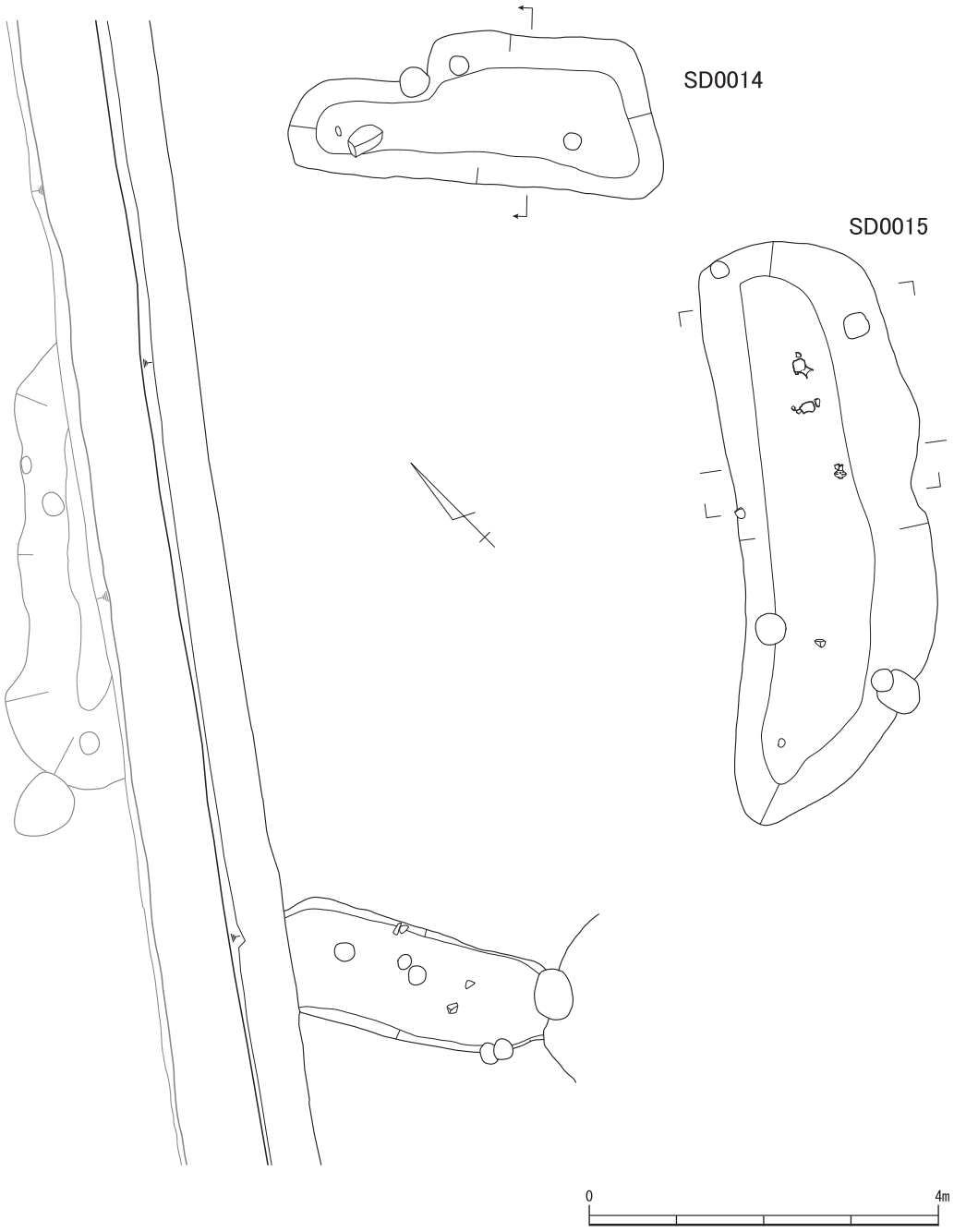


1. 2.5Y4/1　黄灰色　　極細砂～細砂
2. 2.5Y3/1　黒褐色　　粘質シルト～極細砂
3. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト～極細砂

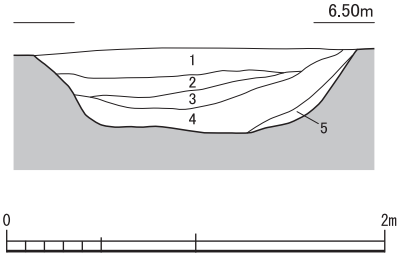


1. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　　極細砂～細砂

C地区　方形周溝墓2　SD0007・SD0008



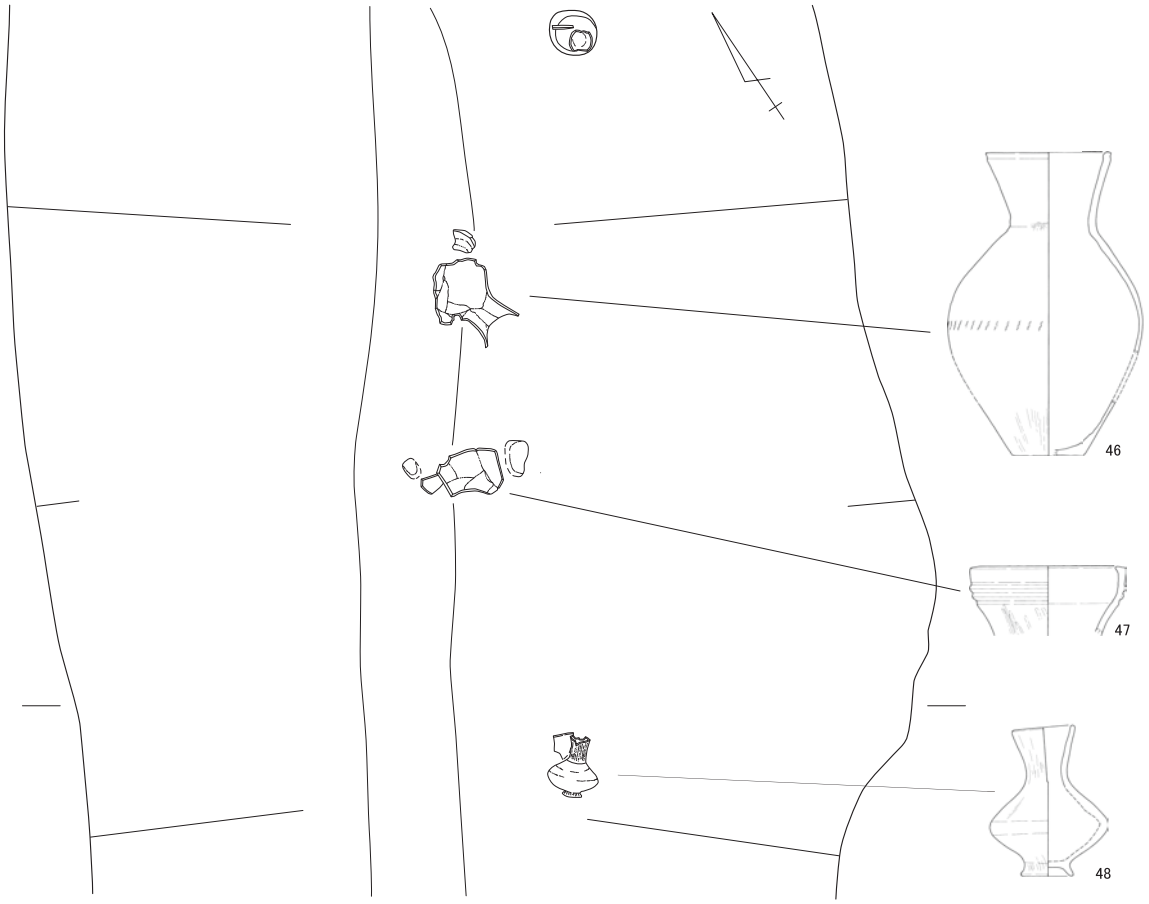
SD0014

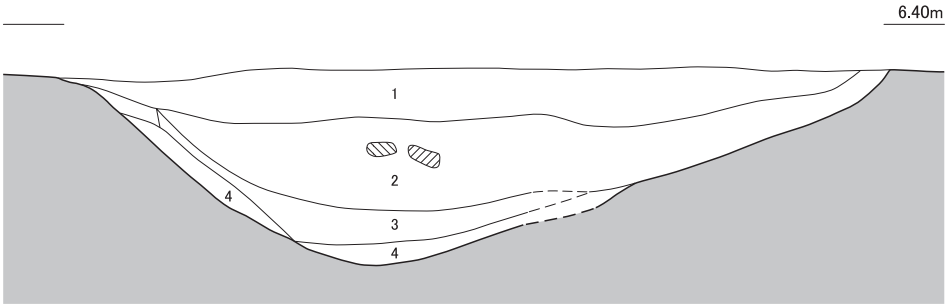


1. 5YR3/1　黒褐色　　極細砂　シルト質
2. 5YR4/1　褐灰色　　極細砂　シルト質
3. 2層よりやや砂質
4. 5YR2/2　黒褐色　　極細砂　シルト質
5. 2.5Y6/6　明黄褐色　極細砂　シルト質　地山土がブロック状に混じる

C地区　方形周溝墓３　SD0014・SD0015

SD0015

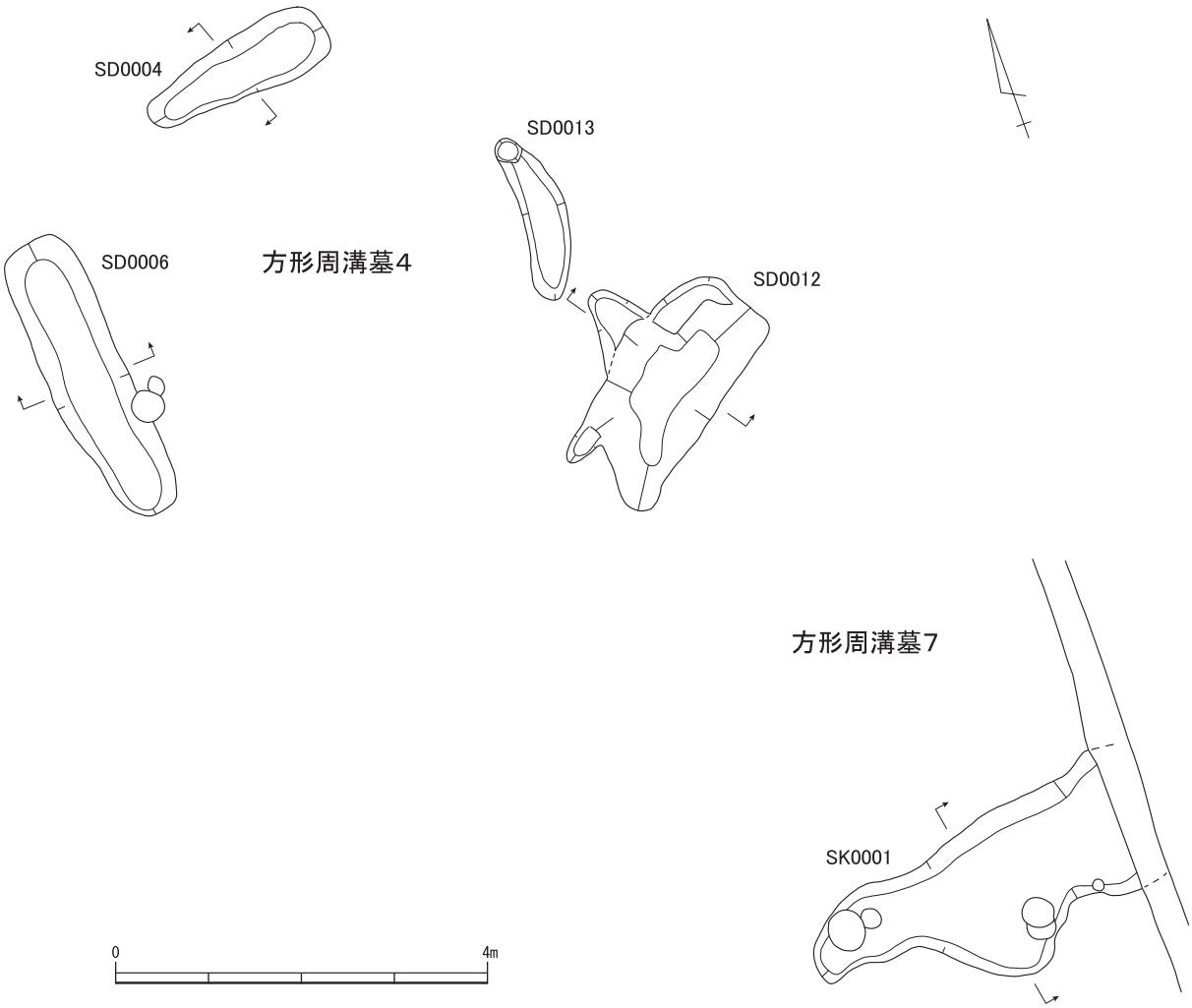




1. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　シルト質
2. 7.5YR4/2　灰褐色　極細砂～細砂　シルト質　土器含む
3. 7.5YR3/2　黒褐色　極細砂～細砂　シルト質
4. 7.5YR5/6　明褐色　極細砂～細砂　シルト質　地山ブロック混じる

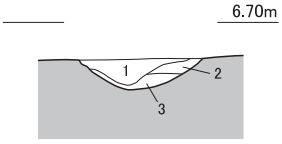
C地区

C地区　方形周溝墓３　SD0015



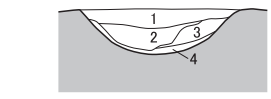
方形周溝墓4

SD0004



1. 2.5Y3/2　黒褐色　　シルト～極細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　　シルト～極細砂
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色　粘質シルト～極細砂

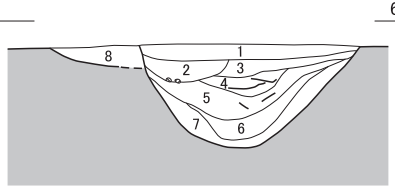
SD0006



1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　　シルト～細砂
3. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト～細砂
4. 2.5Y5/3　黄褐色　　粘質シルト～極細砂

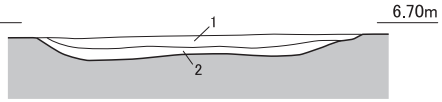
方形周溝墓7

SD0012

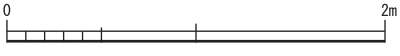


1. 2.5Y6/1　黄灰色　　細砂
2. 10YR4/1　褐灰色　　細砂混じり粘質シルト～極細砂
　部分的に焼土・炭多く含む
3. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト混じり極細砂～細砂
4. 2.5Y5/1　黄灰色　　シルト混じり極細砂～細砂
5. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂
　マンガンやや多く含む
6. 2.5Y6/2　灰黄色　　細砂混じり粘質シルト～極細砂
　マンガンやや多く含む
7. 2.5Y6/1　黄灰色　　細砂混じり粘質シルト
　鉄分多く含む
8. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト混じり極細砂～細砂

SK0001

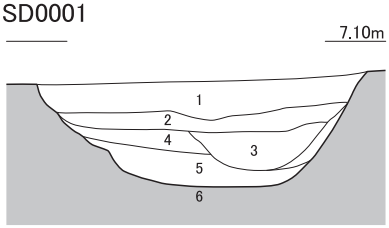


1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト～極細砂
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～細砂



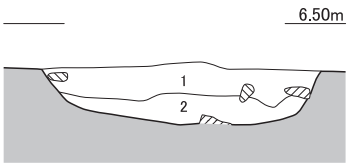
C地区　方形周溝墓４・７　SD0004・SD0006・SD0012・SD0013・SK0001

A　SD0001



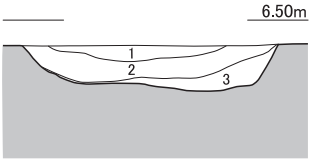
1. 7.5YR4/2　灰褐色　極細砂～細砂　シルト質
2. 7.5YR4/1　褐灰色　細砂～中砂
3. 10YR6/1　褐灰色　中砂
4. 10YR4/1　褐灰色　中砂　円礫混じる
5. 10YR4/1　褐灰色　粗砂　φ2～1cm大の円礫混じる
6. 10YR7/8　黄橙色　極細砂　シルト質

B　SD0002　東側



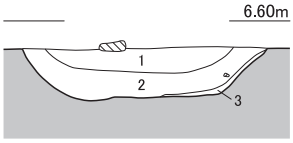
1. 10YR5/2　灰黄褐色　細砂　シルト質
　上層に灰色シルト混じる　土器・炭含む
2. 10YR6/1　褐灰色　　粗砂
　φ20cm前後の円礫混じる　上層にシルト少量混じる

C　SD0002　中央



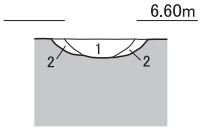
1. 10YR4/1　褐灰色　　極細砂　シルト質
2. 10YR5/1　褐灰色　　極細砂　シルト質
3. 10YR5/2　灰黄褐色　極細砂　シルト質
　（黄シルトと灰黄褐シルトの混じった土）

D　SD0002　西側



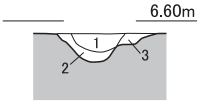
1. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
2. 2.5Y3/2　黒褐色　　粘質シルト～極細砂
3. 2.5Y4/1　黄灰色　　粘質シルト～細砂

E　SD0009

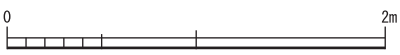


1. 2.5YR4/1　赤灰色　　極細砂　シルト質　炭混じる
2. 7.5YR6/4　にぶい橙色　極細砂

F　SD0010



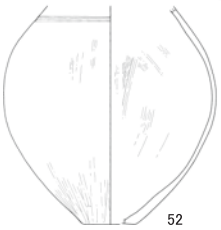
1. 2.5YR4/1　赤灰色　　極細砂　シルト質
2. 2.5Y5/2　　暗灰黄色　極細砂　シルト質
3. 1層よりやや明るい

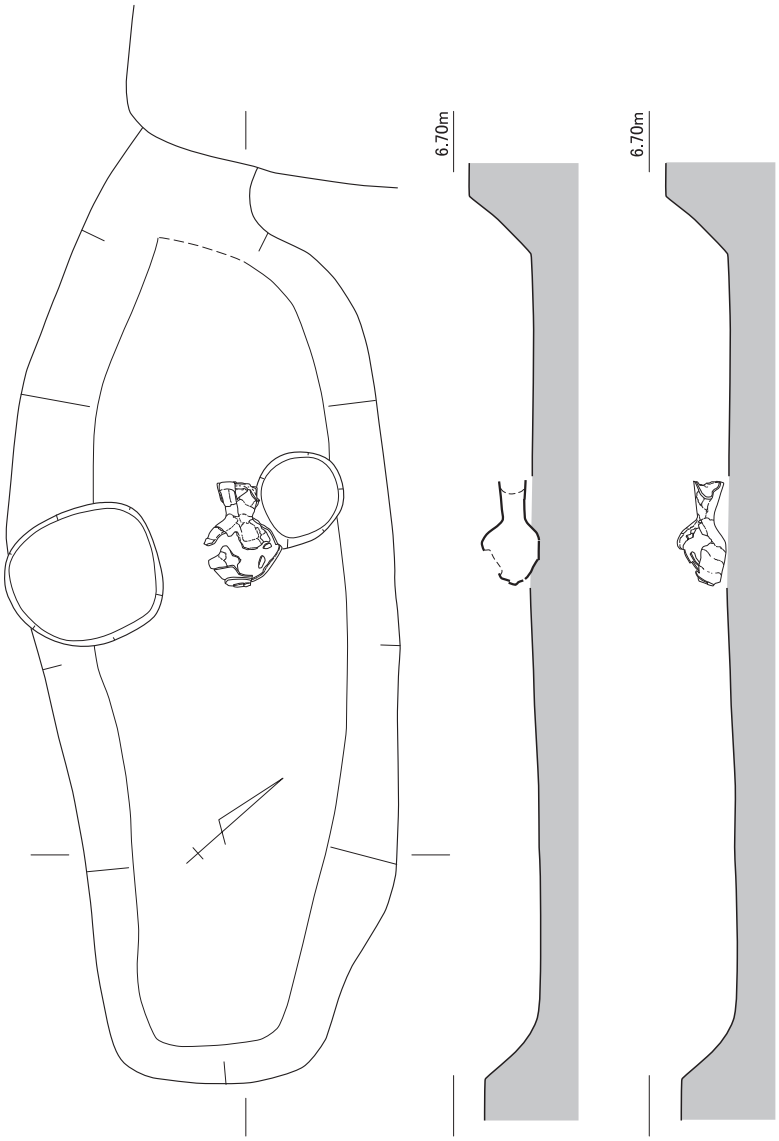


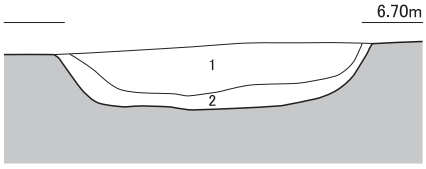
C地区　溝　SD0001・SD0002・SD0009・SD0010

SD0018

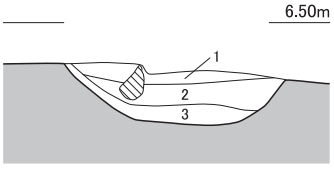
SD0019





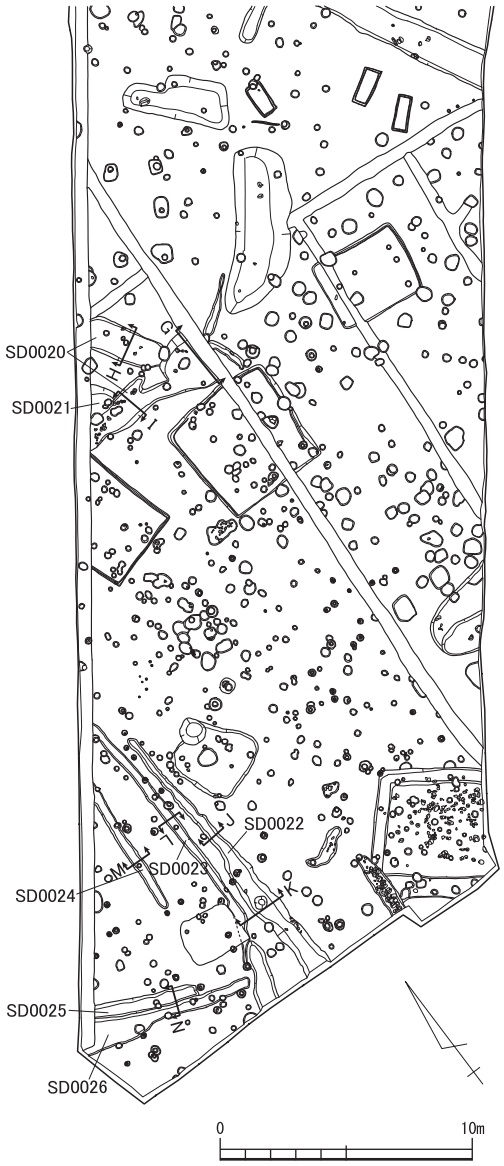


1. 5YR3/1　黒褐色　極細砂　シルト質
2. 5YR6/1　褐灰色　極細砂　やや砂質

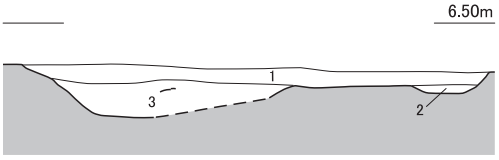


1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂　シルト質
2. 10YR4/2　褐灰色　極細砂　シルト質
3. 10YR6/2　灰黄褐色　極細砂　シルト質

C地区　溝　SD0018・SD0019

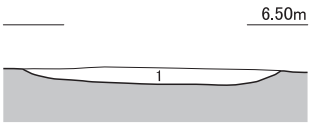


G　SD0020 東側



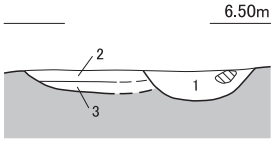
1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　シルト質
2. 10YR5/1　褐灰色　極細砂～砂質　シルト質　土器を含む
3. 10YR6/1　褐灰色　極細砂～細砂　砂質

H　SD0020 西側



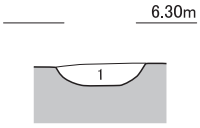
1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂

I　SD0020 南側・SD0021



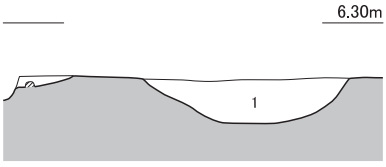
1. 10YR3/1　黒褐色　　極細砂～細砂
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　極細砂～細砂
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂～細砂

J　SD0022



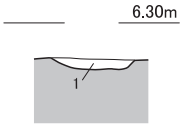
1. 5Y6/1　灰色　粗砂　流路

K　SD0023・SD0022



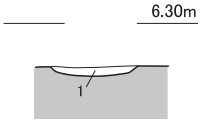
1. 5Y6/1　灰色　粗砂　流路

L　SD0023



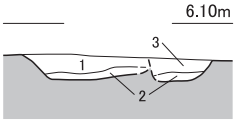
1. 7.5YR4/1　褐灰色
極細砂～細砂　シルト質

M　SD0024

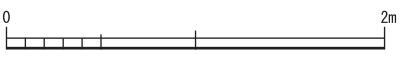


1. 10YR6/1　褐灰色　細砂～中砂　砂質

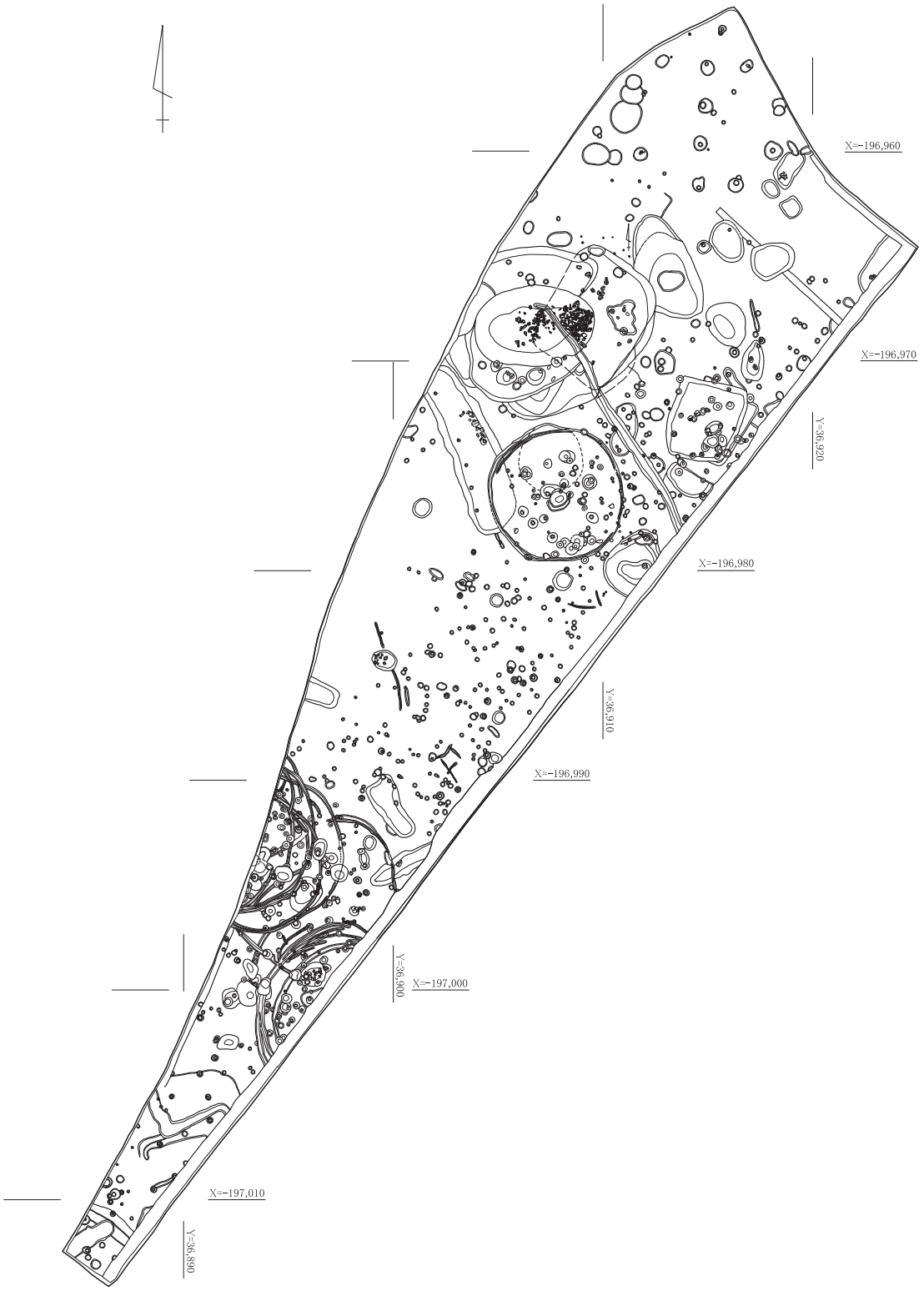
N　SD0025・SD0026



1. 10YR5/1　褐灰色　　極細砂～細砂
2. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂～細砂
3. 10YR5/2　灰黄褐色　極細砂～細砂



C地区　溝　SD0020 ～ SD0026


X=-196,960
X=-196,970
Y=36,920
X=-196,980
Y=36,910
X=-196,990
Y=36,900
X=-197,000
X=-197,010
Y=36,890

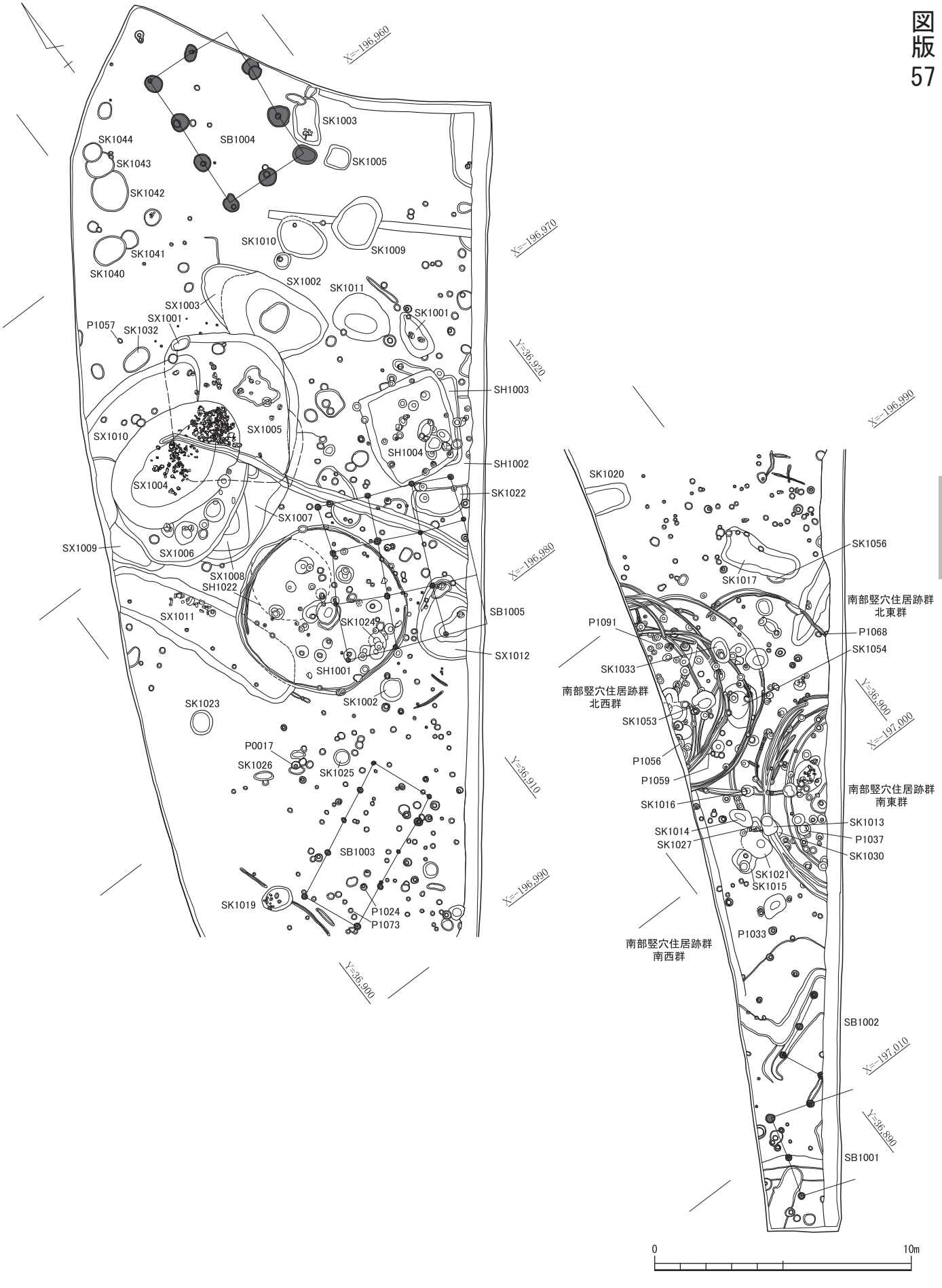
0
20m

D地区　全体図１

東壁

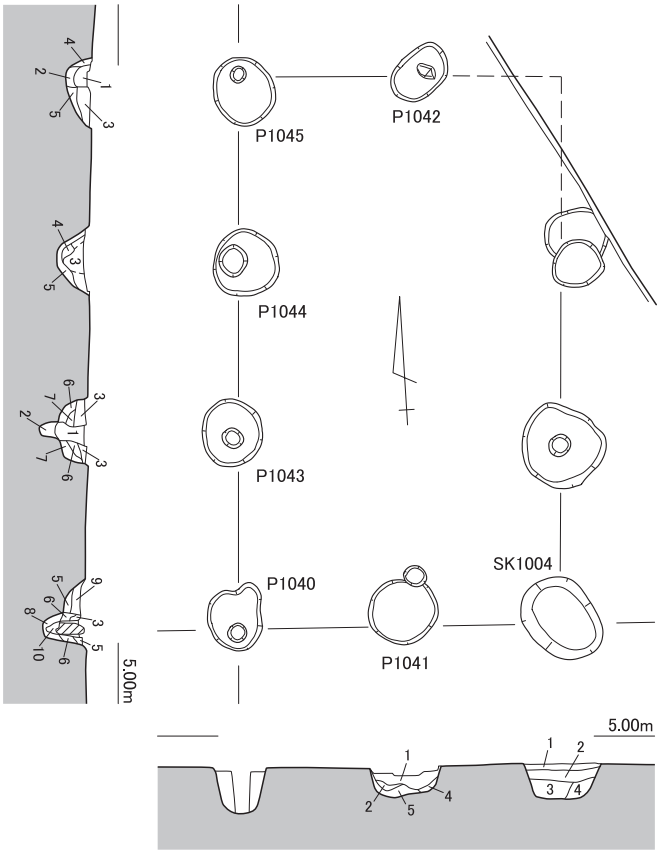
1. 5Y6/1～10YR7/1	灰色～灰白色	細砂混じり極細砂＋床土　複数枚の水田	
2. 5Y8/4	淡黄色	極細砂　鉄分を 含む　灰白色調	
3. 2.5Y5/6	黄褐色	細砂質極細砂　鉄分を含む 1.2層の床土	
4. 5Y6/1～7.5Y6/1	灰色	シルト混じり極細砂　φ5mmの礫・粗砂が混じる	
		中世の包含層か、鉄分・マンガンを含む	
5. 10YR5/6～2.5Y4/2	黄褐色～暗灰黄色	極細砂～シルト質極細砂	
6. 10YR6/1～5YR6/1	褐灰色	シルト混じり極細砂質細砂～細砂質極細砂	
7. 7.5YR6/1	褐灰色	シルト質極細砂　層上半は上層の影響で土壌化	
		下半は2.5Y7/2 灰黄色 ベース	
8. 2.5Y6/1	黄灰色	シルト混じり細砂	
9. 2.5Y5/1	黄灰色	シルト混じり細砂	
10. 10YR6/1	褐灰色	シルト質細砂	
11. 10YR6/1	褐灰色	細砂質極細砂	
12. 2.5Y6/1	黄灰色	シルト質極細砂	
13. 2.5YR5/1	赤灰色	シルト・細砂混じり極細砂	
14. N5/0	灰色	シルト混じり極細砂　灰色調	
15. 10YR4/4	褐色	シルト質極細砂　鉄分・マンガンを含む	
16. 2.5Y7/4～7/1	浅黄色～灰白色	極細砂　灰色土＋地山ブロック	
17. 5Y7/3	浅黄色	細砂混じり極細砂	
18. 10YR6/1	褐灰色	極細砂質細砂　炭化物を 多く 含む	
19. 5YR3/2	暗赤褐色	シルト混じり極細砂	
20. 5Y5/1	褐灰色	シルト混じり細砂	
21. 7.5YR5/2	灰褐色	極細砂	
22. 7.5YR5/4	にぶい褐色	極細砂質細砂	
23. 5YR5/1	褐灰色	極細砂質シルト	
24. 10YR5/4	にぶい黄褐色	極細砂	
25. 7.5YR5/2	灰褐色	極細砂	
26. 7.5YR5/2	灰褐色	極細砂　SD1003か	
27. 2.5YR5/1～6/1	赤灰色	細砂質極細砂	
28. 5YR6/1	褐灰色	シルト混じり極細砂	
29. 5YR6/1	褐灰色	シルト混じり極細砂	
30. 5YR6/1	褐灰色	シルト・細砂混じり極細砂	
31. 5YR6/1	褐灰色	極細砂	
32. 5YR6/1	褐灰色	シルト質極細砂	
33. 5YR6/1	褐灰色	シルト質極細砂　マンガンを含む	
34. 10YR5/1～6/1	褐灰色	極細砂	
35. 10YR5/1～6/1	褐灰色	極細砂　マンガン斑模を 多く 含む	
36. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質極細砂	
37. 2.5YR3/2	暗赤褐色	極細砂	
38. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質極細砂	
39. 2.5YR6/1	赤灰色	シルト混じり極細砂	
40. 7.5R4/1	暗赤灰色（暗調）	極細砂混じり細砂　土坑埋土	
41. 5YR5/1	褐灰色	極細砂	
42. 7.5R3/1	暗赤灰色	シルト混じり極細砂	
43. 7.5YR3/2	黒褐色	極細砂	
44. 5YR4/1	褐灰色	シルト質極細砂	
45. 10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質極細砂	
46. 5YR6/1	褐灰色	シルト質極細砂	
47. 7.5YR6/1	褐灰色	極細砂	
48. 7.5YR6/1	褐灰色	シルト混じり細砂	
49. 10YR6/1	褐灰色	シルト混じり細砂	
50. 溝			
51. 溝			
52. 溝			

D地区　東壁土層断面図


X=196,960
X=196,970
X=196,980
X=196,990
X=197,000
X=197,010
Y=36,920
Y=36,910
Y=36,900
Y=36,890
SK1003
SK1044
SB1004
SK1043
SK1005
SK1042
SK1010
SK1009
SK1041
SK1040
SX1002
SK1011
SX1003
SK1001
SX1001
P1057
SK1032
SH1003
SX1010
SX1005
SH1004
SH1002
SX1004
SK1022
SX1007
SX1009
SX1006
SX1008
SH1022
SX1011
SK1024
SB1005
SX1012
SH1001
SK1002
SK1023
P0017
SK1026
SK1025
SB1003
SK1019
P1024
P1073
SK1020
SK1056
SK1017
南部竪穴住居跡群
北東群
P1091
P1068
SK1054
SK1033
南部竪穴住居跡群
北西群
SK1053
P1056
P1059
南部竪穴住居跡群
南東群
SK1016
SK1013
SK1014
P1037
SK1027
SK1030
SK1021
SK1015
P1033
南部竪穴住居跡群
南西群
SB1002
SB1001
0
10m

D地区　全体図２

SB1004

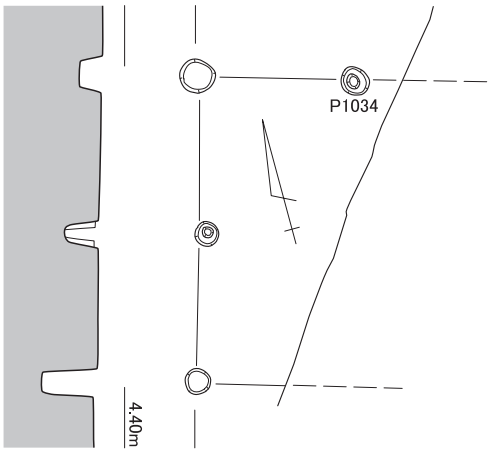


1. 7.5YR3/1　黒褐色　シルト～極細砂　シルト質埴壌土　遺物粒を少量含む
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト～極細砂　シルト質埴土　下半部にベースがブロック状に混じる
3. 7.5YR3/1　黒褐色　シルト～極細砂　シルト質埴壌土
4. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂　砂土　ベース土構成
5. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂　砂土　ベース土構成　マンガンを少量含む
6. N4/　灰色　粘土～シルト　シルト質埴壌土
7. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　砂質埴土
8. N6/　灰色　シルト～細砂　砂質埴土
9. 10YR4/1　褐灰色　シルト～極細砂　シルト質埴土　ベース土が混じる
10. N6/　灰色　細砂～粗砂　砂土

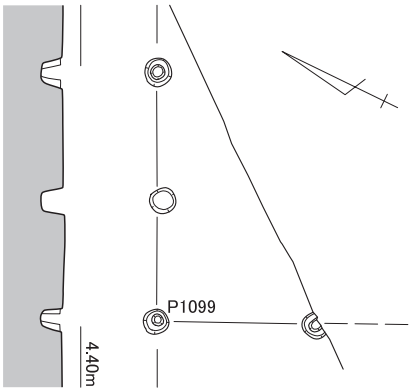
SK1004

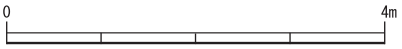
1. 2.5Y6/1　黄灰色　極細砂～細砂　シルト質
2. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂　シルト質
3. 2.5Y5/4　黄灰色　極細砂～細砂　シルト質　土器片を含む
4. 2.5Y5/6　黄灰色　極細砂～細砂　シルト質

SB1001



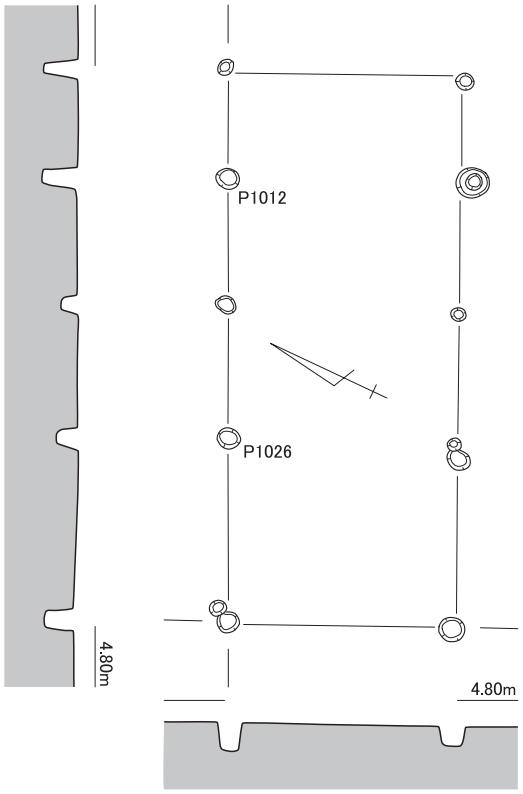
SB1002



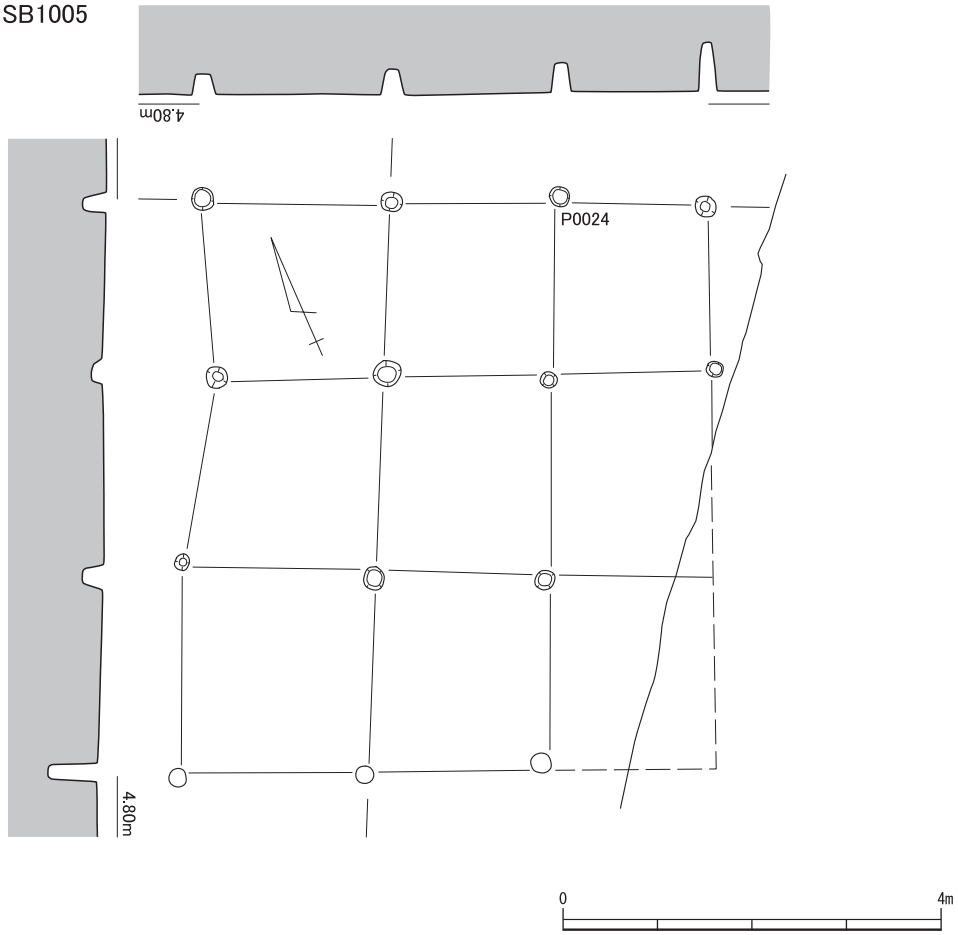


D地区　掘立柱建物跡　SB1001・SB1002・SB1004

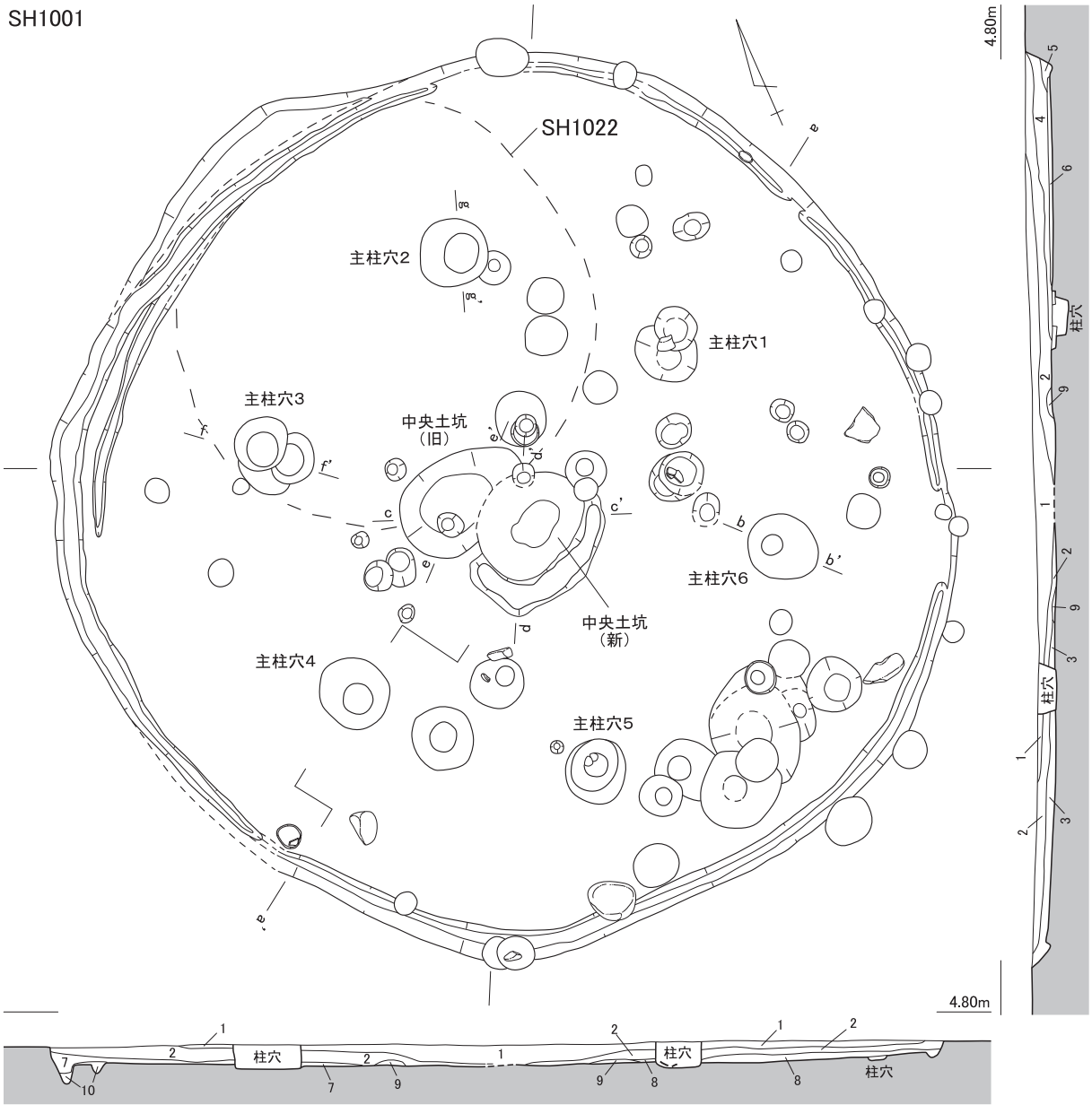
SB1003



SB1005

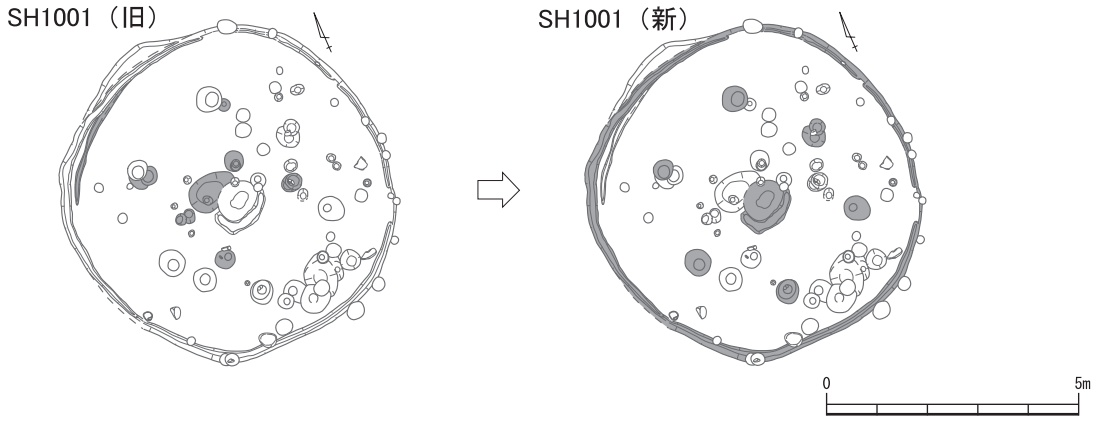


D地区　掘立柱建物跡　SB1003・SB1005

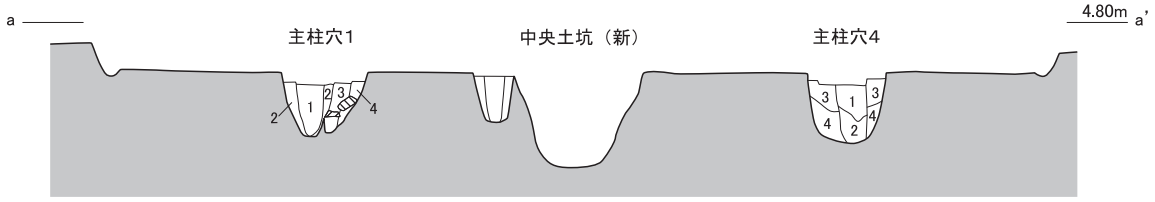


1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　　マンガン・鉄分含む
2. 10YR3/1　黒褐色　シルト～細砂　　炭化物わずかに含む　マンガン・鉄分含む
3. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～細砂　　炭化物わずかに含む　鉄分多く含む
4. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　　炭極わずか含む　マンガン・鉄分含む
5. 10YR5/1　褐灰色　シルト～細砂　　マンガン・鉄分含む
6. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂　　炭化物よく含む　マンガン含む　鉄分よく含む
7. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂　　鉄分含む　ベースがブロック状に混じる（φ0.3～0.8cm大　5%程度）
8. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂　　ベースがブロック状に混じる（φ0.3～1.0cm大　10%程度）
9. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂　炭含む　ベースがブロック状に混じる
10. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂　炭・マンガン・鉄分含む

0　2m

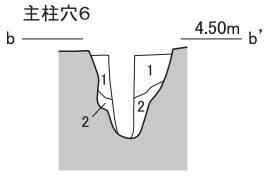


D地区　竪穴住居跡　SH1001

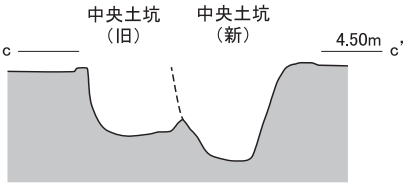


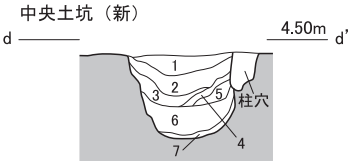
1. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂
　マンガン含む　炭少量含む
2. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　マンガン少量含む
3. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂
　マンガン・鉄分含む
4. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　マンガン・鉄分含む　炭わずかに含む

1. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂
　マンガン多く炭わずかに含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　マンガン少量含む
3. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂
　鉄分多く含む
4. 2.5Y6/1　黄灰色　粘質シルト混じり細砂～中砂
　鉄分含む



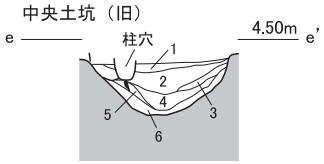
1. 2.5Y6/1　黄灰　粘質シルト～極細砂　マンガン含む
2. 2.5Y4/1　黄灰　粘質シルト～極細砂



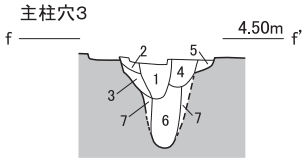


1. 10YR4/4　褐色　シルト～極細砂
　マンガン浸透　炭・土器少量含む
2. 10YR4/4　褐色　シルト～極細砂
　マンガン浸透　炭・土器少量含む
3. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
　マンガン浸透　炭含む
4. 10YR6/6　明黄褐色　シルト～極細砂
　地山シルトのブロックが大半を占める
5. 10YR4/4　褐色　シルト～極細砂
　マンガン浸透
6. 10YR3/1　黒褐色　シルト～極細砂
　炭層　多量の炭によって堆積
7. 10YR7/6　明黄褐色　シルト～極細砂
　地山土　シルト質

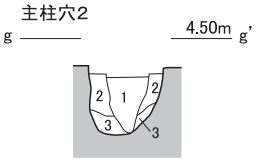
柱穴. 7.5YR4/1　褐灰色　シルト～極細砂
　マンガン沈着　灰色シルトを基調とする堆積



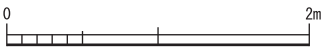
1. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　炭わずか・マンガン少量・鉄分多く含む
2. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　炭わずか・鉄分多く含む
3. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
　炭わずか・マンガン・鉄分含む
4. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　鉄分含む　炭ごくわずかに含む
5. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　マンガン・鉄分含む　炭ごくわずかに含む
6. N2/　黒色　粘質シルト～極細砂
　鉄分わずかに含む



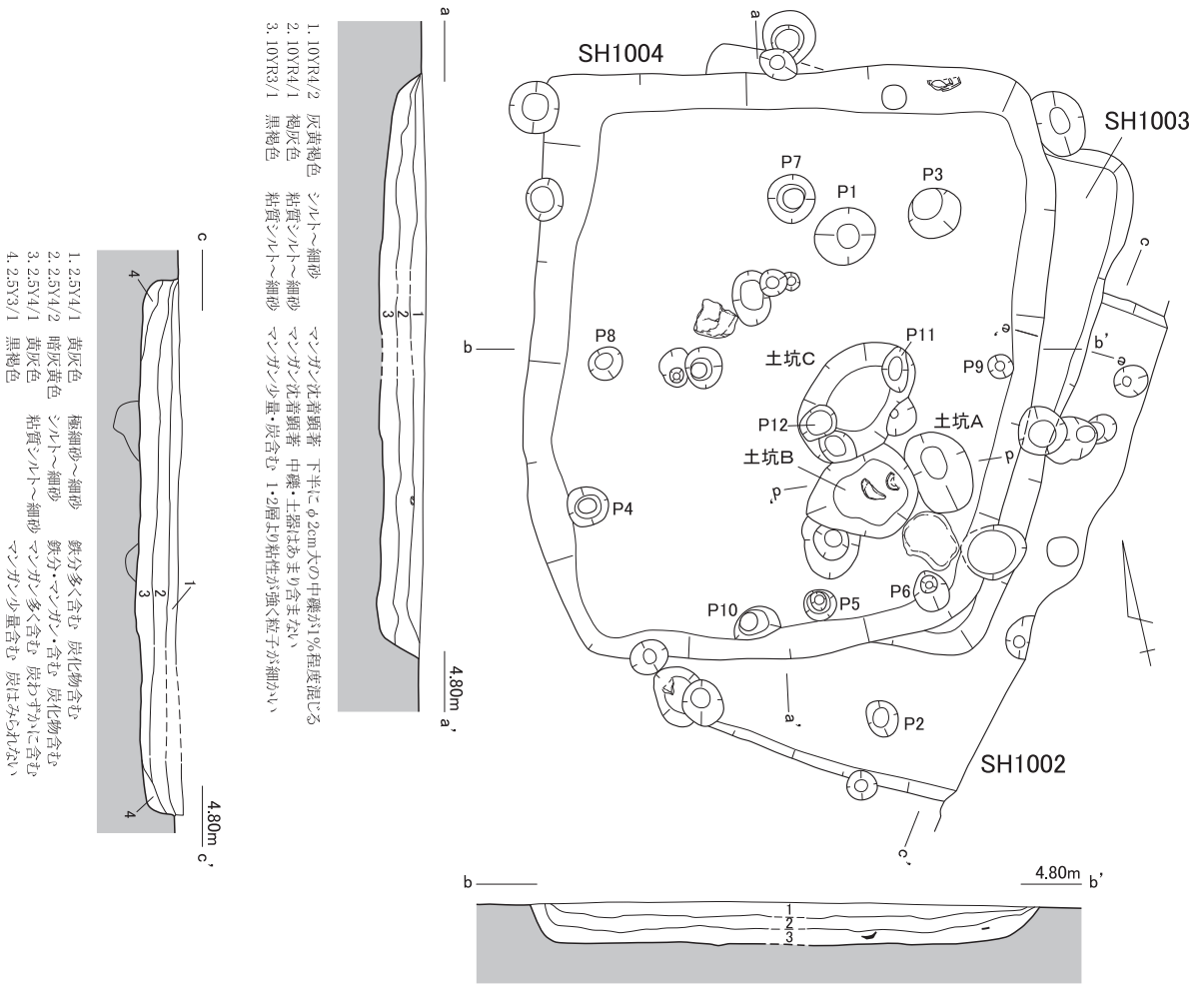
1. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　マンガン含む
2. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
　鉄分含む
3. 2.5Y6/2　灰黄色　粘質シルト～細砂
　鉄分含む
4. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　マンガン含む
5. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
　鉄分含む
6. 10YR4/2　灰黄褐色　粘質シルト～細砂
　鉄分多く含む
7. 2.5Y7/1　灰白色　中砂混じり粘土～粘質シルト
　鉄分多く含む



1. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂
　炭化物少量含む　マンガン含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　炭化物わずかに含む　マンガン・鉄分含む
3. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　炭化物わずかに含む　マンガン・鉄分含む



D地区　竪穴住居跡　SH1001　中央土坑・主柱穴断面図



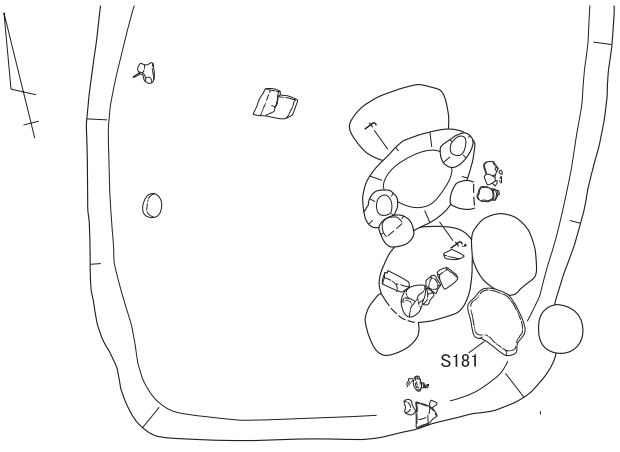
土坑A

1. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　φ0.2～2.5cm大の炭化物含む　鉄分含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　中砂混じり粘土～粘質シルト
　ベースがブロック状に混じる（φ0.4～0.8cm大　20%程度）
3. 2.5Y3/1　黒褐色　中砂混じり粘土～粘質シルト
　ベースがブロック状に混じる（φ0.5～1.0cm大　5%程度）

土坑B

1. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂
　炭をラミナ状に沿って含む　土器片を少量含む
2. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　φ20cmの礫が混じる　下部に土器片を含む　鉄分多く含む
3. 10YR2/1　黒色　中砂混じり粘土～粘質シルト
　炭化物・ベースをブロック状に含む

1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
　マンガン・鉄分含む
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
　マンガン・鉄分含む
3. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂
　マンガン・鉄分含む
4. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂
　マンガン多く含む

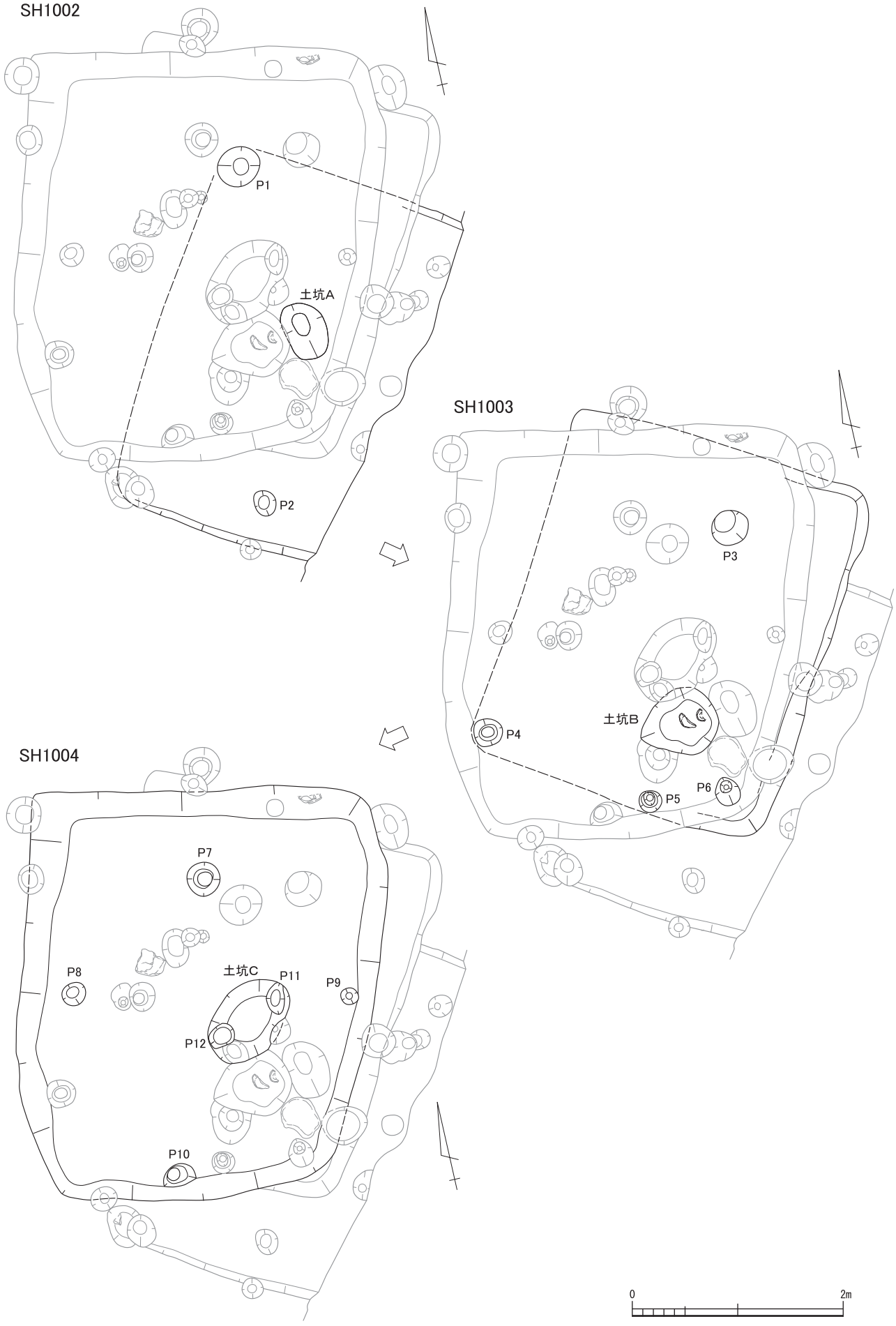


SH1004　土坑C

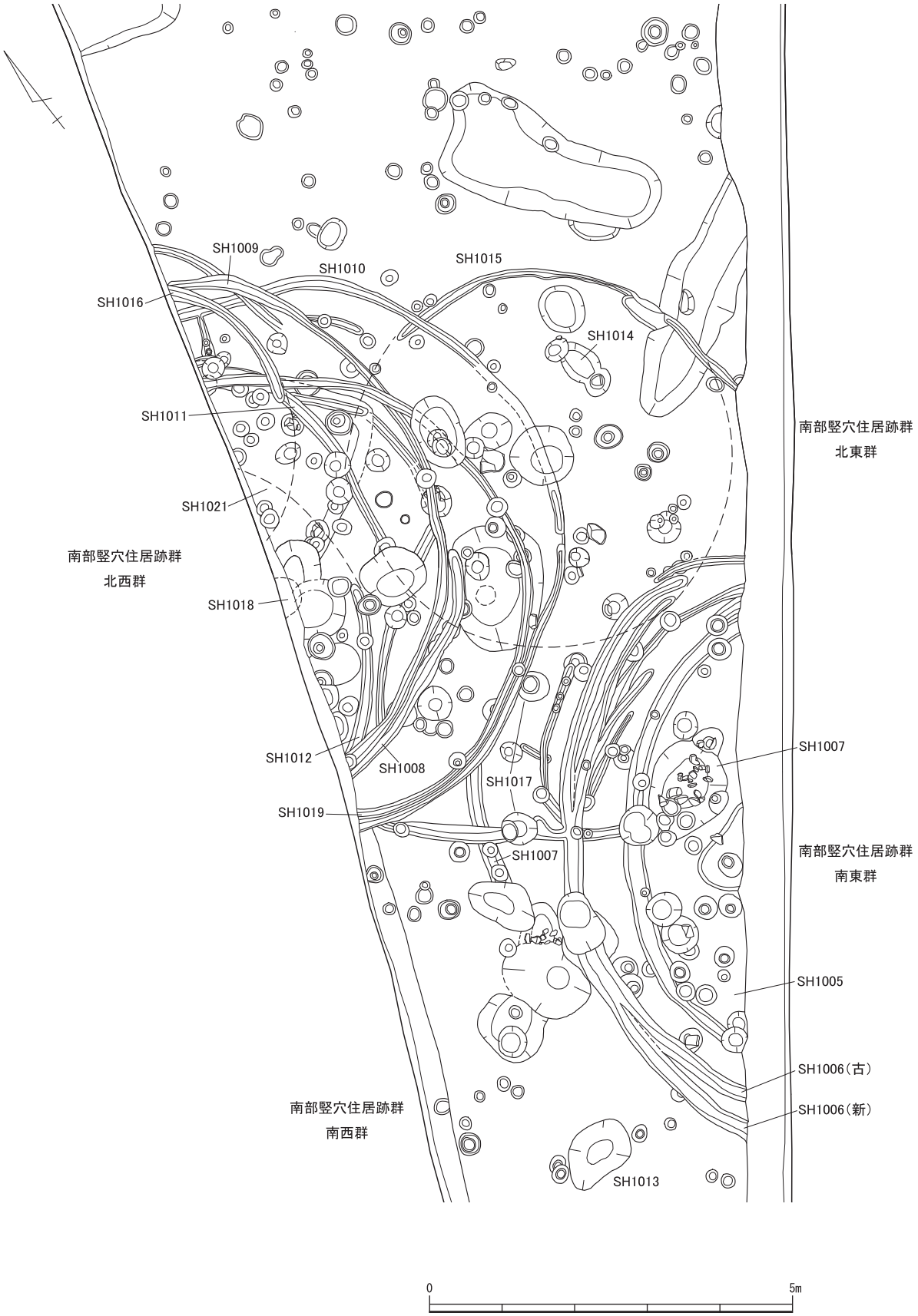
1. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　マンガン含む
　2・3層に比べて均一感あり　炭化物含む　鉄分は含まない
2. 10YR4/1　褐灰色　中砂混じり粘質シルト～極細砂
　マンガン・鉄分薄く沈着
　ベースがブロック状に混じる（φ1cm大　5%程度）　全体が炭っぽい
3. 10YR3/1　黒褐色　細～中砂混じり粘質シルト～極細砂
　ベースがブロック状に混じる（φ0.8～1.5cm大　40%程度）下半に集中

0　2m

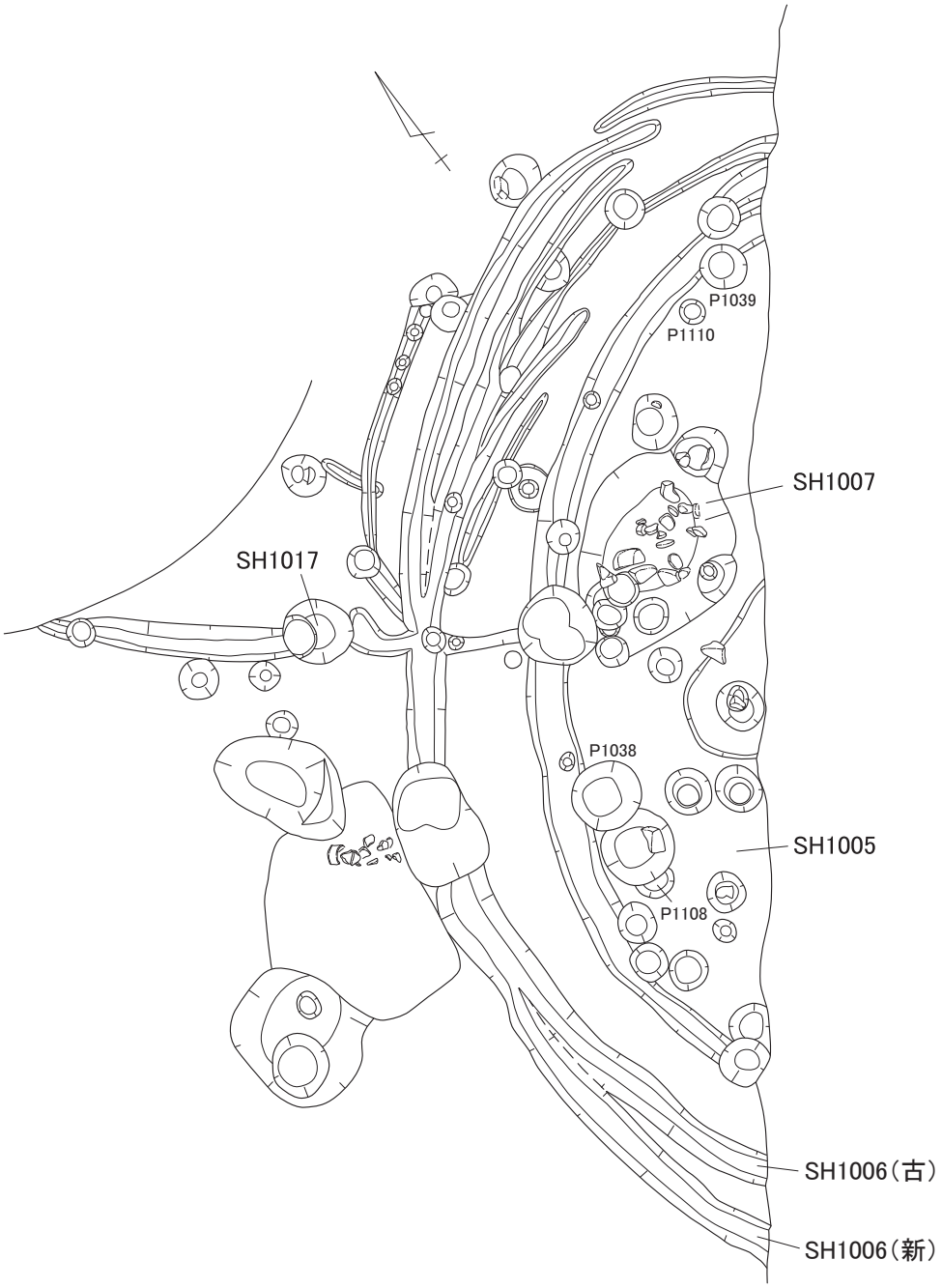
D地区　竪穴住居跡　SH1002・SH1003・SH1004



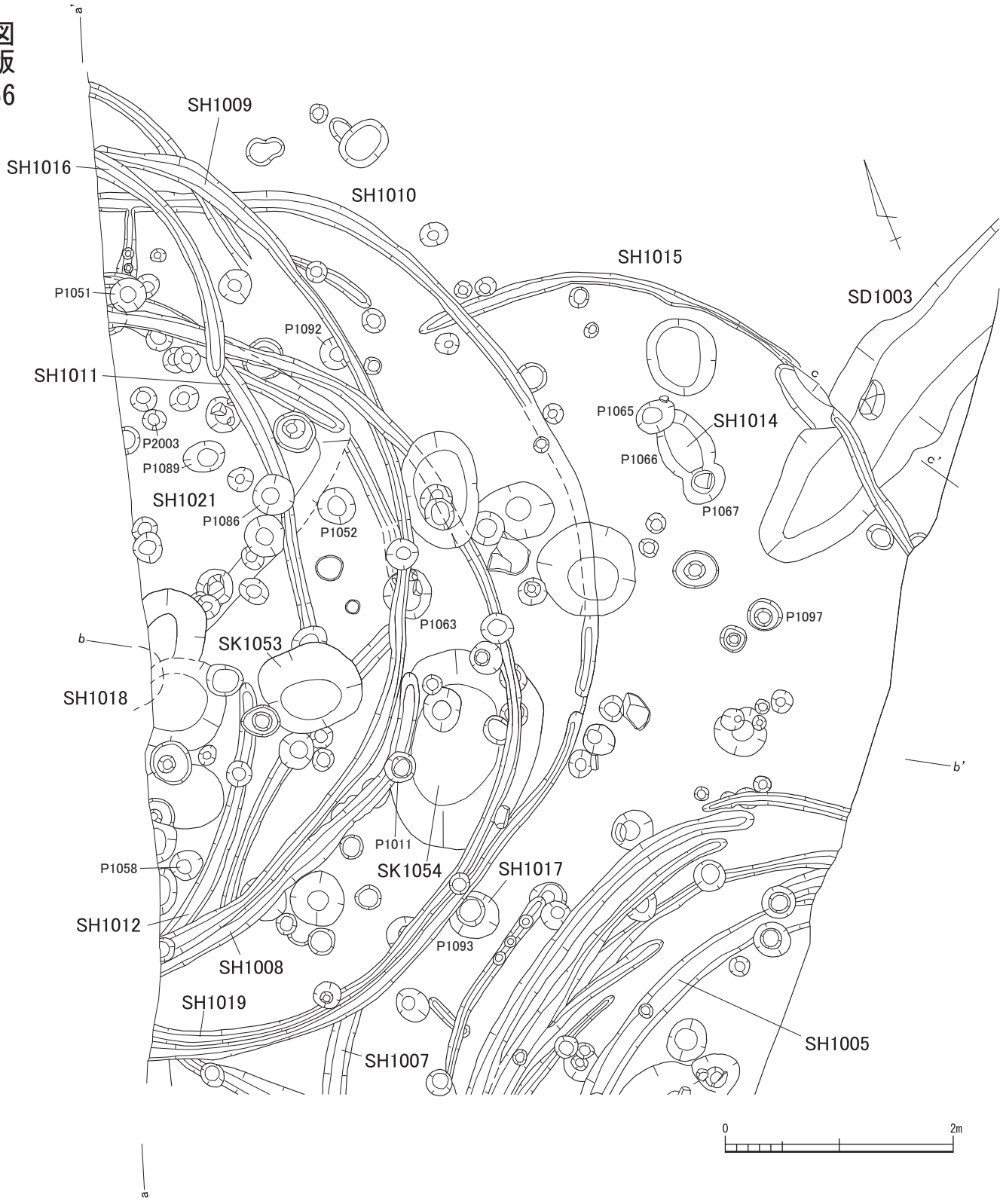
D地区　竪穴住居跡　SH1002・SH1003・SH1004 変遷図



D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群１



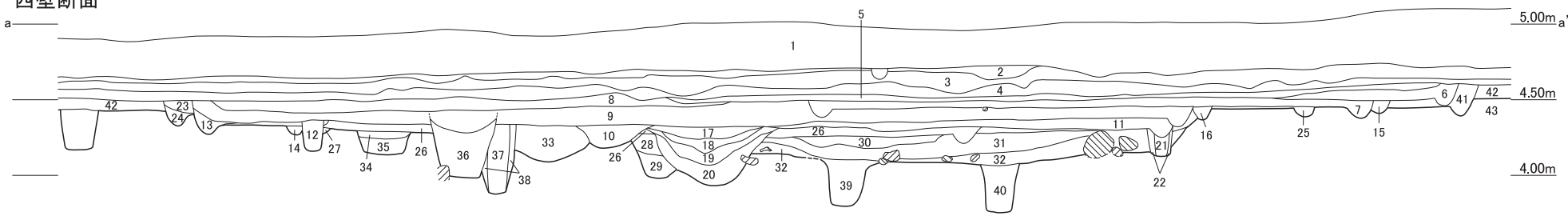
D地区　竪穴住居跡　SH1005 ～ SH1007・SH1017



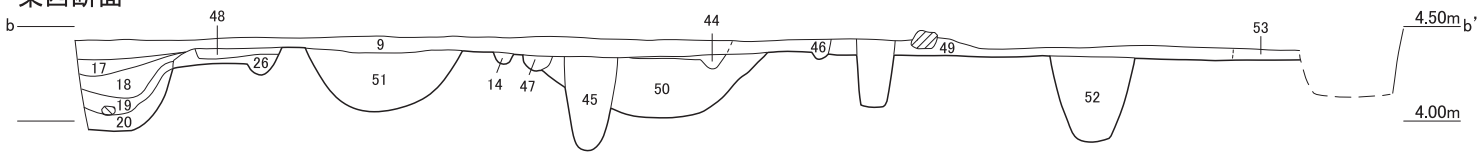
D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群２

D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群土層断面図

西壁断面

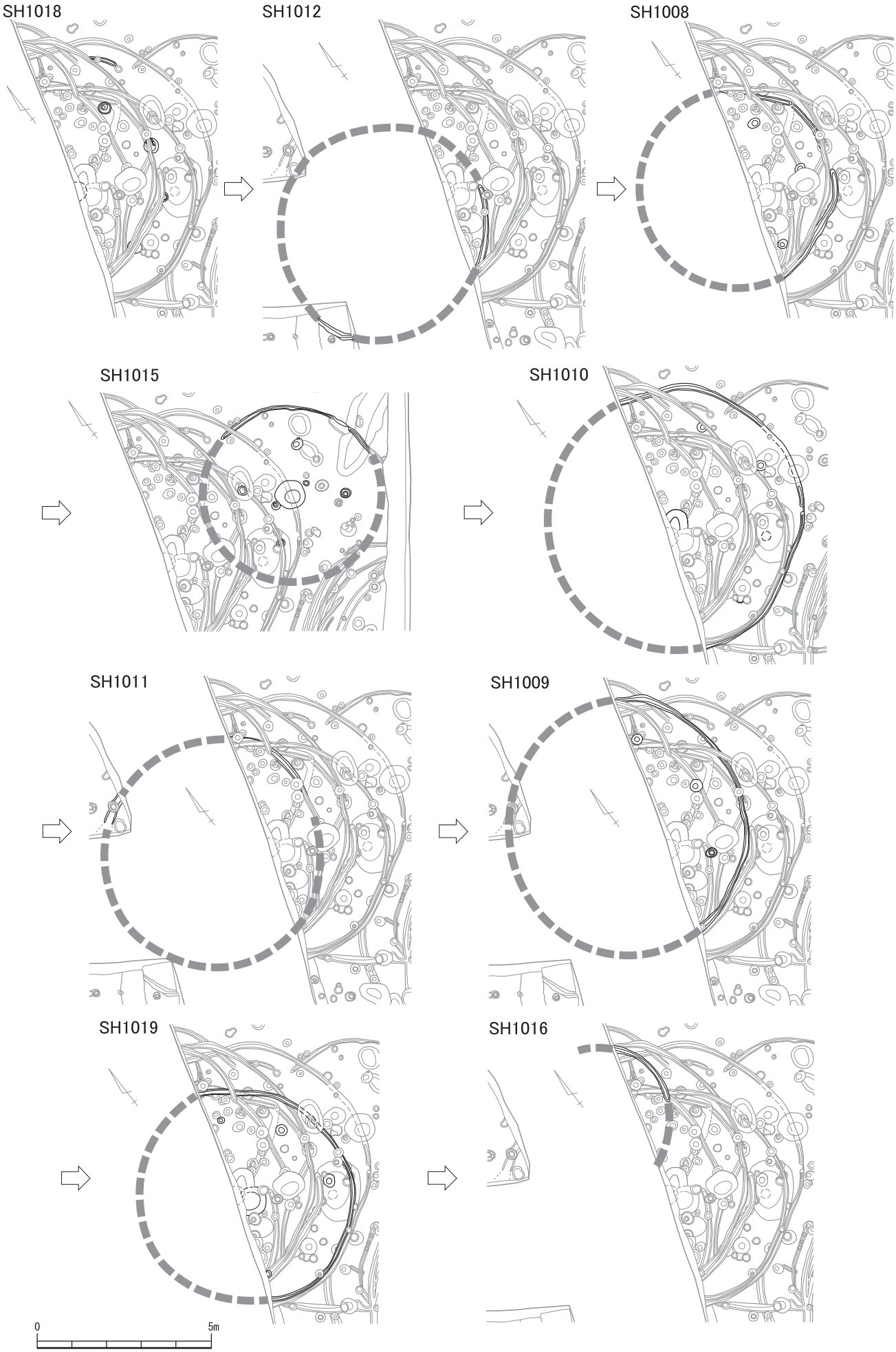


東西断面

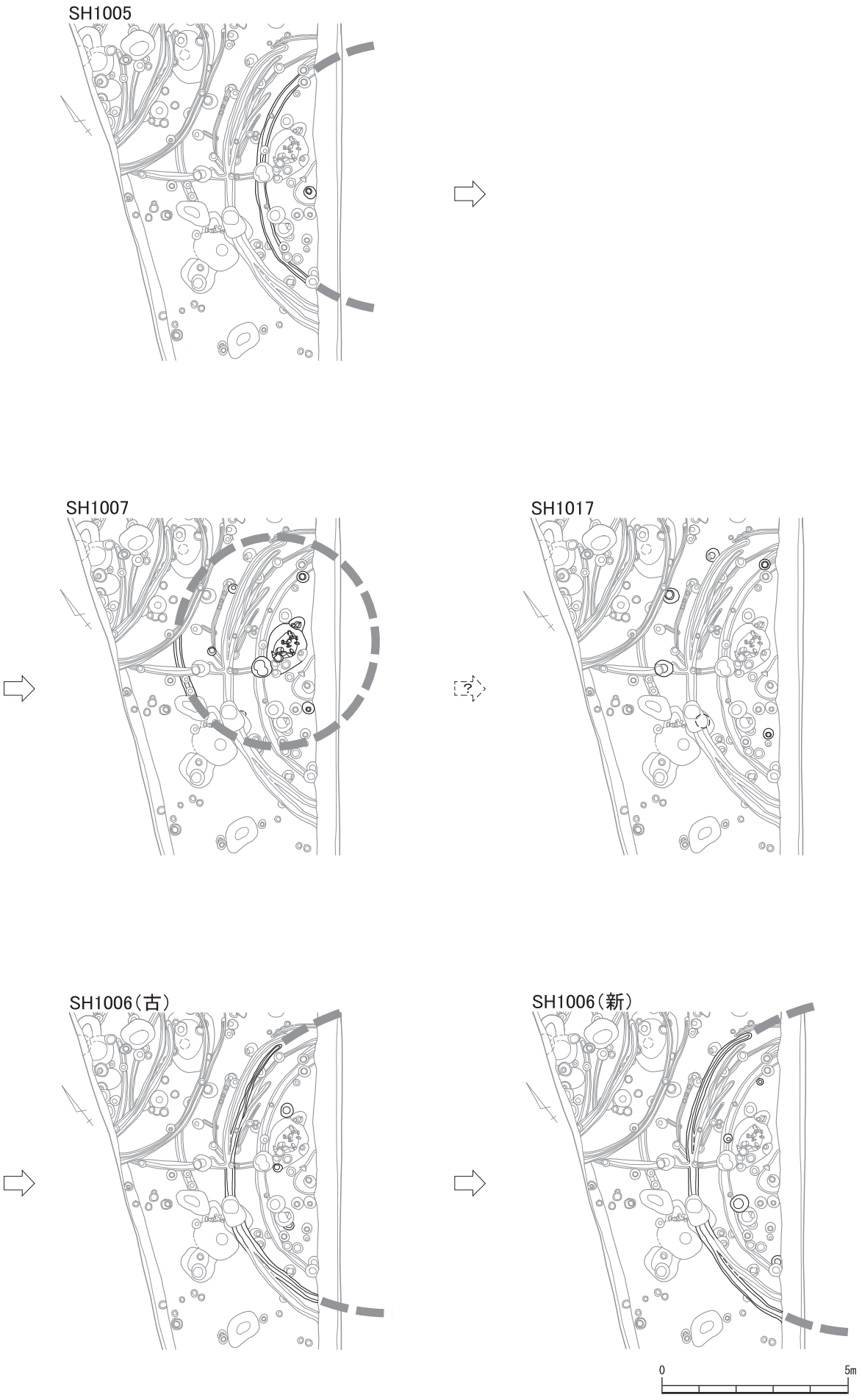


1. 盛土
2. 5Y6/1　灰色　粘質シルト～細砂
3. 5Y6/2　灰オリーブ色　粘質シルト～細砂
4. 5Y4/2　灰オリーブ色　粘質シルト～細砂
5. 5Y3/2　オリーブ黒色　粘質シルト～細砂
6. 5Y3/1　オリーブ黒色　粘質シルト～細砂
7. 5Y3/2　オリーブ黒色　粘質シルト～細砂
8. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極細砂
9. 10YR3/2　黒褐色　極細砂～細砂
10. 2.5Y3/1　黒褐色　シルト～極細砂
11. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
    ベースがブロック状に混じる
12. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂
13. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
14. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
15. 5Y3/1　オリーブ黒色　粘質シルト～細砂
16. 5Y3/1　オリーブ黒色　粘質シルト～細砂
17. 2.5Y3/2　黒褐色　極細砂～細砂
18. 2.5Y3/1　黒褐色　シルト～細砂
19. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂
20. 2.5Y2/1　黒色　粘質シルト～極細砂
    全体に炭を多量に含む
21. 5Y4/1　灰色　粘質シルト～細砂
    炭化物を含む
22. 5Y4/2　灰オリーブ色　粘質シルト～細砂
23. 5Y3/2　オリーブ黒色　極細砂
24. 5Y4/1　灰色　粘質シルト～極細砂
25. 5Y3/1　オリーブ黒色　粘質シルト～細砂
26. 2.5Y4/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂
    中央付近にφ1.5cm大のブロック状の炭を多く含む
27. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂
28. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
29. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂
30. 2.5Y4/2　暗灰黄色　粘質シルト～極細砂
    ベースがブロック状に混じる
31. 5Y3/1　オリーブ黒色　粘質シルト～極細砂
32. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
33. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂
34. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂
    ベースがブロック状に混じる
35. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘土～粘質シルト
36. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂
37. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
38. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
39. 5Y4/1　灰色　粘質シルト～細砂
    ベースがブロック状に混じる
40. 5Y4/2　灰色　粘質シルト～細砂
41. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
42. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
43. 2.5Y4/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂
44. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極細砂
45. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極細砂
    マンガン多量・鉄分少量・細かい炭をわずかに含む
46. 5Y3/1　オリーブ黒色　粘質シルト～細砂
47. 2.5Y3/1　黒褐色　シルト～細砂
    マンガン・炭少量を含む
48. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
    わずかに炭・鉄分を含む
49. 10YR5/3　灰黄褐色　シルト～細砂
    φ0.3～0.5の炭化物を1%程度・マンガンを多く含む
50. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
    マンガン・鉄分を少量含む（SK1054）
51. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～細砂
    マンガン・鉄分を含む（SK1053）
52. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
    細かい炭を少量(1%未満)・鉄分を含む
53. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト～細砂
    マンガン・微量の細かい炭化物を含む

D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群３

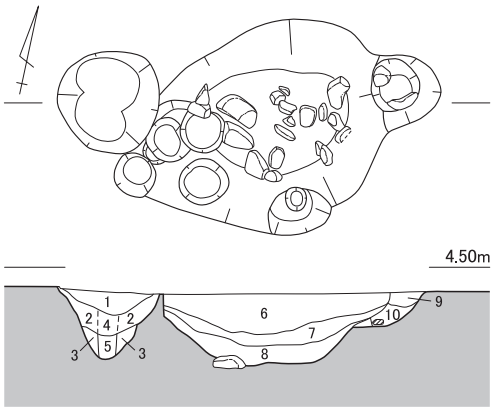


D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群変遷図（西側）



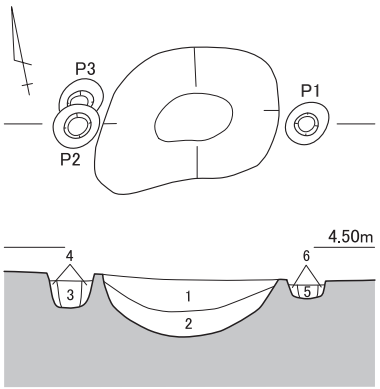
D地区　竪穴住居跡　南部竪穴住居跡群変遷図（東側）

SH1007



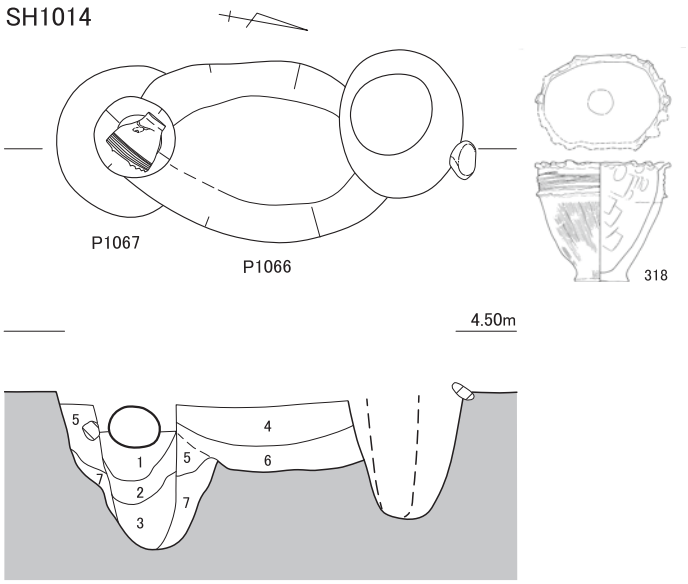
1. 10YR2/2　黒褐色　極細砂～細砂
   マンガン含む
2. 10YR3/1　黒褐色　粘性シルト～極細砂
   マンガン少量含む
3. 10YR4/1　褐灰色　粘性シルト
   ベースがブロック状に混じる（φ1cm大）
4. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂
5. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂
   ベースがブロック状に混じる（φ1cm大）
6. 10YR2/1　黒色　　シルト～細砂
   炭・マンガン含む
7. 10YR3/1　黒褐色　シルト～細砂
   1層よりやや多く 炭化物を含むがマンガンは少ない
8. 2.5Y2/1　黒色　　粘質シルト～細砂
   全体が非常に炭っぽくわずかに黒褐色土がブロック状に混じる
9. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂
   マンガン含む
10. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極細砂
    鉄分含む　底付近に礫が混じる

SH1013

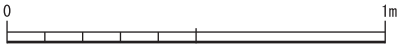


1. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～細砂
   ベースがブロック状に混じる（φ1cm大）　鉄分・マンガン含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
   ベースがブロック状に混じる（φ1cm大）　鉄分多く含む
3. 10YR4/1　褐灰色　シルト～極細砂
   ベースが混じる（φ1～2cm大　2%程度）　鉄分含む
4. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～細砂
   ベースが混じる（φ1cm大　5　%程度）　鉄分含む
5. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
   マンガン含む
6. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～極細砂
   ベースと鉄分含む

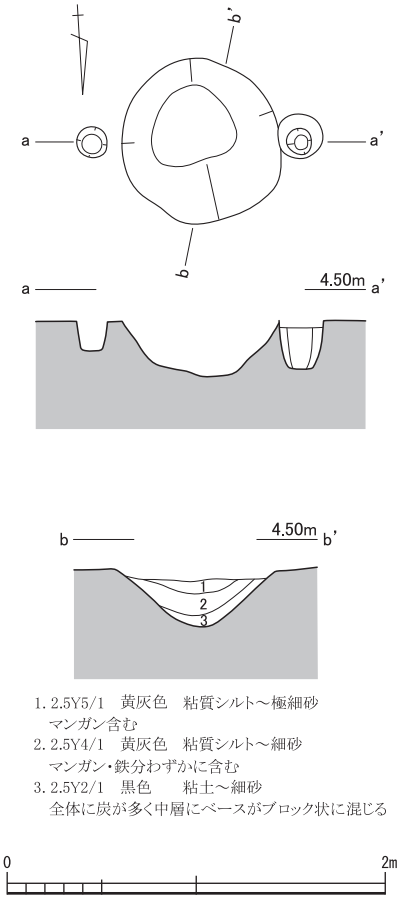
SH1014



1. N5/　　灰色　　粘質シルト～細砂
   鉄分含む
2. N4/　　灰色　　粘質シルト～細砂
   鉄分若干含む
3. N3/　　暗灰色　中砂混じり粘質シルト～極細砂
   鉄分含む
4. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂
5. 10YR3/1　黒褐色　粘土～粘質シルト
6. 2.5Y4/1　黄灰色　中砂混じり粘質シルト～極細砂
   マンガン・鉄分含む
7. 2.5Y5/1　黄灰色　中砂混じり粘質シルト
   ベースがブロック状に混じる



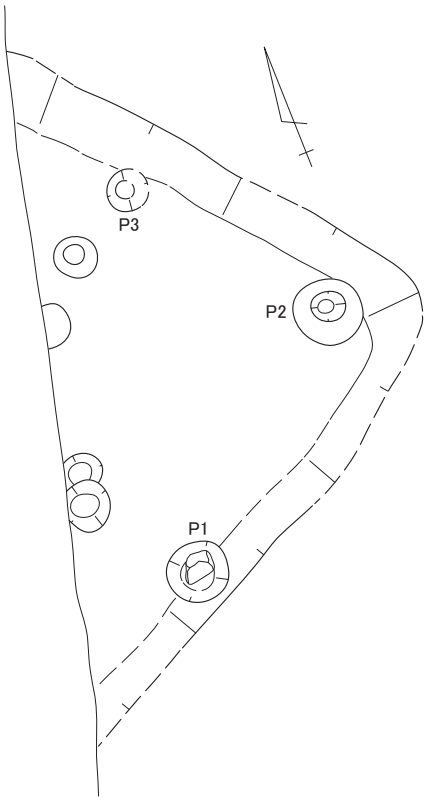
SH1015



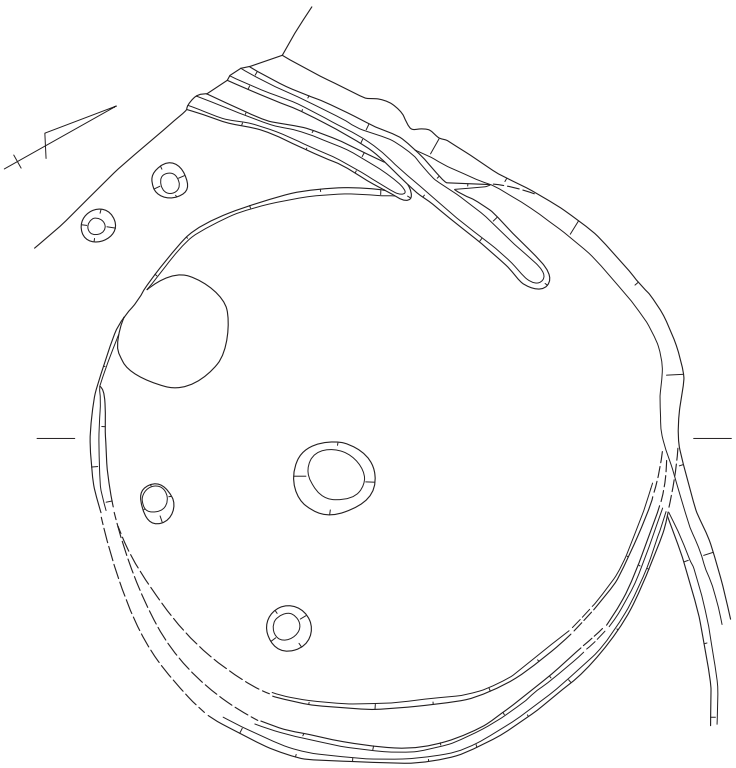
1. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂
   マンガン含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
   マンガン・鉄分わずかに含む
3. 2.5Y2/1　黒色　　粘土～細砂
   全体に炭が多く中層にベースがブロック状に混じる

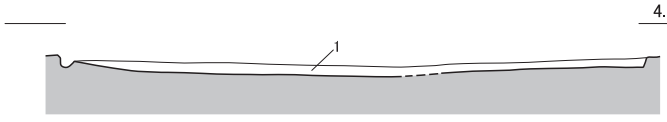
D地区　竪穴住居跡　SH1007・SH1013・SH1014・SH1015

SH1021



SH1022

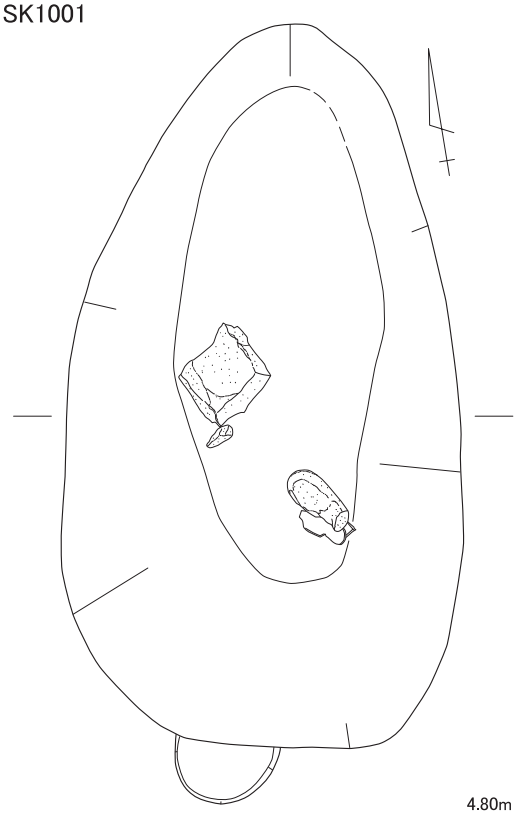




1. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂　マンガン・鉄分含む　炭若干含む　礫なし

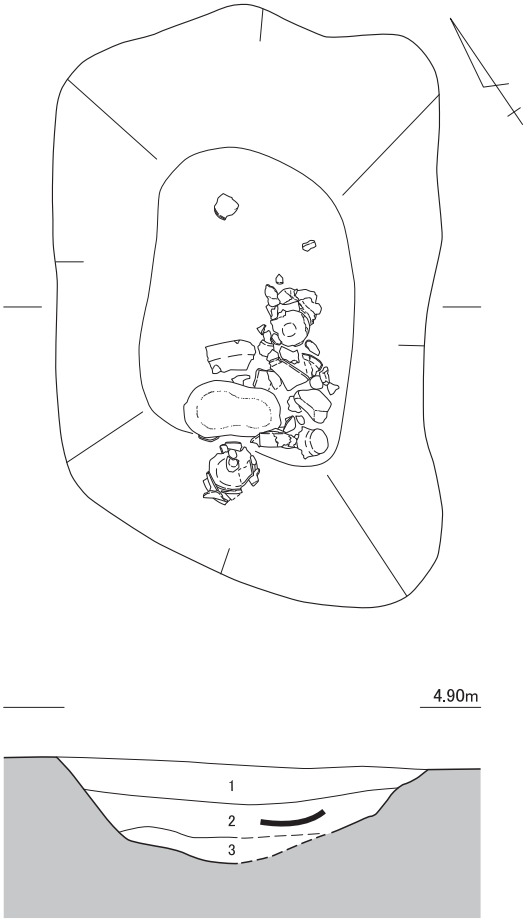
D地区　竪穴住居跡　SH1021・SH1022

SK1001



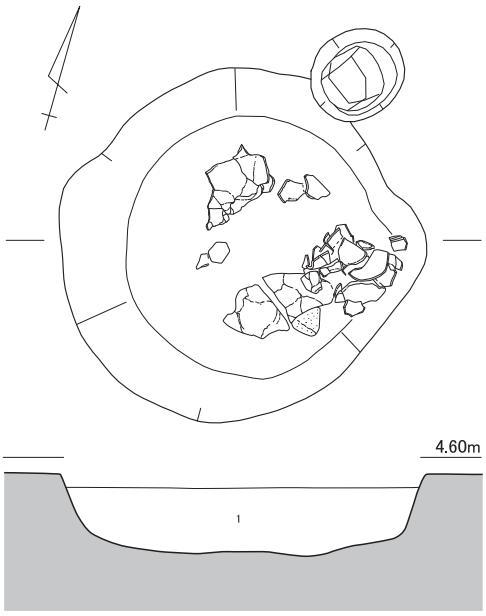
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂～細砂　やや砂質　土器小片多く含む
2. 10YR3/3　暗褐色　極細砂～細砂　シルト質
3. 10YR3/3　暗褐色　シルト質　2層よりやや暗色
4. 2.5Y6/4　にぶい黄色　極細砂～細砂　シルト質

SK1003

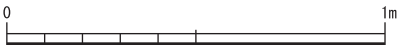


1. 2.5Y6/1　黄灰色　極細砂～細砂　シルト質
2. 2.5Y6/4　にぶい黄色　極細砂～細砂　シルト質　弥生土器含む
3. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～細砂　シルト質

SK1002

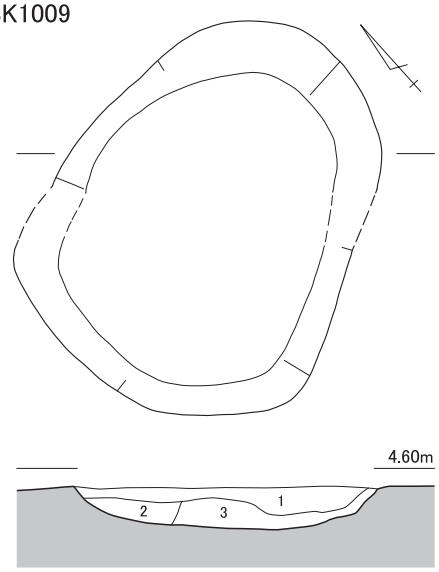


1. 7.5YR4/1　褐灰色　シルト～極細砂　シルト質埴壌土　マンガン少量含む



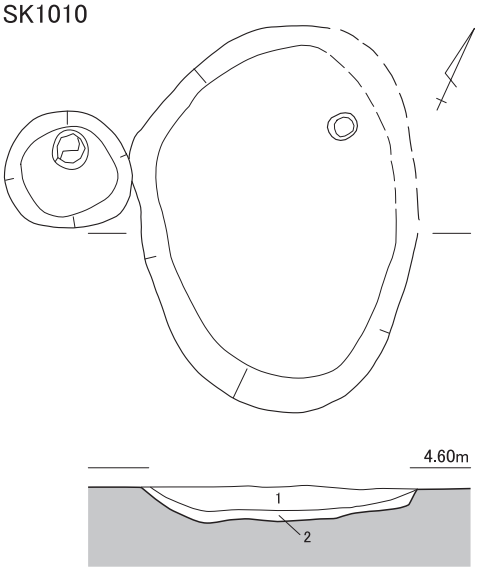
D地区　土坑　SK1001・SK1002・SK1003

SK1009



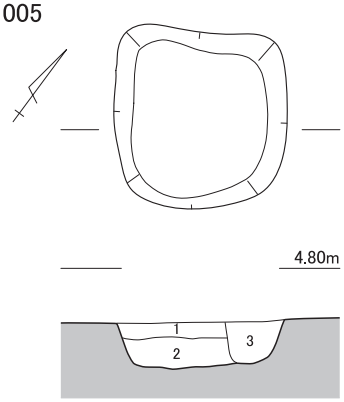
1. 7.5YR4/4　褐色　　細砂　シルト質
2. 2.5Y7/6　明黄褐色　細砂　シルト質
3. 10YR4/4　褐色　　細砂　シルト質

SK1010



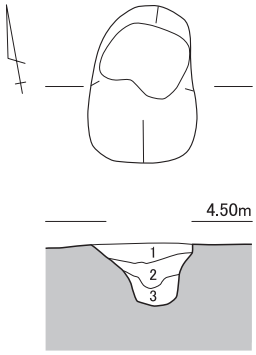
1. 7.5YR4/4　褐色　　細砂　シルト質　マンガン斑に含む
2. 2.5Y6/4　にぶい黄色　極細砂～細砂　シルト質

SK1005



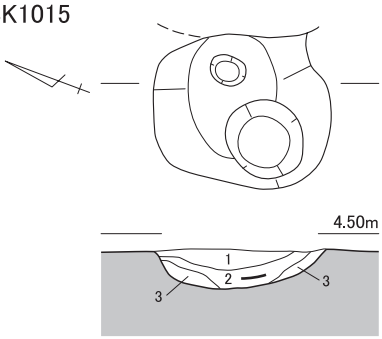
1. 7.5YR4/4　褐色　　細砂　シルト質
　マンガン斑に含む
2. 7.5YR5/3　にぶい褐色　細砂　シルト質
3. 7.5YR6/1　褐灰色　　細砂　砂質

SK1013



1. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂
　マンガン含む
2. 2.5Y2/1　黒色　　粘質シルト～細砂
　マンガン含む
3. 2.5Y3/1　黒褐色　中砂混じり粘質シルト～細砂
　ベースがブロック状に混じる（φ1cm大）

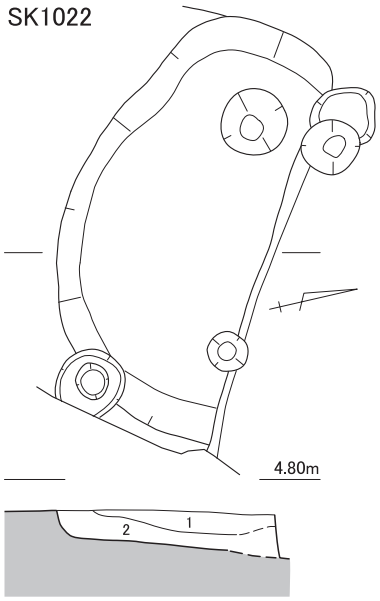
SK1015



1. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂
　マンガン含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極細砂
　マンガン少量含む
3. 2.5Y6/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　ベースがブロック状に混じる（φ0.5～1cm大）
　鉄分含む

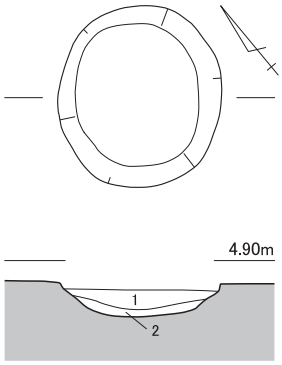
D地区　土坑　SK1005・SK1009・SK1010・SK1013・SK1015

SK1022



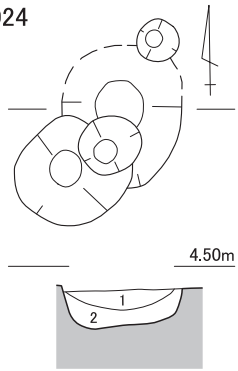
1. 2.5Y4/1　黄灰色　中砂混じり粘質シルト～極細砂
　ベースがブロック状に細かく混じる　マンガン・鉄分含む
2. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
　ベースがブロック状に混じる（φ0.5cm大　5%程度）　マンガン・鉄分含む

SK1023



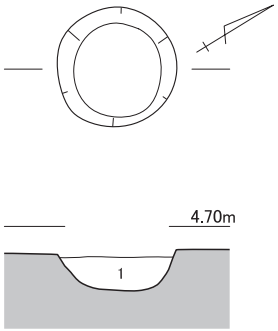
1. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂
　φ0.5～2cm大の炭化物を5%程度含む　マンガン含む
2. 2.5Y6/2　灰黄色　粘質シルト～細砂
　ベースがブロック状に20%程度混じる

SK1024



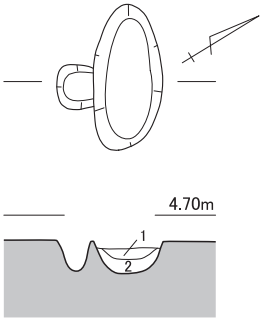
1. 2.5Y5/1　黄灰色　中砂混じり粘質シルト～極細砂
　炭化物・マンガン少量含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　中砂混じり粘質シルト～極細砂
　φ0.3～1.5cm大の炭含む　マンガン含む

SK1025



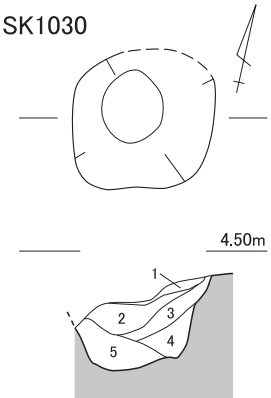
1. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　シルト質埴壌土
　マンガンやや含む

SK1026

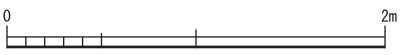


1. 2.5Y4/1　黄灰色　細砂　壌質砂土
2. 5Y4/1　　灰色　　極細砂～細砂　壌質砂土

SK1030

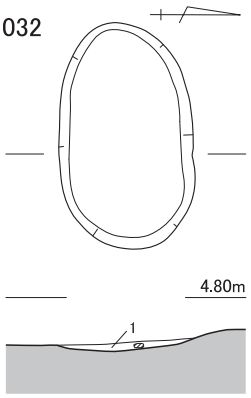


1. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　シルト質埴壌土
　鉄分・マンガン・炭粒含む
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　シルト質埴壌土
　鉄分・マンガン含む　下半にベースがブロック状に混じる
3. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　シルト質埴壌土
　鉄分・マンガン・炭粒・遺物粒含む
4. 10YR5/1　褐灰色　シルト～極細砂　シルト質埴壌土
　鉄分・マンガン浸透
5. 10YR5/1　褐灰色　シルト～極細砂　シルト質埴壌土
　鉄分・マンガン浸透　ベースがブロック状に混じる



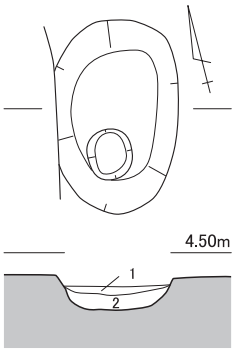
D地区　土坑　SK1022 ～ SK1026・SK1030

SK1032



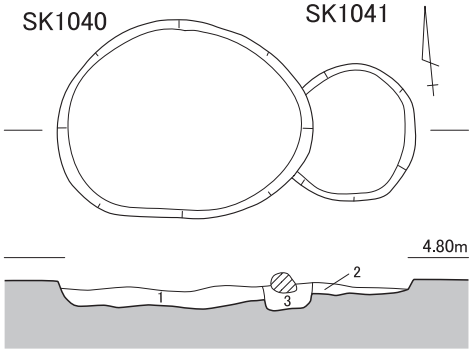
1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　中砂混じり粘質シルト～細砂
　マンガン含む　φ3cm大の礫が1個混じる

SK1033



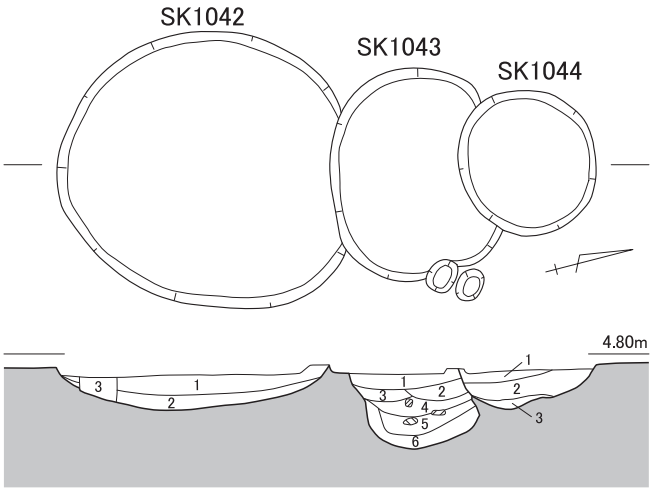
1. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～極細砂　マンガン含む
2. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　下部にベースがブロック状に混じる（φ1～5cm大）

SK1040　SK1041



1. N4/　　灰色　　シルト～微砂　砂質埴土　マンガン粒少量含む
2. N4/　　灰色　　シルト～微砂　砂質埴土　マンガン粒少量含む
3. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～微砂　壌質砂土

SK1042　SK1043　SK1044



SK1042

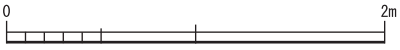
1. 7.5Y4/1　灰色　極細砂～細砂　砂質埴土　マンガン若干含む
2. 7.5Y5/1　灰色　極細砂～細砂　砂質埴土(砂土に近い)　マンガン若干含む
3. 10Y5/1　灰色　極細砂～細砂　砂土　マンガン若干含む

SK1043

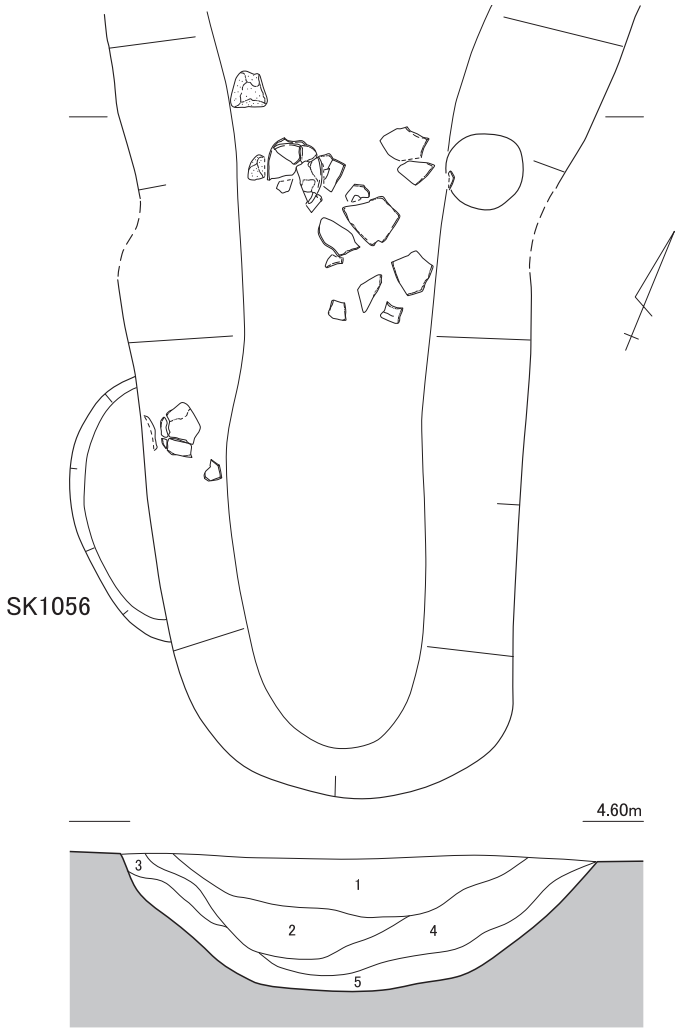
1. 7.5YR5/1　褐灰色　シルト～極細砂　砂質埴土　マンガン・鉄分少量含む
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト～極細砂　砂質埴土　マンガン若干含む
3. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂　砂質埴土
4. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　軽埴土　浸透マンガンあり 遺物片含む
5. 10YR2/1　黒色　シルト～極細砂　砂質埴壌土　炭材片若干含む
6. 2.5Y5/1　黄灰色　シルト～細砂　砂質埴土　ベース土多量に混じる

SK1044

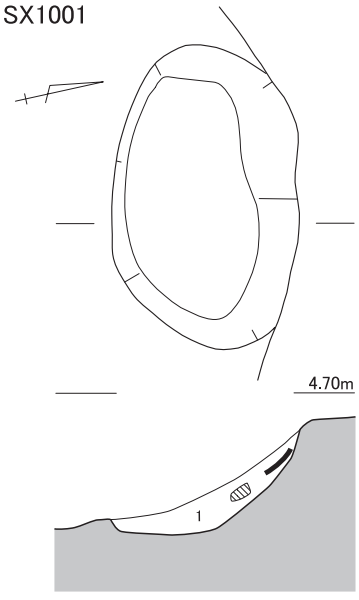
1. 5Y4/1　灰色　シルト～極細砂　砂質埴土　鉄分若干含む
2. N5/　灰色　粘土～極細砂　砂質埴土
3. 2.5Y5/1　黄灰色　粘土～極細砂　砂質埴土



D地区　土坑　SK1032・SK1033・SK1040 ～ SK1044

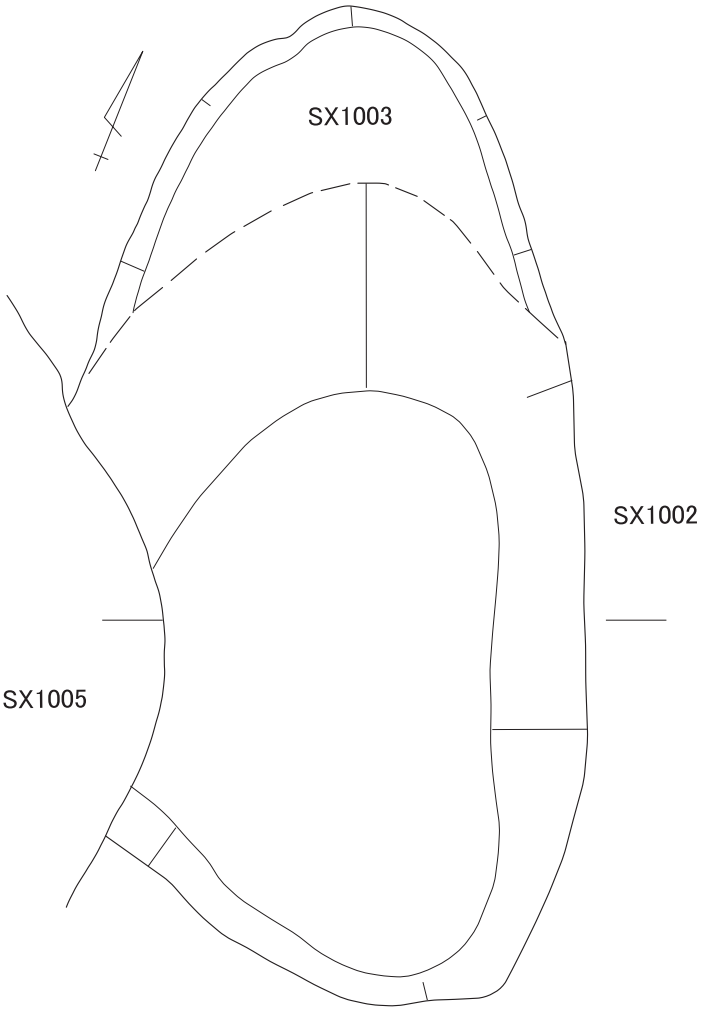


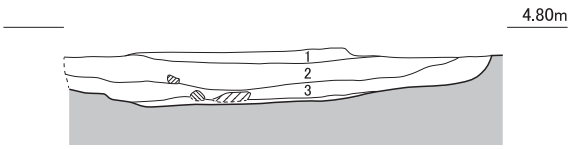
1. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト～細砂　　マンガン顕著 炭含む
2. 10YR3/1　黒褐色　粘性シルト～細砂　　マンガン・炭含む
3. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～細砂　　炭わずかに含む ベースとの境付近はベースがブロック状に混じる（φ0.3～0.5cm大 2%程度）
4. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂　上部マンガン少量含む
5. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂　上部にわずかに炭含む 下半はベースがブロック状に混じる（φ0.3～1cm大 40%程度）



1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～中砂
マンガン・土器片・サヌカイト含む

D地区　土坑　SK1017・SX1001

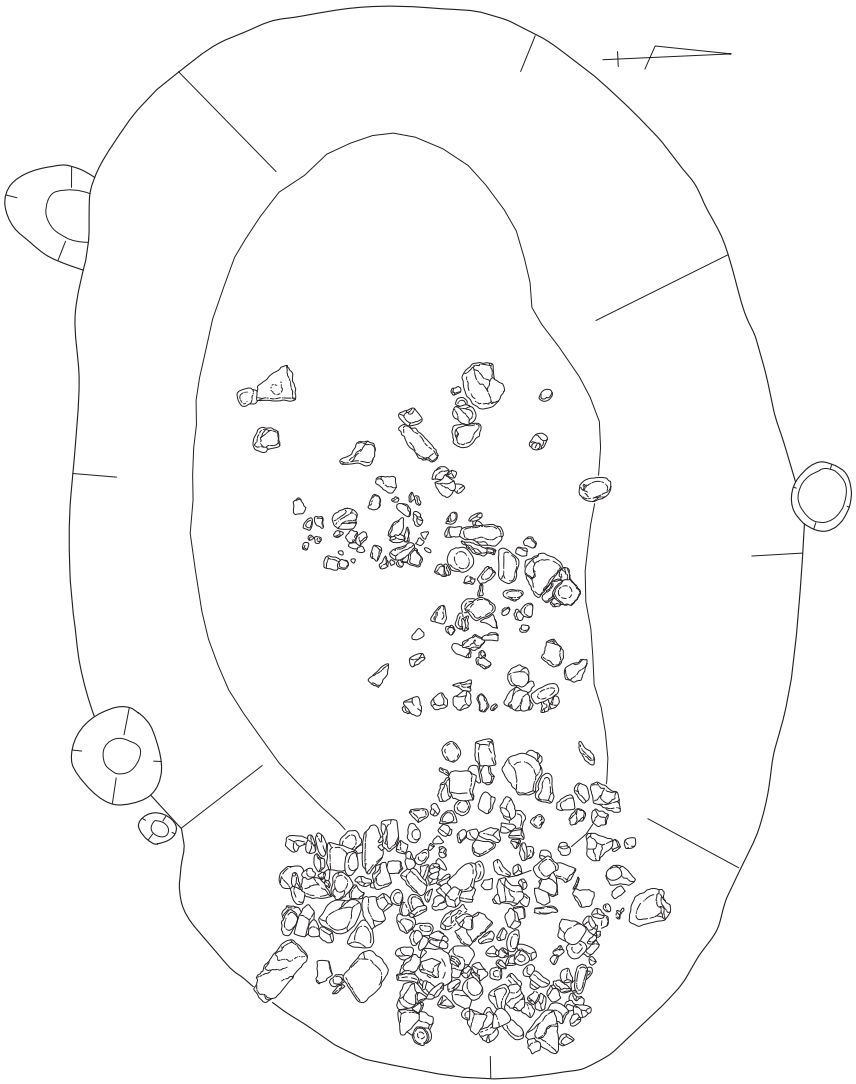




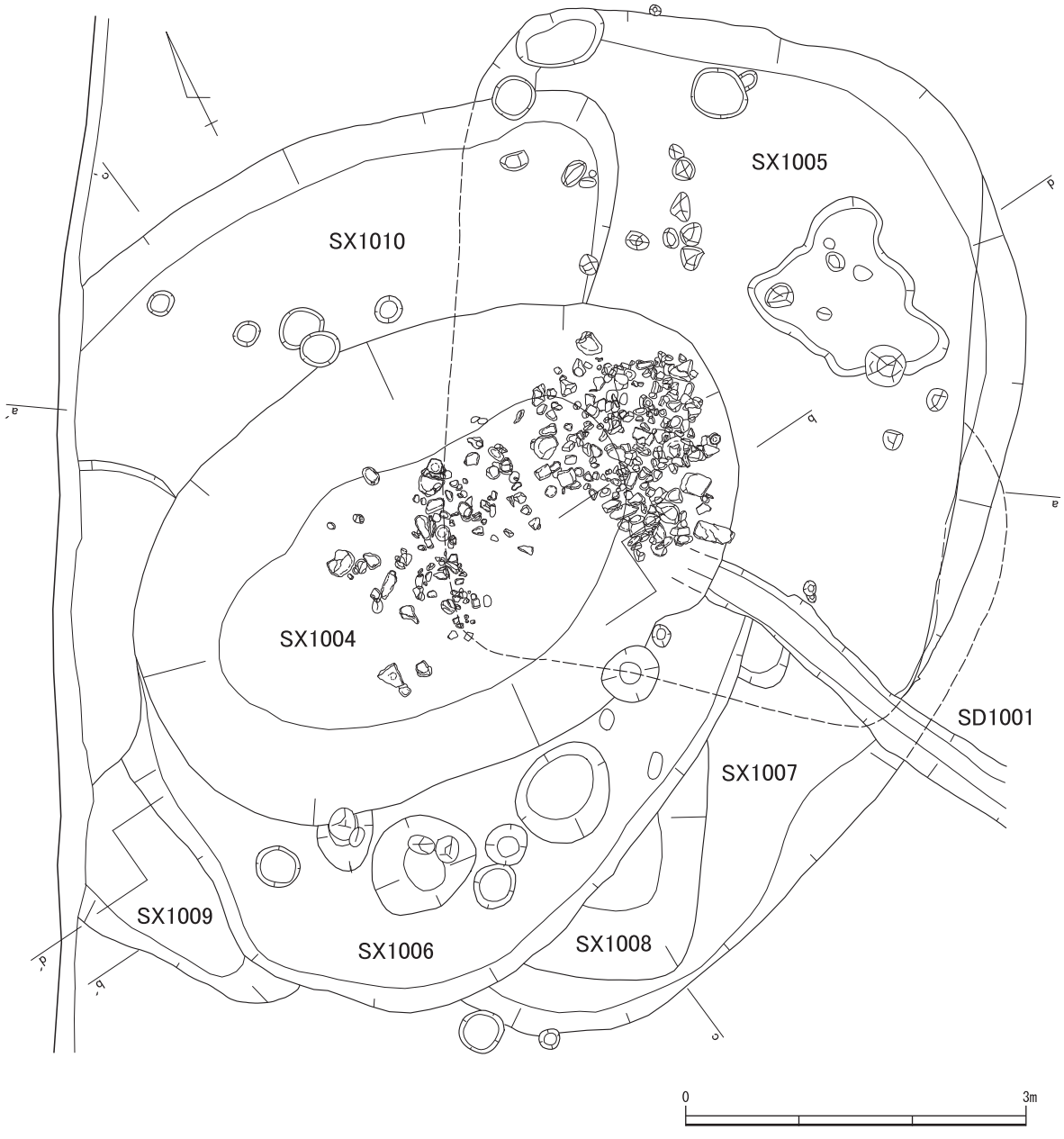
1. 10YR4/1	褐色	シルト～細砂	マンガン・鉄分少量 φ3～6cm程の礫混じる
2. 10YR3/1	黒褐色	粘質シルト～細砂	1層より炭化物をよく含む　マンガン顕著 φ2～5cmの礫1%以下混じる
3. 2.5Y4/1	黄灰色	中砂混じり粘質シルト～極細砂	ベース（φ0.3～1.5cm）が20%程混じる 鉄分多し・マンガン少量・炭わずかに含む φ6～10cm大の礫1%未満混じる

D地区　SX1002・SX1003

SX1004



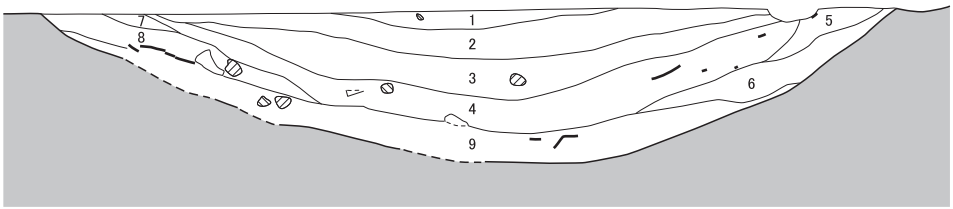
D地区　SX1004



D地区　SX1004 ～ SX1010

D地区 SX1004 ～ SX1010 断面図

SX1011



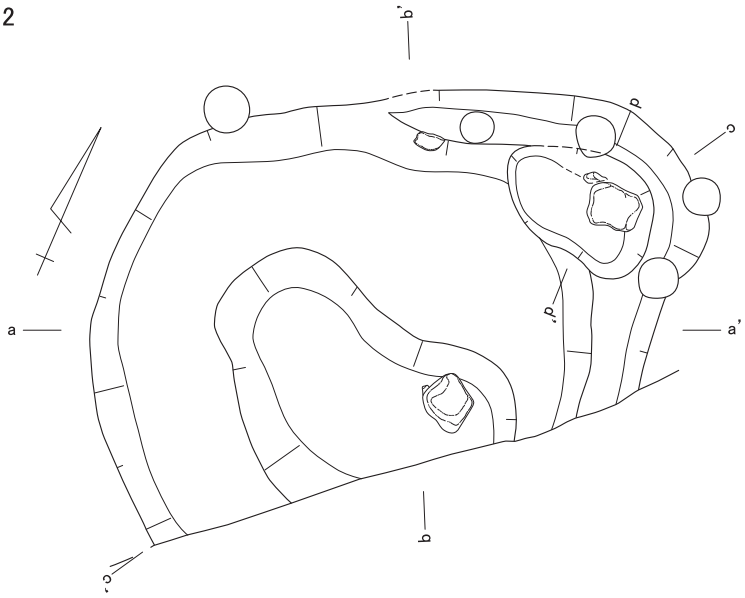
1. 2.5Y5/1	黄灰色	シルト～細砂	マンガン・鉄分・炭少量含む　φ1～2cm大の礫が1%未満混じる
2. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト～細砂	マンガン・鉄分含む　φ0.5cm大の炭化物少量含む
3. 10YR4/1	褐灰色	シルト～細砂	マンガン多く含む　φ0.2～0.7cm大の炭を2%程度含む
4. 10YR3/1	黒褐色	中砂混じり粘質シルト～極細砂	マンガン顕著　φ0.3～1.5cm大の礫が5%程度混じる
5. 2.5Y4/1	黄灰色	シルト混じり極細砂～細砂	マンガン・鉄分少量含む　φ0.4cm大の炭を2%程度含む
6. 2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質シルト～極細砂	マンガン・鉄分含む　φ0.2～0.5cm大の炭を2%未満含む ベースがブロック状に混じる(φ0.4～1.5cm大　5%程度)
7. 2.5Y5/1	黄灰色	シルト～極細砂	炭わずかに含む　鉄分含む
8. 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト～細砂	鉄分含む　φ0.2cm大の炭を少量含む
9. 2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト～細砂	φ0.5～1.0cm大の炭化物を2%程度含む φ4～15cm大の礫が1%程度混じる　南側下半にベースがブロック状に混じる(5%程度)

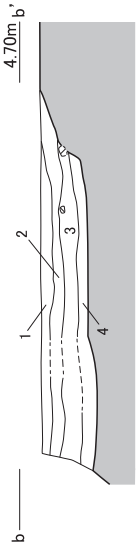
※ 4層以下に弥生時代前期末から中期初の土器を大きな破片で多く含む

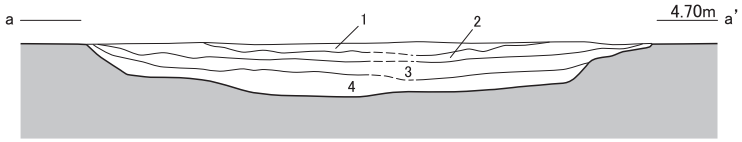
0　1m

D地区　SX1011

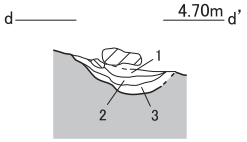
SX1012



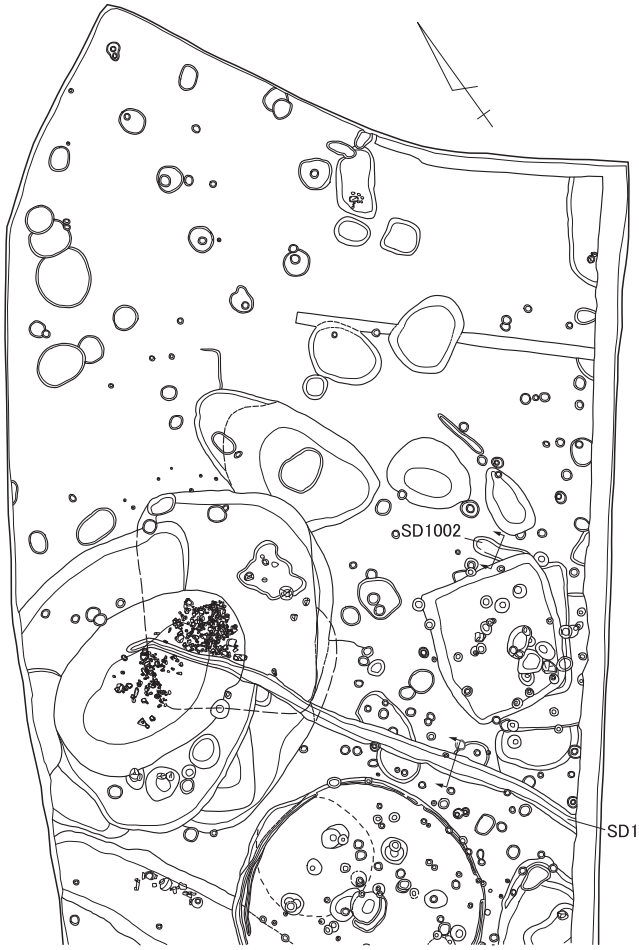




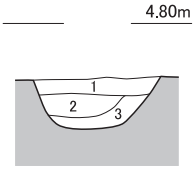
1. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂　マンガン多・炭少量含む
2. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂　マンガン・炭含む　φ1～3cm大の中礫が1%程度含む混じる
3. 10YR3/2　黒褐色　粘質シルト～細砂　マンガン・炭含む　φ2cm大の中礫が2%程度混じる
4. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂　マンガン少量・炭含む　φ2～3cm大の中礫が5%程度混じる



1. 10YR3/1　黒褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　炭化物多く含む　全体に炭っぽい　全体にマンガン沈着するが少ない
2. 10YR4/1　褐灰色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　ベースがブロック状に混じる(φ0.5～0.8cm大　2%程度)
炭化物含む(1層より少量)　全体に炭っぽい　マンガンは少ない
3. 10YR5/1　褐灰色　中砂～小礫混じり粘質シルト～極細砂　ベースがブロック状に混じる(φ0.5～1.0cm大　40%程度)
1・2層に比べ炭化物少ない　マンガン・鉄分含む

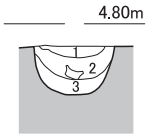


SD1001



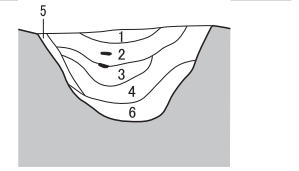
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂～細砂　シルト質
2. 1層よりやや暗色　極細砂～細砂　シルト質
3. 10YR5/1　褐灰色　極細砂～細砂　シルト質

SD1002

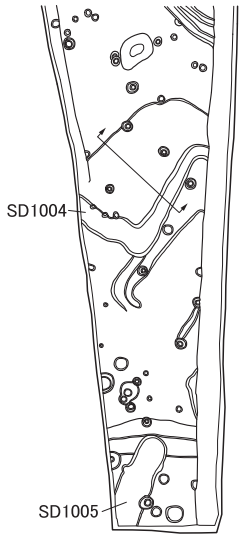


1. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
　鉄分少量含む
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト～細砂
　マンガン顕著
3. 5Y5/1　灰色　粘質シルト～極細砂
　マンガン含む　鉄分少量含む
　ベースがブロック状に混じる(φ0.8～2.0cm大　50%程度)

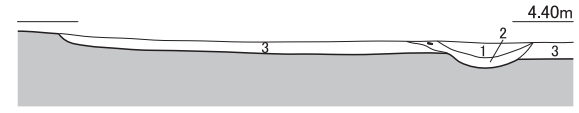
SD1003



1. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　炭・マンガンを含む
2. 10YR3/2　黒褐色　シルト～細砂　マンガンを含む
3. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂　炭・マンガンを含む
4. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂　マンガン多い　炭を含む
5. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～極細砂　ベースがブロック状に混じる　鉄分を含む
6. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂　ベースがブロック状に混じる(φ2cm大)

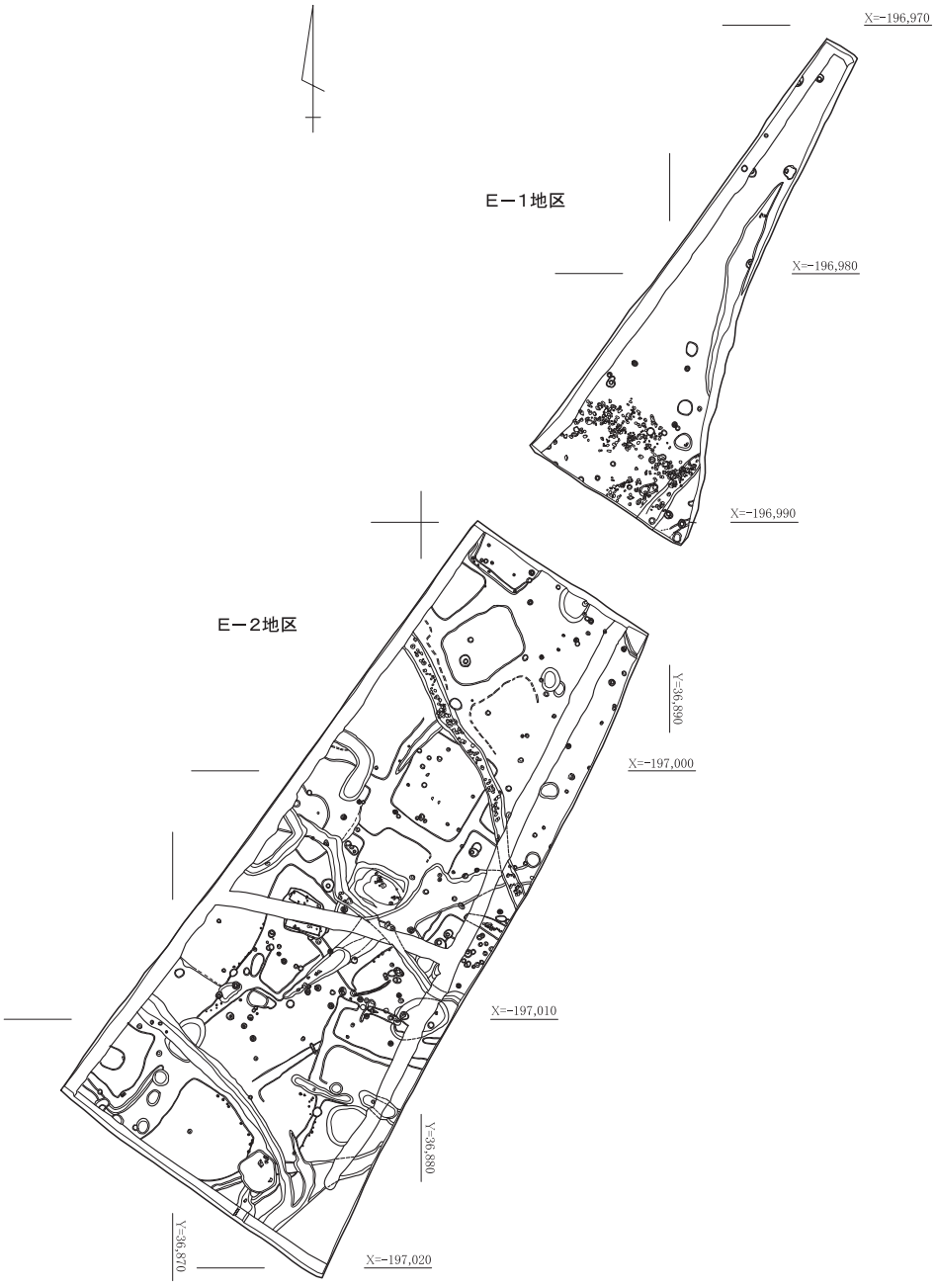


SD1004



1. 2.5Y5/2　暗黄灰色　極細砂～細砂　マンガンを含む
2. 2.5Y5/1　暗黄灰色　中砂混じり粘質シルト～細砂
　ベースがブロック状に混じる　土器を少量含む　マンガンを含む
3. 10YR5/2　灰黄褐色　中砂混じりシルト～細砂　マンガン・鉄分を含む

D地区　溝　SD1001 ～ SD1004

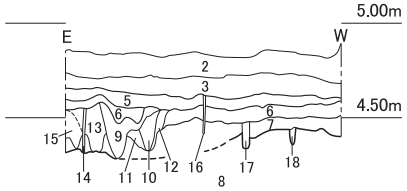

X=-196,970
E－1地区
X=-196,980
X=-196,990
E－2地区
Y=-36,890
X=-197,000
X=-197,010
Y=36,880
Y=36,870
X=-197,020
0
20m

E地区　全体図

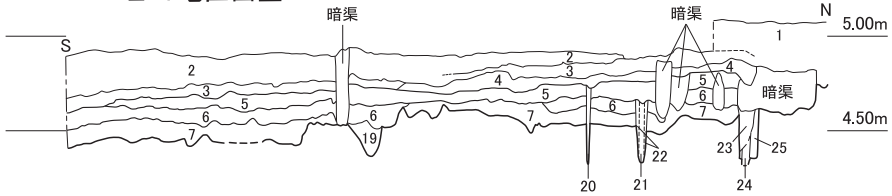
E地区　全体図・遺構配置図

E地区 西壁・南壁土層断面図

E-1地区南壁

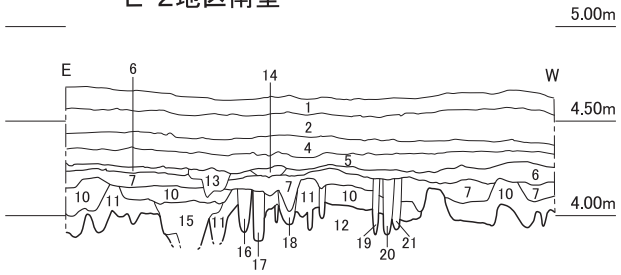


E-1地区西壁

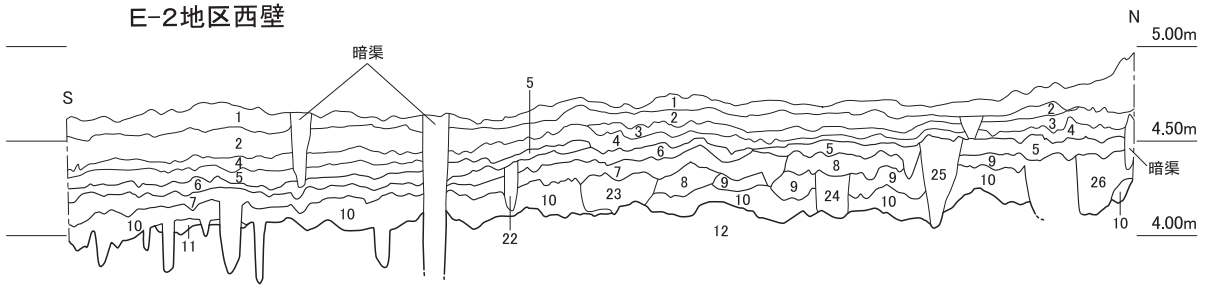


1.	現耕土・床土			
2.	7.5YR6/1	褐灰色	細砂質極細砂	
3.	2.5Y7/6	明黄褐色	細砂質極細砂	鉄分が集積 床土
4.	2.5YR6/1	赤灰色	シルト,細砂混じり極細砂	マンガンを含む
5.	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト混じり細砂質極細砂	
6.	10YR5/2	灰黄褐色	シルト混じり極細砂	
7.	10YR6/2	灰黄褐色	細砂～シルト混じり極細砂	
8.	2.5Y7/1	灰白色	中砂～細砂	ベース
9.	10R5/1	赤灰色	シルト混じり細砂質極細砂	SD2028
10.	7.5R5/1	赤灰色	シルト質極細砂	SD2028
11.	2.5YR6/1	赤灰色	シルト質極細砂	SD2028
12.	5YR5/1	褐灰色	極細砂	SD2028
13.	2.5YR5/1～7.5R5/1	赤灰色	細砂を多量に含む シルト	SD2031
14.	7.5YR6/2	灰褐色	細砂混じり極細砂	
15.	7.5R4/1	暗赤灰色	細砂	
16.	10YR6/1	褐灰色	極細砂	
17.	5YR5/2	灰褐色	シルト混じり細砂	
18.	5YR5/1	褐灰色	細砂混じりシルト	
19.	10R6/1	赤灰色	シルト,細砂混じり極細砂 土器を含む	
20.	10R6/1	赤灰色	シルト混じり極細砂	
21.	10YR7/2	にぶい黄橙色	細砂質極細砂	
22.	5YR5/1～6/1	褐灰色		
23.	7.5YR4/1	褐灰色	極細砂	
24.	10YR4/1	褐灰色	シルト	
25.	10YR5/1	褐灰色	極細砂混じりシルト	

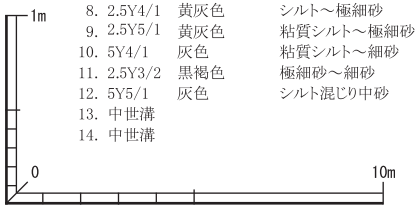
E-2地区南壁



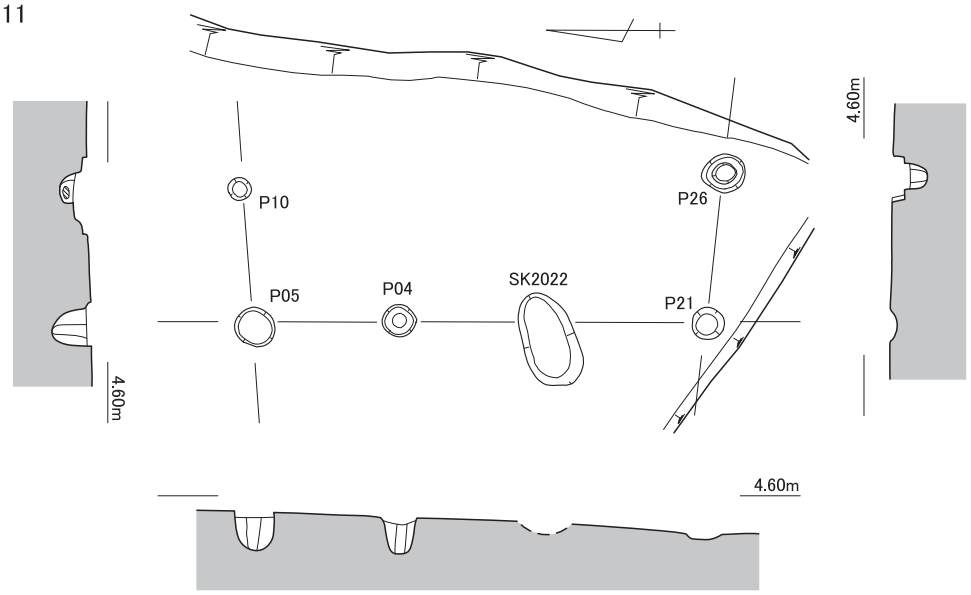
E-2地区西壁



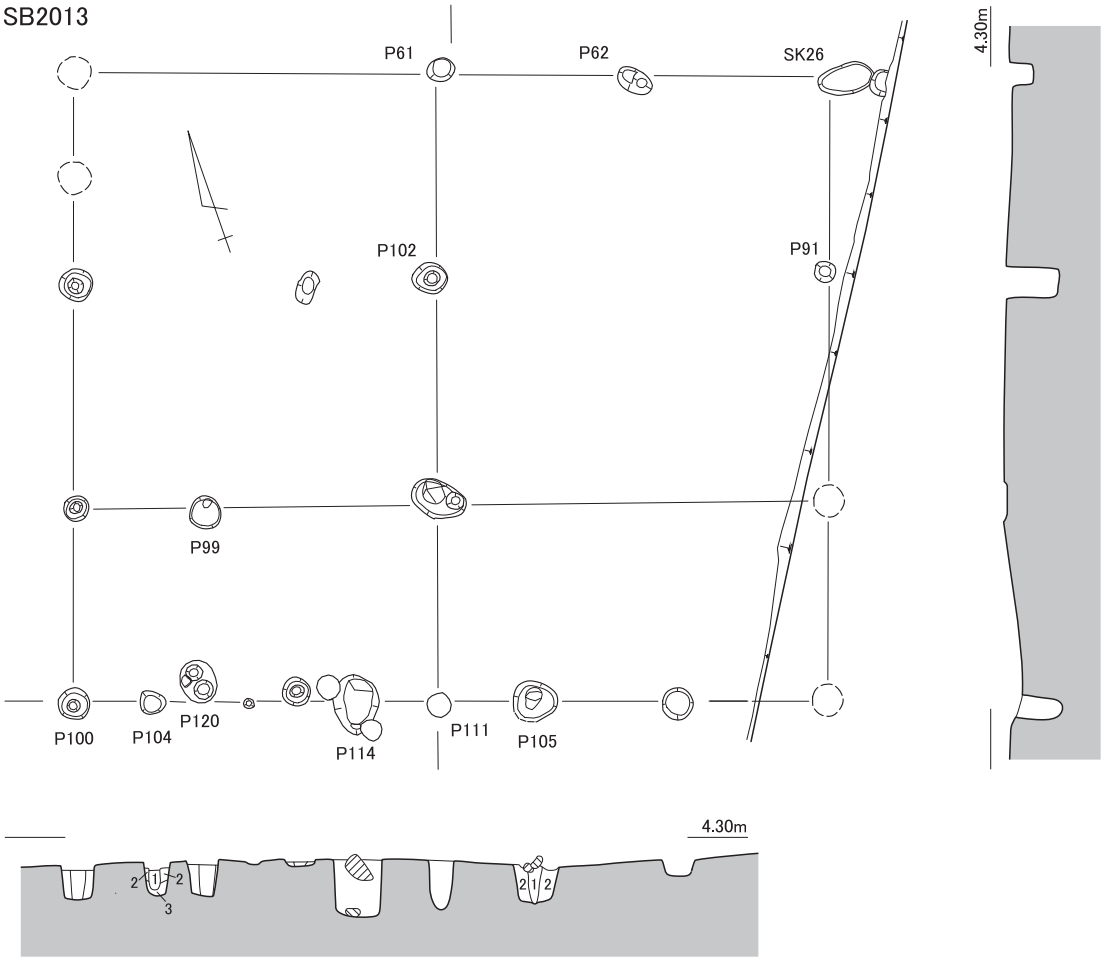
1.	表土			
2.	5Y4/1	灰色	極細砂～細砂	
3.	5Y5/1	灰色	極細砂～細砂	鉄分が顕著
4.	5Y5/2	灰オリーブ色	細砂	鉄分を多く含む
5.	5Y5/3	灰オリーブ色	極細砂～細砂	
6.	2.5Y4/1	黄灰色	シルト～極細砂	土壌化層
7.	2.5Y5/1	黄灰色	シルト～細砂	マンガンを少量,鉄分を多く含む 土壌化層
8.	2.5Y4/1	黄灰色	シルト～極細砂	5層に近い 土壌化する φ1cm内外の礫が混じる
9.	2.5Y5/1	黄灰色	粘質シルト～極細砂	7層より明るい 土壌化は弱い
10.	5Y4/1	灰色	粘質シルト～細砂	水田土壌
11.	2.5Y3/2	黒褐色	極細砂～細砂	畦畔
12.	5Y5/1	灰色	シルト混じり中砂	マンガンを多く含む ベース
13.	中世溝			
14.	中世溝			
15.	SD2019			
16.	10YR4/1	褐灰色	シルト～細砂	マンガンを多く含む
17.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト～細砂	マンガンを多く含む
18.	SD2023			
19.	柱穴			
20.	柱穴			
21.	柱穴			
22.	溝			
23.	土坑状の溜まりか			
24.	2.5Y5/1	黄灰色	粘質シルト～極細砂	
25.	溝			φ5～20cm大の礫が15%程度混じる
26.	土坑			



SB2011



SB2013



P104
1. 10YR3/2　黒褐色　　粘質シルト～細砂　　マンガン・鉄分を含む
2. 10YR5/1　褐灰色　　極細砂～細砂　　鉄分を含む
3. 10YR6/1　褐灰色　　粘質シルト～極細砂　鉄分を含む

P105
1. 2.5Y6/1　黄灰色　　粘質シルト～細砂　　鉄分をよく含む
2. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂　　マンガン・鉄分を含む　ベースがブロック状に混じる

0　3m

E地区　掘立柱建物跡　SB2011・SB2013

SB2012

P57
1. 2.5Y4/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂　マンガンを含む
2. 2.5Y5/1　褐灰色　シルト～細砂　鉄分を含む

P94
1. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極細砂
3. 2.5Y6/2　灰黄色　粘質シルト～極細砂　鉄分を含む

P101
1. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　鉄分を含む
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト～細砂　マンガン・鉄分を含む

SB2014

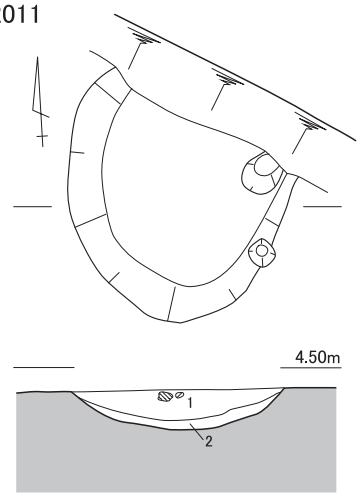
P78
1. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂　マンガン・鉄分を含む
2. 2.5Y6/1　黄灰色　シルト～細砂　マンガン・鉄分を含む

P79
1. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂　マンガンを含む
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂　鉄分を含む

P77
1. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂
2. 2.5Y6/2　灰黄色　シルト～極細砂

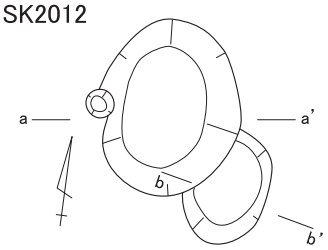
E地区　掘立柱建物跡　SB2012・SB2014

SK2011

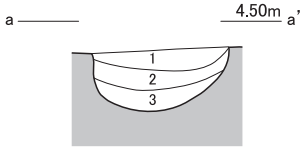


1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
2. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト～細砂
　鉄分を多く含む　ベースがブロック状に混じる

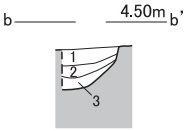
SK2012



SK2013

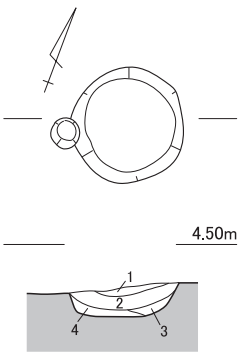


1. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂
　鉄分を含む
3. 2.5Y6/1　黄灰色　粘質シルト混じり中砂～細砂
　マンガンを含む



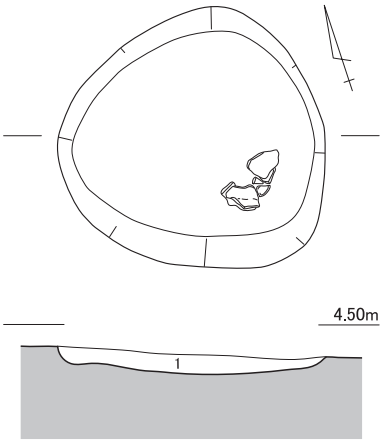
1. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極細砂
2. 2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂
　鉄分を含む
3. 2.5Y6/1　黄灰色　中砂混じりシルト～極細砂
　鉄分を含む

SK2014



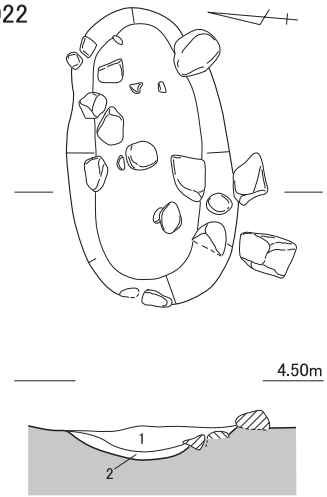
1. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
4. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂

SK2021

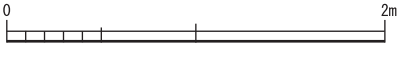


1. 7.5YR7/1　明褐灰色　極細砂混じり細砂　マンガンを斑に含む

SK2022

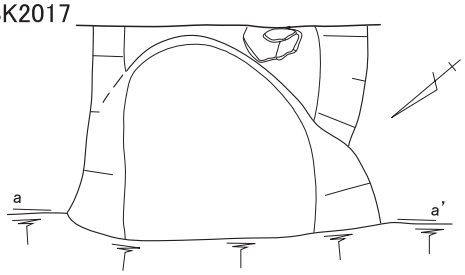


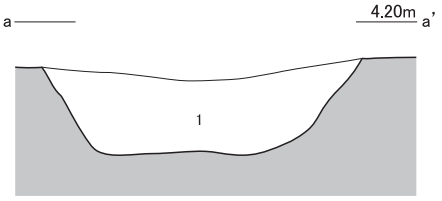
1. 7.5R5/1～7.5R4/1　赤灰色～明赤灰色
　細砂混じり極細砂質シルト　マンガンを多く含む
2. 2.5YR5/1　赤灰色
　シルト混じり細砂質極細砂



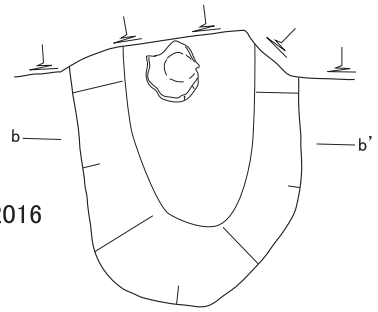
E地区　土坑　SK2011 ～ SK2014・SK2021・SK2022

SK2017

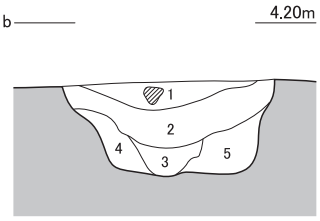




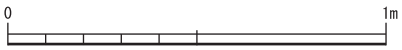
1. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂　マンガン・鉄分・炭化物を含む



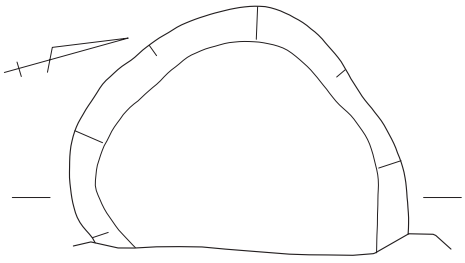
SK2016

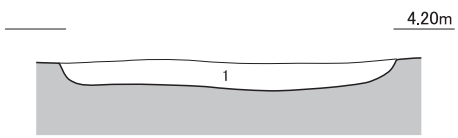


1. 2.5Y6/1　褐灰色　極細砂
2. 2.5Y5/1　褐灰色　シルト～細砂
3. 2.5Y4/1　褐灰色　中砂・小礫混じり粘質シルト～極細砂
4. 2.5Y4/2　暗灰黄色　粘質シルト～細砂　マンガンを含む
5. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　粘質シルト～細砂　マンガンを含む



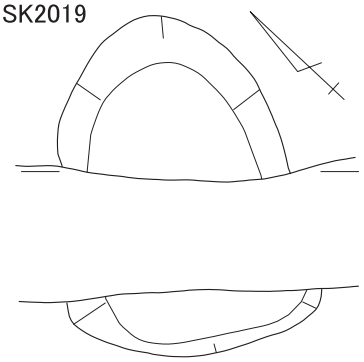
SK2018

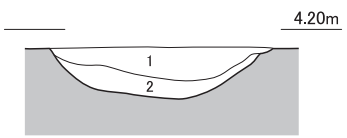




1. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質シルト～細砂

SK2019

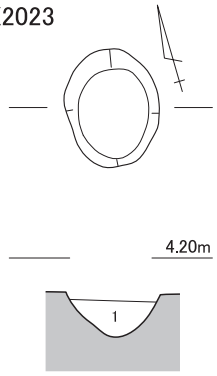




1. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂　土器・炭を含む
2. 10YR4/1　褐灰色　細砂～中砂　マンガンを多く含む

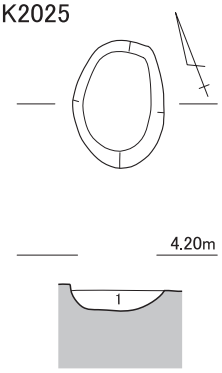
E地区　土坑　SK2016 ～ SK2019

SK2023



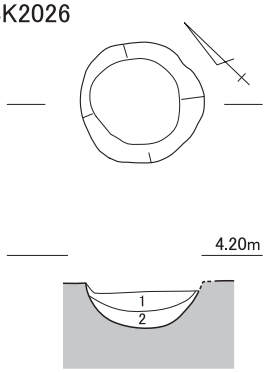
1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
　マンガンを含む

SK2025



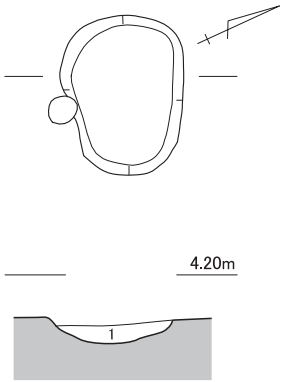
1. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂
　マンガンを含む

SK2026



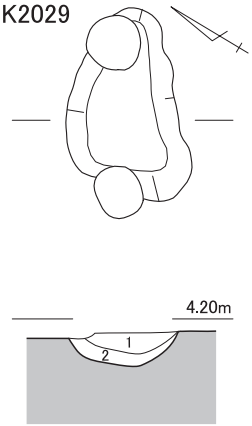
1. 2.5Y2/1　黄灰色　極細砂～細砂
　マンガンを含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　シルト～細砂
　マンガンを多く 含む

SK2027



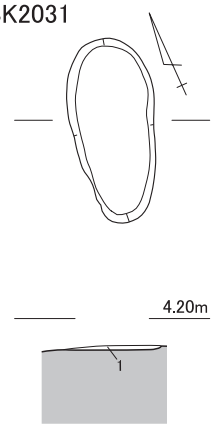
1. 7.5YR3/1　黒褐色　細砂～中砂

SK2029



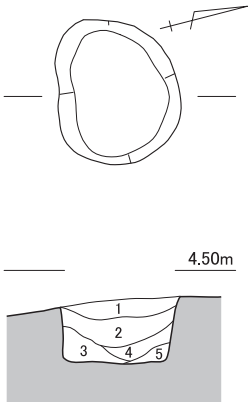
1. 2.5Y3/2　黒褐色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂
　ベースがブロック状に混じる（φ1cm大）

SK2031



1. 10YR4/1　褐灰色　細砂～中砂

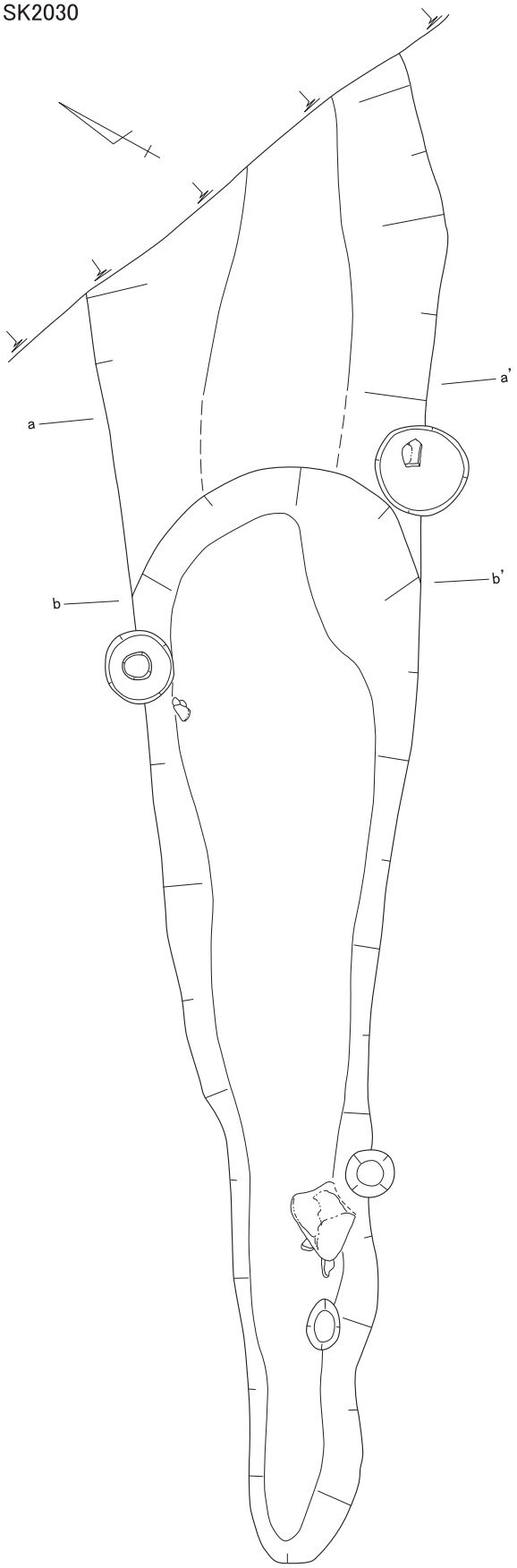
SK2036

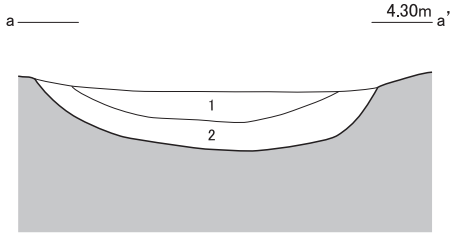


1. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～極細砂　　マンガン・鉄分を含む
2. 2.5Y5/1　黄灰色　粘質シルト～細砂
3. 2.5Y5/1　黄灰色　細砂混じり～粘質シルト　　ベースがブロック状に混じる
4. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂　　ベースがわずかにブロック状に混じる
5. 2.5Y4/1　黄灰色　細砂混じり粘質シルト～極細砂　　ベースがブロック状に混じる

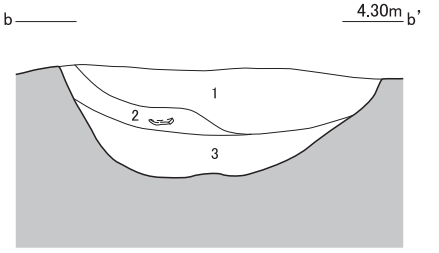
E地区　土坑　SK2023・SK2025 ～ SK2027・SK2029・SK2031・SK2036

SK2030

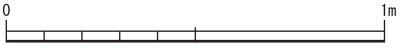




1. 7.5YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂
　　鉄分を含む　ベースがブロック状に混じる
2. 7.5YR2/1　黒色　シルト～細砂

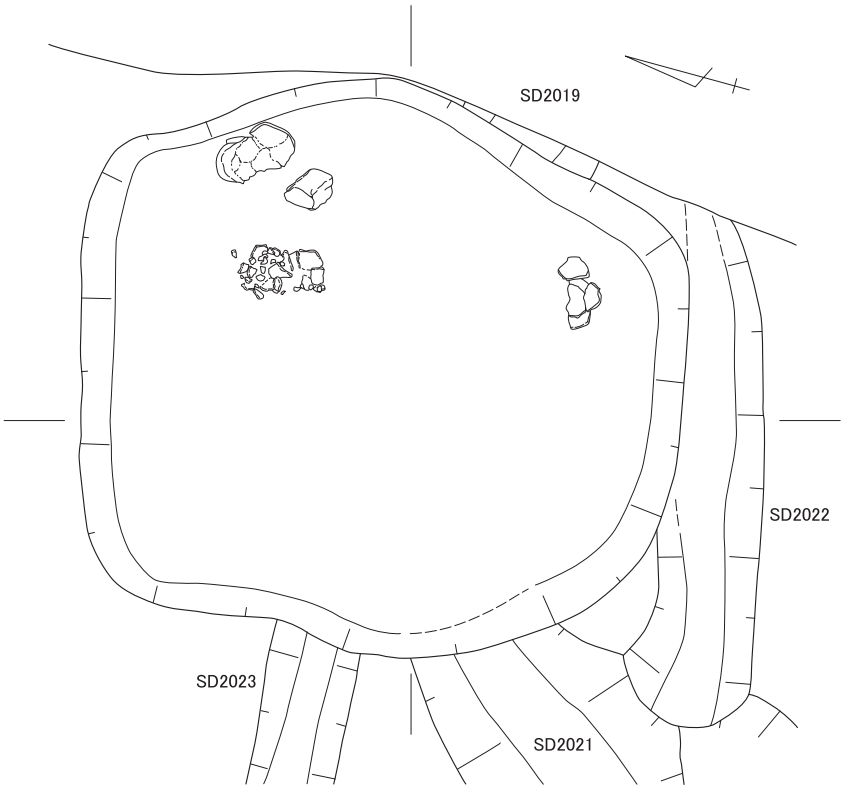


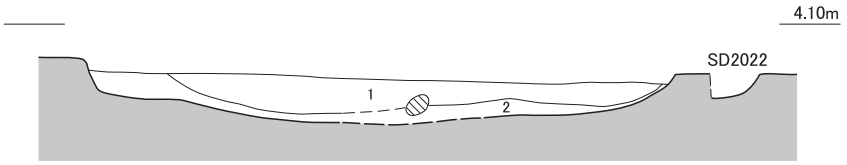
1. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂　鉄分を含む
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト混じり極細砂～細砂
3. 10YR4/2　灰黄褐色　粘質シルト～細砂　マンガン・鉄分を含む



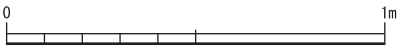
E地区　土坑　SK2030

SK2032



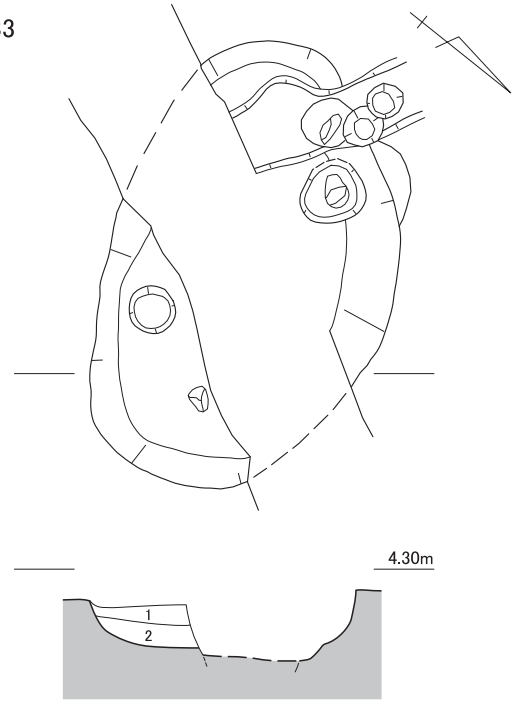


1. 10YR3/1　黒褐色　　極細砂～細砂　　マンガンを含む
2. 10YR4/1　褐灰色　　極細砂～細砂
3. 10YR5/1　褐灰色　　粘質シルト～細砂　マンガンを多く含む
4. 10YR4/2　灰黄褐色　粘質シルト～細砂　マンガンを多く含む



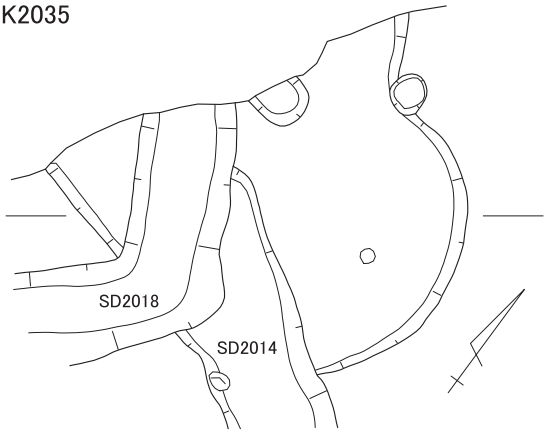
E地区　土坑　SK2032

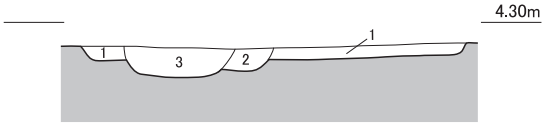
SK2033



1. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　ベースがブロック状に混じる
2. 7.5YR2/1　黒色　シルト～細砂　炭化物・遺物を含む

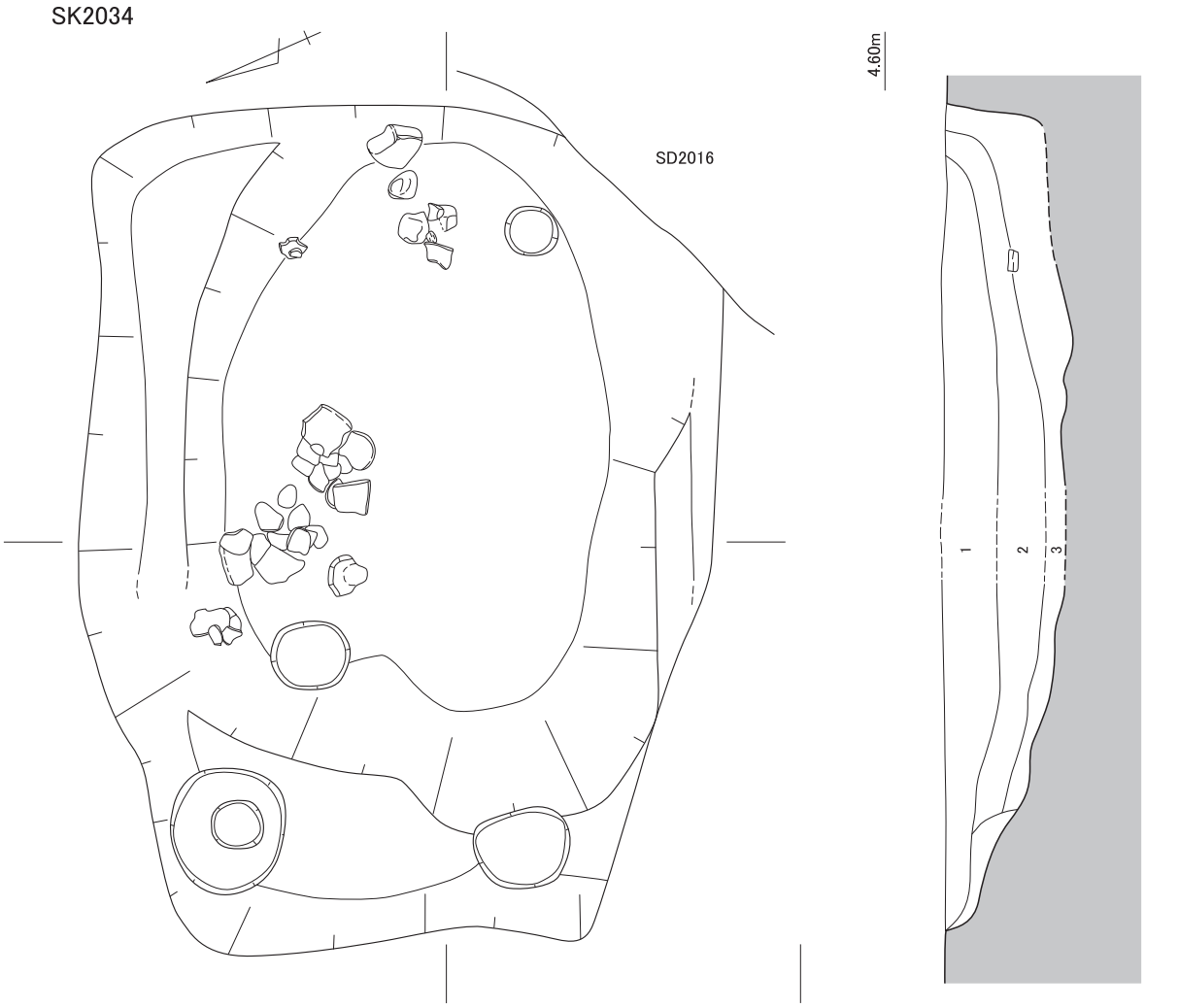
SK2035





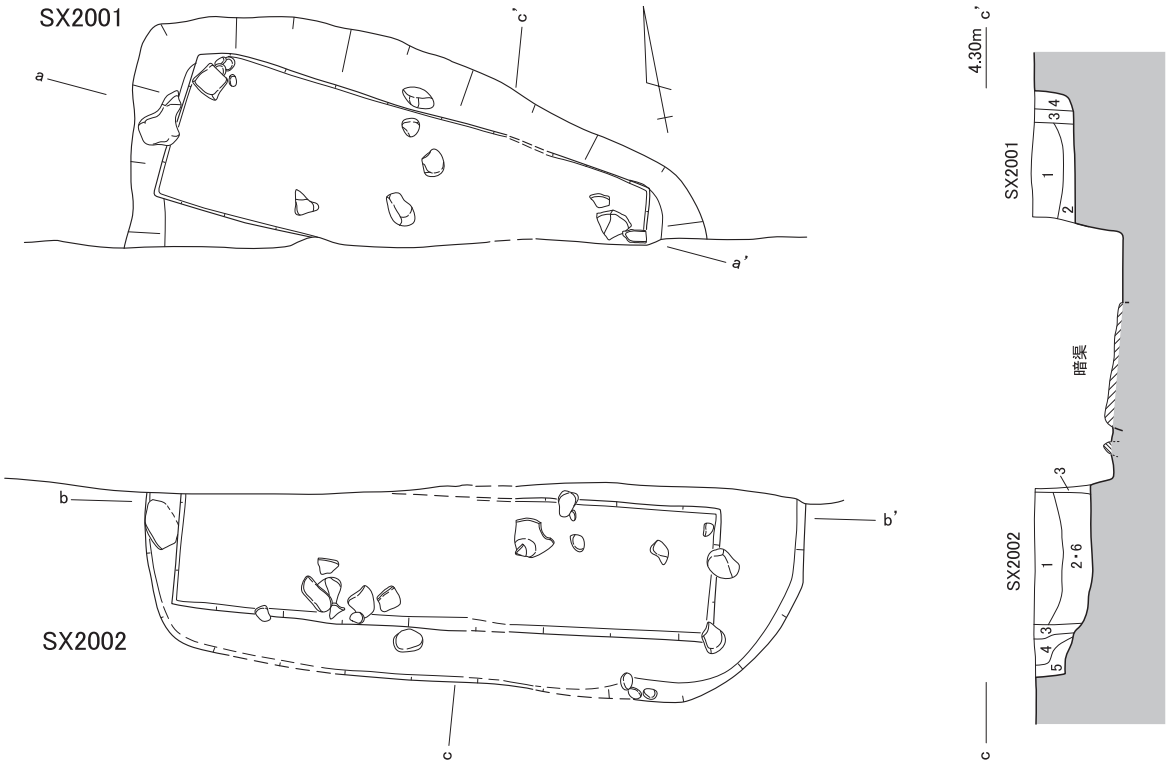
1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～細砂　マンガン・鉄分を含む
2. 2.5Y6/1　黄灰色　極細砂～細砂
3. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～中砂　マンガンを含む

E地区　土坑　SK2033・SK2035

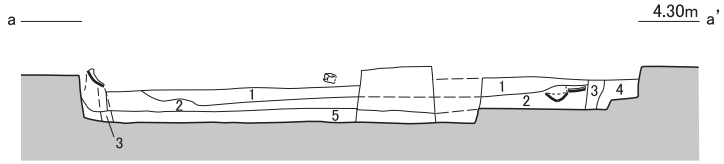


1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
2. 10YR3/1　黒褐色　シルト～細砂　　φ5～10cmの礫が2%程度混じる
3. 2.5Y3/1　黒褐色　細砂　　φ7cmの礫が1%混じる

E地区　土坑　SK2034

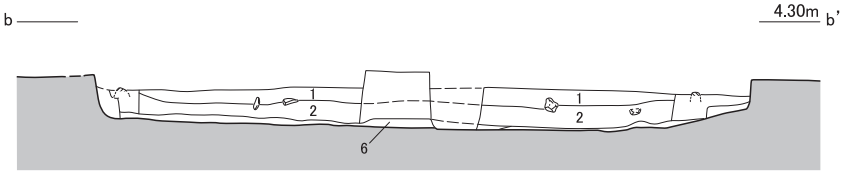


SX2001



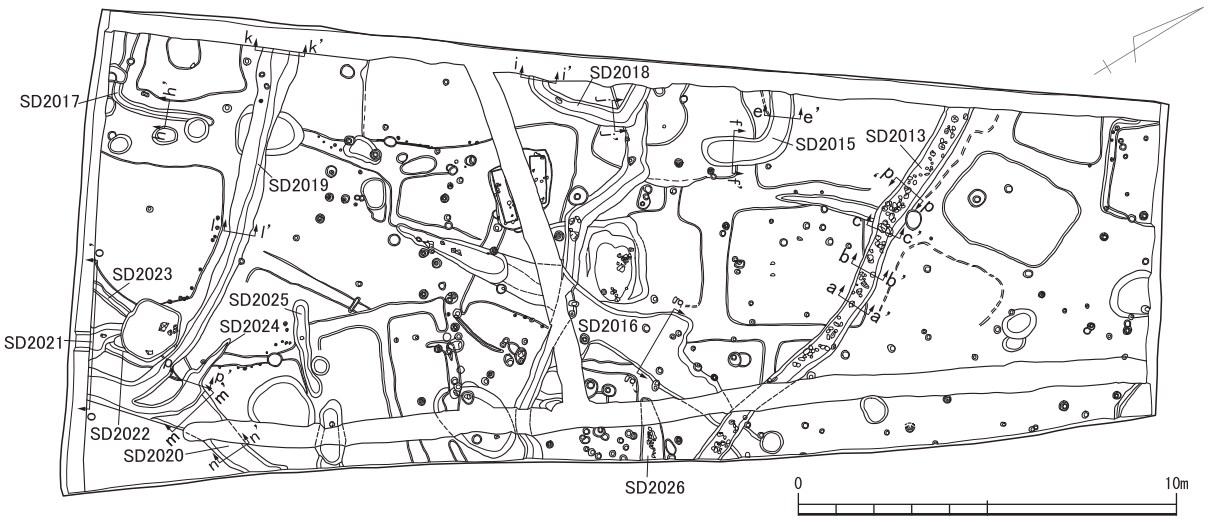
1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂　鉄分を含む
3. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂
4. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂　鉄分を多く 含む　ベースがブロック状に混じる
5. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂　鉄分を多く 含む　ベース土に近い

SX2002

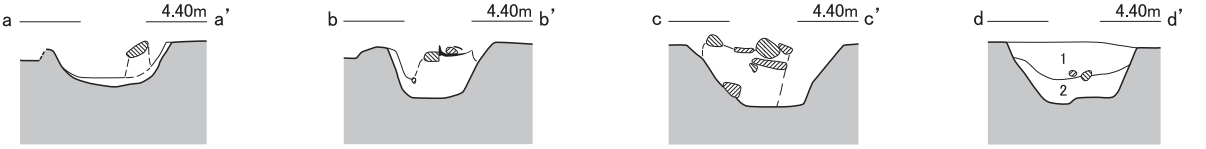


1. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂　マンガンを含む
2. 2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト～細砂　マンガン・鉄分を含む
3. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂
4. 2.5Y4/1　暗灰黄色　極細砂～細砂
5. 10YR6/8　明黄褐色　極細砂～細砂　鉄分をよく 含む　ベースに似る
6. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂　鉄分をよく 含む

E地区　木棺墓　SX2001・SX2002



SD2013



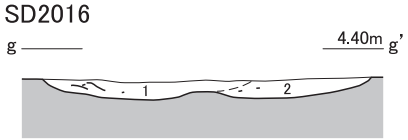
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト～細砂
　マンガンを含む
　φ5～20cm大の礫が20%程度混じる
2. 10YR4/1　褐灰色
　粘質シルト混じり極細砂～細砂
　φ3～15cm大の礫が10%程度混じる

SD2015

1. 10YR6/2　灰黄褐色　極細砂～細砂
　マンガンを多く含む・鉄分を含む

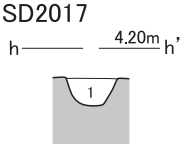
1. 10YR6/2　灰黄褐色　極細砂～細砂
　マンガンをよく含む

SD2016

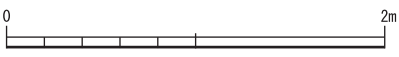


1. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
2. 2.5Y6/2　灰黄色　　極細砂～細砂　鉄分を多く含む

SD2017

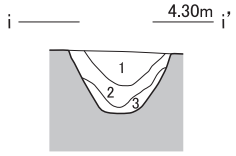


1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
　マンガン・鉄分を含む

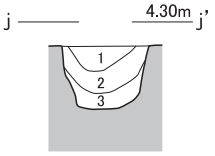


E地区　溝　SD2013・SD2015 ～ SD2017

SD2018

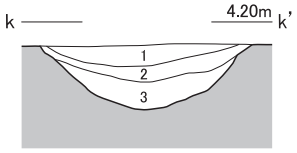


1. 2.5Y6/1　黄灰色　極細砂～細砂　　マンガンをよく含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト混じり中砂　　マンガンを含む
3. 2.5Y7/1　灰白色　シルト混じり細砂～中砂

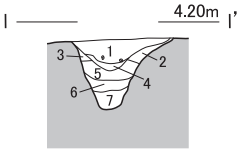


1. 2.5Y5/1　黄灰色　極細砂～細砂
2. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂　　マンガンをよく含む
3. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂　マンガンを含む

SD2019

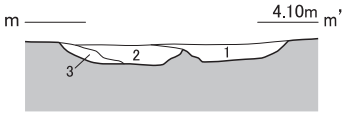


1. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂～細砂　　マンガンを多量に含む
2. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂　　マンガン・鉄分を含む
3. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質シルト～細砂　マンガン・ベースをよく含む

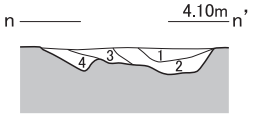


1. 7.5YR3/1　黒褐色　シルト～細砂　　マンガン・遺物を含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂
3. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂
4. 2層と同じ
5. 10YR4/1　褐灰色　シルト～極細砂　マンガンを含む
6. 2.5Y3/1　黒褐色　粘土～極細砂　　ベースブロックが4%程度混じる
7. 2.5Y3/1　黒褐色　粘土～極細砂

SD2020

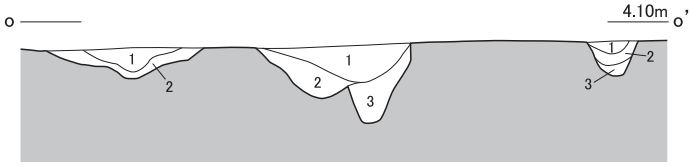


1. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂
3. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
   鉄分をよく含む　下部にベースがブロック状に混じる



1. 10YR3/2　黒褐色　極細砂～細砂　マンガンを含む
2. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
3. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂
4. 2.5Y3/1　黒褐色　シルト～細砂

SD2019　SD2021　SD2023

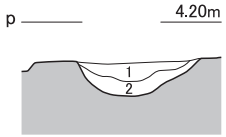


SD2019
1. 2.5Y4/1　黄灰色　細砂混じり粘質シルト～極細砂　マンガンを含む
2. 10YR4/1　褐灰色　細砂混じり粘質シルト～極細砂　ベースがブロック状に混じる

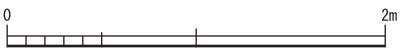
SD2021
1. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト～細砂　　マンガンを含む
2. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルト～細砂　　マンガンを含む
3. 10YR3/1　黒褐色　粘土～粘質シルト

SD2023
1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂～細砂　　鉄分を含む　ベースがブロック状に混じる
3. 5Y4/1　灰色　中砂混じり粘質シルト～細砂

SD2024

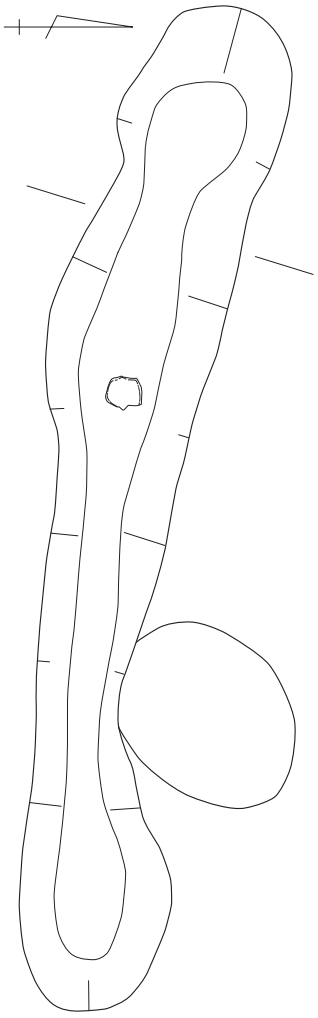


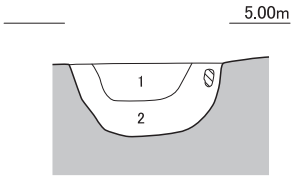
1. 5YR3/1　黒褐色　シルト～細砂
2. 7.5YR4/1　褐灰色　シルト～細砂　ベースがブロック状に混じる



E地区　溝　SD2018 ～ SD2021・SD2023・SD2024

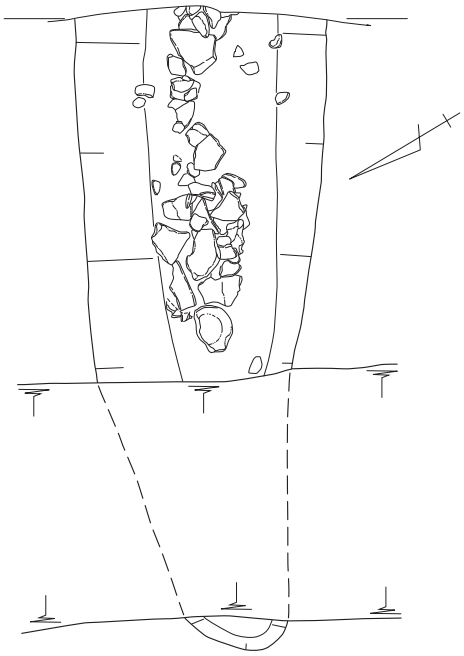
SD2025

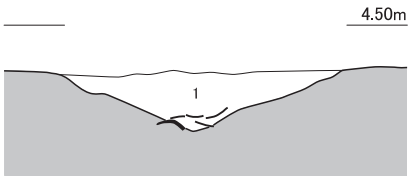




1. 10YR2/1　黒色　　極細砂～細砂
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト～細砂
　マンガン粒を含む　ベースがブロック状に混じる

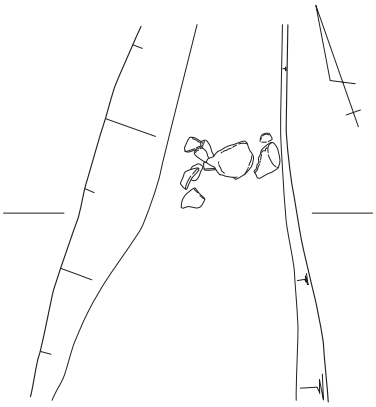
SD2026

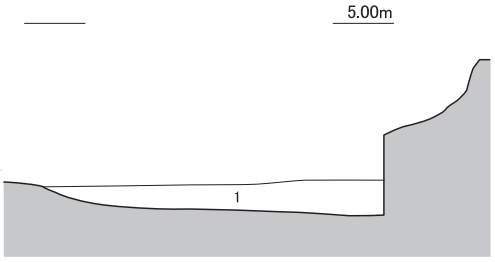




1. 2.5Y3/1　黒褐色　極細砂～細砂

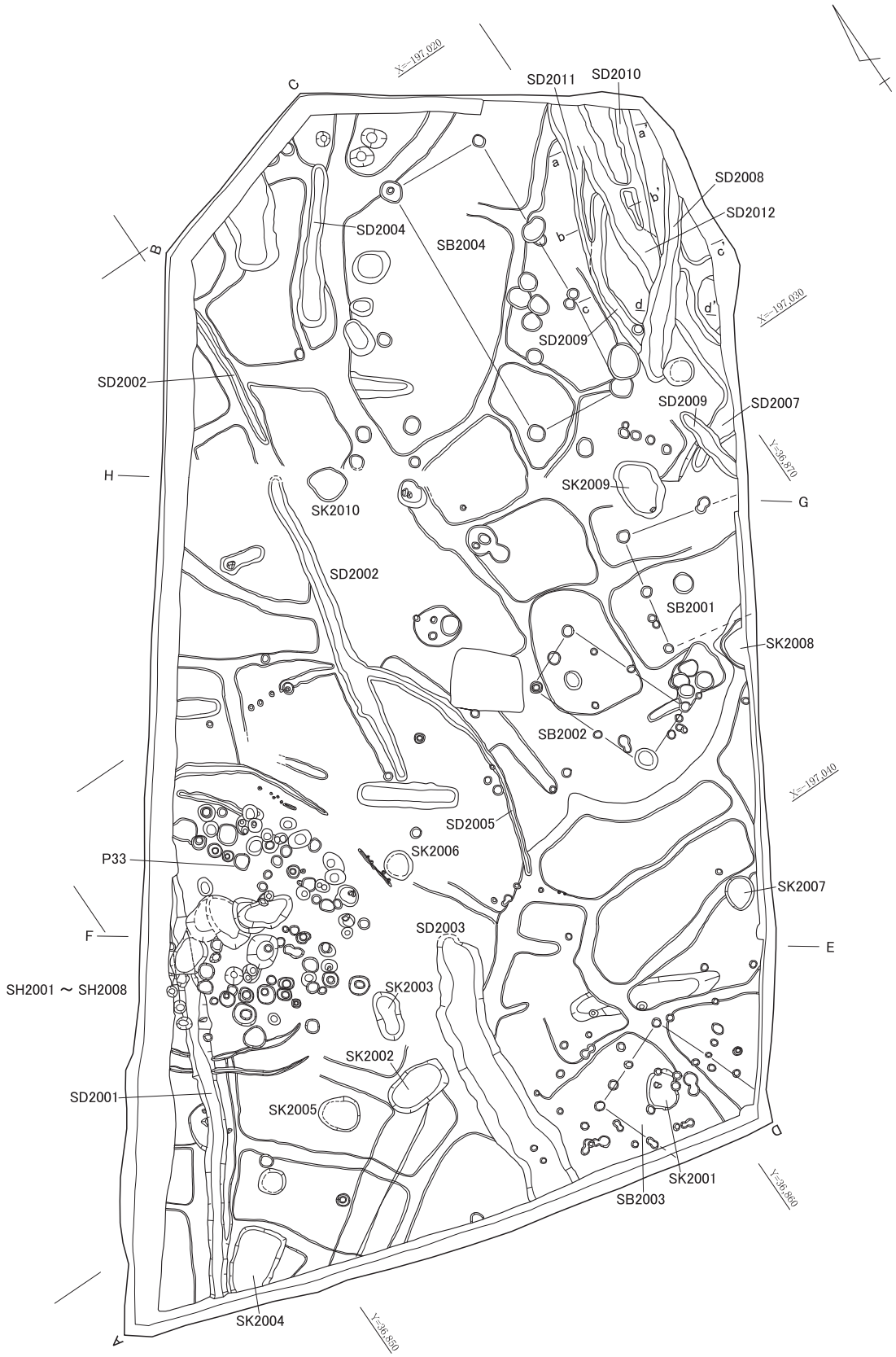
SD2030



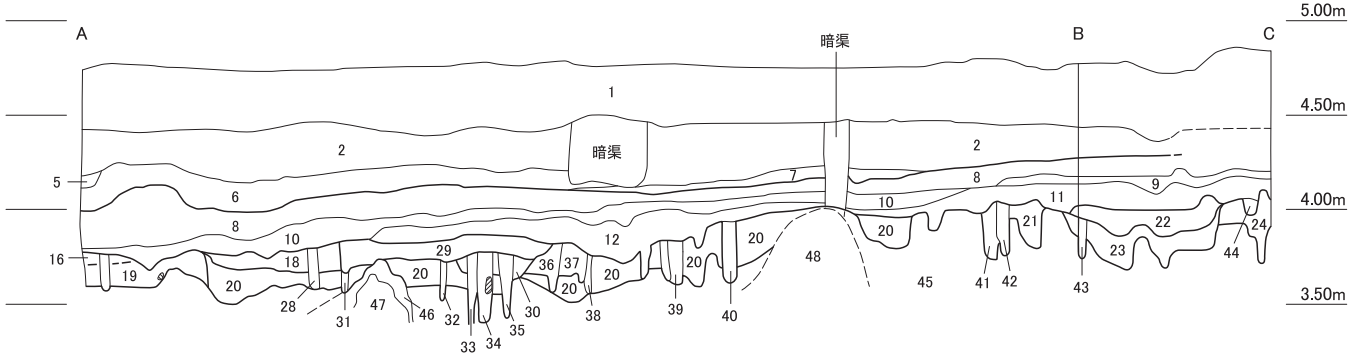


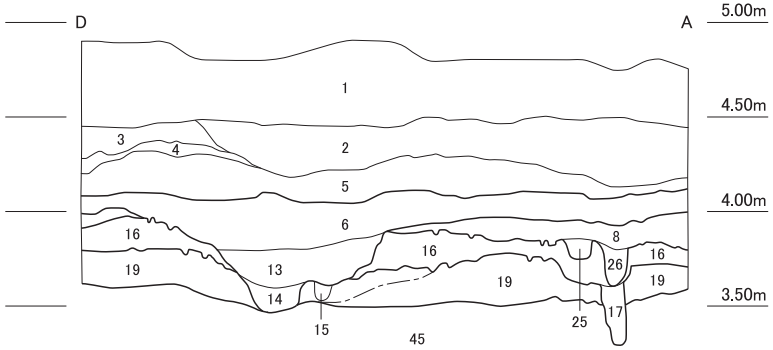
1. 5YR6/1　褐灰色　シルト混じり細砂質極細砂

E地区　溝　SD2025・SD2026・SD2030


X=-197,020
X=-197,030
X=-197,040
Y=36,870
Y=36,880
Y=36,890
C
B
H
F
A
D
G
E
SD2011
SD2010
SD2008
SD2012
SD2004
SB2004
SD2009
SD2002
SD2007
SK2010
SK2009
SB2001
SK2008
SB2002
SD2005
SK2006
P33
SK2007
SD2003
SH2001 ～ SH2008
SK2003
SK2002
SD2001
SK2005
SK2001
SB2003
SK2004
0
10m

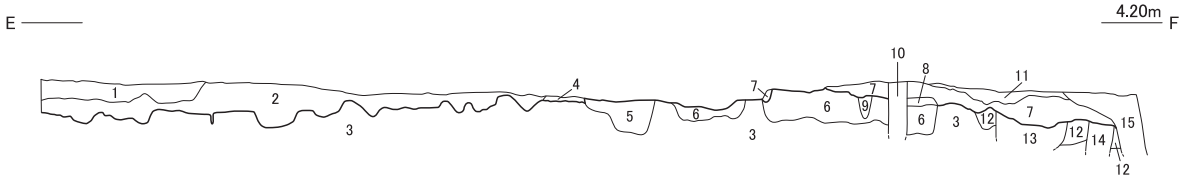
F地区　全体図



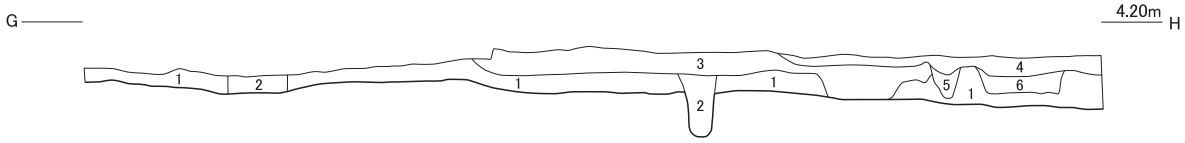


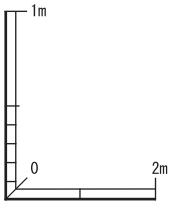
1. 盛土・現耕土			
2. 2.5Y7/2～7/6	灰黄色～明黄褐色	細砂～極細砂	近世以降の耕土
3. 暗渠の礫			
4. 7.5YR7/1	明褐灰色	細砂	旧耕土か
5. 2.5Y7/1	灰白色	細砂質極細砂	
6. 10YR7/1	灰白色	極細砂	
7. 2.5Y7/6	明黄褐色		鉄分を含む
8. 2.5Y6/6～10YR7/8	明黄褐色～黄橙色	シルト質極細砂～極細砂	マンガン・鉄分を含む
9. 10YR6/6	明黄褐色	極細砂	鉄分を含む
10. 2.5Y4/3	オリーブ褐色	細砂混じりシルト	鉄分集積層
11. 5YR5/2	灰褐色	極細砂	
12. 2.5YR5/2	灰赤色	細砂混じり極細砂	
13. 10YR7/1	灰白色	細砂質極細砂	10YR4/3にぶい黄褐色のブロックが混じる 中世溝
14. N6/1～5PB6/1	灰色～青灰色	シルト質極細砂	中世溝
15. 10YR7/1	灰白色	シルト混じり砂礫	φ5㎜の礫が密に混じる

16. 10YR4/2～7.5R4/1	灰黄褐色～暗赤灰色	極細砂質シルト	一部マンガンを多く含む
17. 7.5YR6/1	褐灰色	シルト混じり中砂	溝埋土
18. 5YR5/1	褐灰色	シルト混じり細砂～中砂	土器を含む
19. 2.5YR5/1～	赤灰色～	シルト質細砂	褐色土がブロック状に混じる 畦畔(盛土か)
7.5YR6/1～	褐灰色～		ベース土に近い 上半は土壌化
10YR7/2	にぶい黄橙色		
20. 5YR6/1	褐灰色	シルト混じり中砂 細砂	土器を含む
21. 2.5YR5/1	赤灰色	シルト混じり極細砂	溝埋土か
22. 10YR4/2	灰黄褐色	細砂質極細砂	マンガンを含む 水田耕土
23. 5YR6/1	褐灰色	シルト混じり細砂	水田耕土及び土坑埋土
24. 7.5R4/1～5/1	暗赤灰色～赤灰色	極細砂	マンガンを含む 40層との間に礫が混じる
25. 10YR6/1	褐灰色	極細砂質シルト	鉄分を含む
26. 7.5YR4/2	灰褐色	細砂質シルト	溝埋土
27. 2.5YR5/1	赤灰色	シルト質極細砂	
28. 2.5YR5/1	赤灰色	シルト混じり細砂～中砂	
29. 10R5/1	赤灰色	極細砂質細砂	竪穴住居埋土か
30. 7.5R5/1	赤灰色	シルト混じり細砂	竪穴住居埋土か
31. 2.5YR6/1	赤灰色	シルト混じり細砂	竪穴住居壁溝か
32. 2.5YR6/1	赤灰色	細砂質極細砂	
33. 7.5R4/1	暗赤灰色	中砂混じり細砂(暗調)	
34. 10R4/1	暗赤灰色	シルト混じり細砂(暗調)	
35. 10R4/1	暗赤灰色	暗調	
36. 7.5R5/1	赤灰色	シルト混じり極細砂	マンガンを多く含む 竪穴住居埋土
37.			竪穴住居埋土
38. 10R5/1	赤灰色	シルト混じり細砂	竪穴住居周壁溝
39. 2.5YR4/2	灰赤色	細砂混じりシルト	
40. 7.5R5/1	赤灰色	シルト混じり極細砂質細砂	1cm前後の礫が混じる 土器を含む
41. 5YR6/1	褐灰色	シルト混じり極細砂	
42. 7.5R5/1	赤灰色	極細砂質細砂	マンガンを含む
43. 7.5R5/1	赤灰色	極細砂質細砂	マンガンを含む
44. 10YR4/2	灰黄褐色	細砂質極細砂	マンガンを含む
45. 5YR7/1～10YR7/1	明褐灰色～灰白色	極細砂 細砂～中砂	ベース
46. 7.5R6/1	褐灰色	礫混じり中粗砂	
47.		礫層	φ1cm内外の円礫が密集する
48.		礫層	φ3cm内外の円礫が密集する

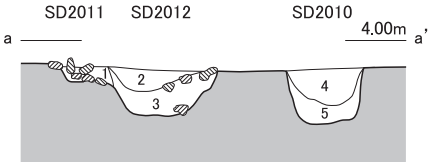


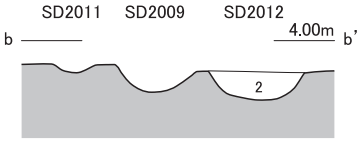
1. 7.5YR4/1 褐灰色 粘土～細砂 シルト質埴壌土
マンガン粒・遺物片を少量含む
2. 7.5YR5/1 褐灰色 粘土～細砂 シルト質埴壌土
マンガン粒・遺物片を若干含む
3. 2.5Y5/1 黄灰色 粘土～細砂(やや粗い) シルト質埴土
マンガン浸透あり
4. 10YR5/1 褐灰色 粘土～微砂 シルト質埴壌土
5. N5/1 灰色 微砂 重埴土
6. 7.5YR5/1 褐灰色 微砂～細砂 シルト質埴壌土
7. 7.5YR4/1 褐灰色 粘土～微砂 シルト質埴壌土
遺物片を少量含む 竪穴住居埋土
8. 6層と同じ
9. 10YR5/1 褐灰色 粘土～細砂 シルト質埴壌土
竪穴住居周壁溝
10. 5YR3/1 黒褐色 微砂～細砂 シルト質埴壌土
炭化物片を若干含む
11. 7.5YR4/1 褐灰色 微砂～細砂 シルト質埴壌土
12. 7.5YR4/1 褐灰色 粘土～細砂 シルト質埴壌土
マンガン粒を若干含む
13. 10層と同じ
14. 10層と同じ
15. 7.5YR4/1 褐灰色 微砂～細砂 シルト質埴壌土
遺物片を若干含む

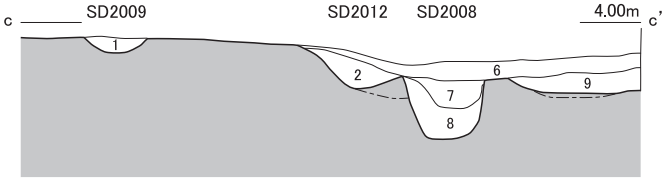


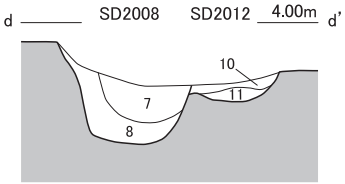


1. 10YR5/1 黄灰色 粘土～細砂 シルト質埴壌土 マンガン粒を多く含む
2. 5P3/1 暗紫灰色 粘土～細砂 重埴土 マンガン粒を少量含む
3. 2.5Y5/1 黄灰色 粘土～微砂 シルト質埴壌土 マンガン・遺物片を若干含む
4. 2.5Y5/1 黄灰色 粘土～微砂 シルト質埴壌土 炭粒・遺物片を若干含む
5. 5Y5/1 灰色 粘土～微砂 シルト質埴壌土 炭粒・遺物片を若干含む
6. 7.5YR4/1 褐灰色 粘土～微砂 シルト質埴壌土 やや細砂混じる



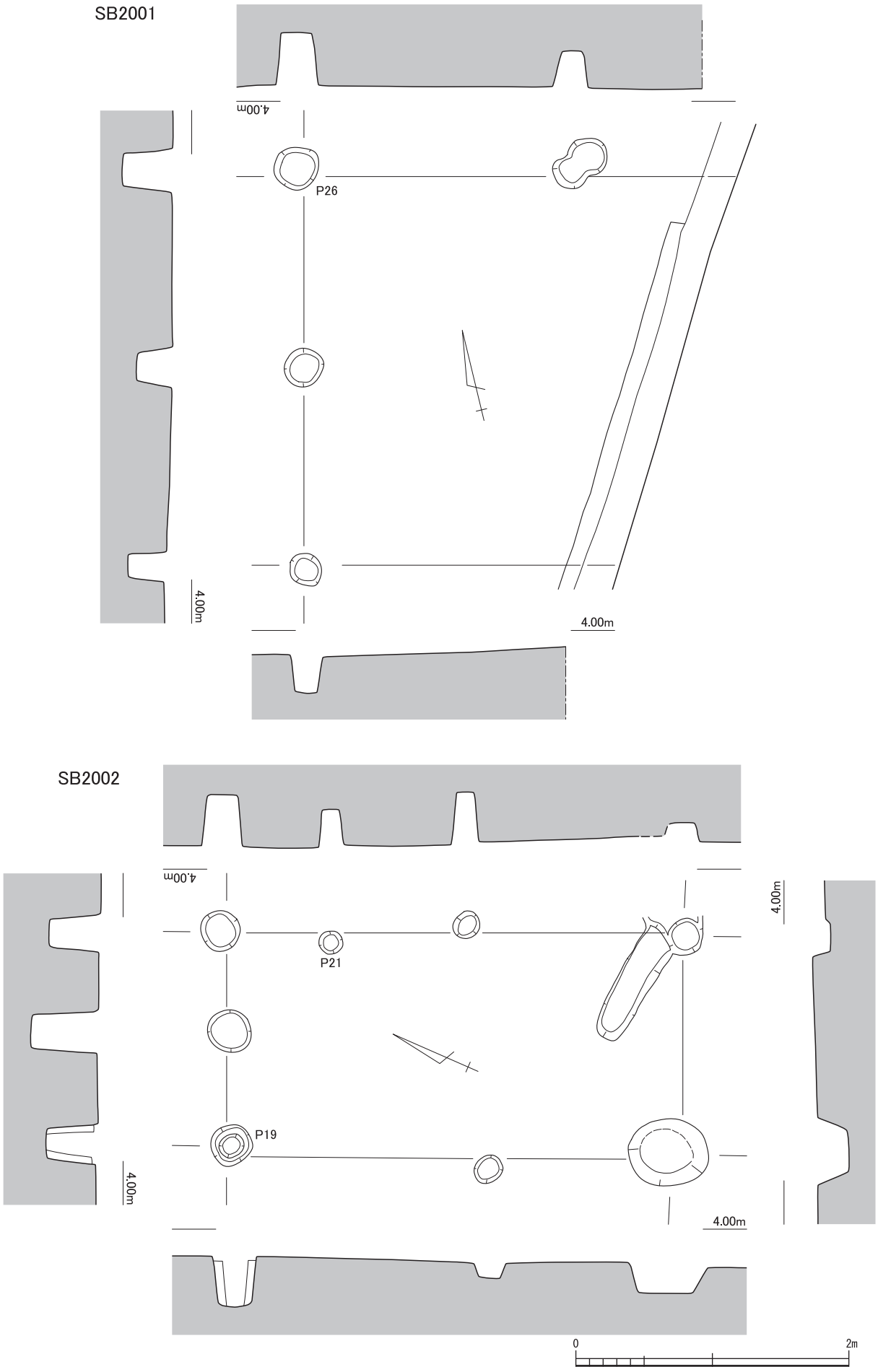






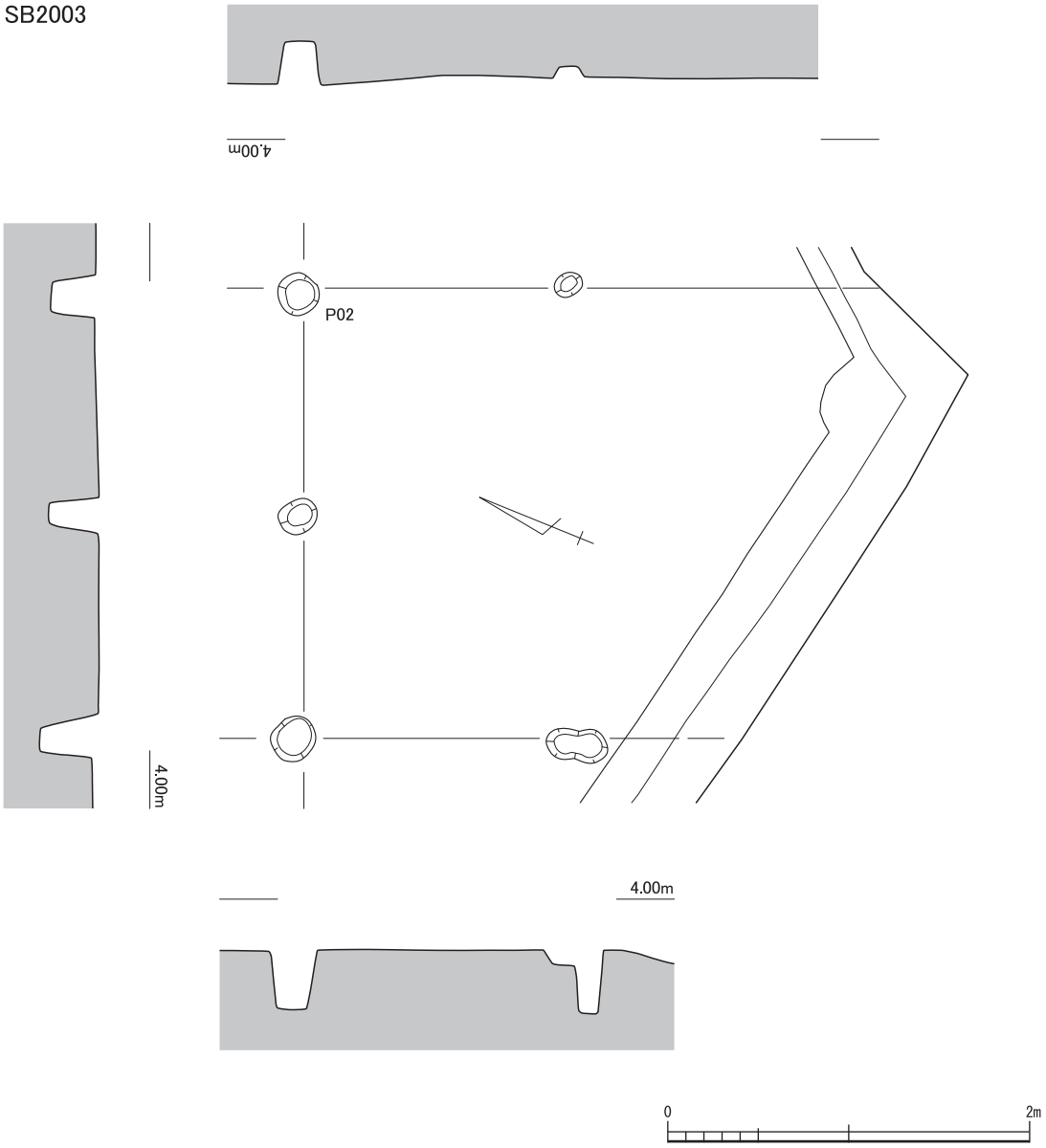
1. 5Y5/1 灰色 微砂～細砂 シルト質埴土 マンガン粒・φ5～10cm大の礫が混じる
2. 2.5Y5/1 黄灰色 シルト～微砂 軽埴土 マンガン粒を含む
3. 5Y4/1 灰色 微砂～細砂 砂質埴土 φ5～10cm大の礫が混じる
4. 5Y5/1 灰色 微砂～細砂 シルト埴土 マンガン粒を含む
5. 7.5YR3/3 暗褐色 微砂～細砂 砂質埴土
6. 5YR4/1 褐灰色 シルト～微砂 シルト質埴壌土 遺物・マンガン粒を含む
7. 5YR2/1 黒褐色 シルト～微砂 シルト質埴壌土
8. 7層と同じ
9. 5YR2/1 黒褐色 シルト～微砂 シルト質埴壌土 下半に地山ベース粒が混じる
10. 7.5YR4/1 褐灰色 シルト～微砂 シルト質埴壌土
11. 9層と同じ

F地区 東西土層断面図ほか SD2008 ～ SD2012

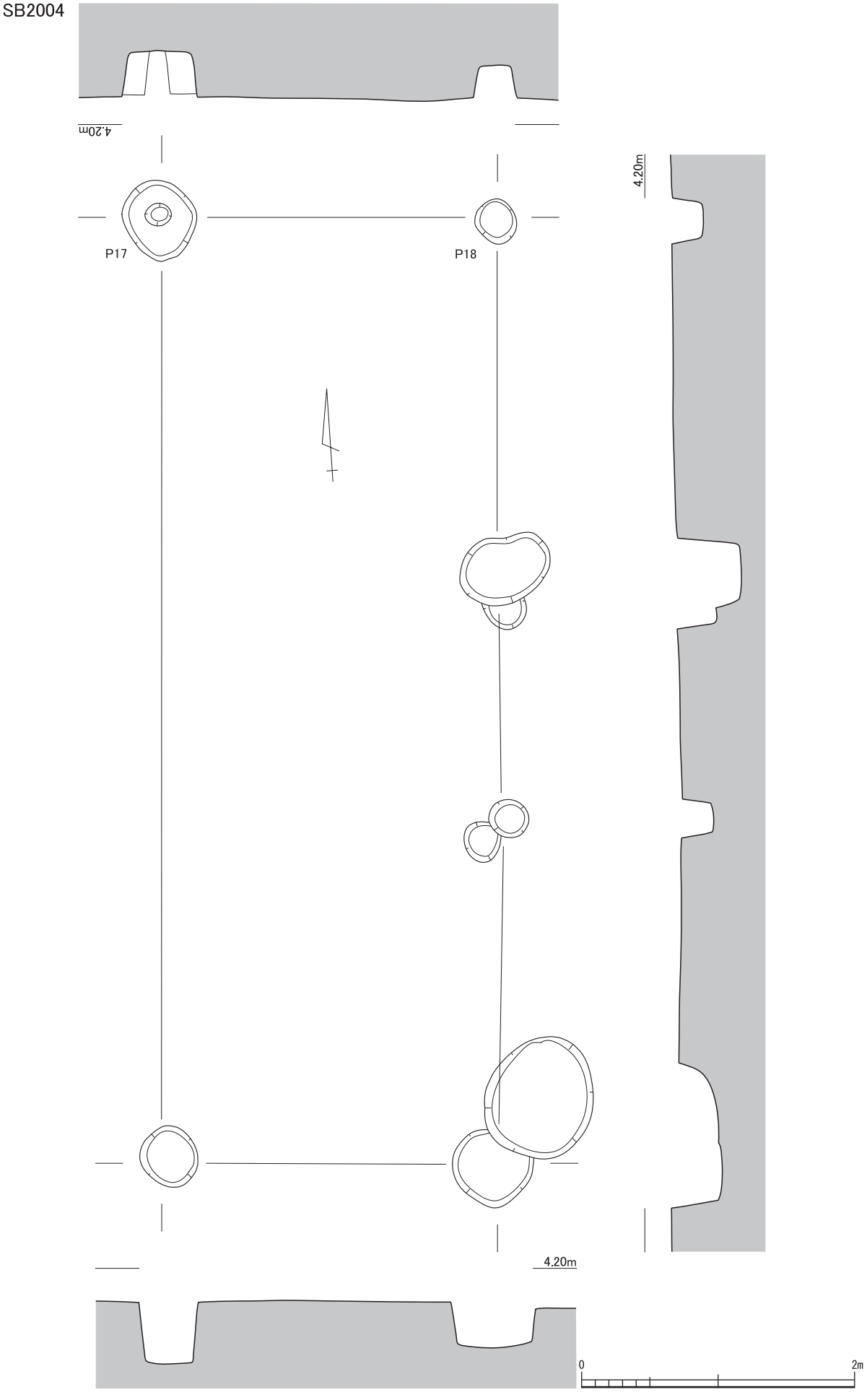


F地区　掘立柱建物跡　SB2001・SB2002

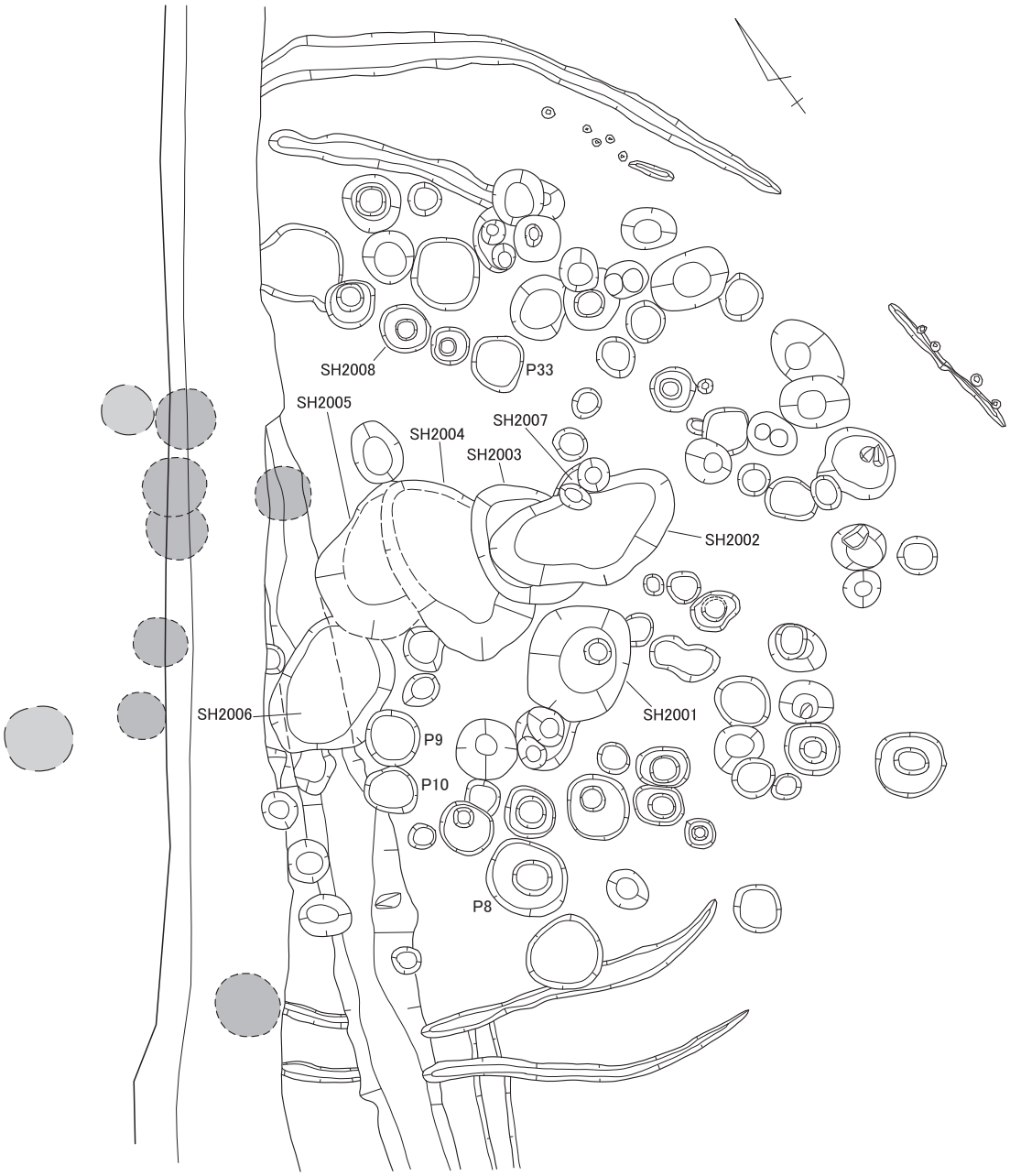
SB2003



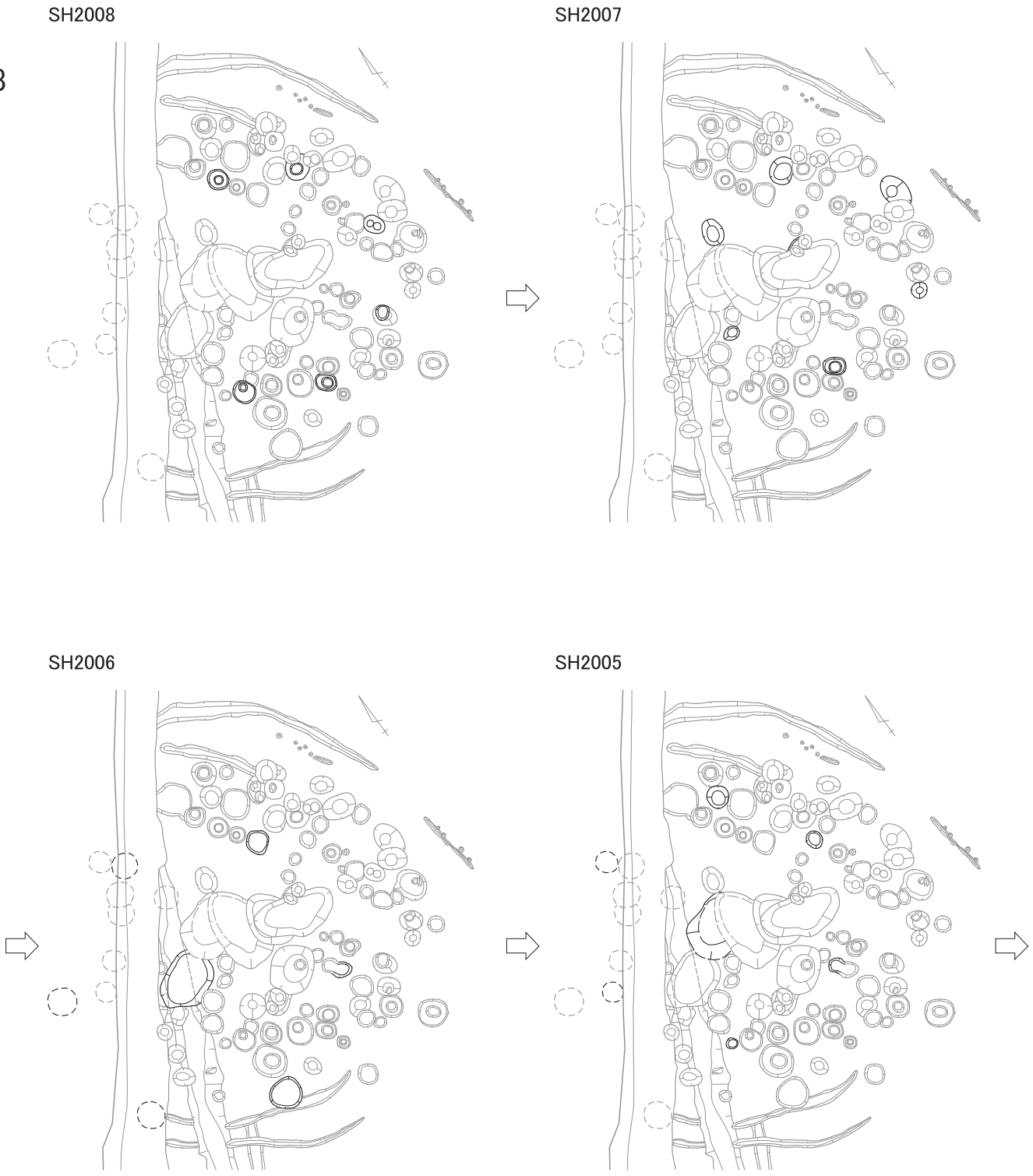
F地区　掘立柱建物跡　SB2003



F地区　掘立柱建物跡　SB2004



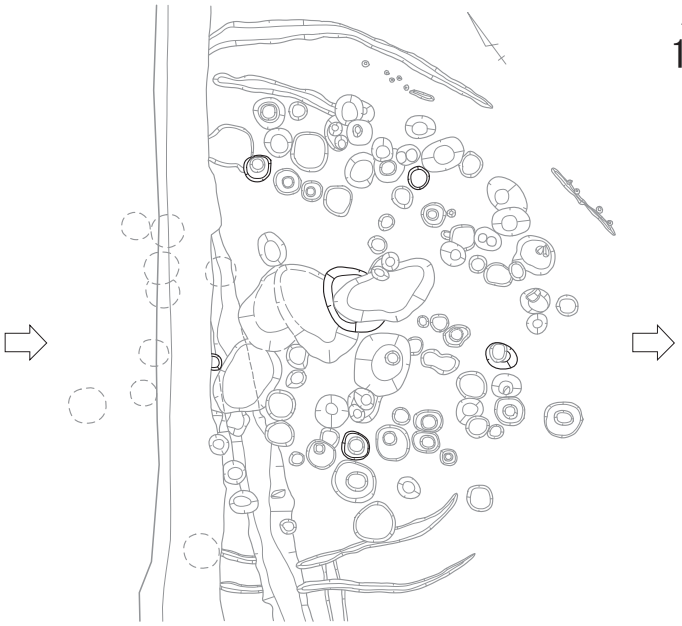
F地区　竪穴住居跡　SH2001 ～ SH2008



F地区　竪穴住居跡　SH2001 ～ SH2008 変遷図 1

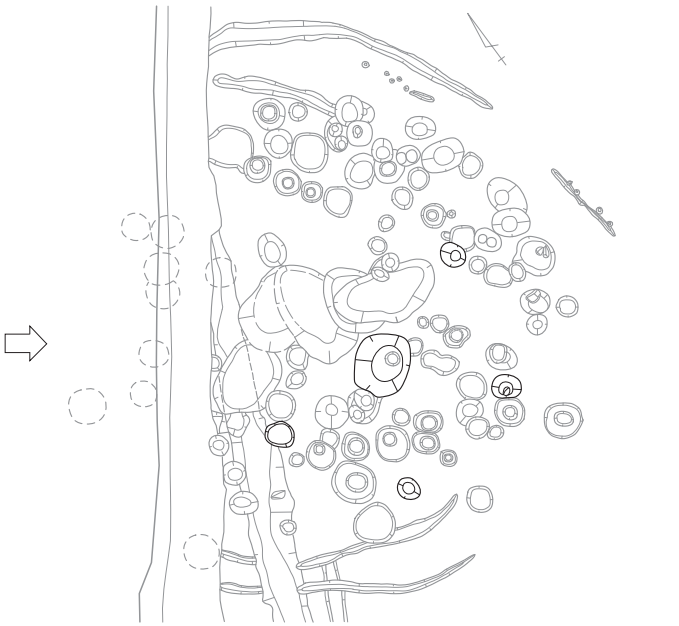
SH2004

SH2003



SH2002

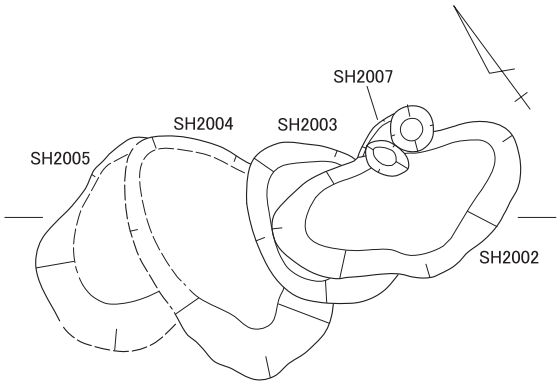
SH2001

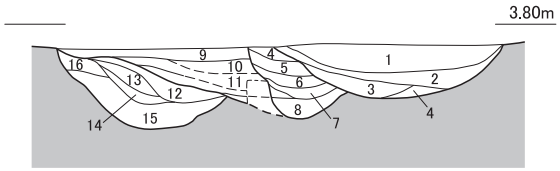


0 3m

F地区　竪穴住居跡　SH2001 ～ SH2008 変遷図 2

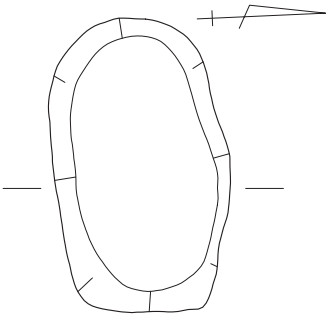
竪穴住居跡群中央土坑

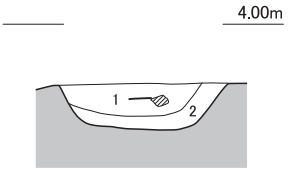




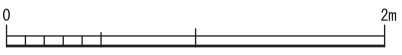
1. 5YR2/1　黒褐色　シルト～微砂　シルト質埴壌土
遺物片・炭材片を多く 含む
2. 5YR2/1　黒褐色　粘土～シルト　シルト質埴壌土
炭材粒を含む
3. 5YR2/1　黒褐色　粘土～シルト　シルト質埴壌土
黄色ベースブロックが少量混じる
4. 5YR2/1　黒褐色　微砂～細砂　シルト質埴壌土
炭粒を少量含む
5. 7.5YR2/1　黒色　シルト～細砂　シルト質埴壌土
黄色ベースブロック小片が均一に混じる
6. 7.5YR2/1　黒色　シルト～細砂　シルト質埴壌土
黄色ベースブロック小片が下半部に集中して混じる
7. 7.5YR2/1　黒色　粘土～細砂　シルト質埴壌土
8. 7.5YR2/1　黒色　粘土～微砂　重埴土
9. 5YR3/1　黒褐色　細砂　シルト質壌土
遺物片を含む
10. 5YR3/1　黒褐色　細砂　シルト質埴壌土
11. 2.5YRY4/1　赤灰色　シルト～細砂　シルト質埴壌土
黄色ベースブロック小片が混じる
12. 2.5YRY4/1　赤灰色　粘土～微砂　シルト質埴壌土
13. 2.5YRY4/1　赤灰色　粘土～微砂　シルト質埴壌土
遺物片を若干含む
14. 2.5YRY4/1　赤灰色　粘土～微砂　シルト質埴壌土
遺物片を若干含む
15. 2.5YRY4/1　赤灰色　粘土～微砂　シルト質埴壌土
黄色ベースブロック小片が混じる
16. 2.5YRY4/1　赤灰色　微砂～細砂　シルト質埴壌土
遺物片を若干含む

SK2002



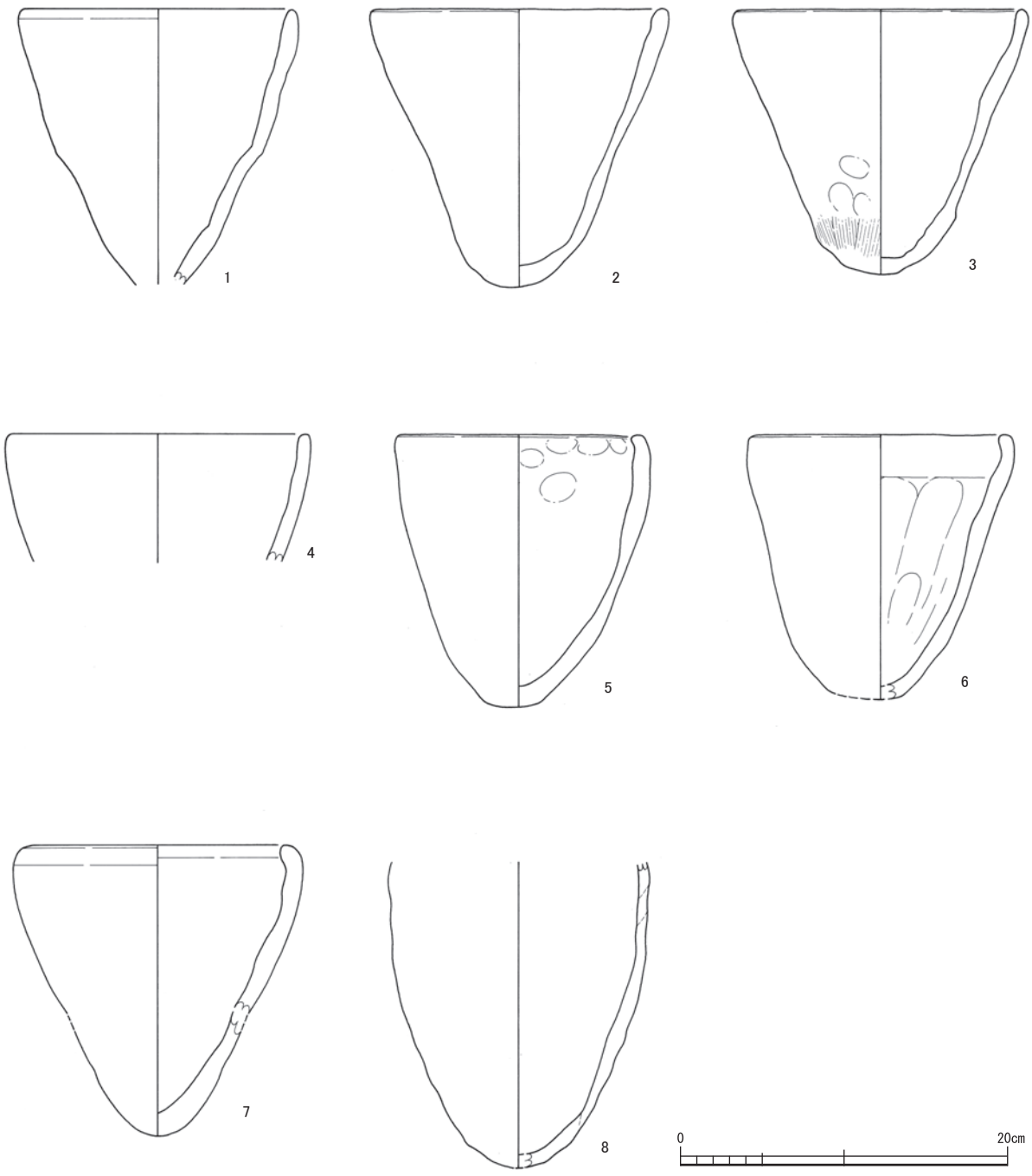


1. 10YR3/1　黒褐色　粘土～微砂　シルト質埴壌土
2. 2.5Y5/1　黄灰色　粘土～細砂　シルト質埴土
マンガン粒を多く 含む



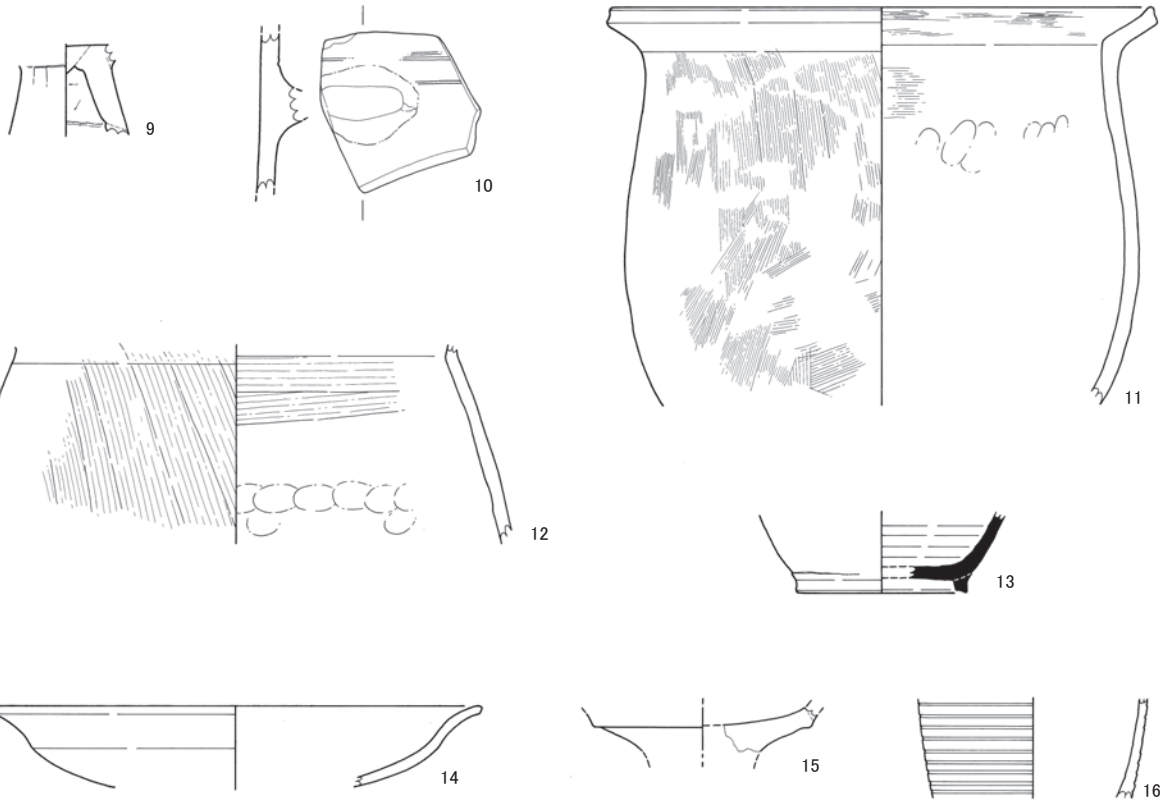
F地区　竪穴住居跡中央土坑・SK2002

落ち込み

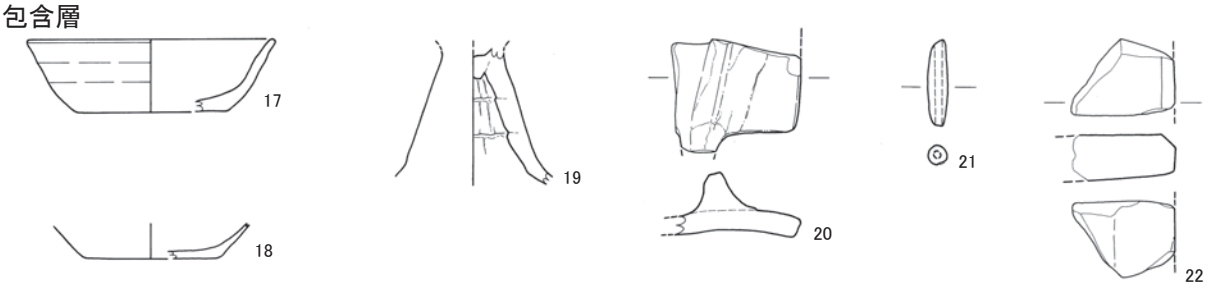


B地区　製塩土器（1 ～ 8）

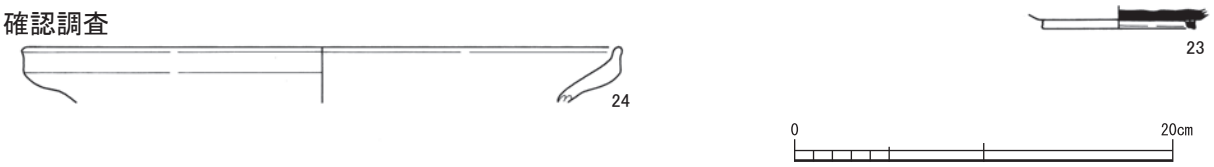
落ち込み



包含層



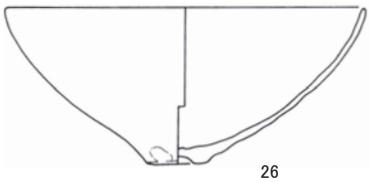
確認調査

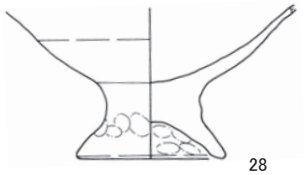


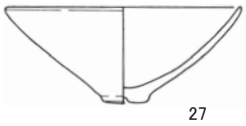
B地区　須恵器・土師器（9 ～ 24）

SH0002

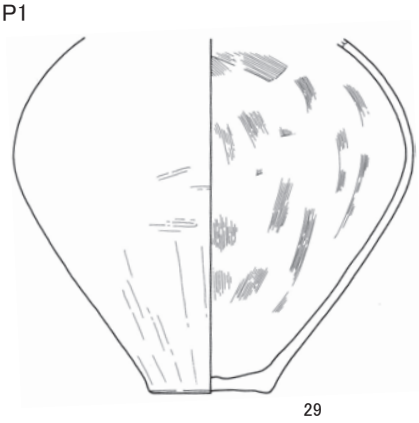
25


26

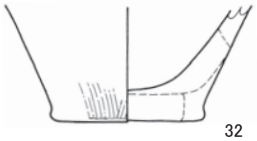

28


27

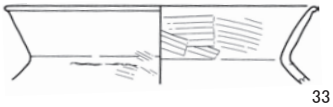
P1


29

SB0032（P133）


32

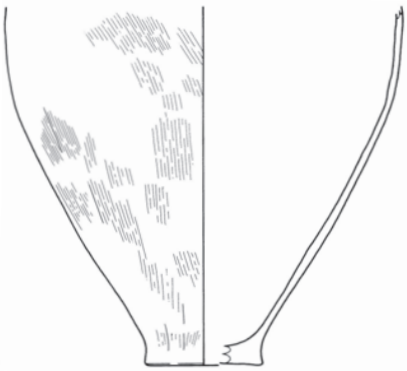
SB0040（P537）


33

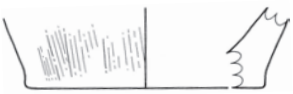
SB0035（P49）

31

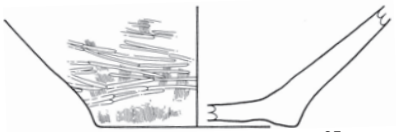
P44


30

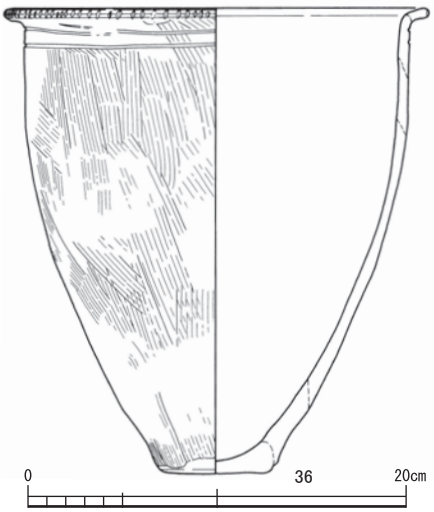
P598


34

P860

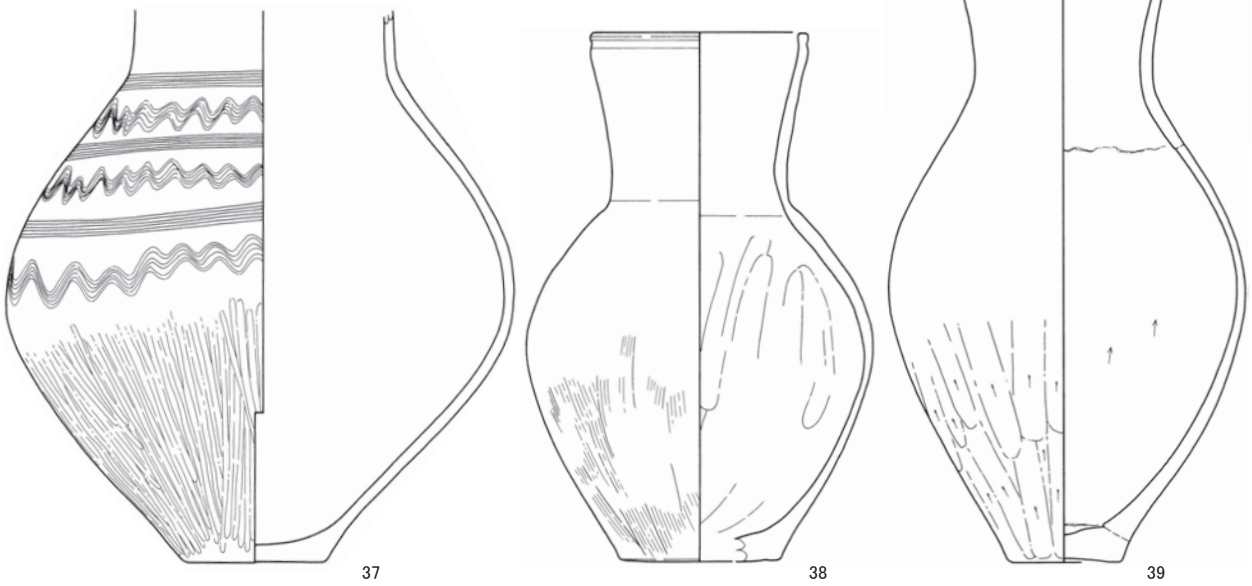

35

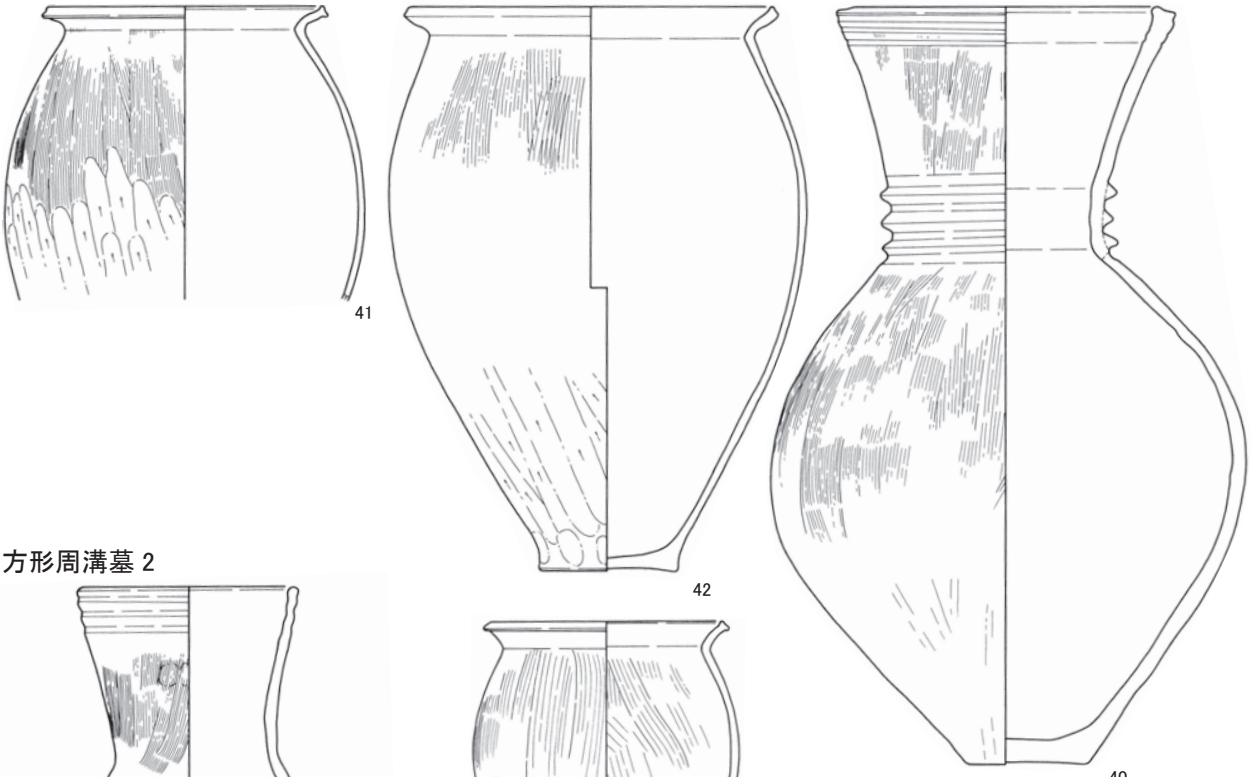
P1094



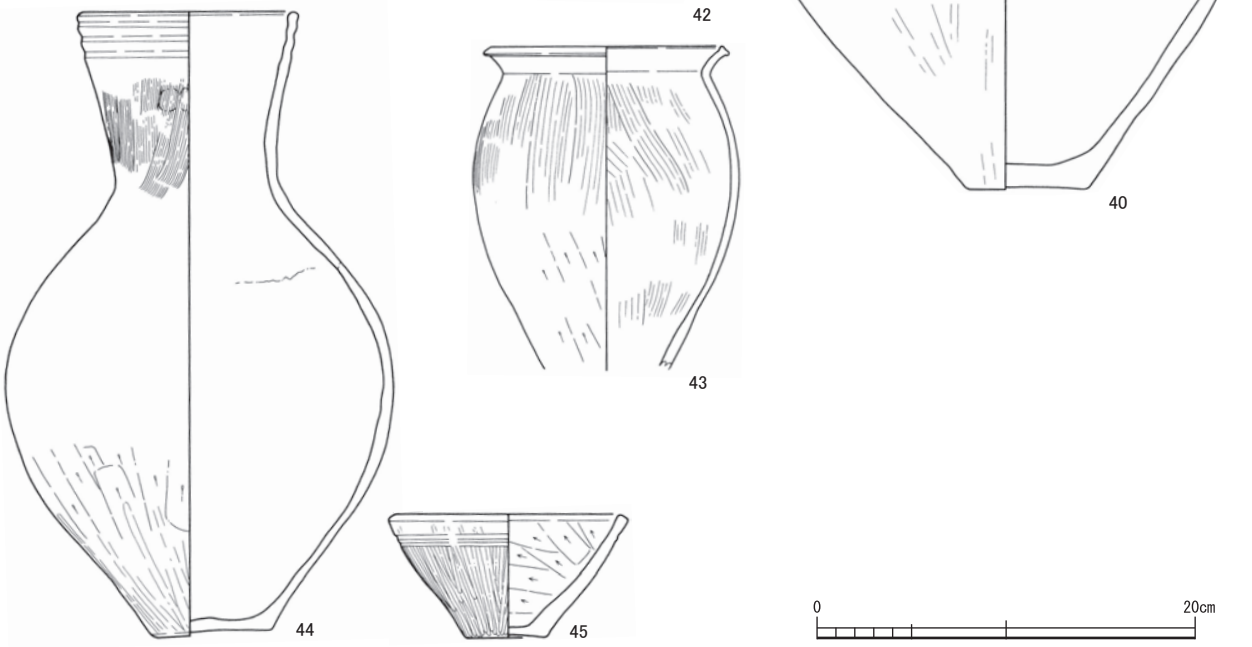
C地区　弥生土器1（25 ～ 36）

方形周溝墓 1



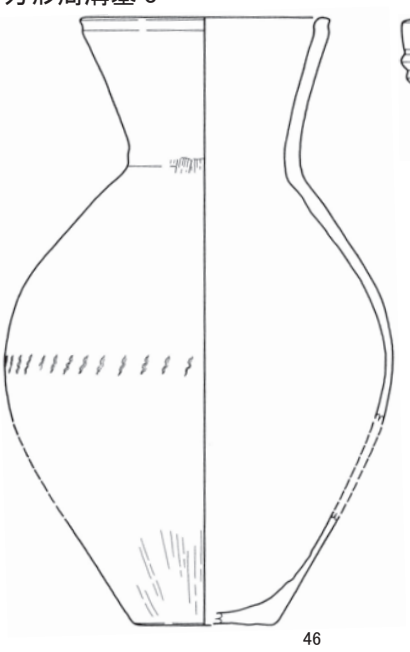


方形周溝墓 2

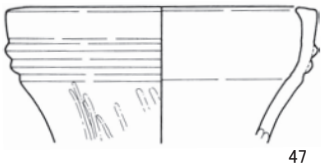


C地区　弥生土器２（37 ～ 45）

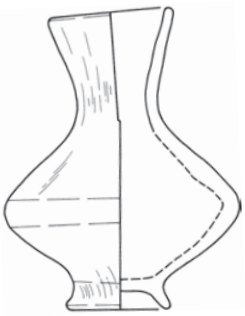
方形周溝墓 3



46

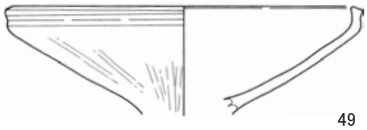


47



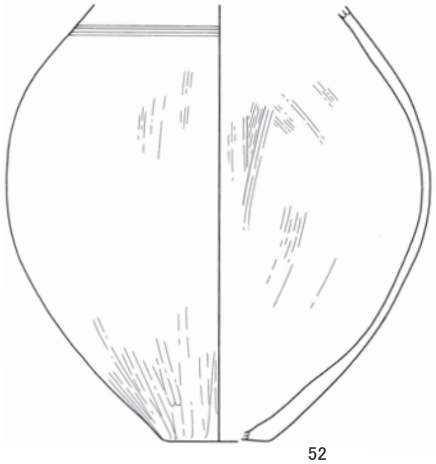
48

方形周溝墓 4



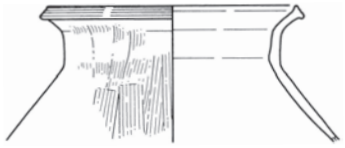
49

SD0019

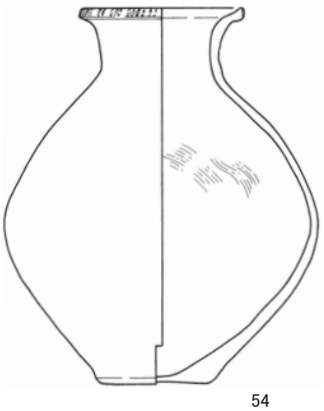


52

SD0020

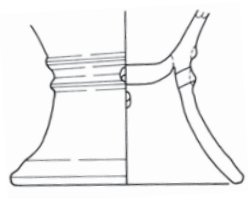


53



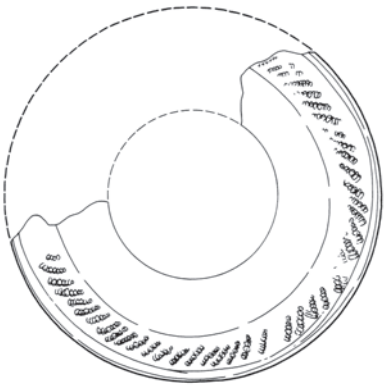
54

SD0021



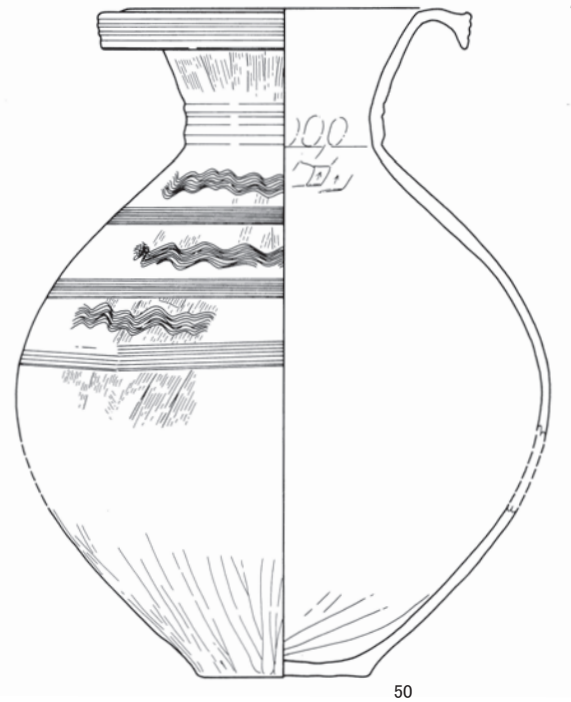
55

方形周溝墓 7

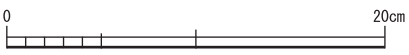


SK0001

51

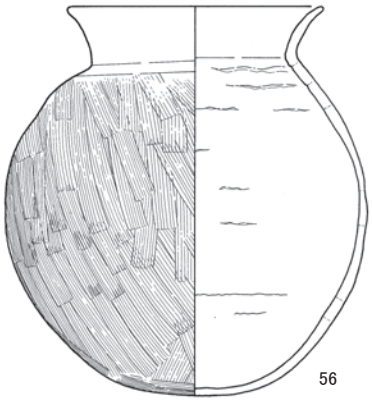


50

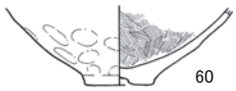


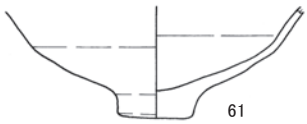
C地区　弥生土器３（46 ～ 55）

SH0001

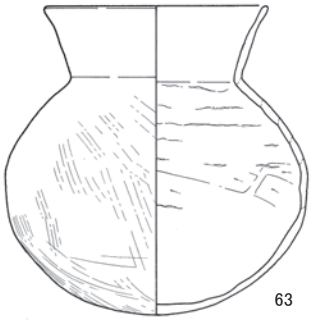


SH0002

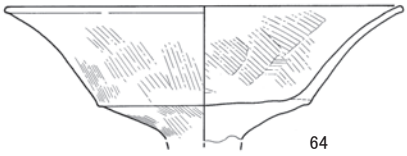


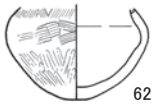


SH0003

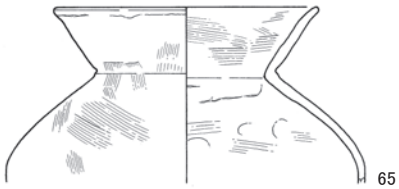


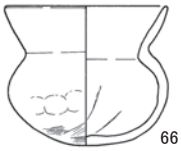
SH0004



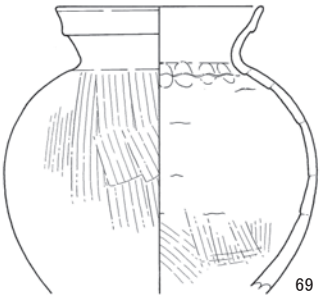


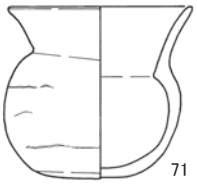
SH0005

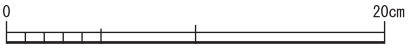




SH0006

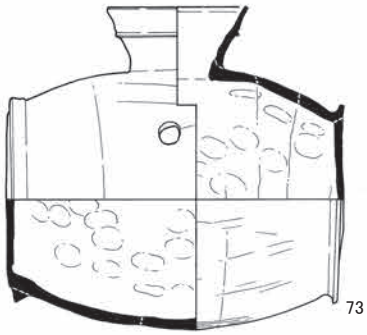


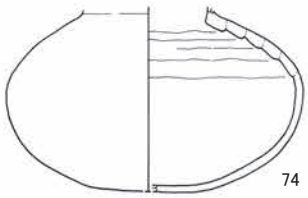


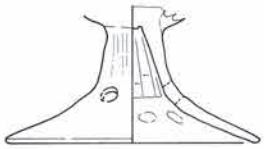


C地区　土師器1（56 ～ 72）

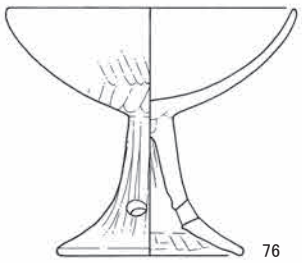
SH0008



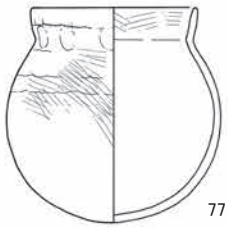


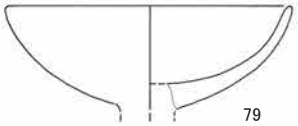


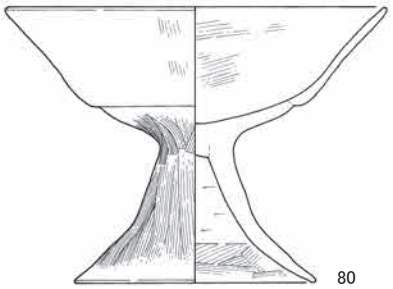
SH0009



SH0010

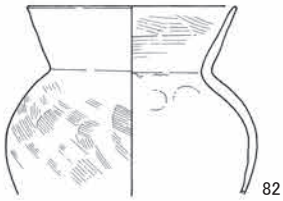


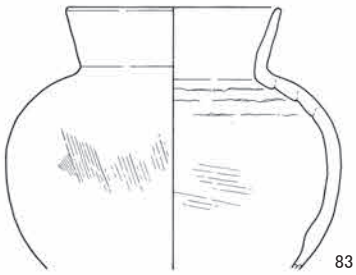


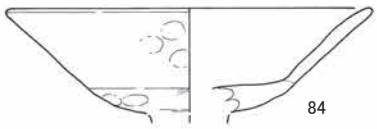


SH0007（P203）

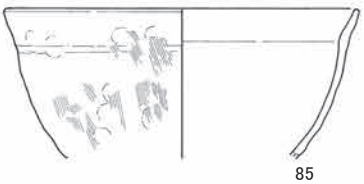
SH0013



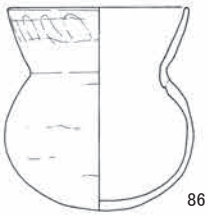


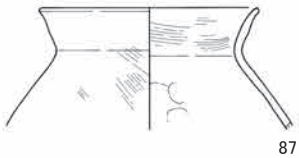


SB0005（P1005）

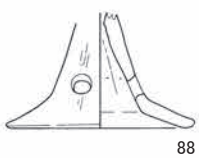


P544



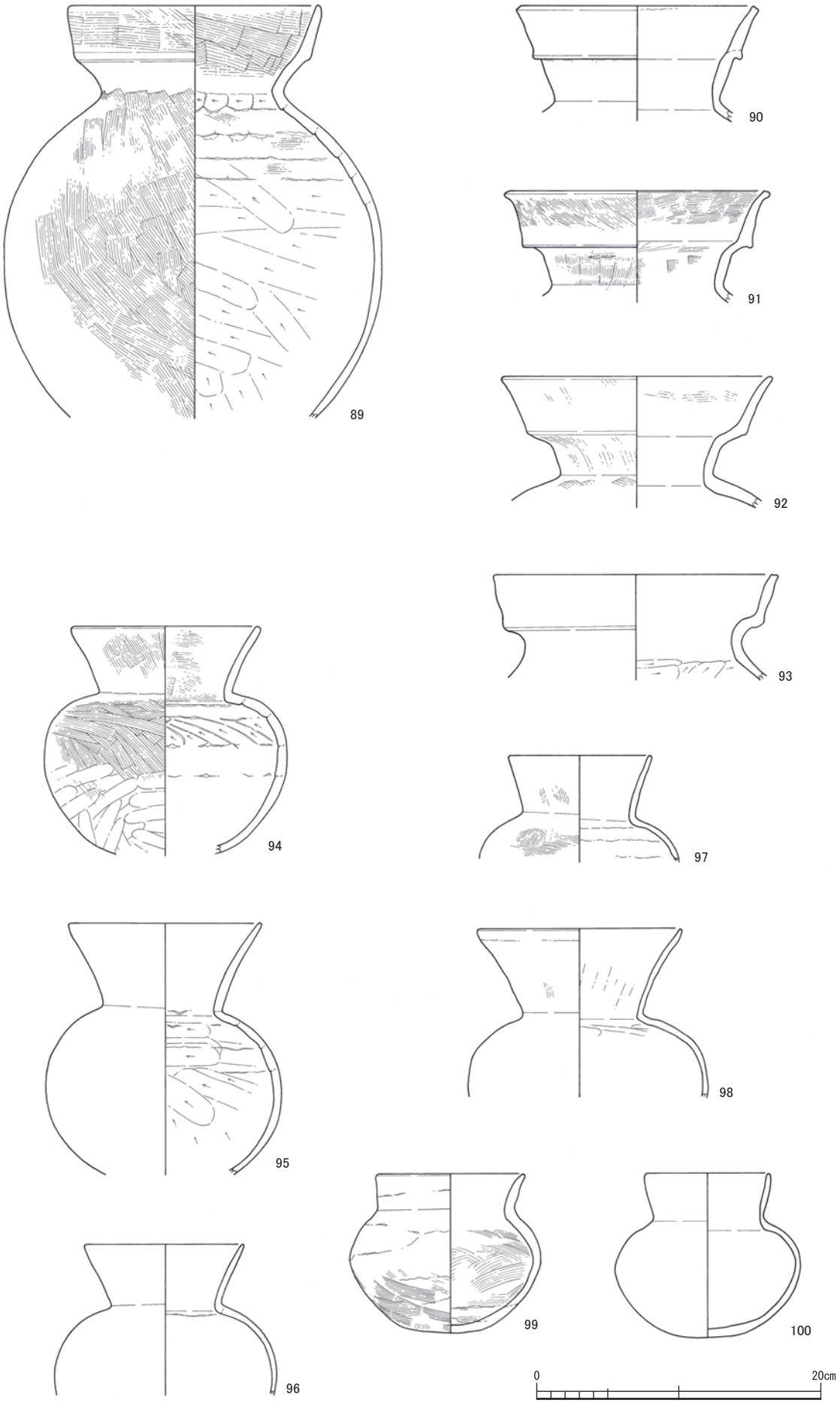


SB0013（P867）



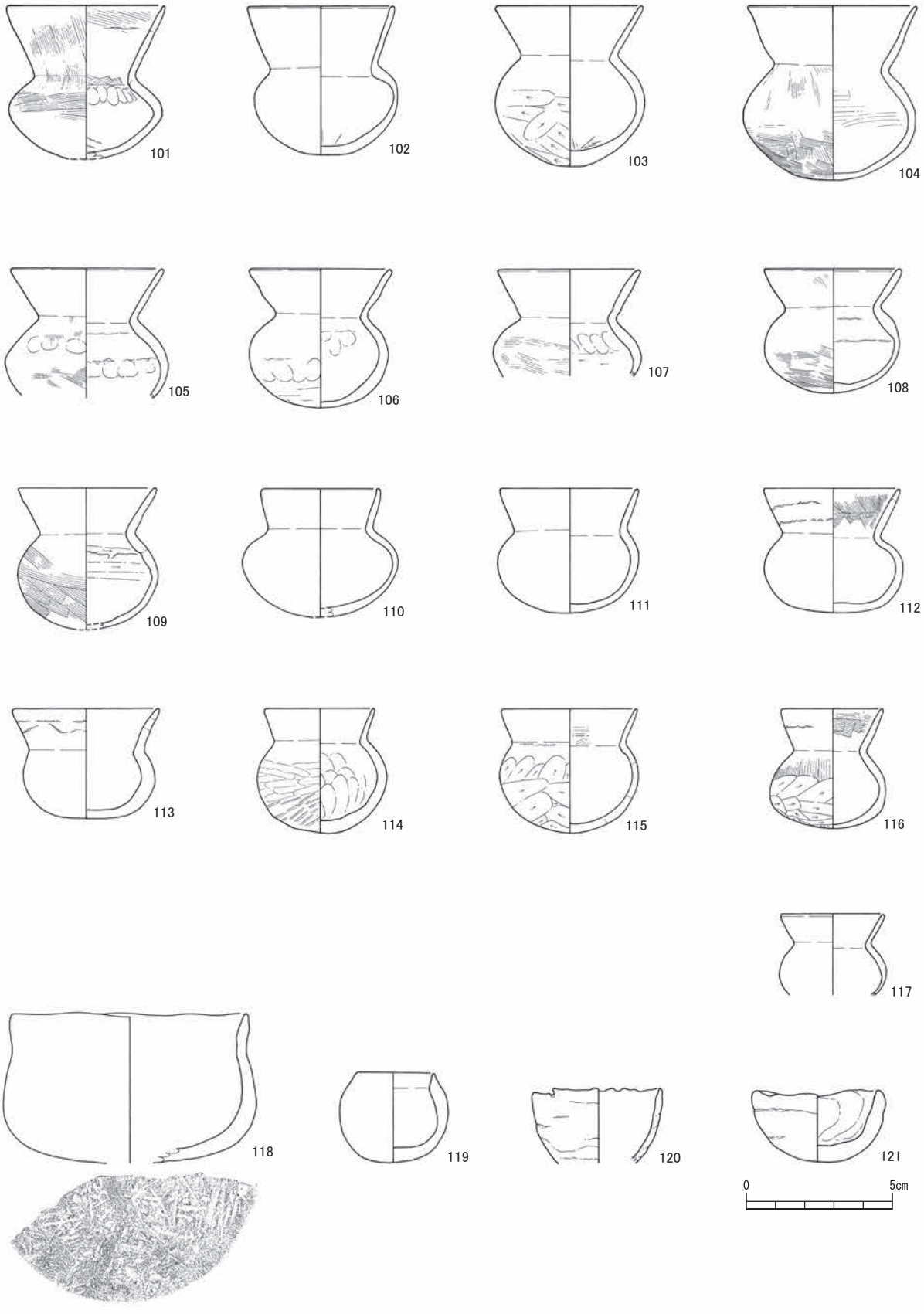
C地区　須恵器・土師器２（73 ～ 88）

SH0012



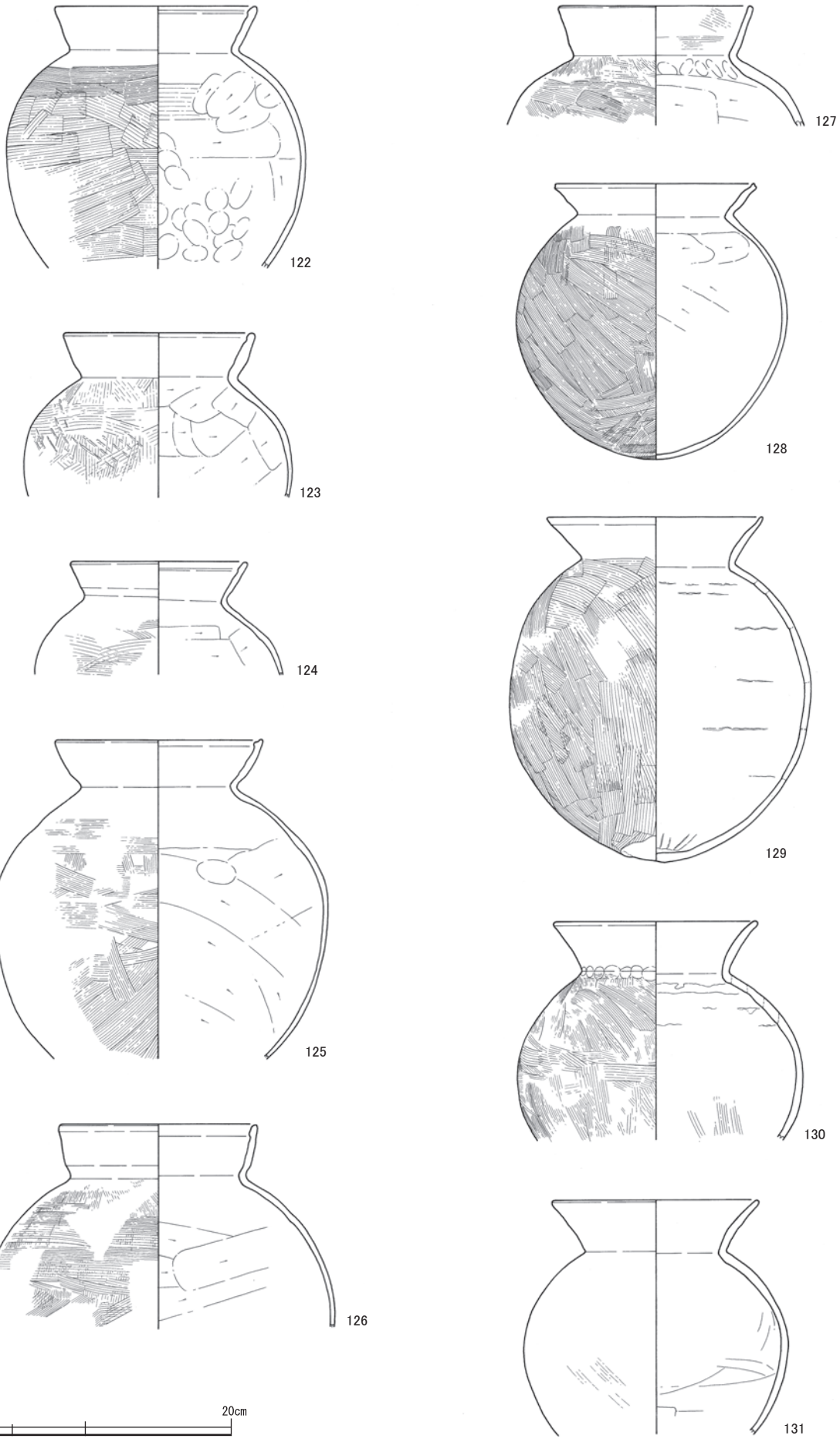
C地区　土師器３（89 ～ 100）

SH0012



C地区　土師器４（101 ～ 121）

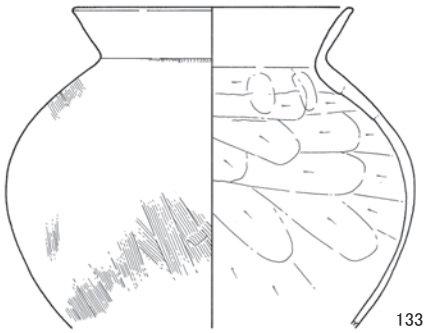
SH0012

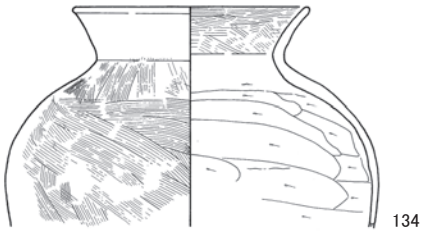


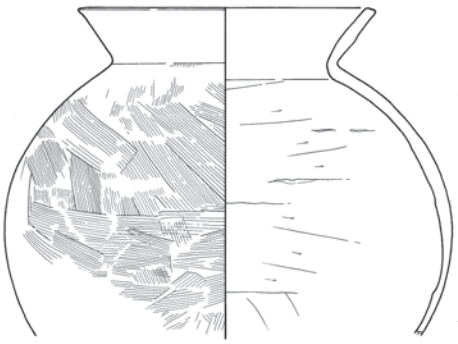
C地区　土師器５（122 ～ 131）

SH0012

132

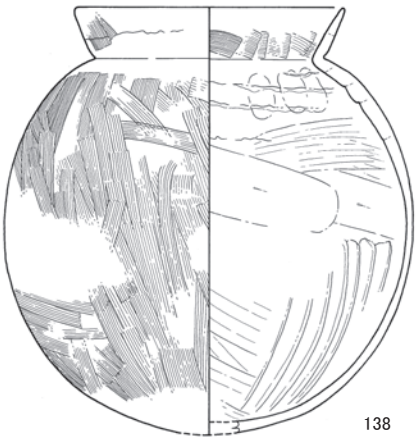

133

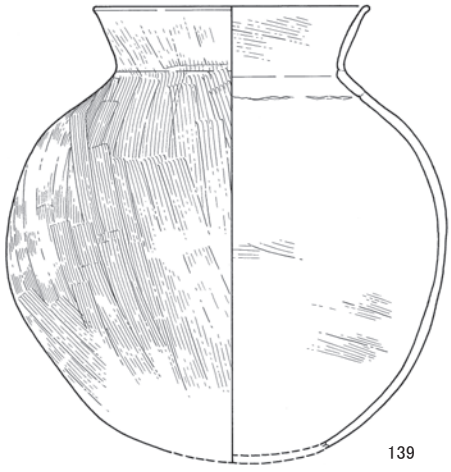

134


135

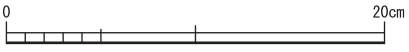
136

137


138

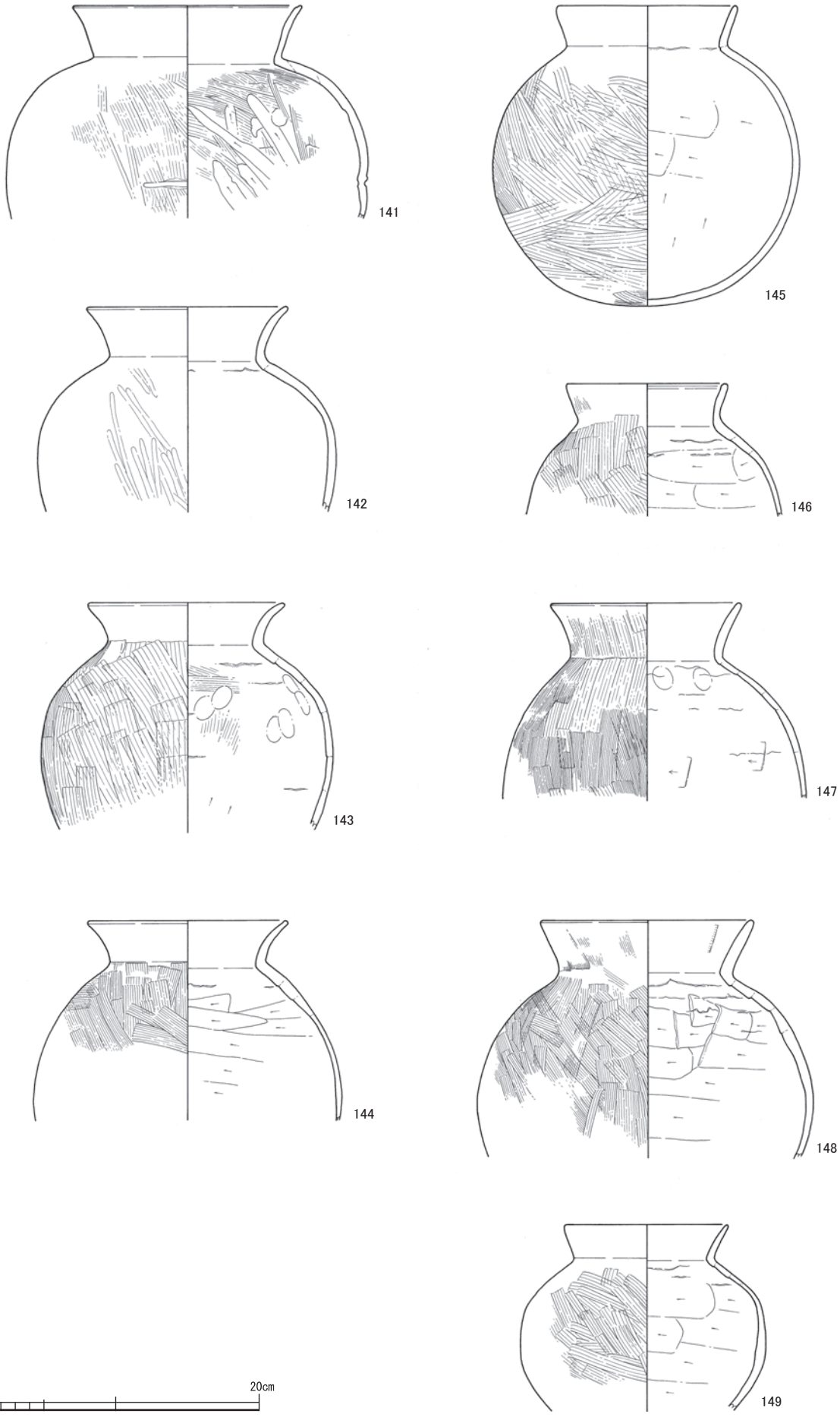

139

140



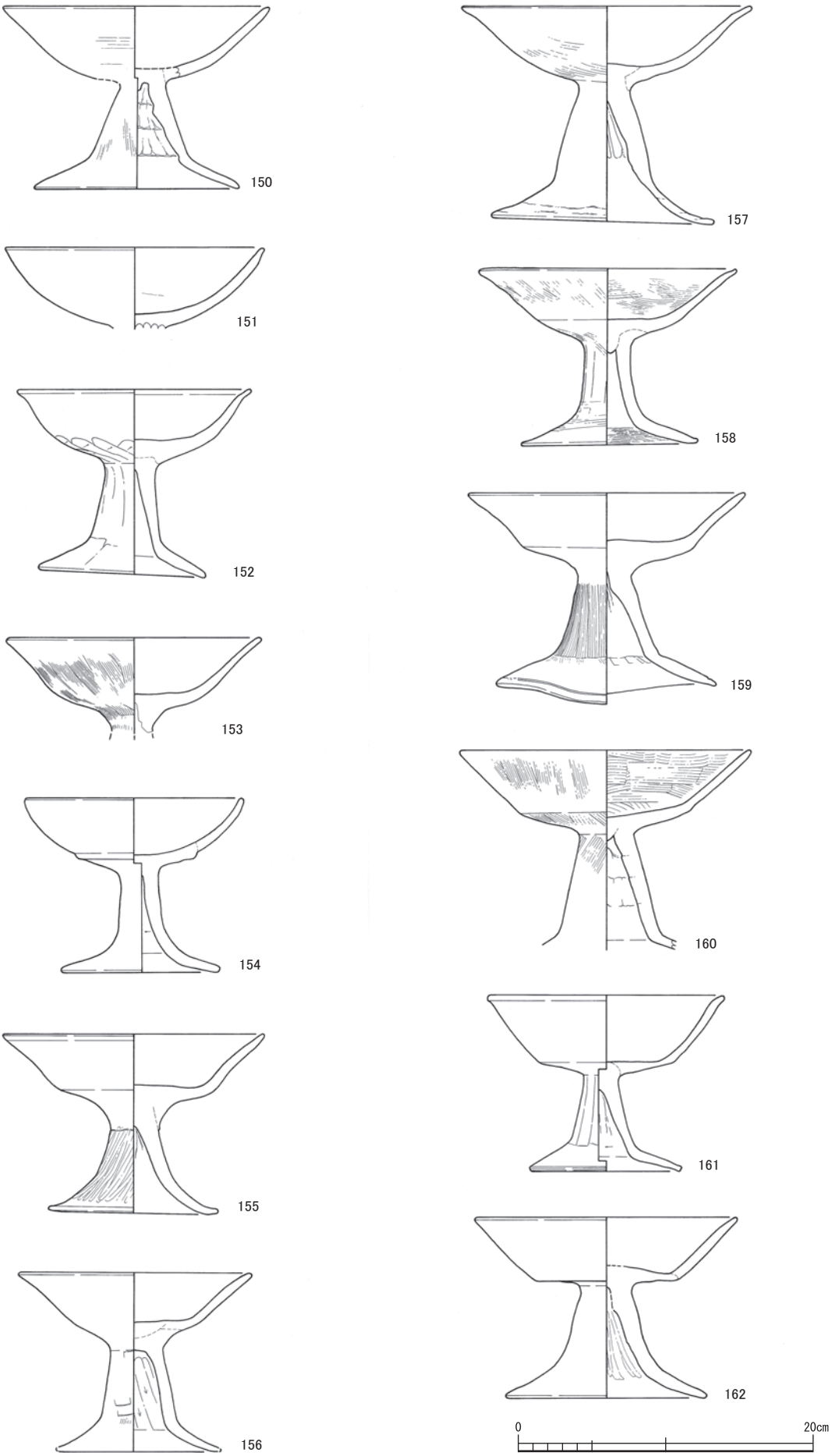
C地区　土師器６（132 ～ 140）

SH0012



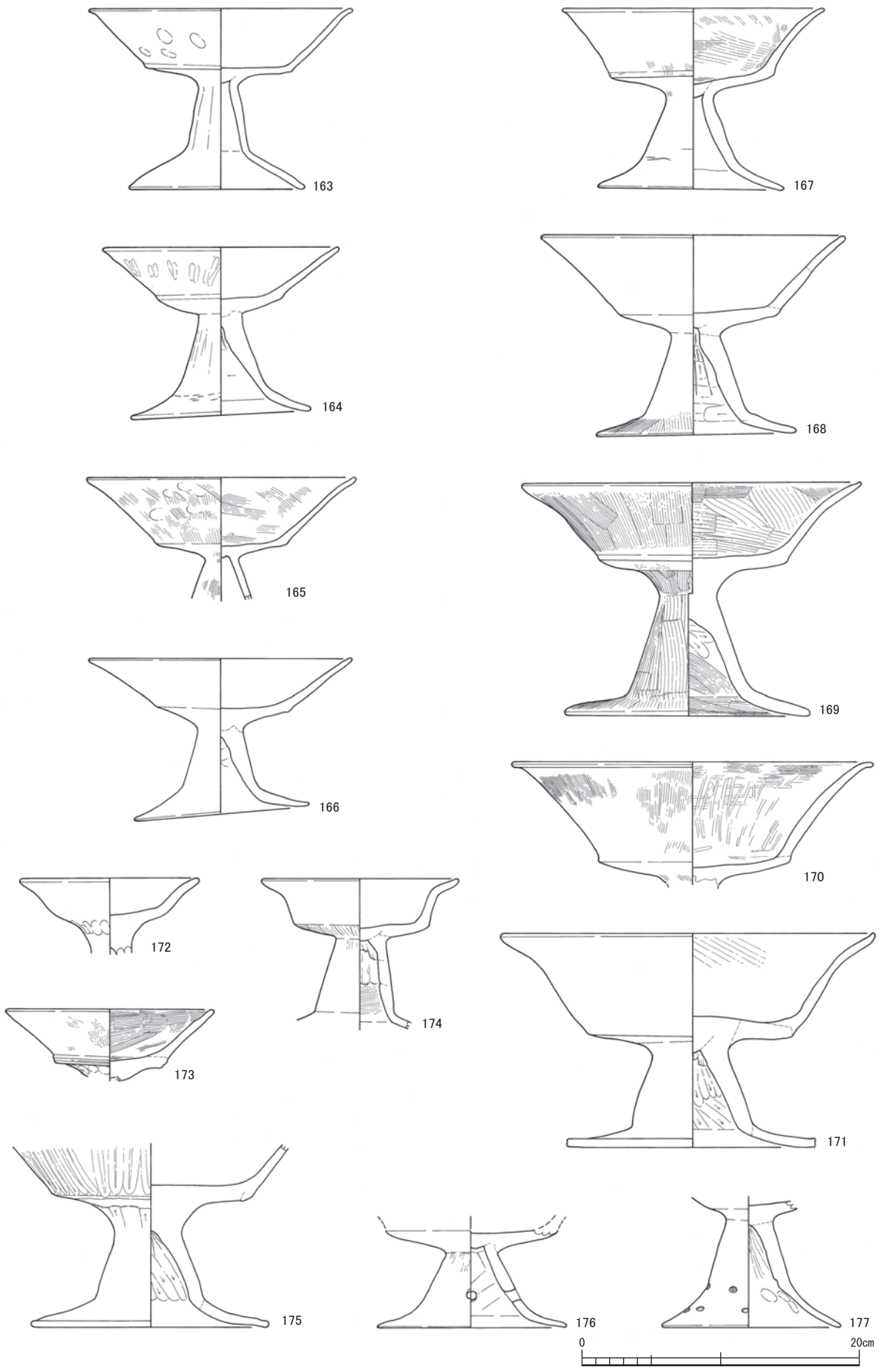
C地区　土師器7（141 ～ 149）

SH0012



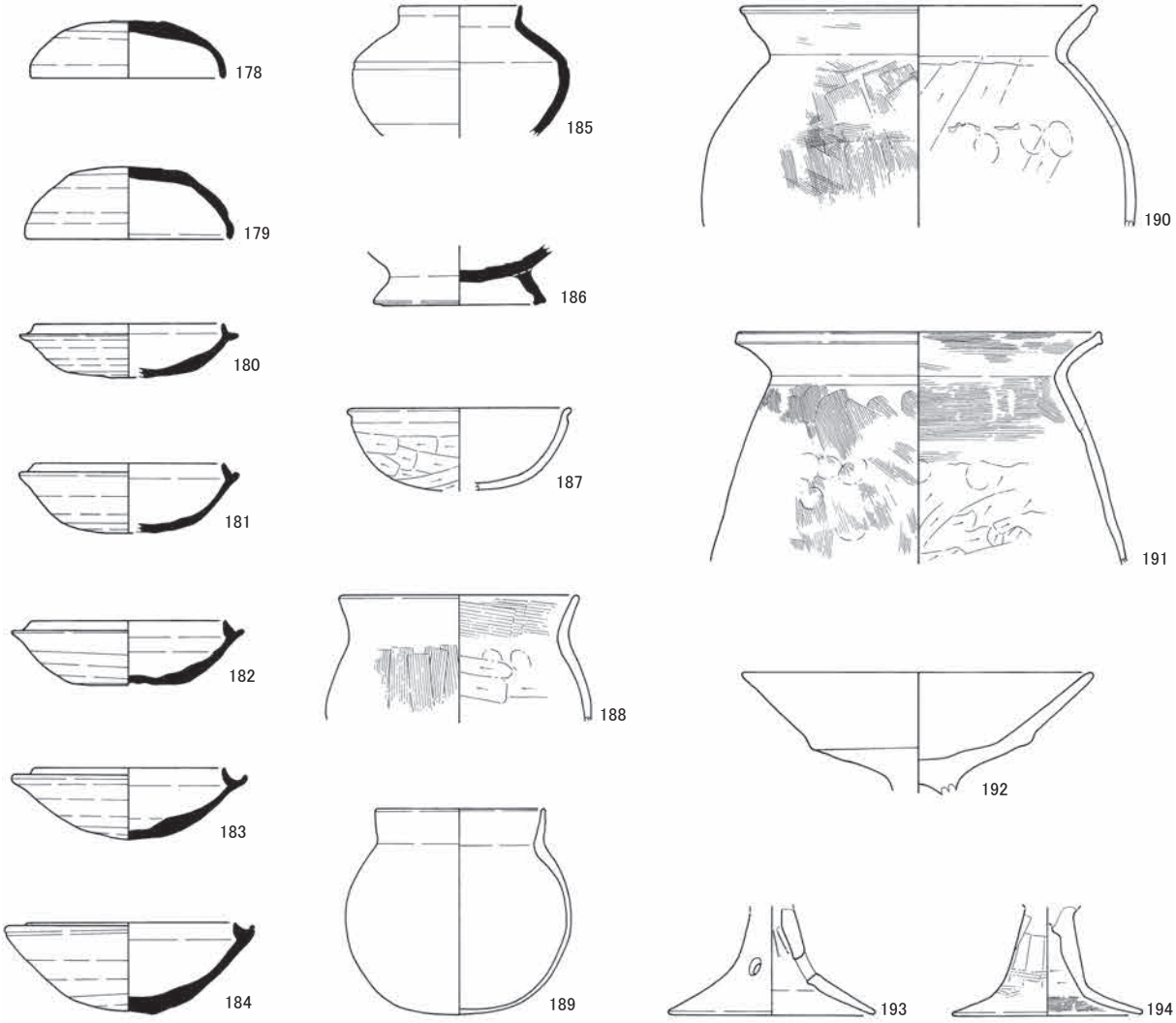
C地区　土師器８（149 ～ 162）

SH0012



C地区　土師器９（163 ～ 177）

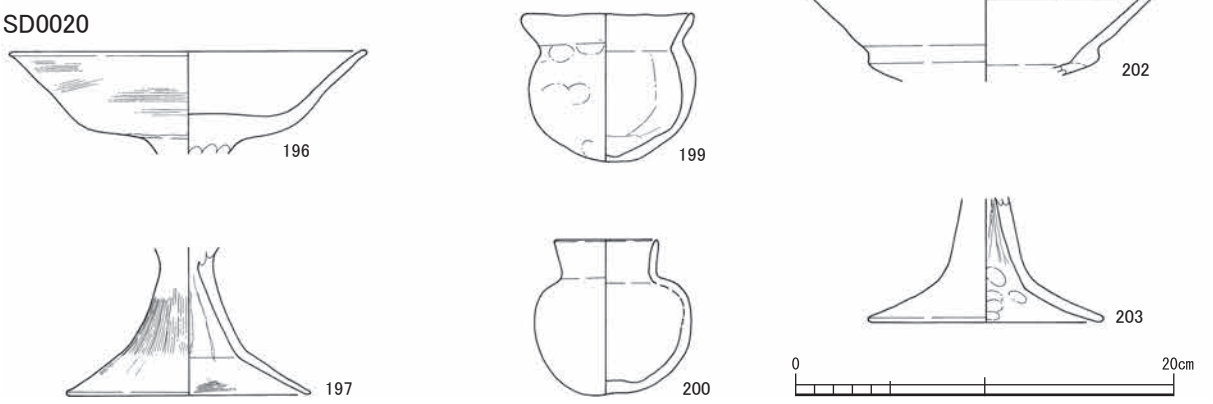
SD0002



SD0012

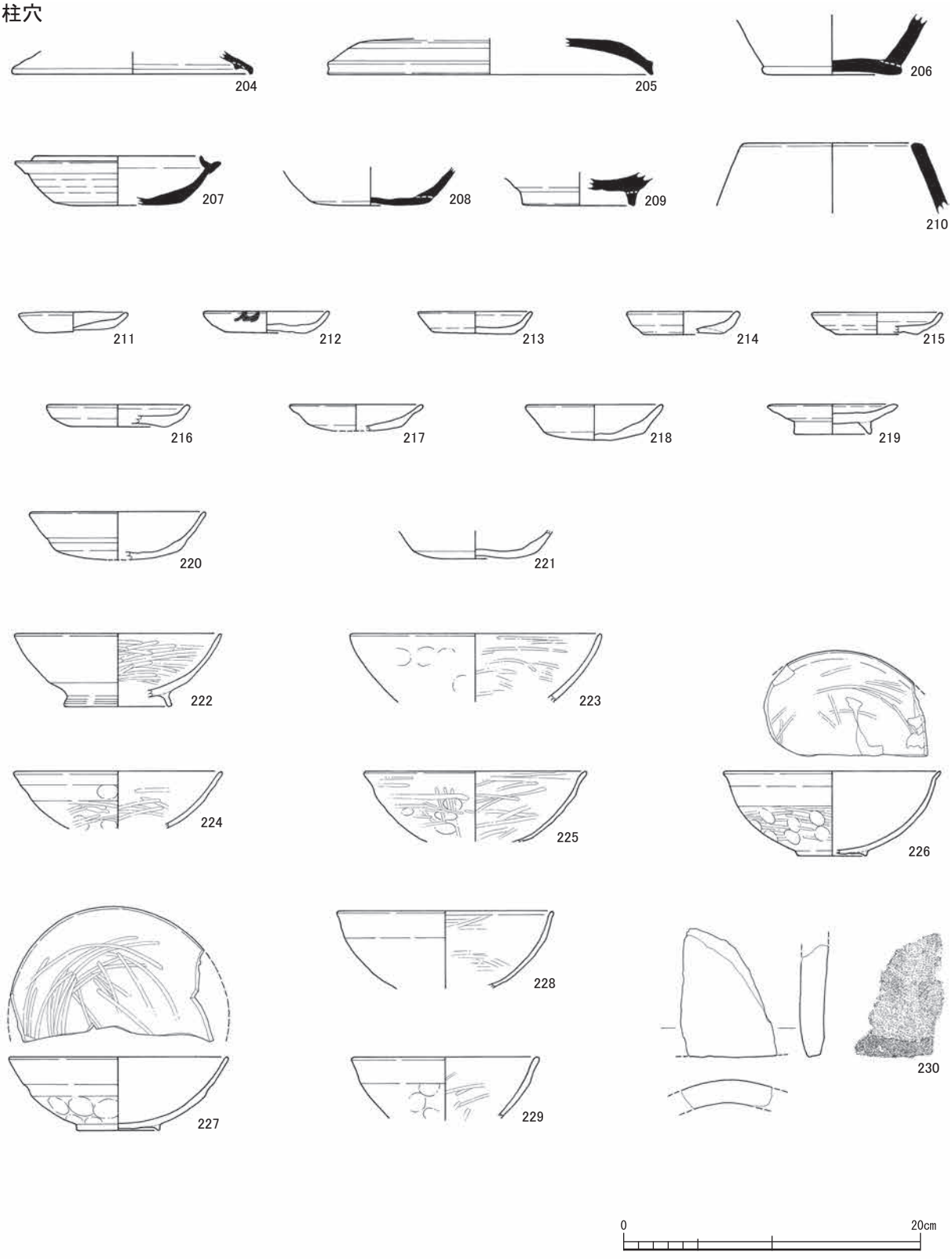
SK0004

SD0020

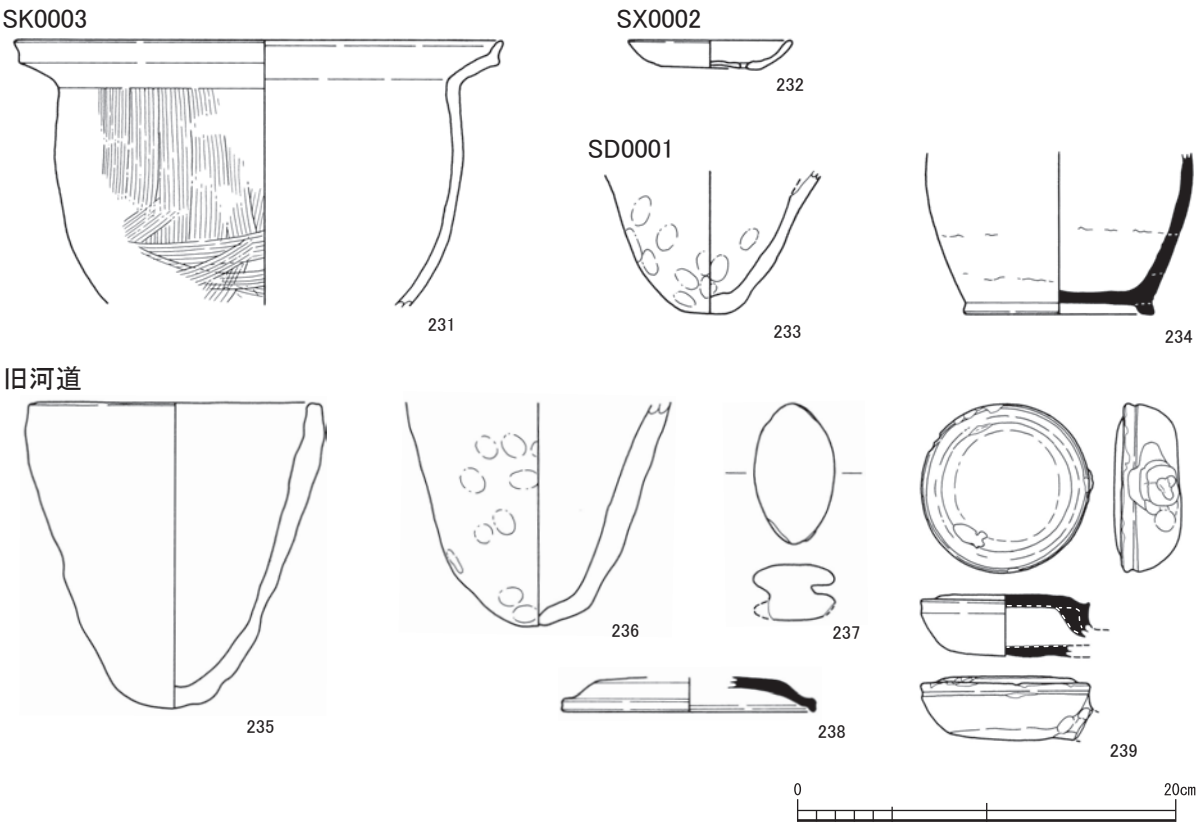


C地区　須恵器・土師器 10（178 ～ 203）

柱穴

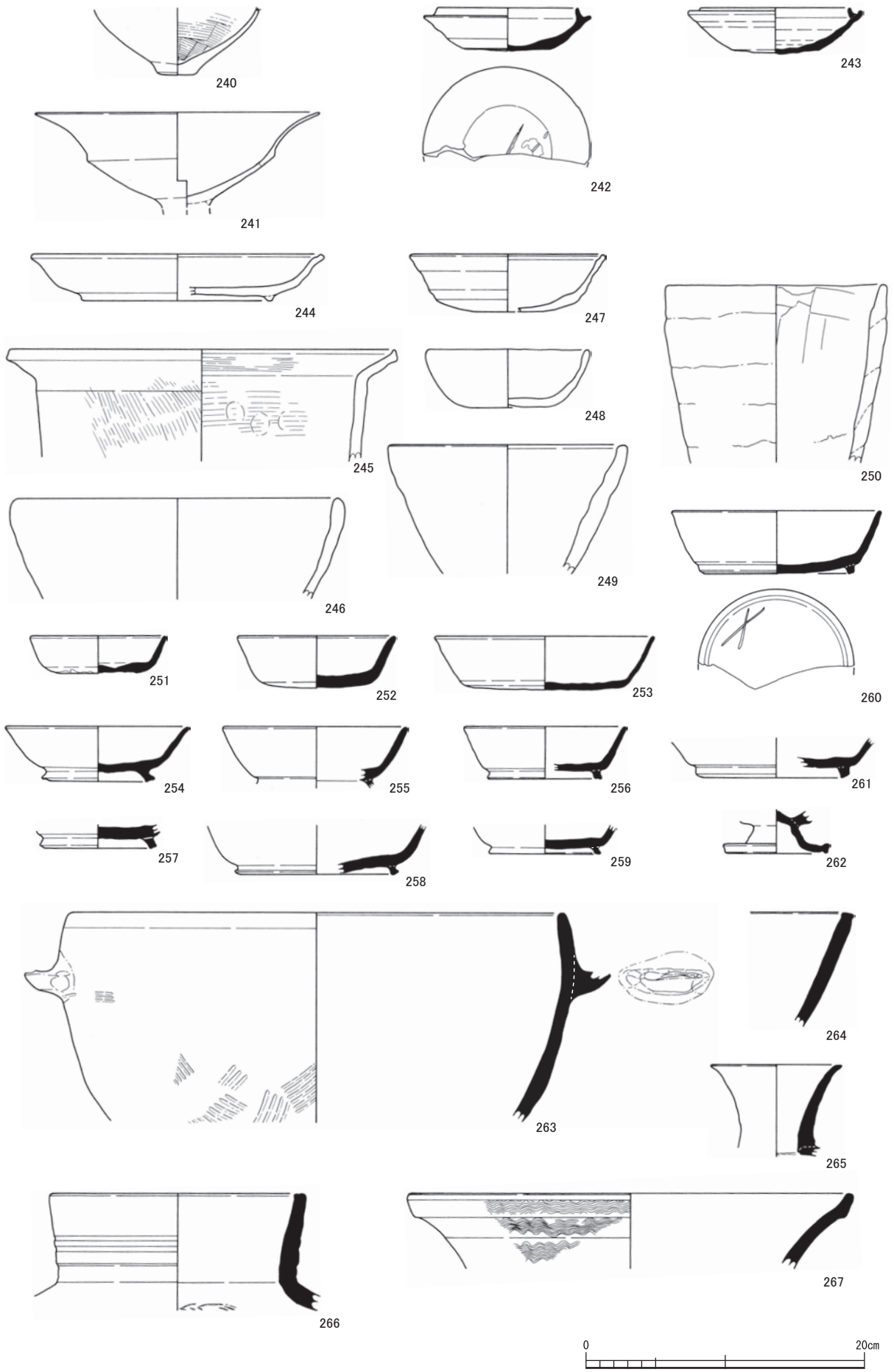


C地区　須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・瓦（204 ～ 230）



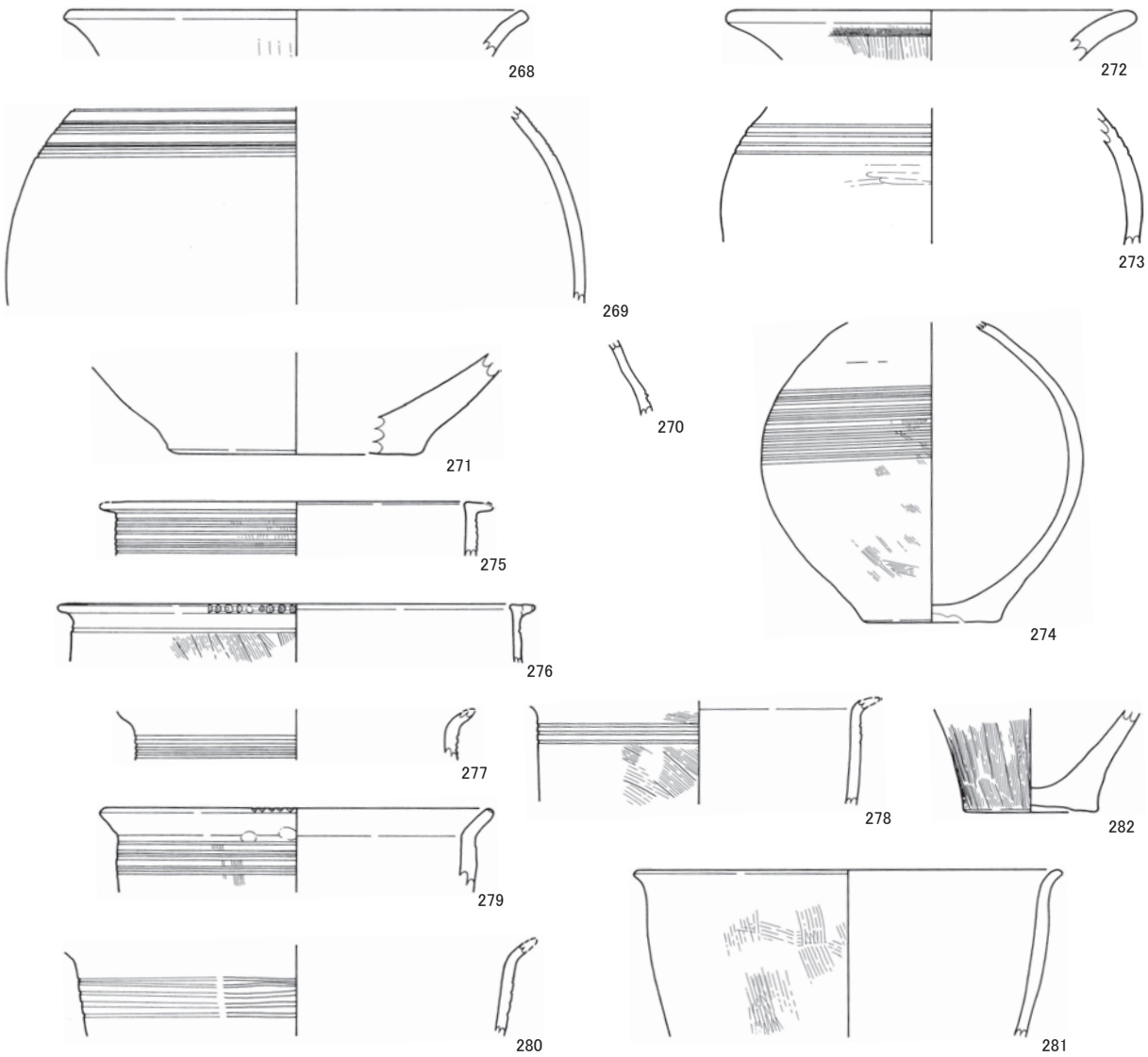
C地区　土師器・須恵器（231 ～ 239）

包含層

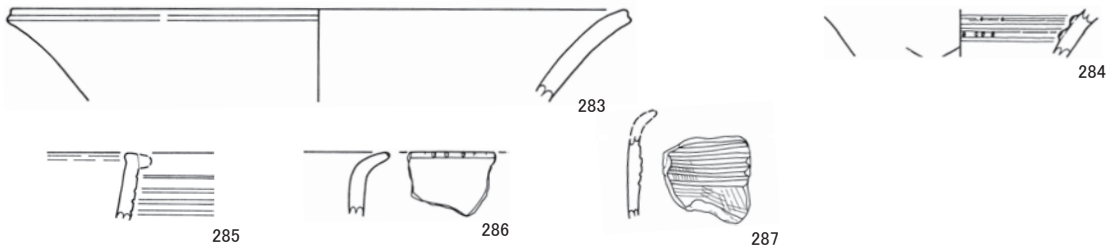


C地区　土師器・須恵器（240 ～ 267）

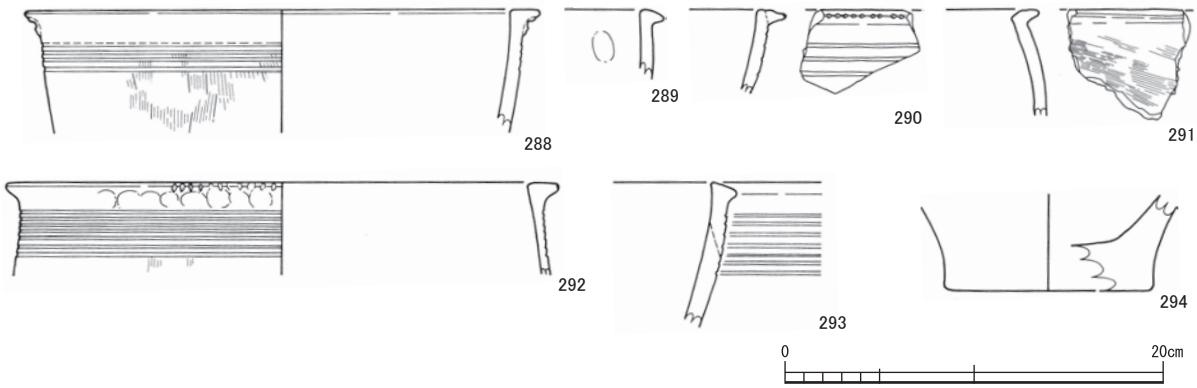
SH1001



SH1002

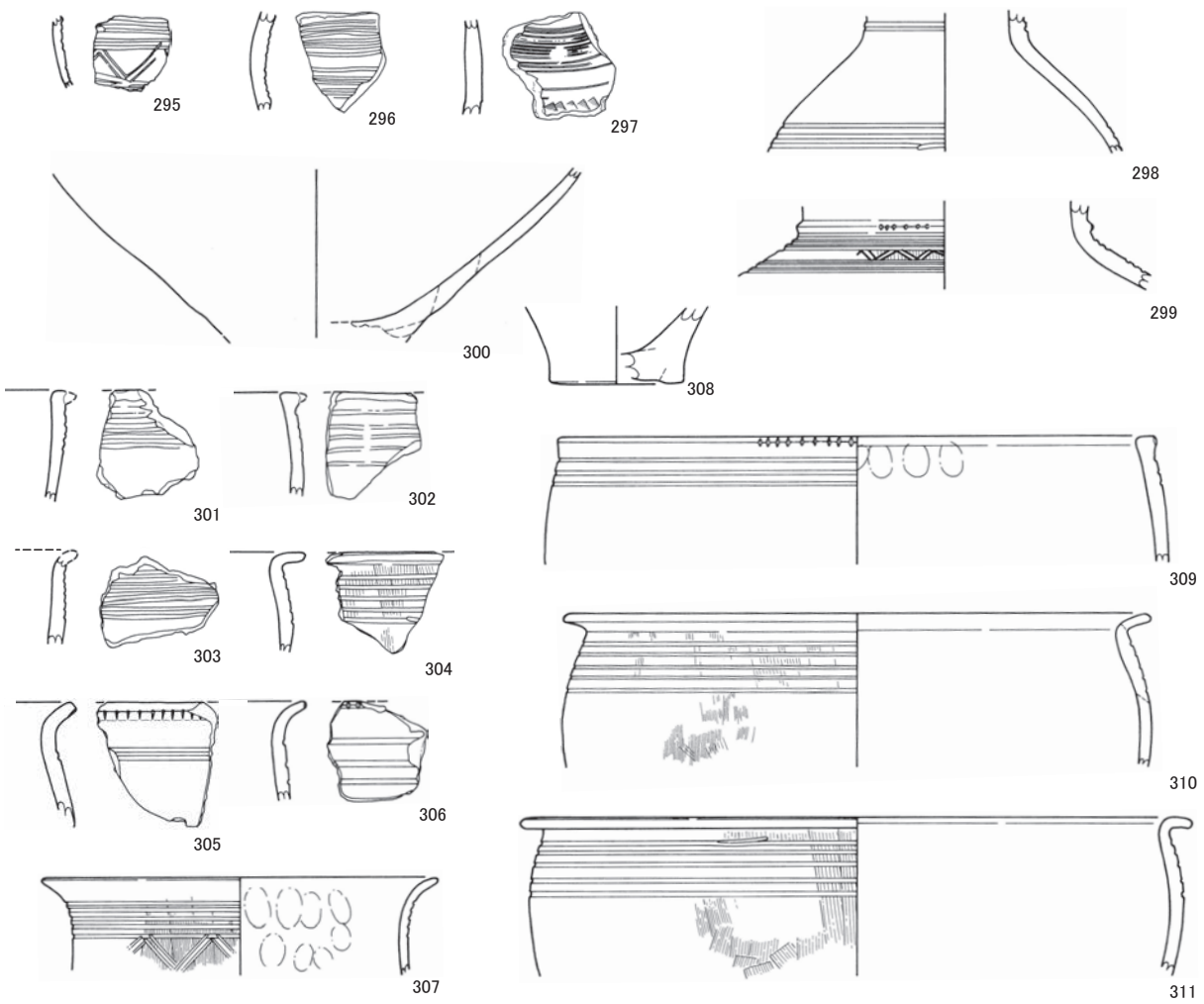


SH1003

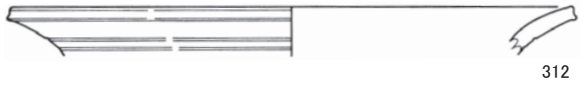


D地区　弥生土器１（268 ～ 294）

SH1004

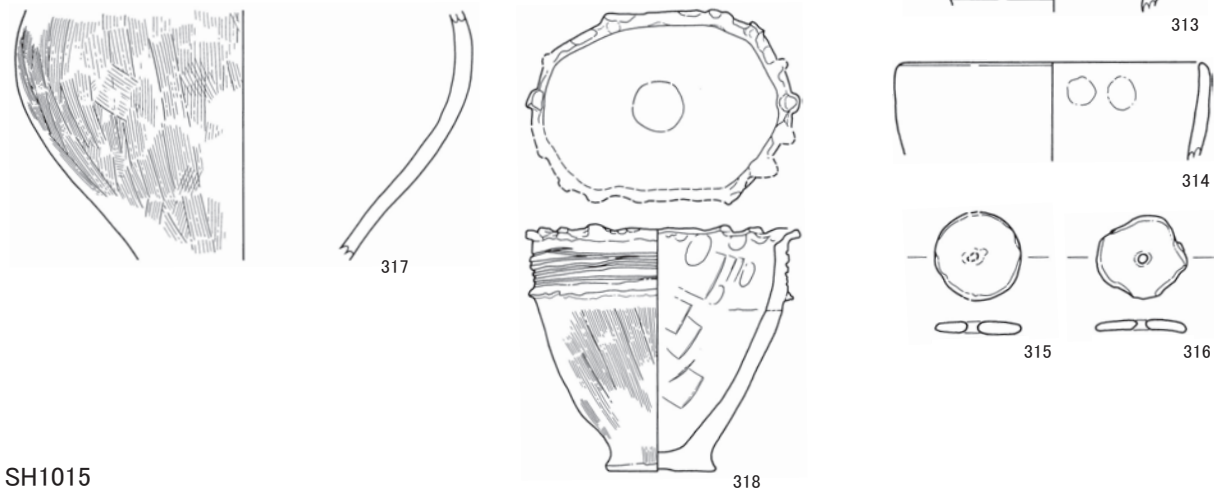


SH1005



SH1011

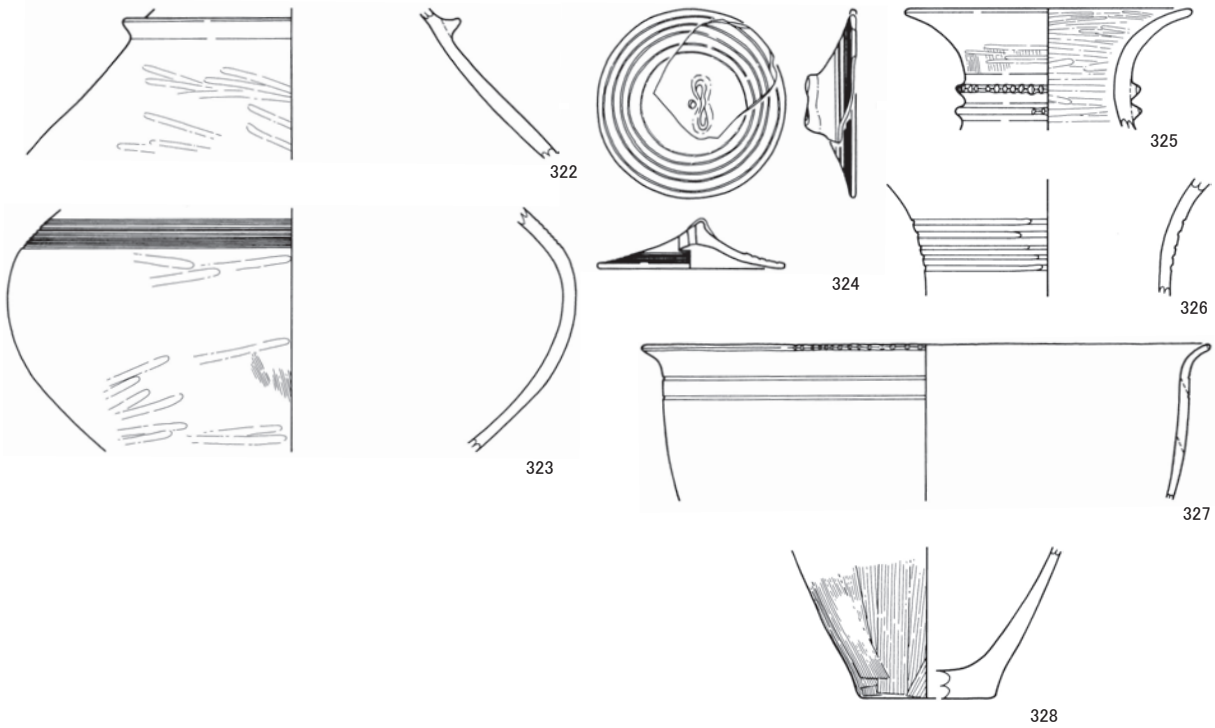
SH1014



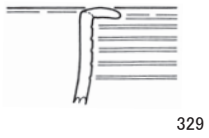
SH1015

D地区　弥生土器２（295 ～ 321）

SH1021

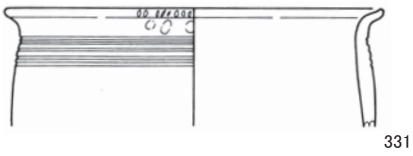


P1024

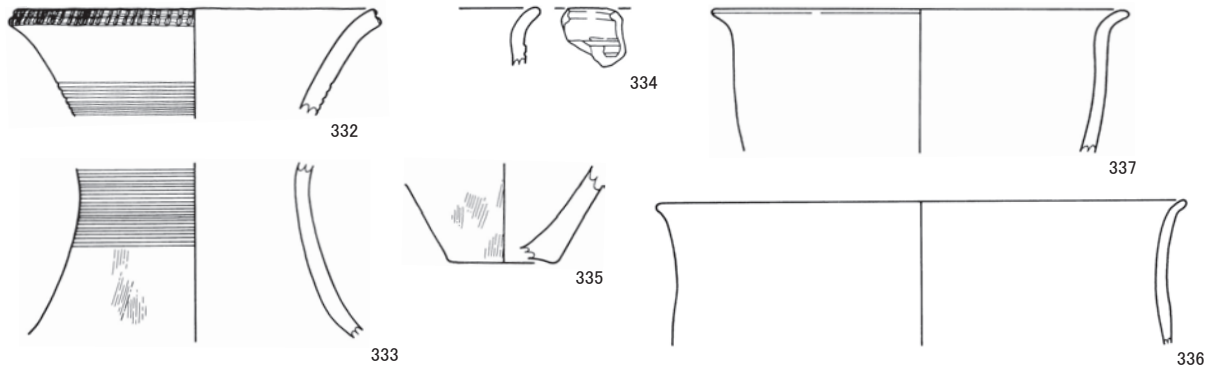


P1033

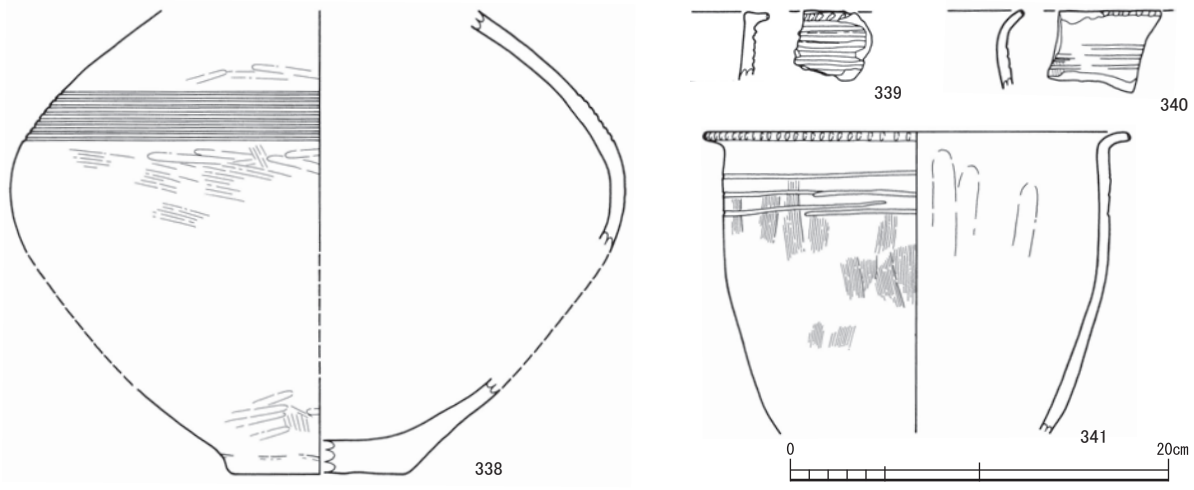
P1091



SK1003

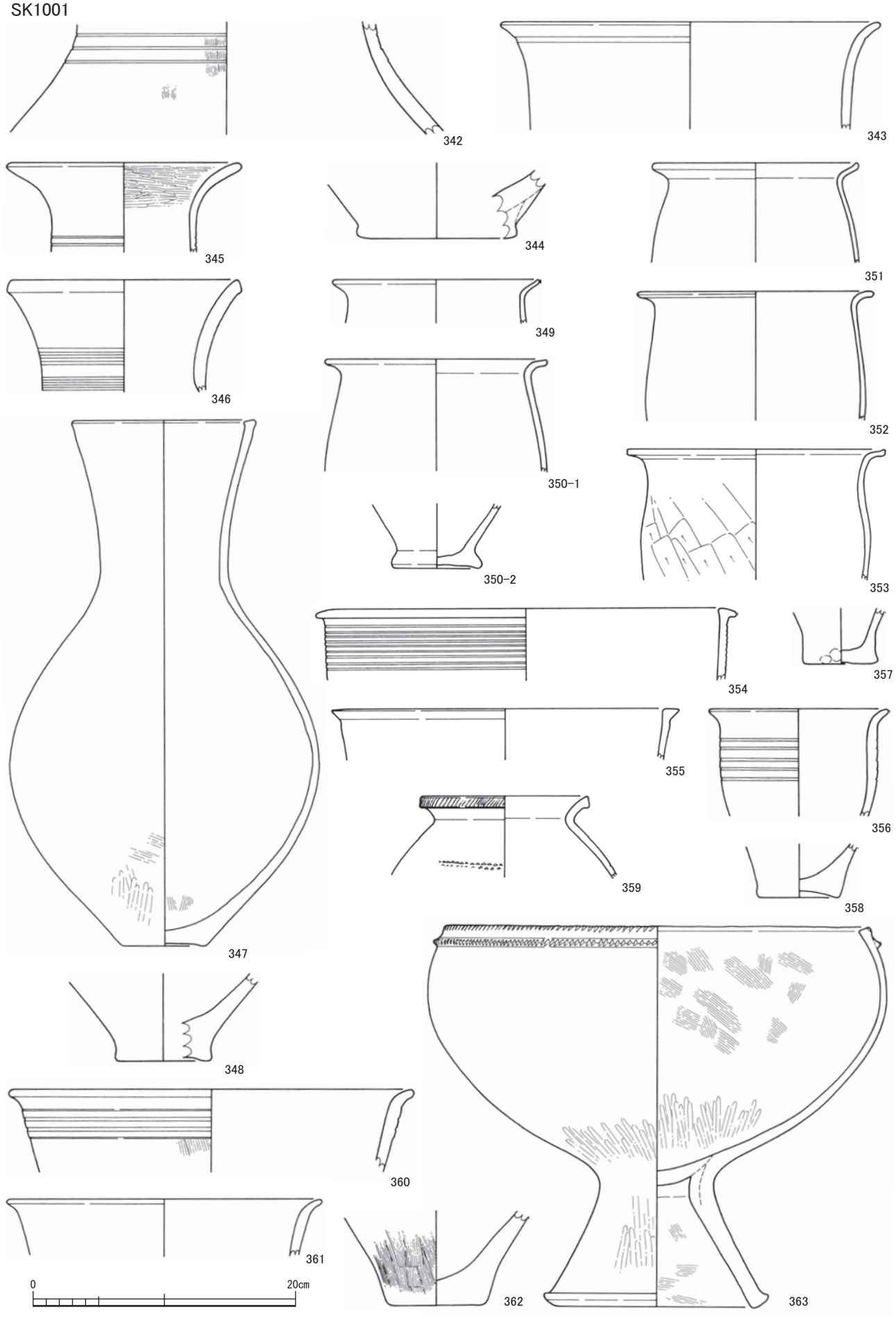


SK1017

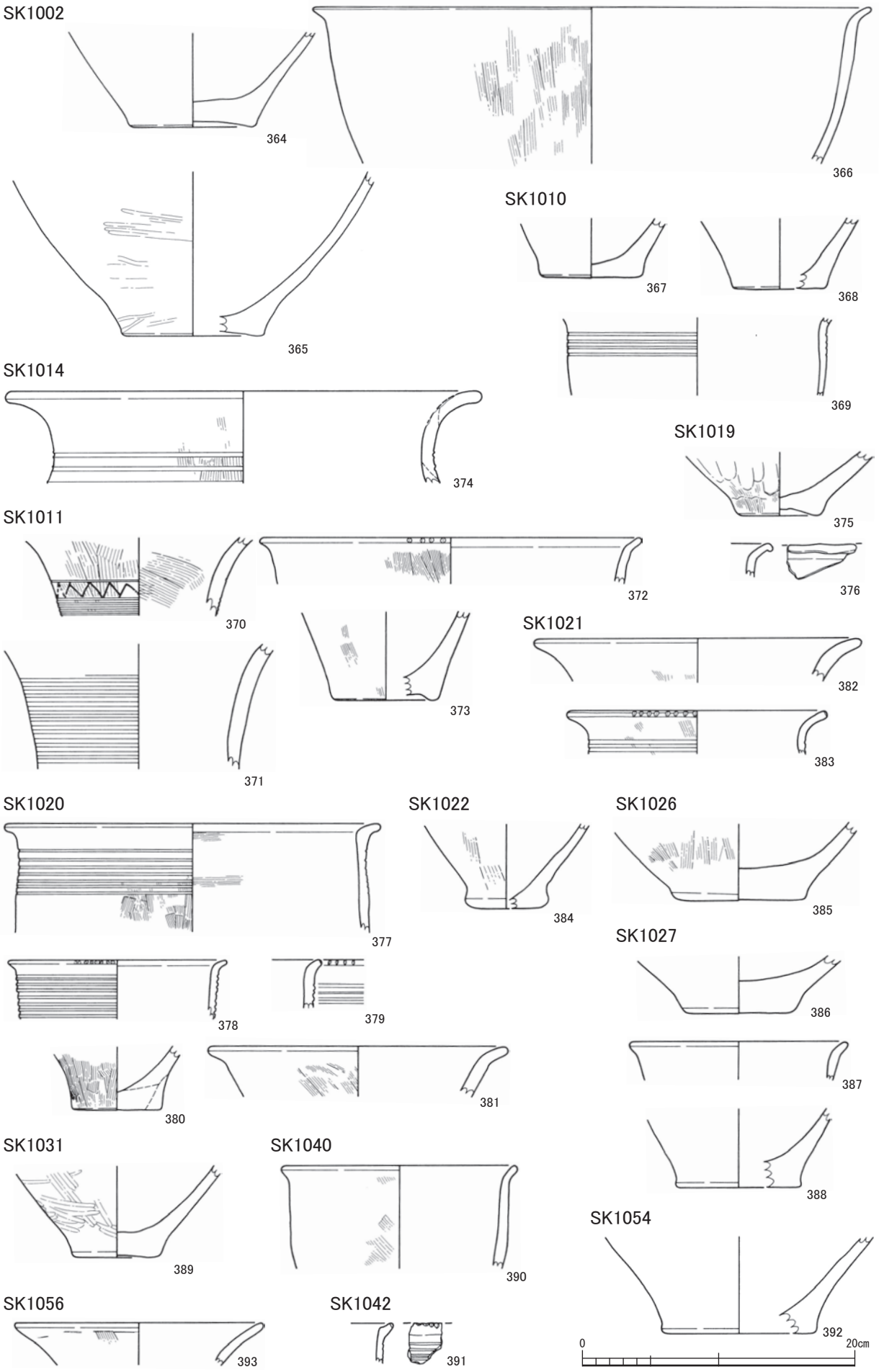


D地区　弥生土器３（322 ～ 341）

SK1001

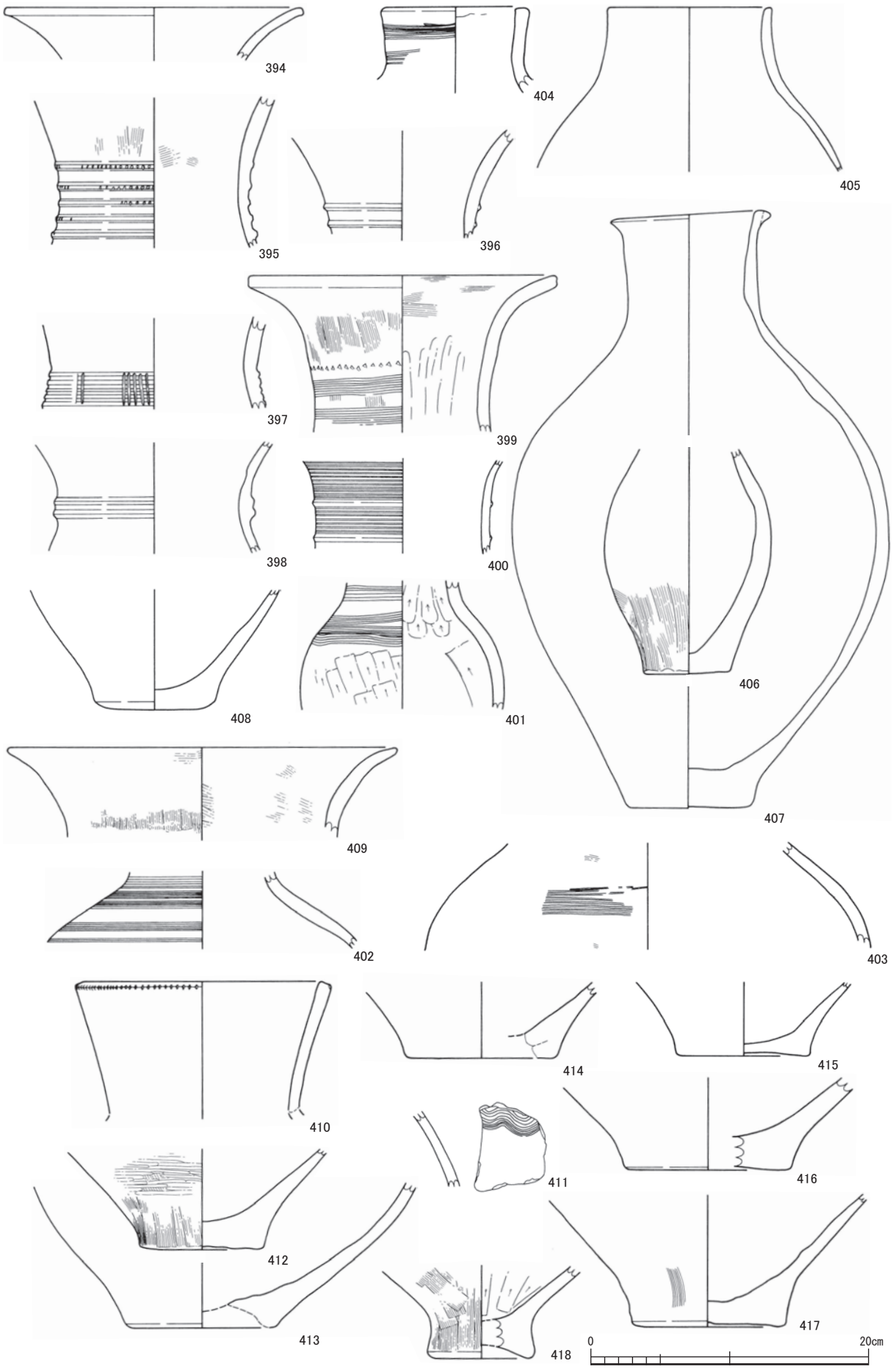


D地区　弥生土器４（342 ～ 363）



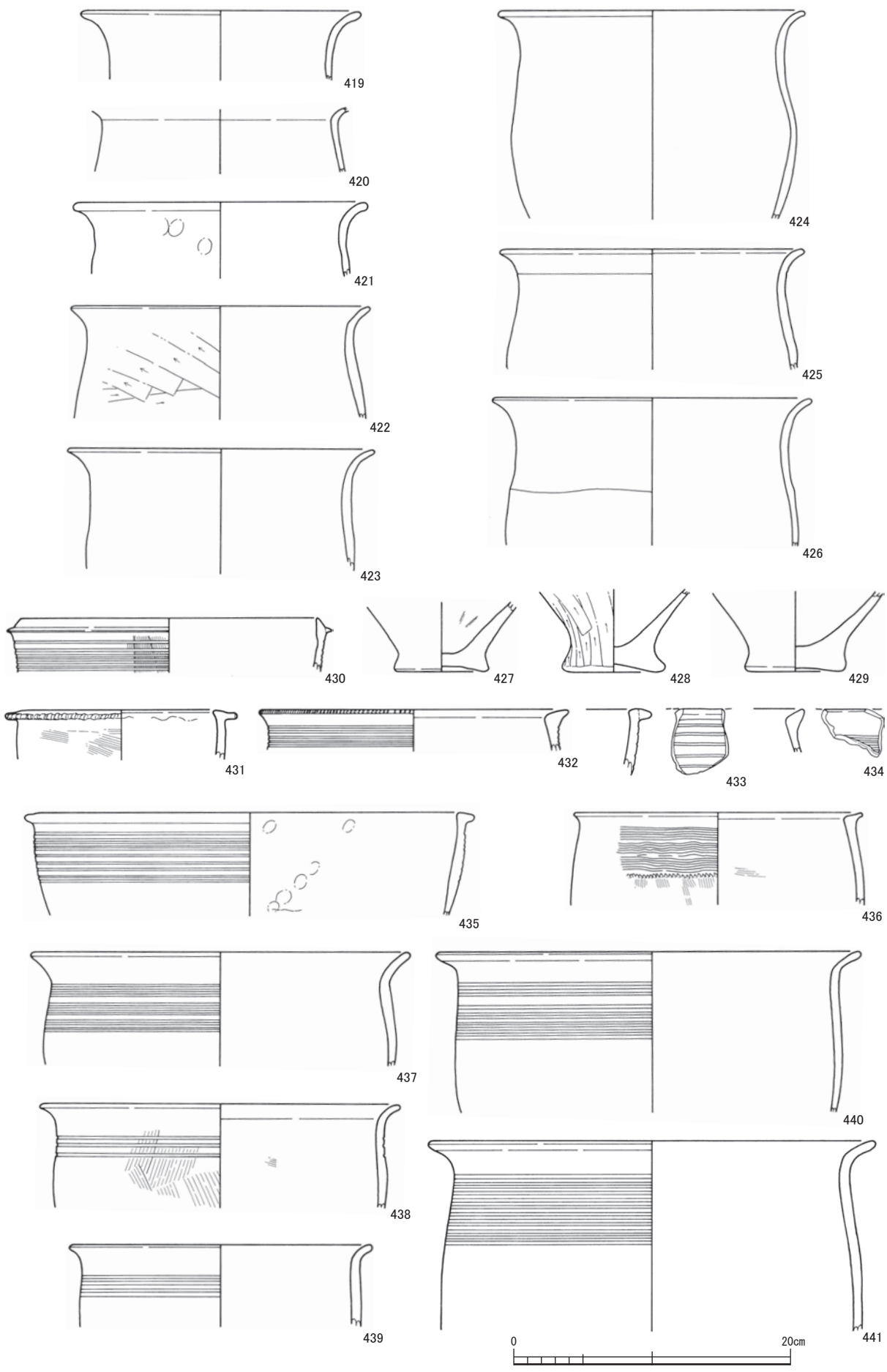
D地区　弥生土器５（364 ～ 393）

SX1004



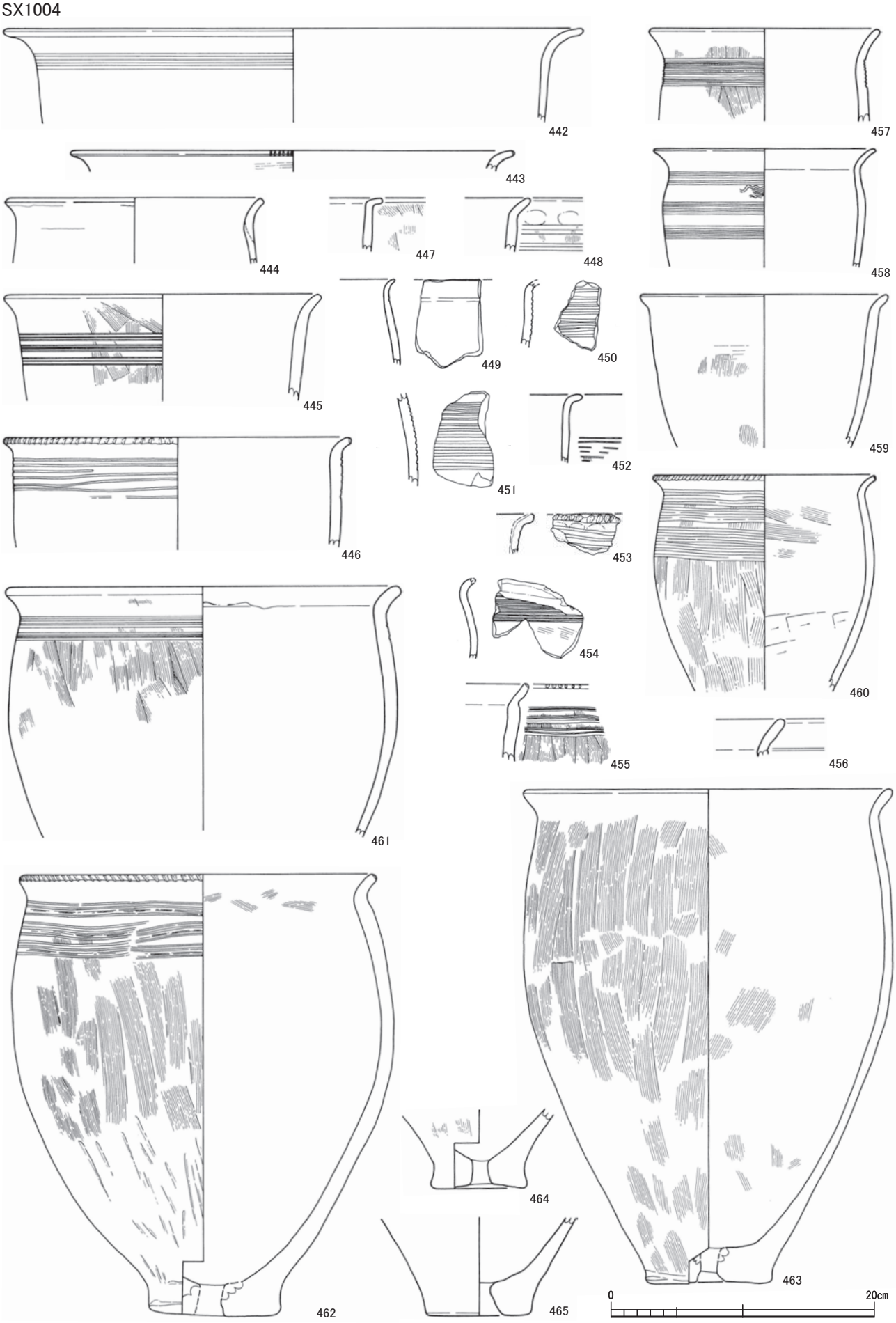
D地区　弥生土器６（394 ～ 418）

SX1004



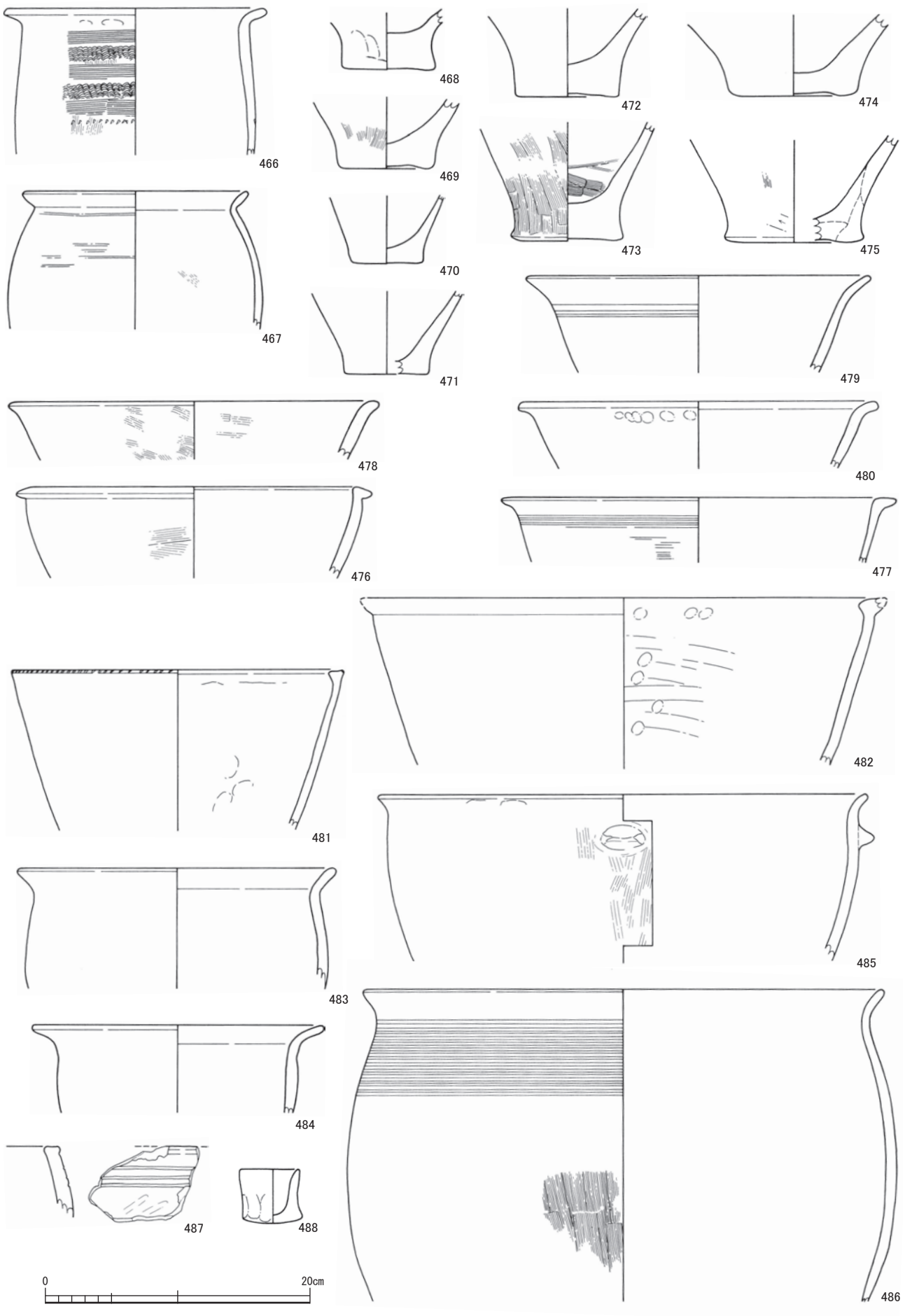
D地区　弥生土器7（419 ～ 441）

SX1004



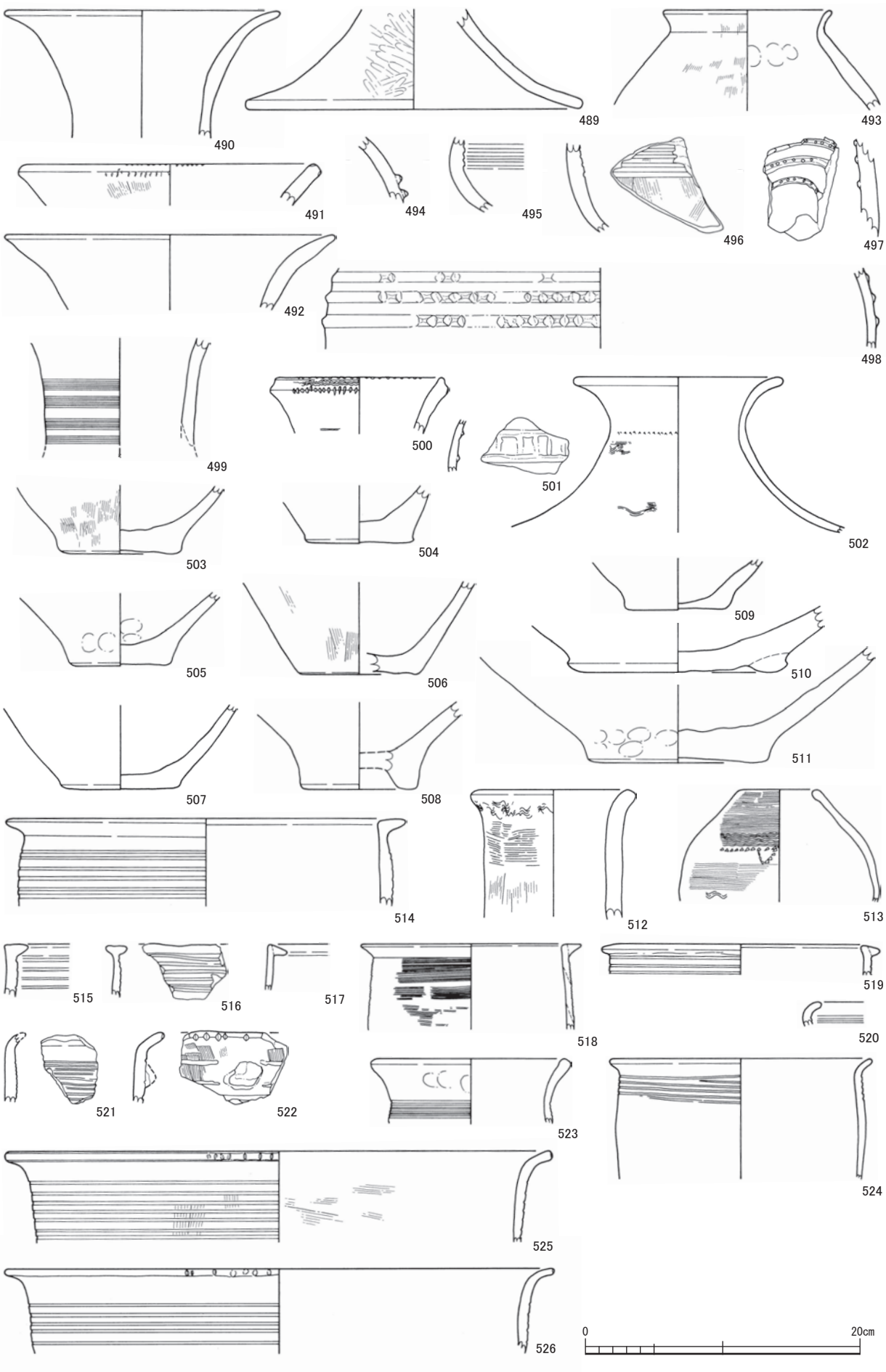
D地区　弥生土器8（442 ～ 465）

SX1004

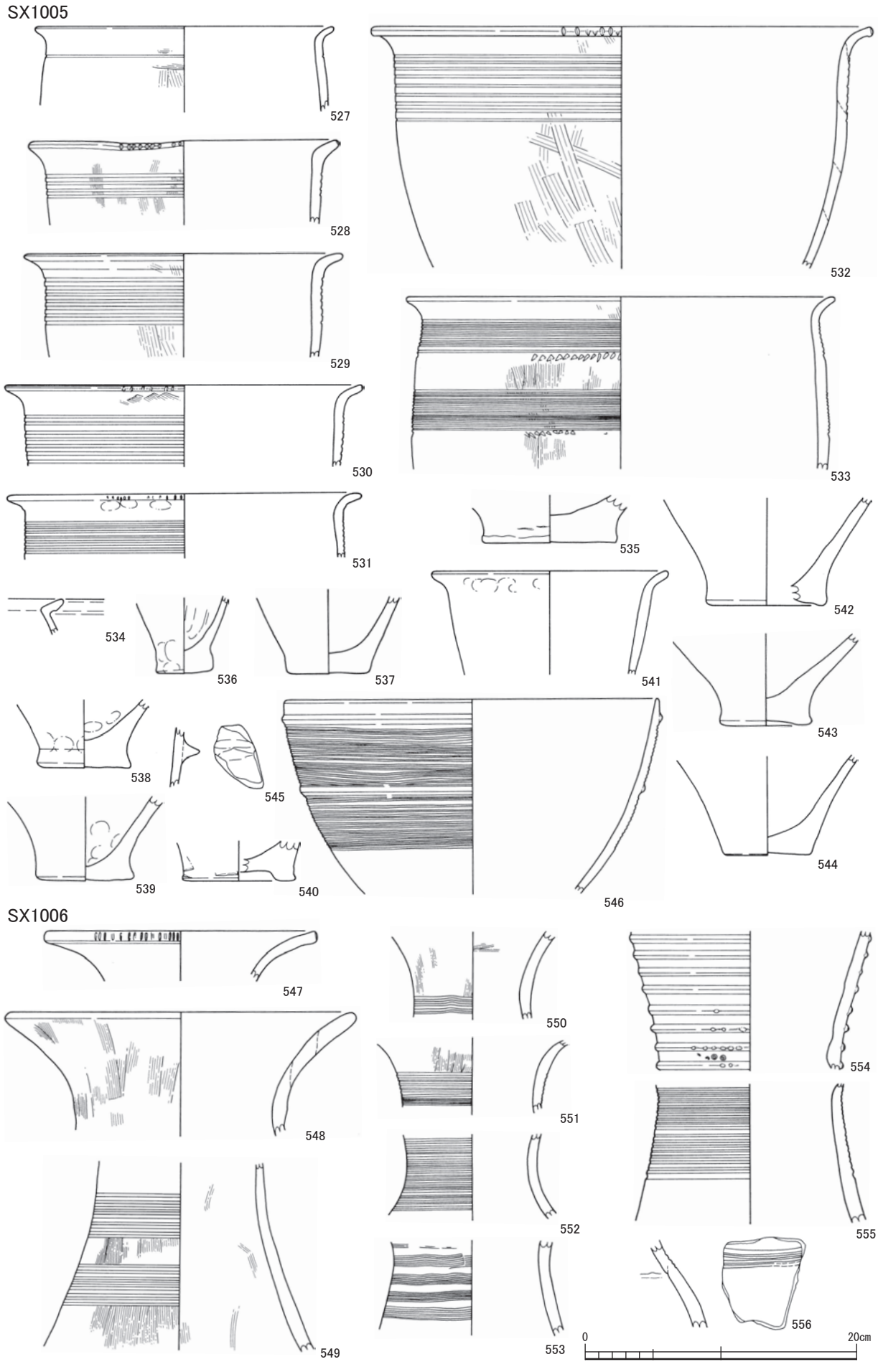


D地区　弥生土器９（466 ～ 488）

SX1005

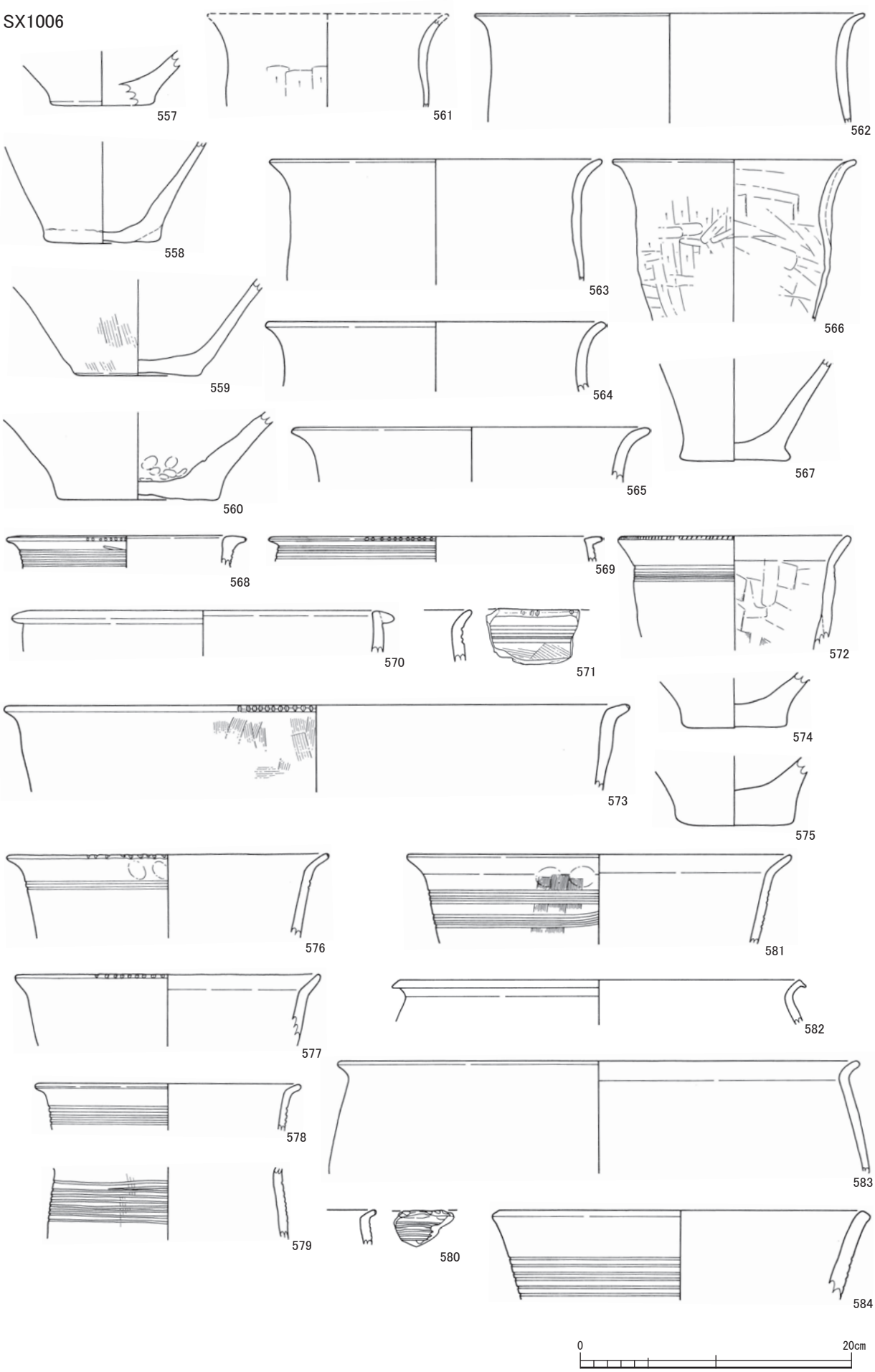


D地区　弥生土器 10（489 ～ 526）



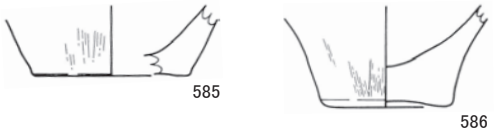
D地区　弥生土器 11（527 ～ 556）

SX1006



D地区　弥生土器 12（557 ～ 584）

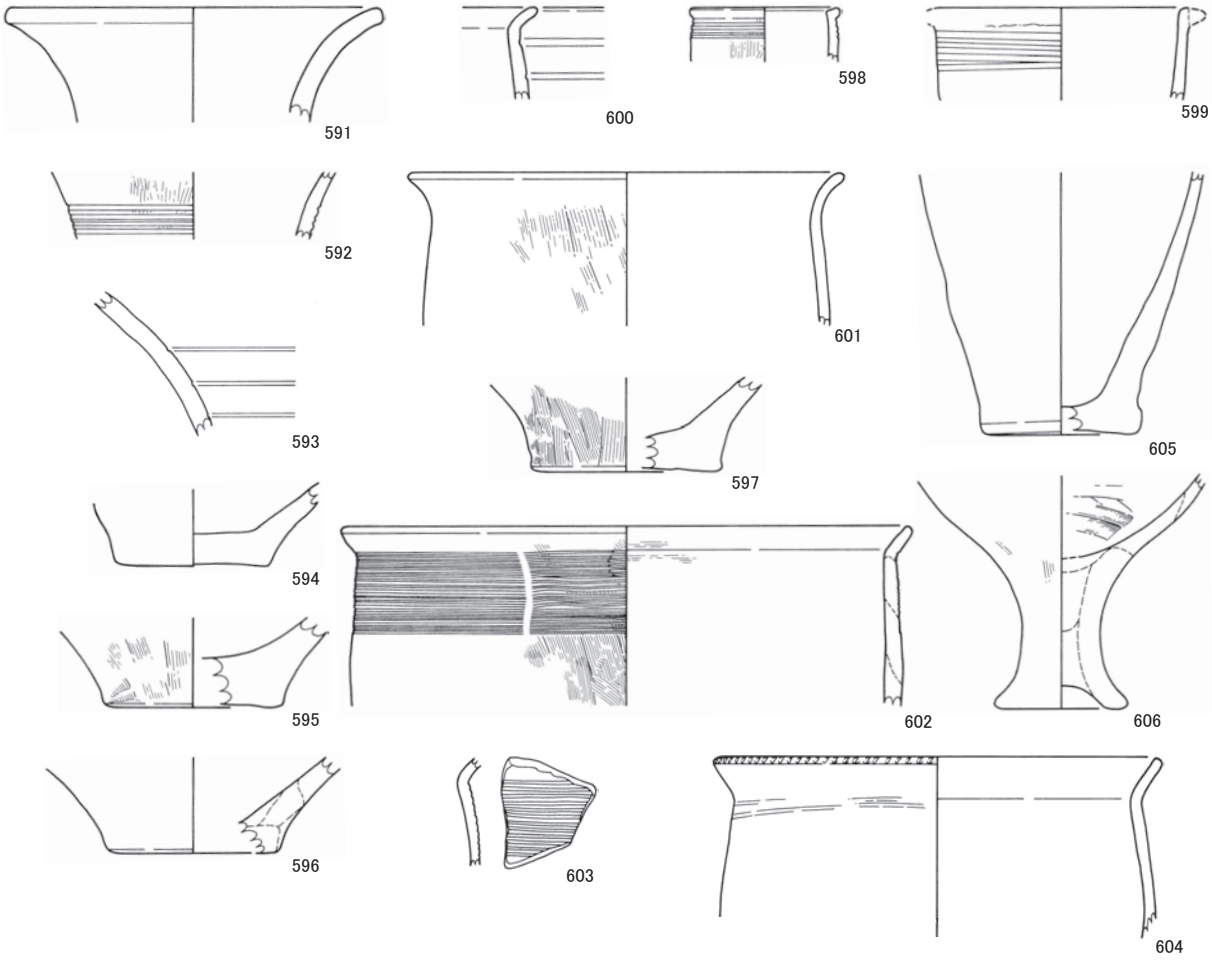
SX1007



SX1008

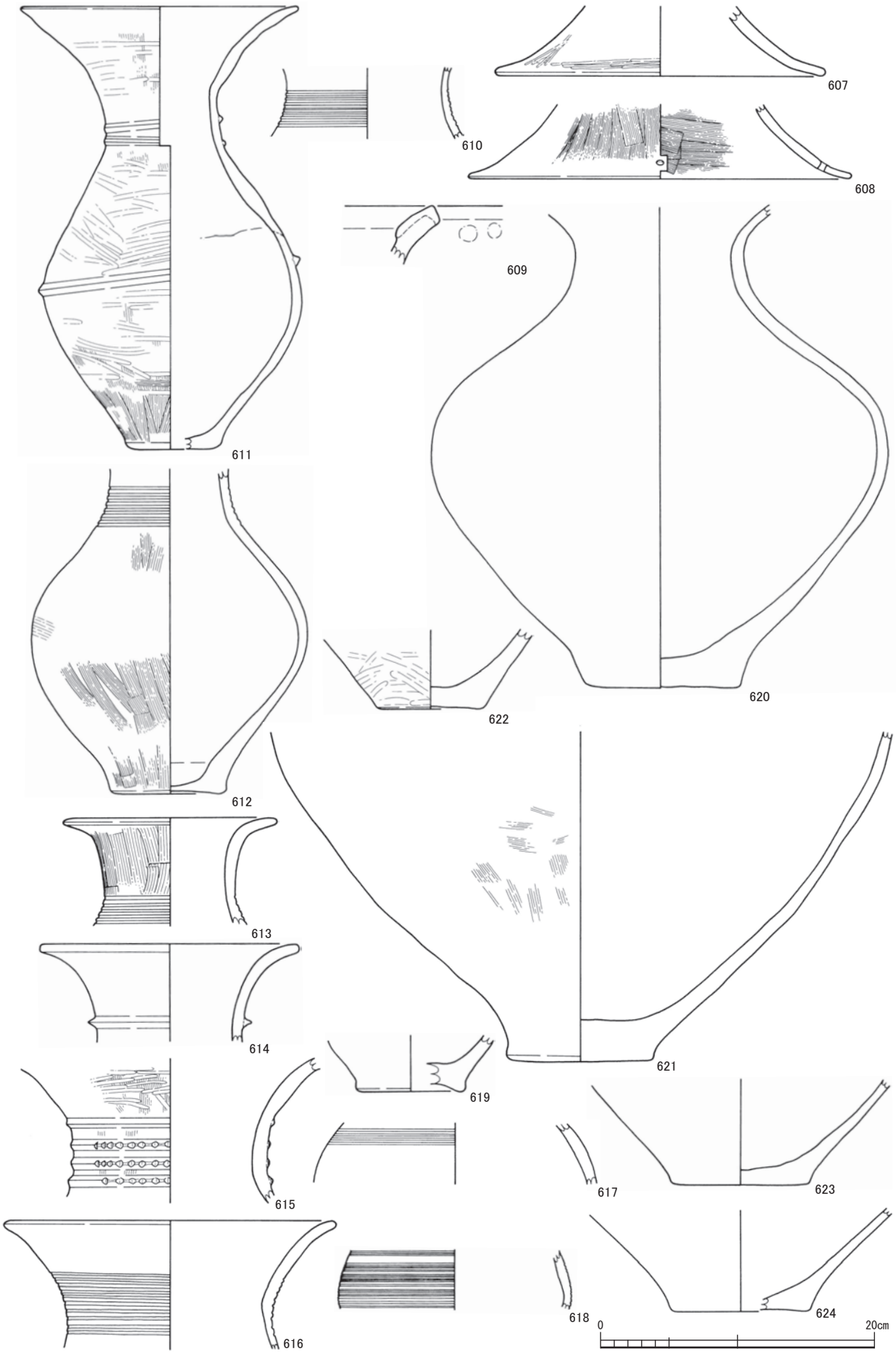
SX1009

SX1010



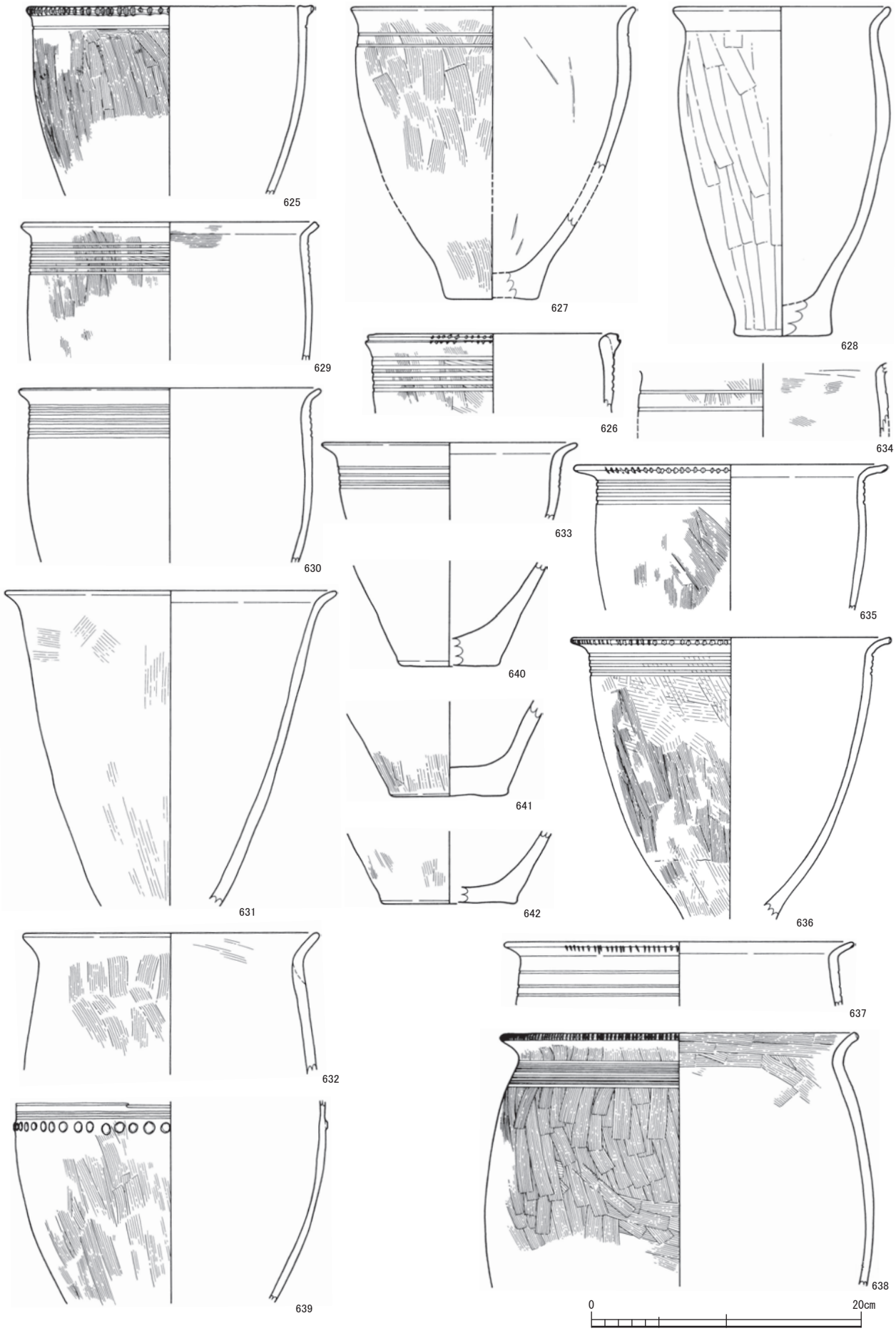
D地区　弥生土器 13（585 ～ 606）

SX1011



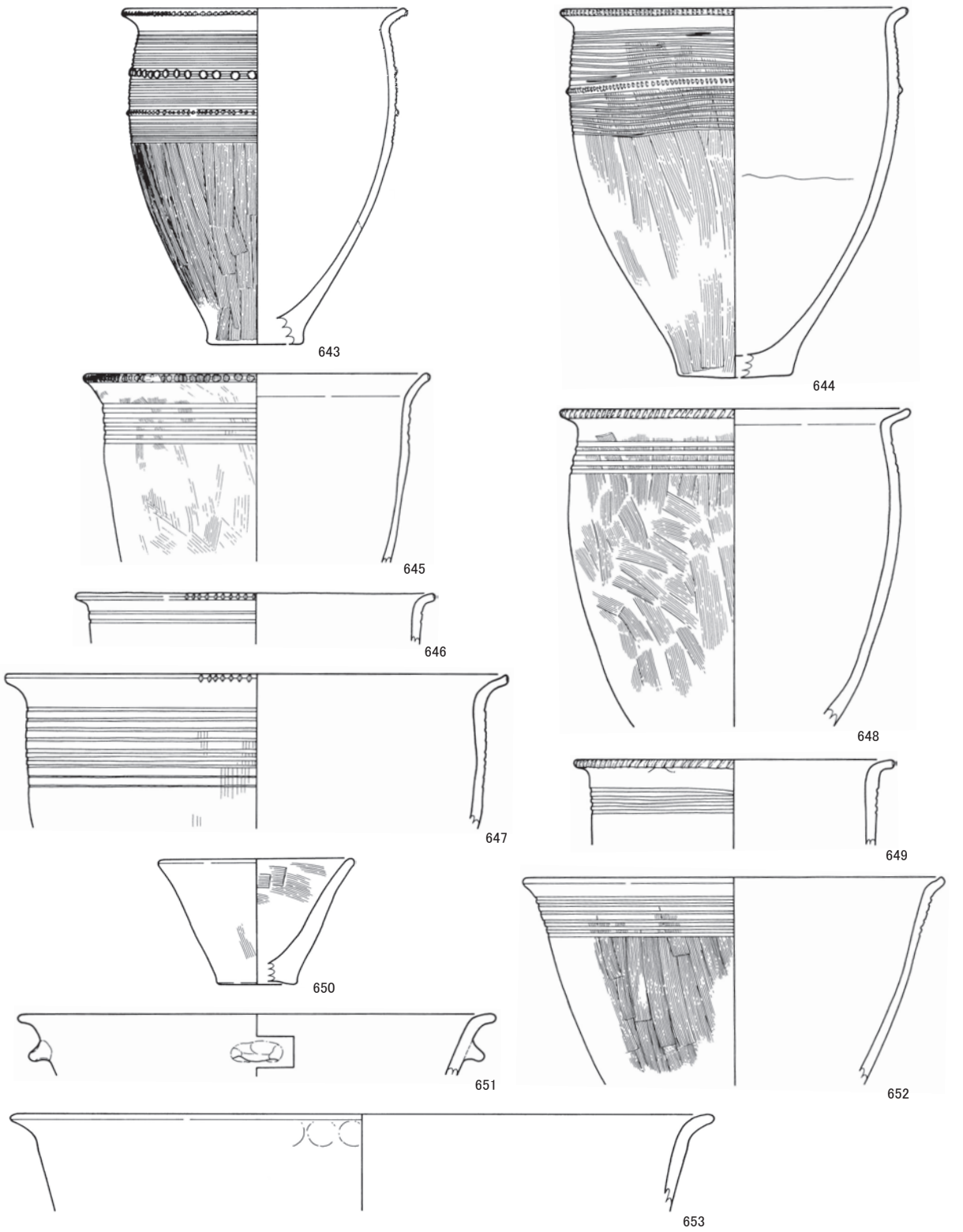
D地区　弥生土器 14（607 ～ 624）

SX1011

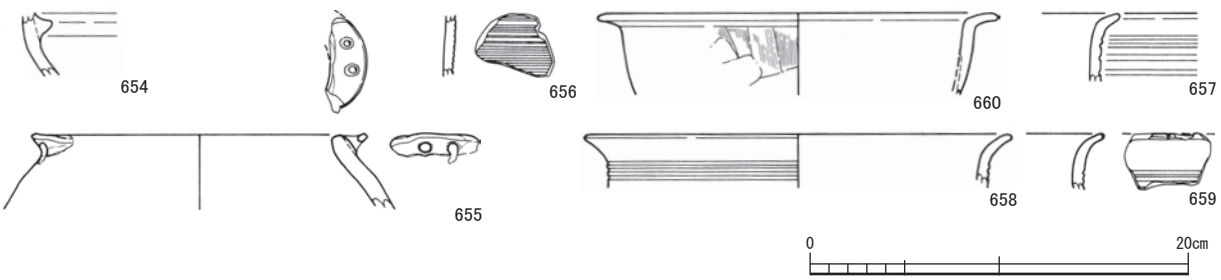


D地区　弥生土器 15（625 ～ 642）

SX1011

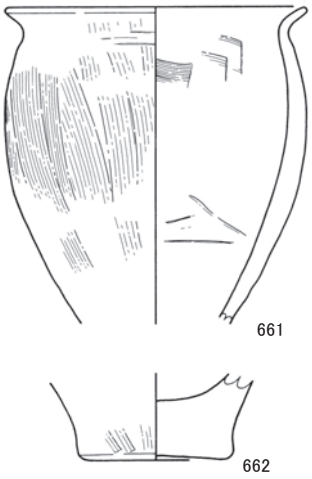


SX1012

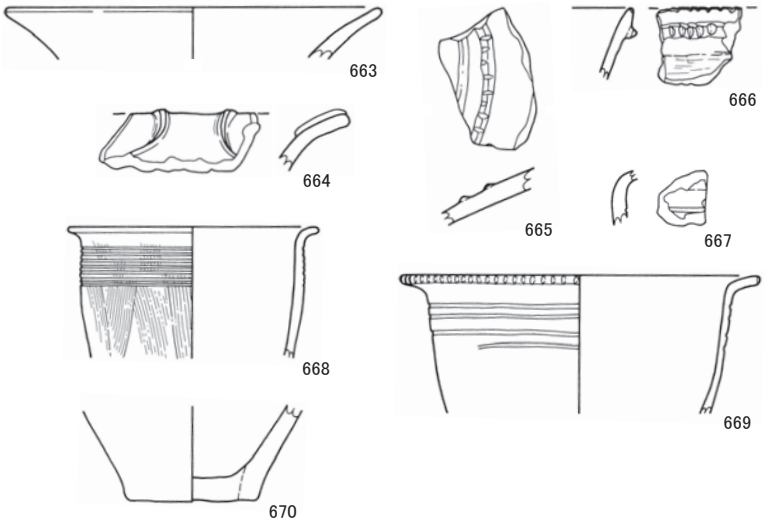


D地区　弥生土器 16（643 ～ 660）

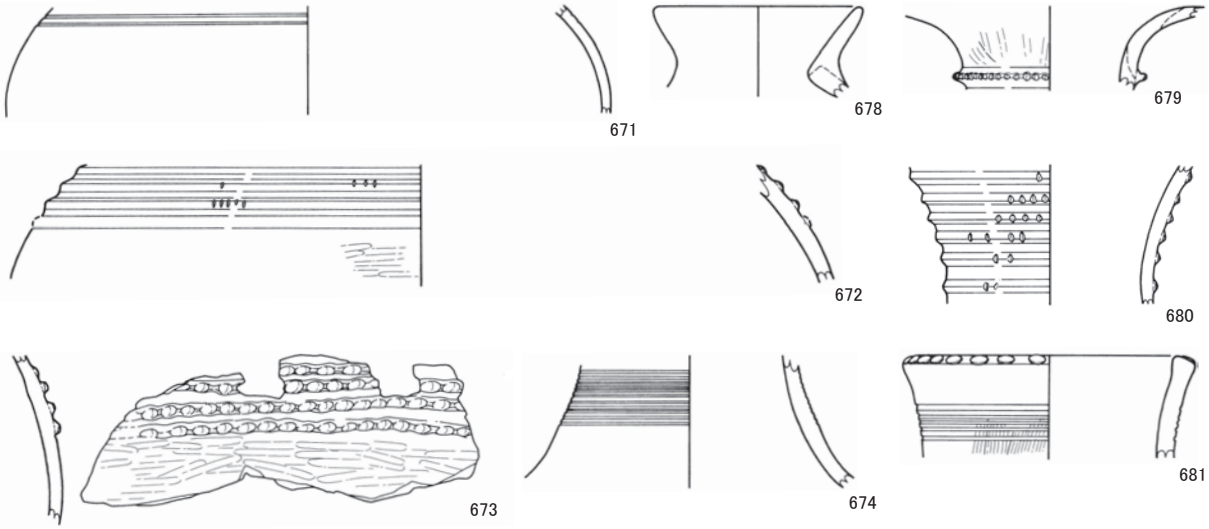
SD1002

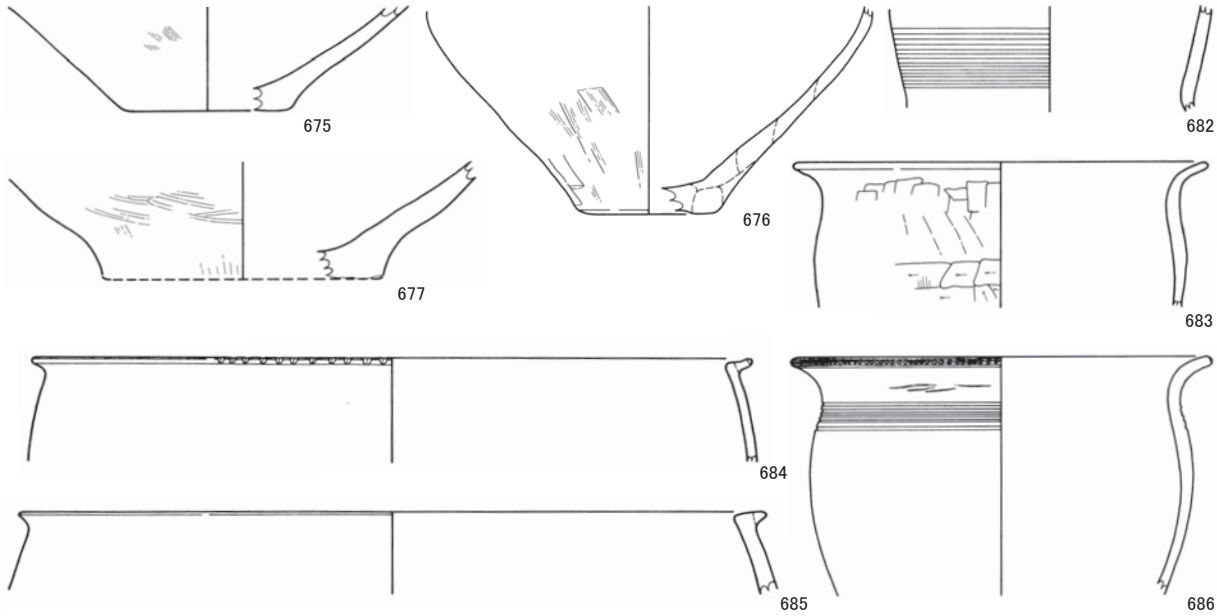


SD1003



包含層

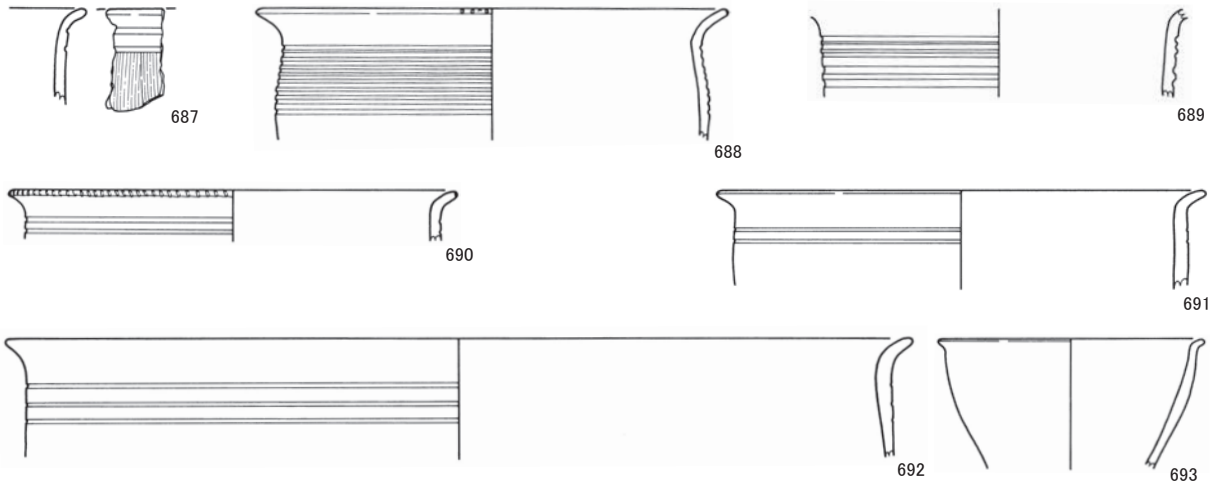




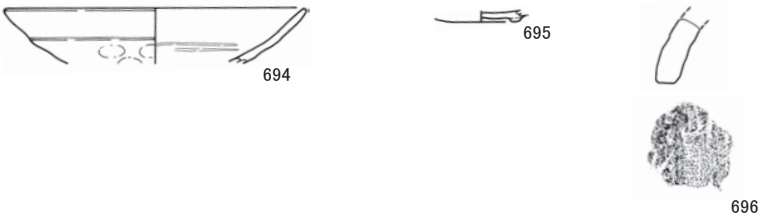
0 20cm

D地区　弥生土器 17（661 ～ 686）

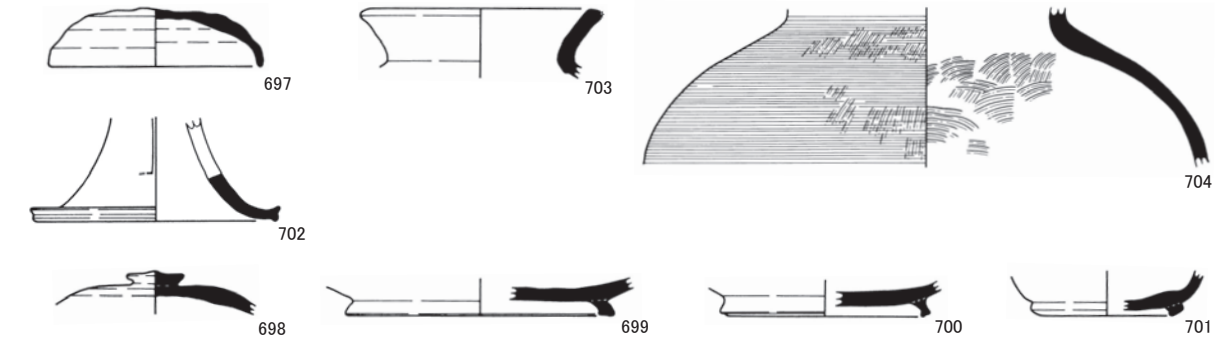
包含層



P1066

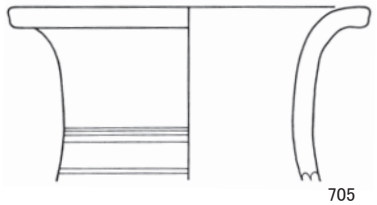


包含層

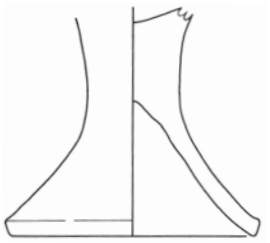


D地区　弥生土器・土師器・須恵器・瓦（687 ～ 704）

SH2001

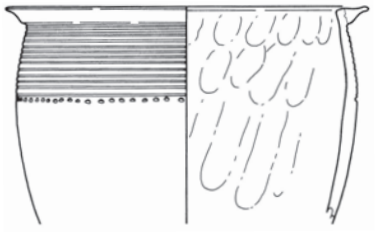


705



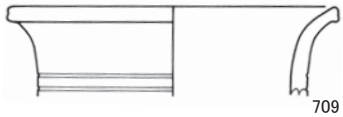
706

SB2001



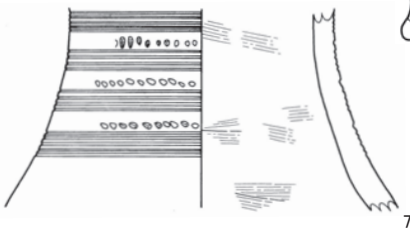
707

SB2014



709

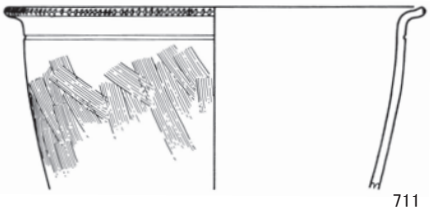
SB2002



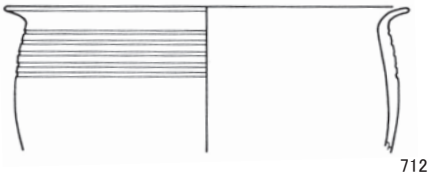
710

708

SK2003



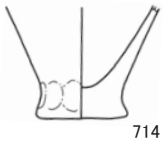
711



712

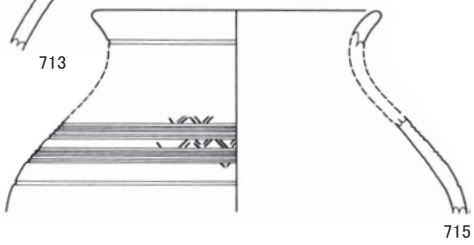
SK2006

713



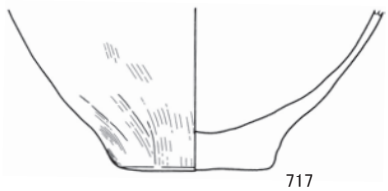
714

SK2010



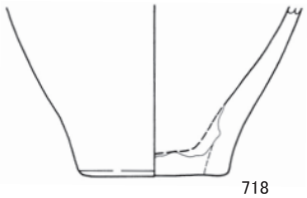
715

SK2016



717

SK2017

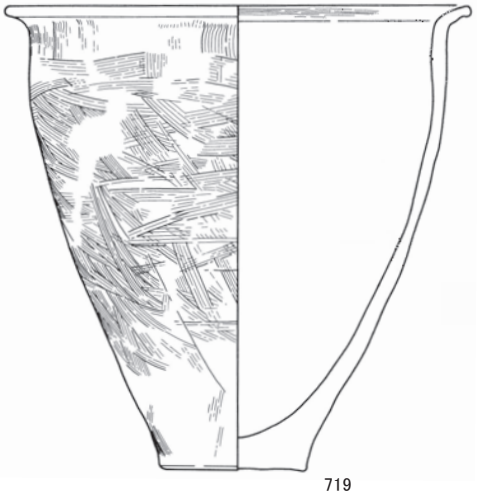


718

SK2011

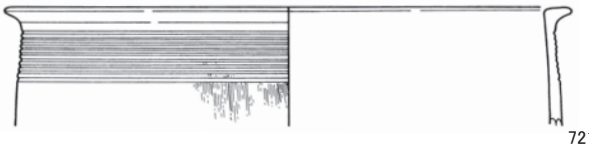
716

SK2034

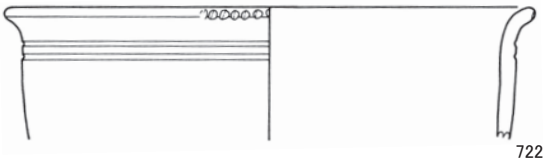


719

SK2030

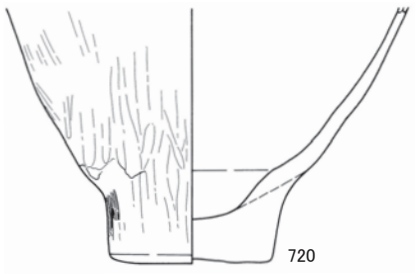


721

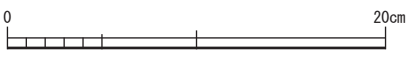


722

SK2032

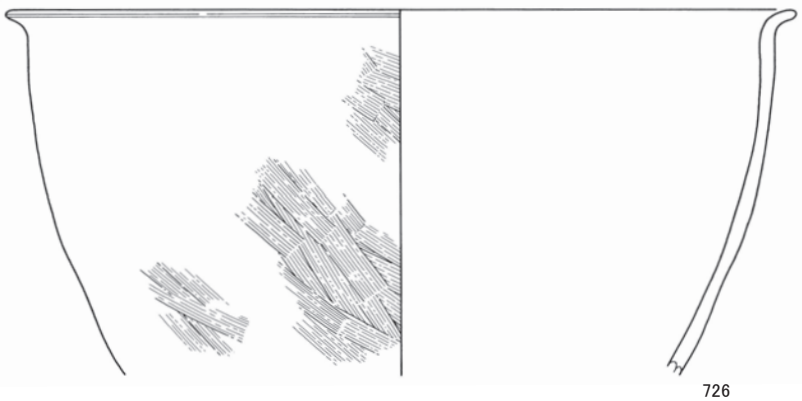


720



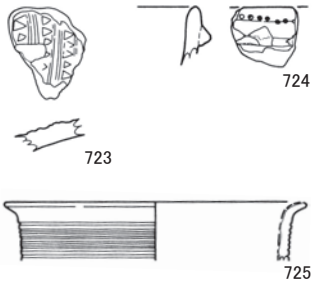
E・F地区　弥生土器（705 ～ 722）

SD2009



726

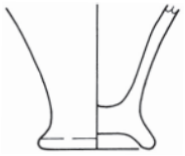
SD2001



724

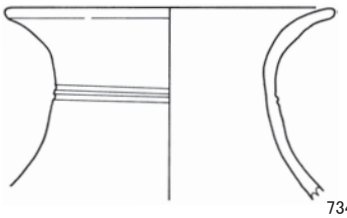
723

725



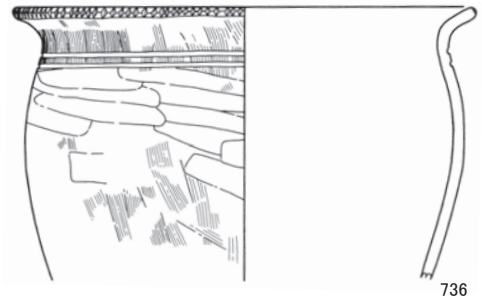
727

SD2026

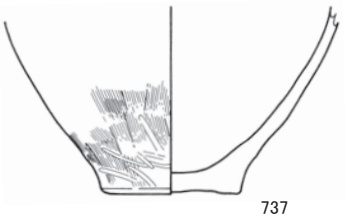


734

735

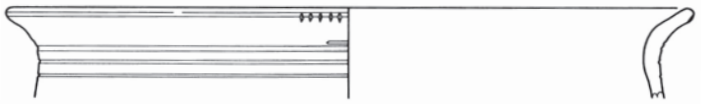


736



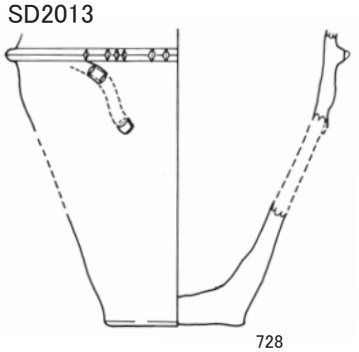
737

SD2018

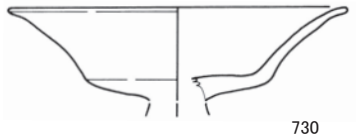


733

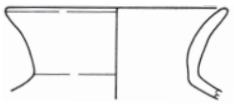
SD2013



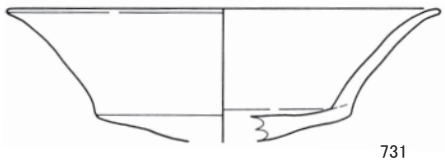
728



730



729



731

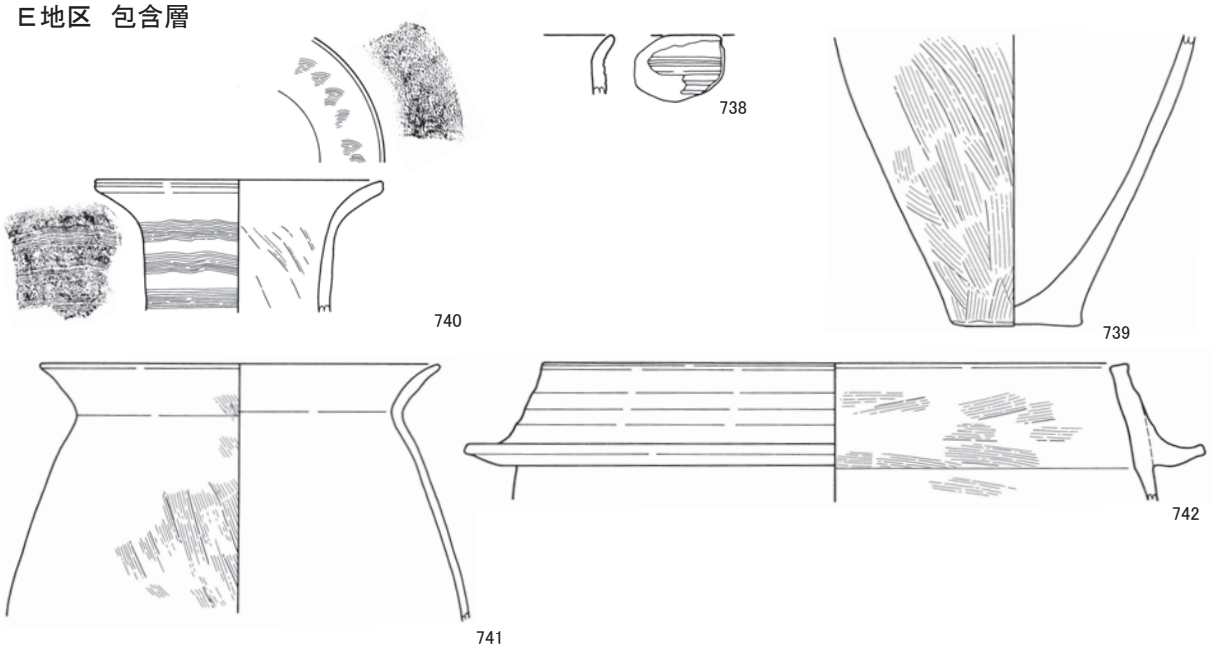
E地区包含層

732

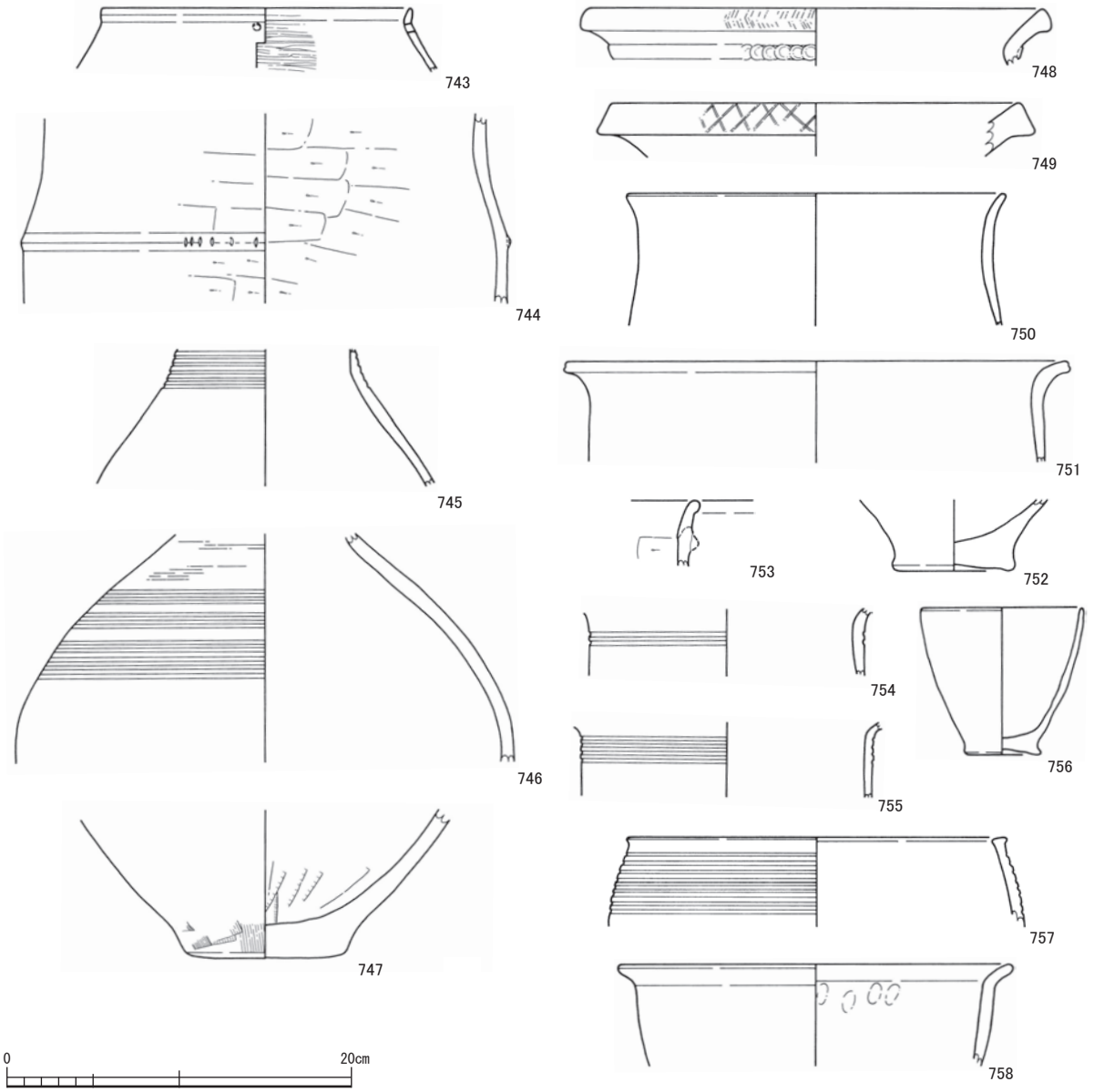
0 20cm

E・F地区　弥生土器・土師器・須恵器（723 ～ 737）

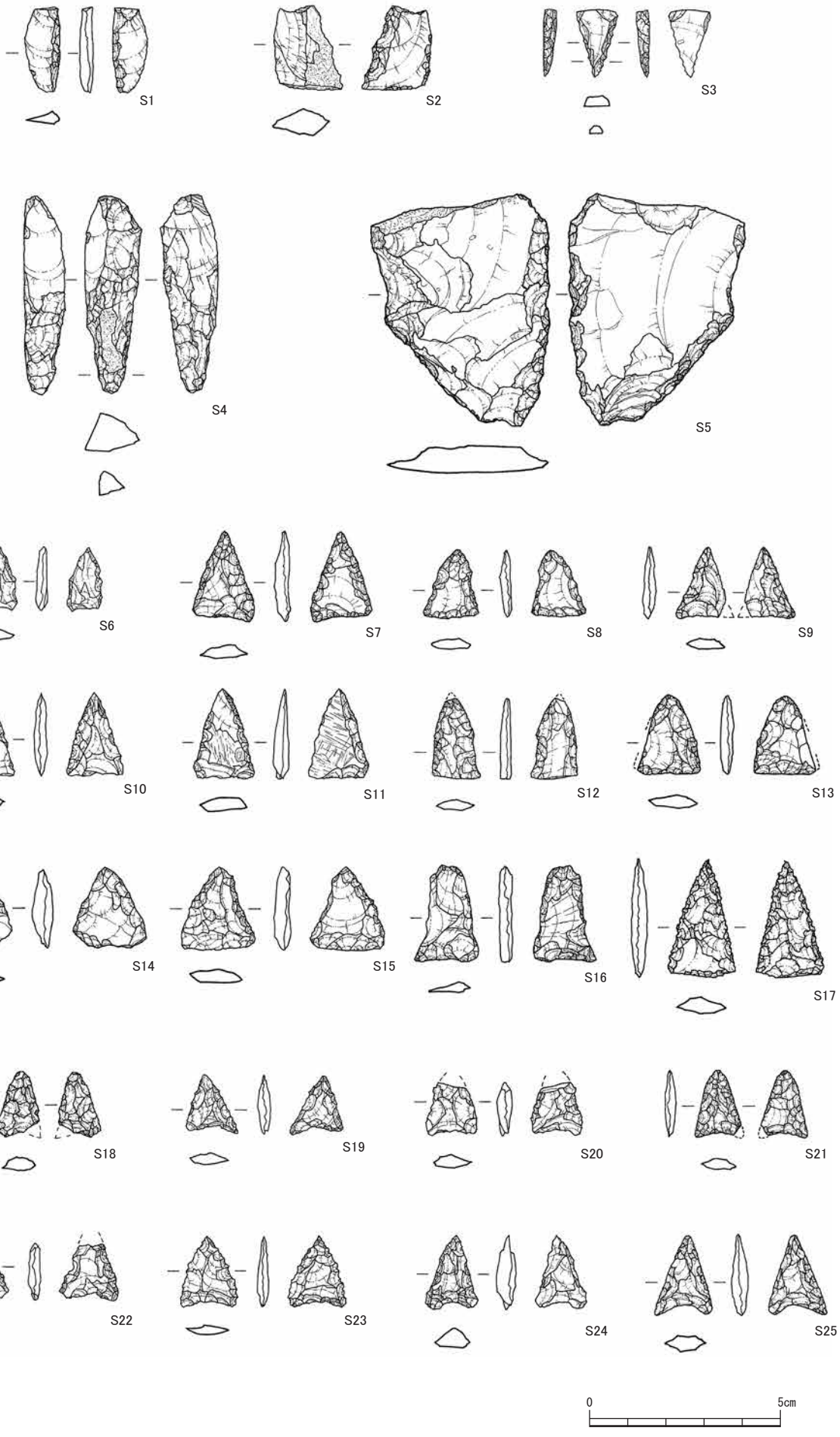
E地区　包含層



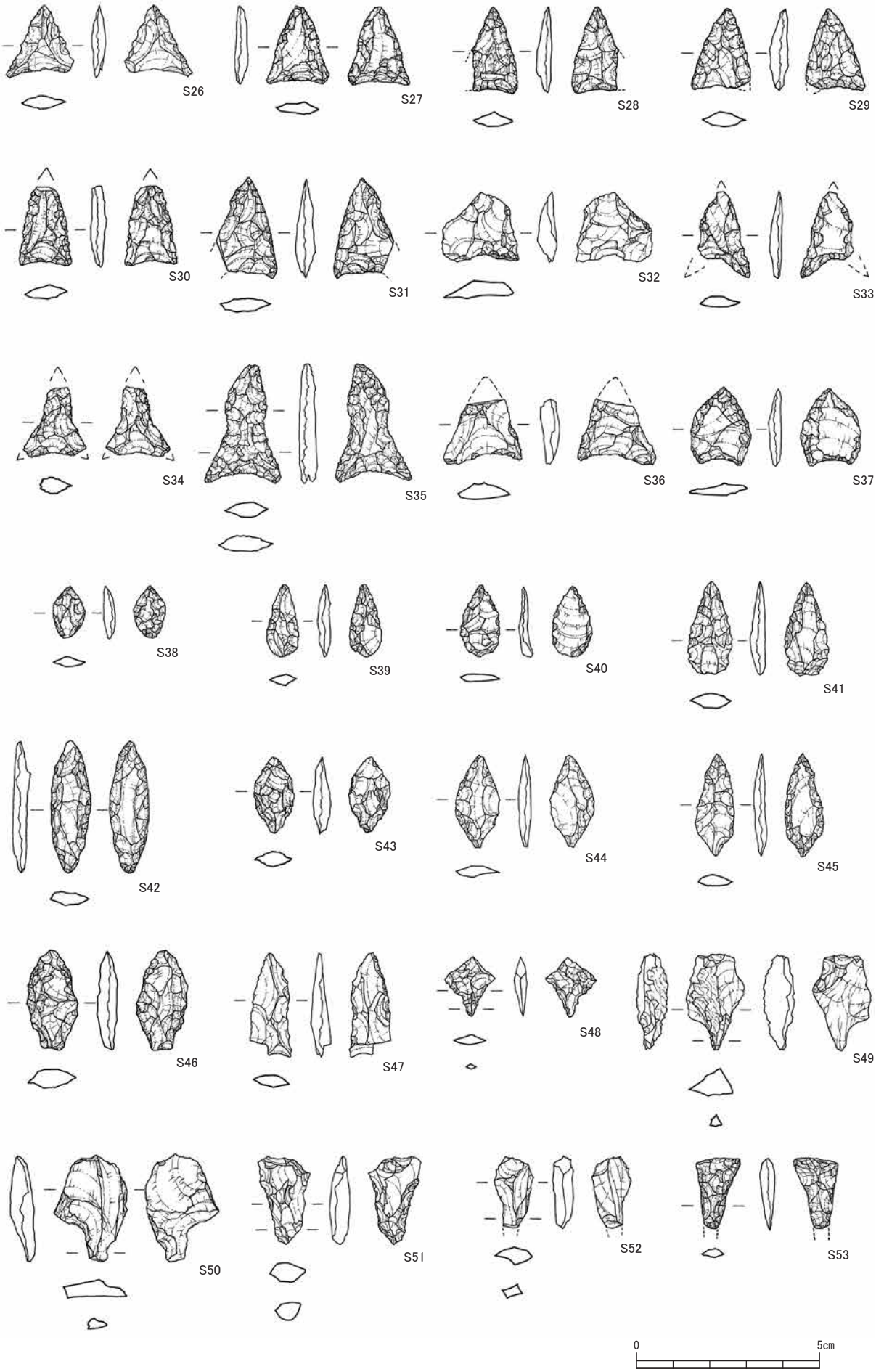
F地区　包含層



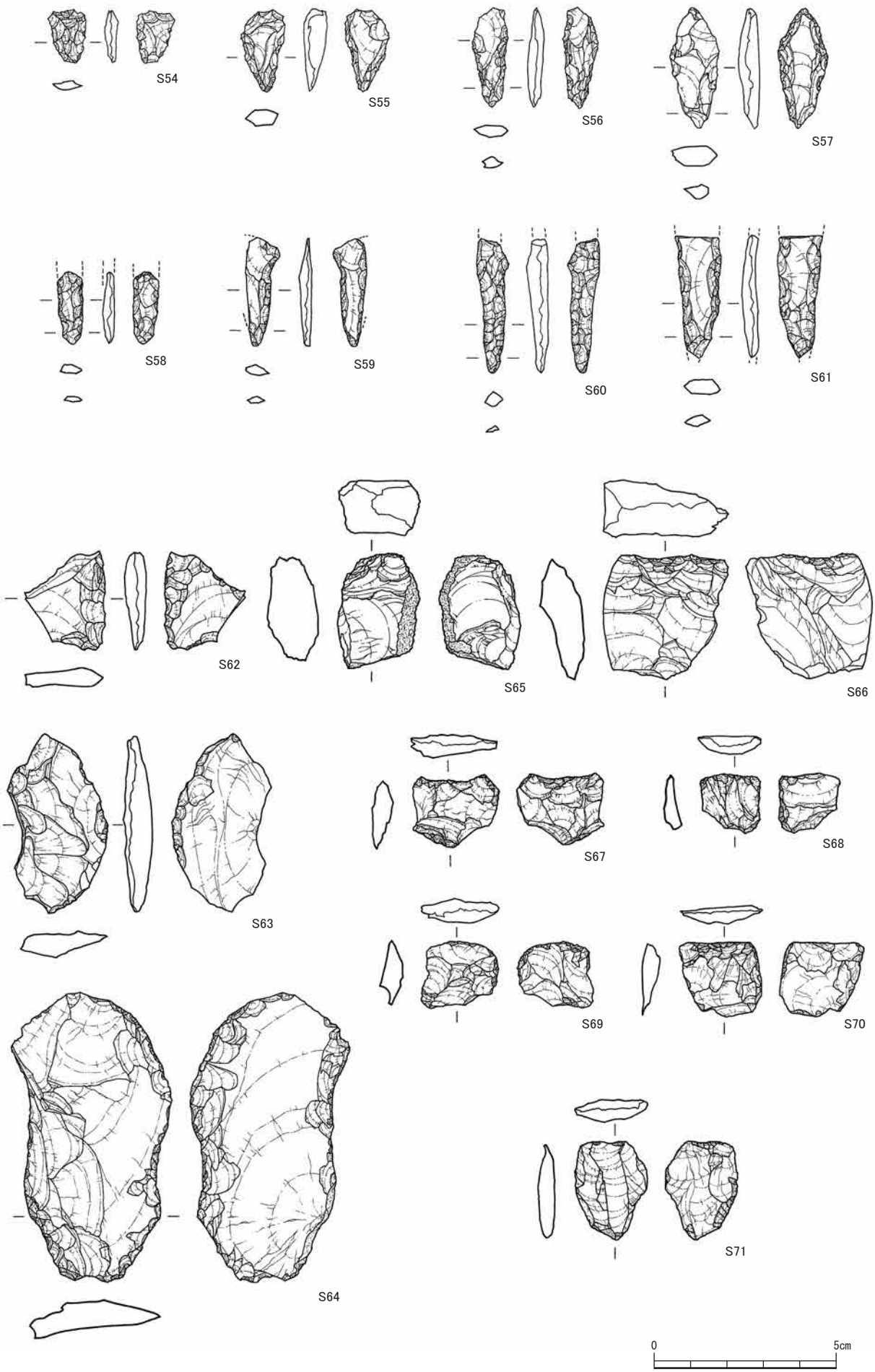
E・F地区　弥生土器（738 ～ 758）



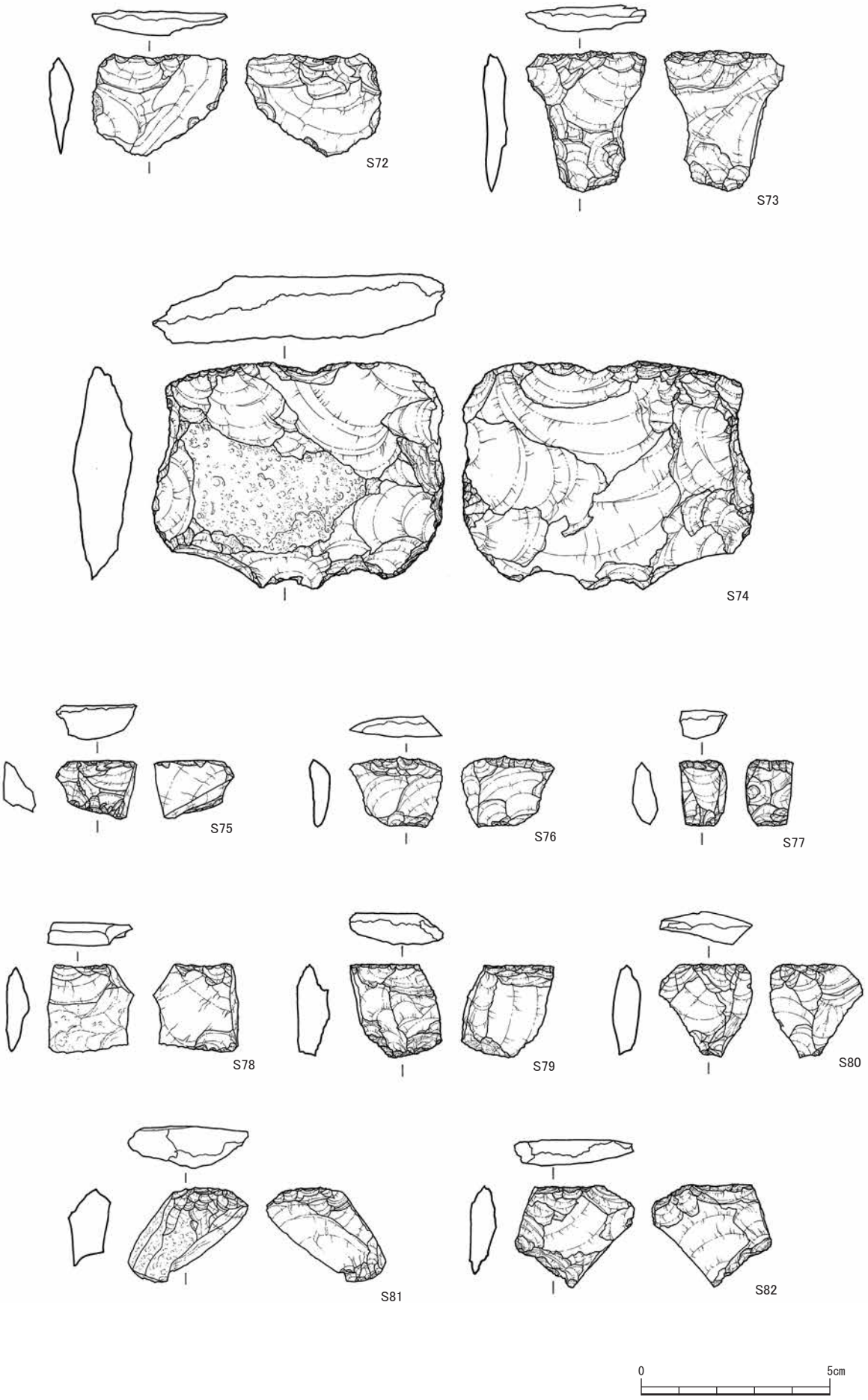
石器１　狩猟具・武器（S1 ～ S25）



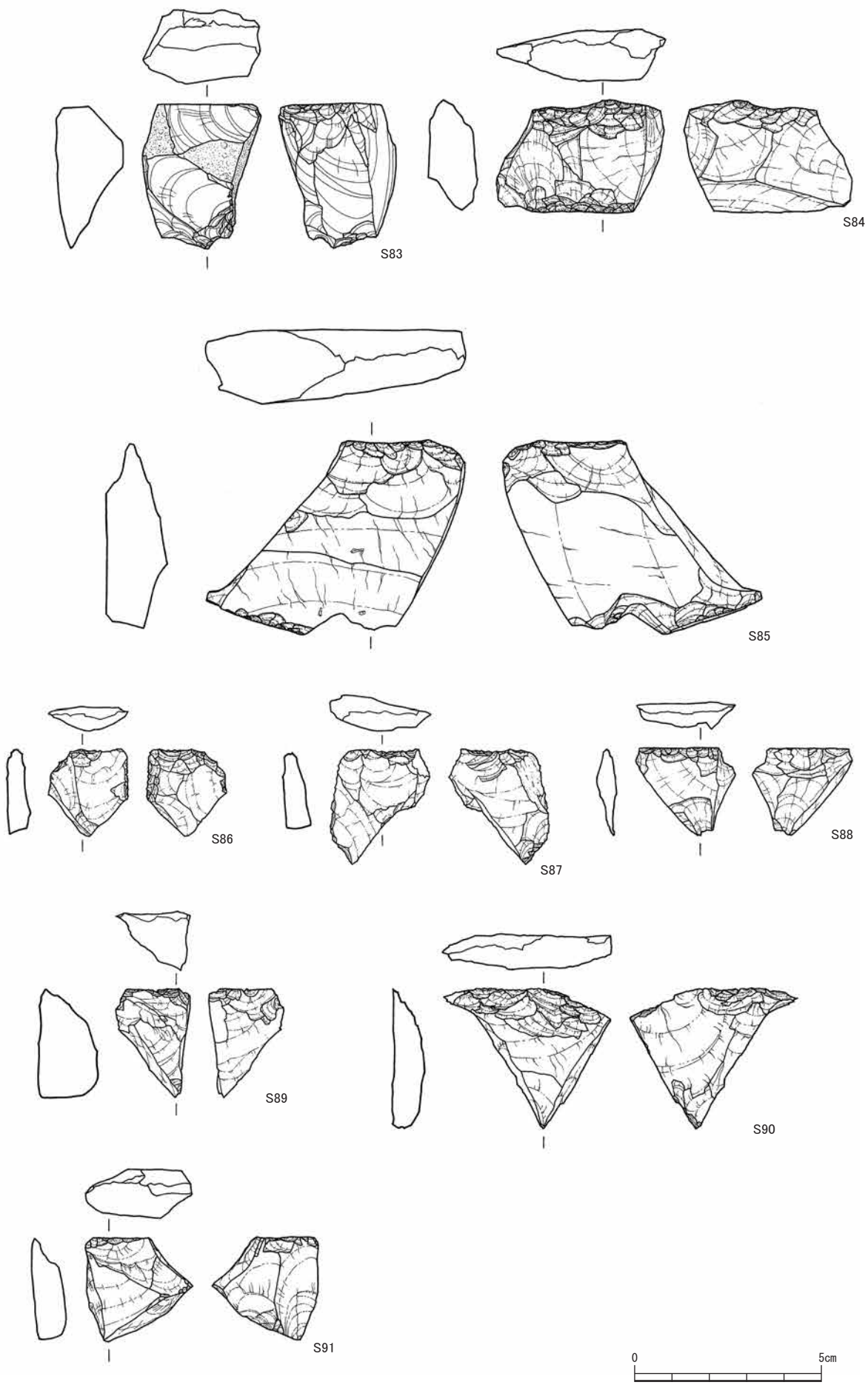
石器２　狩猟具・武器・工具（S26 ～ S53）



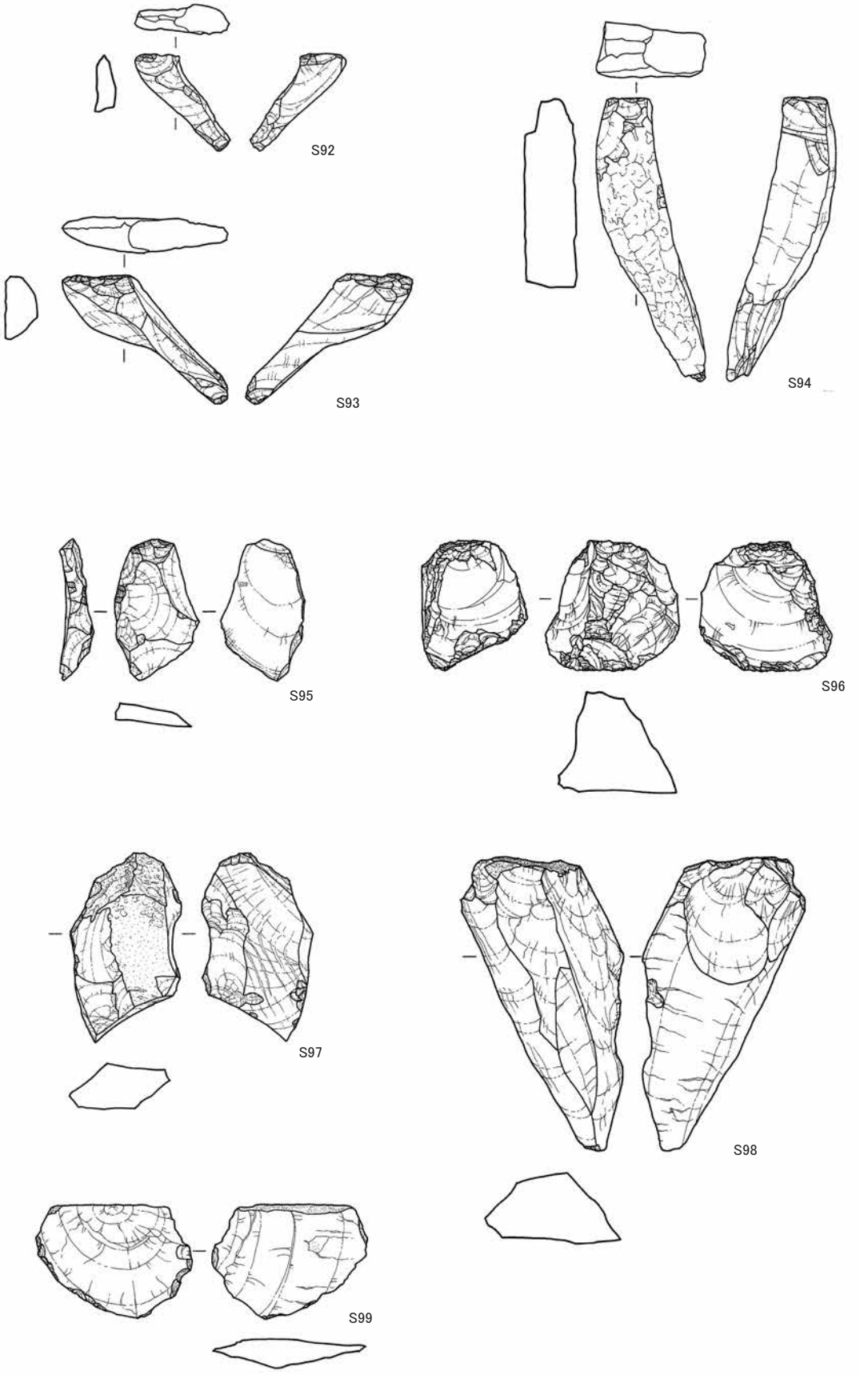
石器３　工具（S54 ～ S71）



石器４　工具（S72 ～ S82）

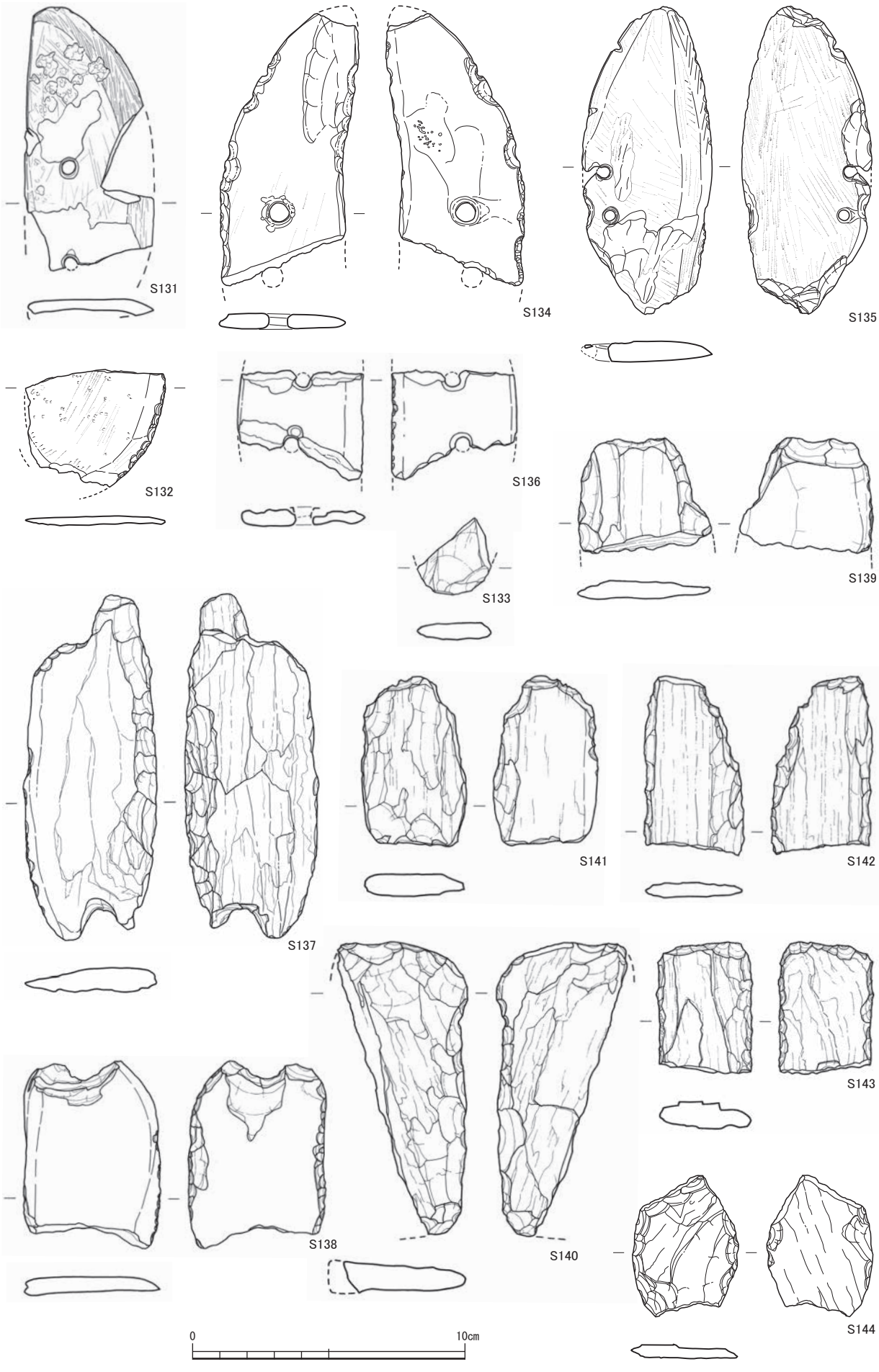


石器５　工具（S83 ～ S91）



石器６　工具（S92 ～ S99）

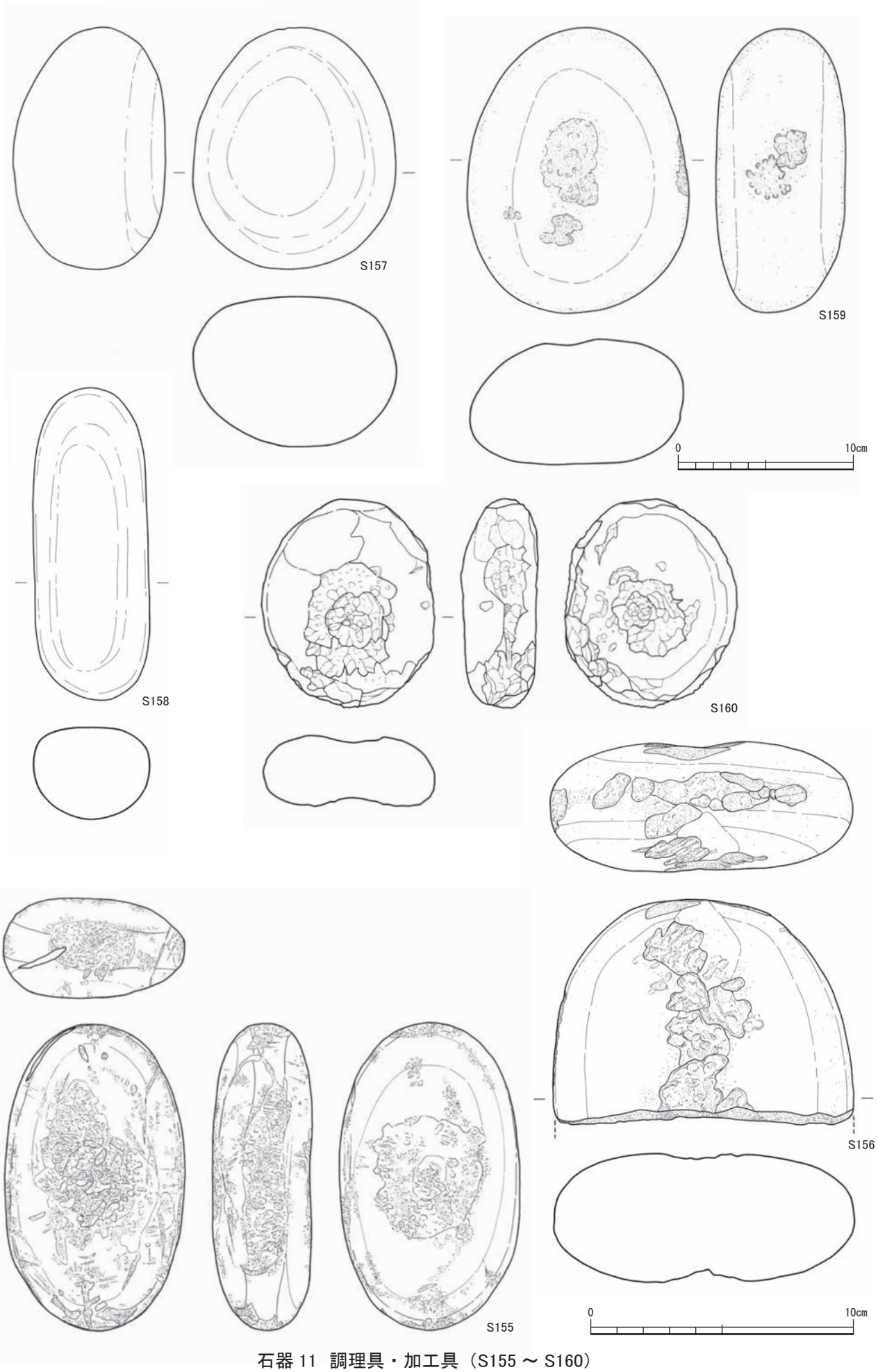
石器7　工具・祭祀具（S119 ～ S130）



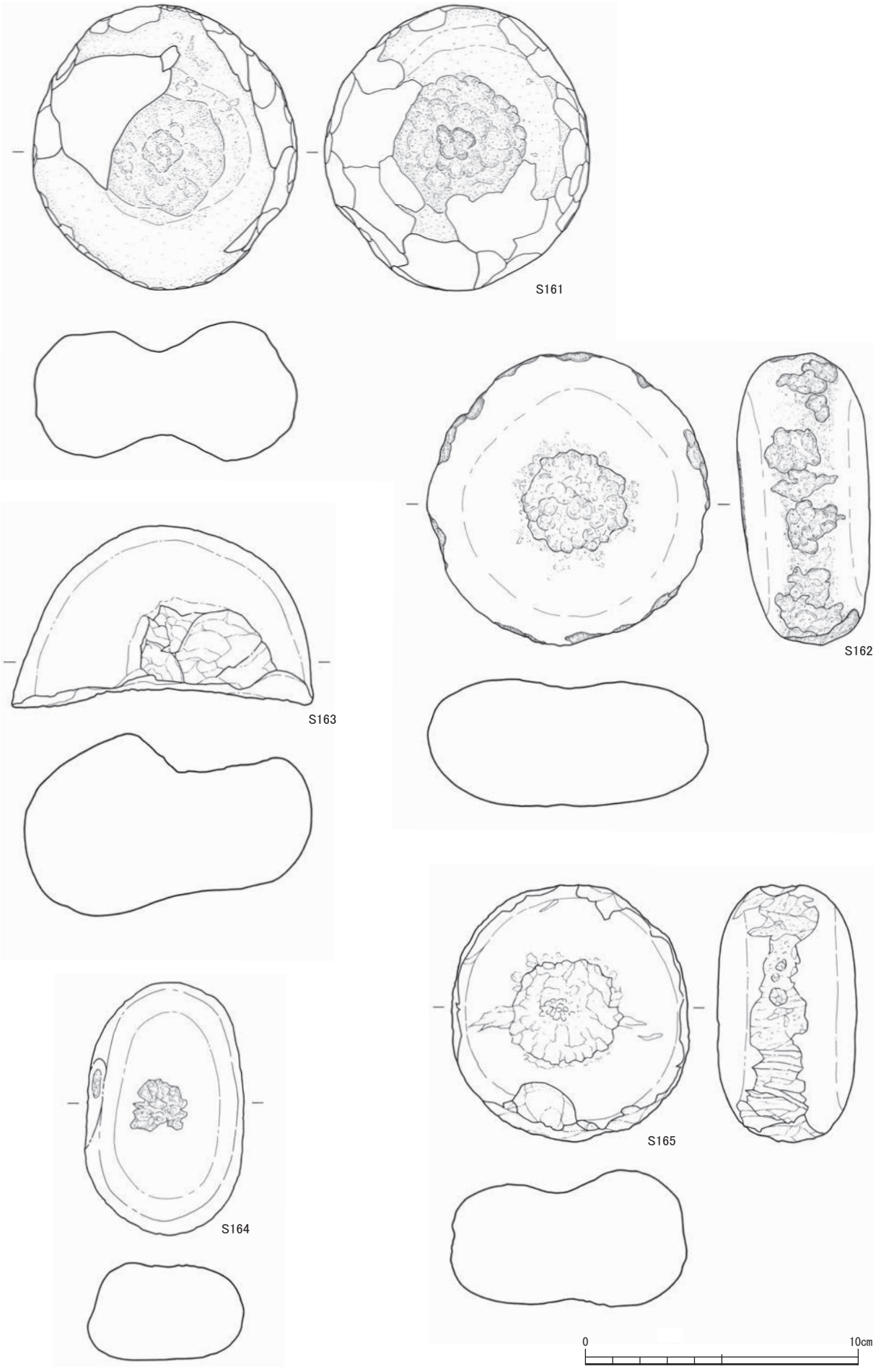
石器8　農具（S131 ～ S144）

石器９　調理具・加工具（S145 ～ S150）

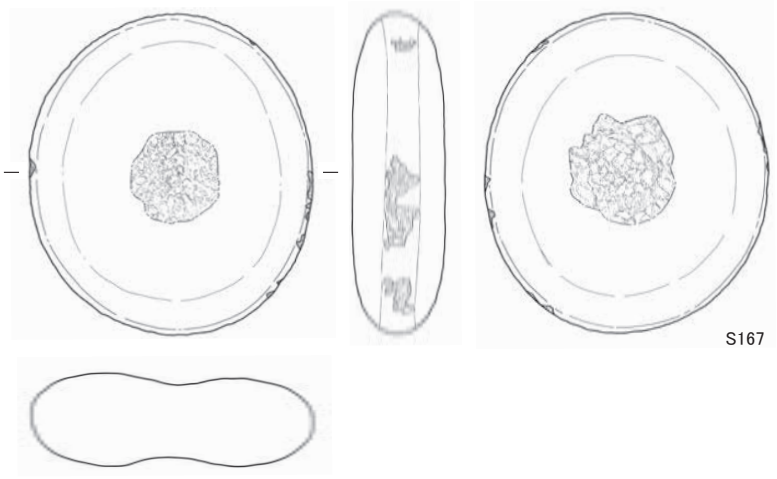
石器 10　調理具・加工具（S151 ～ S154）

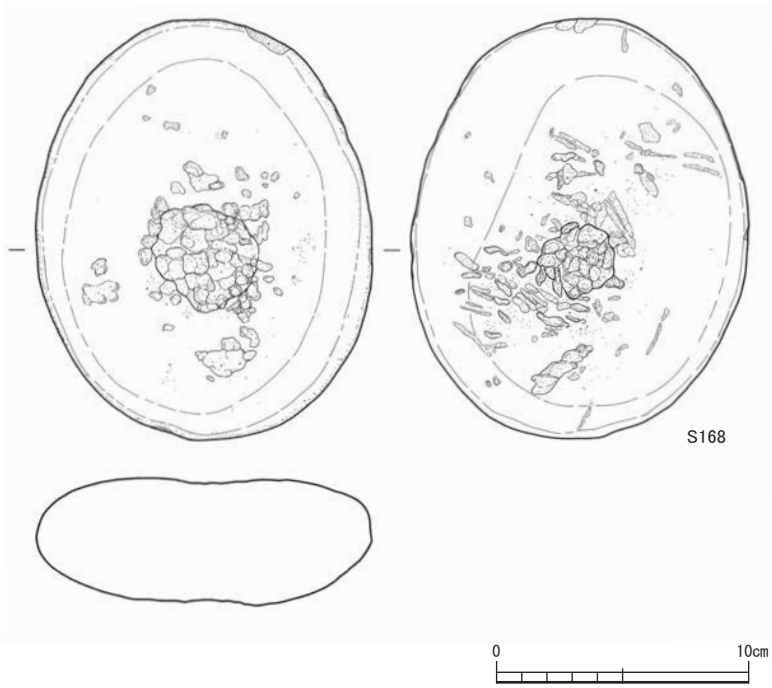


石器 11　調理具・加工具（S155 ～ S160）

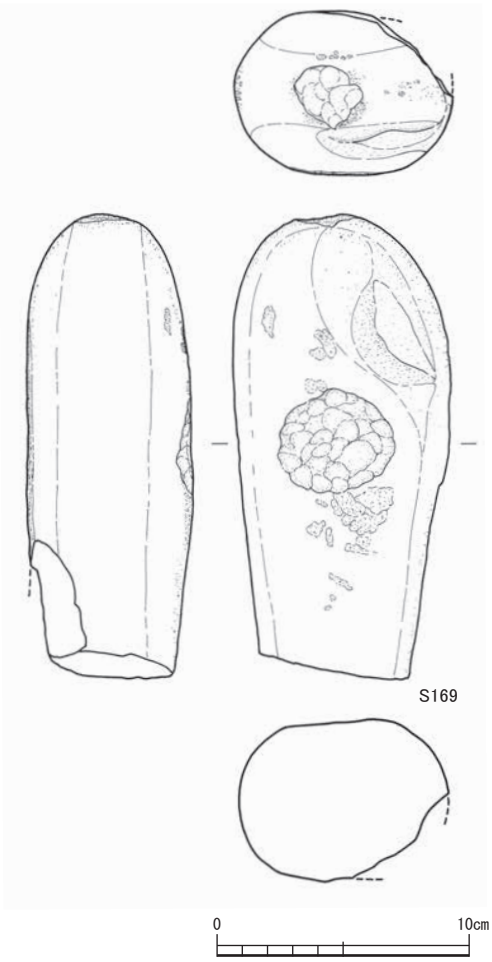


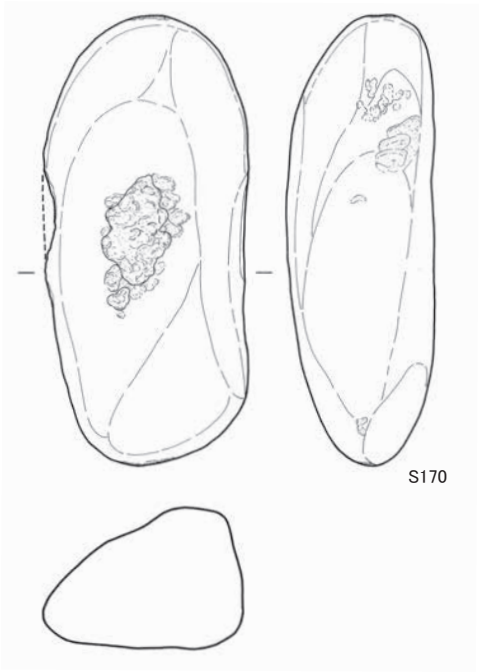
石器 12　調理具・加工具（S161 ～ S165）

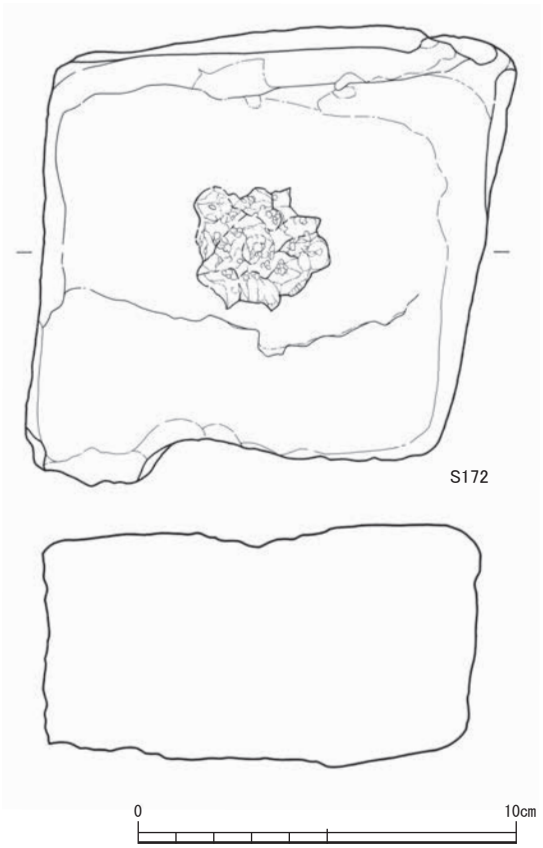




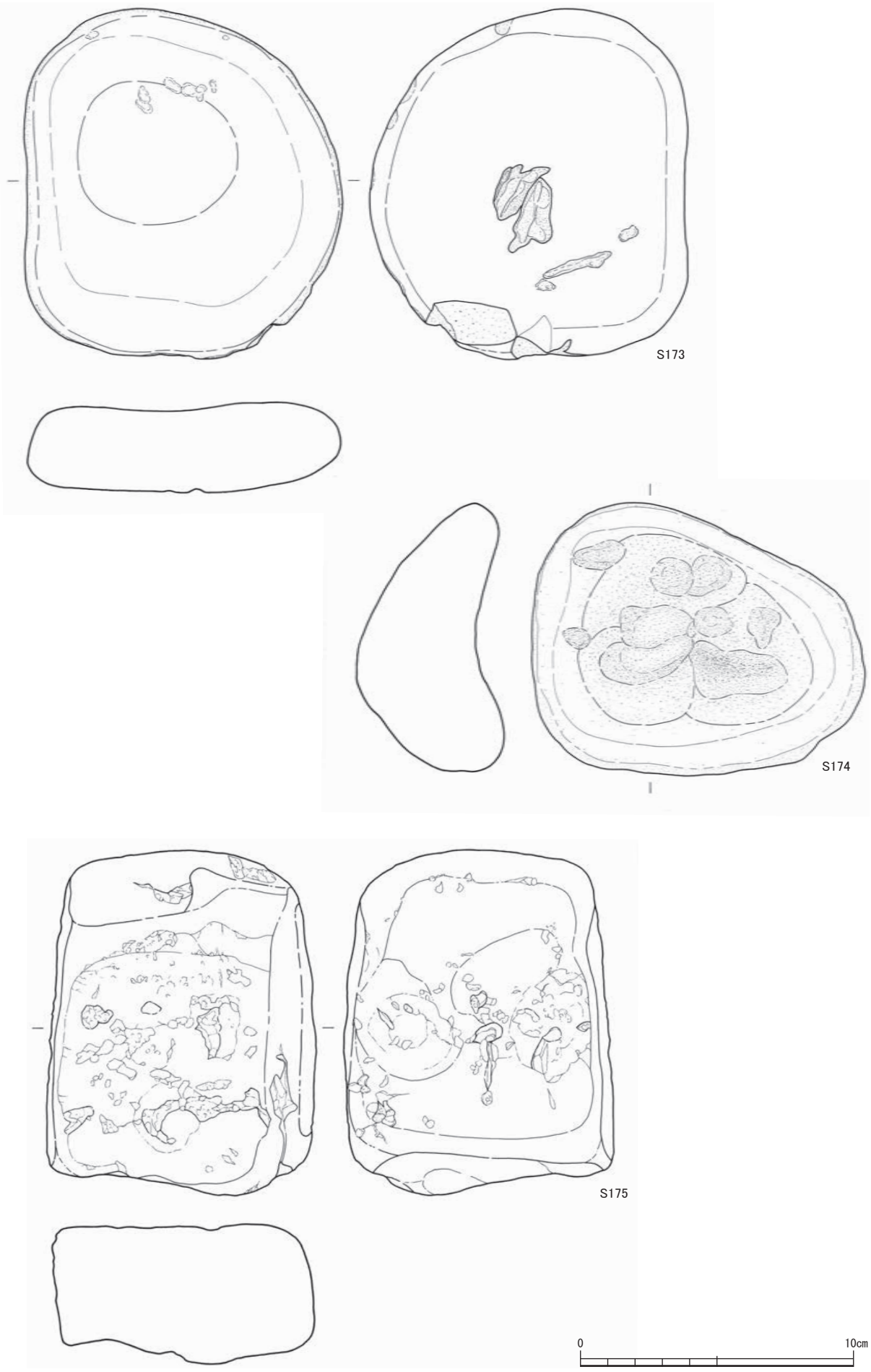
石器 13　調理具・加工具（S166 ～ S168）



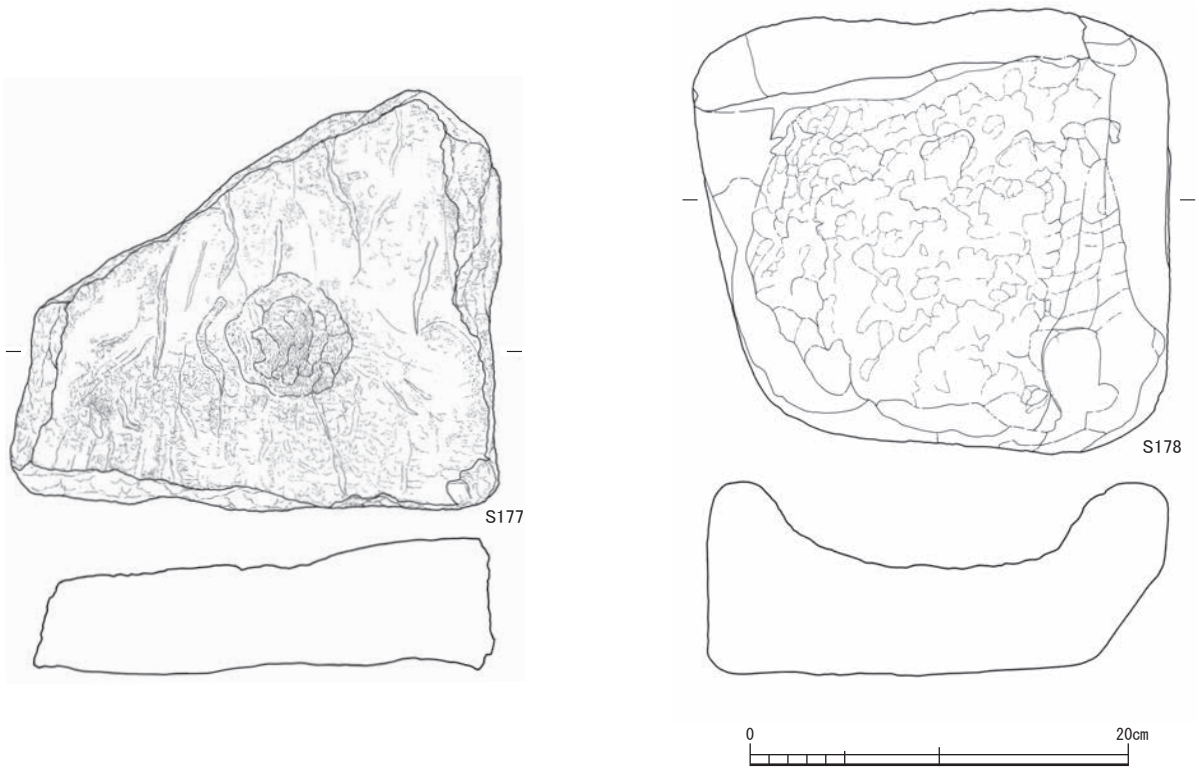




石器 14　調理具・加工具（S169 ～ S172）

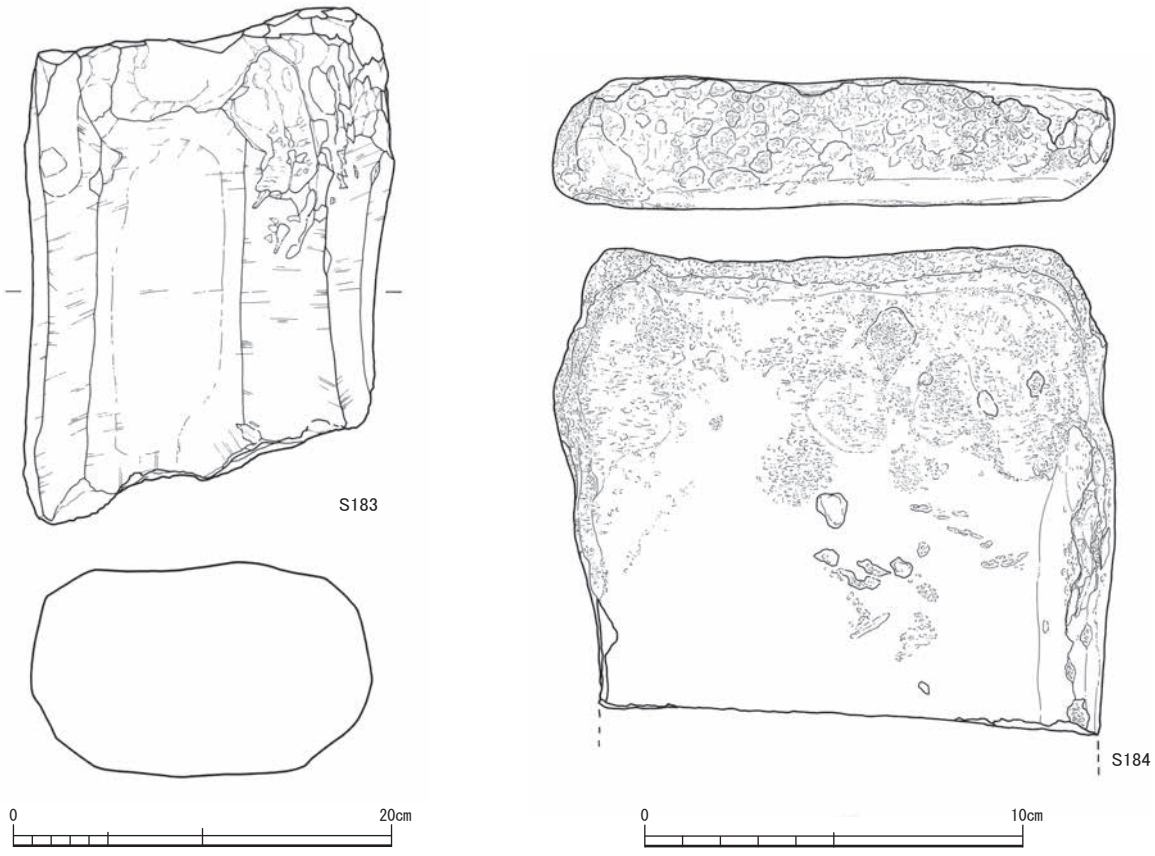


石器 15　調理具・加工具（S173 ～ S175）



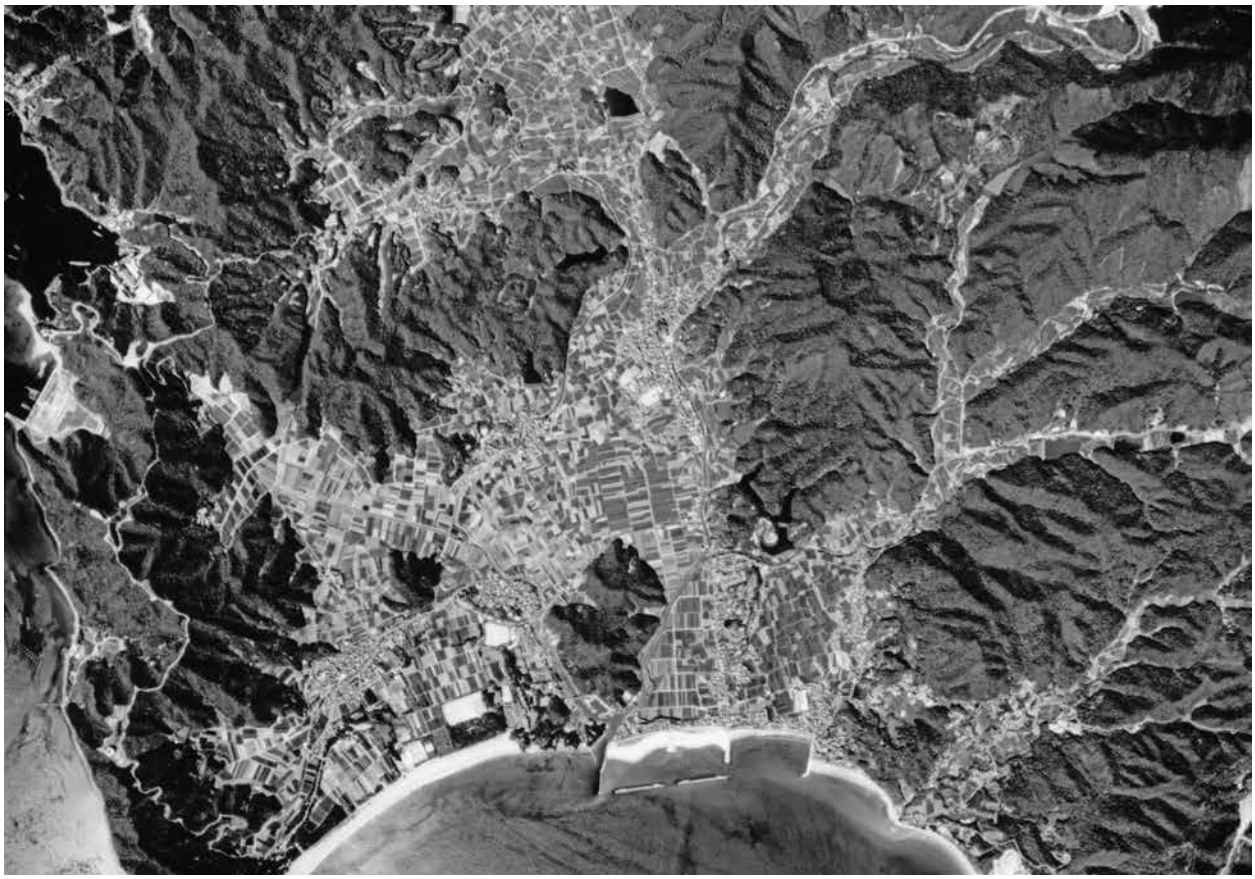
石器 16　調理具・加工具（S176 ～ S178）

石器 17　調理具・加工具（S179 ～ S181）



石器 18　調理具・加工具（S182 ～ S184）

写 真 図 版



空中写真（上が北西）

空中写真（上が北）

遠景（西から）

遠景（南から）

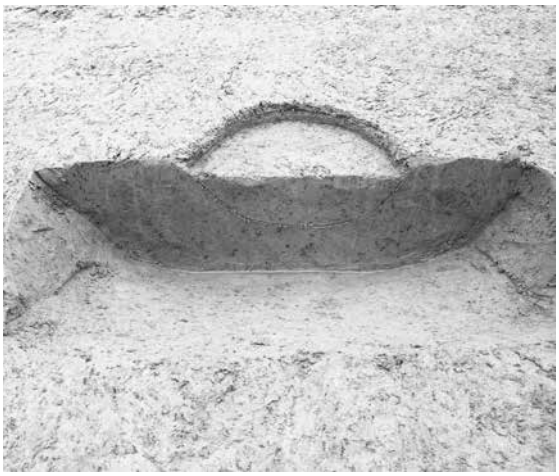
調査区全景（南西から）

調査区全景（北東から）

B地区全景（上が北東）

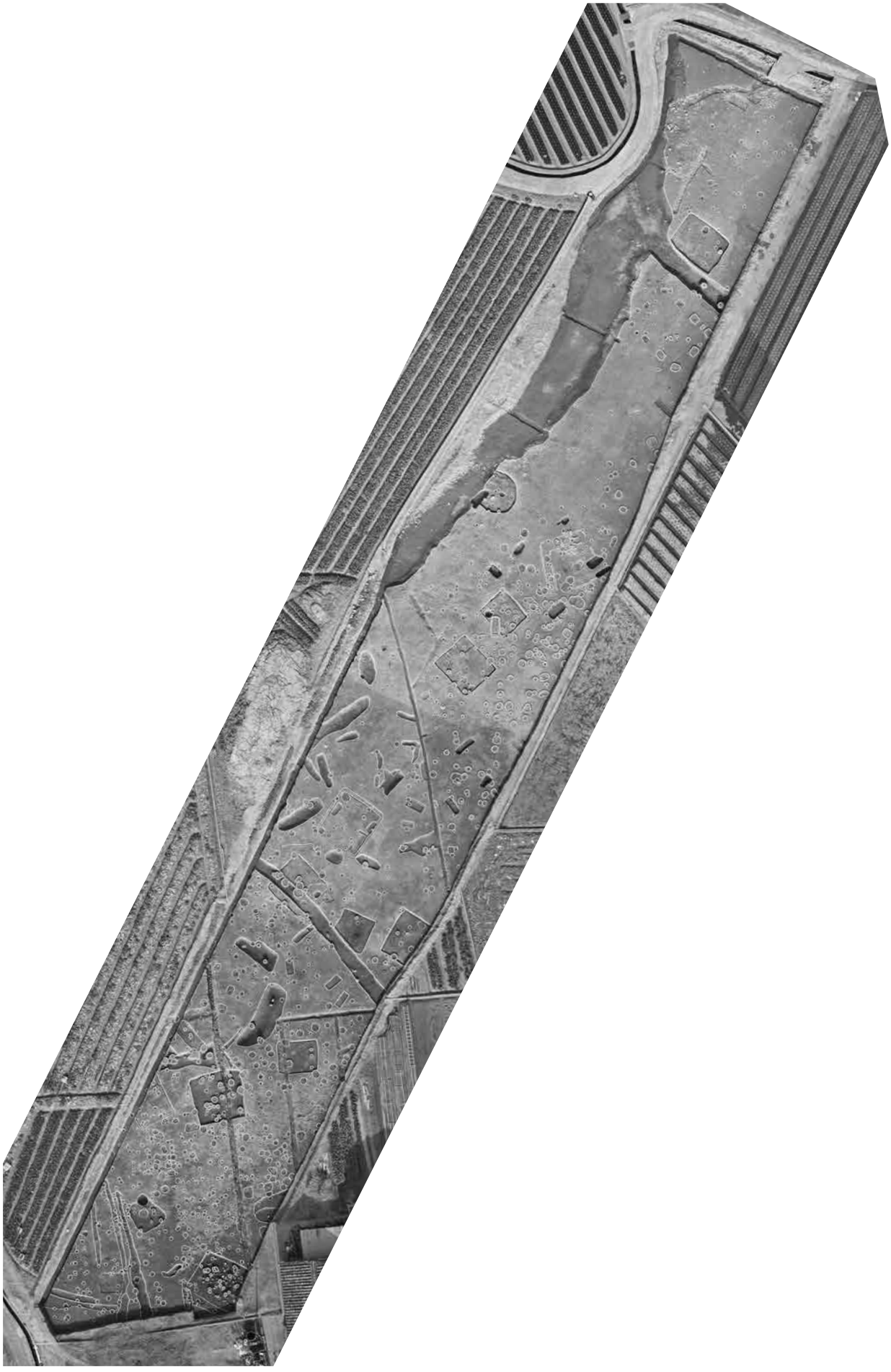
東壁土層断面（南西から）

SB0050（北東から）



P09（北から）

SD0027（南西から）



C地区全景（上が北）

全景（北東から）

全景（南西から）

西壁土層断面（南から）

西壁土層断面（南から）

北壁土層断面（南西から）

北壁土層断面（南東から）

C地区　西・北壁土層断面

SB0001（南西から）

P696（南西から）

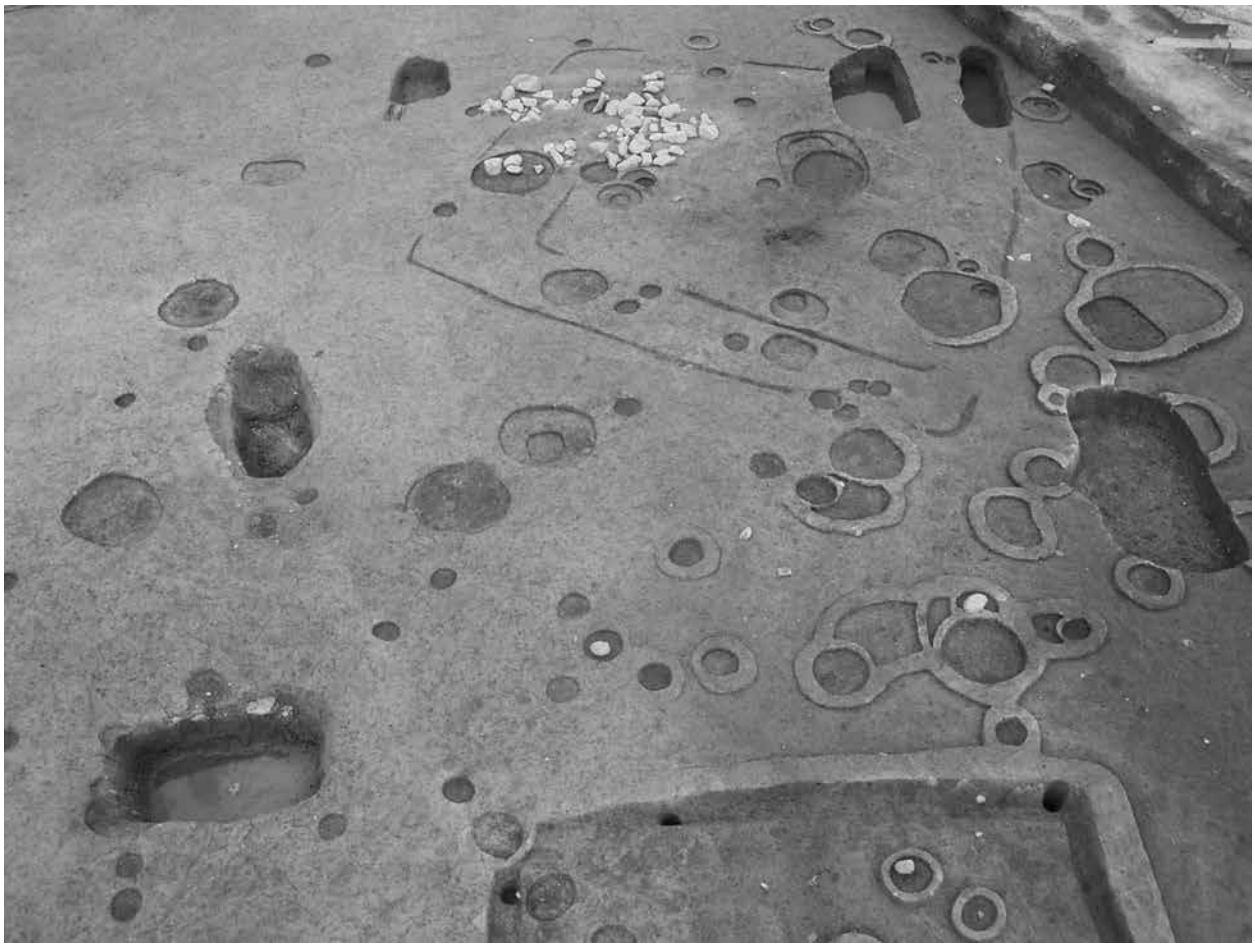
P697（南から）

P714（南東から）

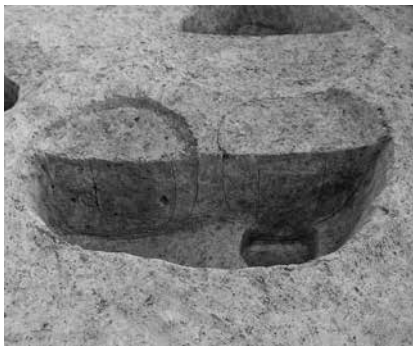
P721（北東から）

P722（北東から）

P725（北東から）

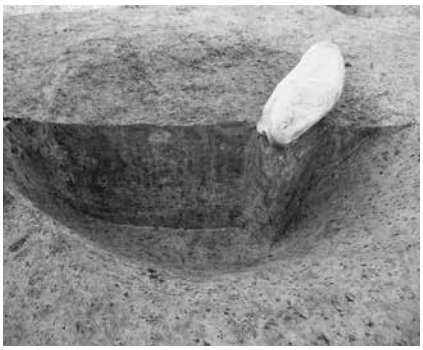


SB0005（南西から）



P253（北から）

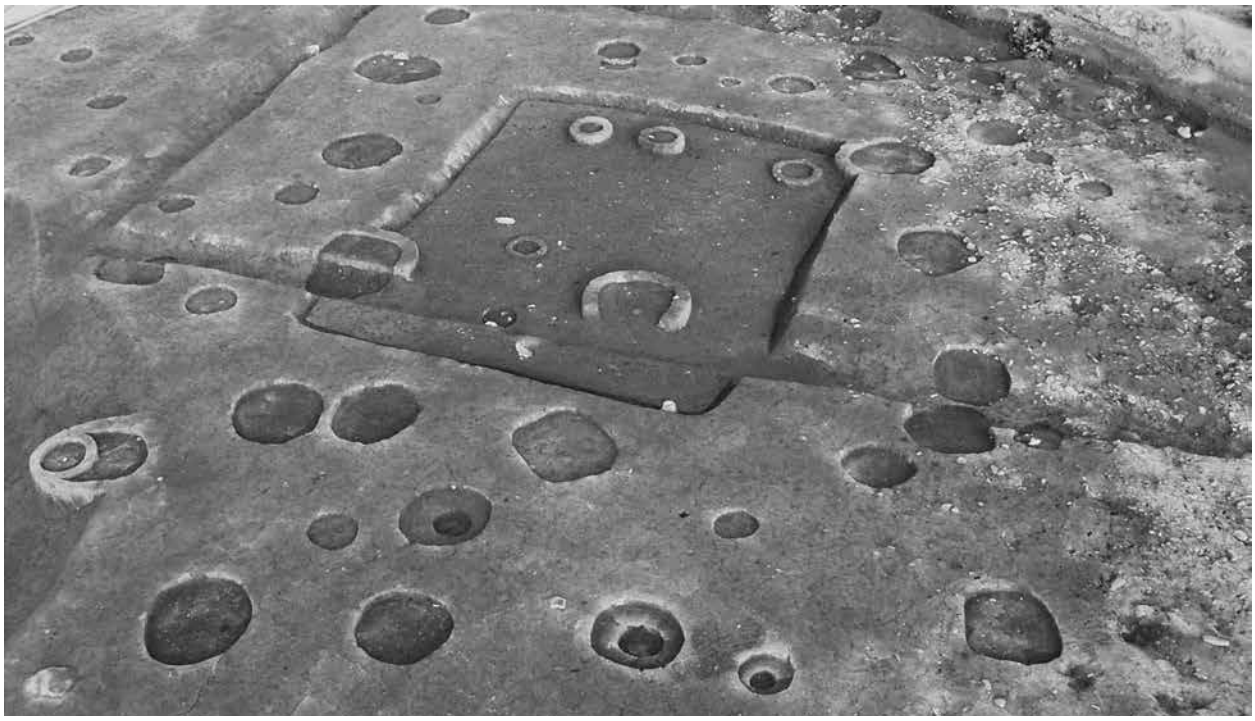
P268（北から）



P270（北東から）

P274（西から）

P275（南西から）



SB0009（西から）

P553（北から）

P559（北から）

P564（南から）

P577（南から）

P578（南から）

P589（北から）

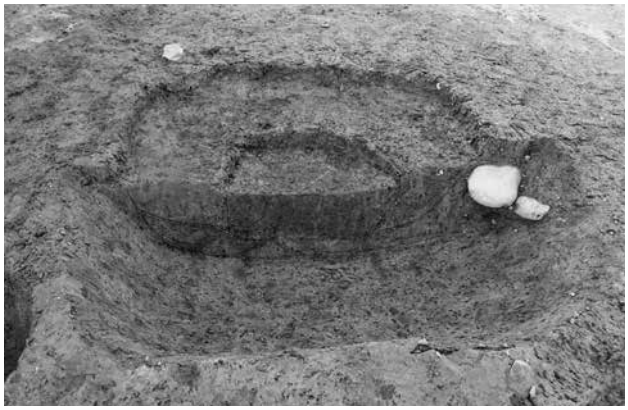
P593（北から）

C地区　掘立柱建物跡

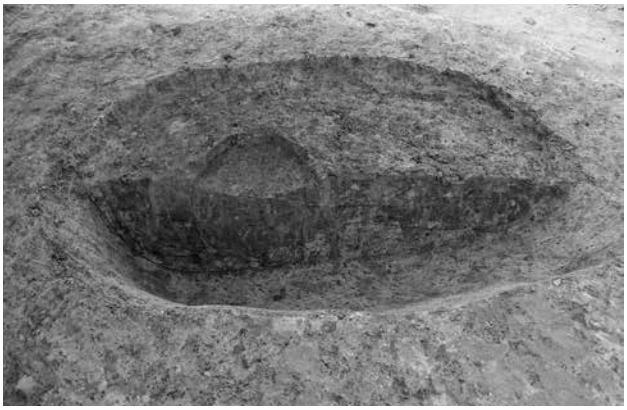
SB0010（北東から）

P438（南西から）

P439（南東から）



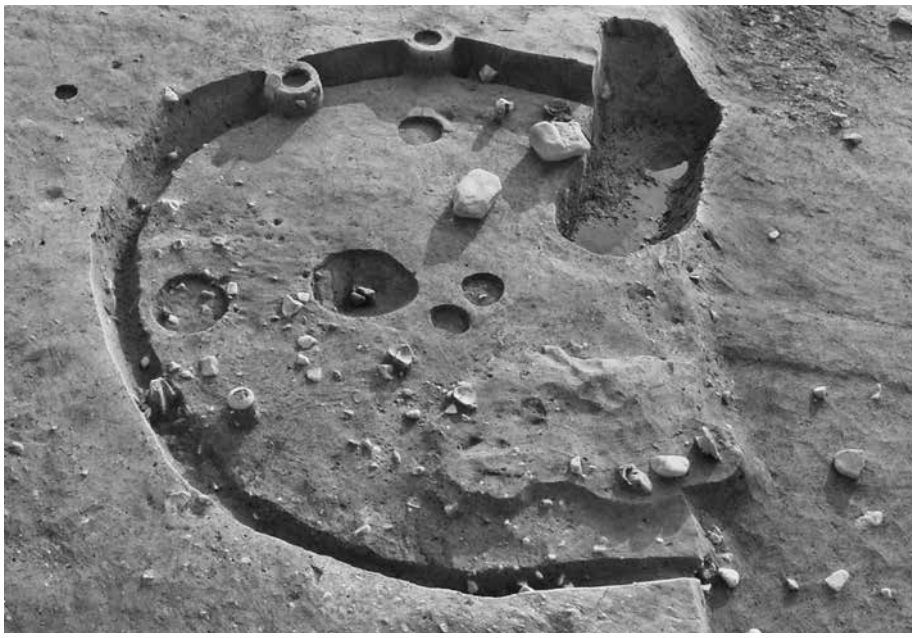
P441（南東から）



P445（南東から）

SB0030（北から）

P111（西から）



SH0002 全景（北東から）

全景（南東から）

中央土坑（北西から）

C地区　竪穴住居跡

SH0002 断面東側周溝（北東から）

周壁溝東側土器出土状況（北から）

南西部土器出土状況（北東から）

南西部土器出土状況（北西から）

北部焼土・炭・土器検出状況（北西から）

北部焼土・炭・土器検出状況（北東から）

中央土坑土層断面（北西から）

中央土坑土器出土状況（北から）

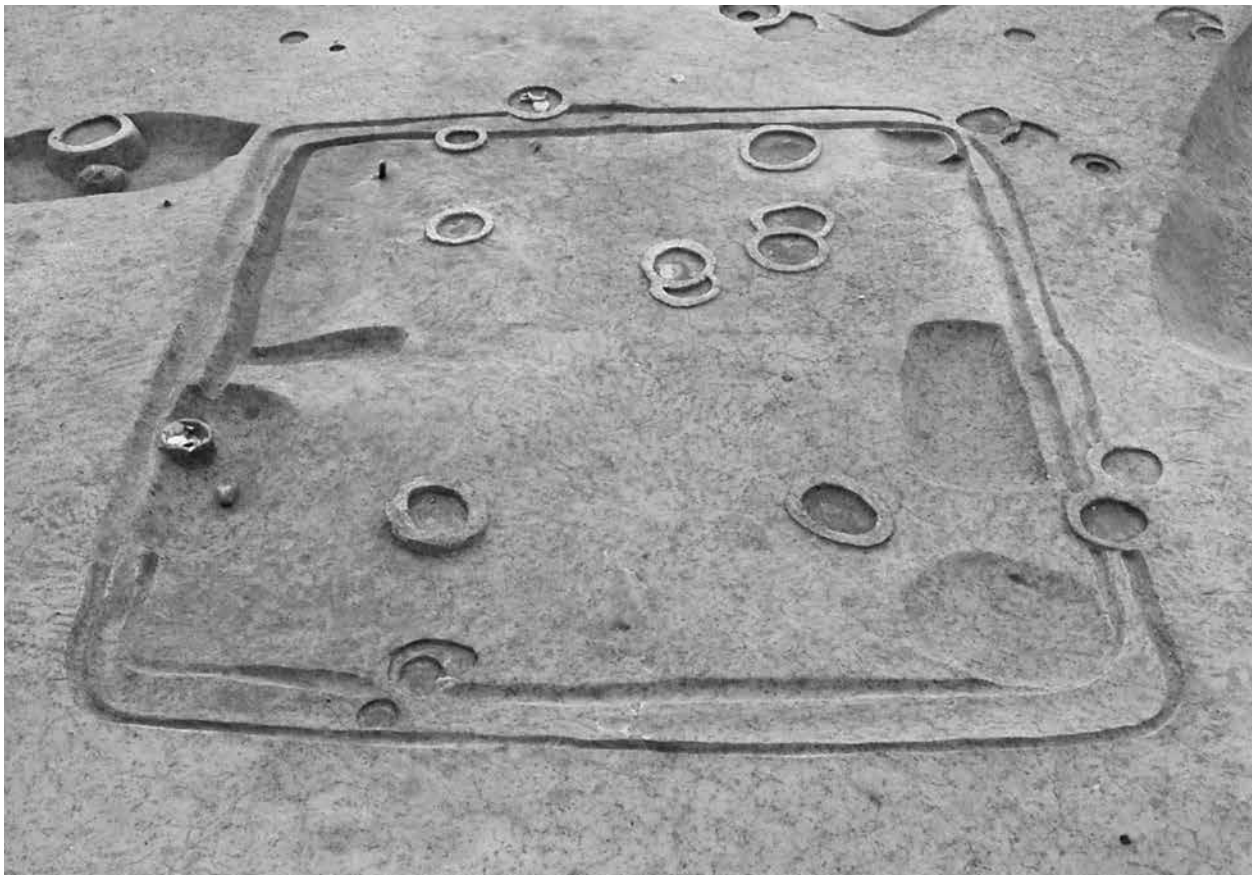
SH0001 全景（北東から）

土層断面（南東から）

土層断面（北東から）

土坑（北西から）

C地区　竪穴住居跡

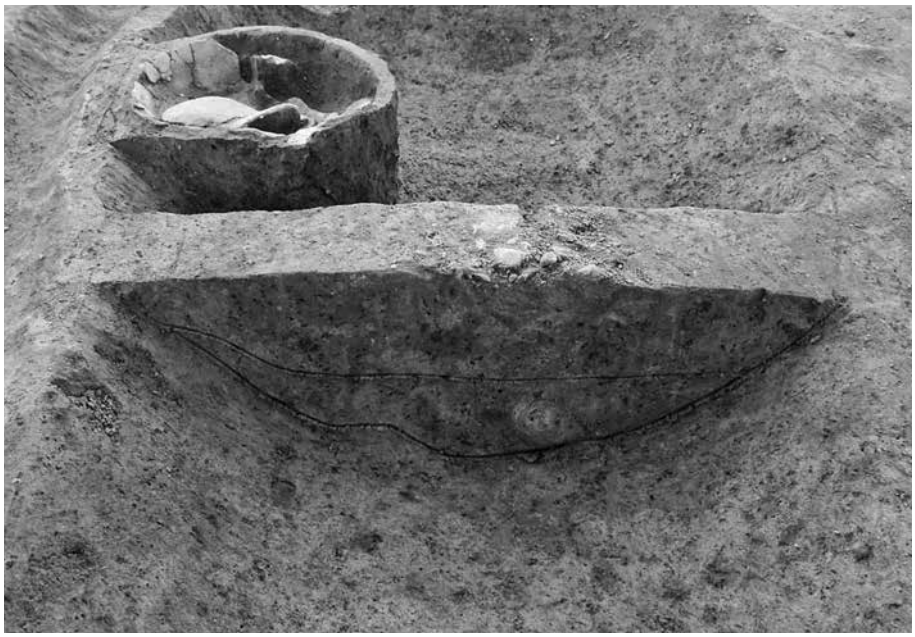


SH0003 全景（北東から）

土層断面（北西から）

土層断面（北東から）

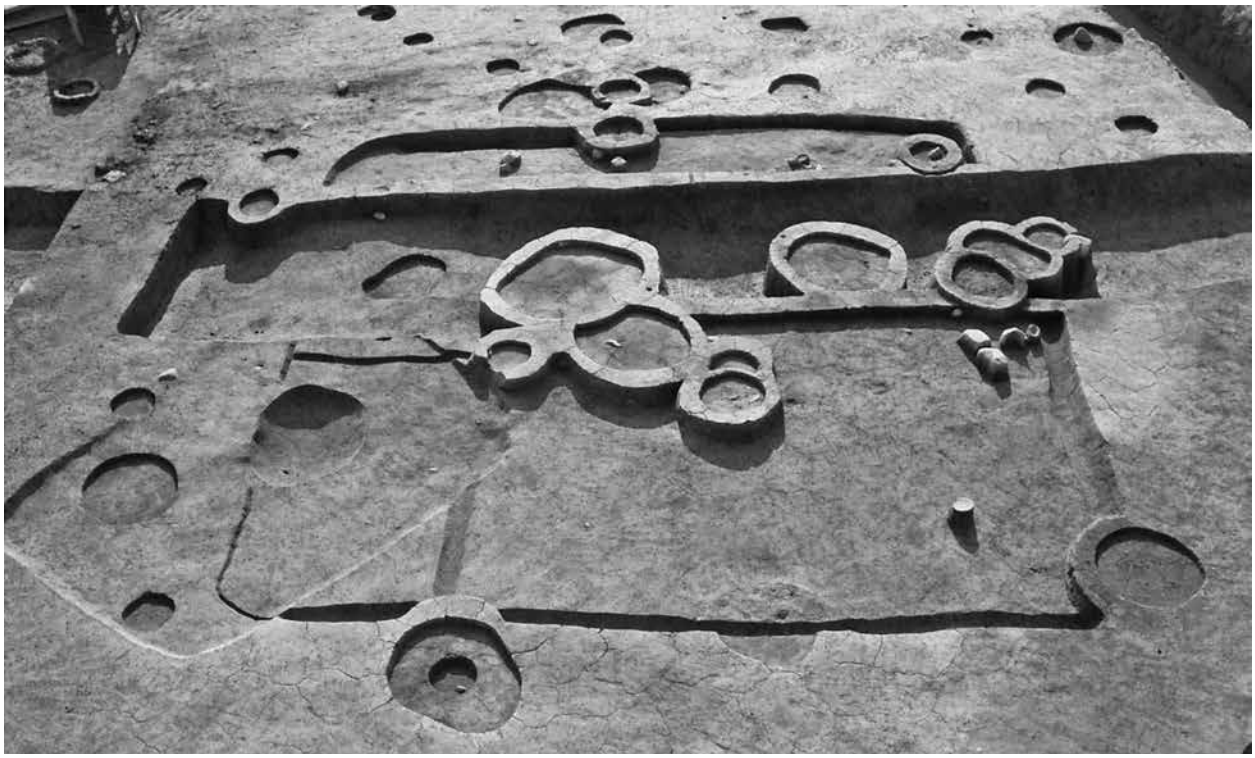
SH0003 西土坑（南西から）



南東土坑（北東から）

北土坑（P671）（南から）

C地区　竪穴住居跡

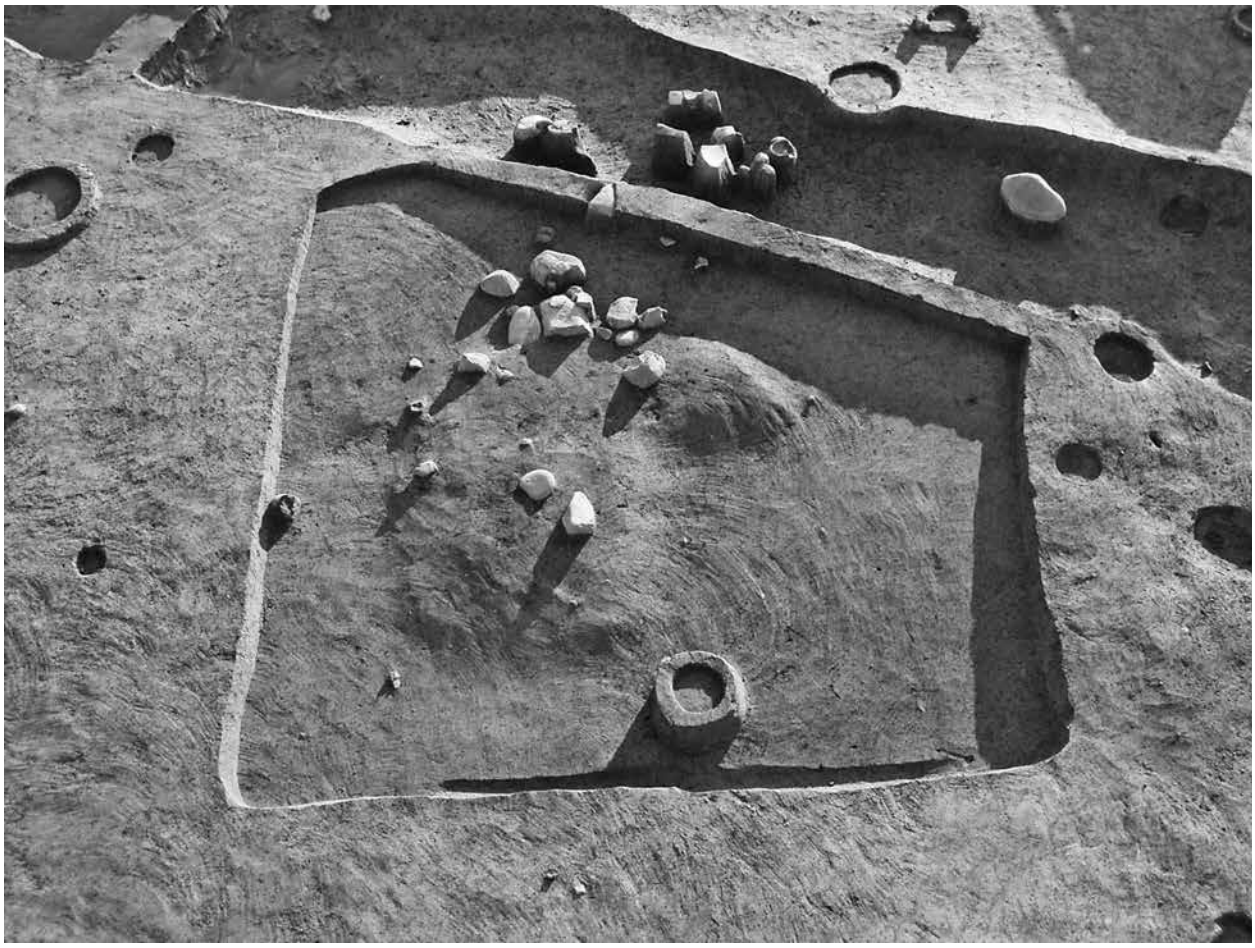


SH0004 全景（北東から）

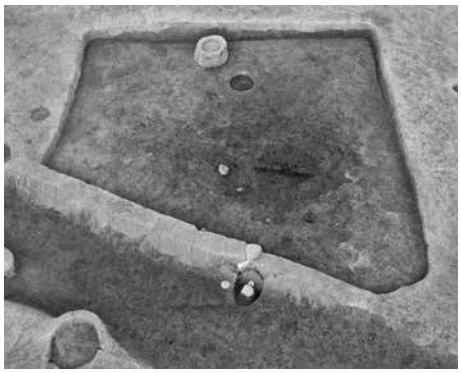
土層断面（北から）

東土坑（南から）

土層断面（北東から）



SH0005 全景（北東から）



焼土（南西から）

土層断面（南西から）

焼土（南西から）

土層断面（北西から）

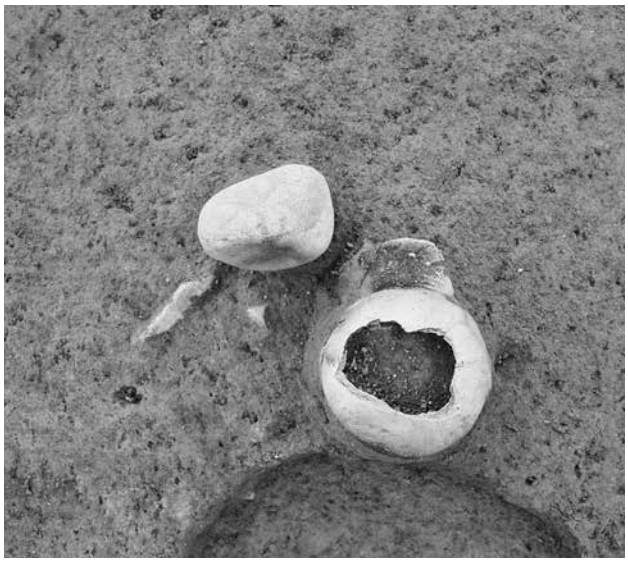
SH0006 全景（北西から）

土層断面（南西から）

土層断面（北西から）

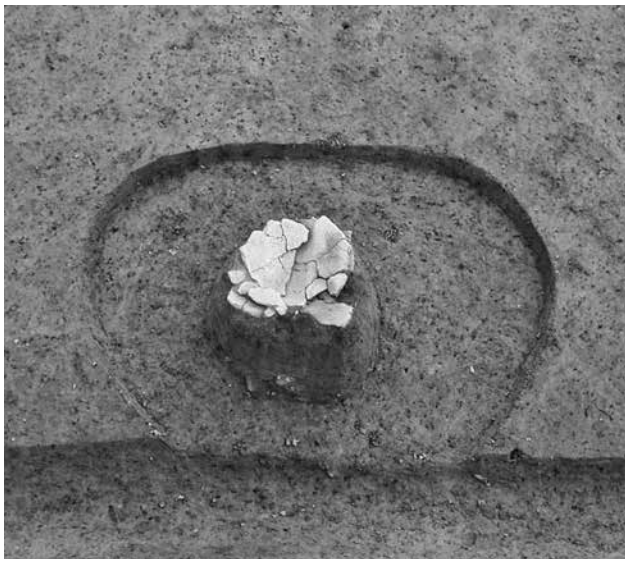
SH0006 土器出土状況（北東から）

土器出土状況（北西から）

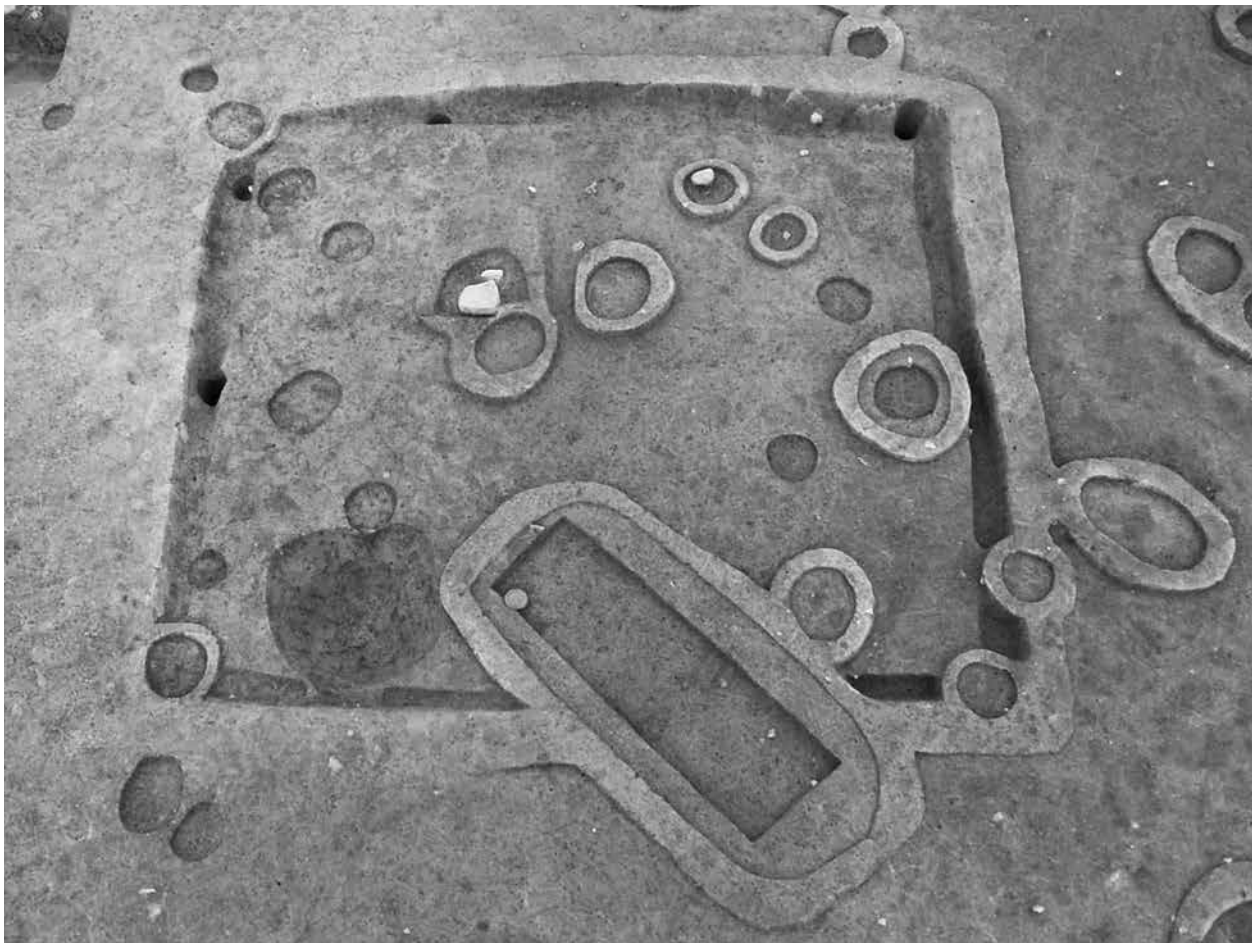


土器出土状況（南東から）

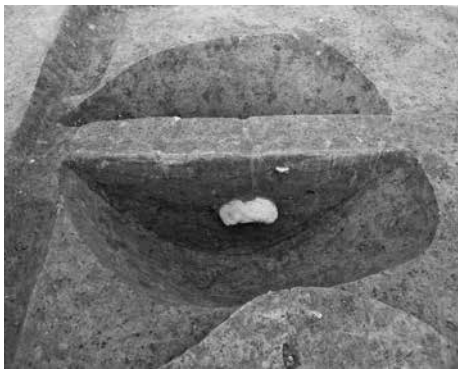
土器出土状況（北東から）



土器出土状況（北東から）



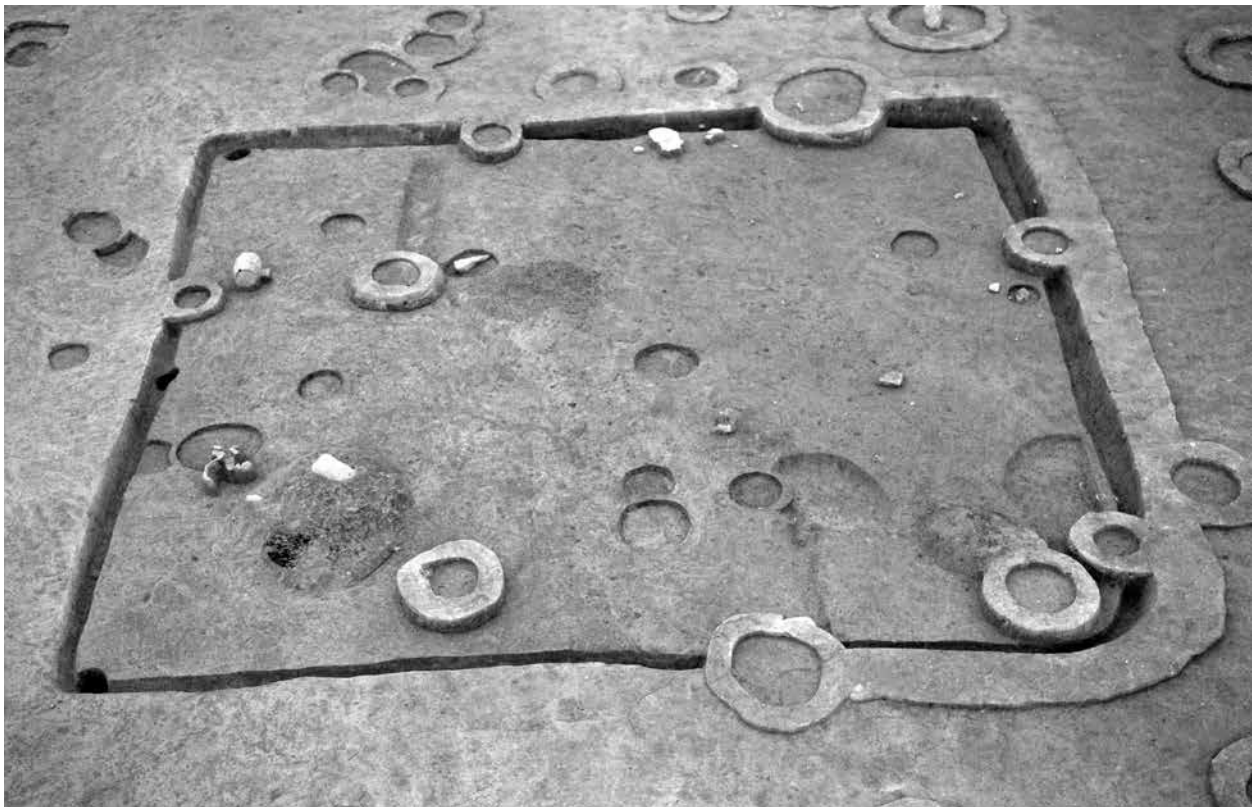
SH0007 全景（南西から）



土坑（南東から）

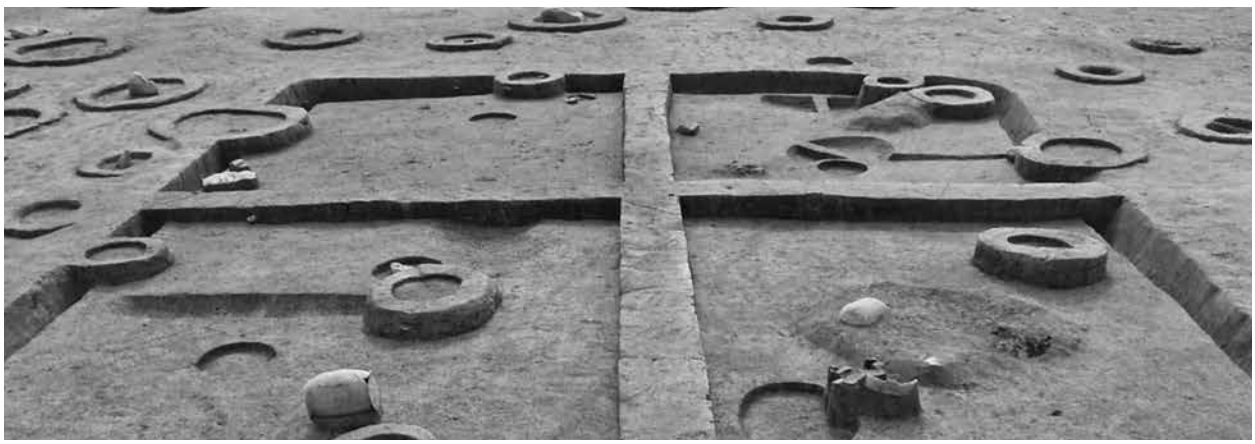
土層断面（南西から）

土層断面（北西から）

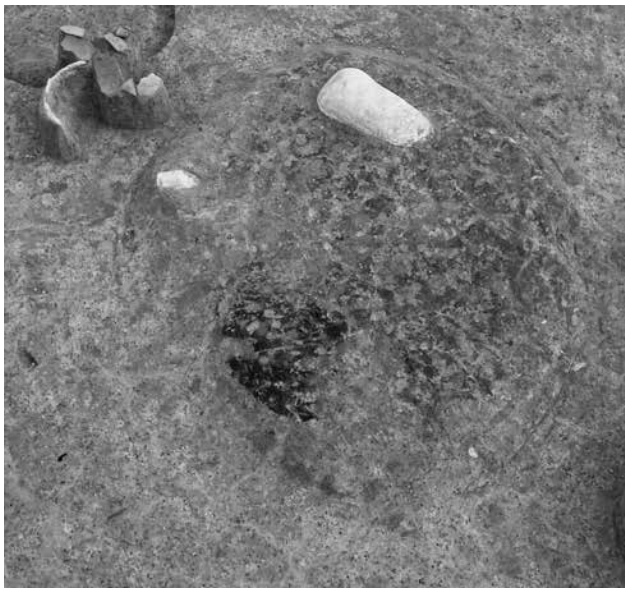


SH0008 全景（南西から）

土層断面（南西から）



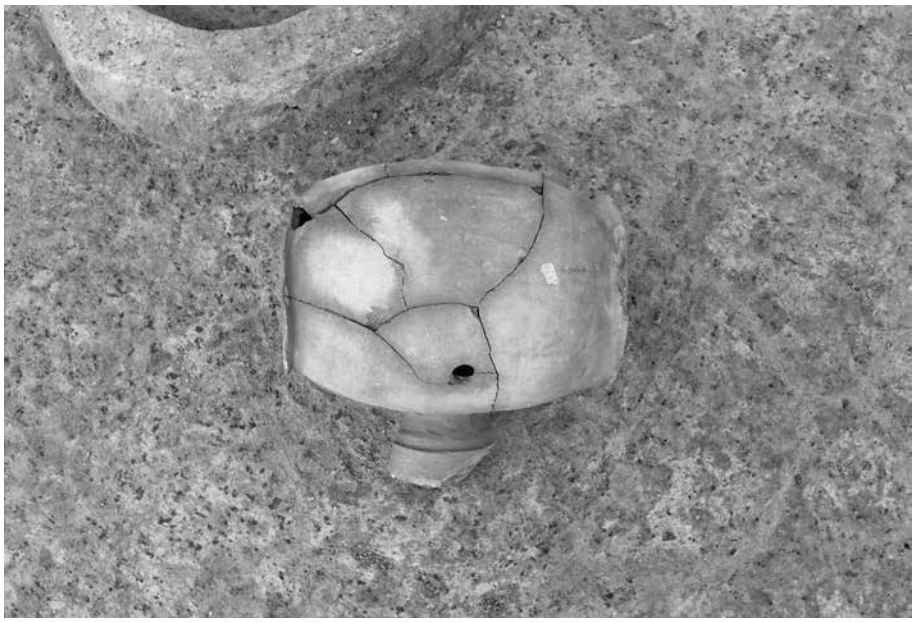
土層断面（北西から）



SH0008 焼土（南西から）

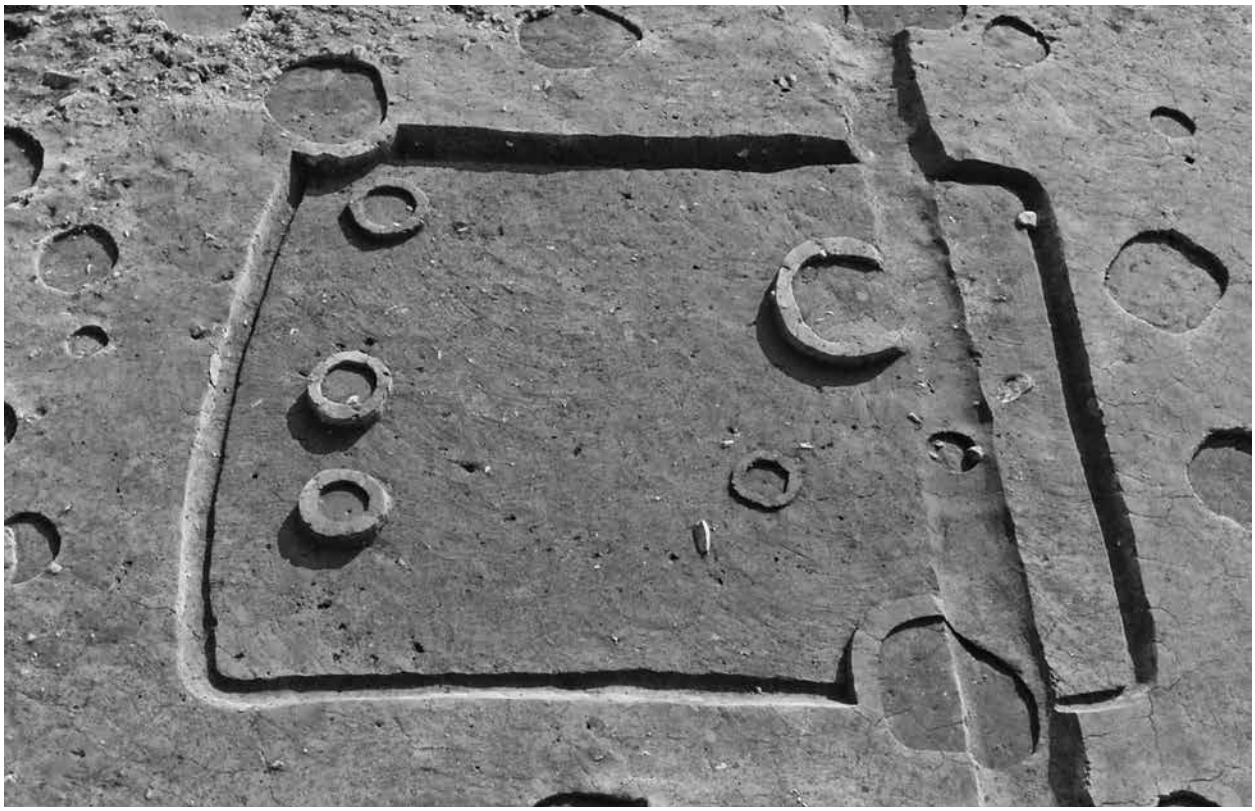
焼土（南西から）

焼土（南西から）

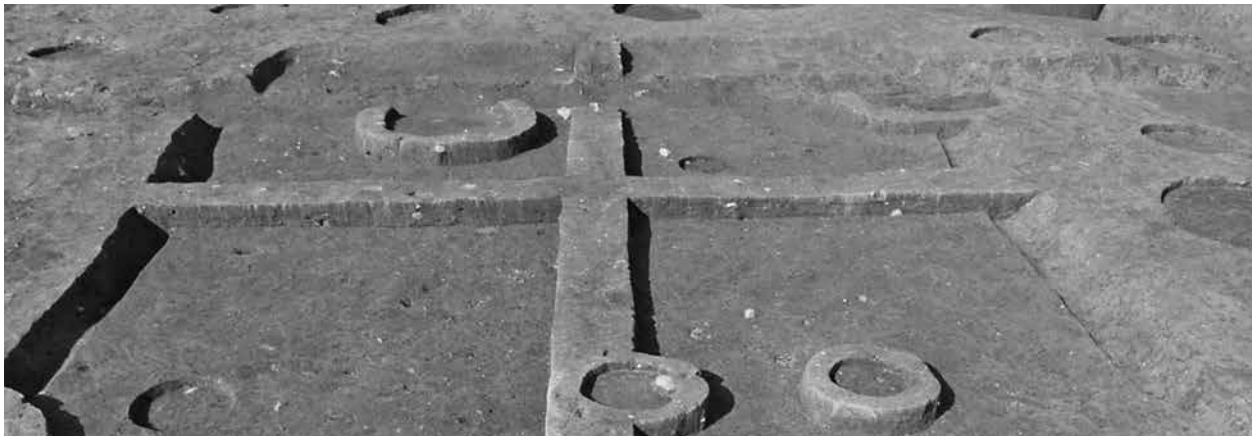


樽形ハソウ（南東から）

C地区　竪穴住居跡

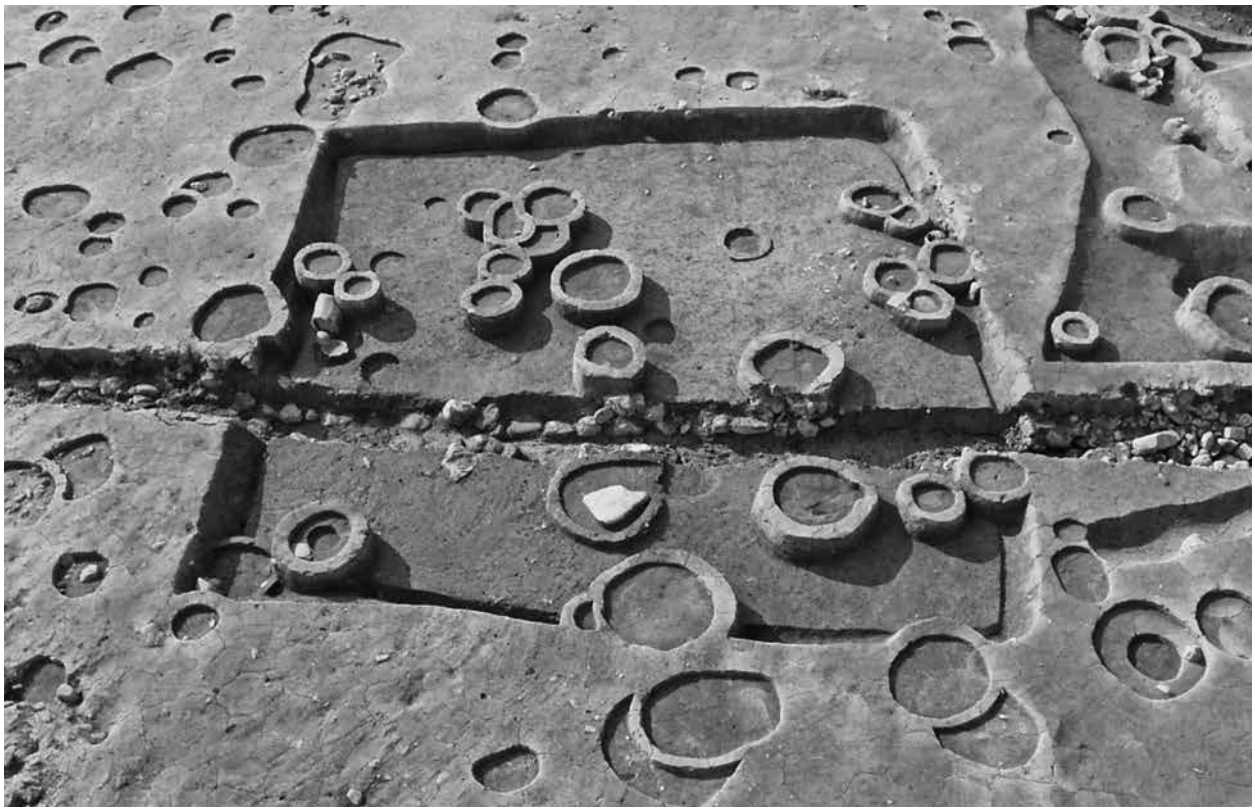


SH0009 全景（北から）



土層断面（東から）

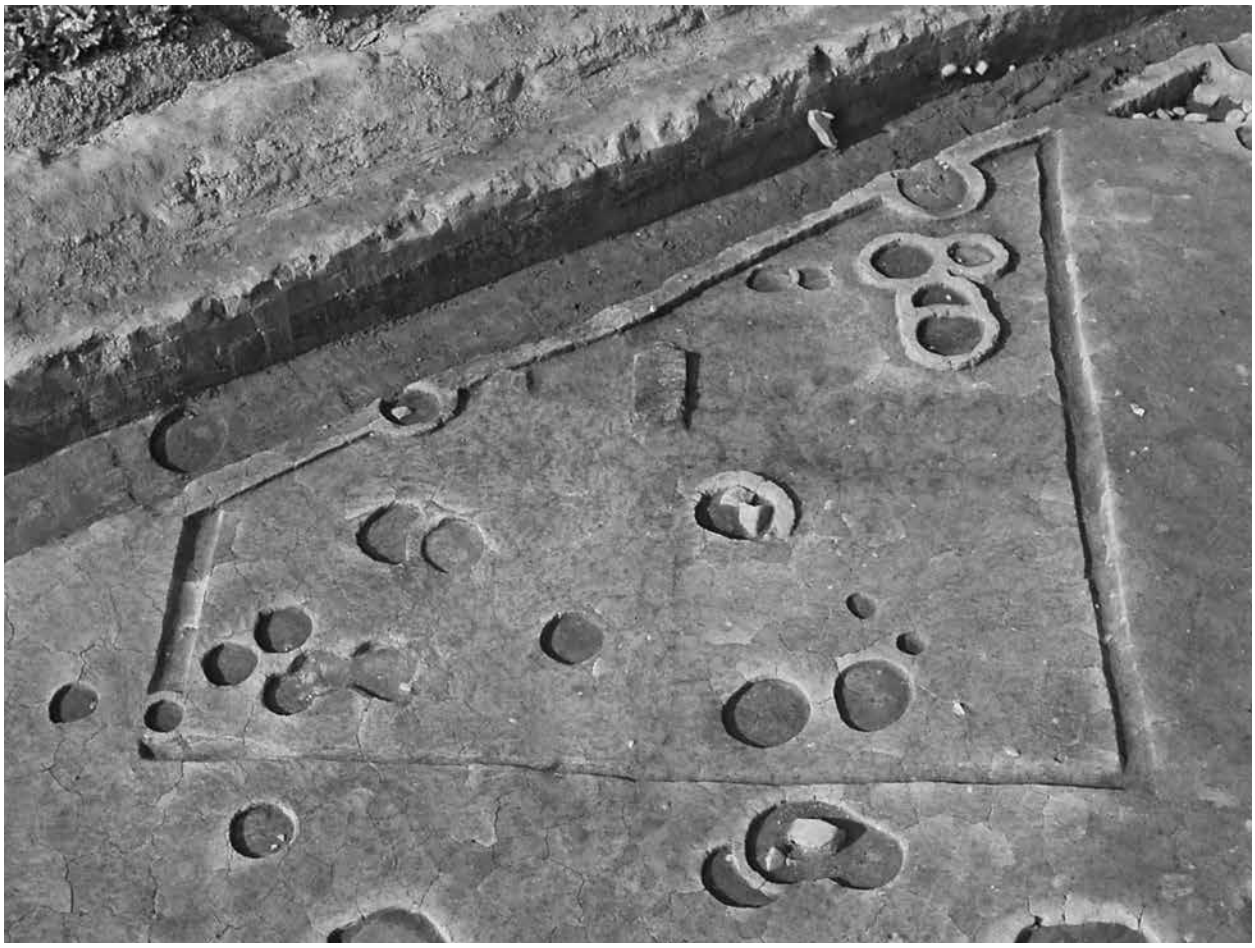
土層断面（南から）



SH0010 全景（東から）

土層断面（東から）

土層断面（南から）



SH0011 全景（南から）

土層断面（東から）

P376（北東から）

土層断面（南から）

SH0012 上層全景（北東から）

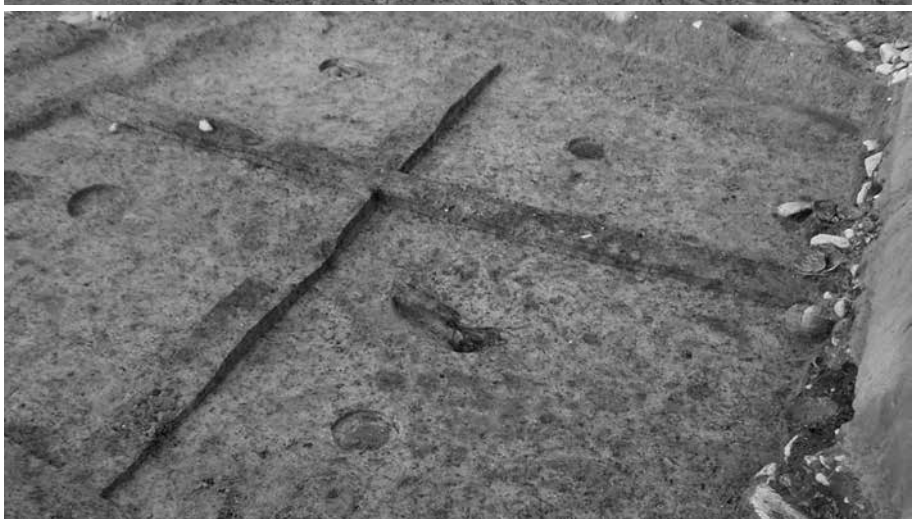
土層断面（南西から）

土層断面（南東から）

C地区　竪穴住居跡

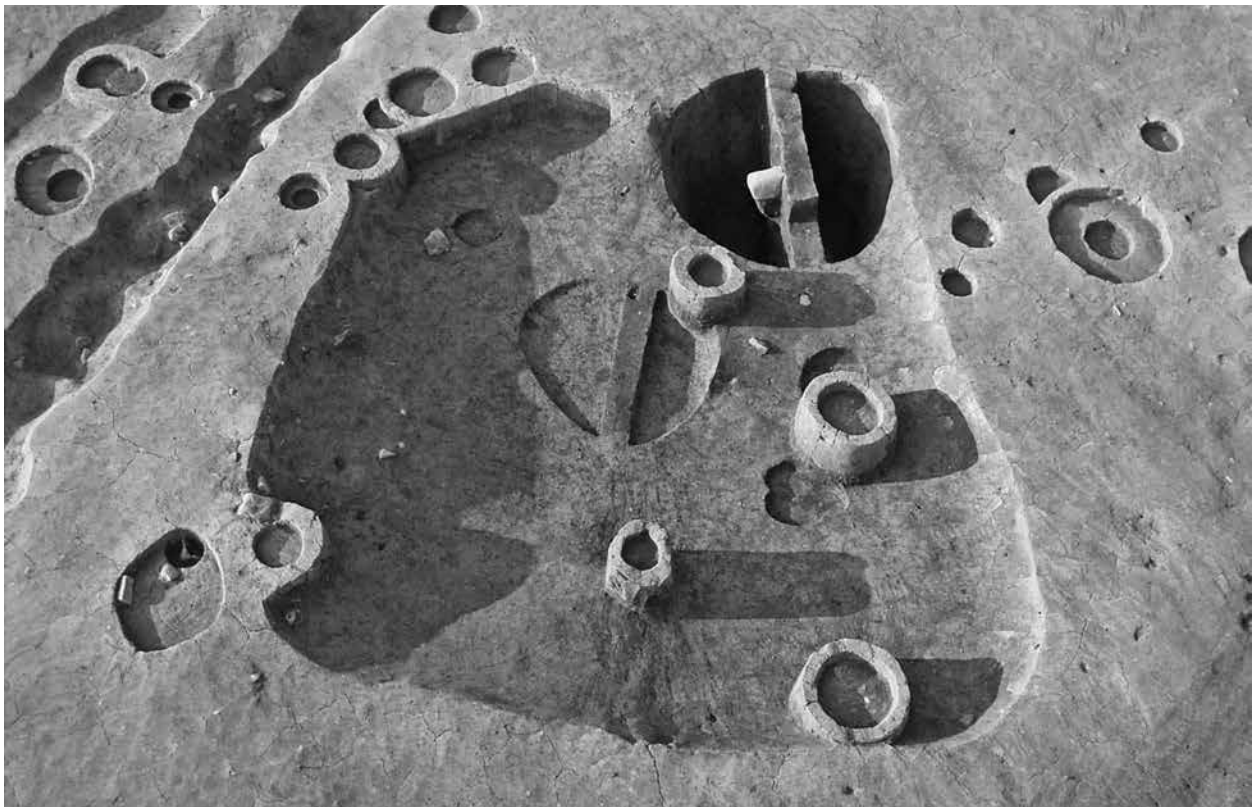
SH0012 下層全景（北東から）

下層床面（西から）



下層床面（南から）

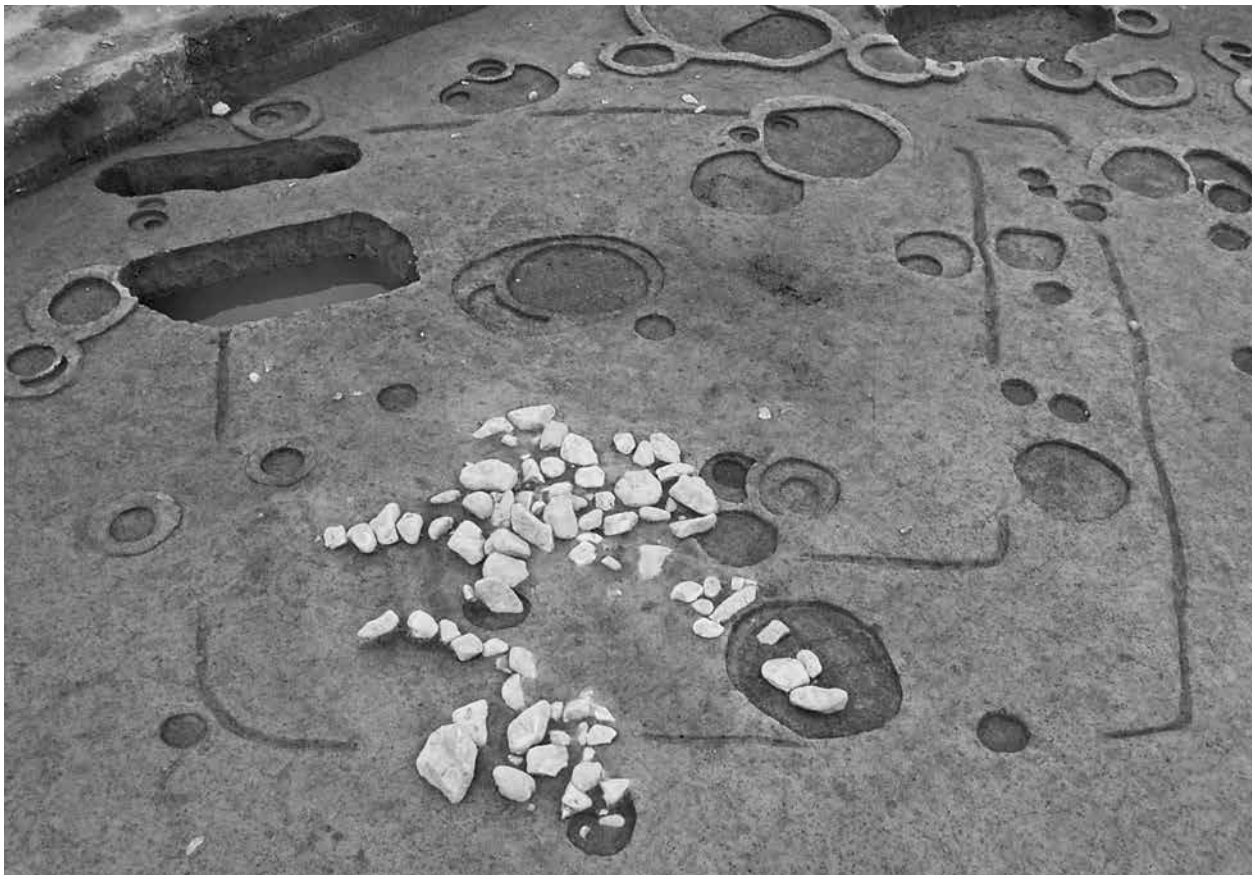
C地区　竪穴住居跡



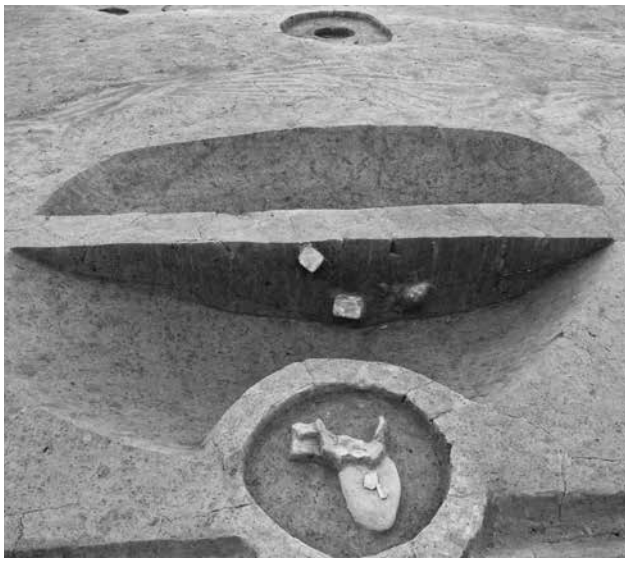
SH0013 全景（南東から）

土層断面（西から）

土層断面（南から）



SH0015 全景（北から）



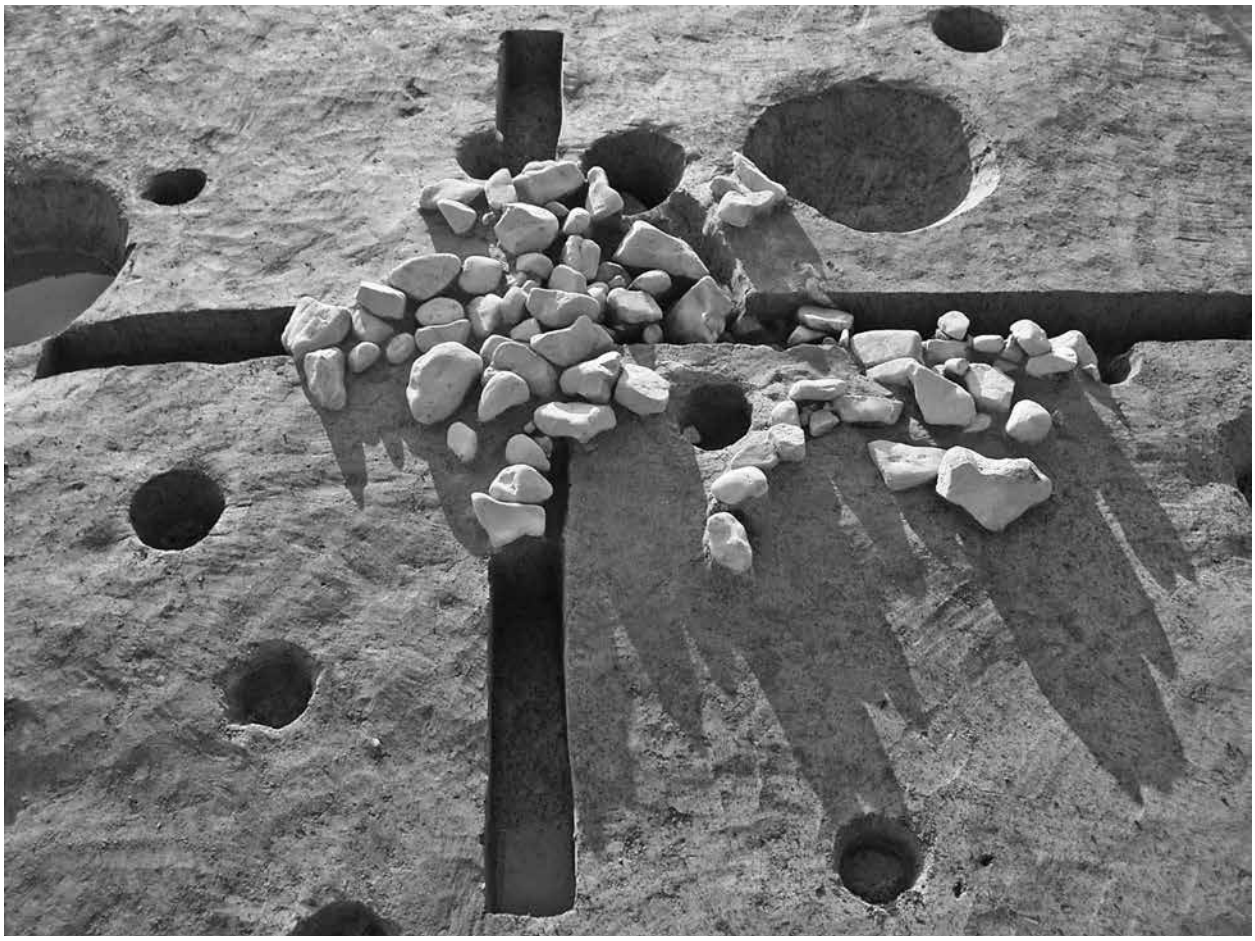
SK0002（北東から）

SK0003（西から）

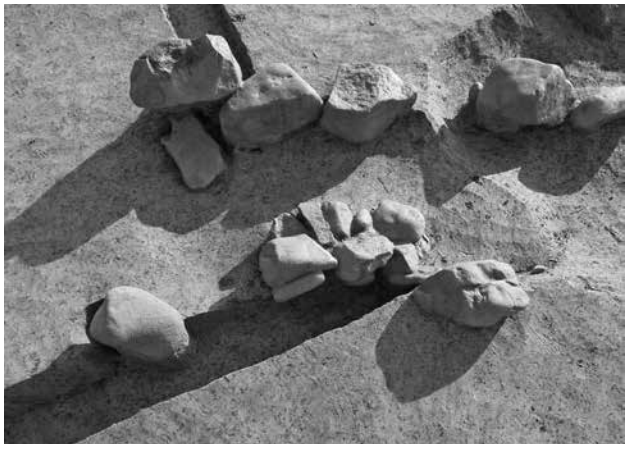
SK0004（西から）

SK0004（南西から）

SK0005（南西から）



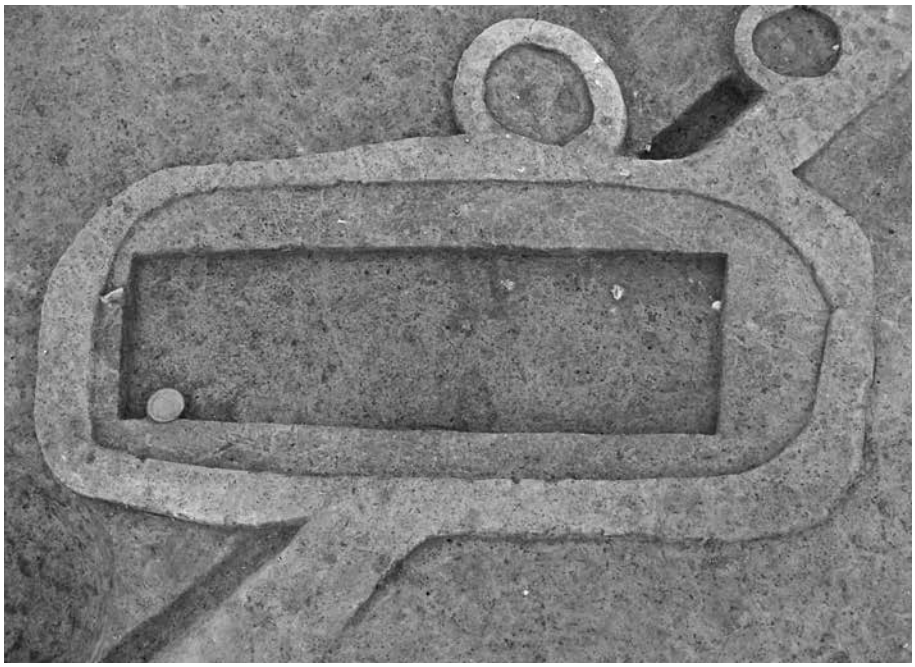
SX0001（東から）



SX0001 部分（西から）

SX0001 部分（南から）

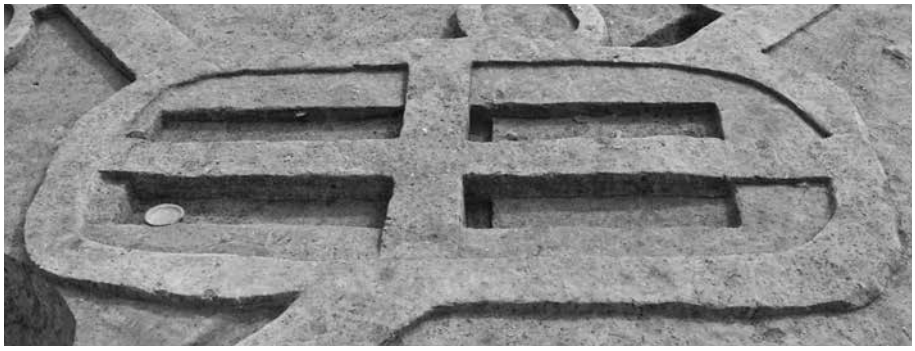
C地区　集石遺構



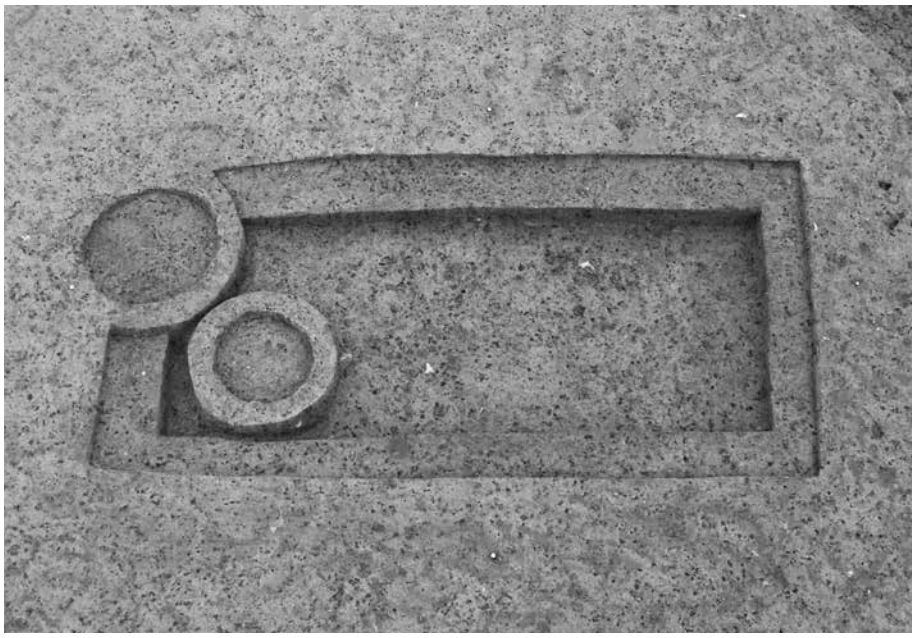
SX0002 完掘状況（西から）

完掘状況（南から）

断面（南から）



断面（西から）



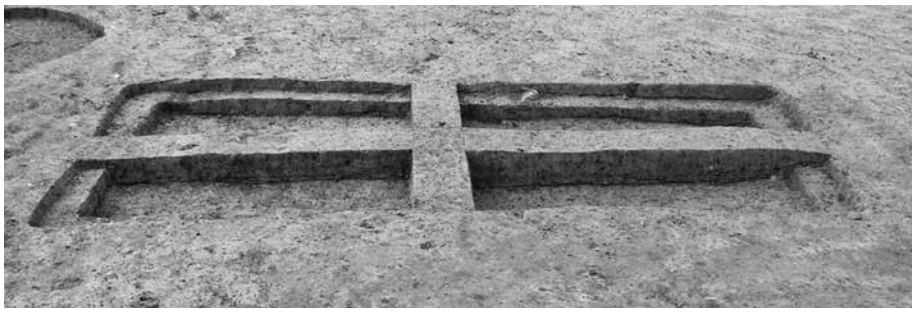
SX0003 完掘状況
（南西から）

断面（南東から）

断面（北東から）

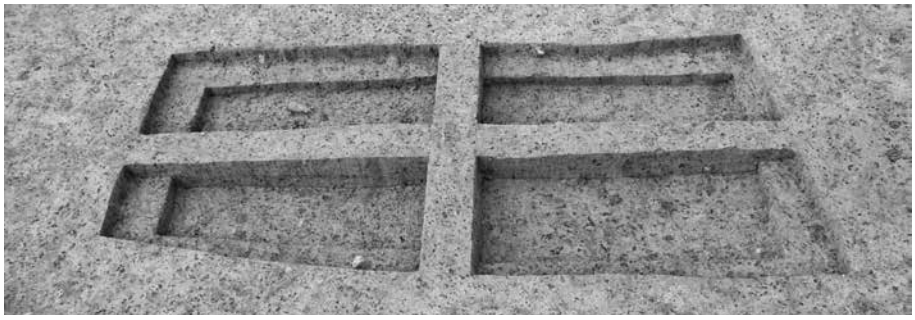
C地区　木棺墓

SX0004（南東から）



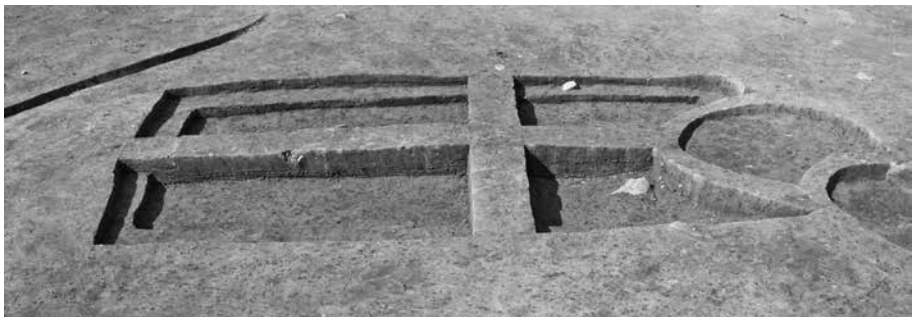
SX0004（北東から）

SX0005（南東から）



SX0005（北東から）

SX0006（東から）



SX0006（南から）

C地区　木棺墓

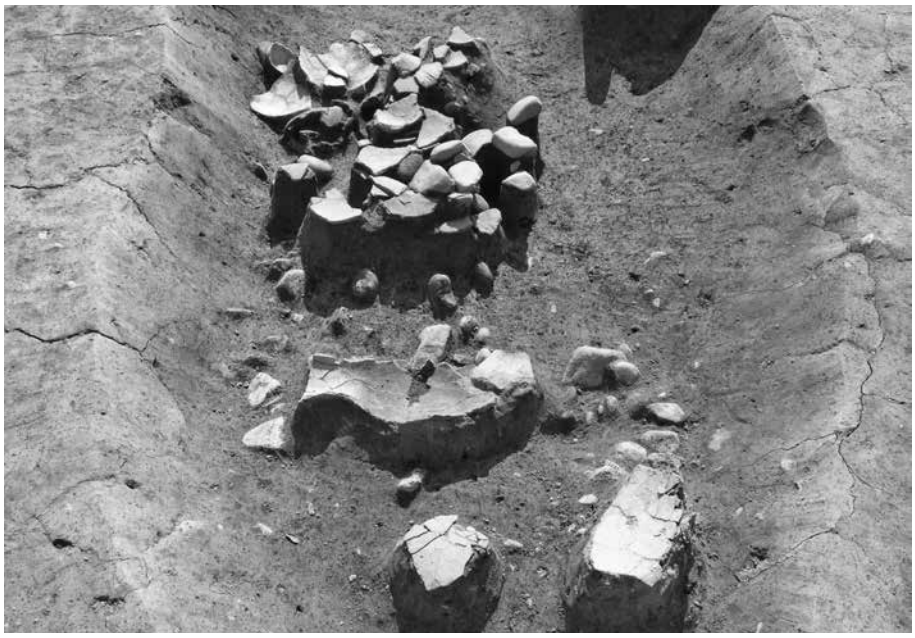
C地区方形周溝墓群
（上が北東）

方形周溝墓１（東から）

方形周溝墓１東溝（SD0005）
土器出土状況（東から）

方形周溝墓１東溝（SD0005）
土器出土状況（南から）

C地区　方形周溝墓１



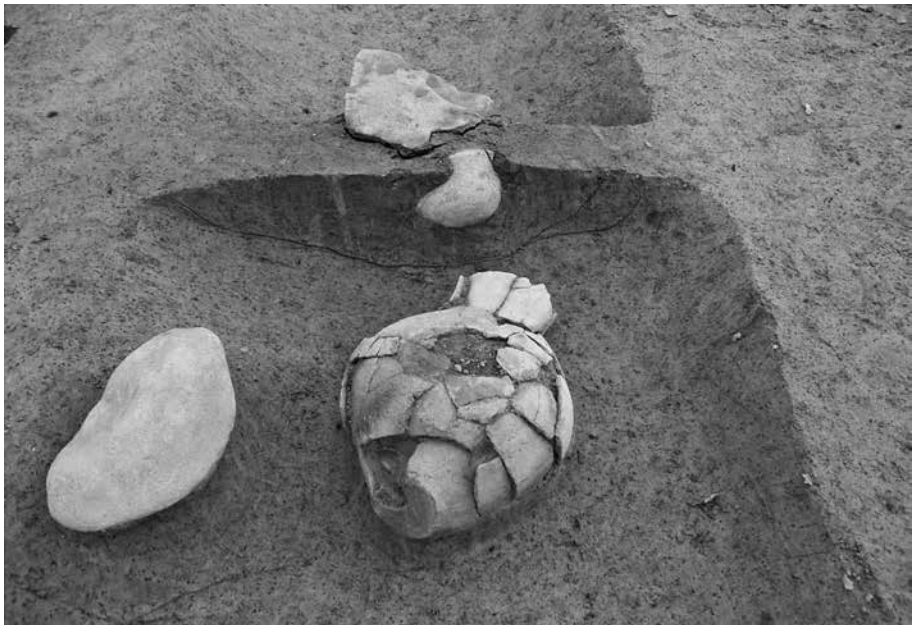
方形周溝墓１東溝（SD0005）
土器出土状況　中央部付近
（北から）

方形周溝墓１東溝（SD0005）
土器出土状況　南西部付近
（西から）

方形周溝墓１東溝（SD0005）
土器出土状況　南西部付近
（南東から）

方形周溝墓２（北東から）

方形周溝墓２南溝（SD0008）
土層断面（北東から）

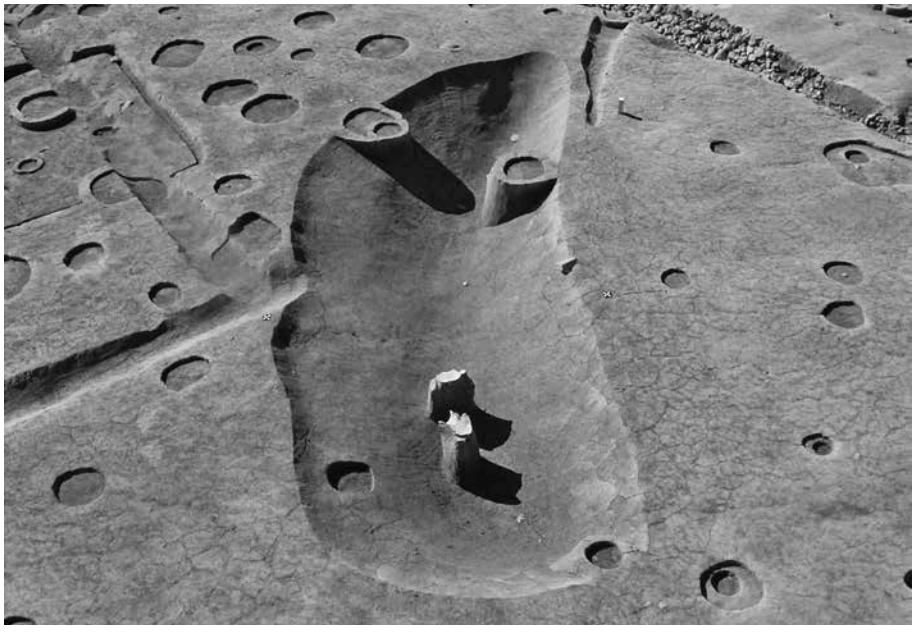


方形周溝墓２東溝（SD0007）
土器出土状況（北から）

C地区　方形周溝墓２

方形周溝墓３（南西から）

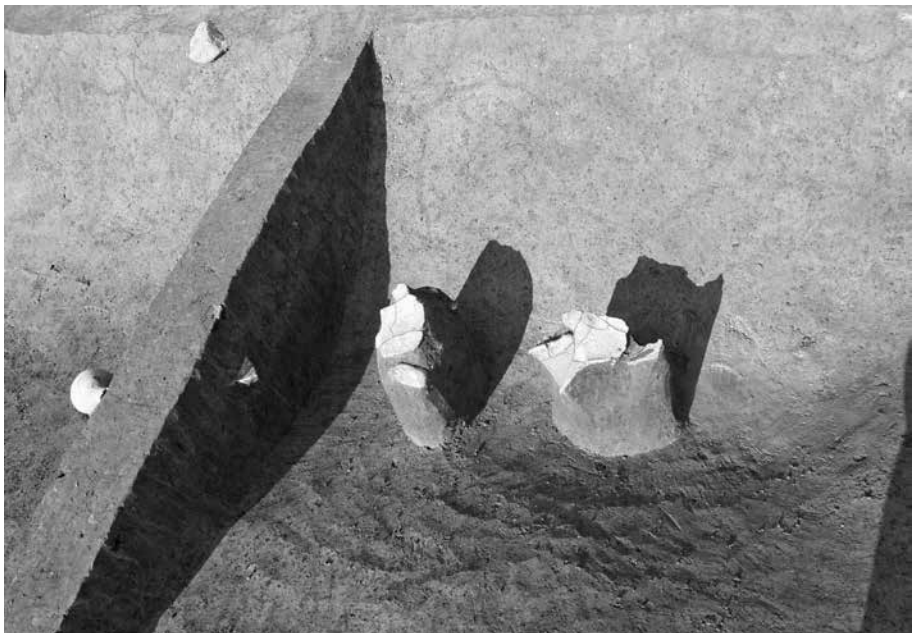
方形周溝墓３掘削作業状況
（北から）



方形周溝墓３東溝（SD0015）
（北東から）

C地区　方形周溝墓３

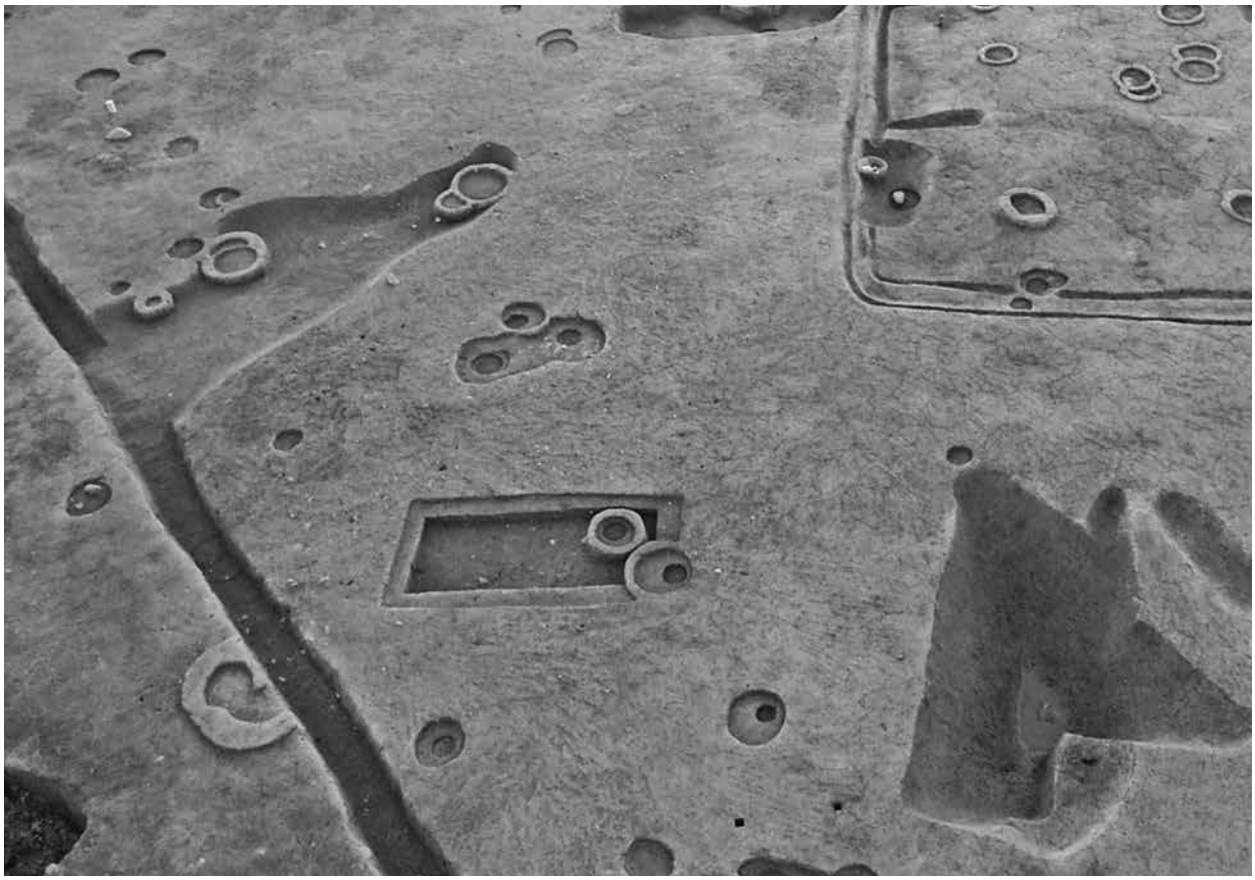
方形周溝墓３東溝（SD0015）
土層断面（南西から）



方形周溝墓３東溝（SD0015）
土器出土状況（南東から）

方形周溝墓３東溝（SD0015）
土器出土状況（南西から）

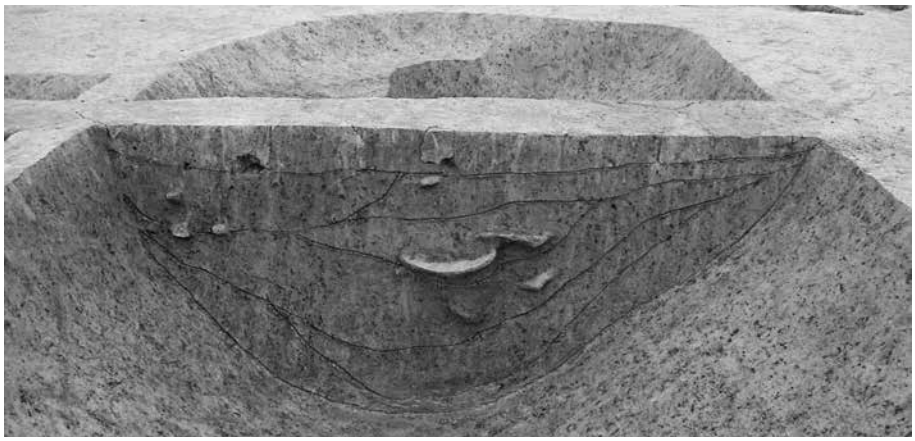
方形周溝墓北半部（方形周溝墓１・２・４・７　北東から）



方形周溝墓７（北東から）

方形周溝墓７（SK0001）
（西から）

方形周溝墓７（SD0012）
完掘状況（南東から）



土層断面（南西から）

土器出土状況（南から）

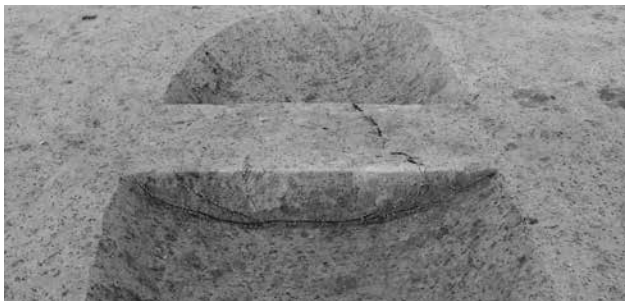
C地区　方形周溝墓７

SD0002 土器出土状況（南東から）

東側土層断面（南東から）

西側土層断面（西から）

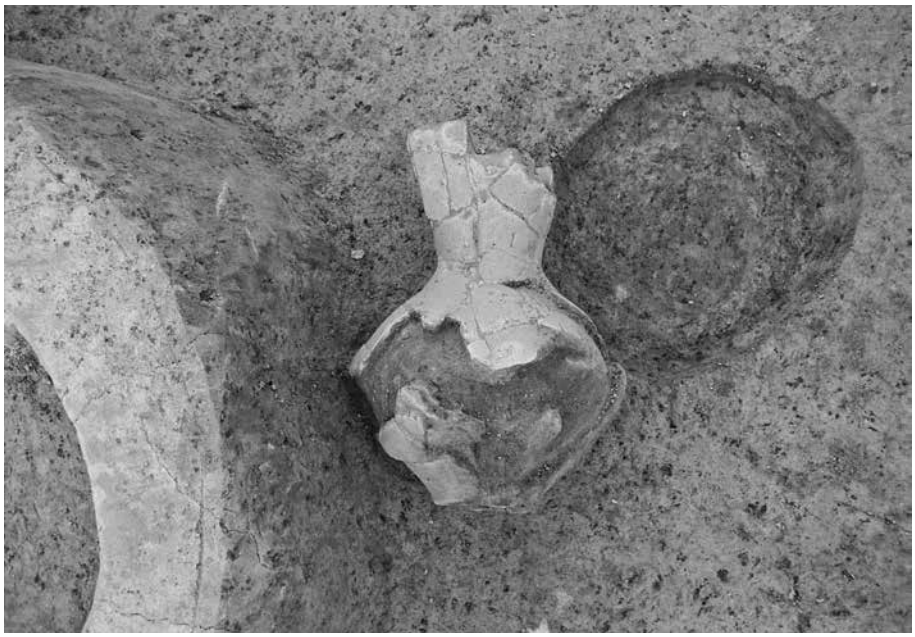
土層断面（北西から）



SD0009 土層断面（南東から）

SD0010 土層断面（北西から）

SD0018 土器出土状況
（南東から）

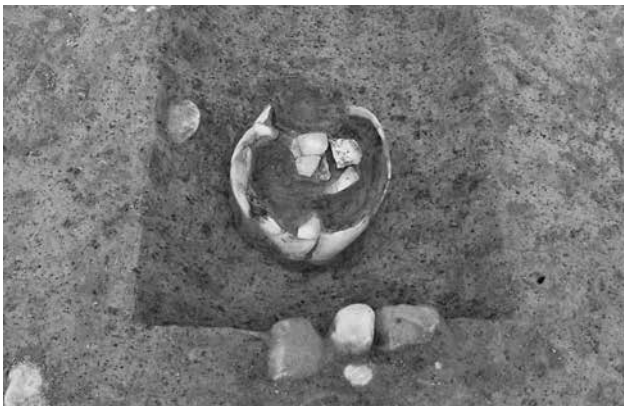


土器出土状況アップ
（南東から）

土層断面（南東から）

C地区　溝

SD0019 土層断面（南西から）

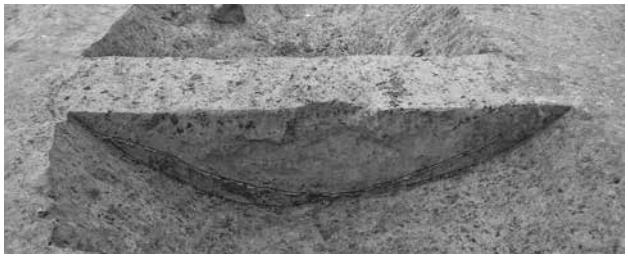


土器出土状況（南西から）

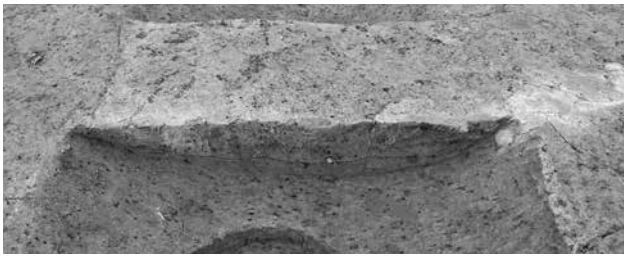
SD0020 西土層断面
（南東から）

東土層断面（北西から）

SD0020 南・SD0021 土層断面（東から）



SD0022 土層断面（南から）



SD0024 土層断面（南から）

SD0025・SD0026 土層断面（西から）

C地区　溝

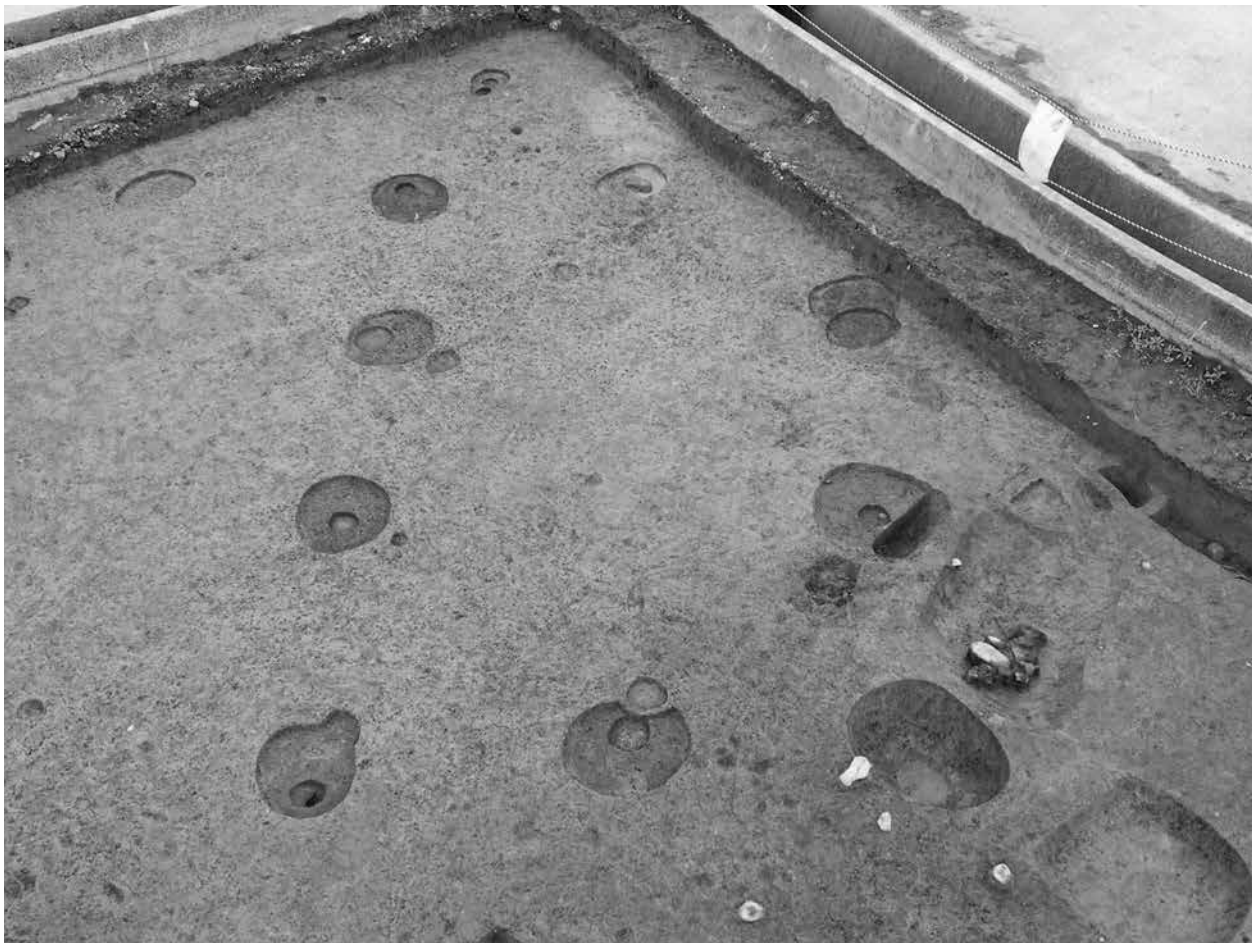
D地区全景（上が北東）

東壁土層断面（南西から）

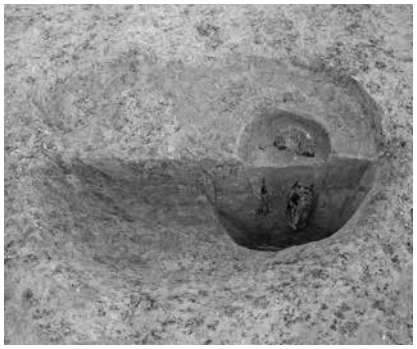
東壁土層断面（南西から）

東壁土層断面（南西から）

東壁土層断面（南西から）



SB1004（南から）



P1040（西から）

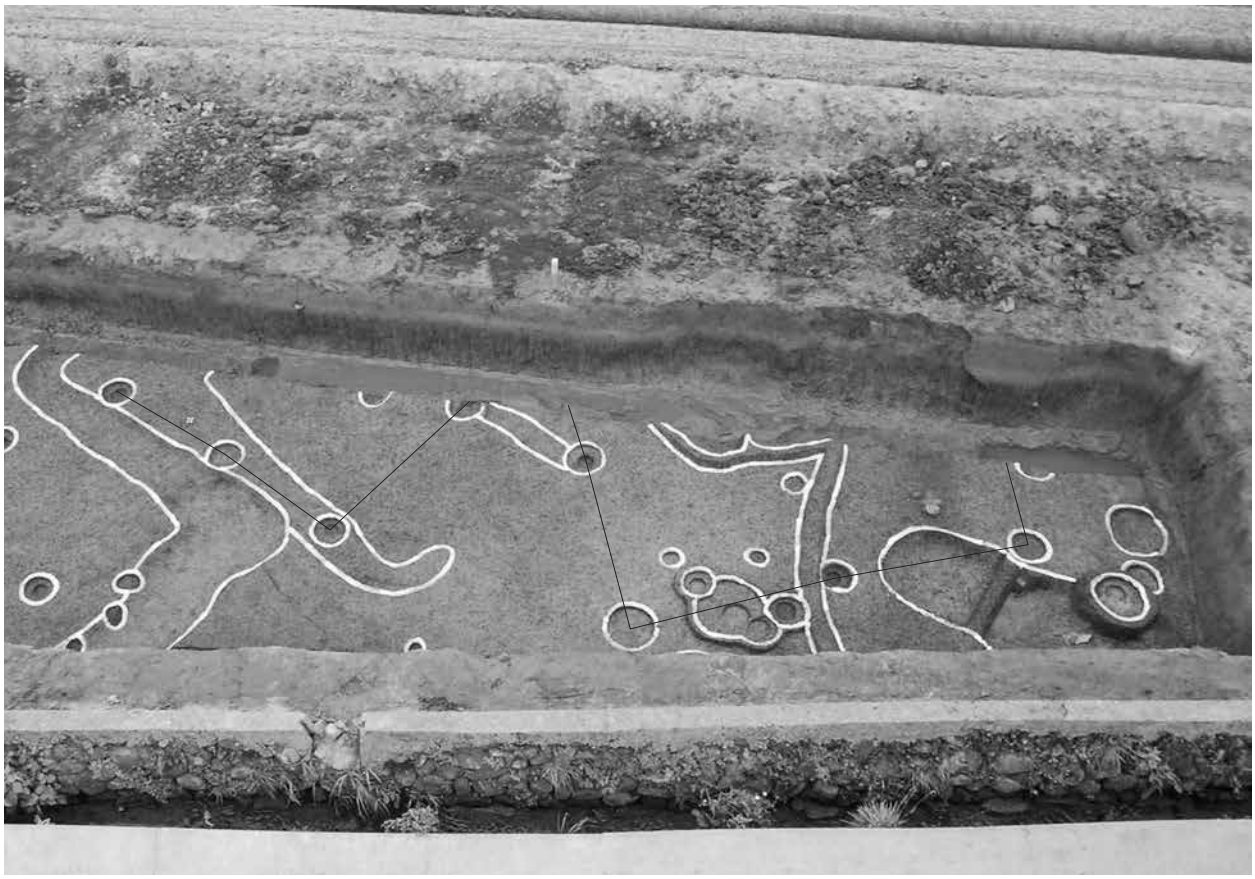
P1041（南から）

P1043（西から）

P1044（西から）

P1045（西から）

SK1004（南から）

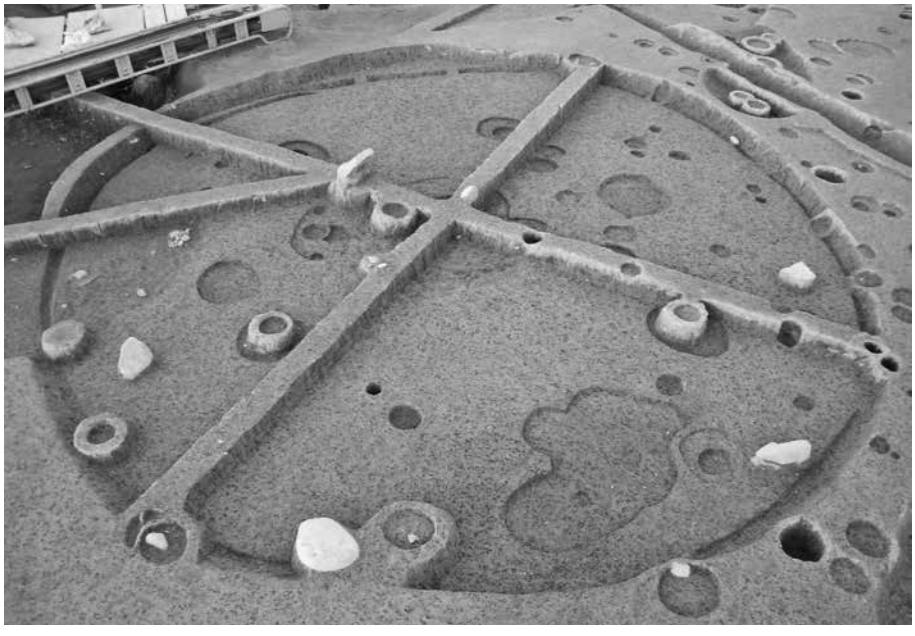


SB1001・SB1002（北西から）

SB1005（南から）

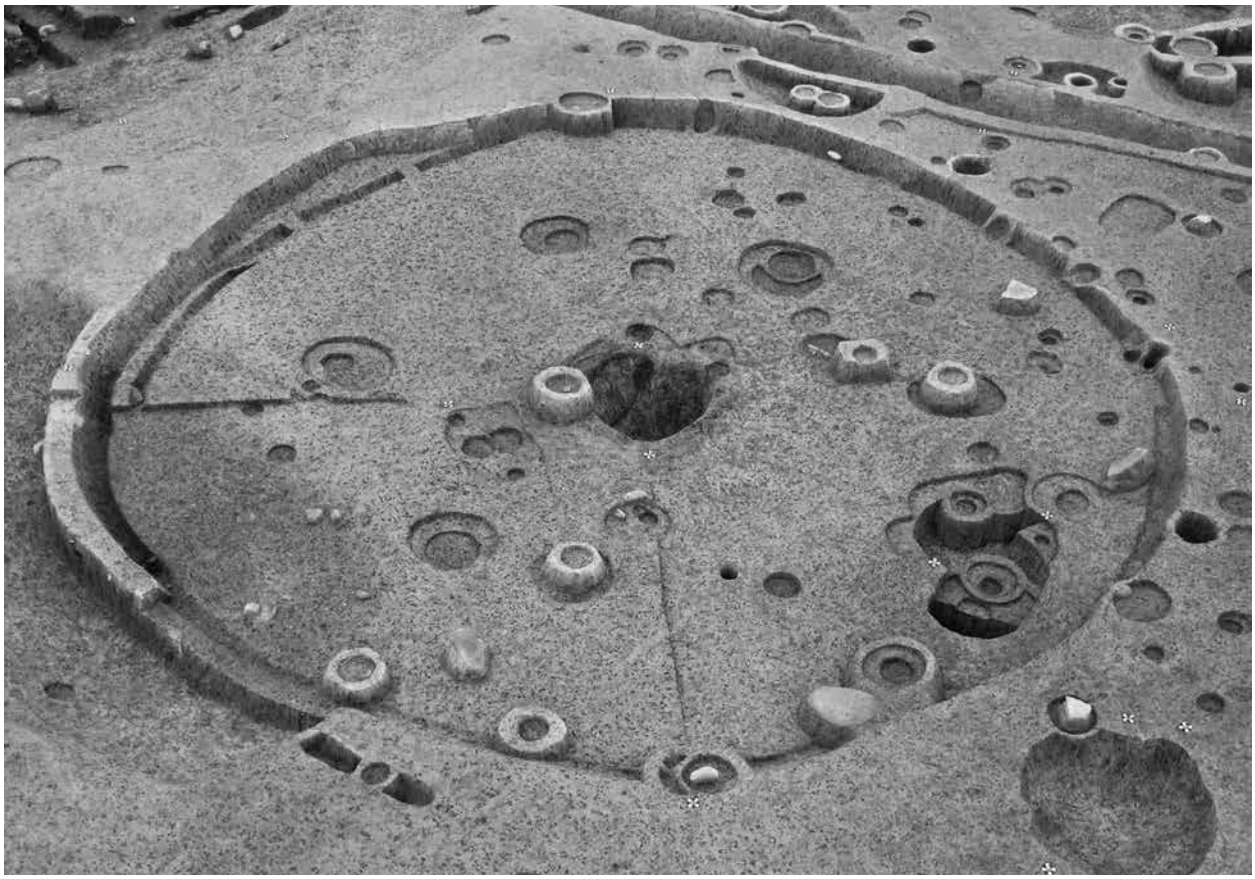
SH1001 ～ SH1004 検出状況
（南から）

SH1001 検出状況（南から）

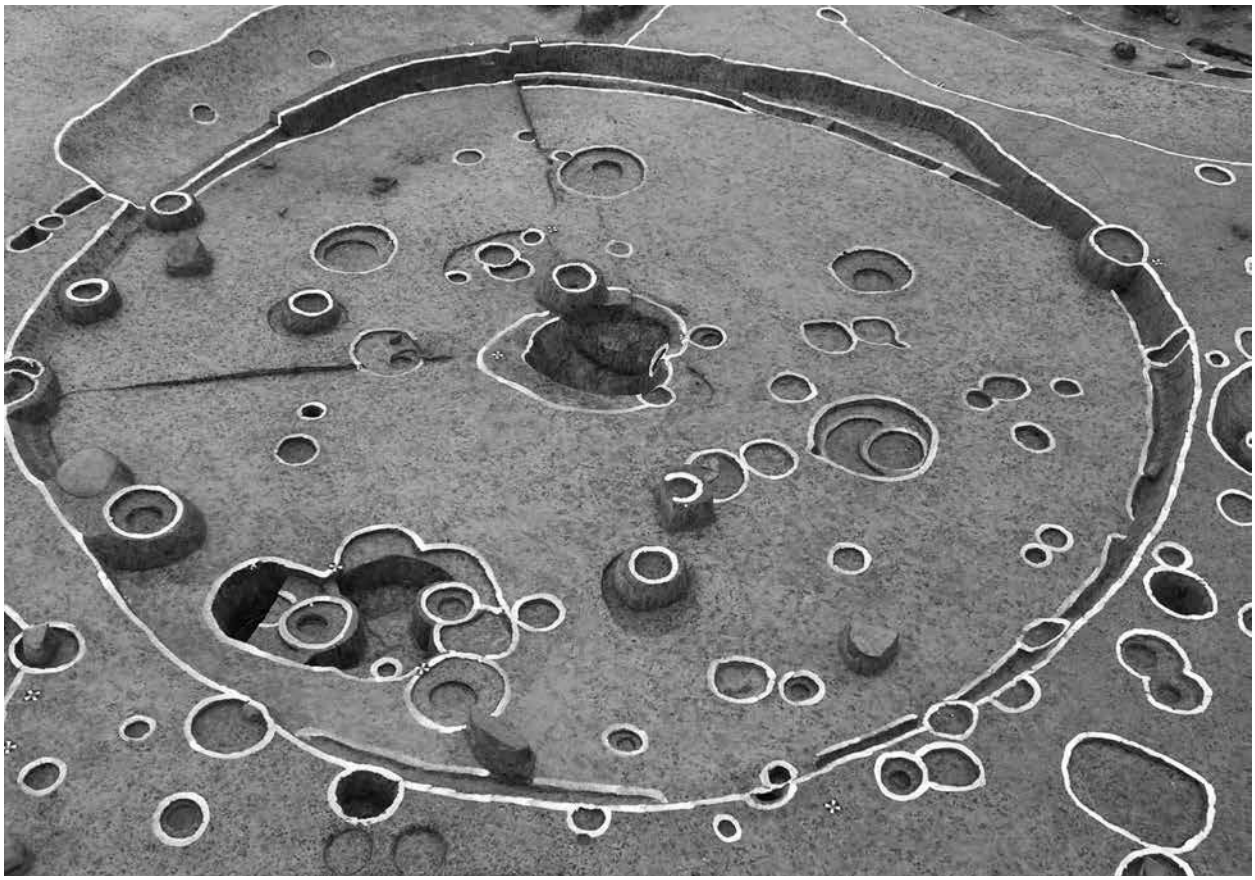


SH1001 屋内施設検出状況
（南から）

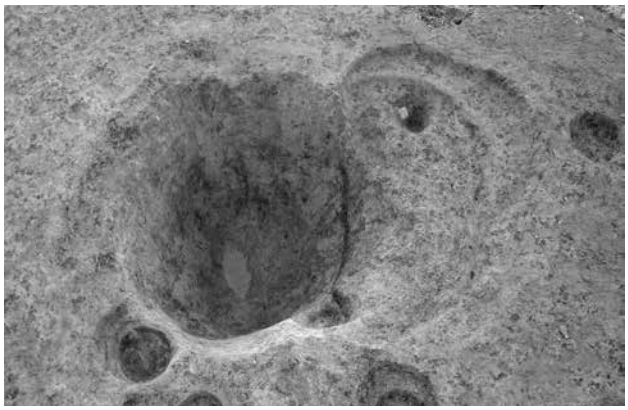
D地区　竪穴住居跡



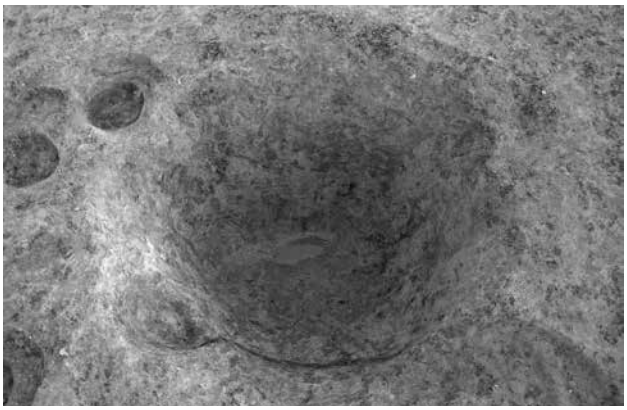
SH1001（南西から）



SH1001（南東から）



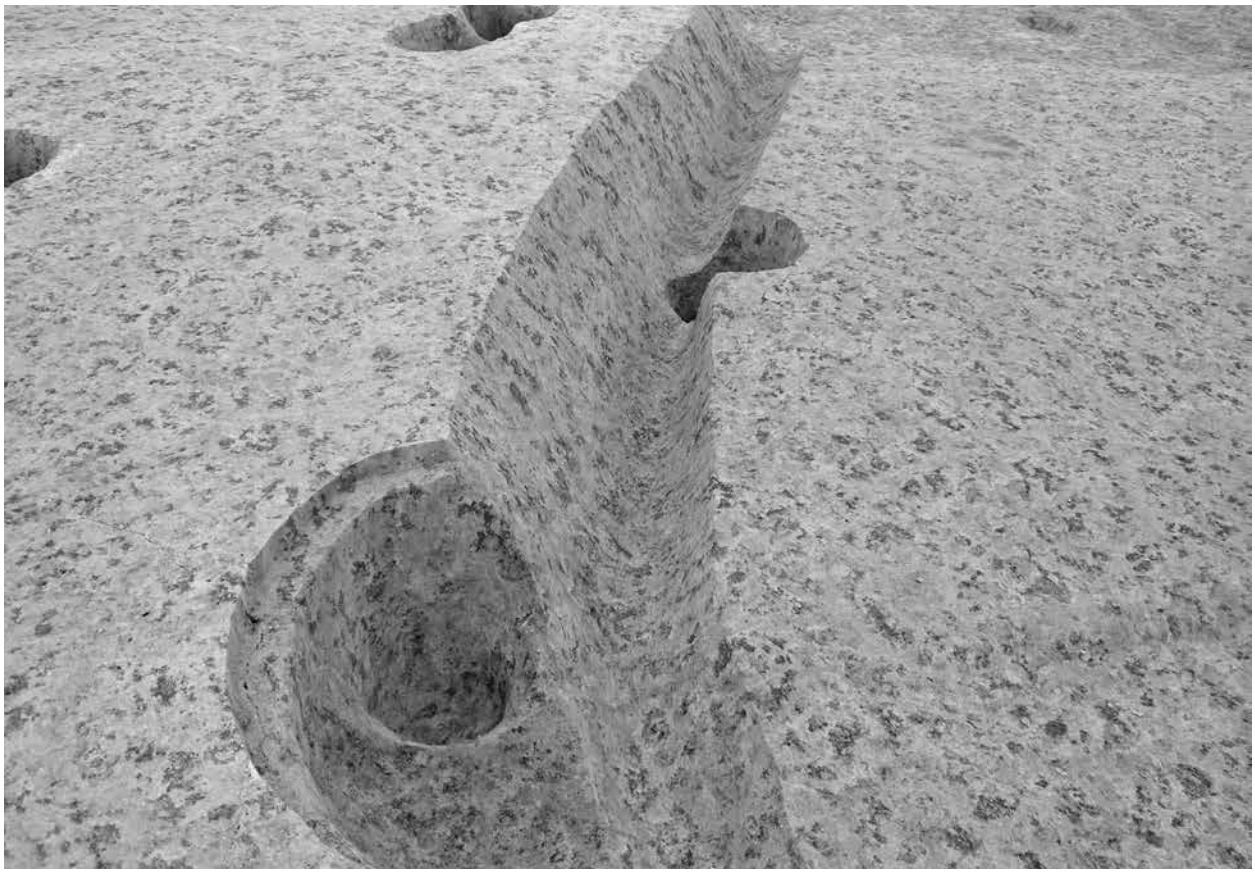
中央土坑（新）・中央土坑（旧）検出状況（北東から）



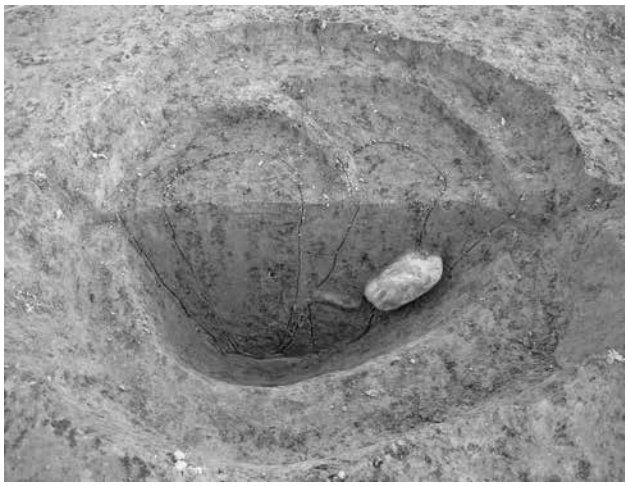
中央土坑（新）（西から）

中央土坑（旧）土層断面（南東から）

中央土坑（新）土層断面（南東から）



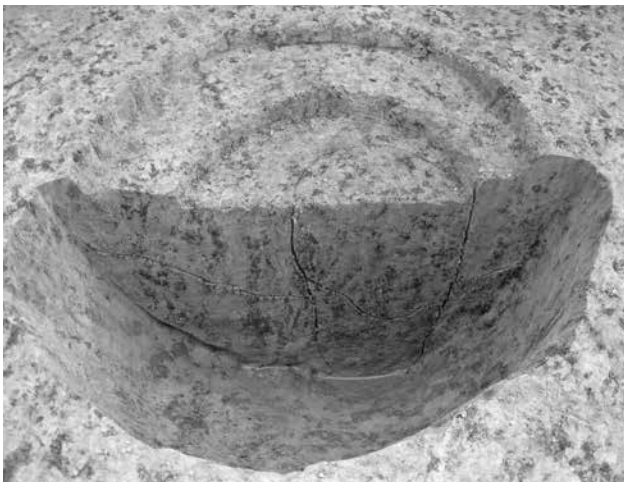
SH1001 周壁溝南西部（南東から）



主柱穴１土層断面（西から）

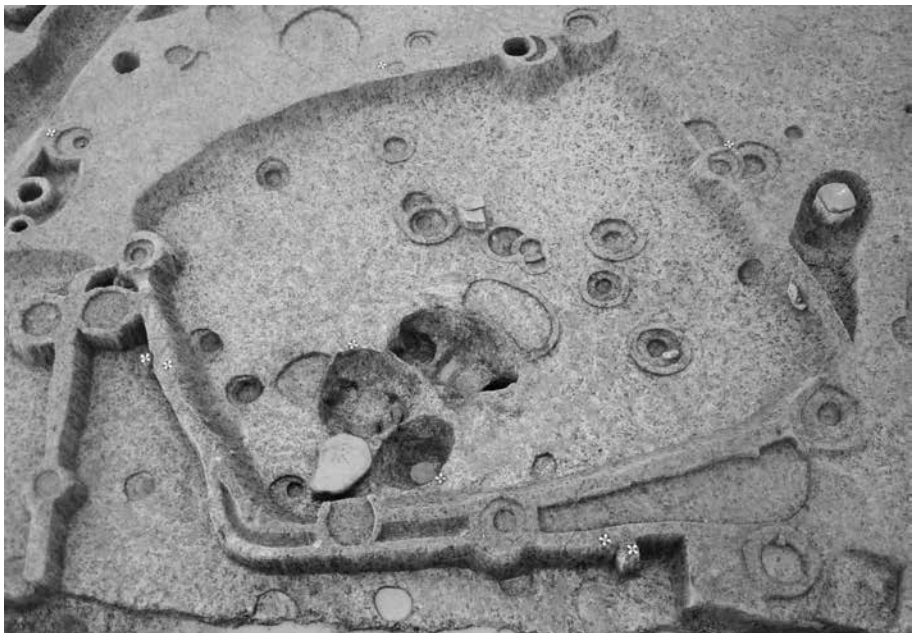
主柱穴２土層断面（西から）

主柱穴３土層断面（南から）

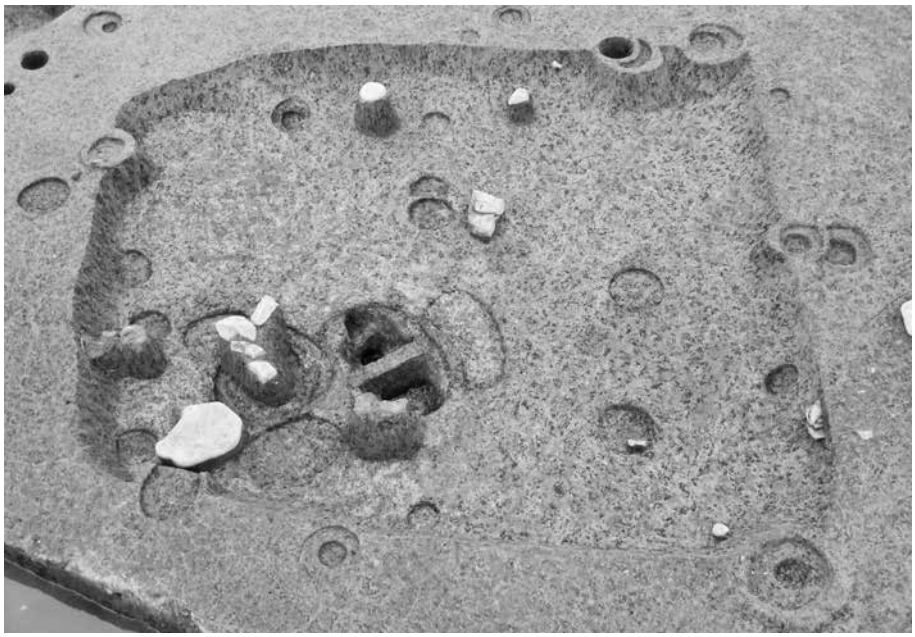


主柱穴４土層断面（西から）

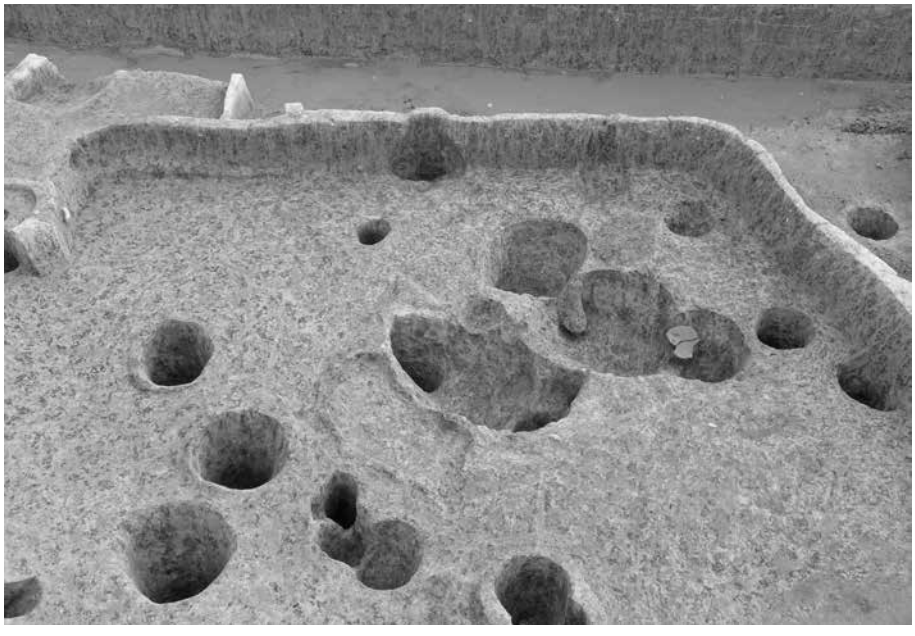
主柱穴６土層断面（北から）



SH1002 ～ SH1004
（南東から）

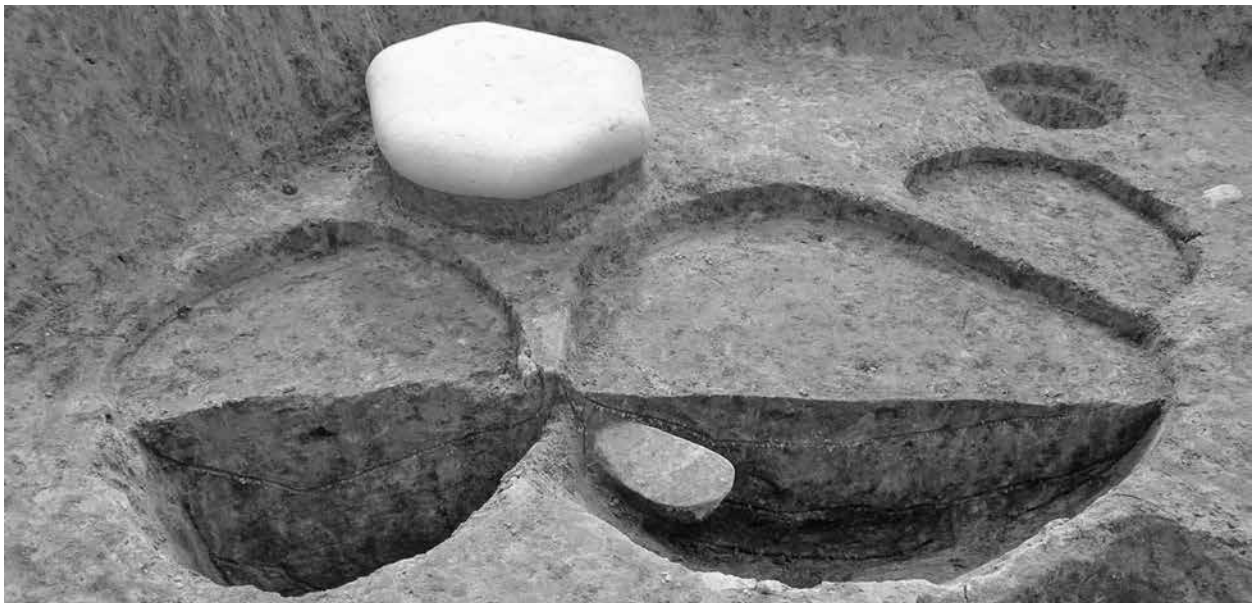


SH1004（東から）

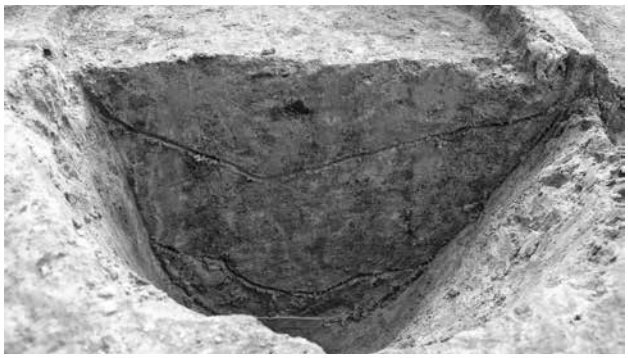


SH1003・SH1004（西から）

D地区　竪穴住居跡

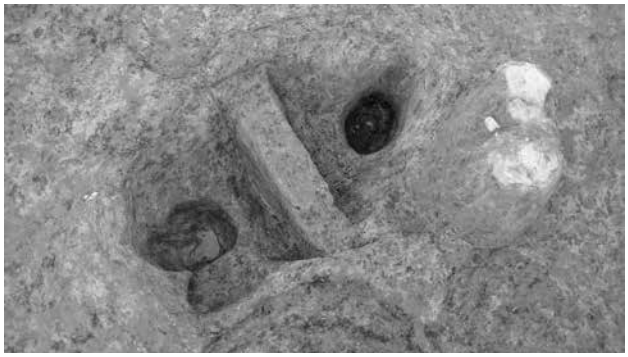


SH1002・SH1003 土坑Ａ・Ｂ（北から）



SH1002・SH1003 土坑Ａ（北から）

SH1002・SH1003 土坑Ｂ（北から）



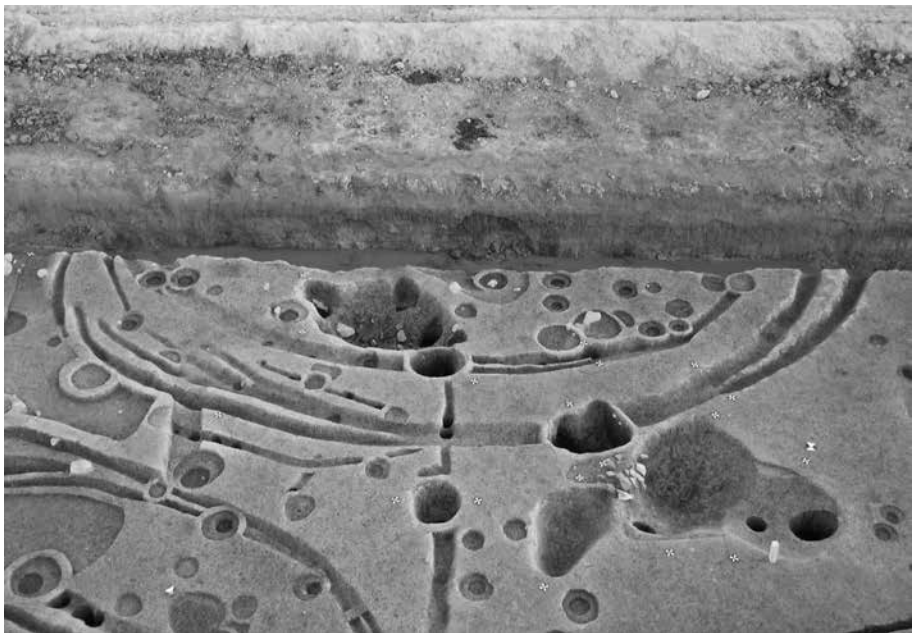
SH1004 屋内土坑（南から）

SH1004 屋内土坑土層断面（南西から）

SH1004 土層断面（西から）

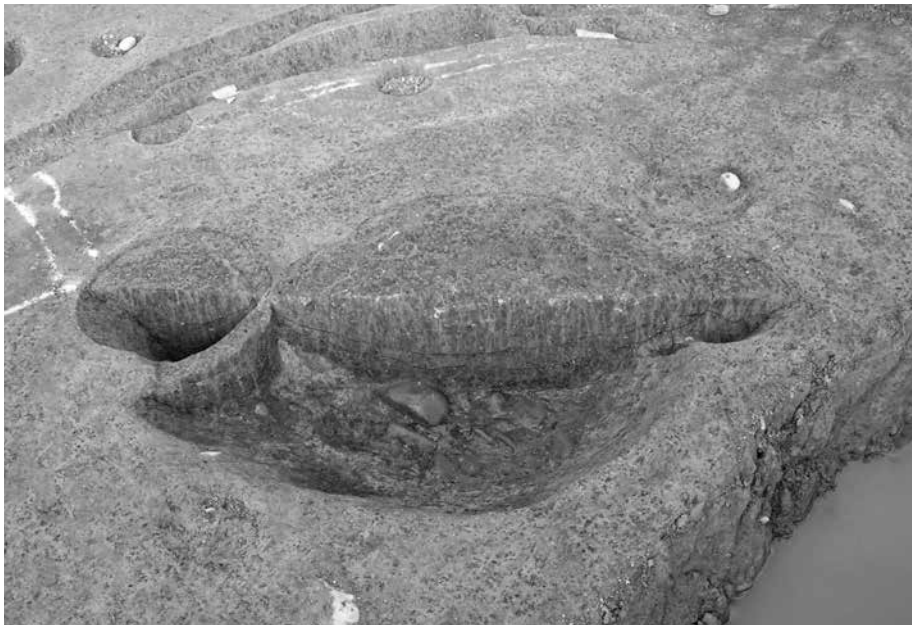
南部竪穴住居跡群全景（北東から）

南部竪穴住居跡群全景（北西から）



南部竪穴住居跡群東群
（北西から）

南部竪穴住居跡群東群
（北から）

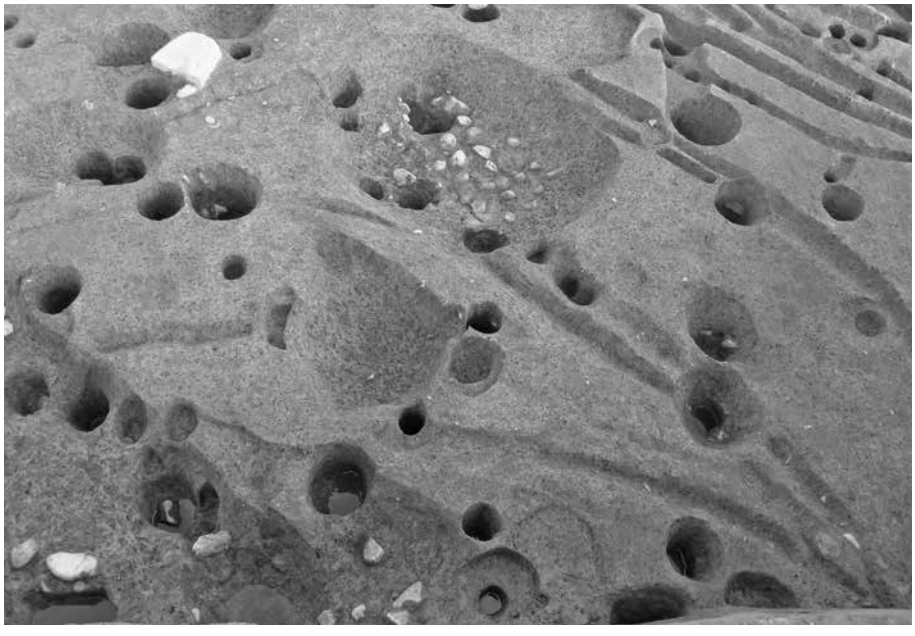


SH1007 中央土坑土層断面
（南東から）

D地区　南部竪穴住居跡群東群

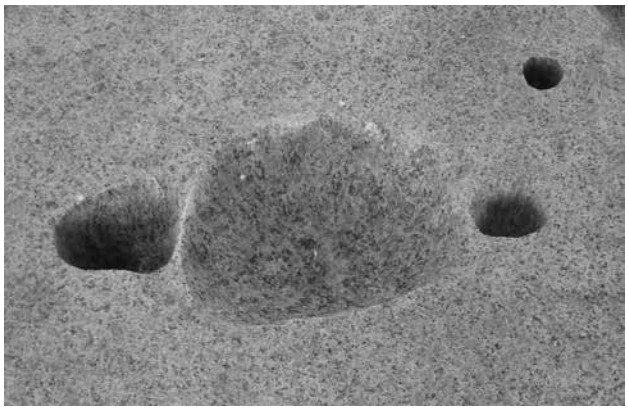
南部竪穴住居跡群西群
（北西から）

SH1010 他土層断面
（南東から）



SH1009・SH1010 付近
（西から）

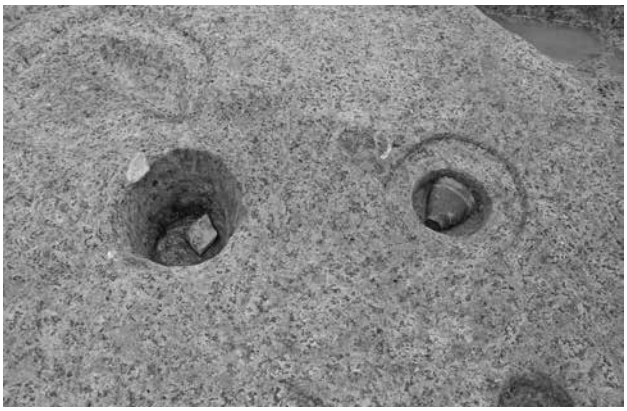
D地区　南部竪穴住居跡群西群



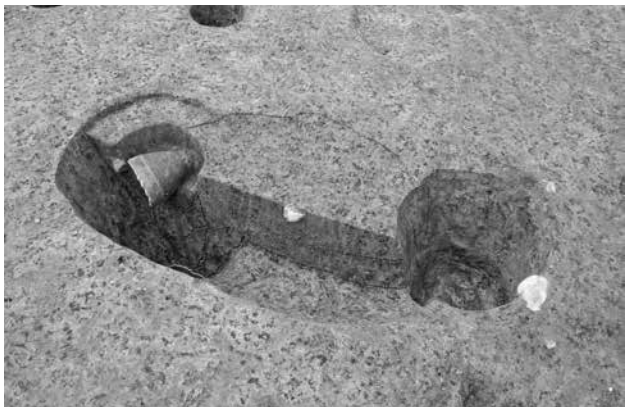
SH1013（南から）

SH1013 土層断面（南から）

SH1014・SH1015（北東から）

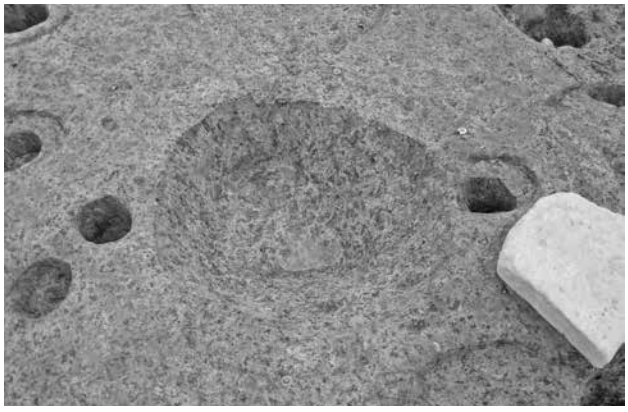


SH1014 柱穴・土坑検出状況（西から）

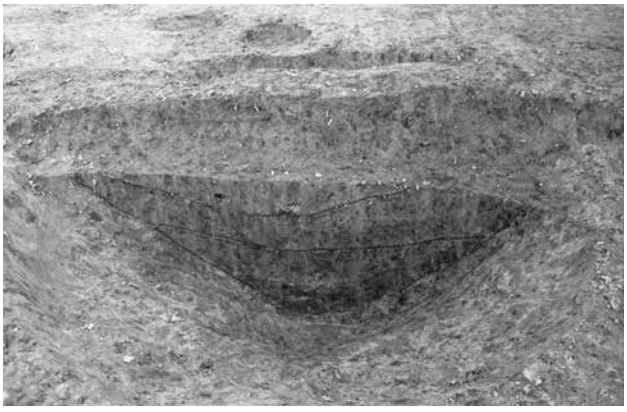


SH1014 柱穴（北東から）

SH1014 柱穴（北東から）



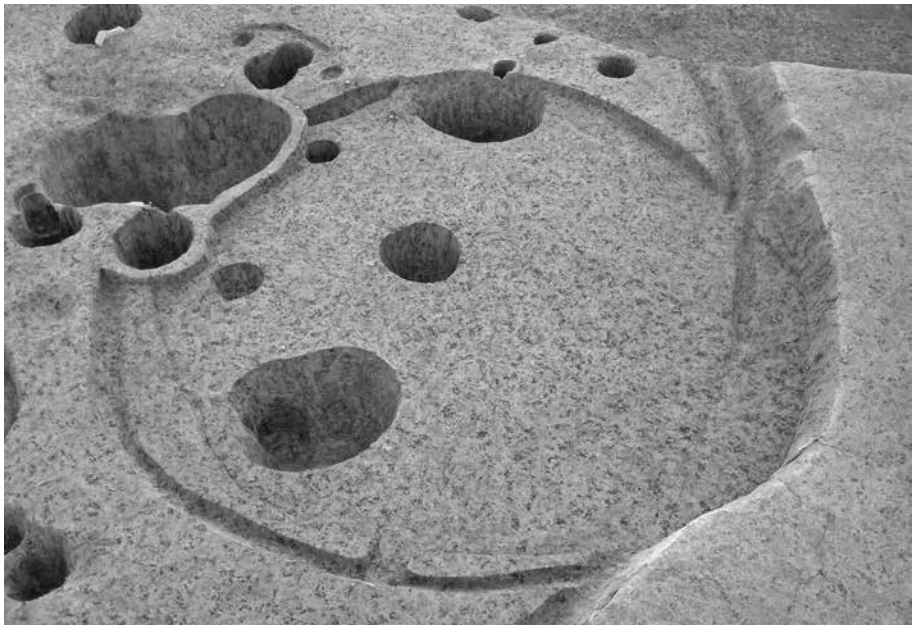
SH1015 中央土坑（北から）



SH1015 中央土坑（西から）

SH1021（北西から）

SH1021（東から）



SH1022（東から）

D地区　竪穴住居跡

SK1001（西から）

SK1001（南から）

SK1002（北西から）

SK1002 土器出土状況アップ（北西から）

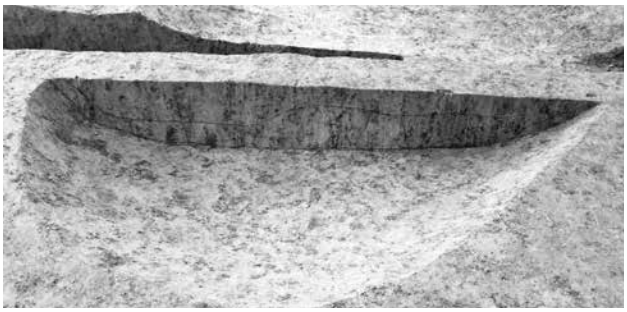
SK1003（北東から）

SK1003 土器出土状況（南東から）

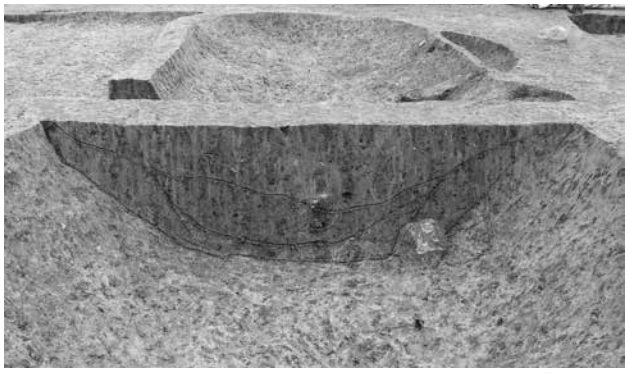
SK1003 土層断面（南西から）

SK1010（南から）

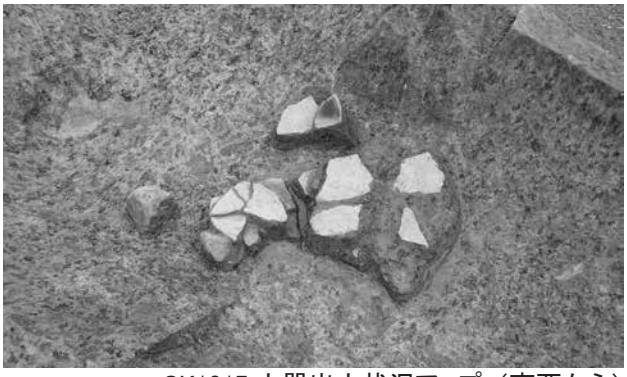
SK1005（南東から）



SK1009（北東から）



SK1017（北から）



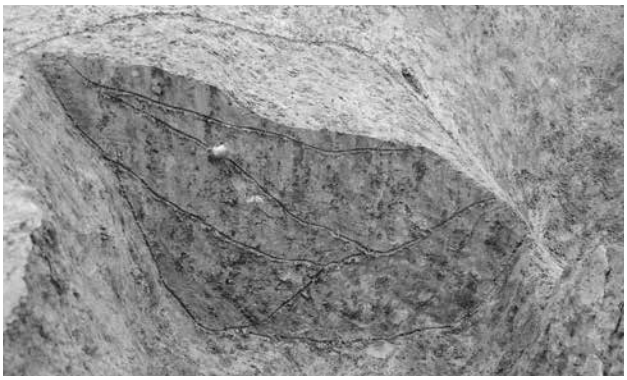
SK1017 土器出土状況アップ（南西から）

SK1022（東から）

SK1023（北東から）

SK1024（北から）

SK1026（北西から）



SK1030（北から）

SX1004 完掘状況（西から）

SX1004 完掘状況（北から）

SX1004 埋没途中の礫
検出状況（南西から）

SX1004 埋没途中の礫
検出状況（西から）

SX1004 埋没途中の礫
検出状況（北から）

SX1004 土層断面（北から）

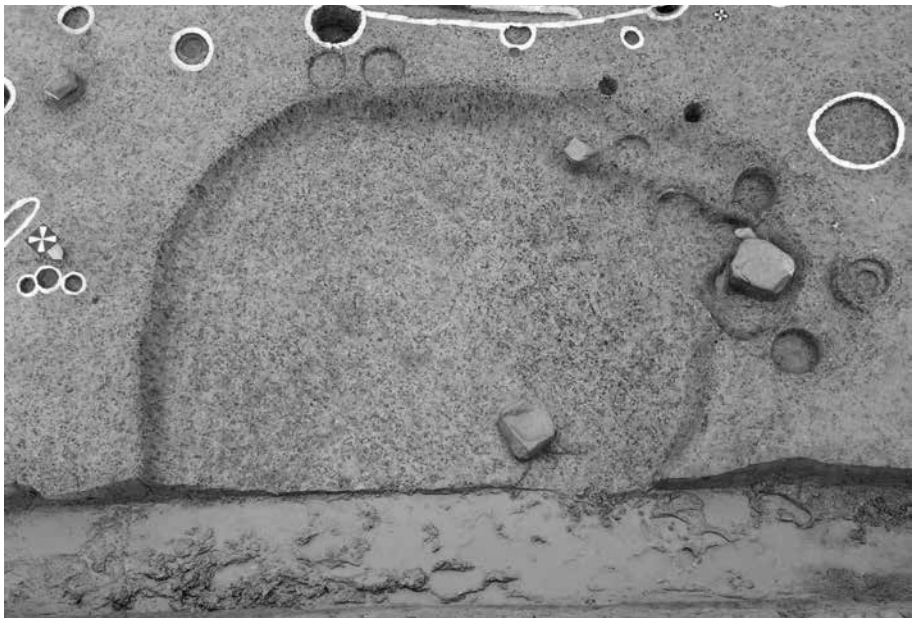
D地区　SX1004

SX1011（北西から）

SX1011 土器出土状況
（西から）

SX1011 土器出土状況
（北西から）

D地区　SX1011



SX1012（南東から）

SX1012 屋内土坑土層断面（西から）

SD1001（北西から）

SD1001 土層断面（南東から）

SD1002 土層断面（南東から）

D地区　SX1012・溝

E地区全景（上が北東）

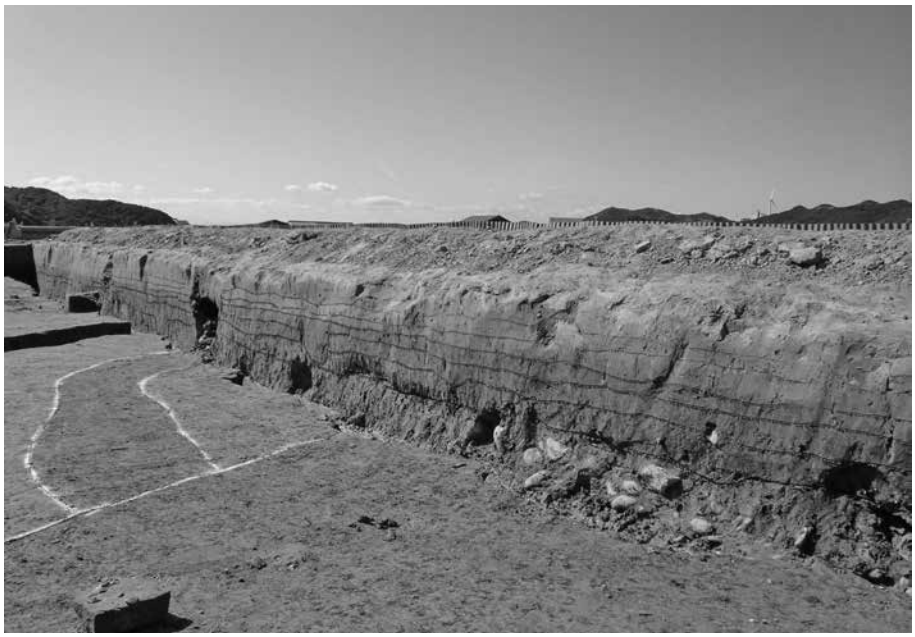
E−１地区全景（南西から）

E−１地区西壁土層断面
（東から）

E−１地区南壁土層断面
（北東から）

E−１地区　全景・壁土層断面

E−２地区全景（南西から）



E−２地区西壁土層断面
（北東から）

E−２地区南壁土層断面
（北東から）

E−２地区　全景・調査区壁土層断面

SB2012・SB2013（南東から）

SB2014（東から）

SB2011　P5（東から）

P21（北から）

SB2012　P57（東から）

P94（東から）

P101（南から）

SB2013　P100（南から）

P104（南から）

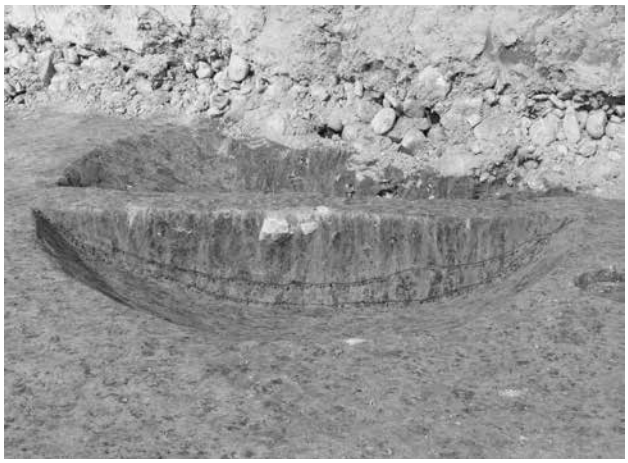
P105（東から）

SB2014　P70（南から）

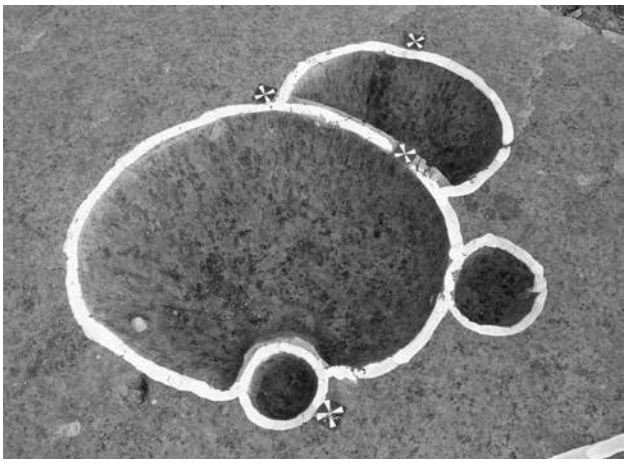
P78（南西から）

P79（東から）

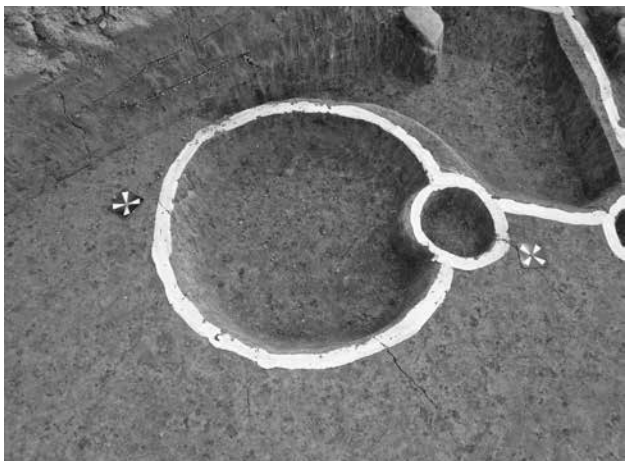
D地区 SH1011 の周壁溝（北東から）



SK2011 土層断面（南から）

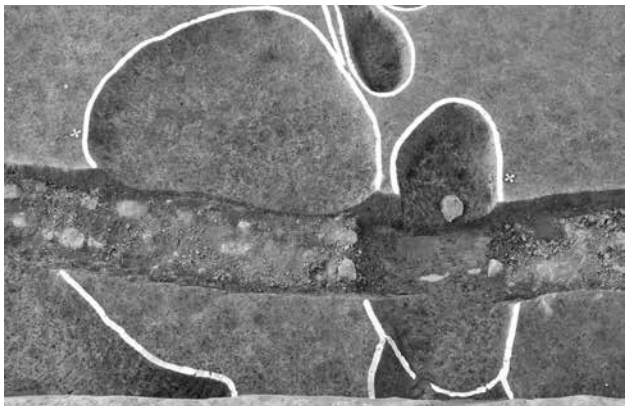


SK2012・SK2013（西から）



SK2014（北から）

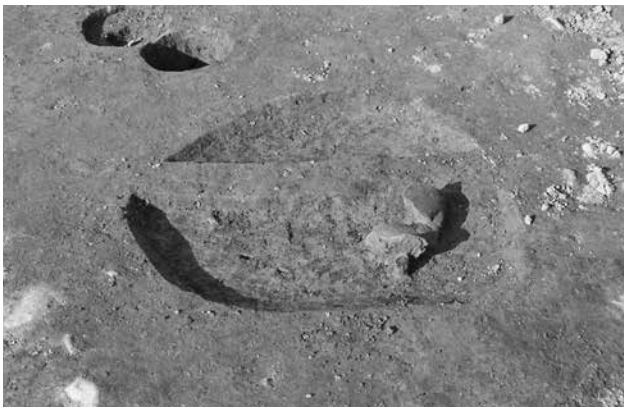
SK2019 土層断面（北東から）



SK2018・SK2016（南東から）

SK2018 土層断面（西から）

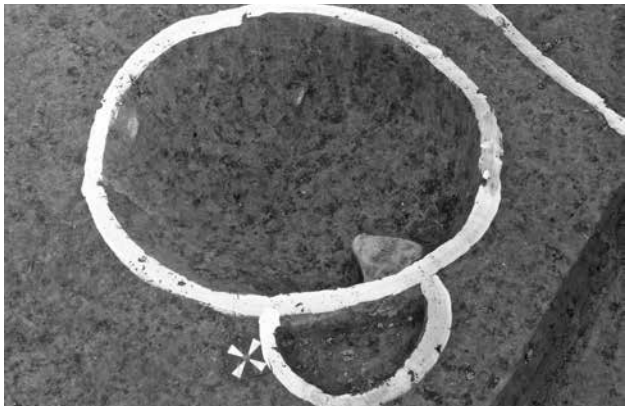
SK2021（西から）



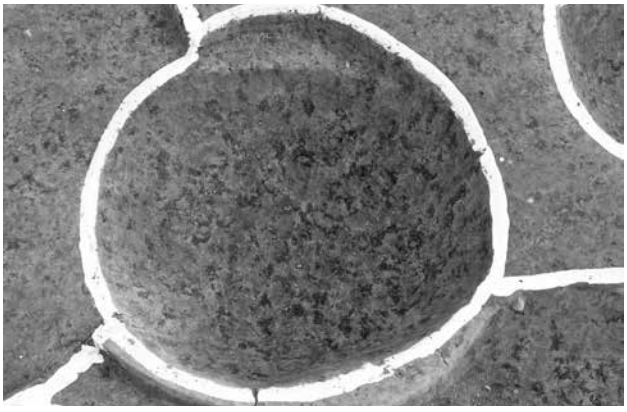
SK2021 土層断面（南から）

SK2022・SD2028（北から）

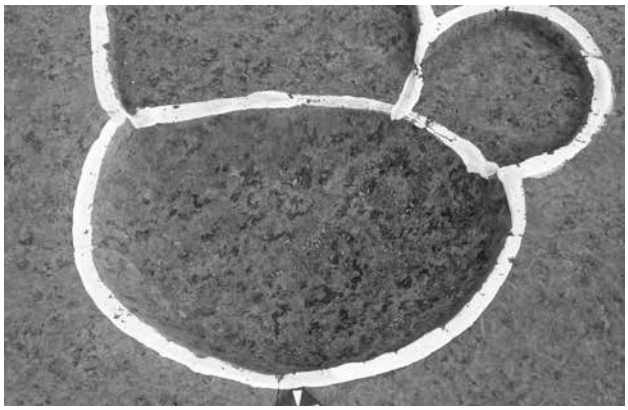
SK2022 土層断面（西から）



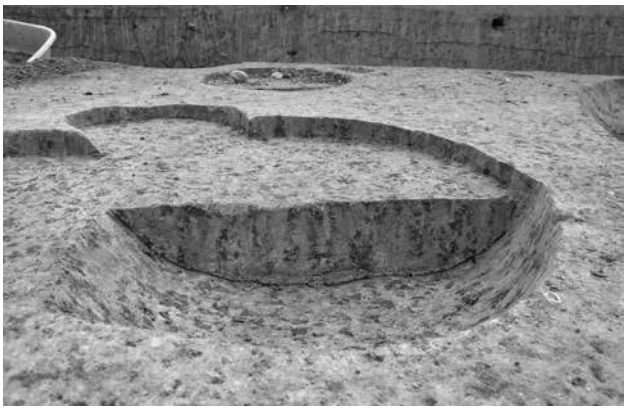
SK2023（西から）



SK2026（北西から）



SK2025（西から）



SK2025 土層断面（北から）

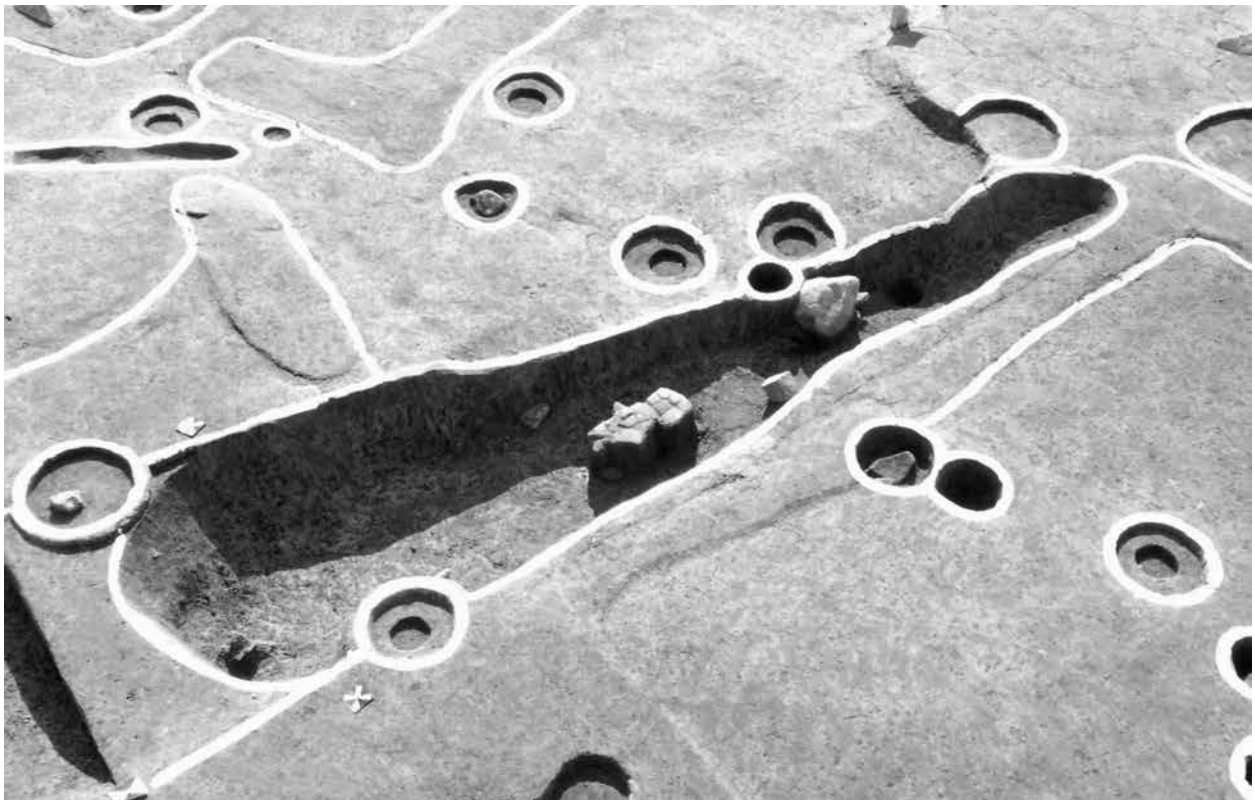
SK2027 土層断面（西から）

SK2029 土層断面（北東から）

SK2031 土層断面（北から）

SK2033 土層断面（北東から）

SK2036（西から）

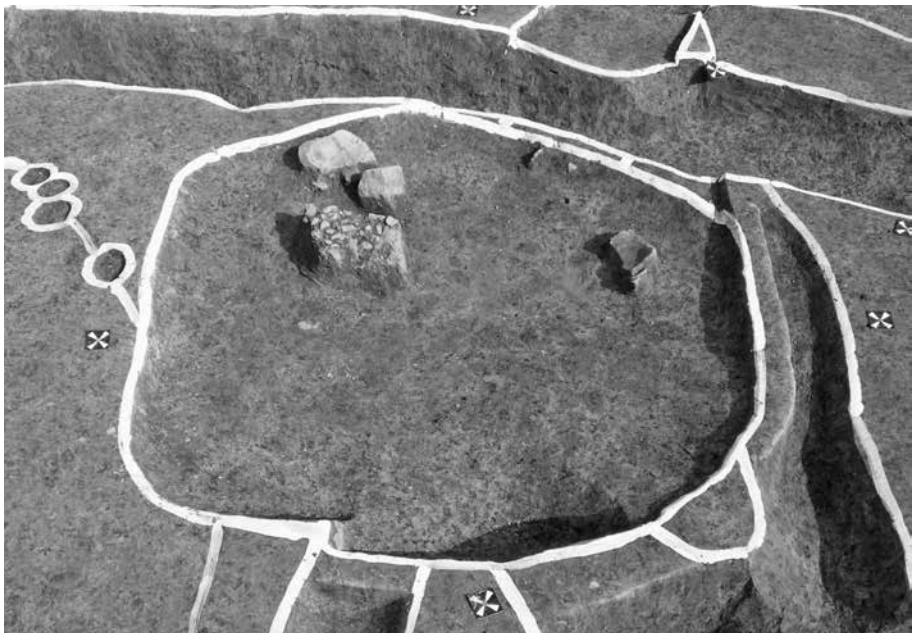


SK2030（北から）

土層断面（北東から）

土器出土状況（北から）

E地区　土坑

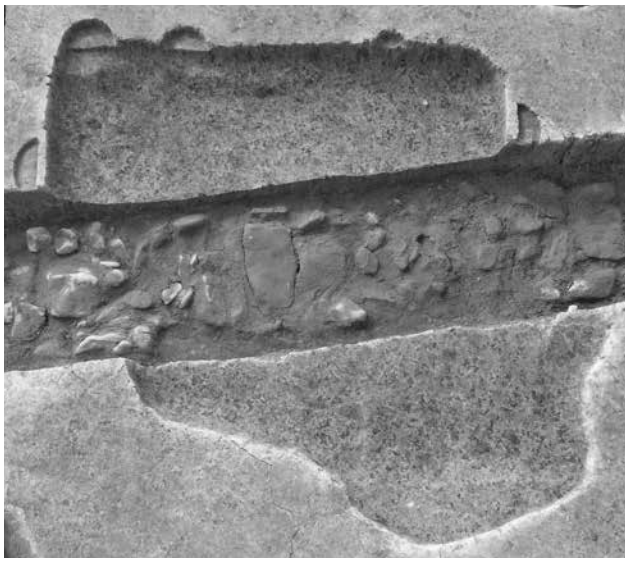


SK2032（西から）

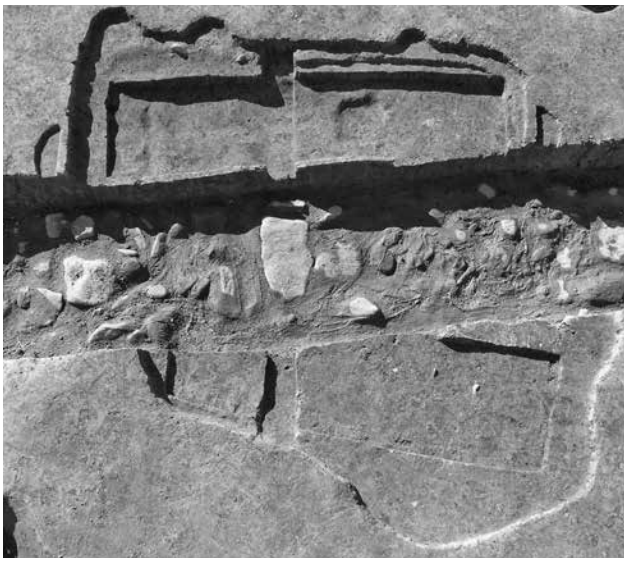
SK2034（北東から）

SK2034 土器出土状況
（南から）

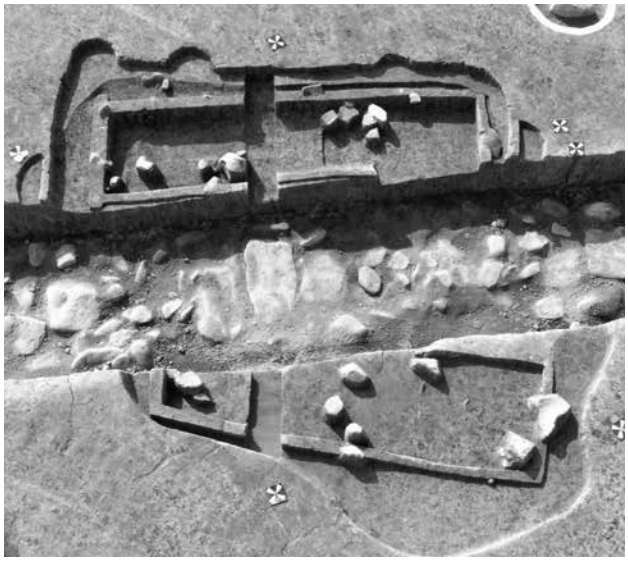
E地区　土坑



SX2002（上）・SX2001（下）－木棺墓完掘状況（北から）



SX2002（上）・SX2001（下）－木棺墓棺痕跡（北から）

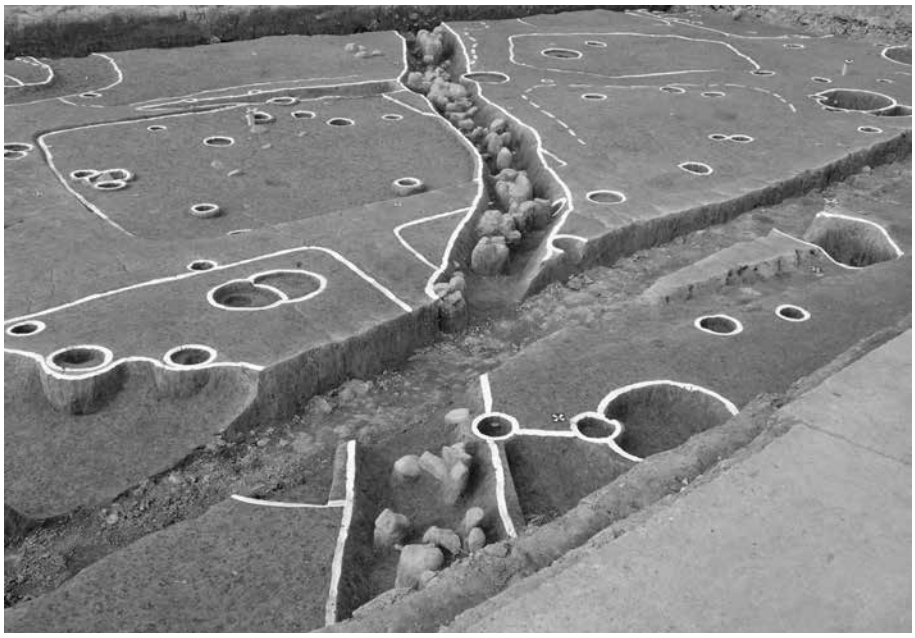


SX2002（上）・SX2001（下）（北から）

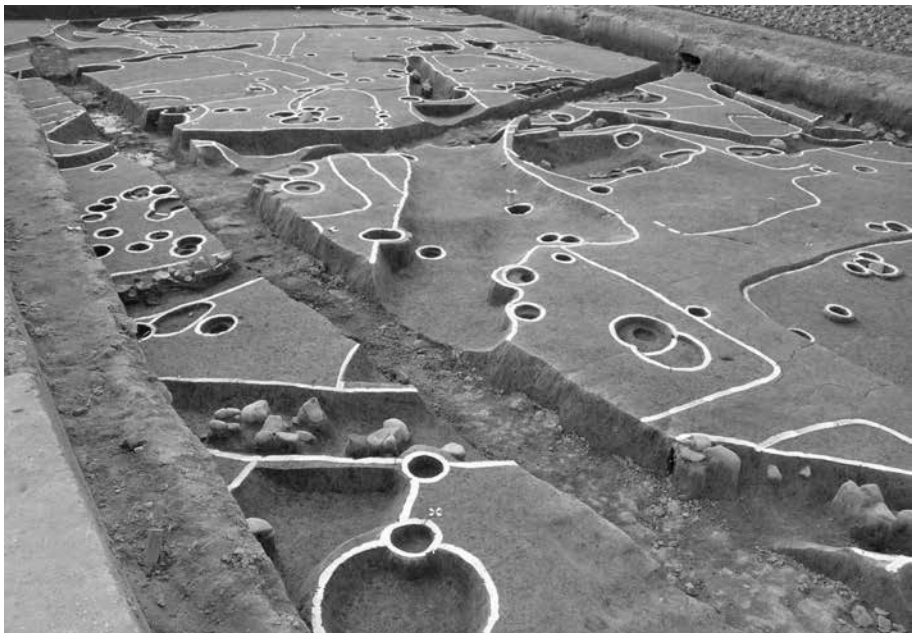
SX2002（上）・SX2001（下）土層断面（南から）

SX2001 土層断面（東から）

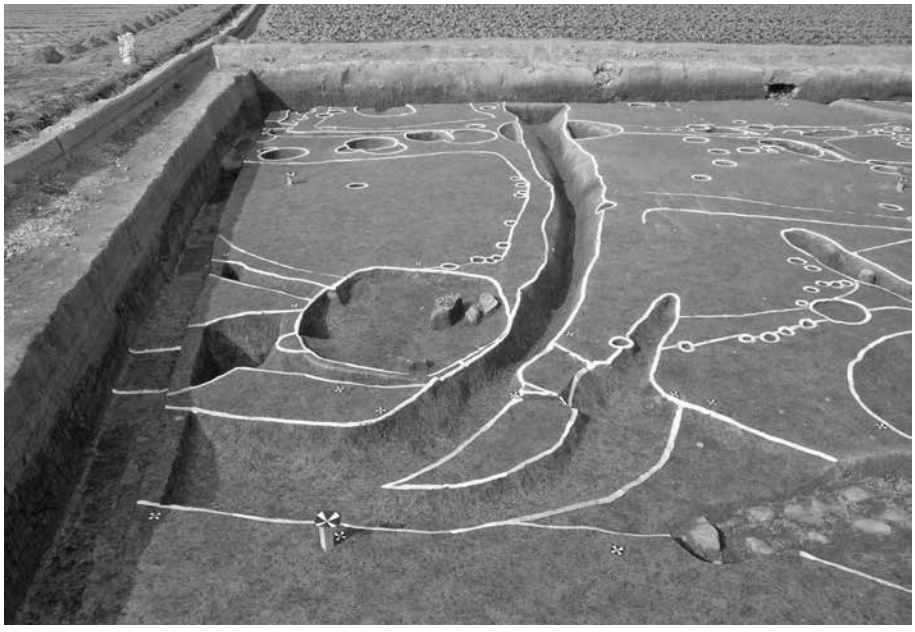
SX2002 土層断面（東から）



SD2013（南東から）

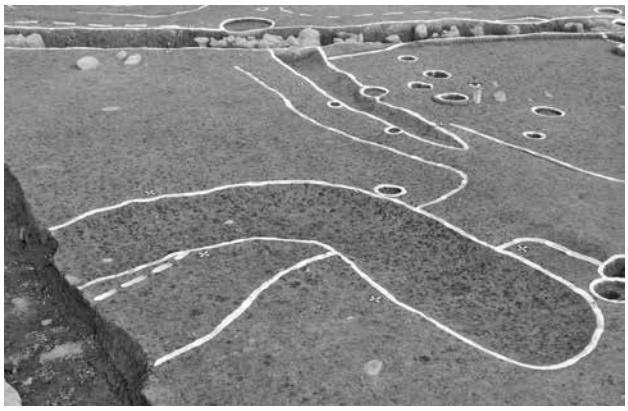


SD2016（北東から）

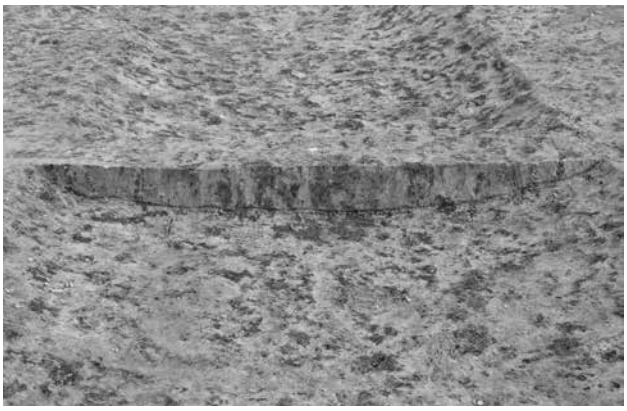


SD2019 ～ SD2024（東から）

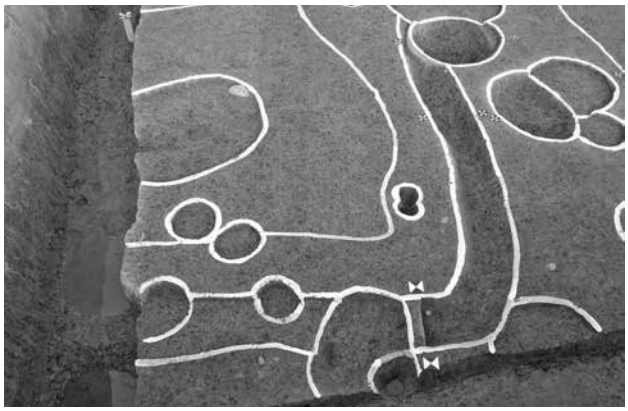
E地区　溝



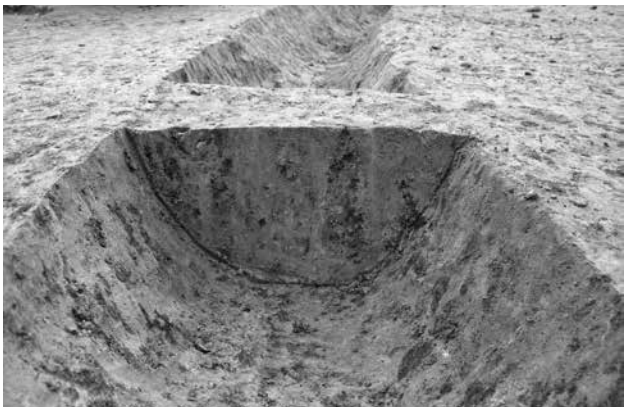
SD2015（南西から）



SD2015 土層断面（南から）

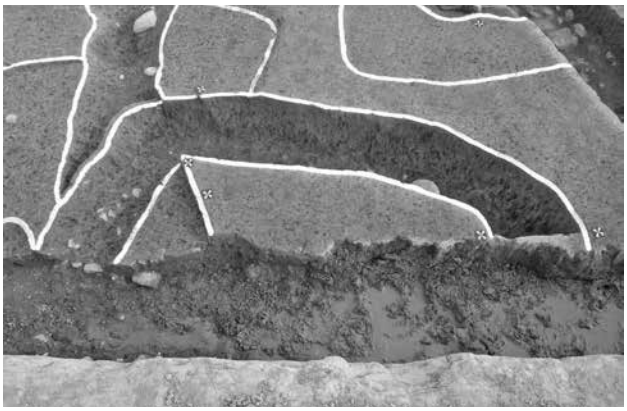


SD2017（南西から）



SD2017 土層断面（北東から）

SD2013 土層断面（北から）

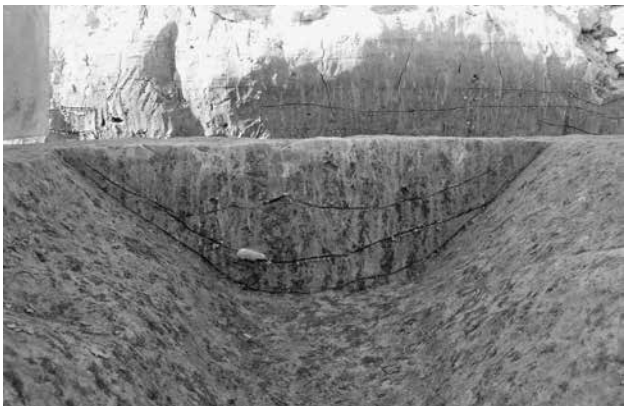


SD2018（北西から）

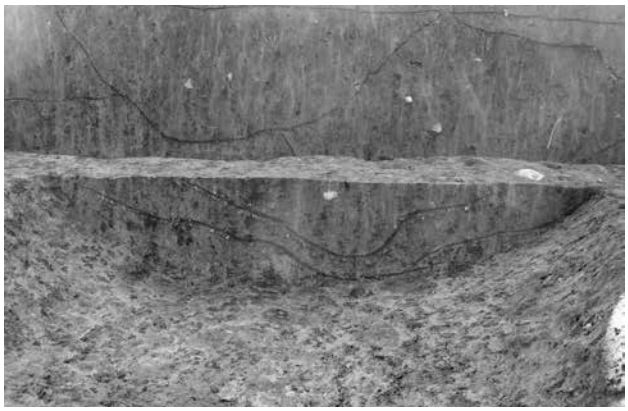
SD2018 土層断面（南東から）

SD2018 土層断面（南から）

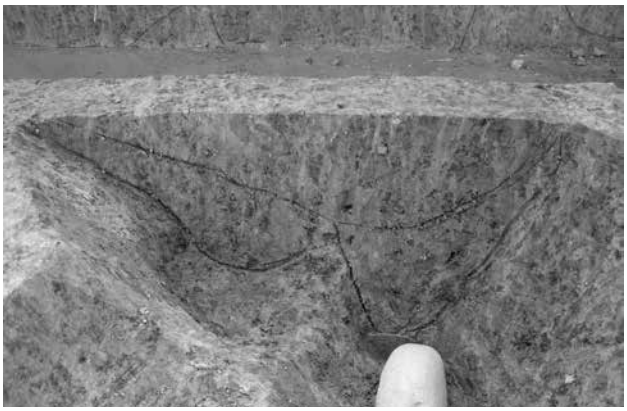
SD2019 土層断面（南東から）



SD2019 土層断面（南東から）



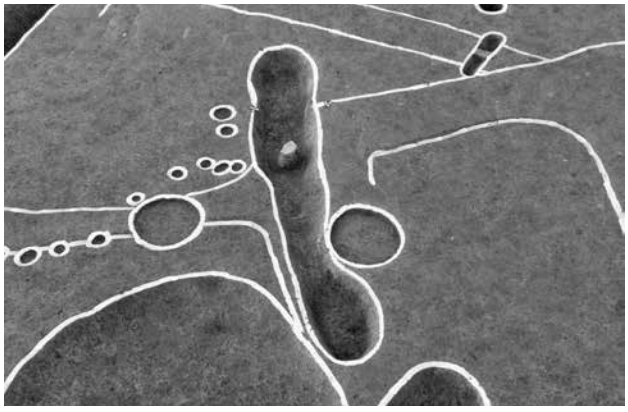
SD2019 土層断面（北東から）



SD2021 土層断面（北東から）

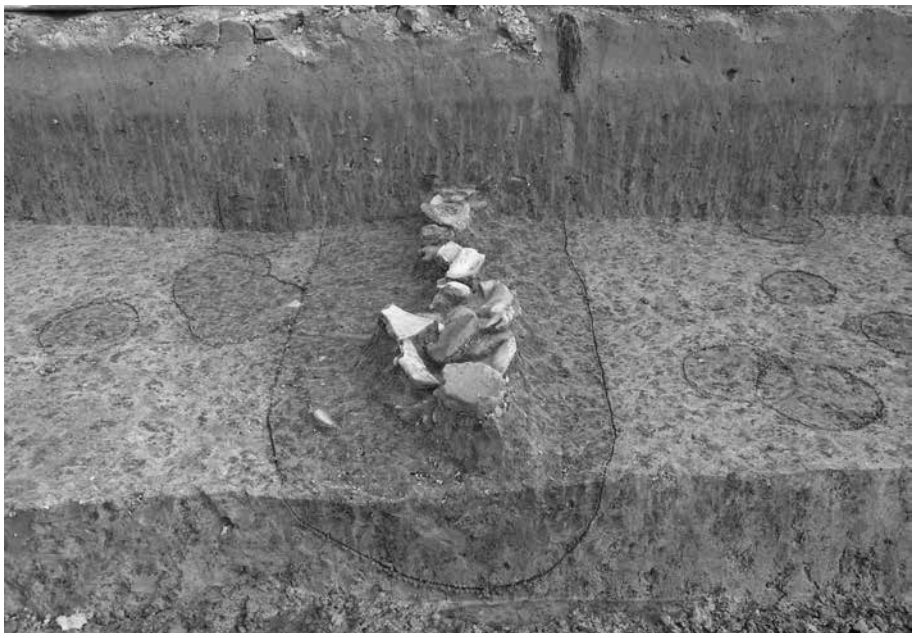
SD2023 土層断面（北東から）

SD2024 土層断面（東から）



SD2025（南東から）

SD2025 土層断面（東南から）



SD2026 検出状況
（北西から）

SD2026 検出状況
（北東から）

SD2026 東壁土層断面
（北西から）

Ｆ地区全景（上が北東）

F地区全景（南から）

F地区全景（北から）

南壁土層断面（北から）

南壁土層断面（北から）

南壁土層断面（北から）

南壁土層断面（北から）

北壁北半土層断面
（東から）

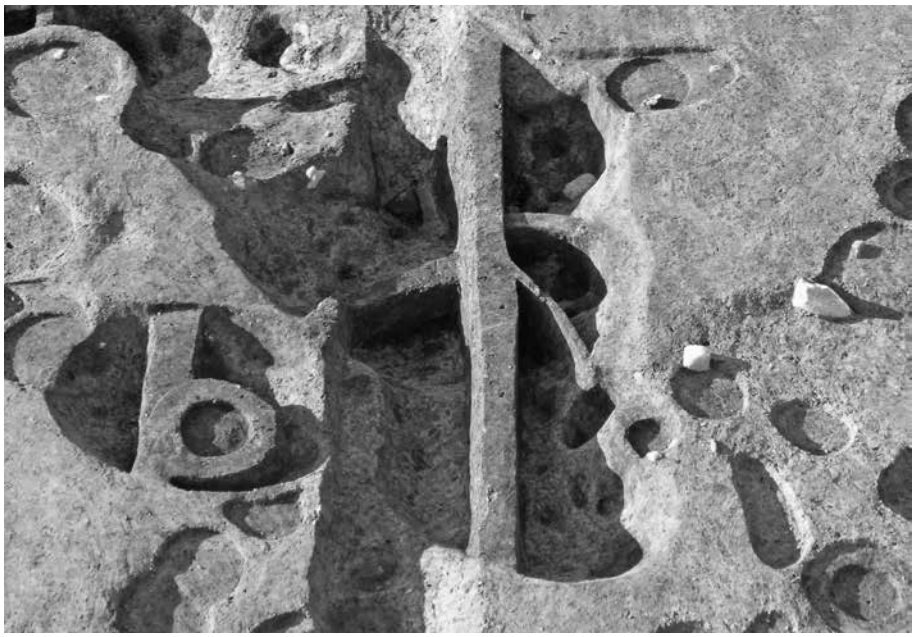
北壁南半土層断面
（南東から）

中央サブトレンチ（北東から）

中央サブトレンチ（北東から）

F地区　北壁土層断面・サブトレンチ

SH2001 ～ SH2008
（南東から）



SH2001 ～ SH2005 中央土坑
（南東から）

SH2001 ～ SH2005 中央土坑
土層断面（南から）

Ｆ地区　竪穴住居跡

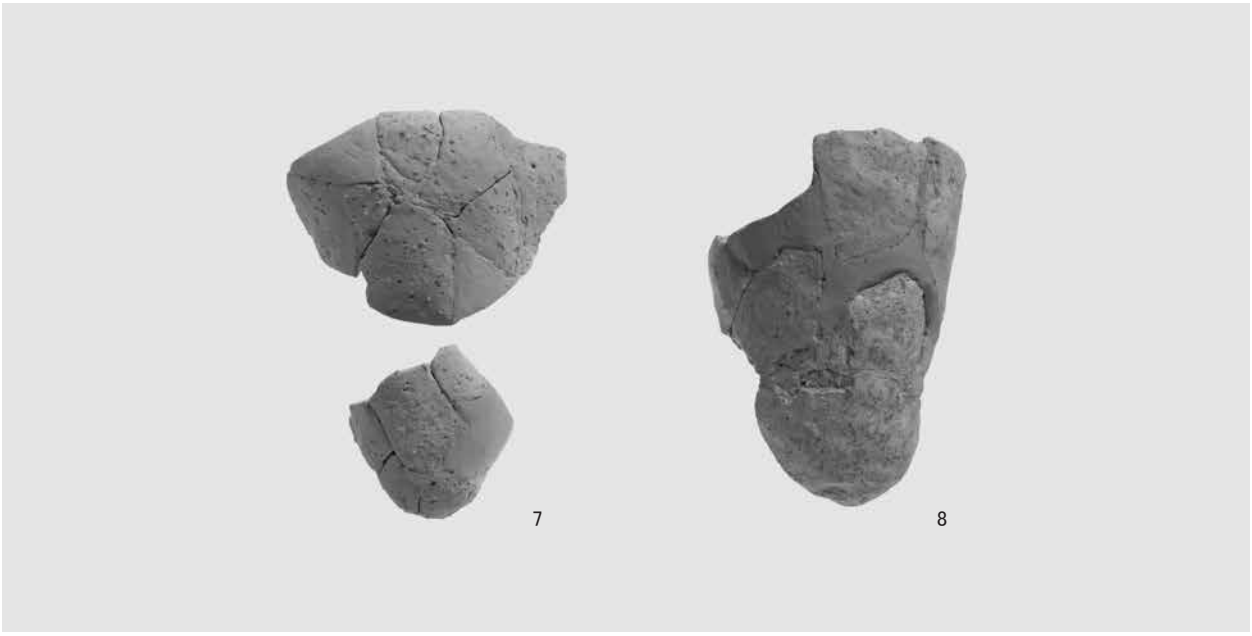
SH2001 中央土坑土器出土状況（南から）

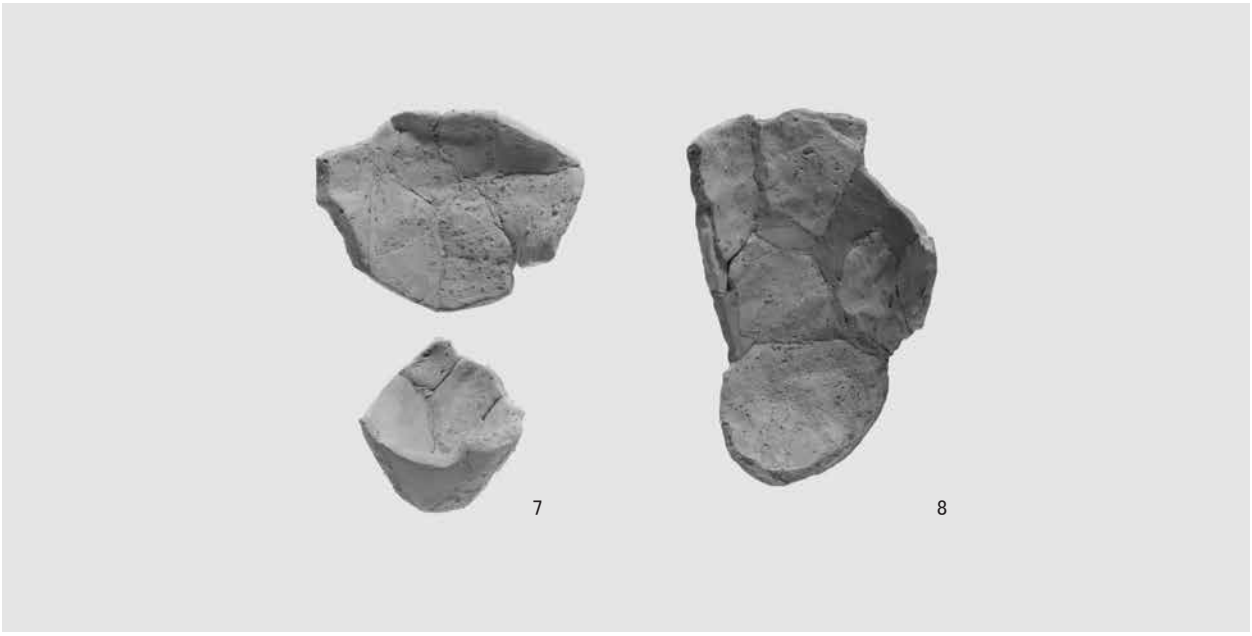
SH2001 中央土坑土器出土状況（西から）

SD2008 ～ SD2012（南から）

SD2012・SD2008（南東から）

Ｆ地区　竪穴住居跡・溝





C地区　土器１

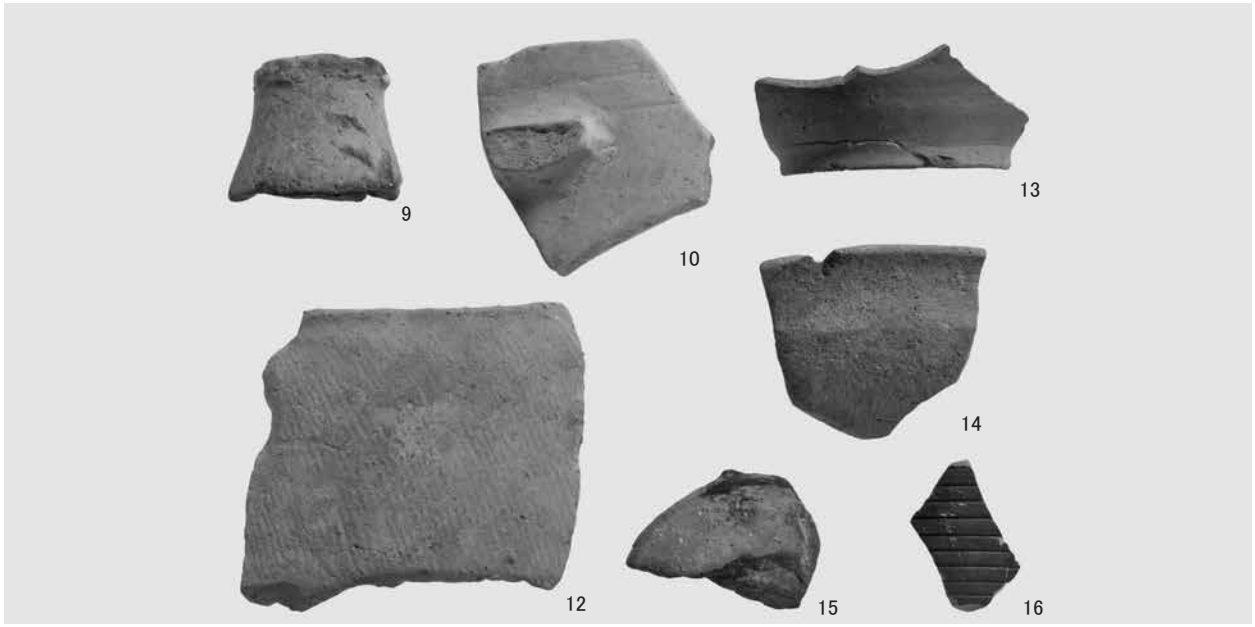
2

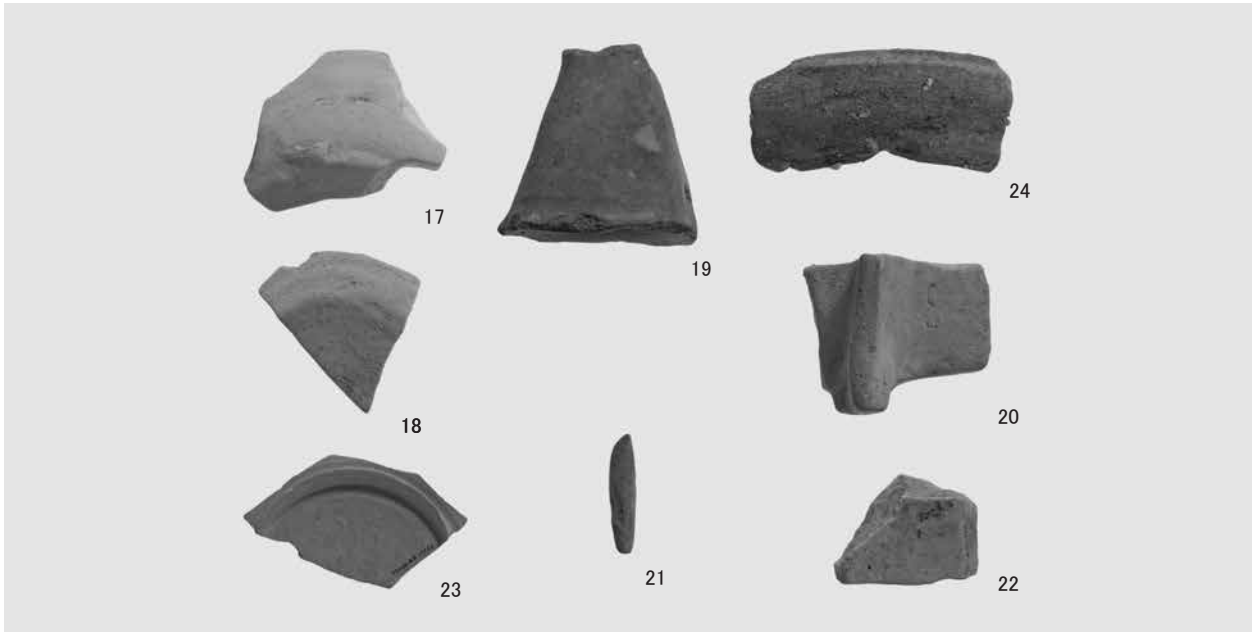
5

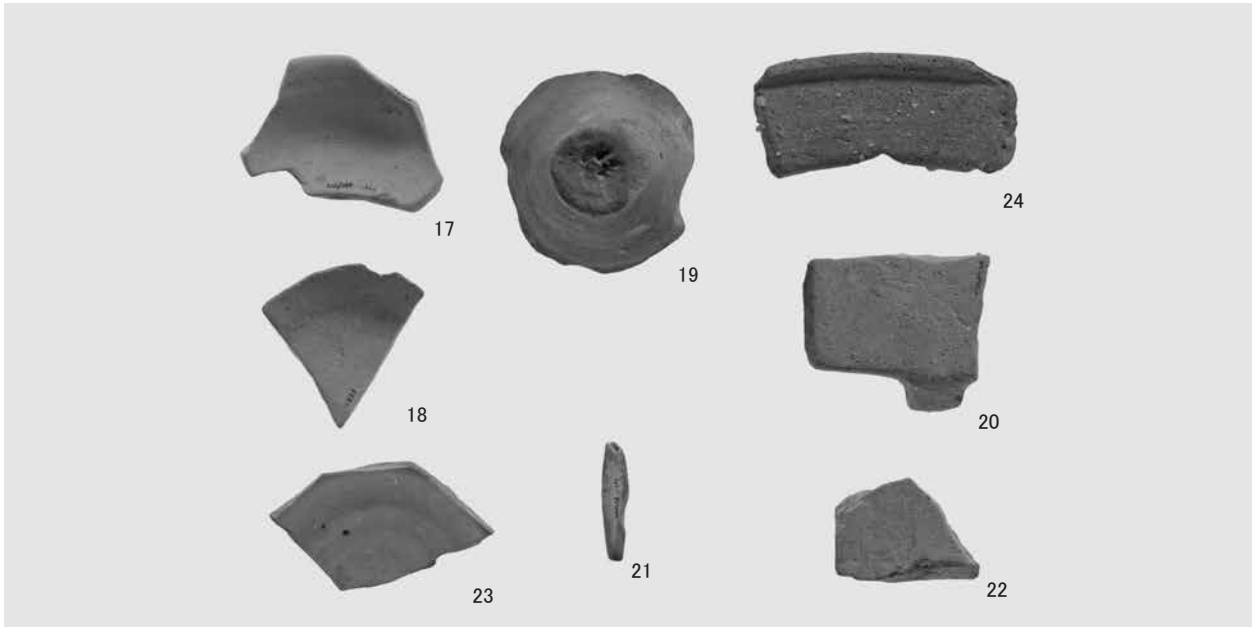
6

11

C地区　土器２







C地区　土器３

25

26

27

29

31

36

38

37

C地区　土器４

39

40

41

42

C地区　土器５

44

43

46

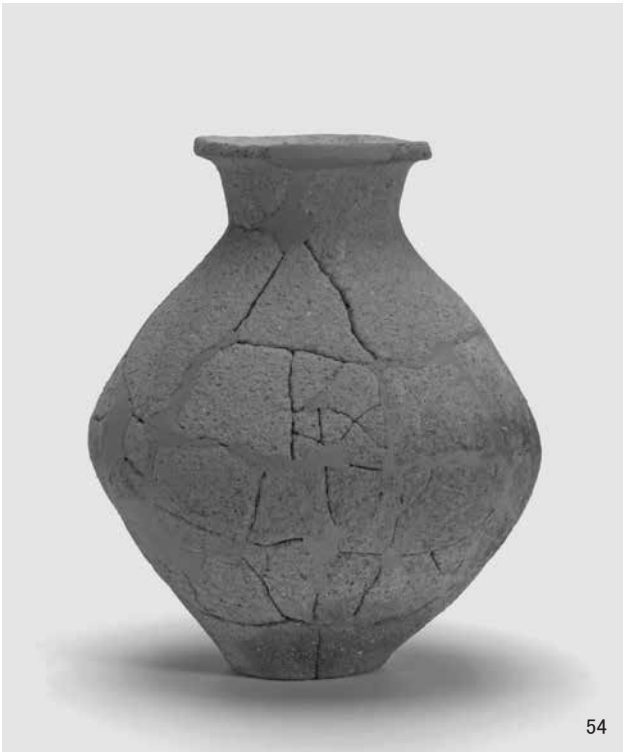
45

47

48

53

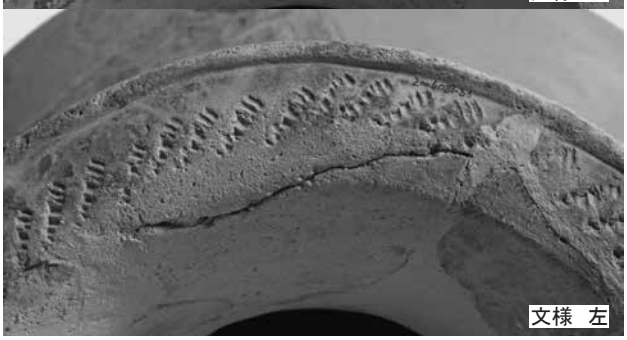
C地区　土器6


54

50

52

文様　右


文様　左

C地区　土器7

56

57

58

62

66

67

68

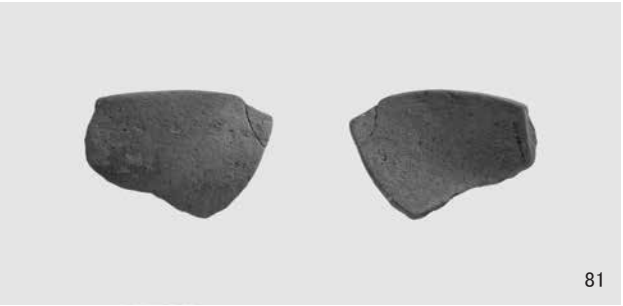
C地区　土器８

71

72

77

74


81

82

86

C地区　土器９

C地区　土器 10

95

99

100

101

C地区　土器 11

102

104

106

108

112

113

C地区　土器 12

114

116

118

120

121

C地区　土器 13

122

123

129

138

130

C地区　土器 14

128

132

139

140

145

C地区　土器 15

152

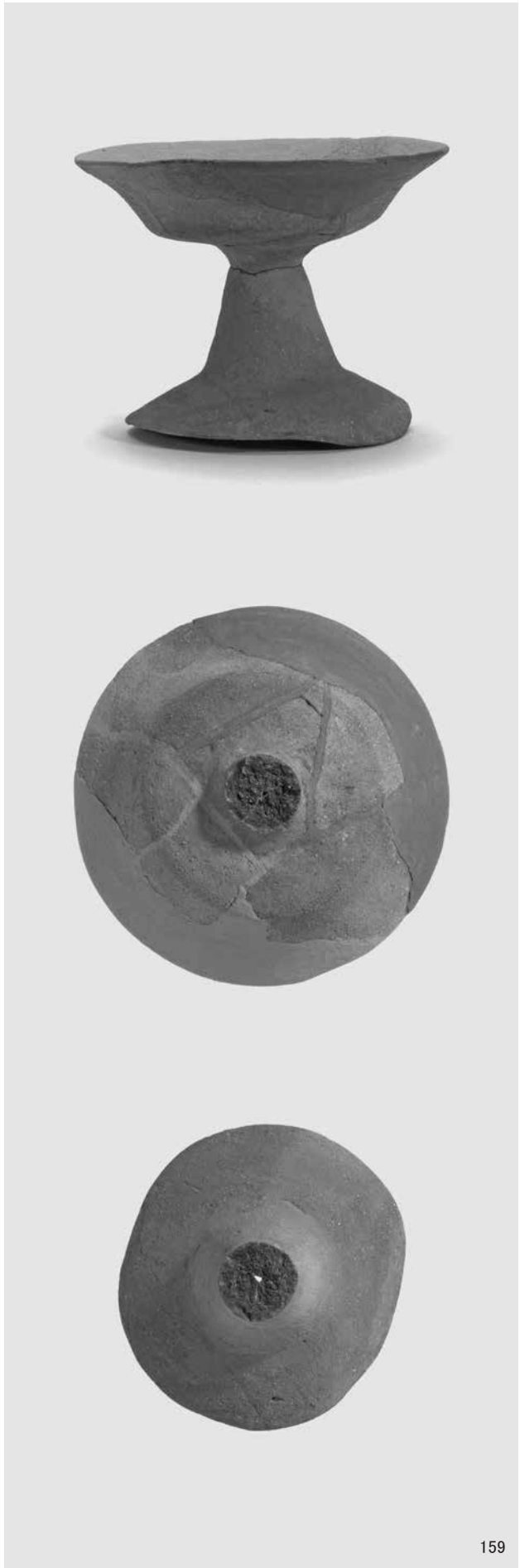
154

150

156

C地区　土器 16

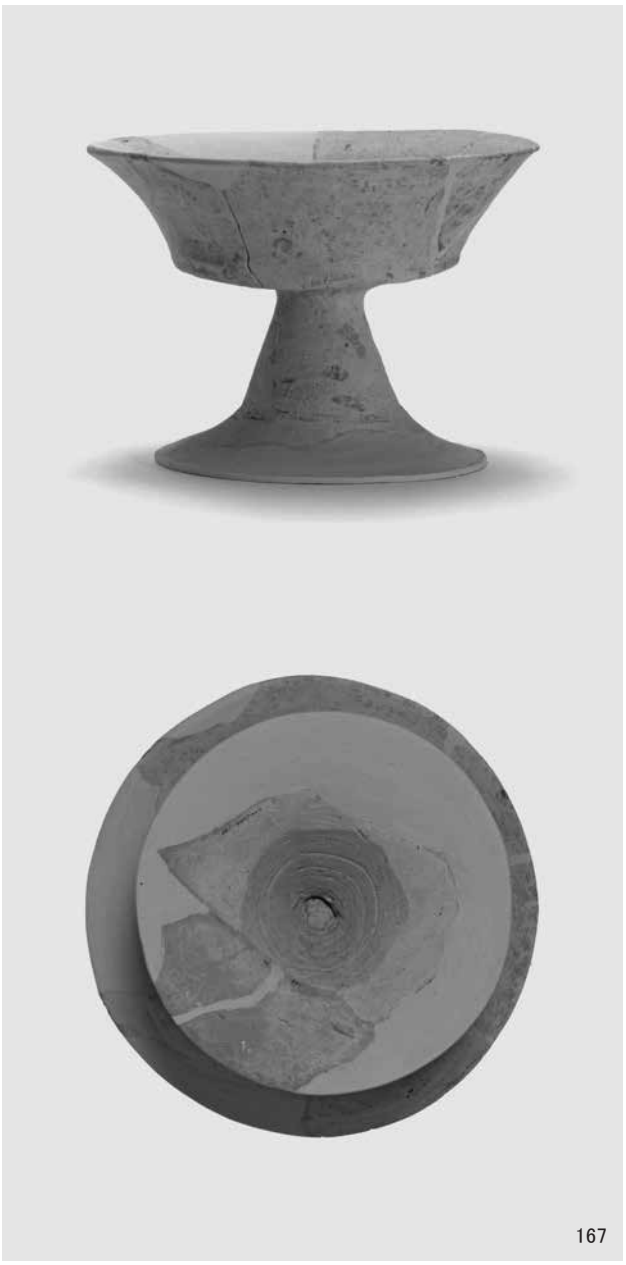
158



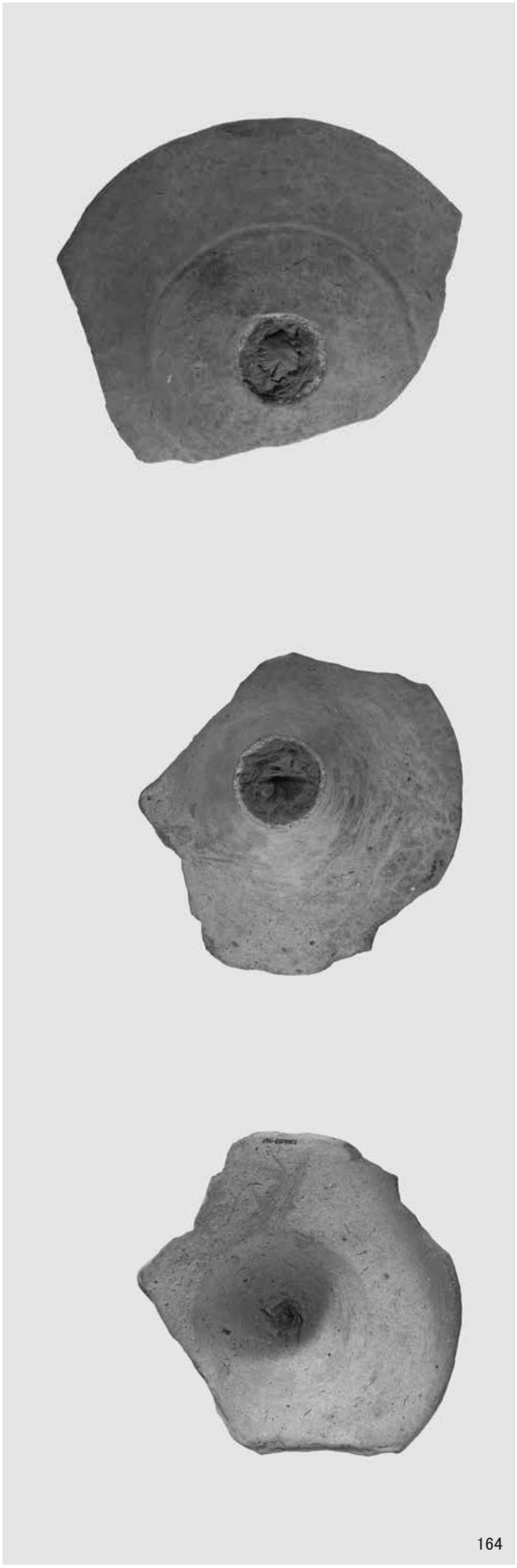
159

C地区　土器 17

155

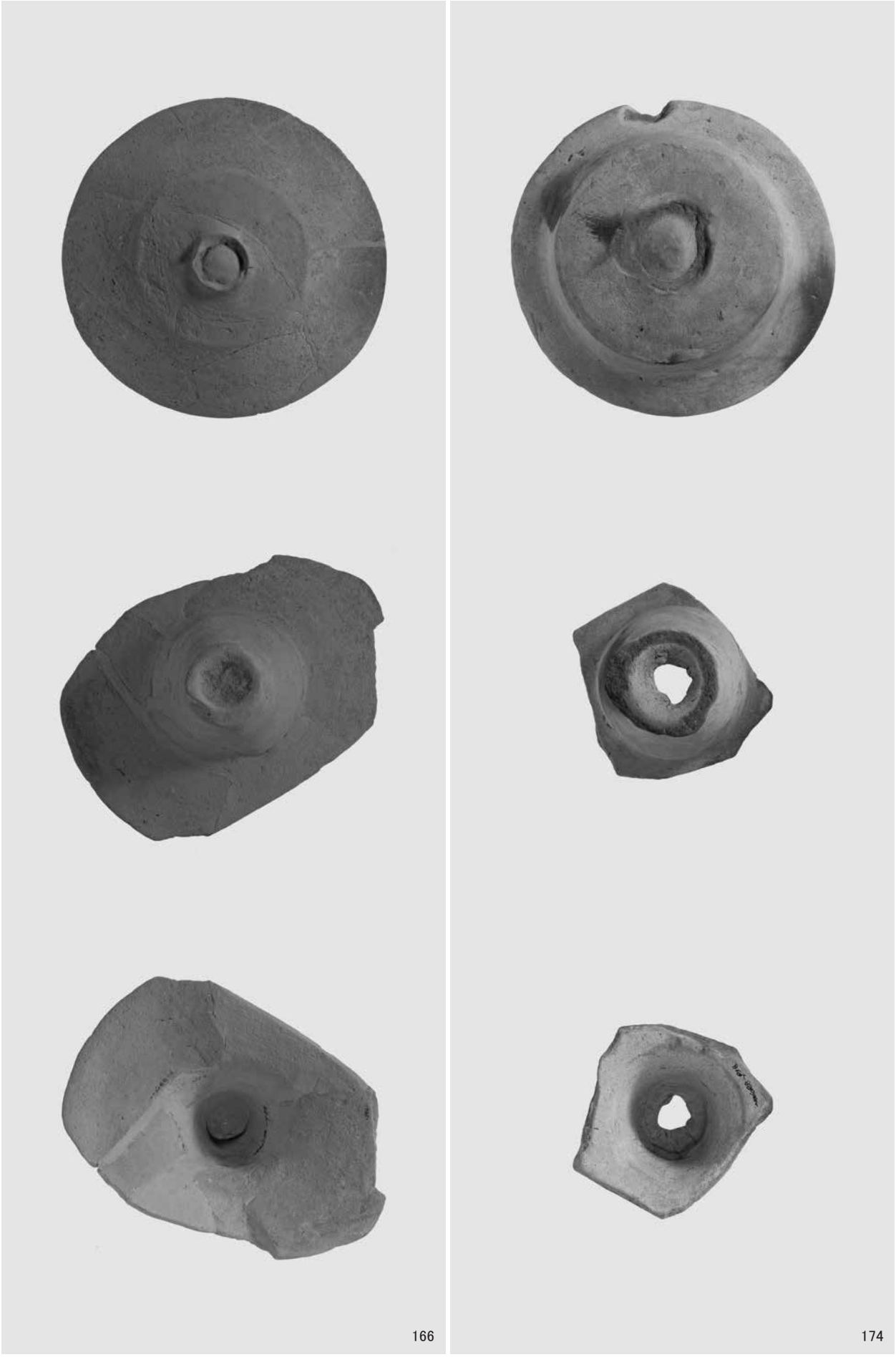


167



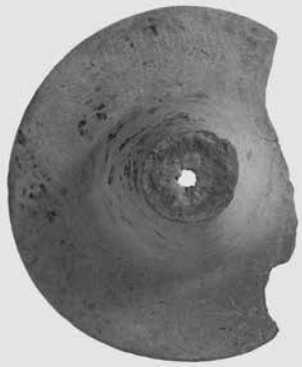
164

C地区　土器 18



C地区　土器 19

168



169

170

177

C地区　土器 20

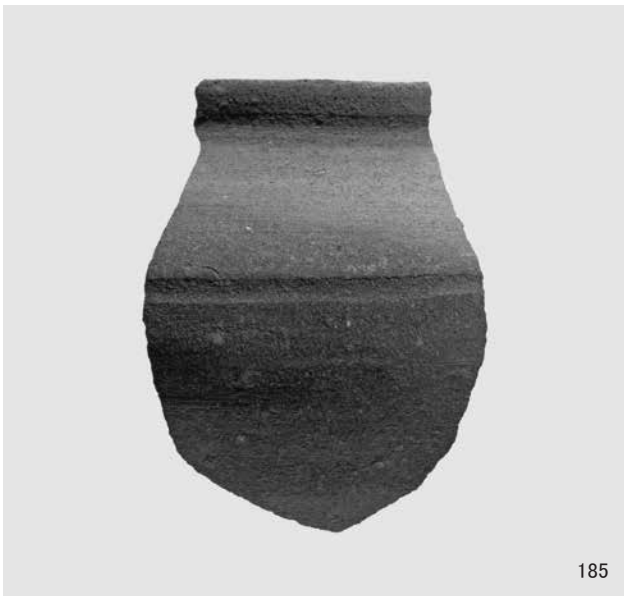
171

182

183

184

187


185

C地区　土器 21

189

191

195

198

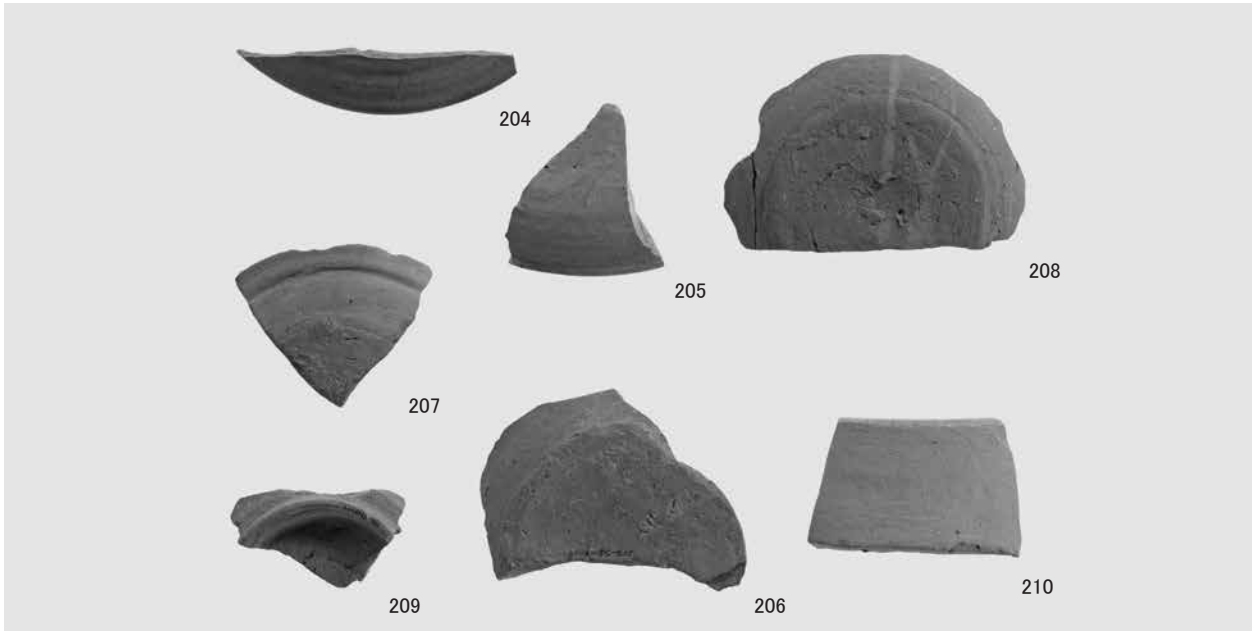
196

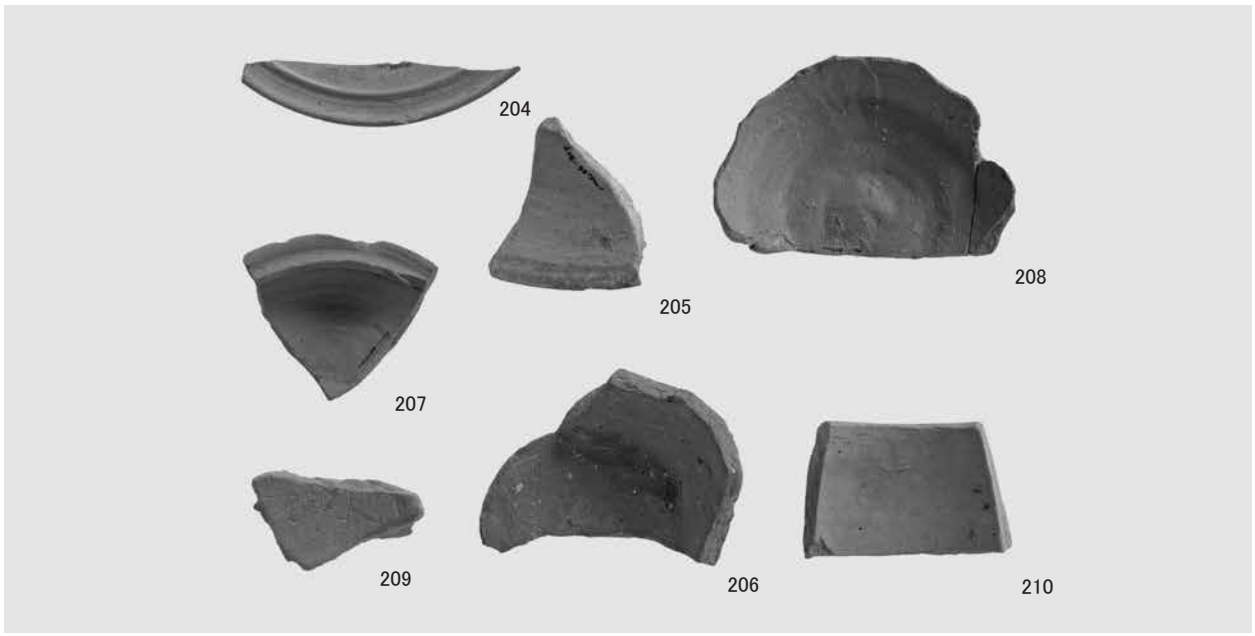
202

199

200

C地区　土器 22


204
205
208
207
209
206
210


204
205
208
207
209
206
210

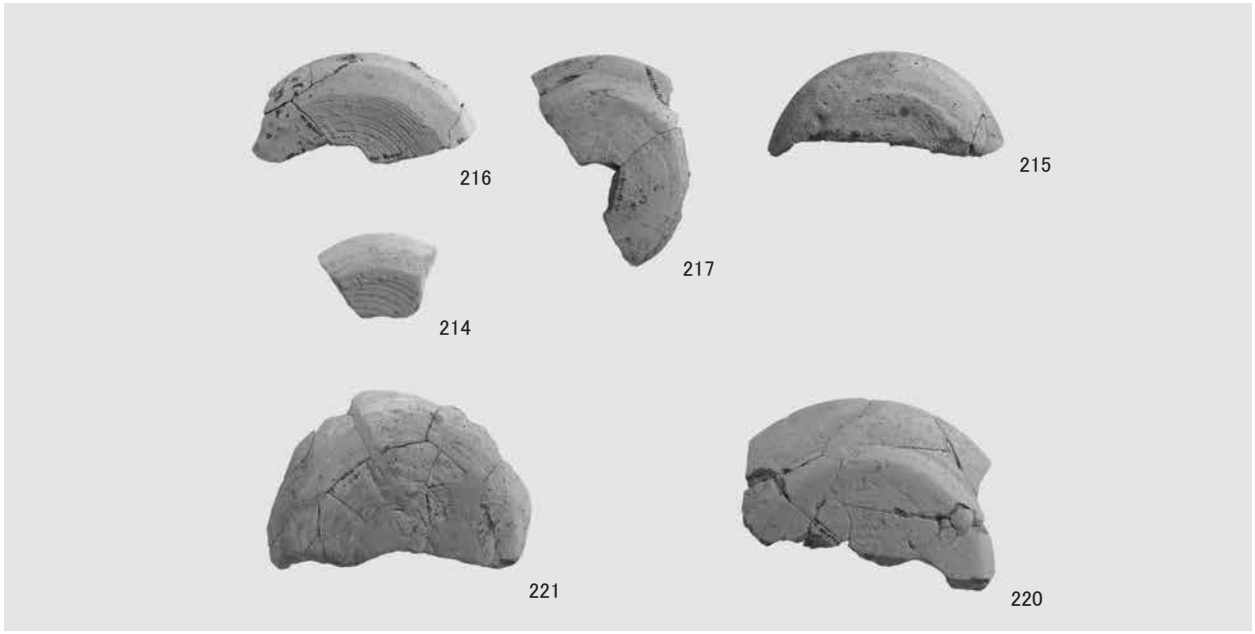
211

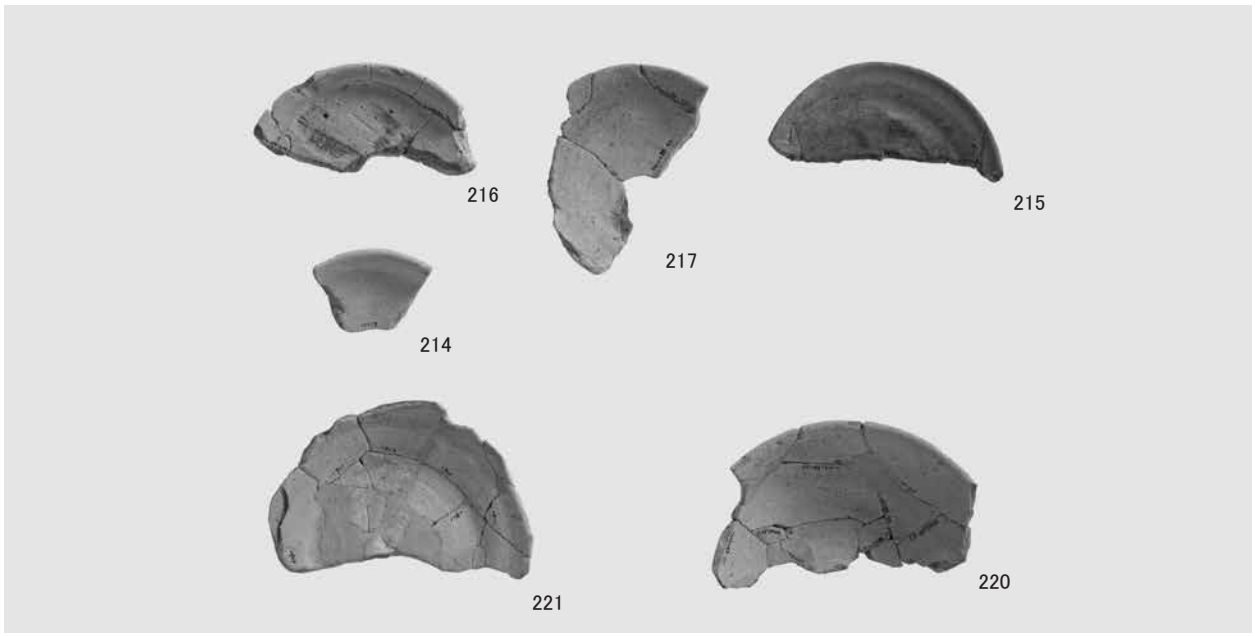
212

213

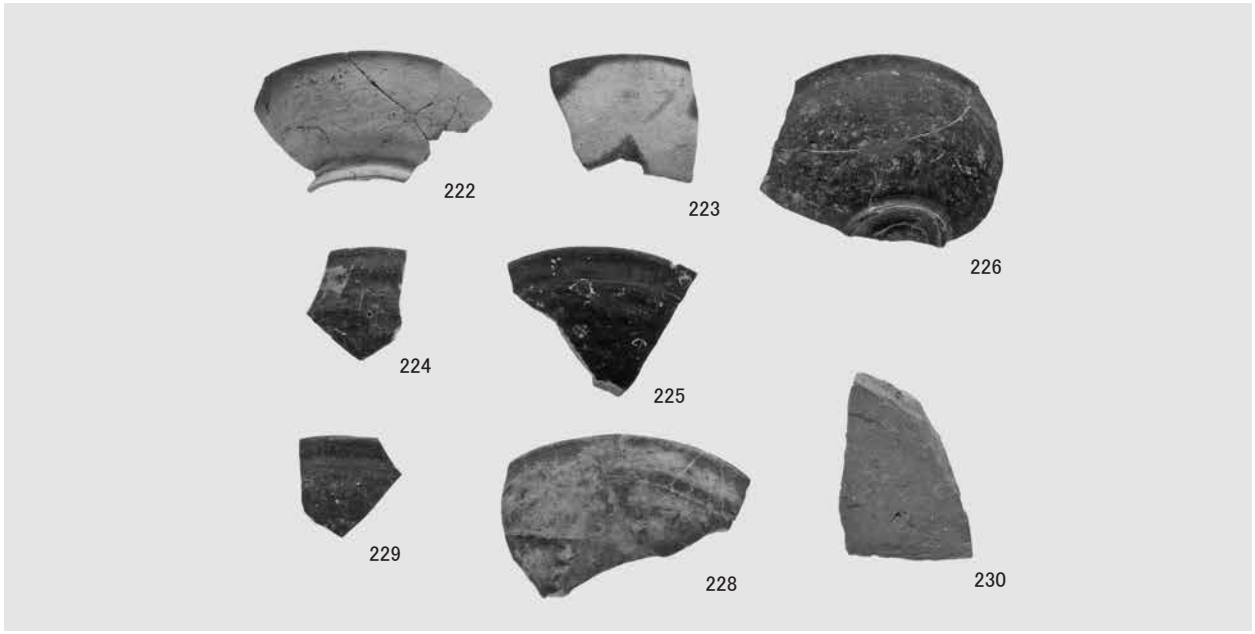
218

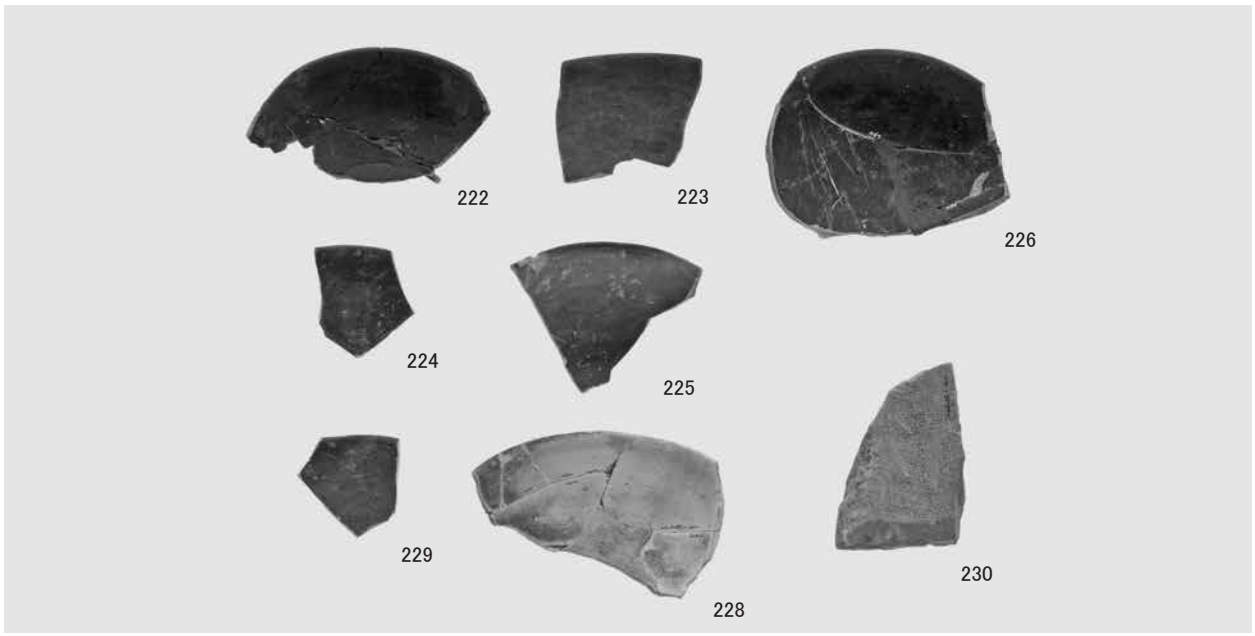
C地区　土器 23

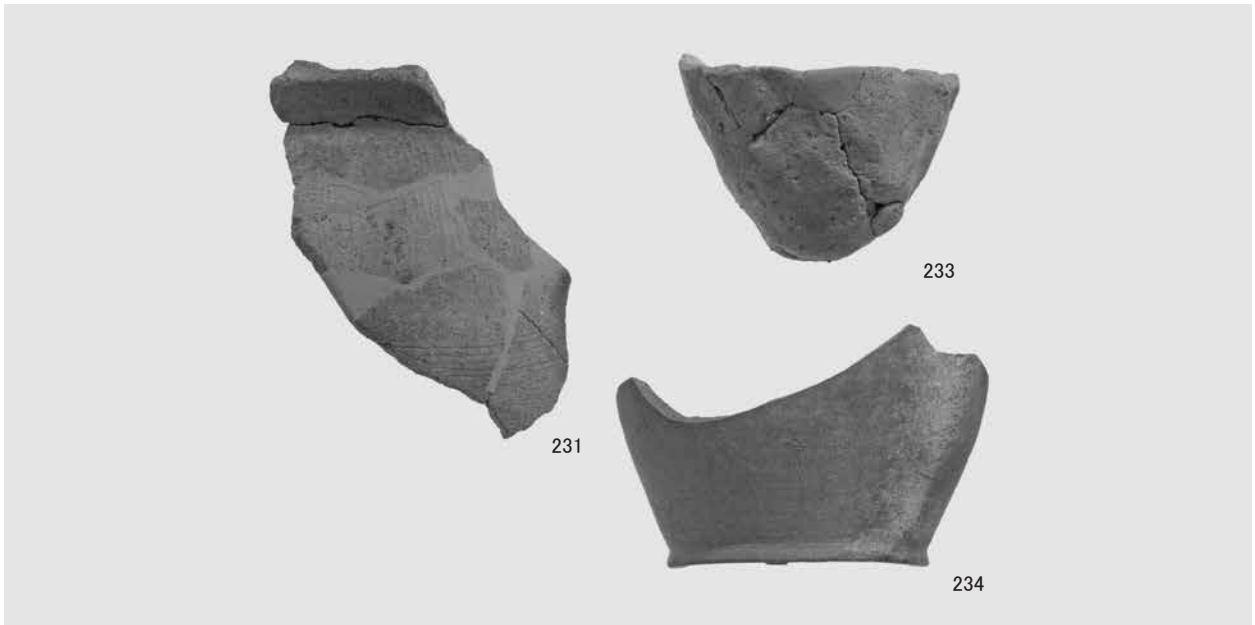




C地区　土器 24


222
223
226
224
225
229
228
230


222
223
226
224
225
229
228
230

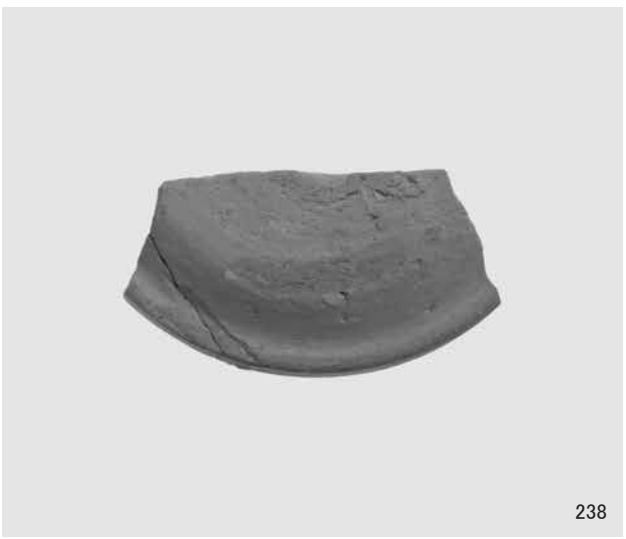

233
231
234

C地区　土器 25

235

236

237



238

239

C地区　土器 26

241

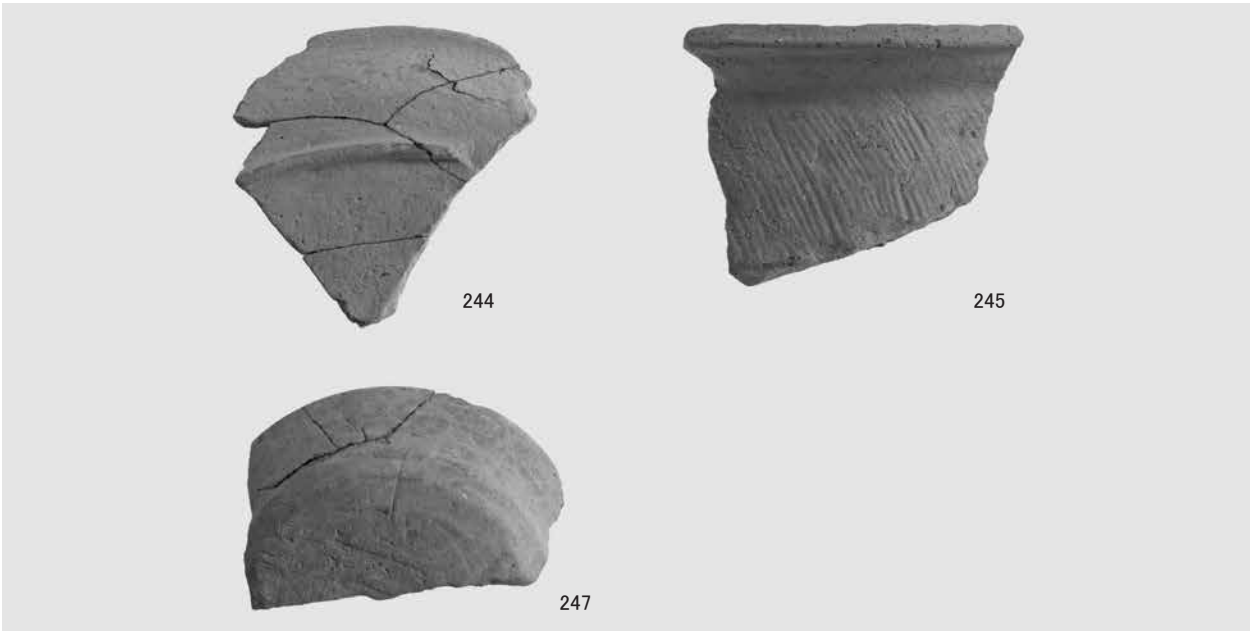
248

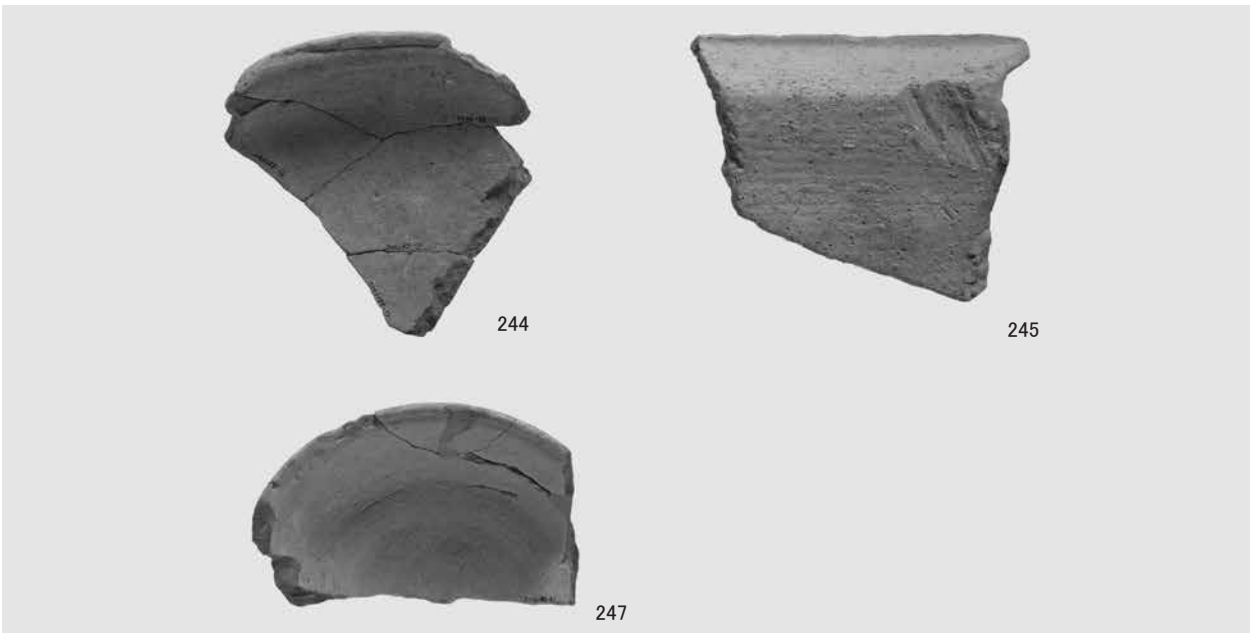
242

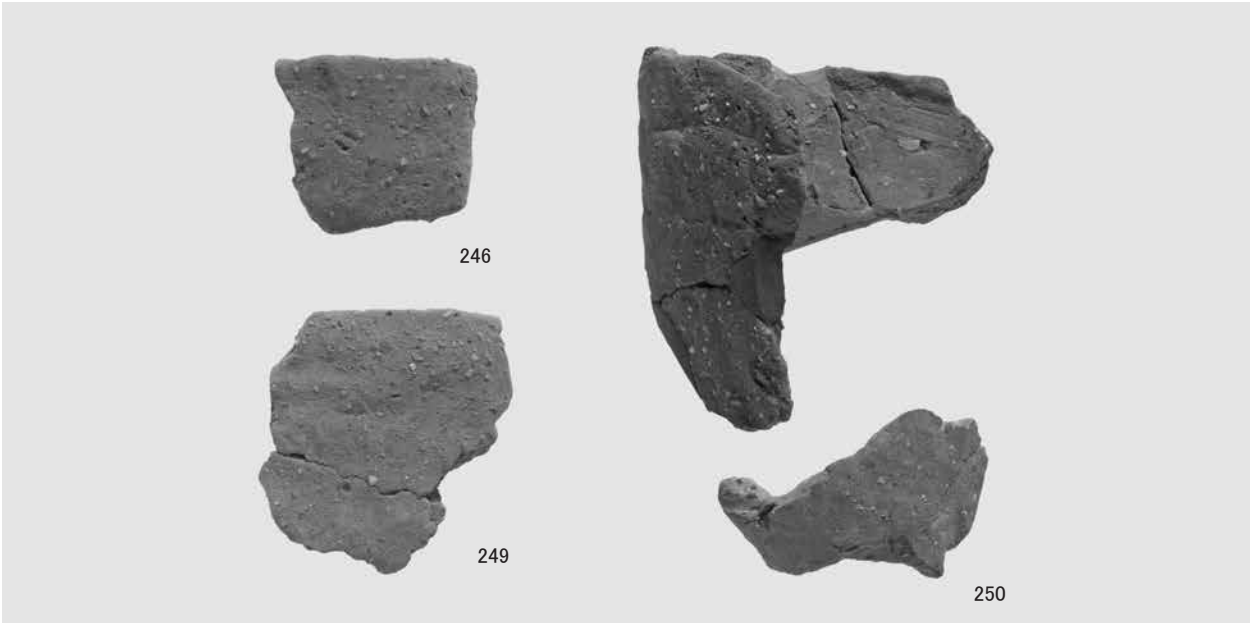
243

253

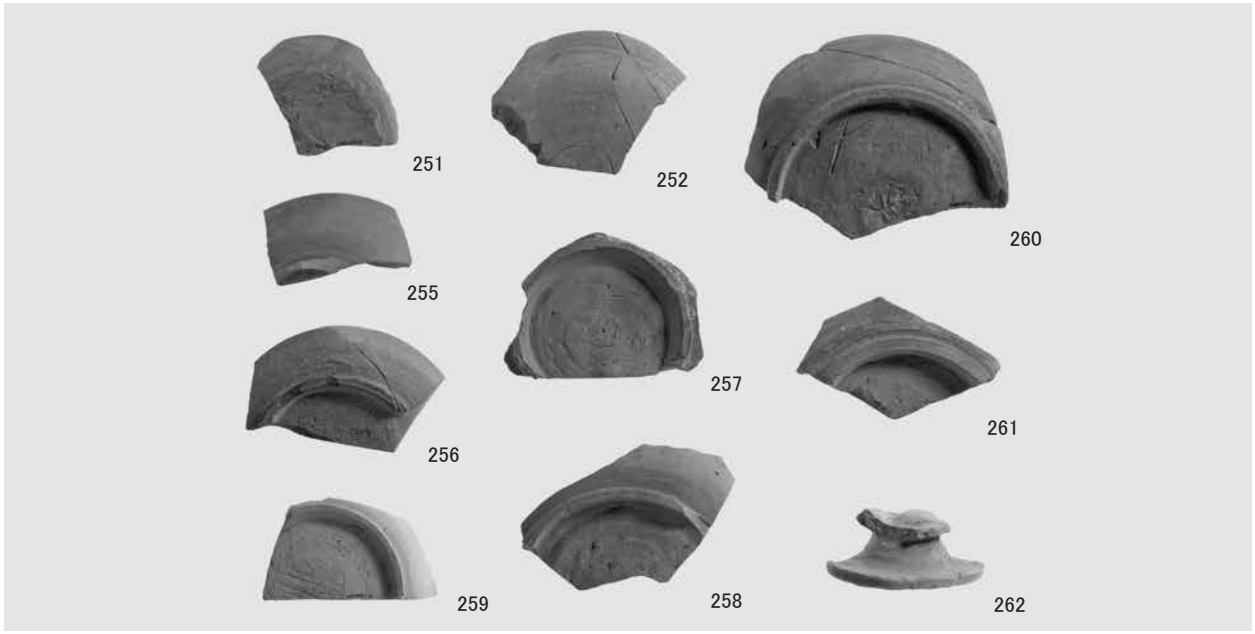
254

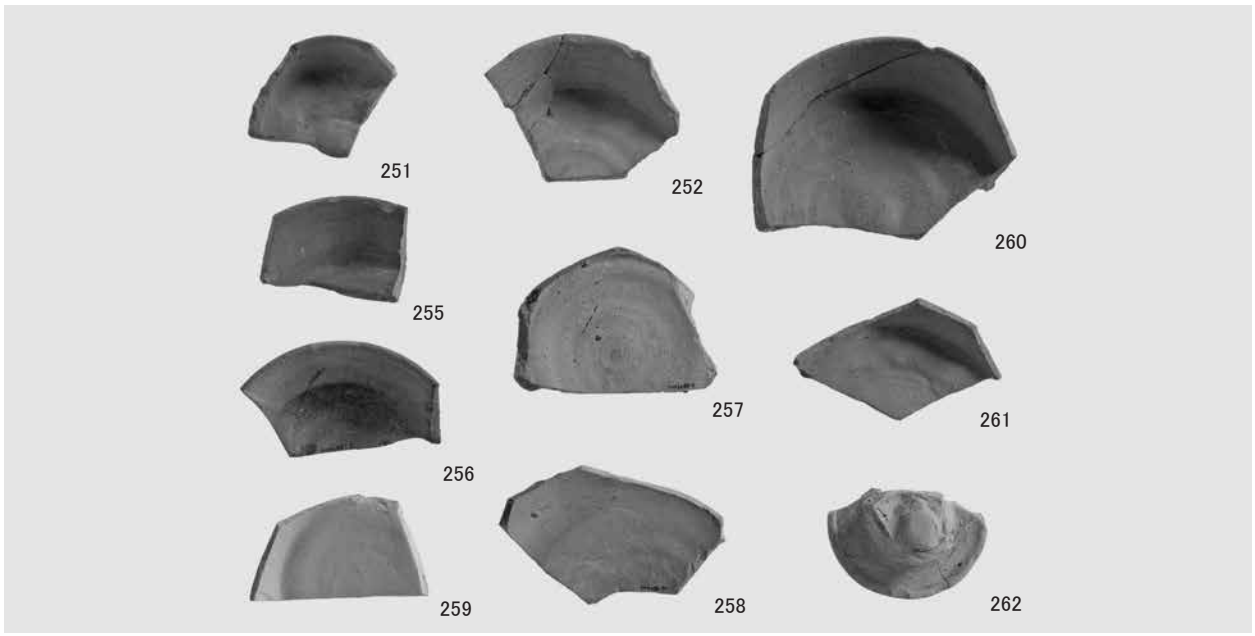


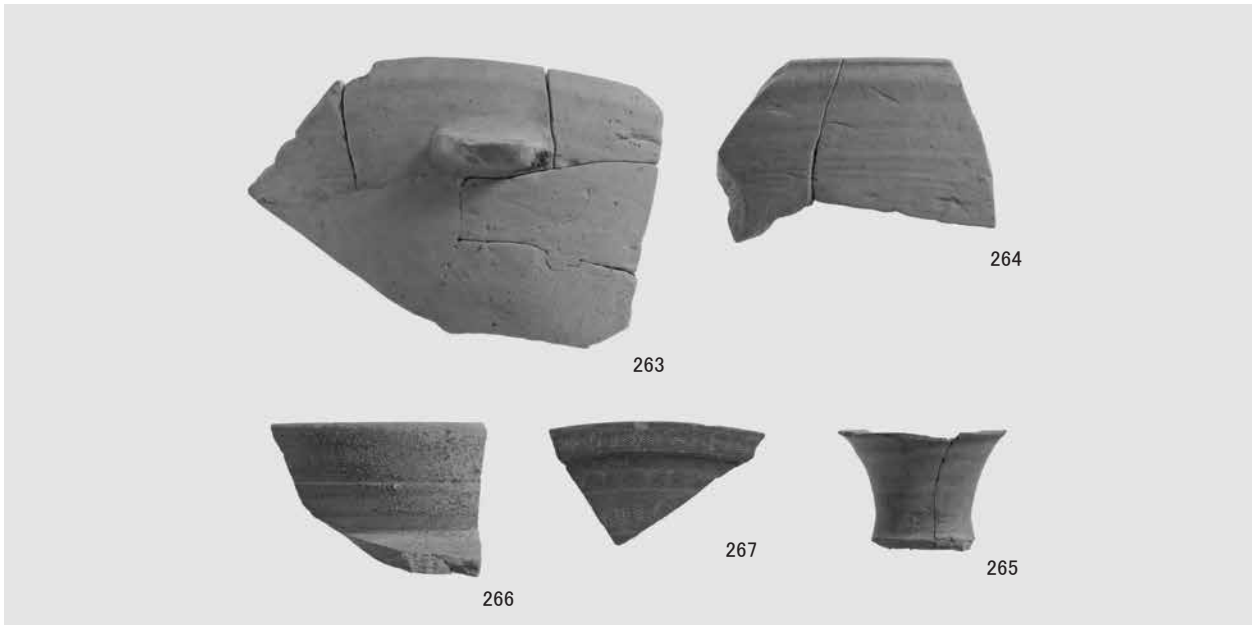




C地区　土器 28


251
252
260
255
257
261
256
259
258
262

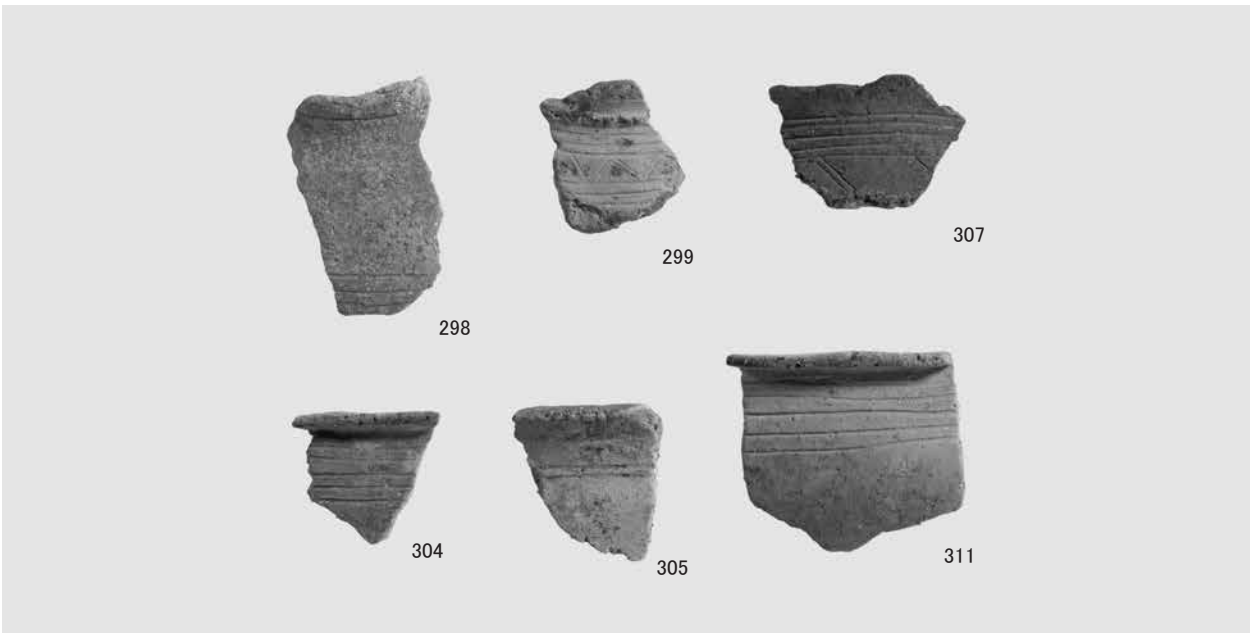

251
252
260
255
257
261
256
259
258
262


264
263
267
265
266

C地区　土器 29

274

276

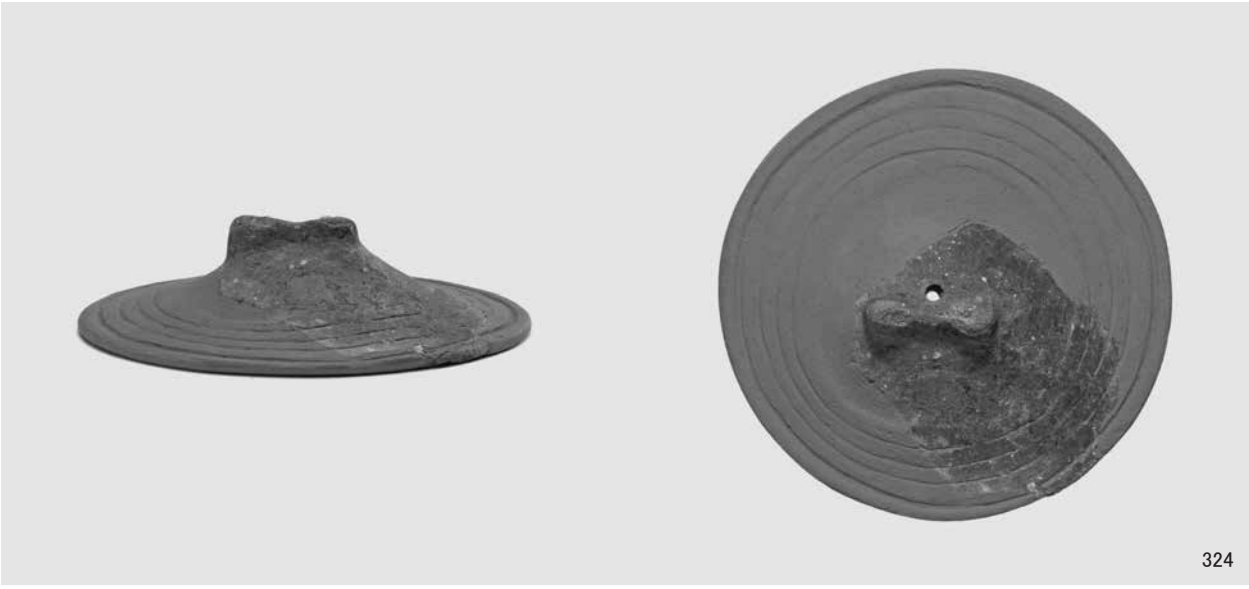

298
299
307
304
305
311

319

330

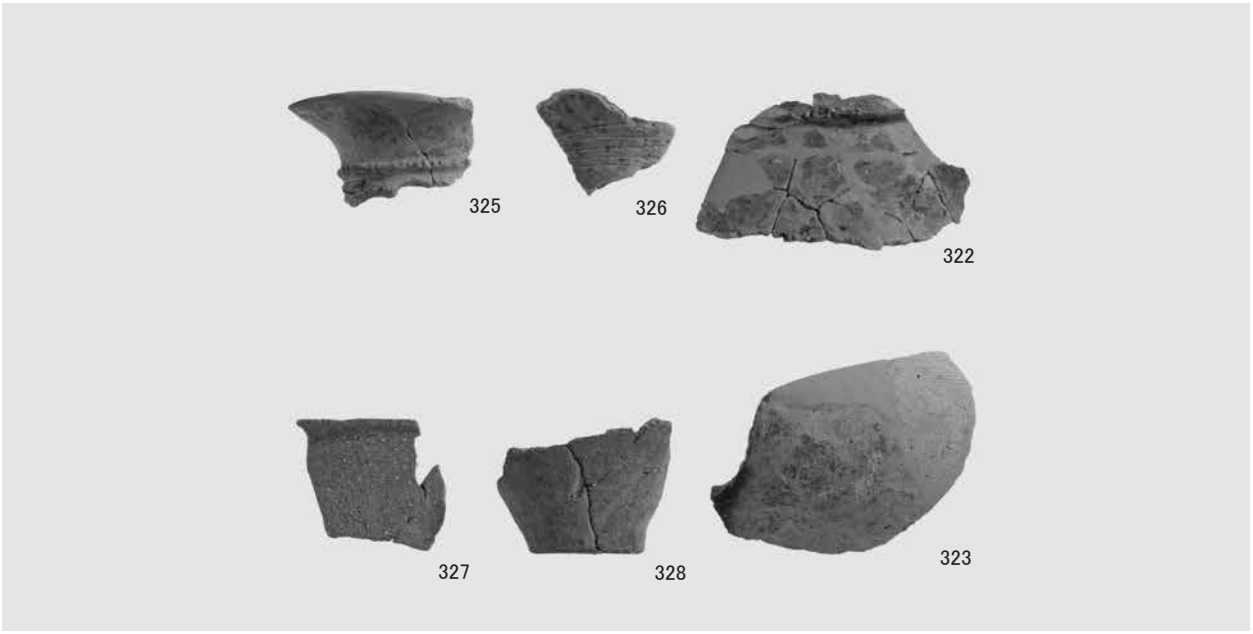
D地区　土器 30

318



324

D地区　土器 31



D地区　土器 32

352

361

343

347

350

353

359

D地区　土器 33

399

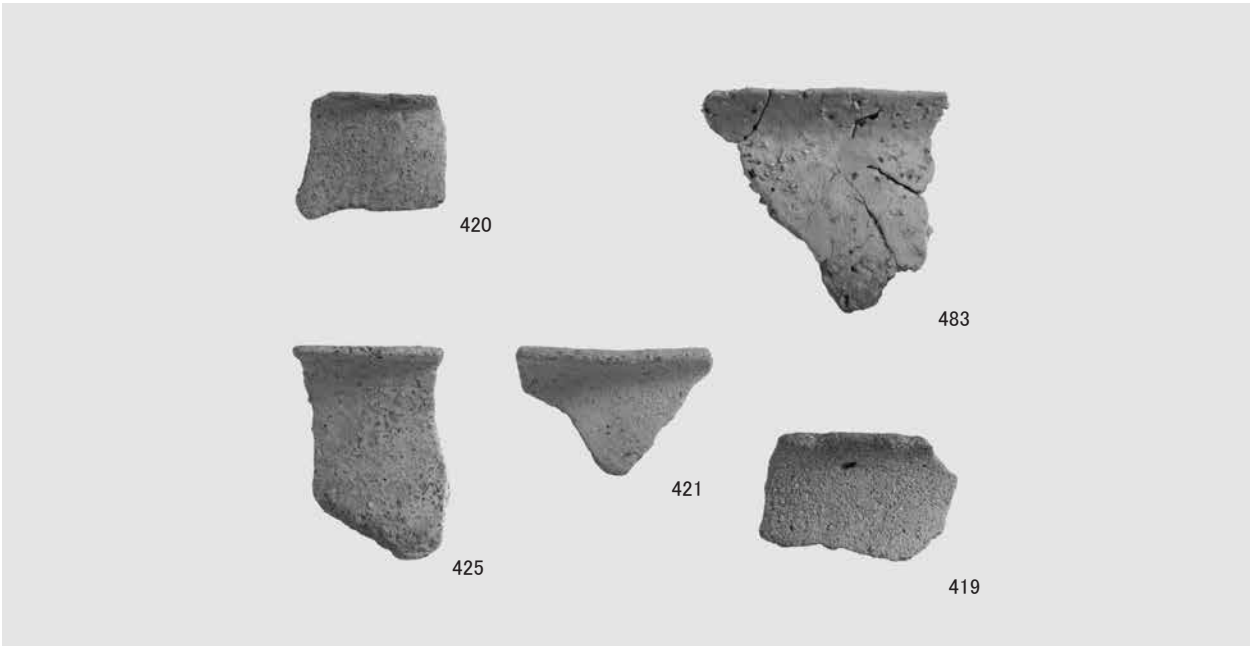
402

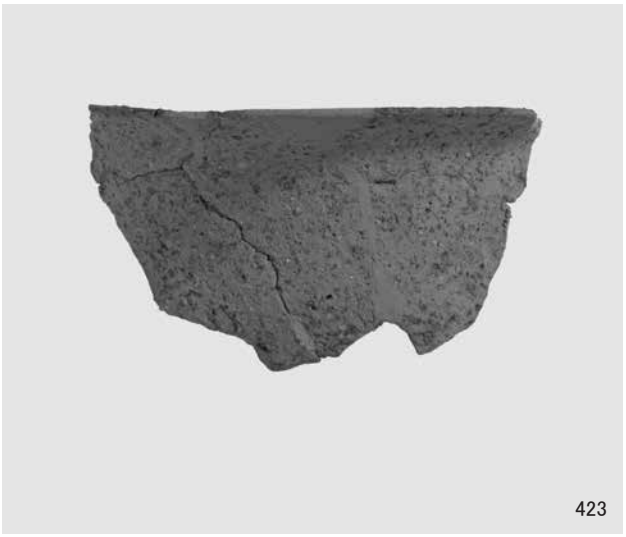
406

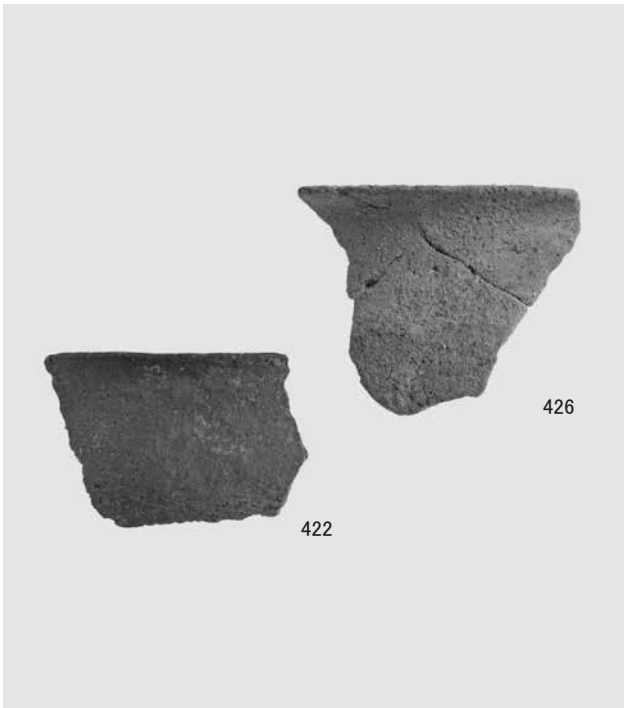
363

407

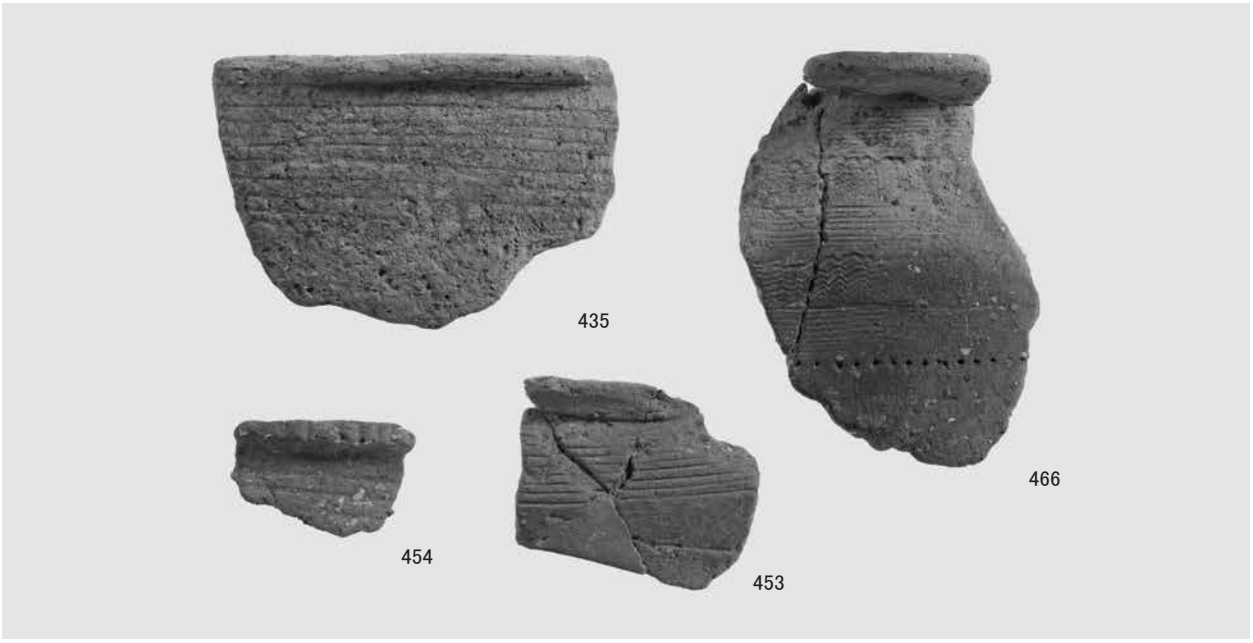
D地区　土器 34

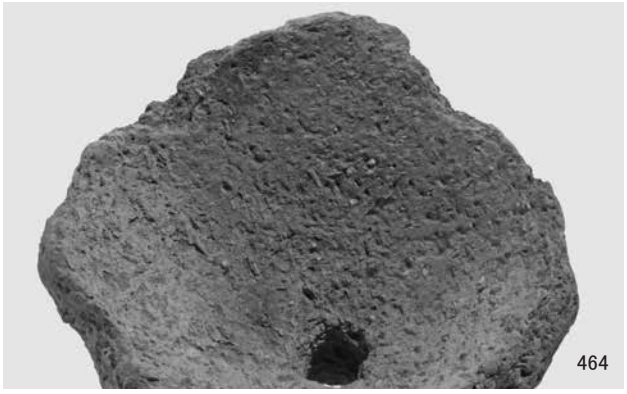


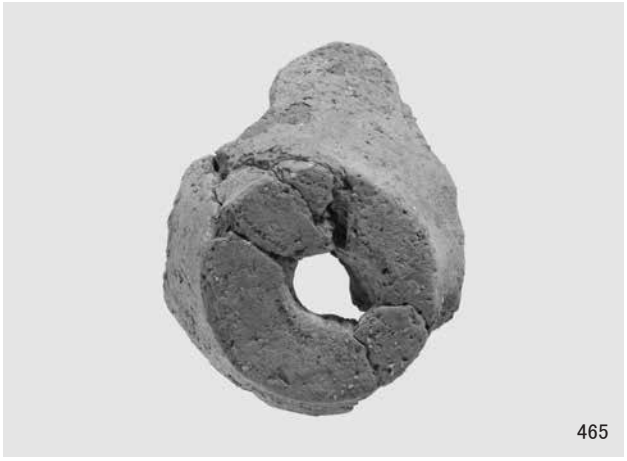




D地区　土器 35







D地区　土器 36

463

486

488

500

495

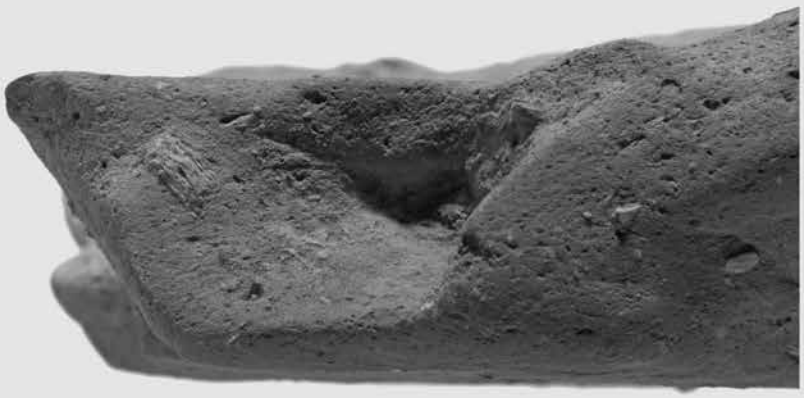
496

513

497

499

D地区　土器 37



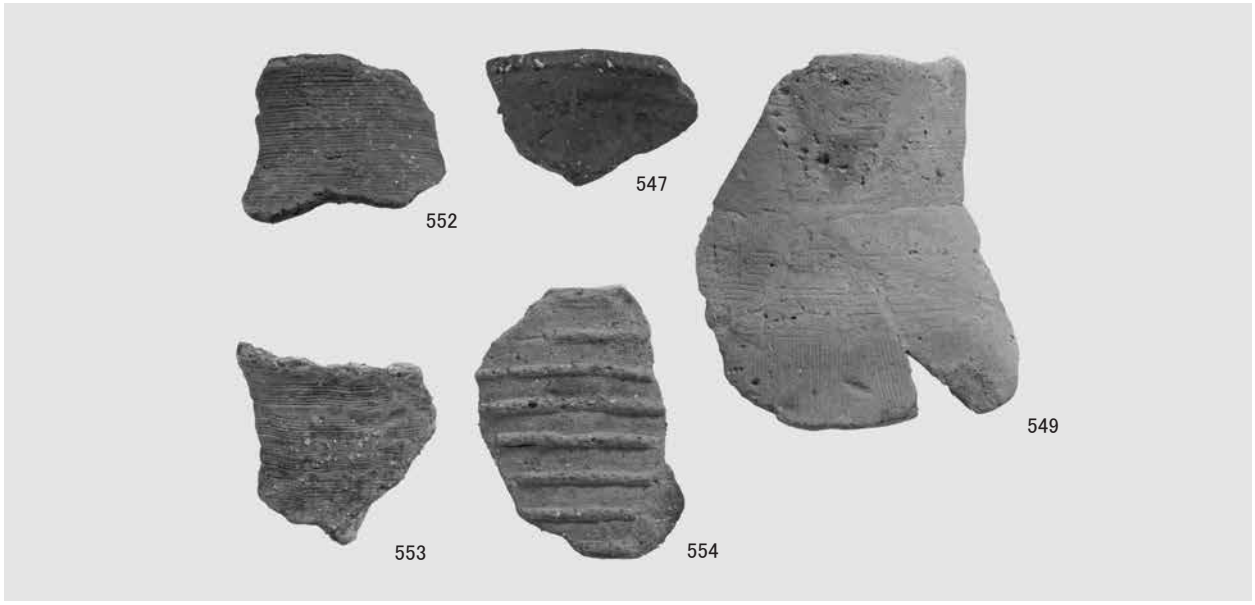
510

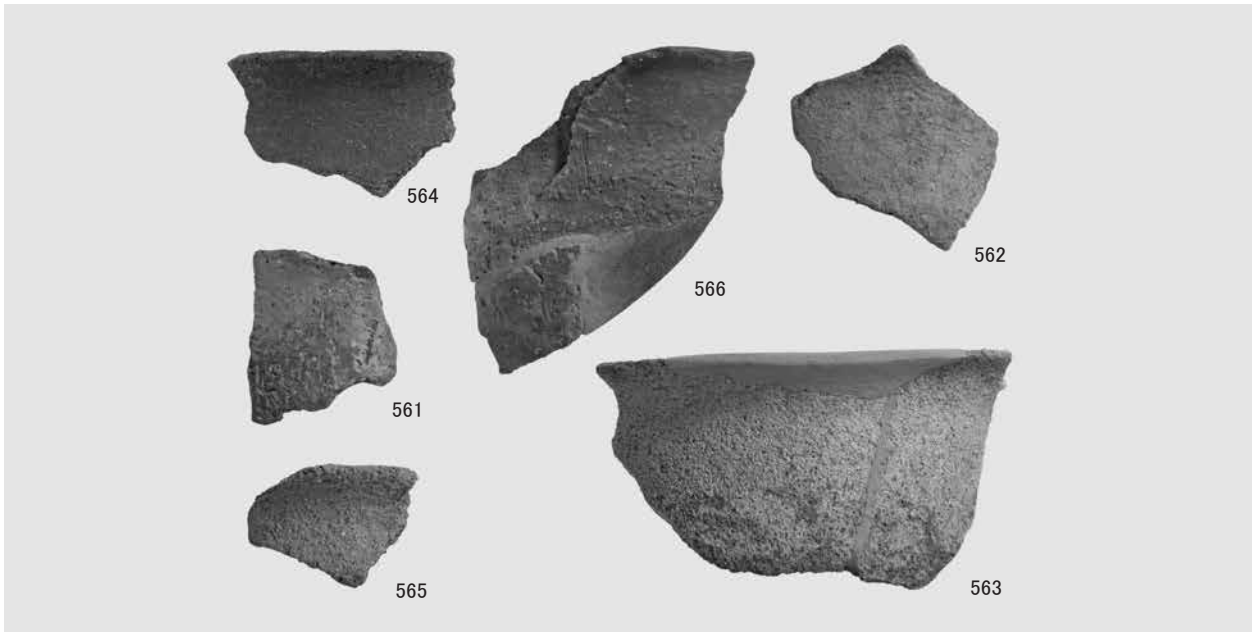
517　528　530　529

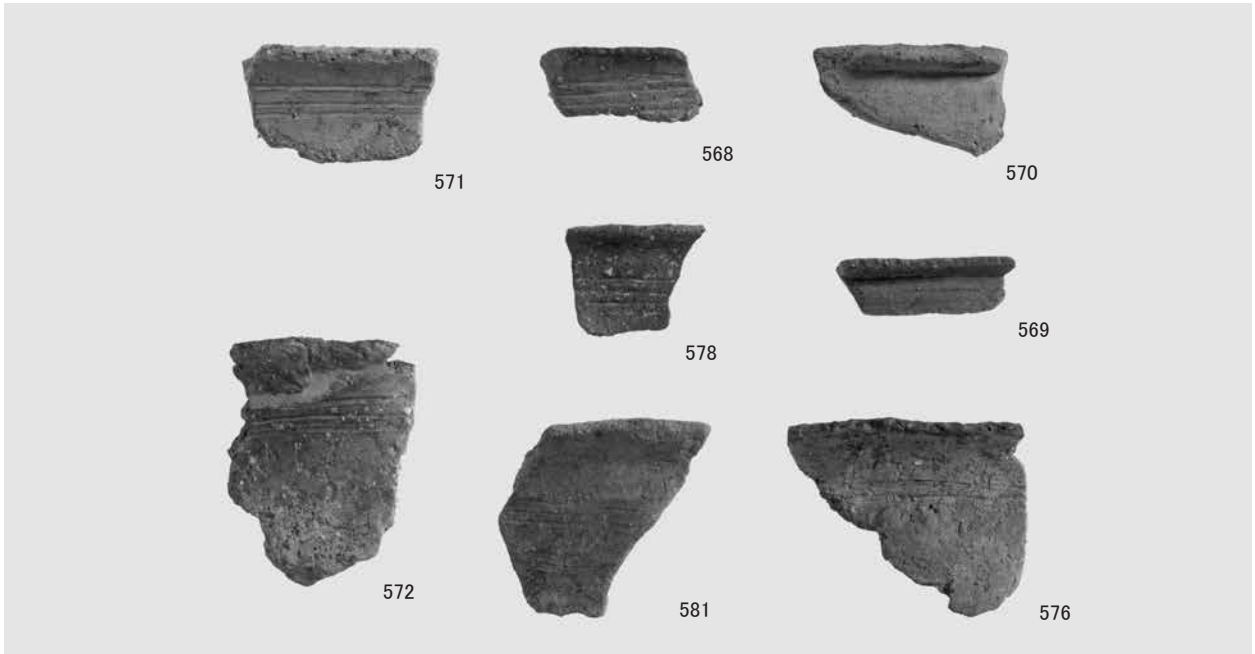
525　526　527

533　532

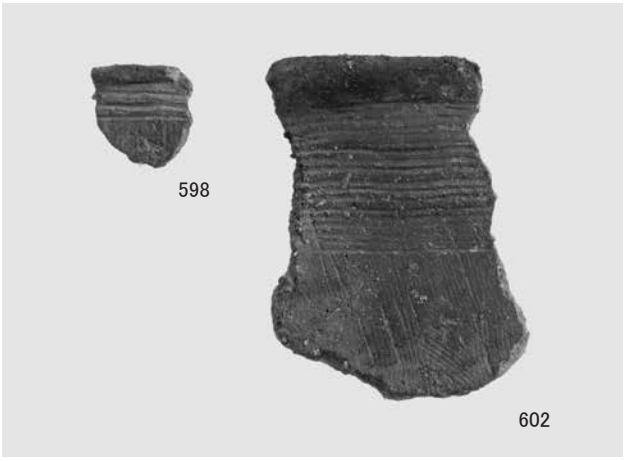
D地区　土器 38


552
547
549
553
554


564
566
562
561
563
565


571
568
570
578
569
572
581
576

D地区　土器 39


598
602

606

611

612

613

620

616

D地区　土器 40

627

628

631

638

636

D地区　土器 41

643

644

645

648

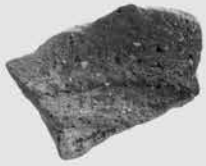
655

661

666

670

664



665

D地区　土器 43

673

683

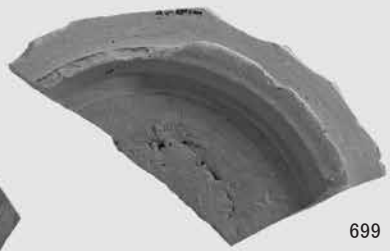
686

694

695

696

700



699

698

701

D地区　土器 44

706

707

710

708

711

714

719

720

E・F地区　土器 45

726

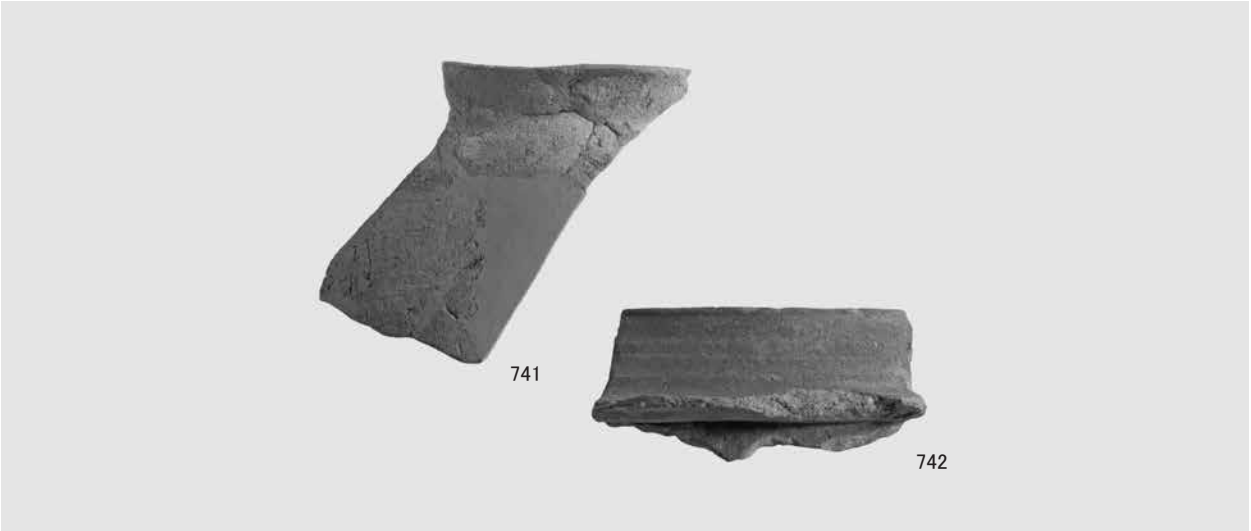
727

734

736

740

739

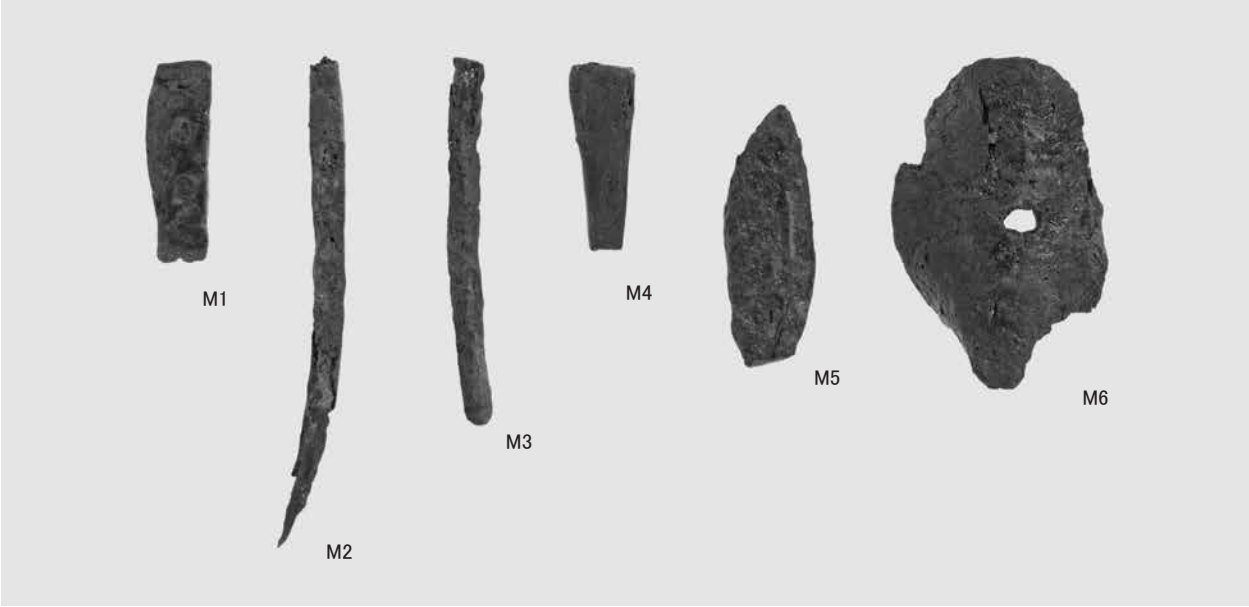

741

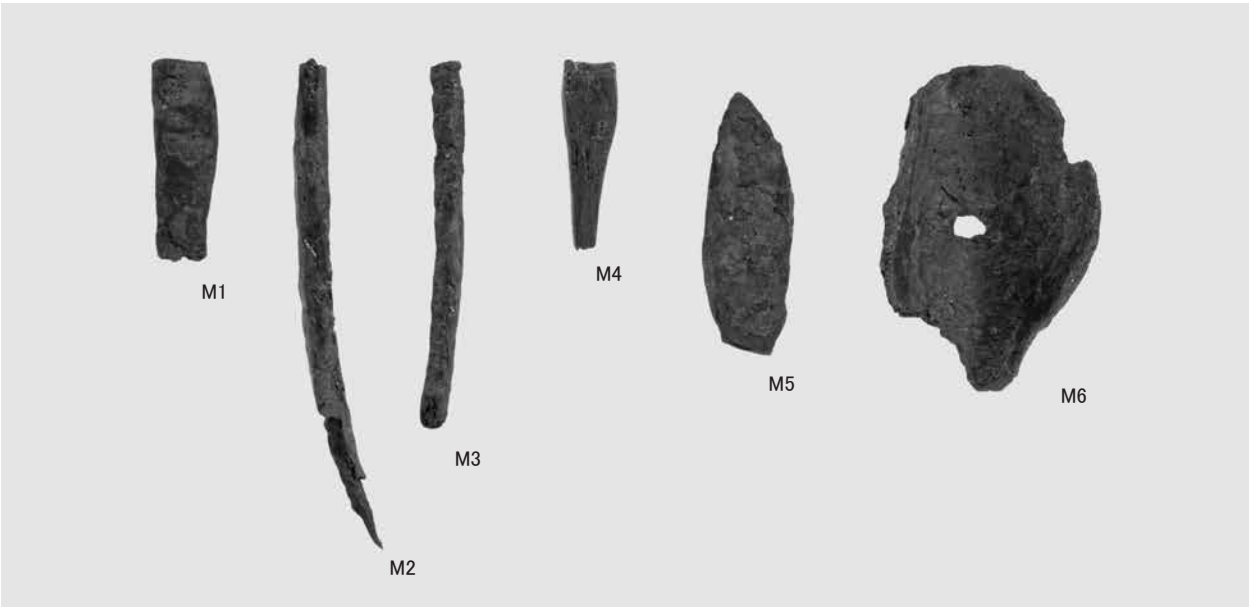
742

E・F地区　土器 46

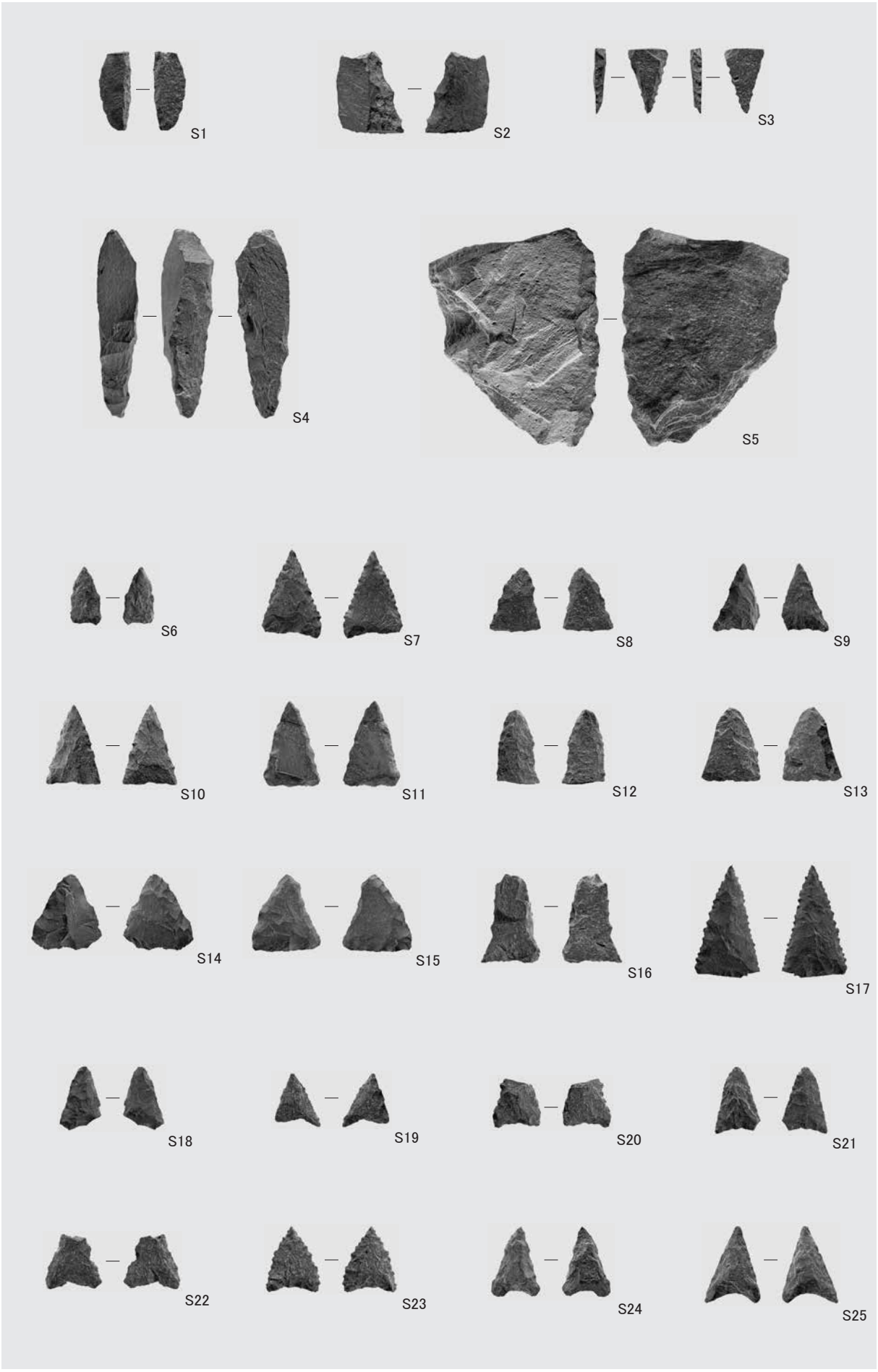
744

756

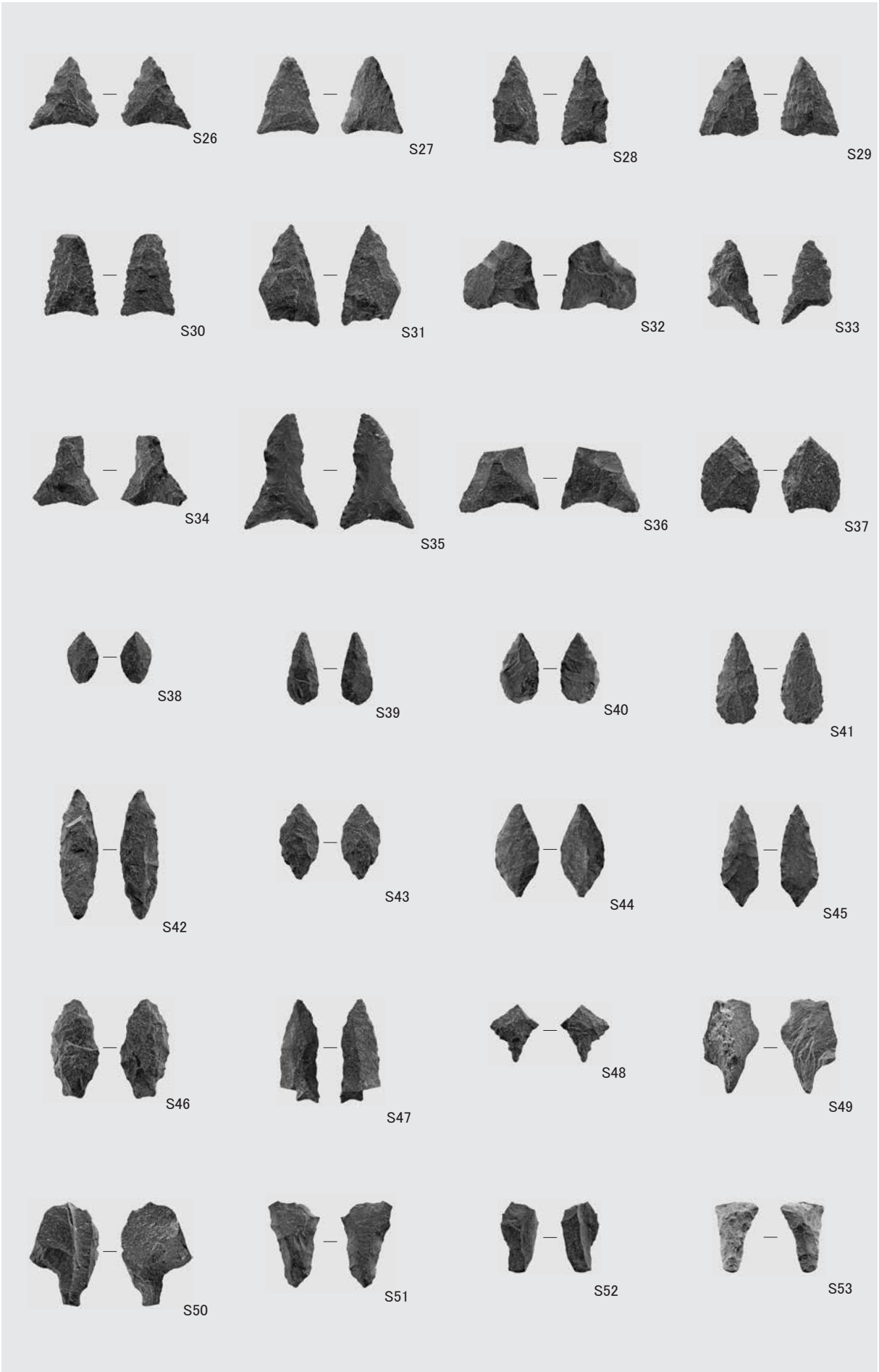




E・F地区　土器 47　金属器


S1
S2
S3
S4
S5
S6
S7
S8
S9
S10
S11
S12
S13
S14
S15
S16
S17
S18
S19
S20
S21
S22
S23
S24
S25

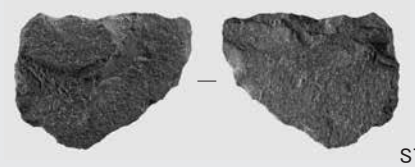
石器１　狩猟具・武器


S26
S27
S28
S29
S30
S31
S32
S33
S34
S35
S36
S37
S38
S39
S40
S41
S42
S43
S44
S45
S46
S47
S48
S49
S50
S51
S52
S53

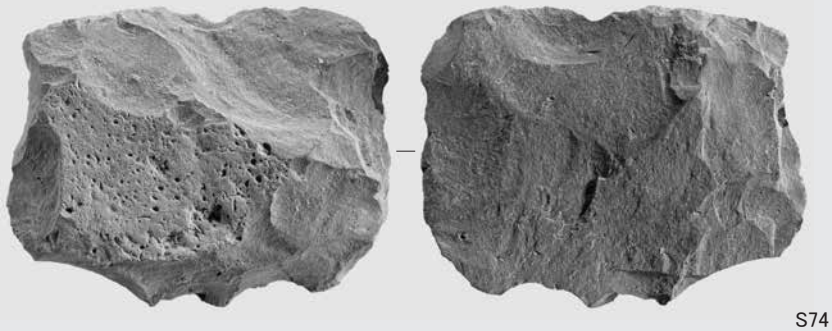
石器２　狩猟具・武器・工具

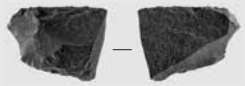
S54
S55
S56
S57
S58
S59
S60
S61
S62
S65
S66
S63
S67
S68
S69
S70
S64
S71

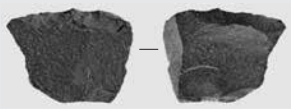
石器３　工具

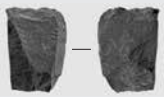

S72

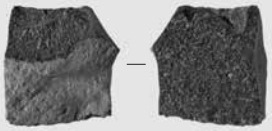
S73

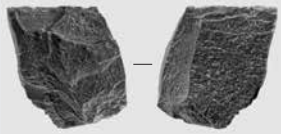

S74

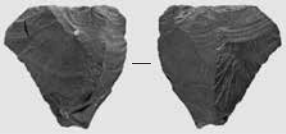

S75

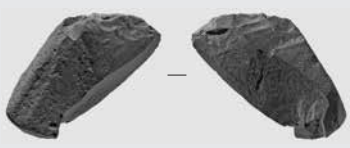

S76

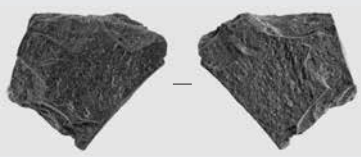

S77


S78

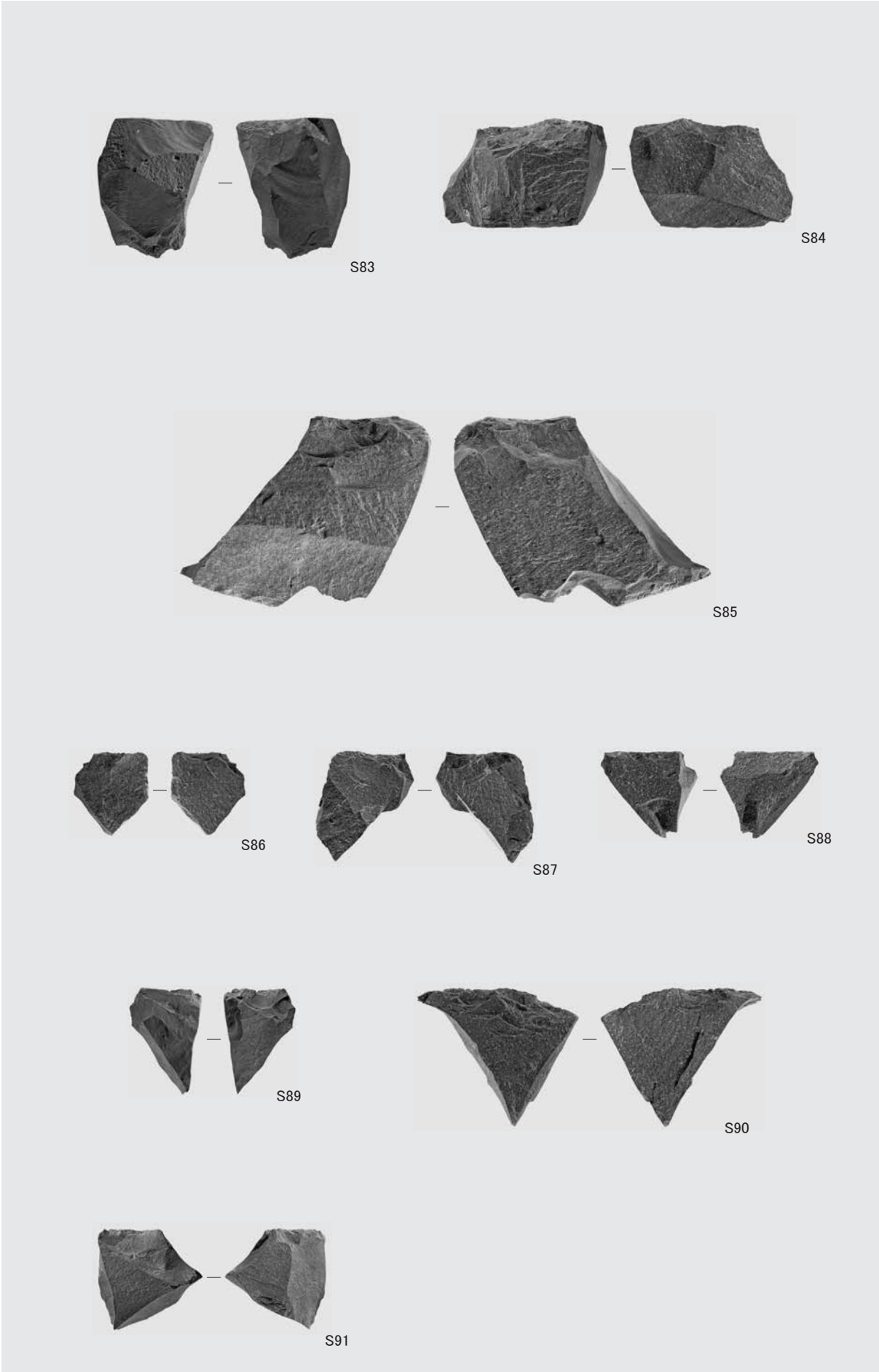

S79


S80


S81


S82

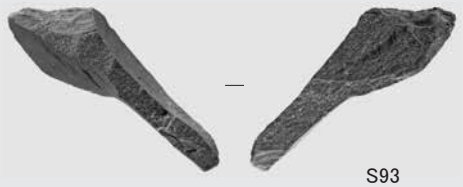
石器４　工具



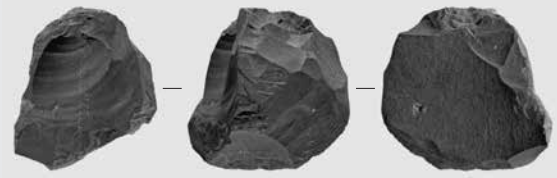
石器５　工具

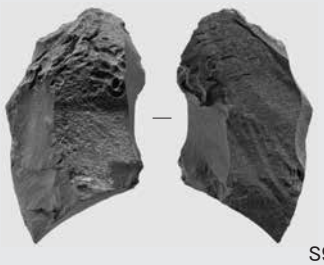
S92

S94

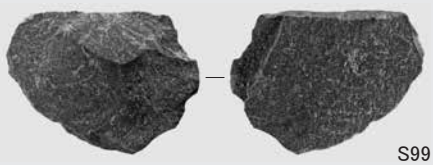

S93

S95

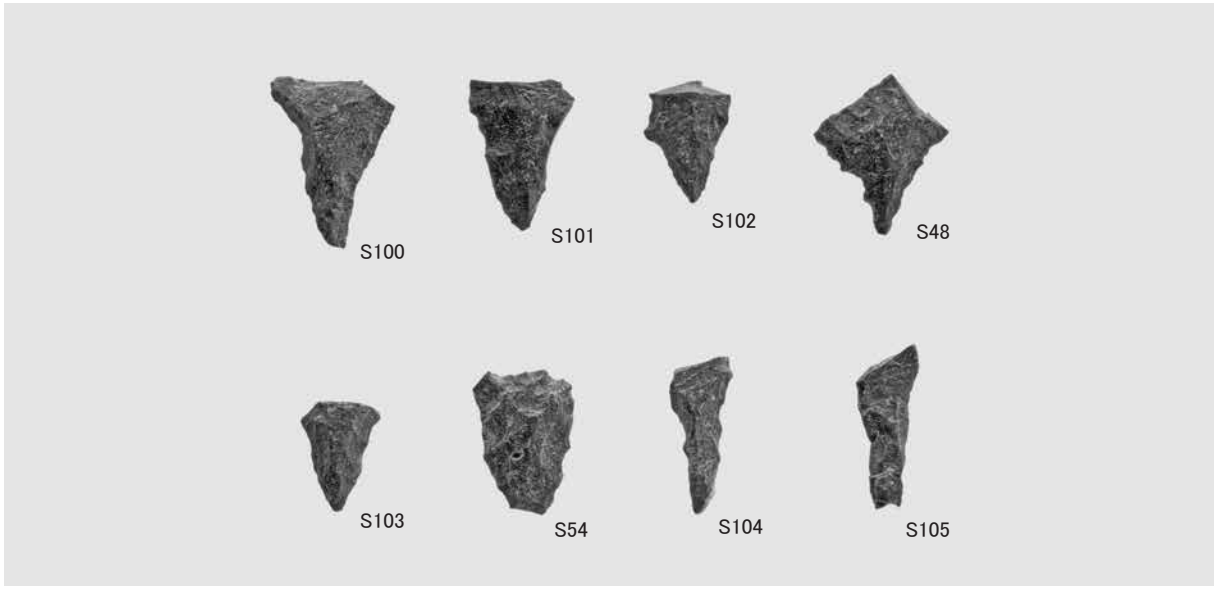

S96

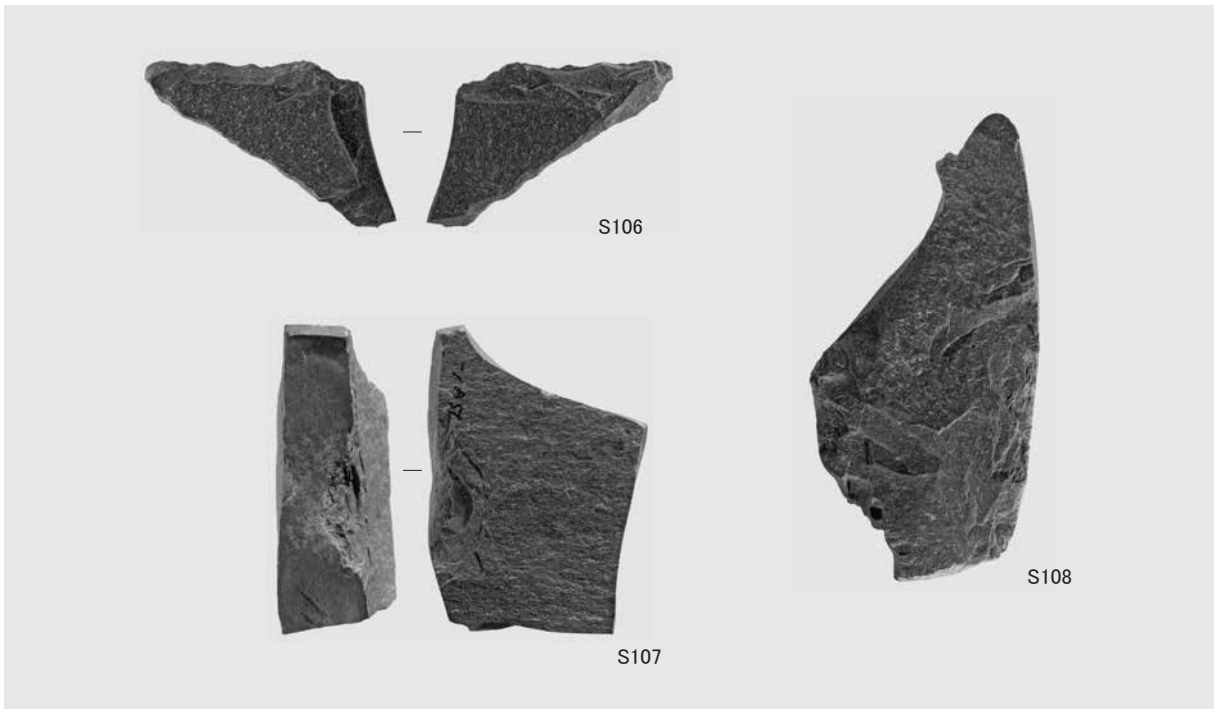

S97

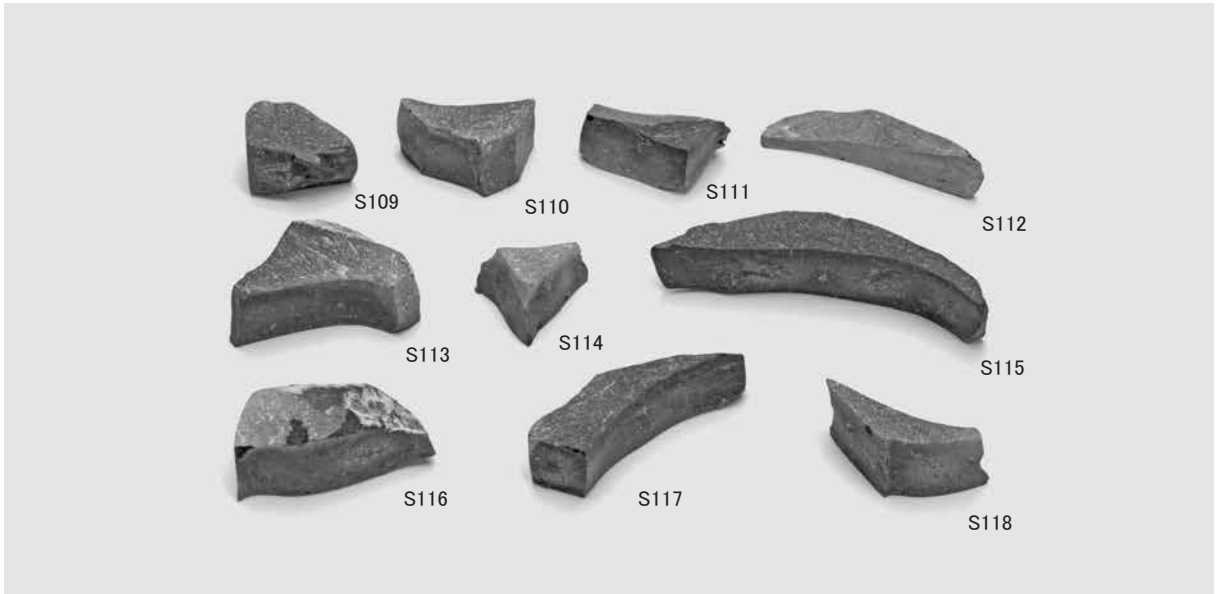
S98


S99

石器6　工具


S100
S101
S102
S48
S103
S54
S104
S105


S106
S108
S107


S109
S110
S111
S112
S113
S114
S115
S116
S117
S118

石器7　工具

S119

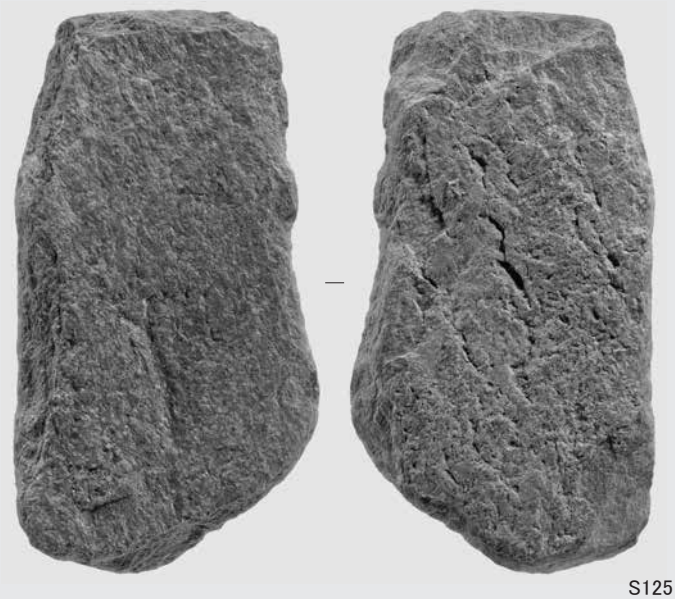
S123

S124

S120

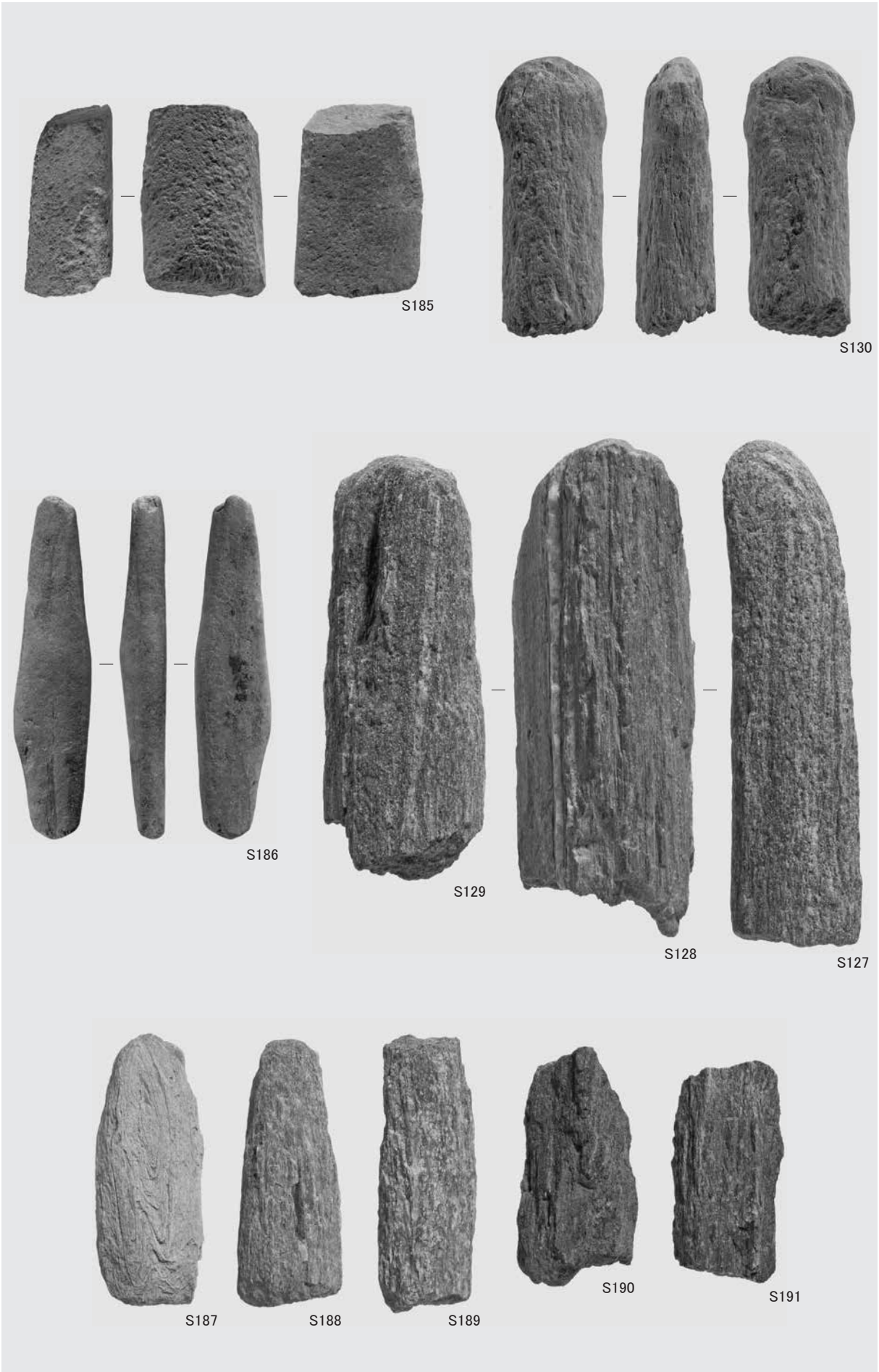
S121

S122

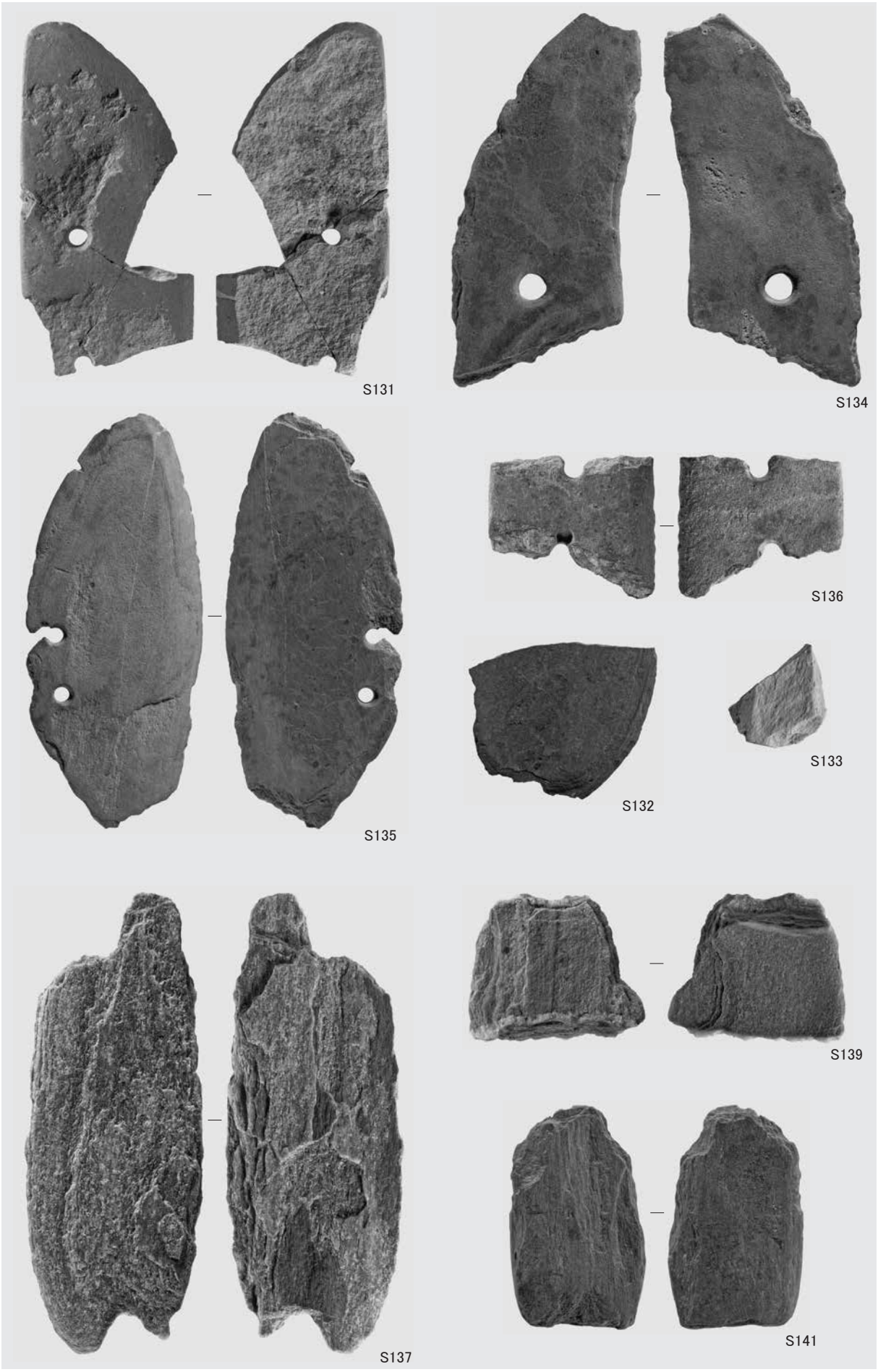

S125

S126

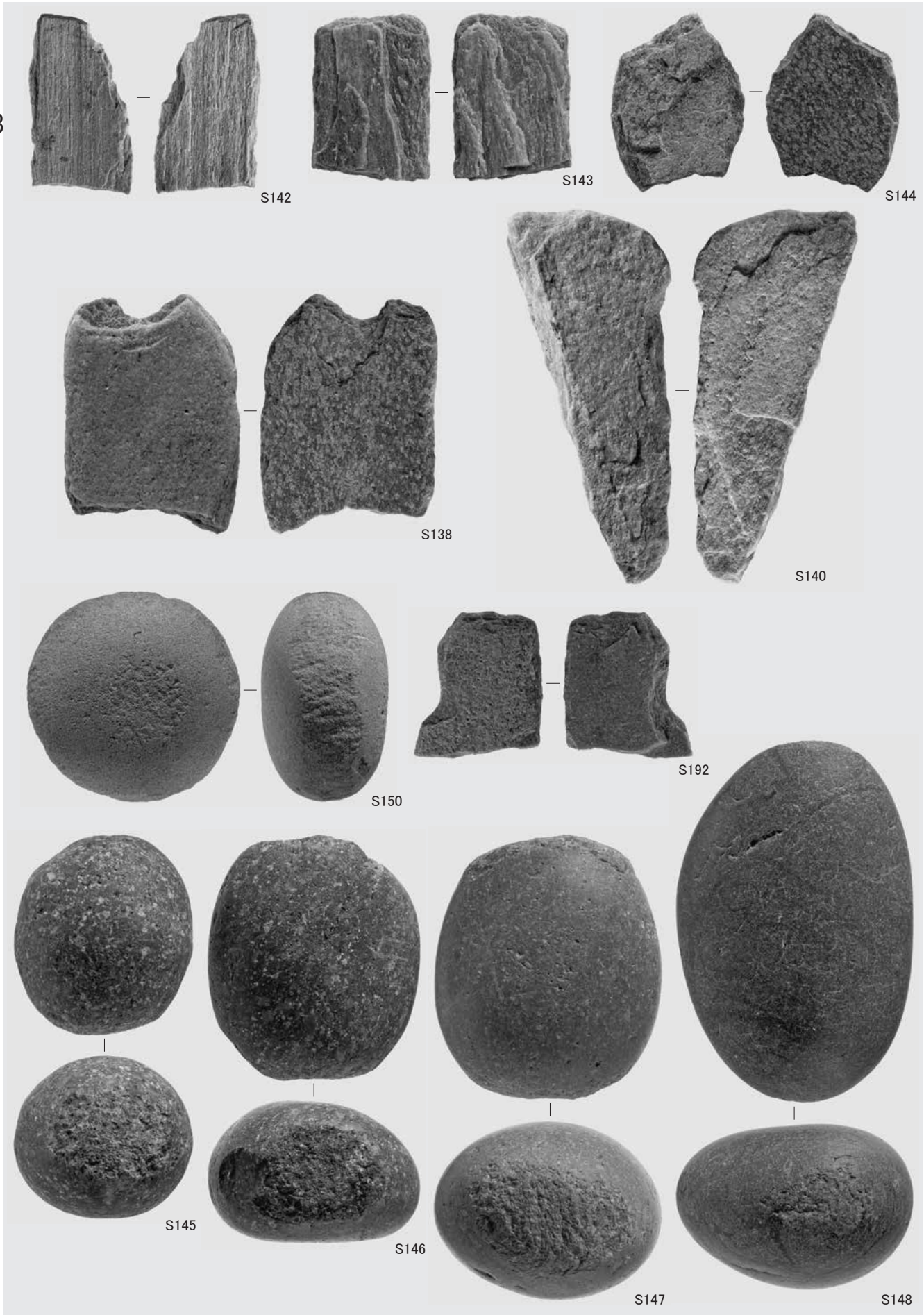
石器８　工具



石器９　祭祀具



石器 10　農具



石器 11　調理具・加工具

S149

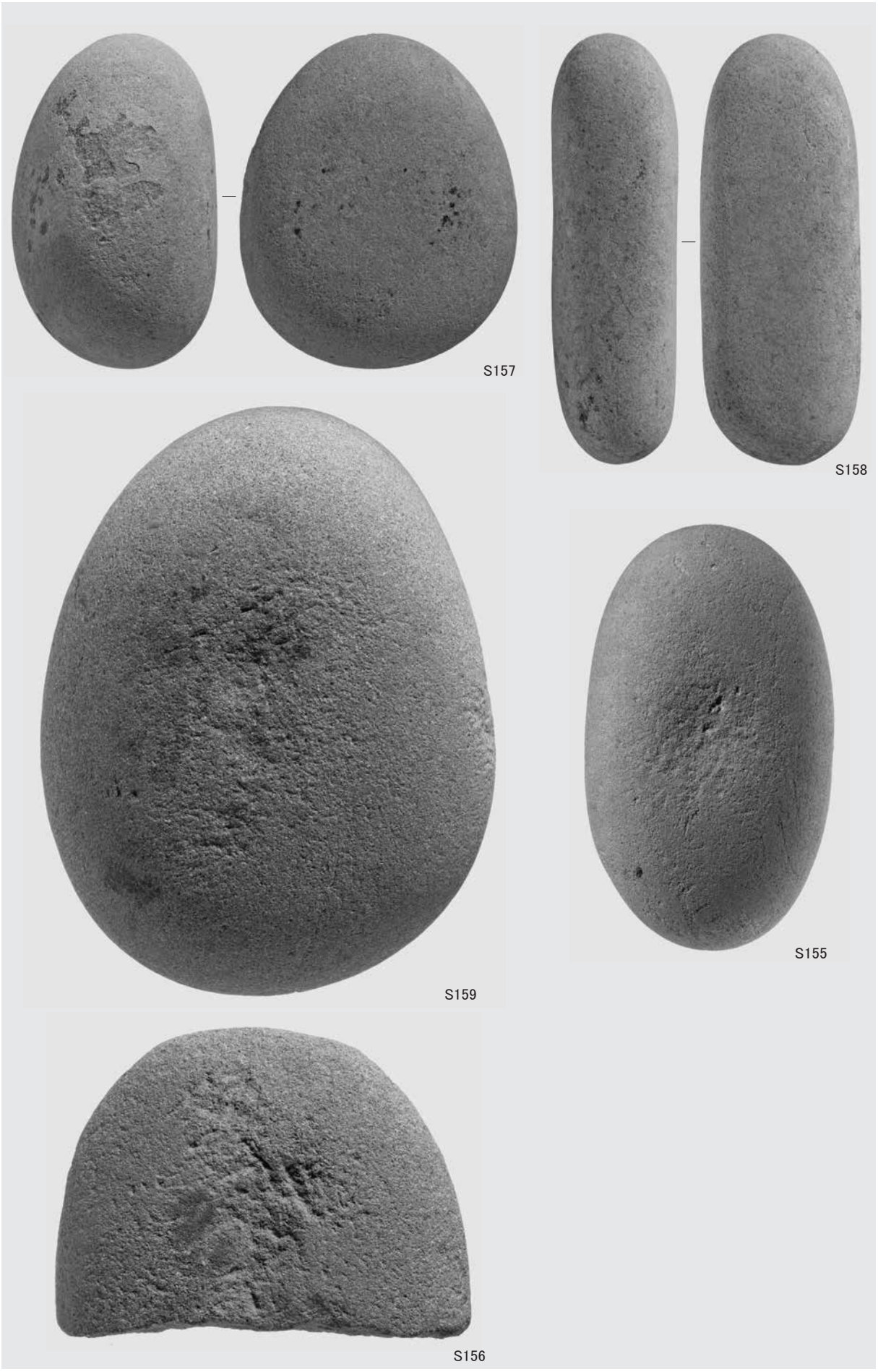
S152

S151

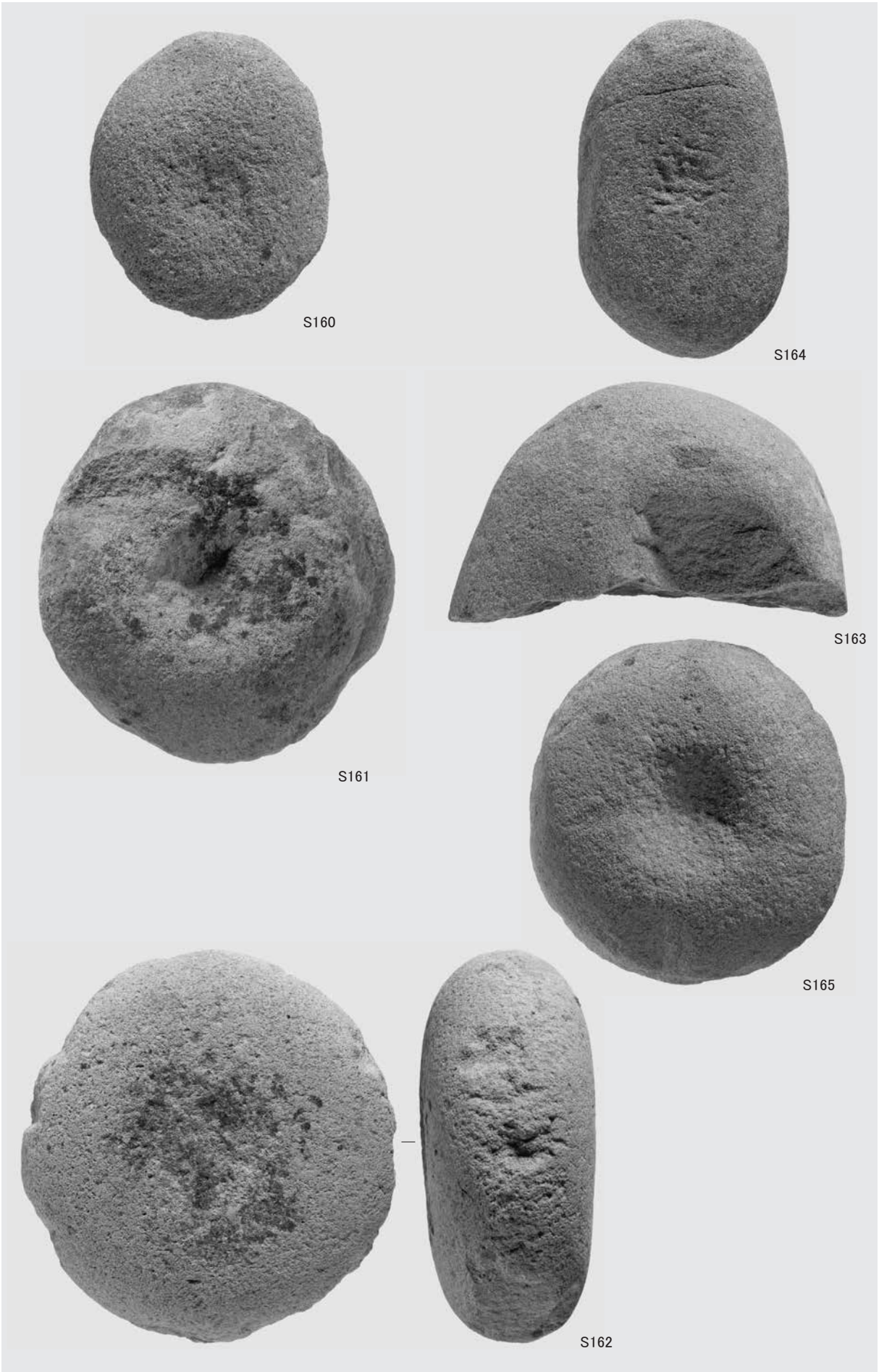
S153

S154

石器 12　調理具・加工具



石器 13　調理具・加工具



石器 14　調理具・加工具

S166

S167

S173

石器 15　調理具・加工具

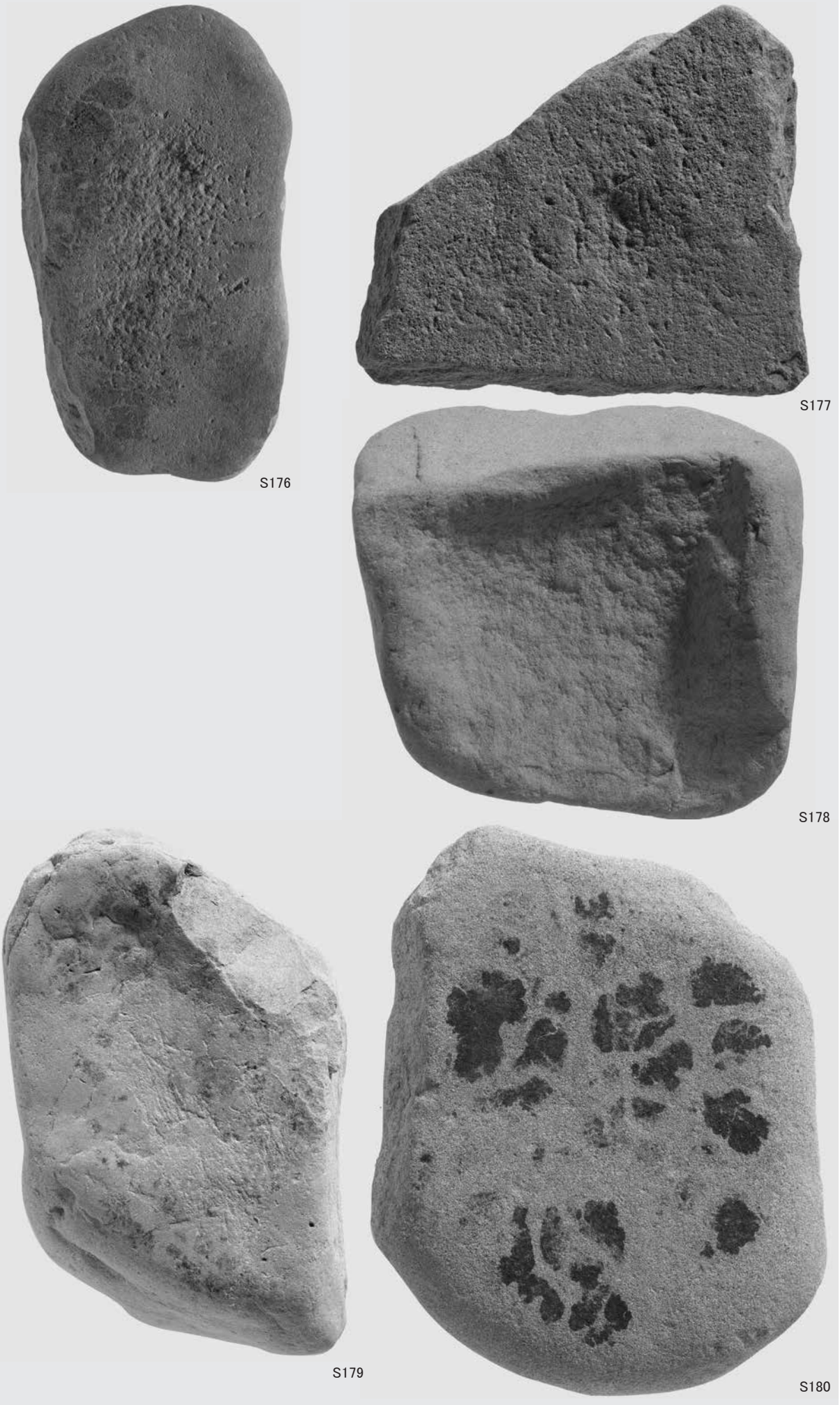
石器 16　調理具・加工具

S172

S174

S175

石器 17　調理具・加工具

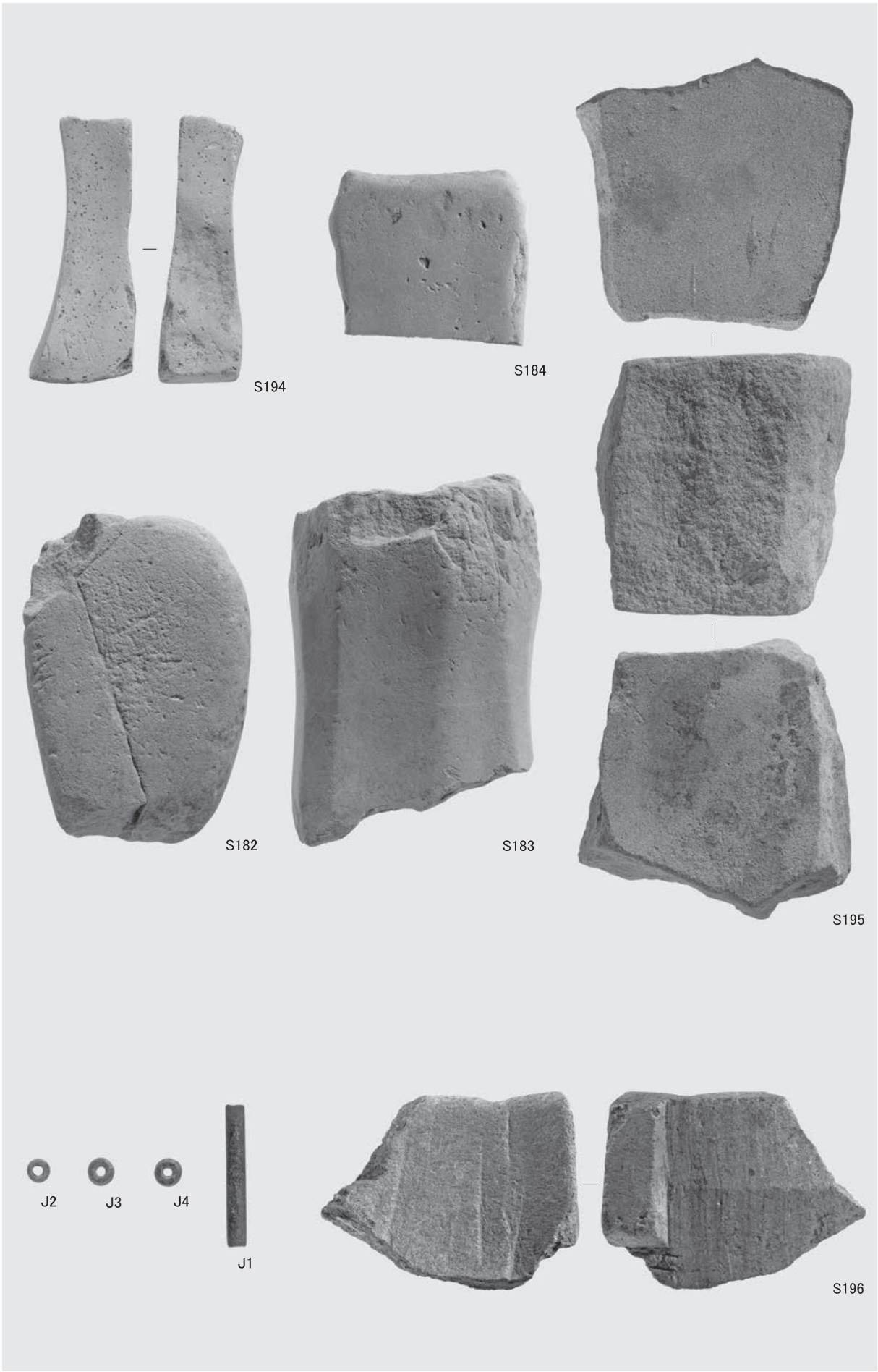


石器 18　調理具・加工具

S181

S193

石器 19　調理具・加工具



石器 20　調理具・加工具・玉

報　告　書　抄　録

ふりがな	いてだいせき
書　　名	井手田遺跡
副 書 名	（主）洲本灘賀集線（阿万バイパス）道路改良事業
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第 499 冊
編 著 者 名	上田健太郎　山本誠　西口圭介　多賀茂治　菱田淳子
編 集 機 関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
所 在 地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号（兵庫県立考古博物館内）　TEL 079-437-5561
発 行 機 関	兵庫県教育委員会
所 在 地	〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号　TEL 078-362-3784
発行年月日	平成 30（2018）年 3 月 24 日
資料保管機関	兵庫県立考古博物館
所 在 地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号　TEL 079-437-5589

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間（遺跡調査番号）	調査面積（㎡）	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
井手田遺跡	南あわじ市阿万上町	282243	970064	34°13′29″	134°44′05″	20060911 ～ 20061226 (2006088)	4,031㎡	試掘・確認調査 記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
井手田遺跡	集落遺跡	弥生時代～中世	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・方形周溝墓・木棺墓・土坑・溝・水田	弥生土器・石器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・陶磁器・製塩土器	弥生時代前期～中期の土器・松菊里型住居・紀伊型甕・樽型はそう・中空円面硯

要　　約

井手田遺跡は淡路島の南端に位置する弥生時代から平安時代後期に至る複合的な集落遺跡である。

弥生時代前期、埋没が進みつつある沖積低地を開発し、水田を営むための拠点として集落が始まる。弥生時代前期～中期の土器の中に紀北地域の土器や四国の土器が含まれること、紀北地域に類例が多い松菊里型住居が見られ、紀北をはじめとした紀伊水道沿岸地域との深い関係が推測される。住居は同じ箇所で繰り返し建て替えを行っている点も注目される。弥生時代中期には方形周溝墓群が営まれる。弥生時代中期から後期にかけて集落の中心は移動しながらも継続している可能性が高い。弥生時代の石器については、磨り石・凹み石などの調理具が多い点が注目される。

古墳時代になると低地の埋没がさらに進み、集落の規模は拡大する。古墳時代中期には竪穴住居が多く建てられ、中には大量の土器が意図的に投棄されたものもある。

古墳時代後期から飛鳥時代にかけては遺構・遺物とも希薄であるため、集落の様相は詳らかではないが、奈良時代に入ると再び集落の規模が拡大し、掘立柱建物が多数建てられるが、特に計画性を持って並ぶ様相はうかがえない。

11 世紀から 12 世紀にかけて屋敷地が形成されており、荘園開発の開始時期や拠点を考える手がかりが得られた。

兵庫県文化財調査報告　第 499 冊

南あわじ市

井手田遺跡

－（主）洲本灘賀集線（阿万バイパス）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

平成 30（2018）年 3 月 24 日　発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒 675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号
（兵庫県立考古博物館内）

発行：兵庫県教育委員会
〒 650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

印刷：福田印刷工業株式会社
〒 658-0026　兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 4 丁目 6 番 3 号